

Syllabus2019

シラバス(教授要目)

北陸学院大学

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

学 事 曆

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 3月25日(月)～29日(金) 前期履修登録期間
- 3月28日(木)～4月4日(木) オリエンテーション期間
- 4月2日(火) 入学式(午後)
- 4月5日(金) 前期授業開始
- 4月17日(水)～19日(金) 前期履修登録変更期間

- 4月27日(土) Enjoy!ミッション
- 5月17日(金)～18日(土) 北陸学院セミナーⅠ(1年)
- 5月17日(金) 2～4年休講
- 6月11日(火) 特別伝道礼拝(1・3年)
- 6月19日(水) 木曜代替講義日
- 6月20日(木) 水曜代替講義日
- 7月26日(金) 前期授業終了
- 7月27日(土)～8月2日(金) 前期試験期間
- 8月5日(月)～9月14日(土) 夏期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 9月7日(土) 北陸学院創立記念日
- 9月9日(月)～13日(金) 後期履修登録期間
- 9月17日(火) 後期授業開始
- 9月25日(水)～27日(金) 後期履修登録変更期間
- 10月3日(木) 特別伝道礼拝(2・4年)
- 10月16日(水) 金曜代替講義日
- 10月17日(木) 大学祭準備(休講)
- 10月18日(金)～19日(土) 大学祭(栄光祭)

- 11月5日(火) 金曜代替講義日
- 11月8日(金)～9日(土) 北陸学院セミナーⅡ(2年)
- 11月8日(金) 1・3・4年休講
- 11月27日(水) クリスマス・ツリー点灯式(5限振替)
- 12月20日(金) クリスマス礼拝(休講)
- 12月23日(月)～12月24日(火) 全学休校予備日
- 12月25日(水)～1月3日(金) 冬期休業期間(補講・集中講義)

- 1月21日(火) 後期授業終了
- 1月22日(水) 全学休校予備日
- 1月23日(木)～24日(金) 補講日
- 1月27日(月)～2月1日(土) 後期試験期間
- 2月3日(月)～3月31日(火) 春期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 2月28日(金) 卒業生発表
- 3月9日(月) 卒業感謝礼拝
- 3月10日(火) 卒業証書・学位記授与式

まえがき

この「教授要目」は、2019年度に開講する学科目の授業計画を記載したものです。

「教授要目」は、Syllabus（シラバス）と呼ばれ、各学科目の授業内容を授業時間毎に紹介しているものです。

したがって、それぞれの学科目の具体的内容を表しているものとして、大変重要な資料です。

授業はここに示された計画に従って進められますが、進行状況によっては一部内容が変更される場合もあります。

みなさんは、各授業の履修に先立って、「教授要目」をよく読んで、授業のねらいや内容をよく把握しておいてください。予習や復習はもちろん、学科目の選択に際しても、参考になります。

「教授要目」は、在学中および卒業後も大切に保管してください。他大学や公的教育機関へ編入学をする際にも必要な資料として用いられます。

この「教授要目」を大いに活用して、学修の一層の活性化を図ってください。

子ども教育学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

（1）教育理念、AP・CP・DP

教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者
- ⑤ 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（英語）・高等学校教諭（英語）を目指し、学業に意欲的に取り組むことができる者
- ⑥ 人間の発達や成長に関心のある者

*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部には社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群
- ② 学生の学修能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- ③ 学生が自ら目指す進路・資格取得に必要な学習を支援するための学科別教育課程を

配置する。

- ④ 専門的な知識と方法論を系統立てて学ぶために「初等・中等教育コース」、「幼児・児童教育コース」、「幼児教育・保育コース」を置く。
- ⑤ 1年次より現場体験学習を重視し、理論的学びと連動させる。
- ⑥ 人格形成や教育科学の視点から、子どもの育ちや発達に関する学科専門科目を配置する。
- ⑦ 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（英語）・高等学校教諭（英語）の資格科目を配置する。

ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

（知識・理解）

- ① 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。

（関心・意欲）

- ② 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。

（技能・態度）

- ③ 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。

（知識・理解）

- ④ 幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。

（思考・判断）

- ⑤ 子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・小・中・高の教育連携、自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。

（態度）

- ⑥ 子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。

（2）コースの概要

初等・中等教育コース

小学校期から中学・高等学校期までの児童・生徒の発達に関わる専門知識と技能を学び、中学・高等学校での英語教育または小学校での外国語活動・英語教育に対応できる教員を養成する。

幼児・児童教育コース

幼児期から児童期までの子どもの発達に関わる専門知識と技能を学び、教育における分野で子ども・保護者を支え、地域に貢献できる教員を育成する。

幼児教育・保育コース

乳児期からの子どもを豊かに育む保育者を養成する。子育て支援や発達障がいを持つ子どもへの援助について学びを深め、子どもとその保護者にしっかり向き合える保育士・幼稚園教諭・保育教諭を養成する。

2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

(1) 全学共通科目

- H G : 北陸学院科目
- G E : 総合教養
- L J : 言語教育 (日本語)
- L E : 言語教育 (英語)
- L C : 言語教育 (中国語)
- L F : 言語教育 (フランス語)
- P E : スポーツ・健康
- H C : キャリア教育

(2) 学科科目 (基幹科目・学科専門科目・資格科目)

- E 子ども教育
- E K 基幹科目 *Key
- E L 英会話 *Language
- E S 「中学校教諭」「高等学校教諭」科目 *Secondary
- E E 「小学校教諭」科目 *Elementary
- E C 「幼児・児童教育」科目 *Childhood
- E N 「保育教諭」科目 *Nursing
- E D 心理学・教育科学科目 *Education
- E T 資格科目 (実習関係科目) *Teacher Certificate

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)、300番台 (主として3、4年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

3. 免許状の略称について

免許状の種類は、以下のように省略し、シラバス内容の関連資格に記載しています。

- 幼稚園教諭一種免許状・・・幼一種
- 小学校教諭一種免許状・・・小一種
- 中学校教諭一種免許状 (英語)・・・中一種 (英語)
- 高等学校教諭一種免許状 (英語)・・・高一種 (英語)

子ども教育学科（カリキュラム体系図）

EK：基幹科目

EL：英会話

ES：「中・高等学校教諭」科目

EE：「小学校教諭」科目

<300番台>

EK360U 卒業研究	EL370U バイブル・イングリッシュ	ES355U 英語科教育法Ⅳ	EE363U 教育相談（小中高）
EK350U キリスト教と教育	EL360U エッセイ・ライティング	ES350U 英語科教育法Ⅲ	EE346U 英語科指導法
EK305U 専門ゼミⅡ	EL350U インテンシブ・リーディング	ES340U コミュニティブ・イングリッシュB	EE341U 体育科指導法
EK300U 専門ゼミⅠ	EL320U ムービー・イングリッシュB	ES331U 英語文学Ⅱ	EE336U 家庭科指導法
	EL310U ムービー・イングリッシュA	ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ	EE331U 音楽科指導法
		ES310U 英語音声学Ⅱ	EE326U 図画工作指導法
		ES301U 英語学	EE321U 生活科指導法
			EE316U 理科指導法
			EE311U 算数科指導法
			EE306U 国語科指導法（書写を含む）
			EE301U 社会科指導法

<200番台>

EK290U 郷土の文学を楽しむ	EL240U ビジネス・イングリッシュB	ES265U 英語科教育法Ⅱ	EE243U 生徒・進路指導論（小中高）
EK280U 児童文学	EL230U ビジネス・イングリッシュA	ES260U 英語科教育法Ⅰ	EE238U 教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）
EK270U 異文化間コミュニケーション論	EL225U プレゼンテーション	ES250U コミュニティブ・イングリッシュA	EE228U 道德教育指導論（小中）
EK240U 初歩文献講読	EL220U トラベル・イングリッシュB	ES241U 英語圏の児童文学	EE215U 家庭
EK230U 教育心理学	EL210U トラベル・イングリッシュA	ES231U 英語文学Ⅰ	EE210U 理科
EK220U 発達心理学	EL205U エクステンシブ・リーディング	ES220U 言語教育のための英文法Ⅰ	EE200U 社会
EK210U プロゼミB	EL200U スピーチ&ドラマ	ES210U 英語音声学Ⅰ	
EK200U プロゼミA		ES201U 英語学概論	

<100番台>

EK160U 日本国憲法	EL135U シンプル・イングリッシュB
EK151U 特別支援教育論	EL130U シンプル・イングリッシュA
EK142U 保育者論	EL125U キッズ・イングリッシュB
EK140U 教職論	EL120U キッズ・イングリッシュA
EK130U 教育学概論	EL110U プラクティカル・イングリッシュ
EK120U 地域社会と子ども	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ
EK110U 基礎ゼミⅡ	
EK100U 基礎ゼミⅠ	

<090番台>

EC：「幼児・児童教育」科目

EN：「保育教諭」科目

ED：心理学・教育科学科目

ET：資格科目（実習関係科目）

<300番台>

		ED396U 教育実践研究B	
		ED393U 教育実践研究A	
		ED391U 教育学理論研究	
		ED386U 教育学文献講読B3	
		ED383U 教育学文献講読B2	
		ED381U 教育学文献講読B1	
		ED376U 教育学文献講読A3	
		ED373U 教育学文献講読A2	
		ED371U 教育学文献講読A1	
		ED361U 比較教育学	ET386U 教職実践演習(幼小中高・保)
		ED356U 子どもと法	ET371U 教育実習Ⅱ(中高)
		ED351U 教育史	ET366U 教育実習Ⅰ(中高)
		ED341U 選択音楽	ET361U 教育実習指導(中高)
		ED336U 障害者・障害児心理学	ET340U 介護等体験
EC350U 子どもの理解と援助	EN331U 子育てと支援	ED331U 心理演習	ET335U 保育実習Ⅲ(施設)
EC345U 幼児理解	EN325U 乳児保育Ⅱ	ED327U 学校心理学(教育・学校心理学)	ET330U 保育実習指導Ⅲ
EC341U 表現	EN320U 家庭支援論	ED326U 心理学的支援法	ET325U 保育実習Ⅱ(保育所)
EC336U 人間関係	EN315U 子どもの食と栄養	ED321U 感情心理学(感情・人格心理学B)	ET320U 保育実習指導Ⅱ
EC331U 言葉	EN311U 子どもの健康	ED316U 知覚・認知心理学	ET316U 教育実習Ⅱ(小)
EC326U 健康活動	EN306U 家庭支援の心理学	ED311U 産業・組織心理学	ET306U 教育実習Ⅱ(幼)
EC321U 環境	EN301U 子ども家庭福祉論Ⅱ	ED306U 社会・集団・家族心理学	ET301U 教育実習指導Ⅱ(幼)

<200番台>

EC281U 保育内容・表現指導法			
EC276U 保育内容・人間関係指導法			
EC271U 保育内容・言葉指導法			
EC266U 保育内容・健康指導法			
EC261U 保育内容・環境指導法			
EC256U 保育内容総論			
EC251U 教育課程論			
EC245U 器楽Ⅱ			
EC238U 教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	EN295U 絵本論		
EC230U 教育社会学	EN290U 身体表現		ET235U 保育実習Ⅰ(保育所)
EC228U 英語	EN285U 児童文化		ET230U 保育実習指導Ⅰ(保育所)
EC225U 体育	EN280U 障がい児保育	ED256U 人格心理学(感情・人格心理学A)	ET225U 保育実習Ⅰ(施設)
EC220U 音楽	EN275U 乳児保育Ⅰ	ED251U 心理学実験Ⅱ	ET220U 保育実習指導Ⅰ(施設)
EC215U 図画工作	EN266U 子どもの保健	ED246U 心理的アセスメント	ET216U 教育実習Ⅰ(小)
EC210U 生活	EN260U 社会的養護内容	ED231U 心理学実験Ⅰ	ET211U 教育実習指導(小)
EC205U 算数	EN255U 社会的養護	ED226U 心理学研究法	ET206U 教育実習Ⅰ(幼)
EC200U 国語	EN251U 子ども家庭福祉論Ⅰ	ED221U 心理学統計法	ET201U 教育実習指導Ⅰ(幼)

<100番台>

	EN165U 音楽表現Ⅱ	
	EN160U 音楽表現Ⅰ	ED110U 臨床心理学概論
	EN155U 社会福祉	ED105U 心理学概論B
EC110U 器楽Ⅰ	EN150U 保育原理	ED100U 心理学概論A

<090番台>

EC090U 器楽入門◆

実務経験のある教員による授業科目一覧

【幼児児童教育学科／子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
伊藤 雄二	海外日本人学校の小・中学部の教員として3年間勤務 中学校教員として23年勤務 高等学校教員として11年勤務	英語E I	1	高等学校の現場で実際に起きた生徒のつまづき(特に文法)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心掛けている。	P.29
		英語E II	1	高等学校の現場で実際に起きた生徒のつまづき(特に発表活動)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、プレゼン用ソフトを用いた、発表活動を取り入れている。	P.30
		地域社会と子ども	2	中学校の現場で起きた問題をテーマにしてグループディスカッションを行っている。また、授業参観のための事前・事後指導を行っている。	P.67
		言語教育のための英文法 I	2	中学・高等学校の現場で実際に起きた生徒のつまづき(特に文法)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心掛けている。	P.74
		言語教育のための英文法 II	2	中学・高等学校の現場で実際に起きた生徒のつまづき(特に文法)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、学生自身の文法力をメタ認知させるよう心掛けている。	P.75
		コミュニケーション・イングリッシュA	2	中学・高等学校の現場で実際に起きた生徒のつまづき(特に発表活動)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、プレゼン用ソフトを用いた、発表活動を取り入れている。	P.103
		英語科教育法 II	2	中学校の現場で実際にを行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。	P.106
		生徒・進路指導論(小・中)	2	小中学校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。	P.175
		小学校英語科教育法 II	2	・小学校現場における具体的な課題についてグループで解決策を討議、発表させる。ロールプレイを導入している。 ・小学校現場における具体的な課題についてグループで解決策を討議、発表させる。	P.177
		英語科教育法IV	2	・中学校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。 ・中学校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている	P.170 P.211
		小学校英語科教育法 III	2	・小学校現場における具体的な課題についてグループで解決策を討議、発表させる。ロールプレイを導入している。 ・小学校での経験を短期間の教育実習の指導案作成指導に生かしている。	P.228
		大井 佳子	障害幼児の指導員(心理士・言語指導員)として5年9ヵ月勤務 幼稚園園長として19年間勤務(うち1年間は副園長。) 退職後も、週1回、幼稚園の相談員として、保護者ならびに保育者の相談員を務める。また、共同研究者として石川県私立幼稚園協会の研修事業に関わる。 金沢市教育プラザ巡回専門相談員を12年間行い、継続中である。	特別支援教育論	2
保育原理	2			実践例として子どもの姿、保育者の姿を紹介する。実際に幼児の製作物等を提供し、学生が身体で触れることを通じて、子どもと保育を感じられるようにする。	P.88
保育課程論	2			幼稚園の歴史、環境、指導計画、の例として諸資料を活用する。	P.128
保育内容総論	2			模擬保育の振り返りで、子どもの姿の事例として紹介する。	P.129
保育内容・人間関係 I	2				P.132
幼稚園教育実習指導 I	1			幼稚園の生活の流れ、年間カリキュラム、園舎・教材等を鑑みて指導計画を立てることの事例として提供し、各自が自身の実習園に即して、事前訪問の視点や協議のポイントを具体的に考えることにつなげる。	P.150
幼稚園教育実習指導 II	1				P.207
教職実践演習(幼・小・保)	2			保護者との連携で、実践例や保護者の事例を提供。	P.231
楠本 史郎	日本基督教団牧師経験40年勤務(教会担任教師として28年勤務・教務教師として12年勤務) 幼稚園園長として30年勤務 金沢刑務所宗教教諭として18年勤務	キリスト教概論 I	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭としての経験を事例として挙げつつ講義をし、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	P.5
		キリスト教概論 II	1		P.6
		キリスト教と教育	2		P.227
虹釜 和昭	社会的養護である「児童養護施設」において児童指導員20年、施設長として5年、その間 同法人の経営する保育園及び児童クラブの保育補助や運営管理に携わる。 児童指導員を行いながら、社会福祉法人の事務長を兼務した期間が10年間あり、その間運営管理を行う。 児童福祉行政に関して、金沢市社会福祉審議会会長を4年にわたり現在も務めている。また石川県児童福祉審議会委員として現在も従事している。 現在、認定こども園の4カ園の評議員・理事として運営管理に参画しアドバイスをを行っている。	児童家庭福祉論 I	2	・児童家庭福祉の政策決定過程を、市町の行政資料に基づき解説し、金沢市社会福祉審議会のあり方などを教授している。 ・石川県内の各市町の子ども政策にかかる福祉計画を学生自らが調査し、その内容の比較研究を行い学びを深めている。	P.134
		社会的養護内容	2	児童養護施設から提供いただいた事例を踏まえ、ケースメソッド方式により、小グループでのディスカッションから、社会的養護の本質、近未来のあり方などについて、議論を深めて学ぶ。	P.136
		保育実習指導 I (施設)	1	資生堂社会福祉事業財団が主催する海外研修報告書などから、諸外国の指導関係の施設の比較研究や、OECD諸国とアジア、そして日本の障害者施設、児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、障害児支援施設との比較研究を、施設現場からの経験やその実情などを学ぶ。	P.154
		児童家庭福祉論 II	2	児童養護施設や乳児院の愛着問題について、施設職員から提供を受けた事例を元に、ケースメソッドによるディスカッションからその本質を考察する。	P.188

実務経験のある教員による授業科目一覧

【幼児児童教育学科／子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
虹釜 和昭	社会的養護である「児童養護施設」において児童指導員20年、施設長として5年、その間 同法人の経営する保育園及び児童クラブの保育補助や運営管理に携わる。 児童指導員を行いながら、社会福祉法人の事務長を兼務した期間が10年間あり、その間運営管理を行う。 児童福祉行政に関して、金沢市社会福祉審議会会長を4年にわたり現在も務めている。また石川県児童福祉審議会委員として現在も従事している。 現在、認定こども園の4カ園の評議員・理事として運営管理に参画しアドバイスをを行っている。	家庭支援論	2	子育て支援のあり方について、保育所・認定こども園から提供いただいた基礎資料から、学生自らによるシナリオ作成、そのシナリオを用いたロールプレイによる、保護者の思いについて、共感的理解を深める学びを行なう。	P.192
		保育実習指導Ⅲ	1	「保育実習Ⅰ(施設)」の成果を踏まえ、記録及び実習施設提供資料を用いて、その課題、構造的な問題、人材確保、勤務年数などの課題を明確にし、児童相談所における最前線職員からのヒアリング、実習施設以外の種別施設訪問及びヒアリングを通して学びを深めている。	P.218
齊藤 英俊	非常勤のカウンセラー(主にスクールカウンセラー)として9年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。	P.100
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例(いじめや不登校など)をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。	P.101
側垣 二也	児童養護施設に38年勤務	社会的養護	2	児童養護施設における自身の経験を踏まえつつ、現代社会にある児童と家庭の問題、課題について講義を行っている。	P.135
高村 真希	保育士として12年勤務	総合教養AⅠ	2	乳幼児の不思議な力や、身近な大人との関わりについて、実践例を提示しながら、乳幼児の理解につなげている。	P.9
		総合教養AⅡ	2		P.10
		地域社会と子ども	2	保育所とはどのような施設であり、保育者は何を大切にされているのか、また、その場で乳幼児がどのように生活しているのかについて事前事後の検討会を行っている。	P.67
		保育内容・言葉指導法	2	乳幼児の言葉の発達について、保育現場での事例を基に具体的に指導を行い、実際に視聴覚教材を使用している模擬保育を行っている。	P.87
		保育内容・言葉Ⅰ	2	乳幼児の言葉の発達について、保育現場での事例を基に具体的に指導を行い、実際に視聴覚教材を使用している模擬保育を行っている。	P.131
		保育内容・言葉Ⅱ	2	言葉の現代的課題や子どもの言葉を捉える力を、保育現場での事例を基にディスカッションし、今後保育者に求められる資質とは何かをグループで討議している。	P.185
		保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	保育所実習Ⅰへ向けて、乳幼児の発達や保育所の日常を振り返り、保育所とはどのような施設であるのか、保育者に求められる力をグループで討議している。	P.214
		保育実習指導Ⅱ	1	保育所実習Ⅱへ向けて、保育現場の現代的課題を再整理し、指導案を立てる中で実践からの学びをグループで討議し、意識を高めている。	P.218
		教職実践演習(幼・小・保)	2	保育現場で求められている力や現代的課題を追求し、グループによるディスカッションを行っている。	P.231
谷 昌代	幼稚園教諭として9年間勤務 幼保連携型認定こども園にて保育教諭として3年間勤務(市のモデル事業として園の立ち上げに携わる) 保育所にて保育士として1年間勤務 学童指導員として4か月間勤務	総合教養AⅠ	2	他学科の学生に子どもを取り囲む諸問題として投げかける。現場の実際を伝える講義は子どもについてあまり知らない学生にとっても身近に入りやすいと思われ、多くの事例を挙げて講義に活かしている。	P.9
		総合教養AⅡ	2	保育者、教育者を目指す学生には、現代の子どもを取り囲む諸問題、子育て支援等、実際の保育現場の事例を多く取り入れ講義している。近くの人と話し合う等他者の意見を聴き考える機会も設けている。	P.10
		地域社会と子ども	2	学生が幼児教育施設へ見学に行く事前学習として、幼児の発達や遊びを捉える視点として保育事例を挙げて伝えている。	P.67
		特別支援教育論	2	保育の現場で関わってきた気になる子どもや発達障がい児の事例を紹介し当該児の見え方や感じ方、援助について考えていく。	P.69
		幼稚園教育実習指導Ⅰ	1	遊びの中での学びの捉え方、発達の捉え方、幼保小繋がりについてグループワークや学外子どもイベント企画・準備・参加等により理解を深める機会として導入し、より身近に子どもを感じる授業作りをしている。	P.150
		乳児保育Ⅰ	2	乳児の生活や育ち、遊びなどの捉え方を保育事例を基に学ぶが、また、実際に乳児と触れる機会を通して、学生自身が乳児のことを学び感じる。	P.193
		乳児保育Ⅱ	2	乳児に関わる事故や子育て支援についての課題など、社会的な支援の在り方も踏まえ、実際の現場の取り組みと併せてグループワークに取り組み知る機会とする。	P.194
		保育内容・人間関係Ⅱ	2	ヒトと関わりながら生きていることを幼少期からの学生自身のエピソードや実習記録から捉え話し合う。	P.186
		幼稚園教育実習指導Ⅱ	1	実習Ⅰと同じ園に実習Ⅱとして行くことで子どもの成長や遊びの変化、繋がりなどを考えられる。実習記録振り返りや報告などを通して自分の強み弱みを理解できるよう指導している。	P.207
		保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	実習対象年齢による発達、環境の違いなど、学生自身が幼稚園と比較し捉え、関わり方や教材作りに活きるようグループワークを中心に行う。	P.214

実務経験のある教員による授業科目一覧

【幼児児童教育学科／子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
谷 昌代	幼稚園教諭として9年間勤務 幼保連携型認定こども園にて保育教諭として3年間勤務(市のモデル事業として園の立ち上げに携わる) 保育所にて保育士として1年間勤務 学童指導員として4か月間勤務	保育実習指導Ⅱ	1	自分たちの実習ファイルを振り返り、エピソードからの学びを語り合う。最終実習では子どもの姿を読み取る、感じ取ることに重点をおき、エピソード記述の捉え方、意味を知り、保育現場の記録の在り方を学ぶ。	P.216
		幼児理解	2	子どもを様々な側面から理解するということを事例を通して学ぶ。実際の子どもの関わり場面(実際の保育現場ビデオ)から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。	P.232
		教職実践演習(幼・小・保)	2	総合的に教育について学ぶ演習のため、各施設における特徴や子どもについての諸問題等、学生自身が学びを深めるにあたり、現場の実際として事例をもとに考える機会もある。	P.231
徳田 茂	障害児通園施設に45年勤務	障がい児保育	2	障害のある子どもの育ちの援助についてより理解を深められるよう、障害児福祉施設における事例を取り入れ、講義を行っている。	P.139
中島 賢介	高等学校で国語科教諭を5年間勤務 北陸学院小学校校長を3年間勤務	国語	2	小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について、リアルタイムで伝えている。	P.124
		キリスト教と教育	2	北陸学院小学校でのキリスト教の経験を授業内で報告し、協議する。	P.227
姫野 俊幸	小学校教員として35年間勤務	理科	2	理科の指導内容について、実際に小学校現場でどのように取り扱い、子どもたちの理解につなげていくかについて議論し高めている。	P.111
		算数科教育法	2	算数科の授業において小学校現場で具体的にどのように指導しているかについて、実際に模擬授業を行い、明確な視点をもって検討会を行っている。	P.114
		理科教育法	2	理科の授業において小学校現場で具体的にどのように指導しているかについて、実際に模擬授業を行い、明確な視点をもって検討会を行っている。	P.115
		算数	2	算数科の指導内容について、実際に小学校現場でどのように取り扱い、子どもたちの理解につなげていくかについて議論し高めている。	P.125
		教育課程編成論(小・中)	2	小学校現場における教育課程の実際について理解した上で、カリキュラム・マネジメントの重要性やヒドゥンカリキュラムの実情などについてディスカッションを行っている。	P.121
		小学校教育実習指導Ⅰ	1	教育実習Ⅰに向けて、小学校現場の日常を振り返り、教育実習生として何ができるか、何をすべきか、何を学ぶのかについてディスカッションを行っている。	P.152
		教育実践研究A	2	小学校現場で日常的に行われている教育活動について、具体的事例について取り上げ検討・協議し、理解を深めている。	P.182
		小学校教育実習指導Ⅱ	1	教育実習Ⅱに向けて、小学校現場の喫緊の課題について考えたり、実習計画を立案したりする中で、教育実習での学びについてディスカッションを行っている。	P.209
		教職実践演習(幼・小・保)	2	小学校現場の喫緊の課題について追究し、グループによるディスカッションを行っている。	P.231
福江 厚啓	公立小学校教諭9年間、 国立幼稚園教諭9年間の実務経験 (3歳～12歳までの担任および特別支援学級担任(知障・自閉)、特別支援教育コーディネーター、就学指導担当等)	生活	2	小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。	P.82
		社会	2	また、大学生版アレンジとして演習を行っている。	P.112
		社会科教育法	2	小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。	P.116
		生活科教育法	2		P.117
		小学校教育実習指導Ⅰ	1	小学校における実践(保幼小連携、特別支援等)を紹介し、グループ討議等に利用。	P.152
		教育実践研究A	2	小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。	P.182
		小学校教育実習指導Ⅱ	1	・小学校における実践(保幼小連携、特別支援等)を紹介し、グループ討議等に利用。 ・授業記録の取り方や研究協議会の持ち方など、現場における授業研究で即戦力となる技術を伝達している。	P.209
		教職実践演習(幼・小・保)	2	幼稚園、小学校それぞれの現場経験から、より実践的なアドバイスをとおこなっている。	P.231
幸 聖二郎	小学校教員として29年間勤務	総合教養AⅠ	2	「人格の完成」を目指すとは、どういふことか、小学校の現場での体験を踏まえ、わかりやすく説明している。	P.9
		総合教養AⅡ	2		P.10
		日本語表現法Ⅰ	1	スピーチや音読活動等、実際の小学校の国語科の授業で行ったやり方をふまえ、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。	P.18
		日本語表現法Ⅱ	1	レポート発表会の際に、小学校の国語科の授業で行ったやり方を参考に、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。	P.19
		地域社会と子ども	2	小学校参観を前に、小学生の発達段階について、具体的な事例を挙げて、説明したり、入門期の国語科の模擬授業を行ったりしている。	P.67
		国語	2	国語の指導内容について、実際に小学校現場でどのように取り扱い、子どもたちの理解につなげていくかについて議論し高めている。	P.124

実務経験のある教員による授業科目一覧

【幼児児童教育学科／子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
幸 聖二郎	小学校教員として29年間勤務	小学校教育実習指導Ⅰ	1	教育実習Ⅰに向けて、小学校現場の日常を振り返り、教育実習生として何ができるか、何をすべきか、何を学ぶのかについてディスカッションを行っている。	P.152
		生徒・進路指導論(小・中)	2	積極的な生徒指導とはどういうことか、実際の小学校現場での事例を挙げながら、説明し、構成的グループエンカウンター等の実践を行っている。	P.175
		小学校教育実習指導Ⅱ	1	教育実習Ⅱに向けて、小学校現場の日常を振り返り、教育実習生として何ができるか、何をすべきか、何を学ぶのかについてディスカッションを行っている。	P.209
		国語科教育法(書写を含む)	2	国語科の授業において小学校現場で具体的にどのように指導しているかについて、実際に模擬授業を行い、明確な視点をもって検討会を行っている。	P.173
		教育実践研究A	2	小学校現場で日常的に行われている教育活動について、具体的事例について取り上げ検討・協議し、理解を深めている。	P.182
向出 圭吾	幼稚園教諭として13年間勤務	地域社会と子ども	2	幼稚園現場とのパイプ役となり、幼稚園現場での参観を行い、遊びや生活についてのグループディスカッションを行っている。	P.67
		保育内容・環境指導法	2	現場での遊びや生活のビデオを活用し、グループディスカッションを行う。自然とのかかわり、自然物を取り入れた遊びなど、実際の現場での実践を取り入れている。	P.86
		保育内容・表現Ⅰ	2	粘土、劇、しかけ絵本等の教材を用いてなど、実際の現場での実践を取り入れて表現を考える。	P.133
		幼稚園教育実習指導Ⅰ	1	幼稚園での子どもの生活や遊びを、実際の遊びの模擬保育を通して行っている。	P.150
		保育内容・環境Ⅱ	2	園外保育のあり方や現場での実践を、実際に第一幼稚園に出向いて、現場で行っている。	P.183
		保育内容・表現Ⅱ	2	影絵や切り絵等の教材を用いるなど、実際の現場での実践を取り入れて表現について考える。	P.187
向出 圭吾	幼稚園教諭として13年間勤務	幼稚園教育実習指導Ⅱ	1	遊びの指導計画の立案に重点を置き、実践、見直し、改善のPDCAサイクルがしっかりとできるように、現場でのやり方を取り入れている。	P.207
		幼児理解	2	これまでの実習を踏まえて、遊びの実践や他学年への指導を踏まえて幼児を理解する力をつける。	P.232
		教職実践演習(幼・小・保)	2	図書館での絵本の実践や幼保グループによる現場での今日的課題等のディスカッションを行い、現場に出向く準備をする。	P.231
村井 万寿夫	小学校教員として26年間勤務。 現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員(日本教育工学会理事、石川県教育工学研究会会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー)として小学校、中学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について共同研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教育学概論	2	・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。 ・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解したりディスカッションしたりしている。	P.68
		初歩文献講読	2	「子どものものの考え方」について、現在の小学校で使っている教科書を学生に示しながら、科学的思考の発達段階について考えさせている。	P.102
		小学校教育実習指導Ⅰ	1	実際の小学校の児童や教師の「一日」を取材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。	P.152
		道徳教育指導論(小・中)	2	実際の小学校や中学校の授業の様子を動画で取材し、それを学生に視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。	P.122
		特別活動指導論(小・中)	2	実際の小学校や中学校の特別活動について取材(写真、資料収集など)し、それを学生に提示して理解を促したり、グループ討議したりしている。	P.123
		教育方法論(幼・小・中)	2	実際の幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材(写真、動画、資料収集)し、それを学生に提示して各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。	P.181
		教育実践研究A	2	実際の小学校の教師に「学級通信」などの提供を依頼し、それと自身の小学校教員時代の「学級通信」を学生に提示、学生に「学級経営」について考えさせるようにしている。	P.182
		小学校教育実習指導Ⅱ	1	実際の小学校の児童や教師の「一日」を取材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。	P.209
教職実践演習(幼・小・保)	2	実際の小学校の教師に、「小学校教師に求められること」の観点から聞き取りし、それをもとに学生の指導に役立てている。	P.231		
【幼児児童教育学科／子ども教育学科】		合計	123	単位	

社会学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者
- ⑤ 社会のさまざまな課題に意欲的に取り組むことができる者

*入学時に基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群
- ② 学生の学修能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- ③ 学生が自ら目指す進路・資格取得に必要な学習を支援するための学科別教育課程を配置する。

- ④ 社会への理解を深めるために、データに基づき社会の様々な現象を検証する技能を理論的に身につけることを重視する。
- ⑤ 1年次では、社会学とその関連領域および社会調査に関する基礎的な知識・技能を学び、2年次からの専門的な学びにつなげる。2年次以降に、学科専門科目の基礎となる科目群として「基本科目」、より専門性の高い「応用領域」として「文化と共生」、「くらしと政策」、「心理と社会」の科目群を配置する。
- ⑥ 自らの専門性と学習目標を認識し、系統的に履修できるよう、上記の科目の組み合わせより「現代社会・国際理解コース」、「心理・カウンセリングコース」、「環境福祉マネジメントコース」、「政治経済・経営コース」、「情報・図書館司書コース」の履修モデルコースを示す。
- ⑦ 社会福祉士、スクールソーシャルワーカー、認定心理士、社会調査士および司書に関連する資格科目を配置する。

ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(知識・理解)

- ① 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。

(関心・意欲)

- ② 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。

(技能・態度)

- ③ 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。

(知識・理解)

- ④ 現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。

(態度)

- ⑤ 現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探究し、貢献できる。

(技能)

- ⑥ 現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。

2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

(1) 全学共通科目

H G : 北陸学院科目

G E : 総合教養

L J : 言語教育 (日本語)

LE：言語教育（英語）
LC：言語教育（中国語）
LF：言語教育（フランス語）
PE：スポーツ・健康
HC：キャリア教育

(2) 学科科目（基幹科目・学科専門科目・資格科目）

S 社会学
SK 基幹科目 *Key
SO 基本・共通科目 *Sociology
SC 「文化と共生」科目 *Culture, Congruity
SL 「くらしと政策」科目 *Living
SP 「心理と社会」科目 *Psychology
SW 「社会福祉士国家試験受験資格」科目 *Welfare
SS 「スクールソーシャルワーク」科目 *School
SB 「司書資格」科目 *Books
ST 「公認心理師」科目 *(Psycho) Therapist

注1) 基礎科目を100番台（主として1年次）、学科専門200番台（主として2年次）、300番台（主として3、4年次）、400番台（4年次）

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

社会学科（カリキュラム体系図）

EK：基幹科目

SO：基本・共通科目

SC：「文化と共生」科目

SL：「くらしと政策」科目

<400番台>

<300番台>

SK310U 卒業研究				SL345U 経済学IV
SK305U 専門ゼミⅡ				SL340U 経済学Ⅲ
SK300U 専門ゼミⅠ				SL335U マーケティング論
				SL330U 地域環境マネジメント論
		SC320U メディア文化論		SL325U 社会貢献実習
		SC315U 社会病理学		SL320U 地域社会政策論
		SC310U 犯罪社会学		SL315U 政治学
	SO305U 社会調査実習	SC305U 教育社会学		SL310U 法律学
	SO300U 応用心理社会統計法	SC300U 石川の伝統文化と産業		SL300U 地域行政入門

<200番台>

				SL235U 環境と開発
				SL230U 経済学Ⅱ
				SL225U 経済学Ⅰ
				SL220U 情報技術論
				SL215U 障害者スポーツ
				SL210U 障害者福祉論
				SL205U 高齢者福祉論
				SL200U 社会貢献論
	SO220U 環境社会学	SC220U グローバル社会論		
	SO215U 都市社会学	SC215U 多文化共生論		
SK210U 質的研究法	SO210U 家族社会学	SC210U 社会と言語		
SK205U プロゼミB	SO205U 社会学理論	SC205U 若者文化論		
SK200U プロゼミA	SO201U 心理学統計法	SC200U 宗教と社会		

<100番台>

SK135U 統計データの読み方				
SK130U 社会調査法				
SK125U 社会調査論	SO125U 心理学概論B			
SK120U 社会学概論B	SO120U 心理学概論A			
SK115U 社会学概論A	SO115U 現代社会と福祉Ⅱ			
SK110U 社会学リレー講義	SO110U 現代社会と福祉Ⅰ			
SK105U 基礎ゼミⅡ	SO105U 文化人類学			SL105U 経営学入門
SK100U 基礎ゼミⅠ	SO100U データ処理基礎			SL100U 図書館概論

<090番台>

SP : 「心理と社会」科目

SW : 「社会福祉士国家試験
受験資格」科目

SS : 「スクールソーシャル
ワーク」科目

SB : 「司書資格」科目

ST : 「公認心理師」科目

<400番台>

ST400U 心理実習

<300番台>

	SW370U 相談援助実習Ⅱ				
	SW365U 相談援助実習Ⅰ				
	SW360U 相談援助実習指導Ⅲ				
	SW355U 相談援助実習指導Ⅱ				
	SW350U 相談援助実習指導Ⅰ				
	SW345U 相談援助演習Ⅴ				
	SW340U 相談援助演習Ⅳ				
	SW335U 相談援助演習Ⅲ				
	SW330U 就労支援サービス				
	SW325U 保健医療サービス				
	SW320U 公的扶助論	SS320U スクールソーシャルワーク実習			
	SW315U 福祉サービスの組織と経営	SS315U スクールソーシャルワーク実習指導			
	SW310U 福祉行財政と福祉計画	SS310U スクールソーシャルワーク演習			
	SW305U 相談援助の理論と方法Ⅳ	SS305U スクールソーシャルワーク論			
	SW300U 相談援助の理論と方法Ⅲ	SS300U 精神保健学			
SP336U 心理演習					
SP332U 学校心理学(教育・学校心理学)					
SP331U 心理学的支援法					
SP326U 障害者・障害児心理学					
SP321U 感情心理学(感情・人格心理学B)					
SP316U 知覚・認知心理学					
SP311U 産業・組織心理学					
SP306U 社会・集団・家族心理学					
			SB340U 図書館実習		
			SB335U 図書・図書館史		
			SB330U 図書館情報資源概論		
			SB325U 情報資源組織演習Ⅱ		
			SB320U 情報資源組織演習Ⅰ		ST320U 関係行政論
			SB315U 情報サービス演習Ⅱ		ST315U 健康・医療心理学
			SB310U 情報サービス演習Ⅰ		ST310U 精神疾患とその治療
			SB305U 図書館制度・経営論		ST305U 司法・犯罪心理学
			SB300U 児童サービス論		ST300U 福祉心理学

<200番台>

SP236U 人格心理学(感情・人格心理学A)					
SP230U 教育心理学	SW225U 相談援助演習Ⅱ				
SP225U 発達心理学	SW220U 相談援助演習Ⅰ				
SP216U 心理的アセスメント	SW215U 社会保障論				
SP211U 心理学研究法	SW210U 相談援助の理論と方法Ⅱ				SB210U 情報資源組織論
SP206U 心理学実験Ⅱ	SW205U 相談援助の理論と方法Ⅰ				SB205U 情報サービス論
SP201U 心理学実験Ⅰ	SW200U 相談援助の基盤と専門職				SB200U 図書館サービス概論
					ST210U 人体の構造と機能及び疾病
					ST205U 神経・生理心理学
					ST200U 学習・言語心理学

<100番台>

	SW105U 児童福祉論				
SP100U 臨床心理学概論	SW100U 地域福祉論				
			SB100U 生涯学習概論		ST100U 公認心理師の職責

<090番台>

実務経験のある教員による授業科目一覧

【社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
楠本 史郎	日本基督教団牧師経験40年勤務(教会担任教師として28年勤務・教務教師として12年勤務) 幼稚園園長として30年勤務 金沢刑務所宗教教諭として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭としての経験を事例として挙げつつ講義をし、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	P.5
		キリスト教概論Ⅱ	1		P.6
		宗教と社会	2		P.259
		社会学リレー講義	2		P.241
真砂 良則	福祉施設において16年間勤務	社会学リレー講義	2	高齢者福祉について、各種委員会等(施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等)の経験をもとに具体例をあげて講義している。	P.241
		高齢者福祉論	2		P.269
		現代社会と福祉Ⅰ	2	社会福祉について、各種委員会等(契約締結審査会、権利擁護センター委員等)の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。	P.255
		現代社会と福祉Ⅱ	2		P.256
		相談援助演習Ⅰ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。	P.288
		相談援助演習Ⅱ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。	P.289
		相談援助の理論と方法Ⅲ	2	スーパービジョンやカンファレンス等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。	P.326
		相談援助の理論と方法Ⅳ	2	さまざまな実践モデルとアプローチ等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。	P.327
		相談援助実習指導Ⅰ	2	職能団体である社会福祉士の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。	P.332
		相談援助実習指導Ⅱ	2		P.355
相談援助実習指導Ⅲ	2	P.356			
松下 健	臨床心理士、スクールカウンセラーとして4年間勤務	臨床心理学概論	2	実践において求められる知識と技術を説明している	P.274
		心理学実験Ⅰ	2	心理アセスメントと実験方法は科学的検証という共通項があることを説明している	P.275
		心理的アセスメント	2	実践においてアセスメントが欠かせないことを説明している	P.278
		心理面接技法	2	実践において用いられる面接技法を説明している	P.324
		公認心理師の職責	2	実践において求められる職責を説明している	P.294
齊藤 英俊	非常勤のカウンセラー(主にスクールカウンセラー)として9年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。	P.279
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例(いじめや不登校など)をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。	P.280
野林 晴彦	企業の人材開発やマーケティング部門において26年間勤務	経営学入門	2	人材開発やマーケティングなどの会社員時代の経験を紹介している	P.266
		マーケティング論	2	会社でのマーケティング部署での経験・事例を紹介している	P.316
石原 俊彦	介護老人保健施設に14年間勤務	保健医療サービス	2	医療提供施設における実務経験をもとに、学生自身が主体的に学べるよう、学生やその家族が医療機関を受診した際の疑問点等、身近な問題をとりあげながらディスカッションを行っている。	P.328
大和 太郎	医師として25年間勤務(現在、クリニック院長)	人体の構造と機能及び疾病	2	医学や医療の知識を身につけてもらうため、体の構造や機能、人の成長・発達や老い、患者や家族の気持ち等について、これまでの実務経験(総合病院勤務医時代の経験や、クリニック開院後の外来診療および訪問診療での経験)を元に講義を行っている。	P.297
辰巳 平一	放送局において40年間勤務	メディア文化論	2	勤務時代の経験、取材体験を紹介し、さらにテレビ局で研修を行っている	P.309
高橋 律子	学芸員として17年間勤務	生涯学習概論	2	金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を行っている	P.290
【社会学科】			合計	52 単位	

全学共通科目	
1～3年次	1～62
子ども教育学科	
1年次	63～94
2年次	95～156
幼児児童教育学科	
3年次	157～220
4年次	221～234
社会学科	
1～2年次	235～298
3年次	299～344
4年次	345～358
教職員録	359～360
案内図	361～364

カリキュラム 目次

※頁番号が一の科目は、2019年度開講せず

全学共通科目 (1～3年次)

〔北陸学院科目〕

HG100U	北陸学院セミナーⅠ	3
HG200U	北陸学院セミナーⅡ	4
HG110U	キリスト教概論Ⅰ	5
HG120U	キリスト教概論Ⅱ	6
HG130U	キリスト教人間論Ⅰ	7
HG140U	キリスト教人間論Ⅱ	8

〔総合教養科目〕

GE100U	総合教養AⅠ	9
GE110U	総合教養AⅡ	10
GE120U	総合教養BⅠ	11
GE130U	総合教養BⅡ	12
GE140U	総合教養CⅠ	13
GE150U	総合教養CⅡ	14
GE160U	総合教養DⅠ	15
GE170U	総合教養DⅡ	16

〔言語教育科目〕

LJ090U	日本語基礎	17
LJ110U	日本語表現法Ⅰ	18
LJ120U	日本語表現法Ⅱ	19
LE090U	英語基礎	20
LE155U	英語AⅠ	21
LE160U	英語AⅡ	22
LE145U	英語BⅠ	23
LE150U	英語BⅡ	24
LE135U	英語CⅠ	25
LE140U	英語CⅡ	26
LE125U	英語DⅠ	27
LE130U	英語DⅡ	28
LE115U	英語EⅠ	29
LE120U	英語EⅡ	30
LE105U	英語FⅠ	31
LE110U	英語FⅡ	32
LE165U	アクティブ・イングリッシュA	33
LE170U	アクティブ・イングリッシュB	34
LE175U	アクティブ・イングリッシュC	35
LC100U	中国語Ⅰ	36
LC110U	中国語Ⅱ	37
LF100U	フランス語Ⅰ	38
LF110U	フランス語Ⅱ	39

〔スポーツ・健康科目〕

PE100U	生涯スポーツA	40～42
PE110U	生涯スポーツB	43～45
PE120U	健康科学	46

〔キャリア教育科目〕

HC100U	キャリアデザインⅠ	47～48
HC110U	キャリアデザインⅡ	49～50
HC200U	キャリアデザインⅢ	51～52
HC210U	キャリアデザインⅣ	53～54
HC300U	キャリアデザインⅤ	55～56
HC310U	キャリアデザインⅥ	57～58
HC160U	情報機器演習A	59～60
HC170U	情報機器演習B	61～62

子ども教育学科 (1年次)

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	65
EK110U	基礎ゼミⅡ	66
EK120U	地域社会と子ども	67
EK130U	教育学概論	68
EK151U	特別支援教育論	69
EK160U	日本国憲法	70

〔学科専門科目〕

ES201U	英語学概論	71
ES210U	英語音声学Ⅰ	72
ES310U	英語音声学Ⅱ	73
ES220U	言語教育のための英文法Ⅰ	74
ES320U	言語教育のための英文法Ⅱ	75
EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	76
EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	77
EL120U	キッズ・イングリッシュA	78
EL125U	キッズ・イングリッシュB	79
EL130U	シンプル・イングリッシュA	80
EL135U	シンプル・イングリッシュB	81
EC210U	生活	82
EC215U	図画工作	83
EC090U	器楽入門	84
EC110U	器楽Ⅰ	85
EC261U	保育内容・環境指導法	86
EC271U	保育内容・言葉指導法	87
EN150U	保育原理	88
EN155U	社会福祉	89
EN160U	音楽表現Ⅰ	90

EN165U	音楽表現Ⅱ	91
ED100U	心理学概論A	92
ED105U	心理学概論B	93
ED110U	臨床心理学概論	94

子ども教育学科 (2年次)

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	—
EK110U	基礎ゼミⅡ	—
EK200U	プロゼミA	97
EK210U	プロゼミB	98
EK120U	地域社会と子ども	—
EK130U	教育学概論	—
EK140U	教職論	99
EK150U	発達支援論	—
EK220U	発達心理学	100
EK230U	教育心理学	101
EK240U	初歩文献講読	102

〔学科専門科目〕

ES200U	英語学概論Ⅰ	—
ES300U	英語学概論Ⅱ	—
ES210U	英語音声学Ⅰ	—
ES310U	英語音声学Ⅱ	—
ES220U	言語教育のための英文法Ⅰ	—
ES320U	言語教育のための英文法Ⅱ	—
ES250U	コミュニケーション・イングリッシュA	103
ES340U	コミュニケーション・イングリッシュB	104
ES260U	英語科教育法Ⅰ	105
ES265U	英語科教育法Ⅱ	106
EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	—
EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	—
EL210U	トラベル・イングリッシュA	107
EL220U	トラベル・イングリッシュB	108
EL230U	ビジネス・イングリッシュA	109
EL240U	ビジネス・イングリッシュB	110
EE210U	理科	111
EE200U	社会	112
EE215U	家庭	113
EE310U	算数科教育法	114
EE315U	理科教育法	115
EE300U	社会科教育法	116
EE320U	生活科教育法	117
EE325U	図画工作教育法	118
EE330U	音楽科教育法	119
EE335U	家庭科教育法	120
EE237U	教育課程編成論(小・中)	121

EE227U	道德教育指導論(小・中)	122
EE232U	特別活動指導論(小・中)	123
EC100U	日本国憲法	—
EC200U	国語	124
EC205U	算数	125
EC210U	生活	—
EC215U	図画工作	—
EC220U	音楽	126
EC090U	器楽入門	—
EC110U	器楽Ⅰ	—
EC245U	器楽Ⅱ	127
EC250U	保育課程論	128
EC255U	保育内容総論	129
EC260U	保育内容・環境Ⅰ	—
EC265U	保育内容・健康Ⅰ	130
EC270U	保育内容・言葉Ⅰ	131
EC275U	保育内容・人間関係Ⅰ	132
EC280U	保育内容・表現Ⅰ	133
EN150U	保育原理	—
EN250U	児童家庭福祉論Ⅰ	134
EN155U	社会福祉	—
EN255U	社会的養護	135
EN260U	社会的養護内容	136
EN265U	子どもの保健ⅠA	137
EN270U	子どもの保健ⅠB	138
EN280U	障がい児保育	139
EN160U	音楽表現Ⅰ	—
EN165U	音楽表現Ⅱ	—
EN285U	児童文化	140
ED200U	異文化間コミュニケーション論	141
ED205U	児童文学	142
ED215U	郷土の文学を楽しむ	143
ED100U	心理学概論A	—
ED105U	心理学概論B	—
ED110U	臨床心理学概論	—
ED221U	心理学統計法	144
ED231U	心理学実験Ⅰ	145
ED251U	心理学実験Ⅱ	146
ED226U	心理学研究法	147
ED246U	心理的アセスメント	148
ED256U	人格心理学(感情・人格心理学A)	149

〔資格科目〕

ET200U	幼稚園教育実習指導Ⅰ	150
ET205U	幼稚園教育実習Ⅰ	151
ET210U	小学校教育実習指導Ⅰ	152
ET215U	小学校教育実習Ⅰ	153
ET220U	保育実習指導Ⅰ(施設)	154

ET225U 保育実習Ⅰ（施設）……………155

〔中学校教諭一種免許状 社会学科開講科目〕

SC215U 多文化共生論……………261

子ども教育学科（3年次）

〔基幹科目〕

EK100U 基礎ゼミⅠ……………—

EK110U 基礎ゼミⅡ……………—

EK200U プロゼミA……………—

EK210U プロゼミB……………—

EK300U 専門ゼミⅠ……………159～160

EK120U 地域社会と子ども……………—

EK130U 教育学概論……………—

EK140U 教職論……………—

EK150U 発達支援論……………—

EK220U 発達心理学……………—

EK230U 教育心理学……………—

EK250U 教育史……………161

EK240U 初歩文献講読……………—

EK310U 教育学文献講読A1……………162

EK315U 教育学文献講読A2……………163

EK325U 教育学文献講読B1……………164

EK330U 教育学文献講読B2……………165

〔学科専門科目〕

ES200U 英語学概論Ⅰ……………—

ES300U 英語学概論Ⅱ……………—

ES210U 英語音声学Ⅰ……………—

ES310U 英語音声学Ⅱ……………—

ES220U 言語教育のための英文法Ⅰ……………—

ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ……………—

ES230U 英米文学Ⅰ……………166

ES330U 英米文学Ⅱ……………167

ES240U 欧米の児童文学……………168

ES250U コミュニカティブ・イングリッシュA……………—

ES340U コミュニカティブ・イングリッシュB……………—

ES260U 英語科教育法Ⅰ……………—

ES265U 英語科教育法Ⅱ……………—

ES350U 英語科教育法Ⅲ……………169

ES355U 英語科教育法Ⅳ……………170

EL100U コミュニケーション・イングリッシュ……………—

EL110U プラクティカル・イングリッシュ……………—

EL210U トラベル・イングリッシュA……………—

EL220U トラベル・イングリッシュB……………—

EL230U ビジネス・イングリッシュA……………—

EL240U ビジネス・イングリッシュB……………—

EL310U ムービー・イングリッシュA……………171

EL320U ムービー・イングリッシュB……………172

EE210U 理科……………—

EE200U 社会……………—

EE215U 家庭……………—

EE305U 国語科教育法（書写を含む）……………173

EE310U 算数科教育法……………—

EE315U 理科教育法……………—

EE300U 社会科教育法……………—

EE320U 生活科教育法……………—

EE325U 図画工作教育法……………—

EE330U 音楽科教育法……………—

EE335U 家庭科教育法……………—

EE340U 体育科教育法……………174

EE237U 教育課程編成論（小・中）……………—

EE227U 道德教育指導論（小・中）……………—

EE232U 特別活動指導論（小・中）……………—

EE242U 生徒・進路指導論（小・中）……………175

EE220U 小学校英語科教育法Ⅰ……………176

EE345U 小学校英語科教育法Ⅱ……………177

EE362U 教育相談（小・中）……………178

EC100U 日本国憲法……………—

EC200U 国語……………—

EC205U 算数……………—

EC210U 生活……………—

EC215U 図画工作……………—

EC220U 音楽……………—

EC225U 体育……………179

EC230U 教育社会学……………180

EC237U 教育方法論（幼・小・中）……………181

EC305U 教育実践研究A……………182

EC090U 器楽入門……………—

EC110U 器楽Ⅰ……………—

EC245U 器楽Ⅱ……………—

EC250U 保育課程論……………—

EC255U 保育内容総論……………—

EC260U 保育内容・環境Ⅰ……………—

EC320U 保育内容・環境Ⅱ……………183

EC265U 保育内容・健康Ⅰ……………—

EC325U 保育内容・健康Ⅱ……………184

EC270U 保育内容・言葉Ⅰ……………—

EC330U 保育内容・言葉Ⅱ……………185

EC275U 保育内容・人間関係Ⅰ……………—

EC335U 保育内容・人間関係Ⅱ……………186

EC280U 保育内容・表現Ⅰ……………—

EC340U 保育内容・表現Ⅱ……………187

EN150U 保育原理……………—

EN250U 児童家庭福祉論Ⅰ……………—

EN300U	児童家庭福祉論Ⅱ	188
EN155U	社会福祉	—
EN305U	相談援助技術	189
EN255U	社会的養護	—
EN260U	社会的養護内容	—
EN265U	子どもの保健ⅠA	—
EN270U	子どもの保健ⅠB	—
EN310U	子どもの保健Ⅱ	190
EN315U	子どもの食と栄養	191
EN320U	家庭支援論	192
EN275U	乳児保育Ⅰ	193
EN325U	乳児保育Ⅱ	194
EN280U	障がい児保育	—
EN160U	音楽表現Ⅰ	—
EN165U	音楽表現Ⅱ	—
EN290U	身体表現	195
EN285U	児童文化	—
ED200U	異文化間コミュニケーション論	—
ED205U	児童文学	—
ED210U	絵本論	196
ED215U	郷土の文学を楽しむ	—
ED100U	心理学概論A	—
ED105U	心理学概論B	—
ED220U	心理統計学Ⅰ	—
ED240U	心理統計学Ⅱ	197
ED225U	心理学研究法A	—
ED300U	心理学研究法B	198
ED245U	心理検査法	—
ED230U	心理学実験実習Ⅰ	—
ED250U	心理学実験実習Ⅱ	—
ED235U	人間関係論	199
ED305U	社会心理学A	200
ED310U	社会心理学B	201
ED315U	認知心理学	202
ED320U	感情心理学	203
ED255U	人格心理学	—
ED260U	臨床心理学	—
ED325U	心理療法	204
ED330U	心理面接技法	205
ED335U	発達臨床心理学	206

〔資格科目〕

ET200U	幼稚園教育実習指導Ⅰ	—
ET205U	幼稚園教育実習Ⅰ	—
ET300U	幼稚園教育実習指導Ⅱ	207
ET305U	幼稚園教育実習Ⅱ	208
ET210U	小学校教育実習指導Ⅰ	—
ET215U	小学校教育実習Ⅰ	—

ET310U	小学校教育実習指導Ⅱ	209
ET315U	小学校教育実習Ⅱ	210
ET360U	中学校教育実習指導	211
ET365U	中学校教育実習Ⅰ	212
ET370U	中学校教育実習Ⅱ	213
ET220U	保育実習指導Ⅰ（施設）	—
ET225U	保育実習Ⅰ（施設）	—
ET230U	保育実習指導Ⅰ（保育所）	214
ET235U	保育実習Ⅰ（保育所）	215
ET320U	保育実習指導Ⅱ	216
ET325U	保育実習Ⅱ（保育所）	217
ET330U	保育実習指導Ⅲ	218
ET335U	保育実習Ⅲ（施設）	219

〔2019年度開講せず〕

EK320U	教育学文献講読A3	—
EK335U	教育学文献講読B3	—
EC240U	子どもと法	—

幼児児童教育学科（4年次）

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	—
EK110U	基礎ゼミⅡ	—
EK200U	プロゼミA	—
EK210U	プロゼミB	—
EK300U	専門ゼミⅠ	—
EK305U	専門ゼミⅡ	223～224
EK360U	卒業研究	225～226
EK120U	地域社会と子ども	—
EK130U	教育学概論	—
EK140U	教職論	—
EK150U	発達支援論	—
EK220U	発達心理学	—
EK230U	教育心理学	—
EK250U	教育史	—
EK350U	キリスト教と教育	227
EK240U	初歩文献講読	—
EK310U	教育学文献講読A1	—
EK315U	教育学文献講読A2	—
EK320U	教育学文献講読A3	—
EK325U	教育学文献講読B1	—
EK330U	教育学文献講読B2	—
EK335U	教育学文献講読B3	—

〔学科専門科目〕

EE210U	理科	—
EE200U	社会	—

ET210U	小学校教育実習指導Ⅰ	—
ET215U	小学校教育実習Ⅰ	—
ET310U	小学校教育実習指導Ⅱ	—
ET315U	小学校教育実習Ⅱ	—
ET220U	保育実習指導Ⅰ（施設）	—
ET225U	保育実習Ⅰ（施設）	—
ET230U	保育実習指導Ⅰ（保育所）	—
ET235U	保育実習Ⅰ（保育所）	—
ET320U	保育実習指導Ⅱ	—
ET325U	保育実習Ⅱ（保育所）	—
ET330U	保育実習指導Ⅲ	—
ET335U	保育実習Ⅲ（施設）	—
ET340U	介護等体験	234

〔2019年度開講せず〕

EK260U	比較教育学	—
EK340U	教育学理論研究	—
EC310U	教育実践研究B	—

社会学科（1～2年次）

〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミⅠ	237
SK105U	基礎ゼミⅡ	238
SK200U	プロゼミA	239
SK205U	プロゼミB	240
SK110U	社会学リレー講義	241
SK115U	社会学概論A	242
SK120U	社会学概論B	243
SK125U	社会調査論	244
SK130U	社会調査法	245
SK135U	統計データの読み方	246
SK210U	質的研究法	247

〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	248
SO201U	心理学統計法	249
SO205U	社会学理論	250
SO210U	家族社会学	251
SO215U	都市社会学	252
SO220U	環境社会学	253
SO105U	文化人類学	254
SO110U	現代社会と福祉Ⅰ	255
SO115U	現代社会と福祉Ⅱ	256
SO120U	心理学概論A	257
SO125U	心理学概論B	258
SC200U	宗教と社会	259
SC205U	若者文化論	260

SC215U	多文化共生論	261
SC310U	犯罪社会学	262
SC315U	社会病理学	263
SL315U	政治学	264
SL320U	地域社会政策論	265
SL105U	経営学入門	266
SL200U	社会貢献論	267
SL235U	環境と開発	268
SL205U	高齢者福祉論	269
SL210U	障害者福祉論	270
SL215U	障害者スポーツ	271
SL100U	図書館概論	272
SL220U	情報技術論	273
SP100U	臨床心理学概論	274
SP201U	心理学実験Ⅰ	275
SP206U	心理学実験Ⅱ	276
SP211U	心理学研究法	277
SP216U	心理的アセスメント	278
SP225U	発達心理学	279
SP230U	教育心理学	280
SP236U	人格心理学（感情・人格心理学A）	281

〔資格科目〕

SW200U	相談援助の基盤と専門職	282
SW205U	相談援助の理論と方法Ⅰ	283
SW210U	相談援助の理論と方法Ⅱ	284
SW100U	地域福祉論	285
SW215U	社会保障論	286
SW105U	児童福祉論	287
SW220U	相談援助演習Ⅰ	288
SW225U	相談援助演習Ⅱ	289
SB100U	生涯学習概論	290
SB200U	図書館サービス概論	291
SB205U	情報サービス論	292
SB210U	情報資源組織論	293
ST100U	公認心理師の職責	294
ST200U	学習・言語心理学	295
ST205U	神経・生理心理学	296
ST210U	人体の構造と機能及び疾病	297

〔2019年度開講せず科目〕

SC210U	社会と言語	—
SC220U	グローバル社会論	—
SL225U	経済学Ⅰ	—
SL230U	経済学Ⅱ	—

社会学科 (3年次)

〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミ I	—
SK105U	基礎ゼミ II	—
SK200U	プロゼミ A	—
SK205U	プロゼミ B	—
SK300U	専門ゼミ I	301～302
SK110U	社会学リレー講義	—
SK115U	社会学概論 A	—
SK120U	社会学概論 B	—
SK125U	社会調査論	—
SK130U	社会調査法	—
SK135U	統計データの読み方	—
SK210U	質的研究法	—

〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	—
SO200U	心理統計学 I	—
SO205U	社会学理論	—
SO210U	家族社会学	—
SO215U	都市社会学	—
SO220U	環境社会学	—
SO105U	文化人類学	—
SO110U	現代社会と福祉 I	—
SO115U	現代社会と福祉 II	—
SO120U	心理学概論 A	—
SO125U	心理学概論 B	—
SO225U	心理統計学 II	303
SO300U	応用心理社会統計法	304
SO305U	社会調査実習	305～306
SC200U	宗教と社会	—
SC300U	石川の伝統文化と産業	307
SC305U	教育社会学	308
SC205U	若者文化論	—
SC210U	社会と言語	—
SC215U	多文化共生論	—
SC220U	グローバル社会論	—
SC310U	犯罪社会学	—
SC315U	社会病理学	—
SC320U	メディア文化論	309
SL300U	地域行政入門	310
SL225U	経済学 I	—
SL230U	経済学 II	—
SL340U	経済学 III	311
SL345U	経済学 IV	312
SL310U	法律学	313
SL315U	政治学	—

SL320U	地域社会政策論	—
SL105U	経営学入門	—
SL200U	社会貢献論	—
SL325U	社会貢献実習	314
SL235U	環境と開発	—
SL330U	地域環境マネジメント論	315
SL205U	高齢者福祉論	—
SL210U	障害者福祉論	—
SL215U	障害者スポーツ	—
SL100U	図書館概論	—
SL220U	情報技術論	—
SL335U	マーケティング論	316
SP200U	心理学実験実習 I	—
SP205U	心理学実験実習 II	—
SP210U	心理学研究法 A	—
SP300U	心理学研究法 B	317
SP215U	心理検査法	—
SP220U	人間関係論	318
SP305U	社会心理学 A	319
SP310U	社会心理学 B	320
SP225U	発達心理学	—
SP230U	教育心理学	—
SP315U	認知心理学	321
SP320U	感情心理学	322
SP235U	人格心理学	—
SP240U	臨床心理学	—
SP325U	心理療法	323
SP330U	心理面接技法	324
SP335U	発達臨床心理学	325

〔資格科目〕

SW200U	相談援助の基盤と専門職	—
SW205U	相談援助の理論と方法 I	—
SW210U	相談援助の理論と方法 II	—
SW300U	相談援助の理論と方法 III	326
SW305U	相談援助の理論と方法 IV	327
SW100U	地域福祉論	—
SW215U	社会保障論	—
SW105U	児童福祉論	—
SW325U	保健医療サービス	328
SW330U	就労支援サービス	329
SW220U	相談援助演習 I	—
SW225U	相談援助演習 II	—
SW335U	相談援助演習 III	330
SW340U	相談援助演習 IV	331
SW350U	相談援助実習指導 I	332
SW365U	相談援助実習 I	333
SS300U	精神保健学	334

SS305U	スクールソーシャルワーク論	335
SB100U	生涯学習概論	—
SB200U	図書館サービス概論	—
SB205U	情報サービス論	—
SB300U	児童サービス論	336
SB210U	情報資源組織論	—
SB305U	図書館制度・経営論	337
SB310U	情報サービス演習Ⅰ	338
SB315U	情報サービス演習Ⅱ	339
SB320U	情報資源組織演習Ⅰ	340
SB325U	情報資源組織演習Ⅱ	341
SB330U	図書館情報資源概論	342
SB335U	図書・図書館史	343

社会学科 (4年次)

〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミⅠ	—
SK105U	基礎ゼミⅡ	—
SK200U	プロゼミA	—
SK205U	プロゼミB	—
SK300U	専門ゼミⅠ	—
SK305U	専門ゼミⅡ	347～348
SK310U	卒業研究	349～350
SK110U	社会学リレー講義	—
SK115U	社会学概論A	—
SK120U	社会学概論B	—
SK125U	社会調査論	—
SK130U	社会調査法	—
SK135U	統計データの読み方	—
SK210U	質的研究法	—

〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	—
SO200U	心理統計学Ⅰ	—
SO205U	社会学理論	—
SO210U	家族社会学	—
SO215U	都市社会学	—
SO220U	環境社会学	—
SO105U	文化人類学	—
SO110U	現代社会と福祉Ⅰ	—
SO115U	現代社会と福祉Ⅱ	—
SO120U	心理学概論A	—
SO125U	心理学概論B	—
SO225U	心理統計学Ⅱ	—
SO300U	応用心理社会統計法	—
SO305U	社会調査実習	—
SC200U	宗教と社会	—

SC300U	石川の伝統文化と産業	—
SC305U	教育社会学	—
SC205U	若者文化論	—
SC210U	社会と言語	—
SC215U	多文化共生論	—
SC220U	グローバル社会論	—
SC310U	犯罪社会学	—
SC315U	社会病理学	—
SC320U	メディア文化論	—
SL300U	地域行政入門	—
SL310U	法律学	—
SL315U	政治学	—
SL320U	地域社会政策論	—
SL325U	社会貢献論	—
SL325U	社会貢献実習	—
SL330U	地域環境マネジメント論	—
SL205U	高齢者福祉論	—
SL210U	障害者福祉論	—
SL215U	障害者スポーツ	—
SL100U	図書館概論	—
SL220U	情報技術論	—
SL335U	マーケティング論	—
SP200U	心理学実験実習Ⅰ	—
SP205U	心理学実験実習Ⅱ	—
SP210U	心理学研究法A	—

〔資格科目〕

SP215U	心理検査法	—
SP220U	人間関係論	—
SP305U	社会心理学A	—
SP310U	社会心理学B	—
SP225U	発達心理学	—
SP230U	教育心理学	—
SP315U	認知心理学	—
SP320U	感情心理学	—
SP235U	人格心理学	—
SP240U	臨床心理学	—
SP325U	心理療法	—
SP330U	心理面接技法	—
SP335U	発達臨床心理学	—

〔資格科目〕

SW200U	相談援助の基盤と専門職	—
SW205U	相談援助の理論と方法Ⅰ	—
SW210U	相談援助の理論と方法Ⅱ	—
SW300U	相談援助の理論と方法Ⅲ	—
SW305U	相談援助の理論と方法Ⅳ	—
SW310U	福祉行財政と福祉計画	351

SW315U	福祉サービスの組織と経営	352
SW100U	地域福祉論	—
SW215U	社会保障論	—
SW320U	公的扶助論	353
SW105U	児童福祉論	—
SW325U	保健医療サービス	—
SW330U	就労支援サービス	—
SW220U	相談援助演習Ⅰ	—
SW225U	相談援助演習Ⅱ	—
SW335U	相談援助演習Ⅲ	—
SW340U	相談援助演習Ⅳ	—
SW345U	相談援助演習Ⅴ	354
SW350U	相談援助実習指導Ⅰ	—
SW355U	相談援助実習指導Ⅱ	355
SW360U	相談援助実習指導Ⅲ	356
SW365U	相談援助実習Ⅰ	—
SW370U	相談援助実習Ⅱ	357
SB100U	生涯学習概論	—
SB200U	図書館サービス概論	—
SB205U	情報サービス論	—
SB300U	児童サービス論	—
SB210U	情報資源組織論	—
SB305U	図書館制度・経営論	—
SB310U	情報サービス演習Ⅰ	—
SB315U	情報サービス演習Ⅱ	—
SB320U	情報資源組織演習Ⅰ	—
SB325U	情報資源組織演習Ⅱ	—
SB330U	図書館情報資源概論	—
SB335U	図書・図書館史	—
SB340U	図書館実習	358

**全学共通科目
(1～3年次)**

授業科目名	HG110U 初教概論		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	橋本 史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学が入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。</p> <p>本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、おもにマルコによる福音書に基づいて、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書を聴き取るためのガイダンスで本講義を終る。</p>			<p>北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって</p> <p>聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。</p> <p>聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。</p> <p>世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に付ける。</p> <p>他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。</p>				
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	自分を見つめる。担当者の紹介と礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方を知る。信じることで生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ。信じるこの意味を知る。						
2	諸宗教のなかでのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ。日本と世界の宗教理解の相違を知る。新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の連続性と相違を知る。新約の校正と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する。						
3	時間論的視点から旧約と新約の違いを知る。宗派・教派による聖書の相違について基本知識を持つ。イエスの生涯 マルコ福音書1:9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ。キリストの両性の意味を理解する。						
4	イエスの生涯 マルコ5:1-20から、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ。真の自己の存在を知る イエスの生涯 マルコ8:27-9:1から、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ。真の自己となることの意味を知る						
5	イエスの生涯 マルコ10:1-12から、聖書の結婚観、夫婦間、家族観を学ぶ。聖書の結婚観を知り、自己の結婚観・家族観を養う。						
6	イエスの生涯 存在の意味 マルコ10:35-45から、人間の存在の意味について学ぶ。自己の生の意味を他者との関係で捉える。 イエスの生涯 マルコ12:28-34から、神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何か、学ぶ。愛の構造を理解する。						
7	小テスト およびイエスの生涯 マルコ14:1-11から、受難の社会的構造を学ぶ。イエスの死の経緯と、救済的な意味を理解する。 イエスの生涯 マルコ14:22-26から、最後の晩餐が示すイエスの死の贖罪の意味を知る。イエスの死の意味を知る。						
8	小テスト および新約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。新約の中心的メッセージを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度・理解度	20	毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。 授業内容を理解している。 それを自分の言葉で掘り込んで表現している。 疑問や質問など、問題意識を持っている。		新約聖書の目次を覚える小テスト	20	新約27書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。	
新約等前期授業の内容について小テスト	30	新約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う。		レポート	30	教会の主日(日曜)礼拝への参加態度 そこでの説教内容のまとめ それに対する自己の意見	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕</p> <p>さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める。〔60分〕</p> <p>北陸学院セミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕</p> <p>日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。</p>			毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小テストやレポートについても、必要なコメントをする。				
受講生に望むこと	受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取ること。 聖書を必ず持参すること。 遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。		教科書・テキスト		『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する。『讃美歌21』		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項		原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行うので、1回欠席すると2コマの欠席となる。 毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 レポートは必ず指定された期限内に提出すること。		

授業科目名	HG130U 初任教人間論			開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
キリスト教概論 及び 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書の理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは 学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、 学生が聖書の使信との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。				北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようにする。聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。			
教授方法	レジュメに基づく講義、DVDや歌の鑑賞、グループワーク、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：担当教員紹介、コースの内容、目標、予定、課題、成績評価方法等の説明：学生は本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。；「運命ではなく摂理 ヨセフ物語に見出す神中心の世界観」（創世記45:1-8）；ヨセフ物語を通して運命論ではなく、神の摂理に導かれた人生観を発見する。						
2	「建学の精神」と北陸学院の歩み：北陸学院の「建学の精神」について理解を深め、学院の形成にあたり重要な役割を果たした先達たちと出会う。；「本当の友とは」（ヨハネ15:11-17）：映画「ヘイマックス」も参照しつつ、主イエスが私たちの本当の友となってくたさることを発見する。						
3	「礼拝とは」・「主の祈り」・「讃美歌フェスティバル」（ルカ11:1-13）：「礼拝」が神と人間との対話・交わりであることを発見する。「祈る」ことを知り、主イエス自らも教えてくださった「主の祈り」を理解し、祈り始める。また讃美歌にはその背後に作詞・作曲者たちの信仰のストーリーがあることを発見し、歌詞を味わい理解した上で、心から賛美できるようにする。						
4	小テスト：「主の祈り」：説教と供え物（マルコ12:41-44）：礼拝で語られるメッセージの聴き方、献金の心構えについて理解し実践できるようになる。；「労働と余暇」（ローマ12:1-8）：働くことにはどんな意味があるのかを問い、使命探求型人生を発見する。また余暇はなぜ必要で本来どんな意味を持っているのかを見出す。						
5	「十戒」：神が授けられた自由の道しるべとしての十戒を知り、自らの人生の道しるべとして理解できるようになる。；「愛国心と国際理解」（イザヤ2:1-5）：むき出しの愛国心では国家主義・民族主義は克服できない。どうすれば世界の中で日本は他国と健やかな道を歩めるかを考え、偏狭なナショナリズムを超える神の国の倫理を発見する。						
6	小テスト「十戒」；「聖書」という書物（テモテ23:14-17）；聖書（旧約39巻、新約27巻）の成り立ちやジャンルを学び、創造から完成に至る聖書のグランドストーリーを発見する。；環境と飢餓（申命記24:19-22）：世界の飢餓問題の現状を知り、聖書から語りかけられるメッセージに照らして、たとえどんなに小さなことでも、自分にできることを考えられるようになる。						
7	「人格の交わりとしての性」（エペソ5:21-33）：性情報が氾濫する現代社会の中で本当に幸せな人格の交わりとしての性はどこに見出せるのかを考察し、真に相手を人格として受け止め、尊敬をもって互いに接することができるようになる。恋愛や結婚についても聖書の御言葉の光の下で理解を深める。						
8	教会と教会暦（コリントー12:12-26）；「教会」とはいったい何なのか理解し、教会の暦について大事なものを理解できるようになる。；「生と死」（コリントー15:50-58）：なぜ人の命は尊く、人を殺めてはならないのか。命を神からの授かりものとして受け止め直すことができるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	10	授業への出席と積極的な参加の度合い、「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめ、感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。			小テスト	20	学期中2回（「主の祈り」「十戒」）、重要語句を書けるようになる小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。			学期末試験	50	講義内容の理解度を測る期末試験で評価
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回指定されたテキストの該当箇所をあらかじめ読んで授業に出席することを求める。[30分] 「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、大学チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] 日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] 少なくとも学期に1度、地域諸教会における主日礼拝への出席を求める。[70分]				毎回の授業で、前回提出の振り返りシートについて必要に応じてコメントする。教会出席レポートについてはコメントをつけて返却する。学期末試験については、次学期冒頭に全体講評をプリントで配布する。			
受講生に望むこと	積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとしていくこと。聖書・テキスト・プリント用ファイルを必ず持参すること。遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。			教科書・テキスト	『聖書』（新共同訳）（日本聖書協会） 『ここが知りたいキリスト教 現代人のための道案内』、関川泰寛、教文館、2010年。ISBN: 978-4764273153 上記2冊を毎回授業に持参する。		
指定図書/参考書等	指定図書 なし 参考図書 *福音のよるこびりをはじめての人のための『キリスト教神学』ガイド。新装増補改訂版、アリストター・E・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0 *『キリスト教の出会い』をはじめ知るキリスト教。本田宗一、日本キリスト教団出版局、2002年。ISBN: 978-4818404748 *『聖書は何を語るか』。大島か、日本キリスト教団出版局、1998年。ISBN: 978-4818403161 *現代に語りかけるキリスト教。森本あゆみ、日本キリスト教団出版局、1999年。ISBN: 978-4818403307 *聖書入門 主を畏れることは知恵の初め。落合達仁・小室尚子、日本キリスト教団出版局、2014年。ISBN: 978-4818408814			その他・特記事項	・原則として授業はキリスト教の基本事項を学ぶ前半（45分）と、キリスト教倫理を扱う後半（45分）から成る。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。		

授業科目名	HG140U 初任教人間論			開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
キリスト教概論 及び 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書の理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは 学生が礼拝の作法を身に付け、礼拝者として整えられること、 学生が聖書の使信との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。				北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 。礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を会衆と共に暗唱できるようになり、前期と合わせて三聖文を身に付けて、豊かな礼拝体験を持てるようになる。 。聖書のストーリー、歴史を生きた信仰者とのつながりの中で自分の人生を理解し、聖書の「大いなる物語」の一部として自分もこの人生を生きていることを理解できるようになる。			
教授方法	レジュメに基づく講義、DVDや歌の鑑賞、グループワーク、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：担当教員紹介、コースの内容、目標、予定、教科書・参考図書、課題、成績評価方法等の説明：学生は本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。；使徒信条；自分史を描いて、自分の人生の過去・現在・未来を思い描けるようになる。						
2	古代のキリスト教：「神の冒険に乗り出す」：アブラハム（創世記12:1-8）；ザビエル 自分の人生を神が導く冒険として受け止められるようになる。						
3	中世のキリスト教；小テスト：「使徒信条」；「神に呼び出されて」；モーセ（出エジプト3:1-10）；M・L・キング牧師 自分の人生を神から与えられたミッション（使命）に生きる旅として受け止められるようになる。；期末レポートプロジェクト「テーマ・文献表」提出						
4	「巨人に立ち向かえ！」；ダビデ（サムエル記上17:41-50）；映画“Facing the Giant” 人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる。						
5	映画“Facing the Giant” ；映画鑑賞振り返り 人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる。期末レポートプロジェクト「アウトライン」提出						
6	近・現代のキリスト教；「正義と平和は口づけし」：エレミヤ（エレミヤ20:7-13）；ボンヘッファー 神の正義と平和を求めて祈り働く者としての構えができる。						
7	日本キリスト教史；「罪教された者として」；ペトロ（ヨハネ21:15-19）；アウグスティヌス 罪教された者の自由で謙虚な生き方を理解できるようになる。期末レポートプロジェクト「初稿提出」						
8	小テスト：「キリスト教史」；「ただ神の栄光のために」；パウロ；ルター 「回心」を経た人生が「欲望追求型人生」から「使命探求型人生」へと変貌することを理解できるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	20	授業への出席と積極的な参加の度合い、「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめ、感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度や行為は大きく減点。			小テスト	20	学期中2回（「使徒信条」「キリスト教史」）行う小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。			学期末レポート	40	聖書箇所を取り上げ、その御言葉を、自分が選んだ聖書の人物がどのように生きたか、自分が選んだキリスト教史の人物がどのように生きたか、それらに学びつつ自分はどうに人生を歩みたいかを 制限字数内
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回指定されたテキストをあらかじめ読んで授業に出席することを求める。[30分] 聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分] さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を求める。[70分] 日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。[15分]				毎回の授業で、前回提出の振り返りシートについて必要に応じてコメントする。教会出席レポートについてはコメントをつけて返却する。学期末レポートについては、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。 本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとしていくこと。 聖書・テキスト・プリント用ファイルを必ず持参すること。 遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。			教科書・テキスト	『聖書』（新共同訳）（日本聖書協会） 『キリスト教入門 歴史・人物・文学』、嶺重淑、日本キリスト教団出版局、2011年。ISBN: 78-4-8184-0770-1C0016 上記2冊を毎回授業に持参する。		
指定図書/参考書等	指定図書 なし 参考書 『神学よるこけい』はじめての人のための「キリスト教神学ガイド」新築増補改訂版、アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト教新聞社、2017年。ISBN: 978-4739572110 『大いなる物語の始まり』、芳賀力、教文館、2001年。ISBN: 978-476426547 『アブラハムの生涯』、谷口辰雄、日本キリスト教団出版局、2004年。ISBN: 978-4818450172 『福音』、アウグスティヌス、山田豊樹訳、中公文庫、2014年。ISBN: 978-4122959283 『福音の歴史』、キングズバリー、クレイブーン・カウマン、ヒュー・ホロラン編（橋本有訳）、日本キリスト教団出版局、2007年。ISBN: 978-4818406520 『邦国を生きる』、ボンヘッファー、新教出版社、2014年。ISBN: 978-4400521266 『神の愛でまで』、ルンペンシスコ、ザビエルの生涯、中野実和訳、ドナルド・J・ブッシュ、2004年。ISBN: 978-4886263742 『マリアン・リッパ』、ことばに生きる大先輩、徳田隆弘、岩波書店、2012年。ISBN: 978-4006313242			その他・特記事項	・授業は聖書の人物像に迫る前半（45分）と、歴史を生きた信仰者を扱う後半（45分）から成る。その上で、自分はどういう人生を生きたいか考えてほしい。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。		

授業科目名	GE100U 総合教養A		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	幸 聖二郎・大井 佳子・中島 賢介・高村 真希・谷 昌代 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義において、幼・小・中それぞれの現場の様子やそれぞれの研究領域の視点から、5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1～3回 「人間とは何か」「子どもとはどういった存在か」「なぜ教育が必要か」等について、「人格の完成」という視点から考えることができる。(幸) 4～6回 乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても社会的問題に興味・関心が持てるようになる。(高村) 7～9回 幼児期の学び方を知り、幼児の遊びに興味をもつ。(大井) 10～12回 人間の育ちの中で特に心の育ち、人間関係に注目する。現代に生きる子どもから大人までの様々な成長段階における心のあり方、課題を知り、それを感じ取ること、寄り添うこと、援助することの大切さを学ぶ。人と共に生きることを意味を考えられるようになる。(谷) 13～15回 現代社会が抱える子どもに関する諸問題について、児童文学の視点から理解することができる。(中島)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義 評価の方法 「人間の魅力」について考える。					幸
2	人間のもつ「豊かな人間性と創造性」について考える。					幸
3	「人格の完成」について考える。					幸
4	赤ちゃんの不思議!少子化と言われる今だから考えたい：赤ちゃんの動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村
5	乳幼児と絵本：人は触れ合いを通して大きくなる。絵本の読み聞かせが持つ効果について理解する。					高村
6	乳幼児の内なる言葉：人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉に触れることを通して、自身の内なる言葉を感じてみよう!					高村
7	幼児は遊んで賢くなる：遊びで起こっているモノとの対話					大井
8	幼児期には言葉ではない方法で他者と対話している：他者を見ることのできる環境が必要					大井
9	幼児期の学び方：場との対話、そして自分との対話へ					大井
10	子どもを「善く」見ること：一人ひとりのちがいを受け止めることから考える。					谷
11	子どもも大人も輝くとき：森には宝物がいっぱい!!自然活動体験から子ども達は何を学んでいるのか考え、子ども同士の育ち合う姿を知る。					谷
12	現代の子育て事情のいろんなこと：保護者の抱える「不安」を知り、心の援助を考える。					谷
13	子どもの文学と哲学に向き合う 児童文学の中で哲学について取り上げた作品を紹介・解説し、生き方について各自理解を深める。					中島
14	子どもの文学と平和に向き合う児童文学の中で戦争について取り上げた作品を紹介・解説し、平和について各自理解を深める。					中島
15	子どもの文学と災害に向き合う児童文学の中で災害について取り上げた作品を紹介・解説し、災害に津々いて各自理解を深める。					中島
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている。質的量的に適切である。指定期日までの提出。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				各教員ごとに対応する。		
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE110U 総合教養A		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	幸 聖二郎・伊藤 雄二・大井 佳子・高村 真希・谷 昌代 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進化する現代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義は幼、保、小、中それぞれの現場の様子やそれぞれの研究領域の視点から5人の教員がリレー形式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1～3回「人間とは何か」「子どもとはどういった存在か」「なぜ教育が必要か」等について、「人格の完成」という視点から考えることができる。(幸) 4～6回 子どもの言語習得の過程を学び、英語や日本語の具体例から、言葉の持つ普遍性を意識できるようになる。(伊藤) 7～9回 乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても社会的関心・関心が持てるようになる。(高村) 10～12回 乳幼児期の多様な「対話的な学び」をイメージすることができる。(大井) 13～15回 人間の育ちの中で特に心の育ち、人間関係に注目する。現代に生きる子どもから大人までの様々な成長段階における心のあり方、課題を知り、それらを感じ取ること、寄り添うこと、援助することの大切さを学ぶ。人と共に生きることを意味を考えられるようになる。(谷)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義 評価の方法 「人間の魅力」について考える。					幸
2	人間のもつ「豊かな人間性と創造性」について考える。					幸
3	「人格の完成」について考える。					幸
4	子どもは言葉をどのように獲得していくのだろうか。生後数年間の言語習得の過程を学ぶ。					伊藤
5	子どもは音声をどのように獲得していくのだろうか。初語(first word)・喃語(babbling)・母親ことば(motherese)などの前言語期について学ぶ					伊藤
6	言葉(英語の単語)を読む際のつづり字と発音の関係(phonics)を学ぶ					伊藤
7	赤ちゃんの不思議! 少子化と言われる今だから考えたい: 赤ちゃんの動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村
8	乳幼児と絵本: 人は触れ合いを通して大きくなる。絵本の読み聞かせが持つ効果について理解する。					高村
9	乳幼児の内なる言葉: 人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉に触れることを通して、心身の内なる言葉を感じてみよう!					高村
10	幼児期の学び方: 遊びで起こっているモノとの対話					大井
11	幼児期には、言葉ではない方法で他者と対話					大井
12	場との対話 自分自身との対話					大井
13	子どもを「善く」見ること: 一人ひとりのちがいを受け止めることから考える。					谷
14	子どもも大人も輝くとき: 森には宝物がいっぱい!! 自然活動体験から子ども達は何を学んでいるのか考え、子ども同士の育ち合う姿を知る。					谷
15	現代の子育て事情のいろんなこと: 保護者の抱える「不安」を知り、心の支援を考える。					谷
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている。質的量的に適切である。指定期日までの提出				
授業外における学習(事前・事後学習等)						
今日、子どもに関する課題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で議論されている。普段からこれらの議論に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
				各担当者ごとに対応する。		
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外はそれぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのよう に学び、育つかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	テキストを使用せず、配付資料や映像等を用いた講義となる。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE120U 総合教養B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	小林 正史・田中 純一・加藤 仁 (代表教員 小林 正史)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が及び出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧 復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					加藤
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					加藤
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					加藤
14	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					加藤
15	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE130U 総合教養B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	小林 正史・田中 純一・加藤 仁 (代表教員 小林 正史)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が及び出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧 復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					加藤
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					加藤
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					加藤
14	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					加藤
15	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE140U 総合教養C		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・南 雅則・田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養(食生活)が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。 栄養素と健康の関連を理解する。 正しい食生活のあり方を理解する。 食と心理の関係を理解する。 食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	6名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を見つける。					田中
3	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井
4	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井
5	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井
6	食品の三次機能について学ぶ -機能成分-					坂井
7	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田
8	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田
9	献立作成の基本を学ぶ。(食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む)					田中
10	ライフステージを通して、健康な食事を考える。					田中
11	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田
12	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田
13	食と心理：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					南
14	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					南
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。					田中
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている 質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習(事前・事後学習等)						
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない				授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
受講生に望むこと	なし/なし		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE150U 総合教養C		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・南 雅則・西 正人・依 万里子（代表教員 新澤 祥恵）					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。 栄養素と健康の関連を理解する。 正しい食生活のあり方を理解する。 食と心理の関係を理解する。 食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	ライフステージに応じた食育（胎児期・乳児期）：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					依
3	ライフステージに応じた食育（成長期）：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					依
4	ライフステージに応じた食育（成人期）：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					依
5	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					依
6	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西
7	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西
8	食品と薬剤3：食品中の特定成分（カフェイン、色素、食品群別）が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西
9	アレルギーと経口免疫寛容4：経口免疫寛容の成り立ち。アレルギーや経口免疫寛容に影響する機能性食品や腸内細菌の働きについて学ぶ。					西
10	食と心理：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					南
11	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					南
12	食と流通：世界の食料資源はどうなっているか理解し、日本の食料需給の問題を考える。					新澤
13	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える					新澤
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する					新澤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている 質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習（事前・事後学習等）						
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない				授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
受講生に望むこと	なし/なし		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE160U 総合教養D			開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>コミュニケーションとは、情報(メッセージ)の授受により相互に影響しあう過程(プロセス)である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には前半は大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>また、後半はホスピタリティ産業からサービスとホスピタリティの違いや、顧客満足・従業員満足につながり、日々の生活にも欠かせない現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>				<p>プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>協調性(チームワーク力)、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>サービスとホスピタリティの違いを説明できる。</p> <p>ホスピタリティマインドを理解する。</p>			
教授方法	グループワーク形式で行う(1回~8回)。講義形式で行う(9~15回)						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。						富岡・葦名
2	グループワークの知識と実践形式での学びを行う。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。						富岡
3	プレゼンテーションの基本：コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて実例を通して学習する。						富岡
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。						富岡
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解する。						富岡
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。						富岡
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解を深める。						富岡
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。						富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。						葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ ブライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。						葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。						葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する						葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。						葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。						葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。						葦名
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。			毎回の成果の家訓	30	リフレクションシートによる達成度の確認。
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。[総計60時間相当分]				授業内で随時行う。			
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし/適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE170U 総合教養D			開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>コミュニケーションとは、情報(メッセージ)の授受により相互に影響しあう過程(プロセス)である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には前半は大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>また、後半はホスピタリティ産業からサービスとホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足につながり、日々の生活にも欠かせない現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>				<p>プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>協調性(チームワーク力)、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>サービスとホスピタリティの違いを説明できる。</p> <p>ホスピタリティマインドを理解する。</p>			
教授方法	グループワーク形式で行う(1回~8回)。講義形式で行う(9~15回)						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。						富岡・葦名
2	グループワークの知識と実践形式での学びを行う。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。						富岡
3	プレゼンテーションの基本：コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて実例を通して学習する。						富岡
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。						富岡
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解する。						富岡
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。						富岡
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解を深める。						富岡
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。						富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。						葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ プライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。						葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。						葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する						葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。						葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。						葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。						葦名
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。			毎回の成果の家訓	30	リフレクションシートによる達成度の確認。
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。[総計60時間相当分]				授業内で随時行う。			
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし/適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LJ090U 日本語基礎			開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要なとされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。				辞書に親しみ、使いこなすことができる 決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる 表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす 口頭表現に慣れ親しむ			
教授方法	演習と講義。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどのようなものかを理解する。「自己紹介文」を書く。						
2	前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）						
3	表現力を豊かにする語彙（対義語） 辞書を使い慣れる（「対義語」）						
4	文章表現の基礎（「構成」を考える） 表現力を豊かにする語彙（同義語） 辞書を使い慣れる（「同義語」）						
5	文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える） 表現力を豊かにする語彙（四字熟語） 辞書を使い慣れる（「四字熟語」）						
6	文章表現の実践（「エッセイ」を書く） 表現力を豊かにする語彙（三字熟語） 辞書を使い慣れる（「三字熟語」）						
7	口頭表現の実践（「詩」の朗読） 表現力を豊かにする語彙（故事成語） 辞書を使い慣れる（「故事成語」）						
8	口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読） 表現力を豊かにするために（仮名遣い） 辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して） 到達確認テスト						
9	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）						
10	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）						
11	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（教育漢字の確認）						
12	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を確実にするために（常用漢字の確認）						
13	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（表外漢字の確認）						
14	文章表現の実践（小論文）を書く） 表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）						
15	文章表現の実践（「小論文」を書く） 表現力を確実にするために（まとめ）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期テスト （16回目）	50	各回の講義内容・演習内容を理解しているか			到達確認テスト （8回目）	20	各回の講義内容・演習内容を理解しているか
各回の課題 提出	20	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現しているか			授業参加 態度	10	課題に取り組み、弱点を克服しているか
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと [40分]				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。 			
受講生に 望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。			教科書・ テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。		
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること		

授業科目名	LJ110U 日本語表現法		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實・竹下 正弘 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち学部の言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、大学における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。(聞き方、話し方、読み方、書き方) 敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 問題演習などを通して、大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。					
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法」を履修することができる。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の位置づけ、授業の進め方について理解する。グループ内で自己紹介する。 テキスト：この授業で何を学ぶかを知る。					全員
2	テキスト：話の聞き方について学ぶ、相手に理解してもらおうための自己紹介を行う。 テキスト：敬語の種類と使い分けについて理解する。					全員
3	テキスト：発声・発音の基本。 テキスト：敬語の使い分けを復習する、注意すべき敬語について理解する。					全員
4	テキスト：朗読について学ぶ。 テキスト：配慮を示す言葉について理解する。					全員
5	テキスト：品詞・活用の種類について理解する、ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉について理解する。					全員
6	テキスト：レポートの形を知り、アイディアを練る。					全員
7	テキスト：構想を練り、情報を調べる。 テキスト：文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文について理解する。					全員
8	テキスト：テーマを絞り込み、目標を規程する。 テキスト：接続語・指示語と文章について理解する。					全員
9	テキスト：文章を組み立てる。 テキスト：類義語・対義語について理解する。					全員
10	テキスト：組み立てを再検討する。 テキスト：動詞の自他・視点について理解する。					全員
11	テキスト：パラグラフを考える。 テキスト：文体、話し言葉、書き言葉について理解する。					全員
12	テキスト：本文を書きこんでいく。 テキスト：コロケーションについて理解する。					全員
13	テキスト：引用しながら書く。 テキスト：部首・音訓・熟語について理解する。					全員
14	テキスト：資料の作り方を学ぶ。 テキスト：仮名遣い・送り仮名について理解する。					全員
15	テキスト：総合問題に挑戦する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加状況	20	必要な準備をして参加している。 毎回の学習事項について予習復習をしている。 積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。 得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服している。 日本語検定3級以上の実力が付いている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] 苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書)に取り組む。[40分] 前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日~14日間程度]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 各自の学習成果を確認するため、日本語検定を受験すること。			教科書・テキスト	『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 『Practical 日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健編 おうふう 5刷 2011 ISBN: 978-4-273-03339-2 『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会CK7 東京書籍 2014 ISBN: 978-4-487-80364-4	
指定図書/参考書等	日本語検定委員会(東京書籍 2008)発行の以下のテキストより1冊を選んで問題を解く。 日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』ISBN 978-4487802906 日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN 978-4487802760 日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN 978-4487802784 日本語検定領域別問題集『文法』ISBN 978-4487802777 日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN 978-4487802971			その他・特記事項	『基礎学力テスト』で一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 日本語表現法 においてもテキストを継続して使用する。	

授業科目名	LJ120U 日本語表現法		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法 で学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに高度な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、レポート作成を通して形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			言葉で伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。定型文章表現(主としてレポート作成)に必要な知識やルールを理解して、適切に表現することができる。人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。グループで協力してディベートを行うことができる。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。					
履修条件	「日本語表現法」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：日本語表現法 で学ぶ文章表現、口頭表現について概要を説明する。					全員
2	テキスト：文章・表現・形式を点検する。 テキスト：プレゼンテーション・内容の構成について学ぶ。テキスト：重要語句を確認する。					全員
3	テキスト：発表を準備する。 テキスト：プレゼンテーションについて考える。テキスト：重要語句を確認する。					全員
4	テキスト：口頭発表をする。 テキスト：話し方の技術について学ぶ。テキスト：重要語句を確認する。					全員
5	テキスト：口頭発表をする。テキスト：重要語句を確認する。					全員
6	テキスト：学んだことを振り返る。テキスト：重要語句を確認する。					全員
7	テキスト：スピーチ原稿、手元資料(メモカード)を作成する。 テキスト：重要語句を確認する。					全員
8	テキスト：発表資料(レジュメなど)を作成する。 テキスト：重要語句を確認する。					全員
9	スピーチの実践(前半グループ)。					全員
10	スピーチの実践(後半グループ)。					全員
11	ディベートについて理解し、論題についてディスカッションを行う。					全員
12	テキスト：ディベートの技術(準備を行う)。					全員
13	テキスト：ディベートの実践(前半グループ)。					全員
14	テキスト：ディベートの実践(後半グループ)。					全員
15	後期の授業で学んだことを振り返り、グループで話し合う。自己の課題を取り上げ、ミニレポートを作成する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	必要な授業準備をして参加している。与えられた役割・課題を果たして、ディスカッションやディベートに参加している。毎回学習する事項について予習復習をしている。		課題レポート	40	形式・内容の両面において、学習内容が反映されている。計画通りにレポートが作成できている。大学生レベルの語彙力・表現となっている。
口頭表現発表態度	40	学習内容を理解して発表を行っている。ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。相手の意見をしっかりと聞き、積極的に発言している。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
日本語表現法 で課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏期休業中に10日~14日間] ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。[120分] レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「日本語表現法」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習しておくこと。 毎回辞書を持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。		教科書・テキスト	『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 『Practical 日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健編 おうふう 5刷 2011 ISBN: 978-4-273-03339-2 『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2014 ISBN: 978-4-487-80364-4		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	日本語表現法 で使用したテキストを継続して用いる。		

授業科目名	LE090U 英語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習・授業での理解確認・テスト・復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<p>学生は大学で学ぶために必要な基本的語彙・文型等を確認しながら、シンプルな文を自分で組み立てて発信できるような基本的な英語力を身につける。同時に、自律的に学ぶ姿勢を獲得することを目標とする。</p>				
教授方法	演習（予習 授業での理解確認 テスト 復習・予習）の形式で行う。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。						
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ						
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。						
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。						
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。						
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習						
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。						
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。						
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。						
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。						
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。						
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う						
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。						
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。						
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)		ノートづくり・課題への取り組み	50	予習：指定された範囲の課題(ノートづくり)ができているか。質問して分かったことがノートにメモされているか。復習：本時の学習事項を定着すべく練習しているか。	
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業は予習型で進められる。単語や文の意味(発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる[40分]。不明な点等があれば授業で質問すること。 授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること[20分]。 目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。</p>				随時行う			
受講生に望むこと	1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得ができなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。		

授業科目名	LE155U 英語A		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのC1(学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる)レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。 Unit1 Achieving goals; Lesson 1 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。(復習) 受動態を用いて自分の知っている事/知らないことについて述べるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 現在完了を用いて、自分がなした事柄について話すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Places and communities; Lessons 1-2 動名詞/不定詞を用いて、訪問すべき場所についての助言ができるようになる。 比較級を用いて、公式/非公式の言語の特徴が使いこなせるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 形容詞を用いて、土地についての描写ができるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Stories; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて逸話を話すことができるようになる。 複合形容詞を用いて人物を詳細に描写することができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 動名詞句、過去分詞、現在分詞を用いて、冗談を言えるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Moving forward; Lessons 1-2 未来形を用いて物事が起こる確率について描写することができるようになる。 未来形を用いて計画や調整について話すことができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 主語と動詞の倒置表現を用いて、広範囲にわたる議論を理解することができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Making money; Lessons 1-2 強調表現を用いて、仕事関係について話すことができるようになる。 条件節を用いて、金融に関する決定や後悔について討論することができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 文を修飾する副詞を用い優先順位を表すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト(特記事項参照)によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 指示通りの形式になっているか。 リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。 外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE160U 英語A			開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>				<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのC1(学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる)レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)。						
履修条件	「英語A」を履修した者(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Understanding power; Lesson 1 冠詞を用いて貴重な建物や建造物について描写できるようになる。						
2	Unit 6 Lessons 2-3 whatever, whoever, whenever節を用いて流暢に話されるスピーチのメモを取ることができるようになる。時間と対比を論理的に繋げて自伝的文章が書けるようになる。						
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 The natural world; Lesson 1 形容詞節を用いて手順を説明することができるようになる。						
4	Unit 7 Lessons 2-3 不定詞/動名詞が続く動詞を用いて広範囲にわたる散文に基づき推測ができるようになる。 as..as表現や量を表す表現を用いて、広告が書けるようになる。						
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ。						
6	Units 6-7の理解確認とテスト						
7	Unit 8 Problems and issues; Lessons 1-2 伝達動詞を用いて違う質問をされた際に引き伸ばし戦術をとることができるようになる。 継続表現を用いてライフスタイルについて討論することができるようになる。						
8	Unit 8 Lessons 3-4 話題化(文の先頭に移動)する方法を用いて、日々の問題を説明することができるようになる。 本課のまとめ。						
9	Unit 9 People with vision; Lessons 1-2 動詞句など前置詞との連語を用いて、物事の確からしさの程度を表すことができるようになる。 談話標識を用いて自分の好みを説明するために口頭表現を用いることができるようになる。						
10	Unit 9 Lessons 3-4 仮定法過去を用いて仮定的な質問に答えることができるようになる。 本課のまとめ。						
11	Unit 10 Expressing feelings; Lessons 1-2 助動詞を用いて感情がいかに自分に影響を与えるか討論することができるようになる。 推量の助動詞を用いて非現実的な状況について考え、述べることができるようになる。						
12	Unit 10 Lesson 3 wouldを用いて子どもの頃の思い出を描写することができるようになる。						
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習						
14	Unit 10単元テスト、外部テスト(特記事項参照)による到達度確認						
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト			単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 指示通りの形式になっているか。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。			外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと(40分)。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること(20分)。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進捗と合わせて計画的に進めること(50分)。</p>				随時行う			
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A-F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。 外部テストは教室使用可能状況により、14-16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE145U 英語B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実現場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB2(留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる)レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit1 Making connections; Lesson 1付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。(復習) any/every/no/someを伴う代名詞を用いて、賛成・反対を表明することができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 could/might/must/mayなどの助動詞を用いて、推測を表すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Making a living; Lessons 1-2 will/be going toを用いて、将来の計画や予測を表現することができるようになる。 未来進行形や未来完了形を用いて、調査結果を報告することができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 just in caseを用いて、就職採用試験申込書の添え状が書けるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Lessons from history; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて短編物語を書くことができるようになる。 a/an/the/(なし)を用いて、材料、所有物、発明品について話すことができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 形容詞、副詞、位置を表す表現を用いて、ある場所についてプレゼンテーションをすることができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Taking risks; Lessons 1-2 if節を用いて日記やブログの書き込みができるようになる。 義務を表す助動詞を用いてスポーツなどのやり方を説明することができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 強調表現を用いて、写真を比較し、違いを述べたり意見を述べたりすることができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Looking back; Lessons 1-2 used to/would/get used toを用いて、過去の外見を描写することができるようになる。 能力の程度を表す表現を用いて、思い出について語るすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 although/however/neverthelessを用いて本について話すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト(特記事項参照)によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 指示通りの形式になっているか。 リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。 外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目に間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE150U 英語B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実用場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB2(留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができるレベル)の英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語B」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Exploring the world; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形の用法の違いを理解し、それを用いてくれた電子メールを書くことができるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 直接・間接話法の疑問文を用いて見知らぬ土地について質問をしたり答えたりすることができるようになる。比較級を用いて土地や人々について比較し、表現できるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Indulging yourself; Lesson 1 加算・不加算名詞を用いて、食事の料理や用意の仕方を描写することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 受動態を用いて正式なクレーン書面を作成することができるようになる。使役動詞のhave/get something doneを用いて、サービスについて話すことができるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 まとめと理解確認、Units 6-7 単元テスト					
7	Unit 8 Aiming for success; Lessons 1-2 It's time/I'd rather/I'd betterの表現を用いて様々なタイプの人間について描写することができるようになる。間接話法を用いて人が言ったことを伝えたり描写したりすることができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 hard/hardlyを用いて調査から分かったことについて報告書を書くことができるようになる。本課のまとめ。					
9	Unit 9 Crime solvers; Lessons 1-2 原因を表す従属節を用いて、面白い物語を作ることができるようになる。must/might/can't haveなどの助動詞を用いて過去の出来事について推測したことを表現できるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 関係代名詞を用いて記事が書けるようになる。本課のまとめ。					
11	Unit 10 Mind matters; Lessons 1-2 再帰代名詞を用いて、自分の信条や意見について議論できるようになる。動名詞や不定詞を用いて、人の見解に対する賛成・反対意見を書くことができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 様々な条件節を用いて、後悔や決意を話すことができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト(特記事項参照)による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	<p>『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027</p>	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目に間に実施される可能性がある。</p>	

授業科目名	LE135U 英語C			開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>				<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB1+-B2(職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。						
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit1 Relationships; Lesson 1 助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。						
2	Unit1 Lessons 1-2 助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。(復習) 単純現在と現在進行形を用いて、くだけた電子メールを書くことができるようになる。						
3	Unit 1 Lessons 3-4 現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。本課のまとめ。						
4	Unit 2 In the media; Lessons 1-2 受動態を用いて賛成・反対意見を述べるができるようになる。関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。						
5	Unit 2 Lessons 3-4 単純過去と過去進行形を用いて、自分の人生で大切な出来事について描写することができるようになる。本課のまとめ。						
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト						
7	Unit 3 Home sweet home; Lessons 1-2 現在進行形、be going to、willを用いて、未来の事を話したり、Home Exchangeで借りた家について、クレームの手紙を書いたりすることができるようになる。比較級や最上級を用いて、都市の比較をすることができるようになる。						
8	Unit 3 Lessons 3-4 未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。本課のまとめ。						
9	Unit 4 Wealth; Lessons 1-2 付加疑問文を用いておしゃべりすることができるようになる。義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。						
10	Unit 4 Lessons 3-4 if/when/unless/as soon asから始まる節を含む文を用いて、広告を書くことができるようになる。本課のまとめ。						
11	Unit 5 Spare time; Lessons 1-2 現在完了形と現在完了進行形を用いて、自分の考えを提案したり他人の考えに返答したりすることができるようになる。動名詞/不定詞を目的語にする動詞を用いて映画や本の描写をすることができるようになる。						
12	Unit 5 Lesson 3 加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。						
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認						
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト(特記事項参照)によるレベル到達度確認						
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>(小テスト・発表・タスク等)</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか <small>学習内容確認の小テスト</small>			外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。 リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。			単元テスト・期末ト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う			
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎日出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。		

授業科目名	LE140U 英語C		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ カリー					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのB1+B2(職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語C」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション Unit 6 Travel tales; Lesson 1 過去完了形を用いて思い出深い写真を描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 likeの様々な用法を用いて、行ったことのない場所に行くために、読んだり話したりすることができるようになる。冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Lifelong learning; Lesson 1 疑問詞が主語/目的語の疑問文を用いて、学習経験について読んだり話したりできるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。能力を表す助動詞を用いて過去から現在に至るまでの能力について読んだり話したりできるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Making changes; Lessons 1-2 仮定法過去を用いて原因と結果を述べるようになる。副詞を用いて世界的課題について話すことができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。本課のまとめ					
9	Unit 9 On the job; Lessons 1-2 make/let/allowを用いて自分の意見をグループメンバーに伝えることができるようになる。間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 過去の義務/許可を表す表現を用いて、仕事に必要な日課をこなすために何を学ばねばならなかったのか表現することができるようになる。本課のまとめ					
11	Unit 10 Memories of you; Lessons 1-2 I wish/if onlyの表現を用いて願いを言うことができるようになる。過去時制を用いて過去の出来事や人物について討論することができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト(特記事項参照)による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE125U 英語D		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・エリック モーニン (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+・B1(身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する					各担当教員
2	Unit 2 (1) 古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
3	Unit 2 (2) 古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
4	Unit 3 (1) 姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
5	Unit 3 (2) 姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
6	Unit 4 (1) グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
7	Unit 4 (2) グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、Unit 5 (1) 万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
9	Unit 5 (2) 万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
10	Unit 6 (1) マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
11	Unit 6 (2) マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
12	Unit 7 (1) カッパドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
13	Unit 7 (2) カッパドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN:9784384334784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE130U 英語D		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・エリック モーニン (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際の場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+-B1(身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語D」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の復習					各担当教員
2	Unit 8 (1) 自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
3	Unit 8 (2) 自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
4	Unit 9 (1) 古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。					各担当教員
5	Unit 9 (2) 古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
6	Unit 10 (1) 知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
7	Unit 10 (2) 知床について前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、Unit 11 (1) アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
9	Unit 11 (2) アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
10	Unit 12 (1) ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
11	Unit 12 (2) ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
12	Unit 13 (1) サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					各担当教員
13	Unit 13 (2) サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出。					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>(小テスト・発表・タスク等)</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか <small>学習内容確認の小テスト</small>		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN: 9784384334784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE115U 英語E		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・マシュー ポッシュ・白井 雅代・本間 千重子 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2(旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 (1)異文化理解をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
2	Unit 1 (2) 異文化理解についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
3	Unit 2 (1) 和食をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
4	Unit 2 (2) 和食についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
5	Unit 3 (1) 外国語学習をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
6	Unit 3 (2) 外国語学習についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
7	Unit 4 (1) スポーツをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
8	Unit 4 (2) スポーツについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
9	これまで学んだテーマから1つを選びショートスピーチを行う、Unit 5 (1) ファッションをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
10	Unit 5 (2) ファッションについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
11	Unit 6 (1) 生き物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
12	Unit 6 (2) 生き物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
13	Unit 7 芸術について4技能統合型の活動を行い内容を理解し意見を発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り取り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE120U 英語E		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・マシュー ポッシュ・白井 雅代・本間 千重子 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2(旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語E」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、Unit 8 (1) 核廃棄物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
2	Unit 8 (2) 核廃棄物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
3	Unit 9 (1) ニンジャをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
4	Unit 9 (2) ニンジャについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
5	Unit 10 (1) 児童就労をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
6	Unit 10 (2) 児童就労についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
7	Unit 11 (1) 長寿をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
8	Unit 11 (2) 長寿についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
9	これまで学んだテーマから1つを選びショートスピーチを行う、Unit 12 (1) 騒音公害をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
10	Unit 12 (2) 騒音公害についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
11	Unit 13 (1) 食物廃棄物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
12	Unit 13 (2) 食物廃棄物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
13	Unit 14 ダンス芸術について4技能統合型の活動を行い内容を理解し意見を発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出。					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE105U 英語F		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村 ゆかり・本間 千重子 (代表教員 木村 ゆかり)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1(日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Pre-Unitで英語の語順、基本文型を確認し作文をする					
2	Unit 1 (1) 動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する					
3	Unit 1 (2) 自己紹介文の構成を理解し、自分の自己紹介文を作り発表する					
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の住む町について説明する 自分の住む町について説明する英文を理解する					
5	Unit 2 (2) 自分の住む町について説明する文を理解し、自分の住む町についてライティングと発表を行う					
6	Unit 3 (1) 時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて休日の過ごし方を述べる					
7	Unit 3 (2) 休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う					
8	Unit 4 (1) 英語の基本文型を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の持ち物について説明する					
9	Unit 4 (2) 自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う					
10	Unit 5 (1) 動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分が毎日行う習慣について述べる					
11	Unit 5 (2) 自分が毎日行う習慣について述べる英文を理解して、自分が毎日行う習慣についてライティングと発表を行う					
12	Unit 6 (1) 進行形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて過去と現在における自分の変化を述べる					
13	Unit 6 (2) 過去と現在における自分の変化を述べる英文を理解し、過去と現在における自分の変化についてのライティングと発表を行う					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びスピーチを行う、リフレクション提出、					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 指示通りの形式になっているか。 リフレクションへの記入: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE110U 英語F		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村 ゆかり・本間 千重子 (代表教員 木村 ゆかり)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1(日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)。					
履修条件	「英語F」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、Unit 7 (1) 未来形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の未来の目標や夢について述べる					
2	Unit 7 (2) 自分の未来の目標や夢について述べる英文を理解し、自分の未来の目標や夢についてライティングと発表を行う					
3	Unit 8 (1) 助動詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて今後の予定を述べる					
4	Unit 8 (2) 今晚や5年後の予定を述べる英文を理解し、自分の今後の予定についてライティングと発表を行う					
5	Unit 9 (1) 不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる					
6	Unit 9 (2) 他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う					
7	Unit 10 (1) 現在完了形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の経験について述べる)					
8	Unit 10 (2) 過去の経験について語る英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う					
9	Unit 11 (1) 接続詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じていろいろな場面での自分の感情について述べる					
10	Unit 11 (2) 様々な感情について説明する英文を理解し、自分がどのような時にどのような感情をもつかについてライティングと発表を行う					
11	Unit 12 (1) 比較表現の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の身近な人との比較について述べる					
12	Unit 12 (2) 2人の友人の比較について述べる英文を理解し、それを元に自分との比較についてライティングと発表を行う					
13	Unit 13 受動態の用法を確認しつつ、4技能を統合したタスクを通じてお気に入りの映画や本について述べる					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出、					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。</p>	

授業科目名	LE165U アクティブ・イングリッシュA		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。この本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることを目指すプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills（福島県）では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。</p>			
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。					
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	British Hills (以下BH)(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。					
5	BH(2)Interview & Orienteering: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。					
6	BH(3)Dance: 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。(受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる)					
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。					
8	BH(5) British Wedding: イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。					
9	BH(6) World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。					
10	BH(7) Travel in UK: 英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。					
11	BH(8)Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。					
12	BH(9)Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。					
13	BH(10)Group presentation 3: 最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。					
14	BH(11)Group presentation 4: 最終プレゼンテーション 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。必要な英語表現を身に付ける。		BH研修参加態度	50	British Hillsで規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。多くの人と積極的にコミュニケーションをとる。
英文日誌	10	授業（活動）の概要について具体的に記載できている。自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。英語運用力測定
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
与えられた課題に対し、単語や文型を調べ下調べして臨むこと。[40分] 授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はそのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]				随時行う		
受講生に望むこと	英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。新白河駅集合。解散。団体生活であるため、学生生活上の問題があると判断された学生については参加を許可しないことがある。事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。	

授業科目名	LE170U アクティブ・イングリッシュB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・韋名 理恵 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>2017年8月下旬～9月上旬に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州セントマリー市アルゴマ大学(Algoma University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。</p> <p>事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国後に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>海外語学研修の準備を通じ、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。</p> <p>英語で積極的にコミュニケーションがとれる。</p> <p>異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介する。</p> <p>ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。</p> <p>語学研修・ボランティア活動を通して、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。</p> <p>語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告する。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動					
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する(している)ことが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。カナダでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 必要な英語表現を身につける。		カナダ研修参加態度	50	カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。
英文日誌	10	授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<ul style="list-style-type: none"> ・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。 				随時行う		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、積極的に取り組むこと。 ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。 			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書/参考書等	なし/ 『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ・事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ・事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。 	

授業科目名	LE175U アクティブ・イングリッシュC		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	後期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階(事前学習)から実施(留学)及び終了段階(事後学習)まで見直しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。</p>			<p>留学計画立案・諸準備等の事前学習、留学先で計画に沿ったの学びや地域の人々との交流、報告書にまとめ発表する事後学習を通して、自律的な学習者となり、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うことを目標とする。段階別の到達目標として、事前学習では、授業の目標である「英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うこと」を理解するとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方について理解する。提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録したりポートフォリオファイル化したりするなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告会(英語によるプレゼンテーションとディスカッション)を学生主体で行うことができる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習 オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。					
2	事前学習 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。					
3	事前学習 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。					
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在					
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)					
15	事後学習 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	10	留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する		留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する		事後学習	20	帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。〔毎日40分〕英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。〔毎日30分〕</p>				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要性に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である。会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/ 『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年(ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける 	

授業科目名	LC100U 中国語		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>基礎的、実用的な中国語の表現能力を習得する。また辞書の使い方を始め、自ら学ぶ意欲や力を養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語や日本文化を比較する上での国際理解の基礎を培う。具体的には、発音記号ピンインを習いながら、基本的な単語を教え、詩の朗読や簡単な挨拶、会話の練習によって発音に慣れる。日本人が持っている能力（漢字、辞書調べ）を最大に生かし、習う意欲を高め、日本人にとって難しく弱い部分（発音）を重点において色々な方法で多く繰り返し練習する。</p>			<p>発音記号ピンインを習得する。中国語の特有な発音に慣れ、挨拶ことば、自己紹介及びそれに関する会話ができるようにする。辞書を引くことができるようにする。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	簡単挨拶と発音記号ピンイン（声調を主にして）を習得とそれの発音練習を中心とする。						
2	基本挨拶と発音記号ピンインの（単母音を主にして）を習得とそれの発音練習を中心とする。						
3	発音記号ピンイン（複母音を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
4	発音記号ピンイン（子音を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
5	発音記号ピンイン（鼻音を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
6	発音記号ピンイン（規則と注意点を主にして）習得とそれの発音練習を中心とする簡単な会話。						
7	発音総合練習 発音記号の習得と辞書の使い方をまとめ。						
8	「形容詞述語文」の習得と以前習った挨拶と会話の復習。						
9	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
10	「形容詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
11	「動詞述語文」の習得と以前習った挨拶と会話の復習。						
12	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
13	「動詞述語文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と練習。						
14	自己紹介文を中心とする総合練習と復習。						
15	口頭で中国語で自己紹介とその関する質問を答え（教師から）。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢、授業の内容を予習する、宿題の完成度。		挨拶・自己紹介の表現と発音	70	文の表現、発音の正確さ、教員の質問に対する理解と答えの正確さ。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>授業前に予習。[約15分] 授業後宿題の完成。[約20分]</p>			<p>発表した自己紹介文について、後で直して返します。</p>				
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である、授業する時に必ず辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	<p>自編集『中国語入門教案』（印刷物2016年修編） 杉本達夫ら『デイリ-コンサイズ中日・日中辞典（第3版）』（三省堂）ISBN9784385121680</p>		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LC110U 中国語		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択	
担当教員名	張 榮眉						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期で習った表現を復習し、新しい単語や文法を加えながら、文章の解読に重点を置いて翻訳する能力を養う。中級レベルの中国事情に関する文章を自力で翻訳することで、解読能力や辞書の使い方を上達させる。翻訳で得られた中国事情と日本事情を比較し、感想文を書く。また、それを発表することによって、クラスメートと共有する。中国の言語や文化に対する関心を深めるとともに日本語や日本文化と比較することで国際理解の基礎を培う。後期は前期の自己紹介から一歩前進し、中国語で質問文を作成し、質問したり答えたりしながら練習を繰り返す。</p>			<p>辞書を実用的に引くことができるようにする。 習った単語や文法を応用する力を身につける。 辞書を利用しながら、中級レベル的文章を自力で翻訳する能力を身につける。 自分のテーマに相関する資料を探す能力、纏める能力をアップする。 また、自分の考え方を述べる能力もアップ、その他、前期の自己紹介について中国語で質問をし、聴いたり答えたりすることができるようになる。</p>				
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習。						
履修条件	『中国語』の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前期で習ったものを復習 + 「助数詞」の習得。						
2	「助数詞」と「存在の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読の練習。						
3	「助数詞」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
4	「存在の表現」と「選択疑問文」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読練習。						
5	「存在の表現」と「所有の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
6	「存在の表現」と「所有の表現」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読練習。						
7	「存在の表現」や「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単な会話。						
8	「存在の表現」と「年齢の言い方」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読の練習。						
9	「年齢の言い方」と「疑問代詞」の習得とそれらを中心とする簡単な会話と解読練習。						
10	学んだ内容を復習する上で各自が興味ある文を選んで翻訳する。						
11	各自の翻訳をし、コンピュータで翻訳した文を仕上げる。						
12	各自の翻訳した文に基づいて、自分テーマの相関する資料を探し「比較感想文」を書く。						
13	「比較感想文」をコンピュータで仕上げ、自己紹介について質問（中国語）を作る。						
14	口頭で「比較感想文」を発表する。						
15	自己紹介について質問したり答えたりする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢、授業の内容を予習する、宿題の完成度。		翻訳文	20	原文に対する理解度、翻訳した文の表現の正確さ。	
比較感想文	30	自分のテーマに相関する資料を見つけているか、比較が妥当か、自分の観点があるかとその新鮮さ、印象深い文を中国語で読めるか、「比較感想文」発表が分かり易い。		口頭で発表	20	自己紹介について中国語で質問をし、聴いたから答えられるか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業前に次の内容を予習して[15分]、授業後の宿題の完成[約20分]。				「比較感想文」について教師のコメントが欲しい学生にメールをする。			
受講生に望むこと	テキストを買う必要がなく、辞書が必要である。授業する時に必ず辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	自編集『中国語入門教案』（印刷物2016年修編） 杉本達夫ら『中日中ディレリコンサイズ辞書』（三省堂）ISBN4-385-12184-2		
指定図書/参考書等	荒屋敷他『中国人暮らしのスケッチ』（朝日出版社、1998年） 荒屋敷他『中国と日本』（朝日出版社、2000年新編） 荒屋敷他『中国人暮らしのエッセイ』（朝日出版社、2001年） 日下恒夫、石渡俊『ことばの旅』（好文出版社、1991年）/ 市原康雄『中国語文化史』（岩波書店、1999年） 市原康雄『中国語文化辞典』（川出書房新社、1999年） 牛島徳次他『言語』、『中国文化叢書』第1巻（大修館、1967年） 藤正秀『日本文化と中国』、『中国文化叢書』第2巻（大修館、1968年） 齊藤ら『奥ももつと天と地』、『現代中国の顔』（平凡社、2000年） 島尾伸三『中国庶民生活図引*遊』（弘文堂、2001年）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF100U フランス語			開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思っています。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。				フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous						
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.						
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin						
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler						
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?						
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?						
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler						
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.						
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté						
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?						
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.						
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?						
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.						
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif						
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。			受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]				付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF110U フランス語		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。</p>			<p>フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。</p>			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。					
履修条件	『フランス語』の単位を修得済みの者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.					
2	数字 1-6 9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?					
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.					
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.					
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.					
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?					
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.					
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y a~の使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?					
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation					
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?					
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait					
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.					
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.					
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.					
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。		受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
講義内容に関して指示されたことに基き予習、復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習をして下さい。[120分]			付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。		教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA(ゴルフ)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>ゴルフの競技特性を理解する。 ゴルフの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					
3	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					
4	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					
5	ショットの基本：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					
6	ショットの基本：ボール弾道の法則とフェースコントロール・スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					
7	ショットの基本：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					
8	ショットの基本：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					
9	ショットの基本：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					
10	ショットの基本：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					
11	ショットの基本：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスイング技術を習得する。					
12	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					
13	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。					
14	ターゲットバードゴルフ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					
15	ショートゲームテストとまとめ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[準備体操を含め60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[準備体操を含め60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ~ 7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA(テニス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子・門岡 晋 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>テニスの競技特性を理解する。 テニスの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明。					田邊・
2	グリップング、ラケットワーク。					田邊・
3	基本ストローク(フォア) 1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・
4	基本ストローク(フォア) 2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊・
5	基本ストローク(バック)：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・
6	簡易ゲーム(フォア・バック)：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊・
7	基本ストローク(ボレー)：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊・
8	基本ストローク(サーブ)：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊・
9	簡易ゲーム(フォア・バック・ボレー・サーブ)：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊・
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊・
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊・
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊・
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊・
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊・
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊・
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[準備体操を含め 60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA(ダンス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・木藤 由麻 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ダンス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ダンス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>ダンスの特性を理解する。 ダンスの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。					木藤
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。					木藤
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。					木藤
4	基本のステップ 1：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。					木藤
5	基本のステップ 2：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
6	基本のステップ 3：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。					木藤
7	簡易創作 1：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。					木藤
8	基本のステップ 4：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
9	簡易創作 2：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。					木藤
10	創作活動 1：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。					木藤
11	創作活動 2：グループ内で作品創作を継続して行う。					木藤
12	創作活動 3：グループ内で作品創作を継続して行い、作品を完成させる。					木藤
13	作品発表 1：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。					木藤
14	創作活動 4：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。					木藤
15	作品発表 2：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。					木藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。[準備運動を含め 60分程度] ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。[準備運動を含め 60分程度] ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 また、必要に応じてタオルなどを用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 (事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義: スキー)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県桐池高原スキー場にて3泊4日の合宿形式にて行う。スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをめざすが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの養成なども合宿を通して学習し、「スキーヤー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー(本質)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。 ウインタースポーツを通じた人間関係能力を養う。 ウインタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スキー実技。					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション: ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備(用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午後】 開講式/クラス編成確認(技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
4	【実習 1 日目 夜】 講義: スキー技術の変遷/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2 日目 午前】 VTR 撮影/クラス別レッスン					各班担当者
6	【実習 2 日目 午前】 クラス別レッスン					各班担当者
7	【実習 2 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
8	【実習 2 日目 午後】 クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキーのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前】 VTR 撮影/クラス再編成/クラス別レッスン					各班担当者
11	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン					各班担当者
12	【実習 3 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
13	【実習 3 日目 午後】 クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン / 閉講式					各班担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[最低1日]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義: ゴルフセミナー)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは4日間わたる集中講義にて行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーヤーの格変化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関連していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職場や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いため、これからゴルフの普及は益々進んでいくと考えられる。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることでゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通じてスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。グリップ、ボスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。</p> <p>距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。</p> <p>ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション: ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1日目 午前】 開講式/レッスン : スタンスの確認(グリップ、ボスチャー、エイミング) ショートスイング ~ スリークォーターズスイング(9I)					永山、田邊
3	【実習 1日目 午前】 レッスン : スリークォーターズスイング ~ ハーフスイング(9I)					永山、田邊
4	【実習 1日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I)					永山、田邊
5	【実習 1日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2日目 午前】 レッスン : 9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR 撮影					永山、田邊
7	【実習 2日目 午前】 レッスン : 「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/ VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2日目 午後】 レッスン : ウッドクラブによるスイング(ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2日目 午後】 レッスン : パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3日目 午前】 レッスン : VTR によるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3日目 午前】 レッスン : ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3日目 午後】 レッスン : グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3日目 午後】 レッスン : グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネジメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4日目 午前】 レッスン : 民間練習場でウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4日目 午後】 ラウンド実習 : 本コース 9ホールの中ホール体験を行う。/閉講式					各担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたるスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。(1回60分程度)ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここからは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を授業科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業(本頁)」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p>			<p>各種ニュースポーツの競技特性を理解する。 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。					
2	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					
3	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッチビーなどのゲームを楽しむ。					
4	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。					
5	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。					
6	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。					
7	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。					
8	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
9	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。(ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク)					
10	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
11	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。(スティックワーク、パス、ショット)					
12	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
13	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。タグラグビーの基礎的技術を習得する。					
14	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
15	まとめ：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE120U 健康科学		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。</p>			<p>健康的な生活の意義を理解する。 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。						
2	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。						
3	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。						
4	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。						
5	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。						
6	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。						
7	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。						
8	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。						
9	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「脂血症」「高血圧」						
10	健康を脅かすもの：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」						
11	運動習慣と疾病の関係：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。						
12	運動習慣と疾病の関係：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。						
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。						
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。						
15	まとめ：これまで学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	60	受講態度を重視する。・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させているか。		学期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] 各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。				
受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。		教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。			
指定図書/参考書等	「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著 北國新聞社 2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9		その他・特記事項	なし			

授業科目名	HC100U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	高村 真希						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインとは、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。そのために自分の適性と、社会の現状を知り、将来を見通すことが求められる。働く意味や職業観を学ぶ授業である。			職業観、キャリア形成について学び、働く意味を探究する。キャリアデザインと大学での学びが関係を理解する。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、授業外における学習など。					高村	
2	現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインとは何か、キャリアデザインの基本と方法					高村	
3	「大学で学ぶ意義」第1回					高村	
4	「大学で学ぶ意義」第2回					高村	
5	「大学で学ぶ意義」第3回					高村	
6	キャリアデザインと人生設計：現代人のライフサイクルと職業について					高村	
7	マナー講座第1回：「あいさつとコミュニケーション」					外部講師	
8	マナー講座第2回：「自分のキャリアは自分がつくる」「本当の自分とは」					外部講師	
9	学童保育とは：実際に学童クラブで児童と関わる方から学ぶ。					外部講師	
10	1年次体験活動について：体験活動を充実させるためのポイントを考える。					高村	
11	大学祭とは：大学祭の在り方を考えると共に、イベントの企画を行う。					高村・学生支援係	
12	大学祭： イベントの企画・準備を行う。					高村	
13	大学祭： イベントの企画・準備を行う。					高村	
14	組織マネジメントの理解とチームワークの醸成					高村	
15	最終レポートを基に協議する。					高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
毎授業でのコメント	30	講義及びグループでの活動に積極的に取り組むことができていたか。		報告書	50	「大学祭企画書」及び「最終レポート」	
提出物	20	マナー講座からの学び×2回					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の講義における演習を理解するために、ねらい及び目的を理解する。[30分] 授業内容から自身の知的好奇心を促進したものについての自己分析を行う。[40分]				グループ単位で事前事後のディスカッションを行うことでPDCAサイクルを体験する。			
受講生に望むこと	キャリアデザインは、自分の人生についての設計を考える大切な科目であり自分自身と真摯に向き合うことが望まれる。理論だけでなく、実際に行動することで自分の位置を知る体験学習がある。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義配付資料にて演習を展開する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC100U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	松下 健・小林 正史・加藤 仁・竹中 祐二 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>授業の目的は2つある。1つ目は、社会で必要な力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自らが考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では、実際の社会が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が社会で直面している課題を受け取り、その課題を解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。</p>			<p>社会で必要な力に気づく。 自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。 社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。					全教員
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。					全教員
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員
4	第1次提案に向けて：チーム活動。第1次提案の目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。					全教員
5	第1次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員
6	第2次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。					全教員
7	第2次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員
8	課題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。					全教員
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員
10	第1次提案に向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスをもらえば議論が進むのかを整理する。					全教員
11	第1次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員
12	第2次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項をチェックし、準備を整える。					全教員
13	第2次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員
14	全体のふりかえり：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすかをまとめる。					全教員
15	前期の初めに各自が設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。					全教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加しているか。		提出物	50	期限内に提出しているか。 課題に即した内容となっているか(例えば、毎回提出するリアクションシートの場合は、振り返りが記されているか、規定字数を満たしているか、で評価)。
発表	20	発表内容	発表態度	質疑への応答		
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
課題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備を進めてください。準備はほぼ授業時間外で進めることとなります。[120分]				プレゼンテーションや提出物などの課題について、次学期のキャリアデザインにおいてコメントします。		
受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけましょう。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN:なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC110U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	福江 厚啓・向出 圭吾 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する力を高めたい。教育系学科であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、社会から求められる事柄が何であるのかを知る。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめてほしい。			「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 教師・保育者としての専門的な職業能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、「キャリア体験学習」など。					全員	
2	キャリアデザインと職場理解：プレ実習を活用したキャリア考察について（夏季預かり保育体験等振り返り）					全員	
3	大学祭イベント・ブース運営実施					全員	
4	大学祭イベント・ブース運営実施					全員	
5	大学祭イベントについての振り返り					全員	
6	「キャリア体験学習」の説明と役割分担、連絡方法の確認、ワークショップ内容決定、予算計画等					全員	
7	「キャリア体験学習」の第1回事前学習（準備） 美術室等使用予定					全員	
8	「キャリア体験学習」の第2回事前学習（準備） 美術室等使用予定					全員	
9	「キャリア体験学習」の第3回事前学習（模擬実施と反省） 体育館使用予定					全員	
10	「キャリア体験学習」の第4回事前学習（最終準備と打合せ）					全員	
11	「キャリア体験学習」（公民館イベント） *					全員	
12	「キャリア体験学習」（公民館イベント） *					全員	
13	「キャリア体験学習」の事後学習と全体報告会準備					全員	
14	「キャリア体験学習」の全体報告会					全員	
15	最終レポートを持ち寄り、個々の学びについて協議する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	40	講義内容についての理解ができているか 自己への問題提起が身についているか 新しい発見ができているか		最終レポート	30	「これが私の進む道」 学びを踏まえ、今後の自己課題を明確に。 （体験学習の報告、発表の反省を含むこと）	
ミニレポート	30 (各15)	大学祭イベント・ブース運営のレポート 「キャリア体験学習」のレポート					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
専門的な職業能力に直結する「大学祭イベント・ブース運営」「キャリア体験学習」に取り組みます。その体験学習に際しては事前の入念な準備と事後の振り返りが大切であり、それに要する時間は合計6時間以上が目安です。単に時間を要する、ということよりも、チームとしての報告・連絡・相談が大切になります。				グループごとに事業計画を立て、役割分担、調査研究や準備を行い、記録することで自己フィードバックする。最終レポートは、評価が終わり次第返却する。			
受講生に望むこと	積極的に参加すること。 理論だけでなく、実際に行動すること。 グループにより、準備等のスケジュールは異なるので各自が手帳等を準備し、自己管理して下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	「大学祭ブース運営」を2コマに充てる。 「キャリア体験学習」は公民館イベント運営を以て2コマに充てる。 （代休講4回の日程等、詳細については開講時に説明する）		

授業科目名	HC110U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・加藤 仁 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目のキャリア教育科目に位置づけられるものである。キャリアデザインでは、キャリアデザインで培われた気づきを拡張、深化させていく。そのために、MIP1の振り返りや批判的、論理的な思考力を高めるトレーニング、また、働き方や社会の動き、先達の話や聴く機会や仕事に就くにあたって考えるべきことなど様々な角度から自身の「キャリア」を考えるための時間とする。</p>			<p>グループワークや発表をとおして、自身の意見を的確に他者に伝えることができる。 先達の話や社会の動き捉える活動から、現代社会の情勢などの知識を身につける。 仕事につく際に必要とされるが、現在は不足している力について、学生時代にどのようにして身につけるかの具体的なプランが立てられる。</p>				
教授方法	教員による講義、ゲストスピーカーによる講演、グループワークおよび発表など多様な方法により演習を進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明および批判的思考の解説と振り返り。					全員	
2	MIP1におけるプレゼンテーションの振り返りおよび修正作業を実施する。					全員	
3	MIP1におけるプレゼンテーション修正版の発表を行う。					全員	
4	社会の情勢を把握し他者に伝える：新聞を用いたグループワークを行う。					全員	
5	会社の仕組み、仕事の仕組みについて考える。					全員	
6	職業選択について：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークを行う。					全員	
7	職業選択について：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークの結果を発表する。					全員	
8	地域を元気にする活動事例に学ぶ。					全員	
9	グローバル企業で働くことについて学ぶ。					全員	
10	グローバル企業での仕事を具体的に考える（MIP に向けて）。					全員	
11	ワークライフバランスについて考える。					全員	
12	労働者の権利について考える。					全員	
13	就職活動とは：4年生と卒業生の話聴く。					全員	
14	自己を振り返る（自分史を作る自己分析）。					全員	
15	エントリーシートの書き方を学ぶ。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度、および演習への参加態度		リアクションシート	40	毎回提出するリアクションシートが授業の内容に沿って具体的に記入されているか。	
課題・レポート	20	授業時に課された課題やレポートの内容		グループ発表	10	グループ発表が論理的に構成されているか、わかりやすい話し方か。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
グループ・個人に課された課題・レポートの作成 [120分] 日頃から新聞等を読み、社会の事象等に関心を持つ。 [60分]				グループ発表やレポート提出時に学生と教員がコメントする。			
受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので、学生の活発な参加が求められる。社会学科のたのしみもくもくの学習とともに、社会の事象について関心を持つ姿勢が必要である。			教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC200U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	福江 厚啓・向出 圭吾 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザイン に引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する力を高めたい。 具体的には「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動を全員参加で経験する。また、様々な事業から自己決定し3回の「運営スタッフ活動」を経験する。運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会の一員として自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。			「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 教師・保育者としての専門的な職業能力 (または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力) 自己理解・自己管理能力 課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。			
教授方法	講義、演習、体験学習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。					福江
2	プレ実習を活用したキャリア考察について（ 春季学童保育体験振り返り）					福江
3	「運営スタッフ活動」（選択）予定の立案を行う。「加賀百万石ウォーク」の役割を確認する。					福江、向出
4	「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動 （一斉）					福江、向出
5	「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動 （一斉）					福江、向出
6	「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動についての振り返り					福江、向出
7	「運営スタッフ活動」 に向けての事前学習					福江
8	「運営スタッフ活動」 （選択）					福江
9	「運営スタッフ活動」 の振り返りと に向けての事前学習					福江
10	「運営スタッフ活動」 （選択）					福江
11	「運営スタッフ活動」 の振り返りと に向けての事前学習					福江
12	「運営スタッフ活動」 （選択）					福江
13	「運営スタッフ活動」 の振り返り。発表のきまりについて理解し、準備を行う。					福江
14	発表に向けて準備、打合せを進める。					福江
15	まとめ：「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」に関する発表。					福江
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
最終課題	40	「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」をテーマにしたレポートを作成することができるか(1600字)。		PDCAシート	30	学びや自己課題の分析が行われているか。学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。(10×3回)
主体的態度	20	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に運営スタッフ活動に参加できたか。		社会的態度	10	講義及びグループでの授業に積極的に取り組むことができていたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
自分で選択した「運営スタッフ活動」に関し、PDCAシートを用いて自己分析を行う。 [60分] 本科目も含め、前期期間の予定を適切に管理する[30分]				課題は「最終課題」と「PDCAシート」を期末にまとめて提出することとする。評価ののちすみやかに返却する。		
受講生に望むこと	将来の社会参加を念頭に、一つひとつの活動に目当てをもって取り組んでほしい。 また、社会の一端を担うものとしての自覚をもち、適切な報告・連絡・相談の在り方を実践的に学んでほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	指定日に行う「加賀百万石ウォーク」を以て講義2コマ分に充てる。 また、各自が選択した「運営スタッフ活動」を以て講義3コマ分に充てる。	

授業科目名	HC200U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	若山 将実・小林 正史・依 希貴 (代表教員 若山 将実)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>授業の前半は、グローバル企業と連携し、ICTを用いて授業を進める。グローバル企業が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。第一次提案と最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。授業の後半は、「キャリアデザイン」で学んできたことを活かして、大学生対象ビジネスコンテスト「キャリアインカレ」(企業がテーマを出題し、学生はチームを組みテーマについてプレゼンテーションを行う。コンペティション方式で優勝を目指す)に参加する。</p>			<p>グローバル企業で働くために必要な知識・グローバルコミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。 グローバル企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。 ICTを用いて多文化共生の実践的経験を学び、海外業務に必要な表現形式を習得する。 コンペティション方式に対応したプレゼンテーションができるようになる。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーションと課題提示：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。					全員
2	課題提示：企業担当者から課題を受け取る。					全員
3	課題理解確認：前回の課題提示を受けて、各グループが課題についてどのように理解しているかディスカッションを通じて確認する。					全員
4	第一次提案に向けての準備：文化的背景の異なる相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。					全員
5	第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。					全員
6	最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。					全員
7	リハーサル：最終提案に向けてチームで準備を整える。					全員
8	最終提案：ICT技術を用いて最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの活動(文献調査、社会調査、議論など)を振り返る。					全員
9	「キャリアインカレ」参加にあたって担当者から内容説明を受ける。					全員
10	ビデオ視聴による分析：これまでのキャリアインカレで入賞したチームのプレゼンテーションのビデオを観て、どの点が評価されているのかを分析する。					全員
11	ビデオ視聴による分析：これまでのキャリアインカレで入賞したチームのプレゼンテーションのビデオを観て、どの点が評価されているのかを分析する。					全員
12	グループワーク：どの企業の課題に挑戦するのかをグループで決定する。					全員
13	グループワーク：プレゼンテーションの内容について話し合う。					全員
14	中間報告会：他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。					全員
15	中間報告会：他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	授業に参加し、チームに貢献しているか。		提出物	50	期限内に提出しているか 課題に即した内容となっているか 指定された分量が書かれているか 指定された形式になっているか ふりがえりができているか
プレゼンテーション	20	内容：課題に即した内容となっているか/指定された様式・時間を守っているか 態度 質疑への応答				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
プレゼンテーションの準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]				プレゼンテーションに対して企業担当者および教員がコメントする。		
受講生に望むこと	チームワークをうまく進めていくために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN：なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。	

授業科目名	HC210U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	高村 真希						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザイン の学外での「運営スタッフ活動」に引き続き、キャリアデザイン では学内での主体的活動を通して、さらに構想・設計・実現する力を高めたい。</p> <p>具体的には、本学の3つの行事（大学祭、学院セミナー、クリスマス祝会）を学生自ら主催し、その企画運営の過程の中で、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることを目指す。</p>			<p>「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 教師・保育者としての専門的な職業能力 （または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） 自己理解、自己管理能力 課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を活動を通じて総合的に高め、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることができる。</p>				
教授方法	講義・演習・体験学習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方、到達目標、成績評価の方法等の説明、履修カルテの作成					高村	
2	大学祭に向けての準備の確認と北陸学院セミナー について企画立案する。					高村	
3	クリスマス祝会と北陸学院セミナー に向けて各グループ活動の準備を行う。					高村	
4	大学祭に向けての事前学習を行う。					高村	
5	大学祭においてグループ活動の実践を行う。					高村	
6	大学祭でのグループ活動の振り返り					高村	
7	北陸学院セミナー に向けての準備を行う。					高村	
8	北陸学院セミナー の各自、振り返りを行う。					高村	
9	時間をうまく使いこなすためのタイムマネジメント講座					外部講師	
10	クリスマス祝会に向けての準備を行う。					高村	
11	これからの実習、インターンシップに役立つビジネスマナー講座					外部講師	
12	これからの大学生活をより充実させるための自分自身を知るための講座					外部講師	
13	クリスマス祝会において実践を行う。					高村	
14	3回の活動を通して自己を振り返り、今後の課題を明らかとする。					高村	
15	まとめ：「3回の主体的活動を通して学んだこと～社会人基礎力について～」に関する発表を行う。					高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
最終課題	40	「3回の主体的活動を通して学んだこと～社会人基礎力について～」をテーマにレポートを作成することができるか（2000字）。		PDCAシート	30	学びや自己課題の分析が行われているか。学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。	
主体的態度	20	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に活動に参加できたか。		社会的態度	10	講義及びグループでの授業に積極的に取り組むことができていたか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
3回の活動に関して、PDCAシートを用いて自己分析を行う。[60分] 本科目も含め、後学期間の予定を適切に管理する[30分]				課題は「最終課題」と「PDCAシート」を期末にまとめて提出することとする。評価ののちすみやかに返却する。			
受講生に望むこと	前期科目「キャリアデザイン」での学びの成果を3回の活動に活かしてほしい。また前期に引き続いて社会の一端を担うものとしての自覚をもち続け、日頃から報告・連絡・相談をその場に応じて臨機応変にできるように期待する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	外部講師の都合により、日程が変更になる場合がある。		

授業科目名	HC210U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・若山 将実 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
前半は、「キャリアデザイン」のキャリア・インカレプロジェクトを継続する。すなわち、企業から提示された課題について、社員の立場に立って企画を作り、プレゼンを行う。後半では、社会人基礎力（経産省が提唱する、仕事を行っていく上で必要な基礎的能力）を高めるためのワークを通して、社会へでるまでに各学生がどのような準備をすべきかを考える。			グループワークを通して、課題解決力を身につける。自分に足りない能力や知識、および、自分の強みを明確に認識する。社会に出るまでに身につける必要がある能力や知識を、これからの学生生活の中でどのように習得していくかを考えることができるようになる。				
教授方法	演習（グループワークと発表）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要と前期の振り返り					全教員	
2	キャリア・インカレの最終プレゼンに向けたグループワーク					全教員	
3	キャリア・インカレの最終プレゼンに向けたグループワーク					全教員	
4	最終プレゼン（前半の10グループ）					全教員	
5	最終プレゼン（後半の10グループ）					全教員	
6	最終プレゼンの振り返り： 教員からのコメントと質疑応答					全教員	
7	最終プレゼンの振り返り：マイナビのスタッフからのコメントと質疑応答					全教員	
8	社会人基礎力とは					全教員	
9	社会人基礎力が重視されるようになった歴史的背景					全教員	
10	社会人基礎力の判定： 社会人基礎力の判定テストを通して、自分の不足している力と強みを認識する。					全教員	
11	タイム・マネジメント： 計画性を持って行動する必要性を認識する。					全教員	
12	学生生活の振り返り（その1）： 各自の学生生活を振り返り、自己分析を行う。					全教員	
13	学生生活の振り返り（その2）： 社会人基礎力の中で得意分野と不足している力を各自が認識する。					全教員	
14	学生生活の振り返り（その3）：社会に出るまでに身につける必要がある能力や知識を、これからの学生生活の中でどのように習得していくかを考える。					全教員	
15	プレゼンの振り返り： キャリアインカレの全国決勝大会（2020年1月）のプレゼンを鑑賞し、自分の発表を振り返る					全教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	30	積極的にグループワークや授業に参加している。		発表	20	発表内容、発表の態度、質疑応答の態度	
提出物	50	リアクションシートなどの提出物が、期限内に提出されているか、課題に即した内容か、指定された分量や様式が、振り返りができているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
企画書の作成、パワーポイント作成、プレゼンのリハーサルは、授業時間内だけでは足りないため、授業外でも行う。				この授業の核となるキャリア・インカレの最終プレゼンについて、担当教員との質疑応答、外部スタッフ（マイナビ）からのアドバイス、全国大会決勝のプレゼンの鑑賞を踏まえたグループ間の相互コメント、の3側面からフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	グループワークにおいて、各学生が主体的に参加することを希望する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	随時、資料を配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目名	HC300U キャリアデザイン			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、全学共通のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。就職活動への取り組みにあたり、これまでの自分の学びを整理し、自分の特性を正確に把握することが求められる。そのためには、体験活動に対して自己課題をもって臨み、その成果を分析を必要とする。具体的には、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度などを十分に把握した設定した上でこれらの活動に参加する。				これまで培ってきたPDCAサイクルの学びを体験学習に生かすことができる。自分の将来計画に基づいた課題に応じて、自分の資質・能力を向上させることができる。ディスカッションを通して、やりがいのある仕事・よりよい働き方について考察することができる。就職活動に必要な書類作成の準備段階として、働くことを前提とした体験学習を行うことができる。			
教授方法	講義・演習・体験学習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	これまでの学びを整理する。これからの授業計画を理解する。						
2	就職活動に関する準備：就活スケジュールの立案、就活サイトへの登録						
3	体験学習に関する事前説明：地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの目的・意義)						
4	体験学習に関する事前説明：地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段)						
5	体験学習に関する事前説明：地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段)						：事前
6	体験学習の参加(1回目)						
7	体験学習の参加(2回目)						
8	体験学習の参加(3回目)						
9	体験学習の参加(4回目)						
10	体験学習の参加(5回目)						
11	体験学習の参加(6回目)						
12	体験学習の参加(7回目)						
13	体験学習の振り返り(取り組み状況の確認)						
14	体験学習の振り返り(自己課題を明確にする)						
15	授業のまとめ：体験学習報告会						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	40	・授業・活動に対して積極的な姿勢に臨んでいるか。 ・不明な点については適宜質問などができるか。			体験学習参加状況	40	報告・連絡・相談が徹底されているか。PDCAサイクルが身についているか。
レポート	20	これからの生き方や就職活動につながる体験学習であったか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
就活サイトの確認[30分] 体験学習に関する事前研究[60分] 体験学習に関する事後研究[60分] レポート作成[60分]				レポートについては、評価後コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	体験学習については、これまでのキャリアデザインで培ってきた知識や技術を生かすこと。 無断欠席はもちろんのこと、遅刻早退について必ず担当教員に連絡すること。			教科書・テキスト	適宜資料プリントを配布する		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC300U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	若山 将実・勝谷 紀子 (代表教員 若山 将実)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、「キャリアデザイン」(MIP1)、「キャリアデザイン」 「キャリアデザイン」(MIP2)、「キャリアデザイン」で学んだこと を活かして、就職活動に必要な実践力を養う。実践力を養う1つの方法と して、インターンシップに参加する。そのために、説明会への参加、企業 研究などの準備を行う。			就職活動の流れを把握する。 就職活動に必要な情報を収集することができるようになる。 インターンシップに参加し、働く自分を具体的にイメージできるようになる。				
教授方法	講義、演習						
履修条件	「キャリアデザイン」～「キャリアデザイン」を履修済であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	就職活動とは何か：就職活動とインターンシップについて理解する。						
3	インターンシップ参加に向けて～企業研究の方法～企業研究の方法について理解する。						
4	インターンシップ参加に向けて～企業の選び方～：インターンシップ希望企業と参加理由を考える。						
5	ジョブカフェ石川学内説明会参加：就職活動に関する情報を収集する。						
6	インターンシップフェス参加：インターンシップについての情報を収集する。						
7	自分に合う企業の探し方～企業研究：志望動機を書くための業界・企業研究の方法を学ぶ。						
8	自分に合う企業の探し方～企業研究：自分で企業研究を試みる。						
9	リクナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する。						
10	筆記試験対策：筆記試験の内容を把握し、練習問題にチャレンジする。						
11	全国一斉WEB模擬テスト受験：自分の今の実力を知る。						
12	SPI性格検査：自分の強みを知って企業研究をする。						
13	インターンシップ準備：各自で企業研究・面接・企業訪問のポイントを整理する。						
14	インターンシップ準備：インターンシップまでの夏休みの行動計画を立てる						
15	インターンシップ参加：希望企業のインターンシップに参加する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業中のワークを達成できたか、 講義・演習(グループワーク含む)に対して積極的に 参加しているか。		インターン シップへの 参加	40	インターンシップに参加したか。	
提出物	30	課題に対して適切な内容になっているか。 定められた期間内に提出しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
インターンシップに参加するための準備を授業外でも進めること。指示された課題を 行うこと。【60分】				課題についてコメントする。			
受講生に 望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真面目に、かつ積極的に取り組んで ください。			教科書・ テキスト	なし。		
指定図書/ 参考書等	なし。			その他・ 特記事項	インターンシップ参加については各自実費となります。		

授業科目名	HC310U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業はキャリア教育科目の集大成として、実際の就職活動の流れと並行し、より現実的な就活スキルについて実践的な学びを深める。具体的にはインターンシップ報告会の実施を通して、様々な職場で「働く」ということの実感を学ぶ。その上で改めて求人先に提出する履歴書・エントリーシート等の作成に取り組む。また面接やグループディスカッションの対策についても繰り返し実践し、企業担当者からの指導も受けながら、自信をもって就職活動に臨むことができるよう準備をする。			インターンシップ報告会において働くことの実感を理解している。履歴書・エントリーシート等の作成において、自分らしさを表現した自己PR欄を書くことができる。自信をもって面接やグループディスカッションに臨むことができる。就職説明会等の情報を幅広く収集し、広い視野をもって参加することができる。				
教授方法	講義・演習・ディスカッション						
履修条件	「キャリアデザイン」を履修済であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要に関する説明、インターンシップ報告会に向けての準備をする。						
2	インターンシップ報告会を実施する。					学生支援課	
3	インターンシップで身につけてきたスキルをもとに「働く」ことの意義を考える。						
4	就職活動全体の流れと体験ワークを行う。					外部講師	
5	履歴書・エントリーシートの書き方の具体的ポイントについて深める。						
6	履歴書・エントリーシートの自己PR欄等の内容を深める。						
7	志望動機を書くための業界研究講座を行う。					外部講師	
8	作成した履歴書・エントリーシートについて見直し、改善を行う。						
9	ロールプレイを通して個別面接における基本的な心得を学ぶ。						
10	面談の備えと振り返りを面談予習復習シートを活用して行う。					学生支援課	
11	集団面接やグループディスカッションにおける基本的な心得を学ぶ。						
12	面接を乗り切るための講座：面接のQ&A等を行う。						
13	就職説明会の種類や開催時期、参加の方法等について学ぶ。					学生支援課	
14	挨拶、身だしなみ、電話対応、手紙やメールの内容等、ビジネスマナーについて改めて考える。						
15	今後の就職活動を意義あるものにするために、学びの成果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業に積極的に参加しているか。報告・連絡・相談ができてきているか。		インターンシップ報告会	20	インターンシップ報告会への取り組みを適切にレポートにまとめているか。	
履歴書の作成	20	より具体的に自分を表現した内容で、履歴書・エントリーシートが作成できているか。		最終レポート	20	ビジネスマナーについての自分の考え面接に臨むにあたっての自分の考え就職活動に対する自分の決意等	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
インターンシップで身につけたスキルを発表原稿にまとめる。[90分] 自分の履歴書・エントリーシートの見直し改善を行い、追記しながら内容を具体的にしてい。[60分] 面接・ディスカッションの際、他者の発言の意図をくみ取ったり理論的な発言ができるように練習をしておく。[30分]			インターンシップの報告会を終えて、他者の学びから改めて自分の学びの振り返りを行う。 履歴書・エントリーシートの見直し改善を行う。 各種面接の繰り返しを通して自分に自信をもつ。				
受講生に望むこと	日々のニュースや新聞に触れ、情報を収集する癖をつけてほしい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	外部講師の都合により、日程が変更になる場合がある。			

授業科目名	HC310U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	若山 将実・勝谷 紀子 (代表教員 若山 将実)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、「キャリアデザイン」に引き続いて行う内容となっている。「キャリアデザイン」で体験したインターンシップやそのための準備で経験したことをふまえて、社会で求められる力を認識するとともに、実際の就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。			社会で求められる力を具体的に述べるができるようになる。就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。			
教授方法	講義, 演習					
履修条件	「キャリアデザイン」～「キャリアデザイン」を履修済であることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション					
2	インターンシップ報告会：「キャリアデザイン」で参加したインターンシップについて報告する					
3	履歴書・エントリーシート～自己PRの作成～履歴書の基本と自己PRにチャレンジする。					
4	自分に合う企業の探し方～自己PRと自己分析～：自己PRを書くための自己分析を行う。					
5	就職活動までのスケジュールの再確認・適性診断（パーソナリティの特徴・社会人基礎力の判定）					
6	企業と業界研究：企業と業界，業界同士の接続を知る。					
7	企業と職種研究：職種と役割について知る。					
8	業界・企業・職種研究：各グループで研究テーマを決めて，調べる。					
9	業界・企業・職種研究：グループごとに各研究内容を発表する。					
10	リクナビインターンシップイベントへの参加：企業についての情報を収集する。					
11	面接の基本：面接の種類とその特徴，よく聞かれる質問の意図などを知る。					
12	面接の基本：模擬面接を体験し，面接で求められるレベルと現状のギャップを認識する。					
13	学内キャリアガイダンスへの参加：企業や先輩の話から必要な情報を収集する。					
14	就職活動本番に向けて：合同説明会の有効活用法など就職活動に役立つ知識を獲得する。					
15	1年間の振り返りとこれからの行動計画：2月までにやっておくことの確認と，3月以降にやることのシミュレーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度 講義・演習（グループワーク含む）に対して積極的に参加しているか。		発表	40	発表内容 発表態度 質疑への応答
提出物	30	課題に対して適切な内容になっているか。 定められた期間内に提出しているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
発表準備を進めること。業界・企業・職種研究を進めること。〔90分〕				発表について各グループごとにコメントします。		
受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので，真面目に，かつ積極的に取り組んでください。			教科書・テキスト	なし。	
指定図書/参考書等	なし。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力(コンピュータリテラシー)を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力(情報リテラシー)を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。</p>			<p>学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。電子メールの送受信ができるようになる。情報倫理に関する基本的な知識を身につける。Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>			
教授方法	演習形式					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。					
2	Windows8の基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。					
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
4	Excel関数：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
5	Excel関数：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数：表引き関数の操作方法を習得する。					
7	Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。					
8	Excelデータ加工：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
9	Excelデータ加工：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
10	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
11	Word文書作成：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
12	Word文書作成：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
13	Word文書作成：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。					
14	総合課題：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。					
15	総合課題：レポートを完成させ、提出する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト/課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%) / 適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第2版 noa出版 2017年出版 『2019年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2019年出版	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションである文書作成ソフト・表計算ソフトの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱ったための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>Excelの基本操作を習得し、データを加工し、適切なグラフ作成ができるようになる。 Excelで複合グラフを作成することができるようになる。 Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。						
2	Excel関数：相対参照と絶対参照の違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。						
3	Excel関数：条件分岐関数の操作方法を習得する。						
4	Excel関数：表引き関数の操作方法を習得する。						
5	Excel小課題：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について、小テストで習得の確認を行う。						
6	Excelデータ加工：データの加工・並べ替え方法を習得する。						
7	Excelデータ加工：基本的なグラフの作成方法を習得する。						
8	Excel小課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。						
9	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習で学んだ関数の振り返りを行う。						
10	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。						
11	Word文書作成：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。						
12	Word文書作成：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。						
13	Word文書作成：図形・ワードアート・画像などを使ったチラシの作成方法を習得する。						
14	総合課題：与えられた課題に対し、Excelでデータ分析を行い、Wordでレポートを作成する。						
15	総合課題：レポートを完成させ、提出する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Excel小課題	30	・授業で学んだ関数が正しく利用できるか。		Excel小課題	15	・適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%) ・関数を利用した実用的な表が作成できるか。(5%) ・複合グラフが作成できるか。(5%)	
総合課題	25	・レポートが序論・本論・結論で構成されているか。 ・わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	・提出物などにより授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>コンピュータ操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。上記について、合計30時間分の授業外学習を随時指示するので、それに従うこと。</p>			<p>課題は原則として翌週に返却する。（課題提出回の授業で使用することもある。）</p>				
受講生に望むこと	コンピュータの基本的な操作スキルは、大学での学び・社会生活に必要な不可欠なものである。本授業を通じて、コンピュータを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	noa出版『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応（第2版）』（ワークアカデミー、2017年）		
指定図書/参考書等	指定図書：なし/参考図書：山中伸弥・伊藤穰一『プレゼン力～未来を変える伝える技術～』（講談社、2016年）。<ISBN：978-4062195638>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。この授業は、全学共通であるキャリア教育科目の1つである。</p>			<p>Excelで複合グラフが作成できる。 PowerPointの基本操作を習得する。 プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようにする。 どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習 で学んだ関数の振り返りを行う。					
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。					
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。					
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。					
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。					
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。					
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。					
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。					
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
12	画像・音声・動画ファイルの編集加工：画像・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。					
13	マルチメディア作品の制作：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。					
14	マルチメディア作品の制作：マルチメディア作品を作る。					
15	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。		プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
マルチメディア作品	25	テーマに沿った作品であるか。音声画像・動画ファイルの切替えのタイミングに合っているか。		授業参加態度	30	出席状況、授業への取組み姿勢。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。 7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。 8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。 9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。 パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 これら ~ について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応(第2版)』noa出版 2017年	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション能力が欠かせない。本コースにおいては、代表的なプレゼンテーションソフトであるMicrosoft Powerpointの基本操作を習得するとともに、より効果的なプレゼンテーション資料作成のための画像・音声・動画の編集加工の基本操作を習得する。さらに、受講者によるプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し、向上させることを目的とする。</p>			<p>情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 PowerPointの基本操作を習得する。 効果的なプレゼンテーションについて理解するとともに、そのような資料を作成し発表できるようにする。 どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス。情報倫理に関する知識を身につける。						
2	プレゼンテーションの基本理解：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。						
3	PowerPointの基本操作 簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
4	簡単なプレゼンテーション資料を作る：自己紹介用資料を実際に作成してみる。						
5	PowerPointプレゼン内容の流れ：目的・書き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。						
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。						
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用原稿を作成する。						
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。						
9	動画・音声・動画ファイルの編集加工：動画・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。						
10	マルチメディア作品の制作：オリジナルのテーマを設定し、素材となる画像・音声・動画ファイルの編集加工を行う。						
11	マルチメディア作品の制作：マルチメディア作品を作る。						
12	マルチメディア作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。						
13	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼン（Aグループ）から良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
14	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼン（Bグループ）から良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
15	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼン（Cグループ）から良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度・理解度	20	講義で学んだ技術等を理解し、使いこなせるか、グループワークへの積極的参加。		プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で、わかりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て発表したか。	
マルチメディア作品	40	テーマに沿った作品か。音声画像・動画ファイルの切替のタイミングに合っているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。 7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。 8回目のリハーサルで指摘されたこと、気付いたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。 13～15回のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように十分な練習をする。 パソコン操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 事前にレジュメを配布する場合があるので、必ず目を通しておくこと【30分】</p>			講義の進捗にあわせて適宜課題を課し、技術的習熟度を確保する。				
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めて欲しい。			教科書・テキスト	noa出版『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応（第2版）』（ワークアカデミー、2017年） noa出版『2019年度版 情報倫理ハンドブック』（ワークアカデミー、2019年）		
指定図書/参考書等	指定図書：なし/参考図書：山中伸弥・伊藤穰一『プレゼン力～未来を変える伝える技術～』（講談社、2016年）。<ISBN：978-4062195638>			その他・特記事項	なし		

子ども教育学科
(1年次)

授業科目名	EK100U 基礎ゼミ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	向出 圭吾・虹釜 和昭・田邊 圭子・中島 賢介・姫野 俊幸 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
1年次の基礎ゼミでは、大学での基本的な学びの姿勢、知的探究の方法の修得を目指す。具体的には、基礎ゼミにおいて、テキストを参考にしながら、ノートテイキング、レポート作成、文献の調べ方や文章の要約といったスタディスキルを学び、大学での授業内容理解に必要な力を身につける。 大学では「自ら学ぶ」という自主的、主体的姿勢が求められるので、ゼミでの学習を通して、大学生としての学びを主体的に進めていく積極的な姿勢を体感し修得していく。またゼミ内でのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を磨くことも目指す。			大学での学び方について理解している。 図書館やインターネット等を利用した情報収集の方法を習得する。 ゼミの運営や参加方法を理解し、積極的に関わろうとする。 レポートの書き方を理解している。			
教授方法	各ゼミごとの演習					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	(前半合同)ゼミの進め方や履修登録の確認を行う。(後半)ゼミごとに自己紹介を行い、係りを決める。					全員
2	(合同)図書館利用オリエンテーション:情報収集の仕方を具体的に学ぶ。(テキスト第5章に該当)					全員
3	ゼミごとに図書館で借りた絵本の紹介をする。					各担当教員
4	スタディ・スキルズとは?:自己の目標設定、大学での学びについて考える。(テキスト第1章)					各担当教員
5	ノートテイキングのスキル:ノートテイキングの方法について学び、理解する。(テキスト第2章)					各担当教員
6	リーディングの基本スキル:リーディングの基本スキルを学び、実際に文章を意識して読んでみる。(テキスト第3章)					各担当教員
7	より深いリーディングのために:要約するとは?要約文作成の仕方を学ぶ。(テキスト第4章)					各担当教員
8	より深いリーディングのために:感想と意見との違いを理解し、自分の考えをまとめてみる。(テキスト第4章)					各担当教員
9	リーディングの実践:テキストをもとに要約文を書く。					各担当教員
10	リーディングの実践:要約文をもとに自分の考えを書く。					各担当教員
11	調べる・整理する:情報収集、文献調査、情報の整理の仕方について学び、理解する。(テキスト第6.7章)					各担当教員
12	アカデミック・ライティングの基本スキル:レポートと感想文の違い、レポート作成の基本を知る。(テキスト第8章)					各担当教員
13	各自見直し改善したレポートをゼミ内で発表					各担当教員
14	各自見直し改善したレポートをゼミ内で発表					各担当教員
15	(合同)後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	意欲的に参加:50点、概ね参加:30点 無関心・意欲的でない:10点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		レポート	50	内容が、ゼミで指導された基本スキルを用いて書かれているかどうかを基準とする。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
大学での自主的・主体的学びを修得するため、各教員から提示される課題遂行の際は、積極的に図書館やインターネット等を利用し、情報収集とスタディ・スキルズに則ったまとめ方を旨とする。[60分] 授業の各回に示されているテキストの章を予め読んで、ゼミに臨むこと。[20分] 各教員から紹介された文献等に関して、図書館で検索閲覧し、自分で内容を確認すること。[30分]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。 毎回授業の初めに、前時の授業における振り返りを行い、質問や意見に対するコメントを行う。		
受講生に望むこと	少人数のゼミ形式で行うため、ゼミの時間は遅刻せず、積極的に仲間の話を聞き、かつ自分の意見も述べるように努めてほしい。また、提示された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げ提出すること。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN:978-4-87424-789-1 『子どもにかかわる仕事』汐見稔幸編 岩波ジュニア新書 2011年 ISBN:978-4-00-500683-0	
指定図書/参考書等	担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については、担当教員の指示に従うこと。	

授業科目名	EK110U 基礎ゼミ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・大井 佳子・田邊 圭子・中島 賢介・高村 真希 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
基礎ゼミ では、基礎ゼミ で会得した主体的、対話的な学びの姿勢を土台に、より実践的に学習し、考える力やディスカッションの力を高め、プレゼンテーションによる表現能力の向上を図る。具体的には、各ゼミ内で決めた自分の研究テーマに沿って各自が発表し合い、ディスカッションを行う中で、互いの学びを共有すると共に、より多面的な見方・考え方を身につける。また、自己の研究目的を明確化し、将来設計との関連性を意識しつつ、プロゼミの学びへと繋げていく。			ゼミ運営に積極的に協力し、話し合いによって深い学びを創り上げていこうとしている。研究のための文献や資料を自分なりに収集することができるようになる。プレゼンテーションによって自分の研究課題と内容、考察結果等を発表できるようにする。大学で学ぶ姿勢を身につける。				
教授方法	演習						
履修条件	「基礎ゼミ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	(合同)：成績に関する指導、履修の確認、及び履修カルテの作成などを行う。					全員	
2	レポートテーマの設定と指導(1)〔テキスト第8章〕：課題の立て方について					各担当教員	
3	レポートテーマの設定と指導(2)〔テキスト第8章〕：分析方法について					各担当教員	
4	レポートテーマの設定と指導(3)〔テキスト第8章〕：先行研究などの検討					各担当教員	
5	(合同)：プレゼンテーション方法についての理解〔テキスト第11章〕					全員	
6	各自研究計画の発表・質疑・検討(1)：各ゼミで分担を設定し進める。					各担当教員	
7	各自研究計画の発表・質疑・検討(2)：各ゼミで分担を設定し進める。					各担当教員	
8	各自研究計画の発表・質疑・検討(3)：各ゼミで分担を設定し進める。					各担当教員	
9	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表準備 パワーポイント作成					各担当教員	
10	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(1)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
11	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(2)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
12	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(3)：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
13	(合同)：全体会において、ゼミ代表者のプレゼンテーション発表を行う。(各ゼミ1名)					全員	
14	(合同)：2年次コース履修に関する説明と希望調査を行う。					全員	
15	前半(合同)：2年次の履修登録の説明と確認を行う。 後半：各ゼミで学びの振り返りを行う。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言 50 点 概ね参加 30 点 無関心・意欲がない 10 点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		プレゼンテーション	30	内容はオリジナルなものが、参考文献の選定や引用は適切か。 時間内に収まる構成だったか。 他者に伝わるような話し方、内容だったか。	
最終レポート	20	発表者の内容を理解し、自分の言葉で要約できているか。 ゼミ内での学習をしっかりと振り返っているか。 今後の学習課題を自分なりに把握できているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
各自プレゼンテーションのためのテーマを選定し研究計画を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには日頃から「子ども」や「教育」への関心を持ってニュースなどに触れること。〔各30分〕 プレゼンテーションのためのパワーポイント作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。〔120分〕 学内の環境(ILCやLLCなど)を有効に活用し、効果的なプレゼンテーションができるように準備する。〔60分〕			その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考に自分の学びを深めていく。				
受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。ゼミ中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答し、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN: 978-4-87424-789-1 (基礎ゼミ から引き続き使用)		
指定図書/参考書等	担当教員の指示に従うこと。/担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する回の授業内容は、日程によって前後する場合があります。		

授業科目名	EK120U 地域社会と子ども		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・幸 聖二郎・高村 真希・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修の科目であり、各免許資格取得に必要な学びを行うための入門科目である。学生は教育者・保育者としての実践力の基礎を身に付けるために、地域の子どものかかわり(小学校参観、認定こども園を含む幼稚園参観・保育所参観及び希望者のみ中学校参観)を体験する。各体験の前には、子どもの発達とそれにかかわる今日的テーマでの概説を行い、学生は課題意識をもってそれぞれの参観に臨む。参観後はディスカッションを通して新たな気づきや課題を得る。こうした講義と体験・ディスカッションを通して、子どもの育ちに関連した地域の課題に触れ、専門科目の学びの方向性をつかむ。			講義と参観事前レポートを通して参観先の概要を把握し、ねらいをもって参観に臨むことができる。参観した内容を客観的に記録し、そこから見えてくるものを順序立てて記述することができる。参観での子どもの成長や子育て支援の現状等を文章にまとめ、グループ内で発表することができる。ディスカッションやその都度のレポート作成を通して、地域の小学校、認定こども園を含む幼稚園・保育所、中学校の今日的課題を発見し、対処方法について自分なりに考えることができる。グループディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。まとめたレポートを、他者にわかりやすく、自分の言葉で発表することができる。				
教授方法	講義・参観・グループディスカッションを併用して行う。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、学外体験活動時の諸注意、参観マナー等について理解する。					全員	
2	大学行事「Enjoyミッション」の概要説明と当日の取り組みについて、4年生と合同で打ち合わせを行う。					向出・幸谷・高村	
3	児童期の子ども理解：児童期の発達の特徴、小学校の学習課程を理解し、模擬授業を通して小学校教諭と児童との関わり方を考える。事前レポートを作成する。					幸・向出谷・高村	
4	大学行事「Enjoyミッション」への参加：4年生及び幼稚園児、小学生とともに遊びコーナーを体験する。					全員	
5	学外体験活動 小学校参観：各自のねらいに沿って指定の小学校の参観を行う。事後レポートを作成する。					向出・幸谷・高村	
6	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の小学校の特徴や気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					向出・幸谷・高村	
7	幼児期の子ども理解：幼稚園や幼稚園教諭の役割、年齢ごとの発達や遊びの特性について理解する。事前レポートを作成する。					谷・向出幸・高村	
8	学外体験活動 認定こども園を含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って指定の幼稚園の参観を行う。事後レポートを作成する。					向出・幸谷・高村	
9	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の幼稚園や幼児期の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					向出・幸谷・高村	
10	乳児期の子ども理解：0歳から小学校入学までの子どもと保育所の果たす役割について理解する。事前レポートを作成する。					高村・向出幸・谷	
11	学外体験活動 認定こども園を含む保育所参観：各自のねらいに沿って指定の保育所の参観を行う。事後レポートを作成する。					向出・幸谷・高村	
12	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の保育所や乳幼児期の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					向出・幸谷・高村	
13	(前半合同)中学校の生徒理解と英語教育の現状について理解する。(後半希望者)中学校事前学習：事前レポートを作成する。(後半希望者以外)3回の学外体験活動から学びを振り返る。最終レポートを作成する。					全員	
14	(希望者)中学校参観の振り返り：各自作成したレポートをもとに話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。(希望者以外)グループ内発表：最終レポートから発表原稿をまとめ、自分の思いや考えを発表という形で他者に伝える。					全員	
15	全体レポート発表：代表者によるレポート発表を行い、質疑応答を交えて子どもに関わる学びを総合的に把握する。発表後に学んだことを最終レポートに追記して提出する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	50	事前の講義を踏まえ、ねらいをもって参観しているか。グループディスカッションに積極的に参加しているか。		各レポート及び発表	50	指定の様式で作成しているか。自分の気づき、考えを記述しているか。自分の言葉で発表できているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
各講義終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事前レポートを作成する。[60分×3又は4]学外体験活動～終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事後レポートを作成する。[60分×3又は4]			事前レポートをもとに、ねらいをもって参観に臨む。事後レポートをもとに、グループディスカッションで得られた学びを追記する。さらにその理解度を確かめるために、グループ内発表を通して、自分の学びを深める。				
受講生に望むこと	傍観的な態度ではなく、意欲的に学外体験活動に参加すること。表面的な観察や記録ではなく、その根拠となる自分の思いを常に考える姿勢をもつこと。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/ 『小学校学習指導要領』文部科学省 東洋館出版社 2018年 ISBN:9784491034607 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499		その他・特記事項	受け入れ側の事情で、参観の日程を変更する場合がある。参観は、通常の時間割に加えて2コマ連続して行うで注意すること。中学校参観は希望者のみの参加。参観は、教育・保育の妨げにならないように配慮し、マナーを守り、服装にも十分注意すること。			

授業科目名	EK130U 教育学概論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、教育の理念、歴史、思想がテーマとなる。そのため、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて順次、講義を進めていく。そして、それらの理解のうちに、現代の教育学の課題の1つとしての「チームワーク能力」を扱い、校長のリーダーシップの下、どのように「チームとしての学校」を運営していくかについて考える。</p>			<p>教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素（子供・教員・家庭・学校など）とそれらの相互関係を理解している。 学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解するとともに、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 家庭や子供に関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観（教育の意味や歴史を概観するとともに子供観の類型を知る。）						
2	教育の本質と教育の目標：人間と教育（人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。）						
3	教育を成り立たせる要素：発達と教育（ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。）						
4	教育を成り立たせる要素：社会と人間（教育の場）（子供の発達に伴う教育の場としての家庭（学校（地域とそれらの関係について理解する。）						
5	教育を成り立たせる要素：社会と人間に関する思想・理論（教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。）						
6	教育の歴史：西洋における教育学の歴史（時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）						
7	教育の歴史：中国における教育学の歴史（古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。）						
8	教育の歴史：日本における教育学の歴史（時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）						
9	教育の歴史：教育を受ける権利の思想（西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。）						
10	近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性（西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。）						
11	現代社会における教育の課題：教育条件の整備（教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。）						
12	教育の理念：人間（個人）の尊厳（日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子供の成長と教育について考える。）						
13	教育の思想：市民の育成と平和の創造（世界や日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。）						
14	教育の思想：代表的な教育家の思想（デューイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。）						
15	教育学の課題：チームワーク能力（校長のリーダーシップの下、どのように「チームとしての学校」を運営していくか考える。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	・講義内容を正しく理解している。 ・教育学について自分の考え方を持っている。		中間レポート	15	教育学の歴史について「西洋」「中国」「日本」から選択し、自分の考えを交えて書いている。	
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・教育の理念や歴史などを理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。〔30分〕 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の「ミニッツコメント」にコメントする。〔30分〕 教育の理念、歴史、思想など、教育学に関し、週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。〔30分以上〕</p>				<p>小テストを採点して返却する。 中間レポートの評価コメントを返す。 定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。</p>			
受講生に望むこと	・どんな観点でもよいので、教育または教育学に興味・関心をもって授業に臨んでください。			教科書・テキスト	『教育学概論（教師教育テキストシリーズ）』、三輪定宣著、学文社、2012年出版、ISBN978-4-7620-1651-6		
指定図書/参考書等	『保育所保育指針』、厚生労働省、2017告示、『幼稚園教育要領』、文部科学省、2017年告示、『小学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示、『中学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK151U 特別支援教育論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択
担当教員名	大井 佳子・谷 昌代・田中 早苗 (代表教員 大井 佳子)				
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)・准学校心理士		
授業の概要			授業の到達目標		
<p>教職をめざす学生は、大学生活を通じて保育・教育の現場で多様な子どもたちと実践的にかかわる。本科目では講義、グループディスカッションを含むワークによって、自身の育ちの過程での体験、ボランティア等で体験したエピソード、ビデオ映像を含む事例に対して「なぜ?」と考えることを積み重ね、「見えにくい障害」や「障害ではない特別の支援のニーズ」について知ることで、「異なる者」を受け入れる寛容性を育みつつ子どもの姿から学ぼうとする志向性が個々の支援の方法を見出させるものであることを知る。保育者・教師が陥りがちな障害に対する誤解と不適切な関わり、マニュアル的な対応の危険性について知り、個々の場面でその対応を導く「その人理解」には、乳幼児期から成人までの長いスパンでの俯瞰的な視座と、園・学校といった集団生活の場と合わせて家庭等での姿までを見る総合的視座が重要であることを理解する。</p>			<p>通常の学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。発達障害者支援法によって国が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐる今日の状況を知り、専門家のみならず全ての人が支援の担い手であることを理解している。発達障害児、若くは乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。合理的配慮の概念について理解し、自閉性スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画を考えることができる。特別の支援を必要とする児、若くは共に生活する親や家族、さらに保育者・教師が陥りやすい心情や状況について知り、家族支援やピアサポートについて理解している。特別支援教育の制度の実態を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を越えて理解をつなげ、自立に向けた育ちをつなぐことの重要性を理解している。障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。特別支援教育の制度の実態を知り、家庭・地域との空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続等の時間を越えて、理解と自立に向けた育ちをつなぐ重要性を理解している。</p>		
教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク				
履修条件	なし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
1	発達障害という見えにくい障害に起因する生き辛さについて感覚過敏の事例から考える。				谷昌代
2	自閉性スペクトラム障害 : コミュニケーションの障害とは何か? 語用論について理解する。				谷昌代
3	自閉性スペクトラム障害 : 興味の偏りと発達凸凹がもたらす困難について考える。				谷昌代
4	自閉性スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校と家庭との連携の意味を理解する。				谷昌代
5	発達障害をもつ子どもと教師のコミュニケーション事例の分析から個別支援計画について考える。				谷昌代
6	学校における合理的配慮と支援の方法: 就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間接続について考える。				大井佳子
7	支援とは: 「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか? 大人にとって「都合がいい」ことを目標にしているだろうか?				大井佳子
8	自閉性スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。				大井佳子
9	障害に対する気づきと受容: 発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐる現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。				大井佳子
10	注意欠陥多動性障害: その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。				田中早苗
11	学習障害: その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。				田中早苗
12	二次障害: 過剰適応からのウツと不登校問題を中心に考える。				田中早苗
13	母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。				田中早苗
14	特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日の見方を理解する。				田中早苗
15	インクルーシブ教育は、障害をもつ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人たちが享受する教育理念であることを理解する。				大井佳子
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合
定期試験	60	用語・基本的概念の理解 事例・エピソードからの読み取り 配慮・支援についての理解		ミニレポート	30
授業内ワーク	10	求められた課題に対して自分の考えを記していること			
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>毎回、授業外学習の課題が提示され、ミニレポートとして提出する。内容は 障害、発達、言葉とコミュニケーションに関する用語、基本的概念について調べる。 支援に関わる法律や制度について調べる。 配布資料から障害をめぐる諸問題について読み取り、自分なりの考えをまとめる。 [30分~60分程度]</p>			<p>ミニレポートと授業内ワークに記された関心・質問に次回以降の授業内容で対応する。</p>		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意してください。 ・返却されたミニレポートは授業で得る理解を受けて適宜補充し、自身の理解の深まりを反映させてください。 		教科書・テキスト	適宜 資料配布	
指定図書/参考書等	なし/ 参考図書は授業内で適宜紹介。		その他・特記事項	授業外課題であるミニレポートは定期試験の持ち込み資料となるため、欠席時であっても授業外課題には取組み提出することを勧める。返却後には内容の訂正、補充を行い、管理すること。定期試験後に再提出を求め、最終評価の対象となる。	

授業科目名	EK160U 日本国憲法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	今井 竜也					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
憲法、および人権の基本原則を理解し、人権の中でも特に自由権と呼ばれる権利の性質について、並びに国会、内閣、裁判所という統治機構の仕組みについて、学説や判例等を交えながら解説する。			憲法で保障されている基本的人権が、いかなる理論を基礎として形作られていて、それが私たちの社会生活といかに密接に関係しているのか、統治機構が国民の人権を保障するためにどのような働きをしているのかを知ることで、憲法に対する理解と見識を深めるとともに、「国のかたち」を示す憲法の重要性を理解し、私たちの国や社会がどうあるべきかについて改めて考えなおすきっかけを提供する。			
教授方法	レジュメ、資料集を配布し、講義形式で行う。重要な論点については適宜板書を交えて説明するので、各自、必要に応じ板書を取る。					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	憲法とは何か 「憲法」のおおまかなイメージをつかむ (イントロダクション、憲法を学ぶことの意義、憲法の内容と意味、規範としての特質と分類)					
2	人権の設計図 人権の概念と種類 (人権を生み出した自然権という概念とはどのようなものであり、人権はその性質にあわせてどのような分類が出来るのかについて学ぶ)					
3	人権の設計図 人権の主体と範囲 (人権とはどのような人がそれを享有し、行使することが出来、その効力はどの範囲にまで及ぶものなのかについて学ぶ)					
4	法の下での平等 「平等」の持つ意味 (憲法上の権利と平等とはどのような関係性を持つのか、現代社会における平等のあり方を正義の実現という観点から学ぶ)					
5	法の下での平等 平等原則と差別の禁止 (憲法14条に規定されている法の下での平等の意味について、家族、教育に関する事件の判例から法の下での平等が何を要求しているのかを学ぶ)					
6	精神的自由権 思想・良心の自由 (人間の精神活動の中で最も基本的・かつ絶対的なものとして位置づけられる思想・良心の自由の内容について学ぶ)					
7	精神的自由権 信教の自由、学問の自由 (近代自由主義の礎として意味づけられる信教の自由、真理探求という営みにおける学問の自由のあり方について学ぶ)					
8	経済的自由権 職業選択の自由、居住・移転の自由 (特権から人権となった経済活動の自由を保障するものとしての職業選択、居住・移転の自由について学ぶ)					
9	経済的自由権 財産権の保障 (自由権から社会権への流れとともに変容する財産権の性質と保障のあり方について学ぶ)					
10	人身の自由 奴隷的拘束および苦役からの自由、適性手続の保障 (権力者による恣意的な処罰、身体に対する不当な拘束、威嚇に対抗する権利としての人身の自由について学ぶ)					
11	人身の自由 被疑者の権利と被告人の権利 (不当な逮捕、抑留や拘留に対抗する権利、公正で迅速な公開裁判を受ける権利という、被疑者、被告人が有する権利の内容について学ぶ)					
12	国会 立法を司る機関の仕組み (国民の代表で構成され、法律を制定する権限である立法権を有する統治機構である国会の地位、権能、活動について学ぶ)					
13	内閣 行政を司る機関の仕組み (国家における行政を担い、国政の中心的役割を果たす内閣の組織と権限、立法府である国会との関係、行政の意義について学ぶ)					
14	裁判所 司法権の意味と司法権の独立 (裁判所が有する司法権の概念、裁判所の組織構成と権能、および司法権の独立がどのような意義や内容を有しているのかについて学ぶ)					
15	裁判所 違憲審査制、国民の司法参加と裁判員制度 (憲法81条に規定されている違憲審査制の法的性質とその対象、方法と効力、ならびに国民の司法参加を目的として創設された裁判員制度について学ぶ)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
筆記試験	80	授業内容の基本的な理解と、身につけた知識を応用する能力を見る。筆記試験の詳細については、授業内で指示する。		出席状況および授業アンケート記載内容	20	毎時間、出欠状況と授業の理解度確認のため行う授業アンケートに記載されている内容(授業内容についての意見、感想、質問等)で評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
・予習は余力のある場合のみで良いので、とくに復習に力を入れること。その週の授業内容については、理解の不十分な箇所については各自、参考書なども参照しながらレジュメや板書を読み返しておくこと。[30分] ・憲法改正議論など、今後、社会においてタイムリーな話題として憲法問題が扱われることが多くなると思われるので、可能な限り新聞やテレビのニュース等に目を通して、社会で起きている出来事についても、アンテナを張りめぐらせること。[30分]			毎時間行う授業アンケートに記載されている疑問、質問等の内容から、特に補足が必要と思われるトピックスについては、次週の冒頭において適宜、復習を行います。			
受講生に望むこと	一見すると、日常生活からは遠い存在のように見える憲法は、実は私たちの社会生活と密接な関わりを持っています。特に、憲法改正が現実味を帯びてきている昨今、私達一人一人も、国や社会のあり方について、相応の見識を持つことが必要になります。授業を通じ、憲法を始めとする法の役割を知るだけでなく、広く社会に対し興味関心をもって欲しいと思います。		教科書・テキスト	使用しない		
指定図書/参考書等	なし/特に指定はしないが、予習復習のため、初学者用の日本国憲法概説書(2000年前後で、出版年の新しいもの)を各自一冊、手元に用意しておくことが望ましい。最近出たものとして、『教職教養憲法15話 改訂2版』加藤一彦著 北樹出版 2014年、定評のある入門書として『憲法1 人権 第5版』渋谷秀樹・赤坂正浩著 有斐閣アルマ 2013年を紹介しておく。		その他・特記事項	各週の授業内容については、出席と授業内容の理解度確認のために毎時間行う授業アンケートを元に、次回の授業冒頭で補足を加える。受講者の疑問や質問、意見、感想などはなるべく全体で共有し、各自の授業内容理解に役立てたいと考えています。		

授業科目名	ES201U 英語学概論			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要				授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、ことばの変化、音、語彙についての基礎を学ぶ。				・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。 ・英語という言語の発音・発音とスペリングの関係・形態論・変化などについて基礎知識を身につける。			
教授方法	講義						
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、 小学校教諭一種免許状取得希望者、 高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション:「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る						
2	ことばの起源と語族について概観する						
3	人間のことばの特質と言語研究の概要を英語を中心に学ぶ						
4	さまざまな言語研究の方法を知り、分析的観点で英語を捉える						
5	英語の発音とスペリングの仕組み、記述方法、法則性を理解する						
6	英語の語彙の多様性について理解する						
7	標準英語の成立について知る						
8	英語のバリエーション、世界の英語について、現在の英語をめぐる状況とともに知る						
9	第二言語としての英語、外国語としての英語について知る						
10	ことばの変化について概観する						
11	英語の歴史的変化を概観する						
12	ことばと音声の関係を理解する						
13	音の組み合わせとアクセントの仕組みや法則性を理解する						
14	単語ができる仕組みを理解する						
15	形態論と形態素、語形成の概念を知り、理解を深める						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度、毎回の課題	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。			定期試験	70	講義内容の理解度
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく(50分)。 ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む(40分)。				返却時に行う			
受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。			教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する		
指定図書/参考書等	開講時に指示する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES210U 英語音声学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・日本語とは異なる英語のリズム、音体系について理解する。 ・英語の子音を中心に、調音点・調音法に留意しながら正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、 小学校教諭一種免許状取得希望者、 高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション: 「音声学」ではどのようなことを学ぶのかを知る					
2	英語のリズムと日本語のリズムを比較しながら理解する					
3	調音器官とは何かを知り、体験的に理解する					
4	調音点にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する					
5	調音法にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する					
6	破裂音(1) 破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
7	破裂音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
8	摩擦音(1) 摩擦音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
9	摩擦音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
10	破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
11	鼻音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
12	側音の仕組みを知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
13	接近音(1) 接近音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
14	接近音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
15	まとめ 英語の子音体系を調音との関係から振り返りまとめ、英語らしい発音で英文を読む					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	20	単元の理解度		音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく(40分)。 ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする(50分)。				返却時に行う		
受講生に望むこと	・平日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。			教科書・テキスト	『Basic English Pronunciation for Japanese』 染谷正一 2000年 三修社 ISBN: 978-4-384-33308-4 他に必要教材は適宜配布する	
指定図書/参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES310U 英語音声学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。英語音声学Iに引き続き、音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> ・英語音声学Iに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・英語の母音を中心に、正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。 ・語強勢やイントネーションなど英語のプロソディについて基礎知識を身につける。 ・「英語音声学I」、「英語音声学II」で学んだことを踏まえて、平易な英文を英語らしい発音で読むことができる。 			
教授方法	講義と演習					
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、 小学校教諭一種免許状取得希望者、 高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。 「英語音声学I」を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「英語音声学I」で学んだ子音、接近音の中で特に注意すべき発音を確認する					
2	英語の母音体系について概観する					
3	前母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
4	後母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
5	中母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
6	二重母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
7	語強勢と句強勢について学び、ストレス・パタンに注意して発音する					
8	シラブルとは何かを学び、英語のシラブル構造を具体例の発音とともに理解する					
9	機能語と内容語の区別を知り、文強勢にどのような影響するかを発音練習を通じて理解する					
10	強形と弱形について学び、リズムに注意した発音練習を通じて理解する					
11	連結とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
12	脱落とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
13	同化とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
14	イントネーションの仕組みと意味を学び、練習を通して理解を深める					
15	まとめ プロソディの重要性を確認し、英語らしい発音に留意して英文を読み、自己の発音についての課題を把握する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	20	単元の理解度		音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく[40分]。 ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする[50分]。 				返却時に行う		
受講生に望むこと	・平日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。			教科書・テキスト	『Basic English Pronunciation for Japanese』 染谷正一 2000年 三修社 ISBN: 978-4-384-33308-4 他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書/参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センテージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES220U 言語教育のための英文法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきが学ぶ。</p>			<p>英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。(具体的にはCEFR B1~B2(実用英語技能検定2級~1級)程度の力を習得する。) 中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。</p>			
教授方法	受講者の中学・高校での学習履歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	現在形と単純現在形の文型と用いる場面・機能について学ぶ					
2	単純過去形、過去進行形、現在完了形の文型と用いる場面・機能について学ぶ					
3	現在完了形と過去形の文型と用いる場面・機能について学ぶ					
4	過去完了進行形、未来を表す現在時制について、文型と用いる場面・機能について学ぶ					
5	willとbe going toの相違点と共通点について学ぶ					
6	法助動詞とは何か can, could, be able to等、形式と機能・使用場面を学ぶ					
7	法助動詞 should; I suggest you do; would等を持つ機能(依頼・要求・許可等)を学ぶ					
8	理解確認・質疑応答後、理解度確認テスト					
9	ifとwish; 受動態の作り方と使い方を学ぶ					
10	間接話法、疑問文と繰り返しを避ける助動詞の使い方を学ぶ					
11	動名詞と不定詞の使い方を学ぶ					
12	動名詞(like/would likeなど)+ing と 動詞+to不定詞などを理解する					
13	動名詞(後ろにingを伴う様々な表現)などを理解する					
14	冠詞と名詞(可算名詞と不可算名詞)について学ぶ					
15	a, an, theの用法を学ぶ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] 予習・家庭学習課題を指定し、その中から次回的小テストを出題しますので必ず準備すること。[50分]</p>				<p>小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。</p>		
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2016 ISBN-13: 978-4889969238	
指定図書/参考書等	『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 978-4304051692 『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 未定			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES320U 言語教育のための英文法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
前期に引き続き、文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきか学ぶ。			前期に引き続き、英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになる。(具体的にはCEFR B1~B2(実用英語技能検定2級~1級)程度の力をつけることを目標とする。中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	冠詞と名詞 the のつく固有名詞、つかない固有名詞について学ぶ					
2	代名詞と限定詞(1)再帰代名詞、a friend of mineなどについて学ぶ					
3	代名詞と限定詞(2) much, many, little, few, a lot, plentyなどについて学ぶ					
4	関係詞節 主格、目的格、所有格とは何か、どのように用いるか学ぶ					
5	形容詞と副詞(1) -ingや-edの語尾を持つ形容詞、形容詞と副詞(quick/quicklyなど)について学ぶ					
6	形容詞と副詞(2) enough, tooや 比較の文型・使い方について学ぶ					
7	形容詞と副詞(3) 最上級や副詞を用いた文型・使い方について学ぶ					
8	理解確認と理解確認テスト					
9	接続詞と前置詞(1) although, though, even though, inspite of などについて学ぶ					
10	接続詞と前置詞(2) like, as if, as though, for, during, whileなどについて学ぶ					
11	前置詞(1) at, on, in (時、場所を表す前置詞)について学ぶ					
12	前置詞(2) その他の用法、reason forなど前置詞とよく結びつく名詞について学ぶ					
13	前置詞(3) 動詞+toとat、動詞+about/for/of/afterについて学ぶ					
14	句動詞(1) 句動詞とは何か、どのような意味を持つか学ぶ					
15	句動詞(2) in, out, on, off, up, down, away, back等を用いた句動詞について学ぶ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の予習・家庭学習課題を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] 予習・家庭学習課題を指定し、次回の小テストとするので、必ず準備すること。[50分]				小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。		
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2016 ISBN-13: 978-4889969238	
指定図書/参考書等	『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 978-4304051692 『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 未定			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this class we will practice communicating with the English we already know. We will also study useful English communication areas and put what we learn to use through a variety of communication activities.			1. I will make an effort to use the English I already know. 2. I will improve my English ability through communication activities. 3. I will use English as much as possible in the classroom.			
教授方法	Lecture, pair work, group work, individual projects					
履修条件	A desire to use English					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction					
2	Talking about the present part 1					
3	Talking about the present part 2					
4	Discussing past events part 1					
5	Discussing past events part 2					
6	Asking for help					
7	Comprehension check					
8	Considering the future part 1					
9	Considering the future part 2					
10	Asking a series of questions					
11	Giving advice					
12	Things you have to do					
13	Talking about preferences					
14	Describing places					
15	Comprehension check					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Quizzes	25	Quizzes and homework on grammar for communication		Projects/Presentations	25	Presentations in class or individual projects
Attendance and Effort	25	Class attendance and effort to use English in classroom activities		Tests	25	Cumulative Tests
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review previous quiz each week (30 minutes)				Cumulative tests (several mini-tests)		
受講生に望むこと	Effort to use English and enjoyment of communicating in English			教科書・テキスト	マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)第3版 (Basic Grammar in Use) Raymond Murphy著 Cambridge University Press 2016 ISBN-13: 978-4889967654	
指定図書/参考書等	This will be made known in class			その他・特記事項	none	

授業科目名	EL110U プラティカ・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this class we will practice communicating with English we already know through a variety of assignments. We will also continue to study useful communication areas and put things learned into practice.			1. I will make an effort to use the English I already know. 2. I will improve my English ability through communication activities. 3. I will use English as much as possible in the classroom.			
教授方法	Lecture, pair work, group work, individual projects					
履修条件	A desire to use English					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Practice with pleasantries					
2	Description practice					
3	Describing a situation					
4	Practice with word order					
5	Practicing everyday conversation part 1					
6	Practicing everyday conversation part 2					
7	Comprehension check					
8	Practicing English for specific purposes part 1					
9	Practicing English for specific purposes part 2					
10	Being professional; English at work					
11	Different kinds of English					
12	Practice with the little words					
13	Getting around town					
14	Going out of town					
15	Comprehension check					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Quizzes	25	Quizzes on grammar for communication		Projects/presentations	25	In class presentations or individual projects
Attendance and effort	25	Class attendance and effort to use English in classroom activities		Tests	25	Cumulative Tests
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review previous quiz each week (30 minutes)				Cumulative tests (several mini-tests)		
受講生に望むこと	Effort to use English and enjoyment of communicating in English			教科書・テキスト	マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)第3版 (Basic Grammar in Use) Raymond Murphy著 Cambridge University Press 2016 ISBN-13: 978-4889967654	
指定図書/参考書等	This will be made known in class			その他・特記事項	This class builds on EL100U Communication English	

授業科目名	EL120U キッズ・イングリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	木村 ゆかり・キャサリン シュリーヴズ (代表教員 木村 ゆかり)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニケーション力や英会話力の養成を図り、外国人の子供が入園・入学した場合に子供や保護者とのコミュニケーションを図れることを目指す。また会話力とともにCDを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。			<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に幼稚園や小学校の子どもたちに英語を使う場面を想定し、それに対応できる基本的語彙 (numbers, colors, body parts, things around us, the alphabet等々) を英語らしい発音で使える。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。 ・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。 			
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	U1 The School Year Begins (新学期・園の人々・園舎)					
2	U2 Arrival (登園・家族)					
3	U3 Playtime in the Classroom (室内あそび・欠席の連絡)					
4	U4 In the Sandbox (外あそび・遊具)					
5	アクティビティ (歌、ゲーム、チャンツ、発音など) (1)					
6	U5 In the Playground (園庭・けんか)					
7	U6 Lunchtime (昼食・献立表)					
8	U7 Changing Clothes and Story Time (着替え・おはなし)					
9	U8 Nap Time (トイレ・お昼寝)					
10	アクティビティ (歌、ゲーム、チャンツ、発音など) (2)					
11	U9 Blowing Bubbles (病気・身体の名義)					
12	U9 Blowing Bubbles (病気・身体の名義)					
13	映画鑑賞『Daddy Day Care』(外国の子育て事情について学ぶ)					
14	英語絵本の読み聞かせ練習					
15	英語絵本の読み聞かせ発表					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。		小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	30	英語絵本のレポート、英文の連絡帳やお便りの作成、英語絵本読み聞かせ発表など、授業内で指定する。		期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] 復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。課題の提出期限を守ること。			教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年 三修社 ISBN: 978-4384333992	
指定図書 / 参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EL125U キッズ・イングリッシュB			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	木村 ゆかり						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「キッズイングリッシュA」に引き続き、幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニケーション力なかに英語会話力の養成を図り、外国人の子供が入園・入学した場合に子供や保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにCDを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。</p>				<p>・「キッズイングリッシュA」で学んだ子どもたちの基本的語彙（numbers, colors, body parts, things around us, animals, family, the alphabet等々）をさらに増やし、英語らしい発音で使える。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。 ・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。</p>			
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	U11 Preparation for the Sports Day（行事の案内状・電話連絡）						
2	U12 The Sports Day（運動会・動作）						
3	U13 Going for a Walk（散歩（1）・地図）						
4	U14 Discovering Autumn（散歩（2）・交通）						
5	アクティビティ（歌、ゲーム、チャンツ、発音など）（1）						
6	U15 Drawing & Letter Writing（お絵かき・お手紙書き）						
7	U16 Lunchtime（雪の日・工作）						
8	U17 Leaving for Home（降園・お知らせ）						
9	U18 School Diary（連絡帳・乳児室）						
10	アクティビティ（歌、ゲーム、チャンツ、発音など）（2）						
11	U19 Bean-Throwing Day（家庭調査書・園行事（1））						
12	U20 With Thanks for a Wonderful School Year（園だより・園行事（2））						
13	映画鑑賞『Nanny Mcphee』（外国の子育て事情について学ぶ）						
14	英語絵本の読み聞かせ練習						
15	英語絵本の読み聞かせ発表						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。			小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	30	英語絵本のレポート、英文の連絡帳やお便りの作成、英語絵本読み聞かせ発表など、授業内で指定する。			期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] 復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。課題の提出期限を守ること。			教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年 三修社 ISBN:978-4384333992		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EL130U シブ・ル・イグ・リッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	高島 彬・朝倉 秀之 (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目では、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、平易な英語を使いながら英文法(ことばの仕組み)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。</p>			<p>自分のこと、身近な話題について、平易な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 自分のこと、身近な話題について、平易な英語を用いて書いて発信することができる。 平易な英語を運用するのに必要な英文法の基礎を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション: クラスルール・教員紹介・学生自己紹介・授業の進め方等					
2	Unit 1: はじめまして Warm-up、pair work、Reading、文型					
3	Unit 1: はじめまして Listening、Assignment確認、Writing & Speaking、小テスト					
4	Unit 2: レシピを見よう Warm-up、pair work、Reading、自動詞と他動詞					
5	Unit 2: レシピを見よう Listening、Assignment確認、Writing & Speaking、小テスト					
6	Unit 3: いつも何しているの? Warm-up、pair work、Reading、現在形と頻度					
7	Unit 3: いつも何しているの? Listening、Assignment確認、Writing & Speaking、小テスト					
8	Unit 4: 何を持って行きますか? Warm-up、pair work、Reading、名詞と代名詞					
9	Unit 4: 何を持って行きますか? Listening、Assignment確認、Writing & Speaking、小テスト					
10	Unit 5: あなたの理想の部屋は? Warm-up、pair work、Reading、前置詞					
11	Unit 5: あなたの理想の部屋は? Listening、Assignment確認、Writing & Speaking、小テスト					
12	Unit 6: 目指そう! 健康生活 Warm-up、pair work、Reading、助動詞					
13	Unit 6: 目指そう! 健康生活 Listening、Assignment確認、Writing & Speaking、小テスト					
14	Unit 7: 旅に出よう Warm-up、pair work、Reading、不定詞と動名詞					
15	Unit 7: 旅に出よう Listening、Assignment確認、Writing & Speaking、小テスト					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか		小テスト	20	各Unitで学んだことを身につけているか
定期テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題((Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				小テスト返却時など、随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を携帯すること。			教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂. ISBN: 9784791933839	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EL135U シンプル・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	高島 彬・朝倉 秀之 (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「シンプル・イングリッシュA」に引き続き、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、英語を使いながら英文法(ことばの仕組み)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。</p>			<p>身近な話題について、明快的な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 自分のこと、身近な話題について、適切な英語を用いて書いて発信することができる。 英語でコミュニケーションを図るのに必要な英文法の基礎を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション クラスルール・授業の進め方・課題等の確認 Unit 8: パーティを開こう! Warm-up、 pair work、 Reading、 現在分詞					
2	Unit 8: パーティを開こう! Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
3	Unit 9: 割れた窓? Warm-up、 pair work、 Reading、 過去分詞					
4	Unit 9: 割れた窓? Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
5	Unit 10: スポーツをしよう Warm-up、 pair work、 Reading、 現在完了形					
6	Unit 10: スポーツをしよう Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
7	Unit 11: フリマでお買い物 Warm-up、 pair work、 Reading、 形容詞と比較					
8	Unit 11: フリマでお買い物 Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
9	Unit 12: レポートの提出 Warm-up、 pair work、 Reading、 関係代名詞					
10	Unit 12: レポートの提出 Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
11	Unit 13: どこに住んでいるの? Warm-up、 pair work、 Reading、 「それは」と訳さないIt					
12	Unit 13: どこに住んでいるの? Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
13	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ Warm-up、 pair work、 Reading、 仮定法					
14	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
15	Unit 15: Review Test、 これまで学んだトピックから一つを選びスピーチ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	20	毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか		小テスト・Review Test	20	各Unitで学んだことを身につけているか
定期テスト	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。		スピーチ	10	選んだトピックについて聞き手に分かりやすい英語でスピーチできているか
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題((Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				小テスト返却時など、随時行う		
受講生に望むこと	<p>オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を携帯すること。</p>			教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂. ISBN: 9784791933839	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC210U 生活			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。				幼児～初期学童期の子どもにとって、生活・環境が大きな学びの可能性をもっていることを理解している。 生活科の特性・目標・内容等について理解している。 体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解している。			
教授方法	講義・演習、グループ協議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。						
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。						
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。						
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」：繰り返し活動することの意義を考えよう。						
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。						
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。						
8	生活科の実践から：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例						
9	生活科の実践から：学校生活に関する実践例						
10	生活科の実践から：地域生活に関する実践例						
11	生活科の実践から：飼育・栽培・いのちに関する実践例						
12	生活科の実践から：自分の成長に関する実践例						
13	体験編「自分物語を創ろう」：自分自身を見つめ、物語を作ろう。						
14	体験編「自分物語を創ろう」：互いの物語から学ぼう。						
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。			自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、自分らしい表現を選択して簡潔に表すことができる。
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。			講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
家族から自分の幼少期の話を聞くなどして、これまでの人生を振り返る。[60分] 子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍等で学ぶ。[20分] 多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。[20分] 三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。[20分]				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中での相互評価も加味する。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切に学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、好奇心を豊かにしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、978-4491034645		
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC215U 図画工作		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	鷲山 靖					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1. カリキュラムにおける位置付け この科目は資格取得に必要な科目である。 この科目は「図画工作科教育法」に接続する科目である。 この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。</p> <p>2. 授業のねらい 造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。 造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。</p> <p>3. 授業の進め方 テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 期末に基礎知識・技能に関する試験を行う。</p>			<p>基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。 基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。 自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。 造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。 図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。</p>			
教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習を行い、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 えがいて遊ぶ活動_えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。					
2	つくって遊ぶ活動_つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。					
3	絵に表す活動A_オイルパステルの基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。					
4	絵に表す活動B_絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。					
5	絵に表す活動C_発想の能力を育成する紙版フロッターージュの基礎的技法を習得する。					
6	絵に表す活動D-1_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。					
7	絵に表す活動D-2_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。					
8	絵・工作に表す活動A-1_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。					
9	絵・工作に表す活動A-2_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。					
10	立体・工作に表す活動A-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
11	立体・工作に表す活動A-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
12	立体・工作に表す活動A-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
13	立体・工作に表す活動B-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル1作品制作					
14	立体・工作に表す活動B-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル2作品制作					
15	立体・工作に表す活動B-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル3作品制作					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講姿勢	30	指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきを行っている。 美術室の清掃・整備に取り組んでいる。 授業に集中している。		作品制作	30	課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 課題作品は作品条件を満たしている。
期末試験	40	制作作品を事前に通知・説明する機能（性能）レベルによって試験を行い評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。[10分] 指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。[30分]</p>				<p>作品条件にもとづく評価を作品制作中に行う。 期末試験時間の前半に作品の可否判定を行い、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導を行う。</p>		
受講生に望むこと	身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみましょう。 身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しみましょう。			教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罪」ミドリ	
指定図書/参考書等	なし/授業時に随時紹介する			その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合があります。	

授業科目名	EC090U 器楽入門		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	自由	
担当教員名	多保田 治江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・教育現場では、「子どもたちと音楽活動をするために」、また「子どもたちの表現力の成長をサポートするために」身に付けておきたい多くの事柄がある。この科目は、旋律楽器（ピアノ）入門のための科目である。授業は、グループレッスンで行う。ピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントやピアノ作品を通して学ぶ。</p>			<p>ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。両手で弾けるようになる。発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>				
教授方法	実技指導						
履修条件	ピアノ初心者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価方法を理解する。 ピアノを弾く前に						
2	リズムのトレーニング 音符と休符						
3	指のトレーニング : エチュード1～3						
4	指のトレーニング : エチュード4～5						
5	ピアノ作品 : 「かえるの合唱」						
6	ピアノ作品 : 「ちょうちょう」						
7	ピアノ作品 : 「ロンドン橋」						
8	ピアノ作品 : 「バイエル19番」						
9	ピアノ作品 : 「フレール・ジャック」						
10	ピアノ作品 : 「バイエル46番」						
11	音階：八長調・ト長調						
12	ピアノ作品 : 「みつばちのマーチ」						
13	ピアノ作品 : 「バイエル48番」						
14	ピアノ作品 : 「バイエル55番」						
15	発表						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	70	受講態度、課題に対する取り組みと内容		発表	30	発表内容	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[90分]				課題は、次回に個人指導します。			
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。			教科書・テキスト	プリント 『バイエル・ピアノ教則本（BEYER標準版）』ドレミ楽譜出版社 2014年 ISBN9784285139907		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC110U 器楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・加藤 雅子・種池 有美子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育・教育現場で必要とされる音楽表現の中で、旋律楽器(ピアノ)を中心に演奏の基礎知識や技能を学ぶ。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンではピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントを通して学ぶ。個人レッスンではピアノ演奏に関して個々の技能の向上を目指すことをねらいとし、各自に応じたピアノ作品、リズム曲、子どものうたをテキストとして学ぶ。様々な音楽に触れ、演奏のための豊かな表現力を養う。</p>			<p>ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。様々な音楽に触れて、演奏のための表現力を豊かにすることができる。コードネームを見て伴奏つけをすることができる。発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>			
教授方法	実技指導					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 音楽調査を行う。					多保田
2	演奏の基礎知識(1) 音名(楽譜の読み方について理解する。)					多保田
3	グループレッスン：演奏の基礎知識(2) 音階 (子どものための音楽で最も多く使用される長音階について理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
4	グループレッスン：コードネーム (C・Gを用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
5	グループレッスン：コードネーム (C・G を用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
6	グループレッスン：コードネーム (C・G を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
7	グループレッスン：コードネーム (C・G を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
8	発表					全員
9	グループレッスン：コードネーム (C・F・G を用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
10	グループレッスン：リズム曲「走る」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
11	グループレッスン：リズム曲「ジャンプ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
12	グループレッスン：リズム曲「スキップ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
13	グループレッスン：リズム曲「スイング」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
14	発表					全員
15	グループレッスン：伴奏のアレンジ方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容(「受講生に望むこと」欄を参照)		発表	30	発表内容
発表	30	発表内容				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように毎日練習して下さい。[30分] 個人レッスンでは、各自に応じたピアノ作品、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを毎日練習して下さい。[60分] 個人レッスンの履修曲数は、各自に応じたピアノ作品(グレード1-3曲・グレード2-3曲・グレード3-2曲)、リズム曲(5曲)、子どものうたの弾き歌い(7曲)をベースとするので、プランを立てて授業の準備をして下さい。</p>				課題は、次回に個人指導します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。単にピアノを練習するだけでなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることや楽譜で分からない用語や記号は調べて下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / バロックから現代までのピアノ作品/プリント	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC261U 保育内容・環境指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	向出 圭吾					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>幼稚園教育の基本的な考え方、5領域について概要を把握し、子どもの育ちに必要な身近な環境とのかかわりを考えることで領域「環境」のねらい及び内容を理解する。事例検討を通して具体的な指導場面を想定した指導案を作成、模擬保育、体験等の過程を経て振り返り、改善を繰り返すことで、保育の構想を身に付けることを目指す。</p>			<p>幼児教育の基本的な考え方、5領域を理解している。子どもの育ちに必要な環境がどう影響しているかについて考察できる洞察力を習得している。 個人、またはグループで指導計画を作成するための教材研究ができるようになる。 グループディスカッションを通して、様々な事例をいろいろな観点から読み取る力、他者に伝える力、他者の気づきを自分にフィードバックさせる力が身に付いている。 生きる力を基礎としての領域「環境」について自分の考えをもち、保育の構想を身に付けることができるようになる。</p>			
教授方法	講義・演習・グループディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼稚園教育の基本 : 幼稚園教育の基本的な考え方、環境を通しての教育について学ぶ。					
2	幼稚園教育の基本 : 5領域の概要について把握し、ねらいと内容の意味を考える。					
3	子どもの育ちと領域「環境」: 幼児期の発達の観点から、子どもと環境とのかかわりについて学び、ねらい及び内容を理解する。					
4	子どもにとって身近な環境とは : 子どもがかかわる身近な環境について話し合い、それが育ちにどのような影響を与えているか考える。					
5	子どもにとって身近な環境とは : 事例(ビデオを含む)を通して、身近な環境と子どもの育ちの因果関係を、様々な観点から考察する。					
6	子どもにとって身近な環境とは : 事例(ビデオを含む)を通して、身近な物や道具に興味をもってかかわり、考えたり、試したり工夫して遊ぶ意味を考える。					
7	自然に親しみ、植物や生き物に触れる。: 事例(ビデオを含む)を通して、命あるものとのかかわりにおける子どもの育ちを考える。					
8	身近な自然にかかわる実践 : 大学構内の自然を散策し、実際の身近な環境についてマップを作成する。					
9	身近な自然にかかわる実践 : マップから自然にかかわる遊びの指導案を作成する。					
10	身近な自然にかかわる実践 : 各自作成した指導計画についてディスカッションし、他者からの助言をもとに見直し改善を行う。					
11	文字・標識・数量・図形への関心: 事例(ビデオ、教材の活用を含む)を通して文字・標識・数量・図形への興味と認識について考える。					
12	身近な物にかかわる実践 : 様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味関心をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶための指導案を作成する。					
13	身近な物にかかわる実践 : 指導案をもとに模擬保育を行い、実践を振り返ることで指導案の見直しや改善する視点を身に付けると同時に評価の考え方を学ぶ。					
14	子どもと環境のかかわりを捉える視点: 子どもの育ちと環境とのかかわりを捉えるポイントを整理し、ディスカッションを通して領域「環境」のねらい及び内容と指導上の留意点の理解を深める。					
15	「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」: これまでの実践や事例の考察を踏まえて、それぞれが考える生きる力の基礎としての領域「環境」について小学校の教科「生活」とのつながりを考え、連続した保育の構想を考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	各回のテーマに対して様々な観点から積極的に取り組んでいるか。		課題への取り組み	40	授業内に提示する課題に対して期限を守り提出し、内容が適切であるか。
筆記試験	40	この授業を通して領域「環境」に関して、どれだけ自分の学びになり、理解したか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>各回の授業の最後に、その授業での学習到達度を確認するため課題を提示するので、各自取り組むこと。[30分] 実践の授業では、指導計画をもとに、必要な素材を準備し、教材作りをする。 [90分] 各回のテーマに沿った教科書の該当箇所を事前に読んで、自分なりに理解しておく。[30分]</p>				<p>この授業は前回の学習の上に成り立つ授業であるから、授業の初めに振り返りを行い、学びを自分にフィードバックさせる力を身に付ける。 指導計画を見直し、修正、改善するなど、学習が一過性に終わらないようにする。</p>		
受講生に望むこと	自分がこれまでもっていた幼児期の遊びに対する概念を一度リセットして、一つの遊びの事象にも様々な見方、考え方があることを意識しながら授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『新訂・事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 福元真由美編者代表 萌文書林 2018年 ISBN:978-4-89347-258-8	
指定図書/参考書等	なし / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC271U 保育内容・言葉指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	高村 真希・中島 賢介 (代表教員 高村 真希)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。保育内容「言葉」の意義について発達や各領域とのつながりを考慮しながら学ぶ。さらに、保育者が子どもの言葉の育ちにどのように関わり、豊かな言葉を育てていくのかを実践を踏まえ、役割と援助について学ぶ。また、指導案を作成し、実践することを通して指導法を体得する。			1. 子どもの言葉の育ちに関心を持つ。 2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容について理解している。 3. 発達段階を踏まえ、領域「言葉」に関する指導案を作成し、実践できる。 4. 領域「言葉」における保育の動向を知り、保育者の役割を理解している。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明 言語機能と「言葉」のねらいについて理解する。					中島
2	幼児期（乳児期を含む）における言語獲得のメカニズムについて学ぶ。					中島
3	「言葉」の内容と指導上の留意点及び評価について学ぶ。					中島
4	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉以前の言葉 0歳児の事例から考える。					高村
5	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉が出始めたら 1歳児の事例から考える。					高村
6	言葉の獲得と保育者の関わり：3歳児の事例から考える。					高村
7	言葉の獲得と保育者の関わり：4歳児の事例から考える。					高村
8	言葉の獲得と保育者の関わり：5歳児・小学校の事例から考える。					高村
9	領域「言葉」をめぐる現代的課題と言葉を育てる環境について考える。					高村
10	子どもの言葉から考える：言葉の内にある子どもの思いについて					高村
11	文化財に関する実践的理解					高村
12	文化財に関する実践的理解と指導案の立案					高村
13	視聴覚教材を使用しての模擬保育を行う					高村
14	実演と反省（模擬授業から考える）					中島・高村
15	「言葉」の総合的理解（今までの振り返り）					中島・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業の参加態度	30	授業への取り組み態度		課題の内容と提出・実演	40	課題の実演と内容・提出状況
随時試験	30	授業内容を理解できているか。（2回実施）				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
子どもの発達と言葉について調べ、レポートにまとめる [60分] 言葉の現代的課題と言葉を育てる環境について調べレポートにまとめる [60分] 「絵本の読み聞かせ」の指導案を立案する [60分]				提出されたレポートや応答シートを次回授業で反映する		
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での学生一人一人の言葉を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。			教科書・テキスト	<small> *新訂 事例から学ぶ保育内容 領域 言葉 武藤隆監修 南文書林 2018年 ISBN978-4-89347-259-5 *幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 *幼児発達型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814499 *保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482 </small>	
指定図書/参考書等	なし/必要に応じて随時提示する			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EN150U 保育原理		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育士資格の必修科目である。ただし、乳幼児期という人生の最初の時期についてその意味を知り、ふさわしい生活環境について考える授業であるので、教職者として子どもと関わる全ての学生に必要な人間理解に関わる科目となる。また、1年次での幼稚園での体験、2年次での幼稚園教育実習 に向かうための基礎的学習となる。</p> <p>保育については多くの方が「知っている」感覚に陥りやすい。しかし、その「知ってる」ことは、専門職を担う者が求められる保育の理解とは大きく隔たる。授業では、「遊び」をキーワードとして子どもの見方・感じ方を模擬体験しつつ、発達科学が明らかにしてきた乳幼児の主体的な在り様と、「遊びが学び」である小学校以降とは異なる幼児期の学びの組み立て方について学ぶ。同時に、自園の子どもだけでなく地域の子育てを支援する対象とする保育所の機能、役割とその社会的背景について知り、認定こども園、幼保一元化、幼小接続、幼児教育・保育の無償化などの最近のトピックスから保育という営みの今日的意味を理解する。</p>			<p>「保育所保育指針」が示す保育所保育の目的を理解している。「環境を構成することによって」「生活や遊びを通して総合的に」という幼児期の学びの援助の方法を理解し、乳幼児期の指導計画の特性を知っている。乳幼児の学びを「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域で見ることを理解している。保育をめぐる今日的課題とその背景にある子どもをめぐる生活環境の変化について理解している。</p>				
教授方法	講義・体験（遊び・製作・パフォーマンス）・個人ワーク・グループワーク・発表（展示を含む）						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：実際に遊んでみて自身の心の動きを知り、周りの人たちの動きを見て、「遊びを通じて学ぶ」という学び方について理解する。自身の体験がもたらす小学校以降の学び方イメージから離れる。						
2	「遊びを通して学ぶ」「環境の構成によって指導する」という保育における指導のとらえ方を知る。						
3	保育の歴史と現状を概観し、保育所が「**園」という名称を用いることの意味を考える。「園」に込められた願いと、子ども観・保育観を理解する。						
4	保育所保育指針を概観する。養護と教育が一体として展開するということの意味を考える。						
5	子どもの遊びの姿から、子どもが主体的であるために環境の構成と指導計画があることを理解する。						
6	幼児期の学びを支えるには、子どもの姿からその心の動きをとらえ、子どもに育ちつつあるものを読み取る力が求められることを知る。						
7	乳幼児の発達について知り、「・・・できるようになる」ことが発達ではなく、「・・・できるようにさせる」ことが指導ではないことを理解する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目から幼小接続について考える。						
8	子どものモノとかかわる力、人とかかわる力がどのように発揮され、発達の過程を開いていくのかを知る。発達の最近接領域というとらえ方を知る。						
9	言葉の獲得を例に、近年の乳幼児の生活、育ちの環境を見てみよう。子どもの学びを育む環境の豊かさについて再考する。						
10	「子育て支援」という保育所に求められる機能と、その背景を知る。						
11	親子や家族とは異なる、園生活における人間関係について考える。保育者の役割と子ども集団の役割について考える。						
12	遊びによって提供される5領域での学びについて知り、小学校以降の学び方との違いについて考える。						
13	遊びがもたらす自己肯定感：安心・安全・安定と遊びの関係について考える。例えば、砂遊び・水遊び・・・。						
14	遊具・オモチャの意味：フレーベルの恩物から始まった積木から考える。						
15	「子どもの最善の利益」について考え、その追求には家庭との連携や地域との連携が必須であることを理解する。子育てを支援することの意味を再考する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	保育に関わる用語・基本的概念の理解 体験における自らの行動と心情を振り返ることができる 乳幼児と保育をめぐる今日の社会課題についての理解		ミニレポート	20	適切な資料をみつけない ていねいな自分らしい記載 疑問・課題を見出している	
製作課題	10	遊びに関する製作物における工夫・ていねいさ		授業内ワーク	10	自分と対話し、自分なりの考えが記載されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
用語や制度について調べる。ネット検索に頼らずに本の活用を習慣化する。 [30～60分程度] 子どもの遊び体験につながる実体験[長時間を要するので計画的に取り組む必要がある]				ミニレポートと授業内ワークで記された関心・質問に次回以降の授業で対応する。			
受講生に望むこと	授業中の突然の遊び、製作に対応できるよう、服装、靴、髪型など、その場で遊びに入れるスタイルで授業に参加すること 保育者が常時携帯しているようなグッズを用意して参加すること 子どもの遊ぶ姿や言葉に関心をもちエピソードを記録することを習慣にすること。 保育に関連する日本・世界、そして地域のニュースに敏感でいて、その都度調べて、基本的知識の更新に努めること。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482		
指定図書/参考書等	なし/授業の中で提示する。			その他・特記事項	教員免許状（幼稚園・小学校）取得希望者には履修を強く勧める。保育士資格だけでなく教育実習（幼稚園・小学校）に向かうために必要な幼児教育及び児童福祉の入門科目となる。 毎回のミニレポートの綴りが定期試験の持ち込み資料となるので、欠席の場合にもミニレポートを作成し、提出するようにすること。 ミニレポート作成あるいは次回授業に必要な資料が配布されている場合があるので、欠席の場合、教員研究室を訪ね、資料を入手しておくこと。		

授業科目名	EN155U 社会福祉			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	岡田 文貴						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育所に限らず、児童養護施設や児童相談所、あるいは障害児施設などの児童福祉施設など、保育士の勤務先は多様に存在します。また児童福祉制度は、社会福祉制度の1つとして位置づけられています。保育士は、障害福祉領域や公的扶助の領域との連携が必要となる可能性もあります。幅広い知識は、保育士としての仕事を質的に向上させます。この科目では、保育者に必要な社会福祉の基礎知識を学習します。</p>				<p>保育の知識が、保育所以外の児童福祉分野の仕事に役立てることができることを理解します。 子育ての悩みや深刻な事情などで、児童に対し必要な保護及び援助が確保されていない場合、社会福祉制度を活用することが有効であることを理解します。</p>			
教授方法	講義 グループ討論						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会福祉の理念と歴史の変遷：社会福祉とは何か、そしてそれがどのような理念で実践され、人々の生活や生命への介入を果たしているかを学びます。						
2	子ども家庭支援と社会福祉：家庭を支援していくことの重要性について学び、実際の仕事を通して子ども家庭支援について考えます。						
3	社会福祉の制度と法体系：日本の社会福祉法制度の体系を整理し、制度・法律の種類について基礎知識を身につけ、保育にかかわるうえで知っておくべき主要な社会福祉制度・法律のポイントを理解します。						
4	社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等：福祉事務所や児童相談所などの相談機関、社会福祉の財政、社会福祉施設など、行政機関がどのような制度を整備しているのかを理解します。						
5	社会福祉の専門職：社会福祉の資格の定義や役割・機能等を、根拠となる法律から理解します。そして、地域における多職種および地域住民との連携・協働の動向について理解します。						
6	社会保障制度及び関連制度の概要：誰を「対象」とし、どのような「分野」があり、いかなる「方法」で私たちの暮らしを守っているのか。そして「子育て世帯」がなぜ貧困に陥ってしまうのか、その背景を考えます。						
7	相談援助の理論：保育士が子どもの家族とかかわる際に用いる相談援助の理論について、その成り立ち 理論の発展過程 現場実践での留意点、そして人の行動や取り巻く環境の多様性について理解します。						
8	相談援助の意義と機能：専門的な意味での「相談援助」とは何か、その意義と機能から理解を深めます。						
9	相談援助の対象と家庭： 子ども、保護者、地域といった対象に応じた関わり。 相談援助の課程について段階を追って解説。 援助者としての態度、そして援助者として意識していきたい視点について理解します。						
10	相談援助の方法と技術： 相談援助の視点、人と環境との接点、環境や社会資源へのはたらきかけ、 保育現場において保育者が相談援助の方法と技術を用いた支援を行うことの強みなどについて考えます。						
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ：利用者保護にかかわる制度に関して、その背景や法的根拠等を学びとともに、実際のしくみについて学びます。						
12	少子高齢化社会における子育て支援：少子化の現状を確認したうえで、これまでの少子化対策の展開と少子化対策における保育所の役割について学びます。						
13	共生社会の実現と障害者施策： 障害のとらえ方と障害者の現状、 共生社会の実現に向けた障害者施策、「インクルージョン」とそのなかで保育士に期待される役割について学びます。						
14	在宅福祉・地域福祉の推進： 地域福祉という考え方やその実践方法を学ぶ、 子ども、保護者や地域住民、隣接諸領域の専門職に対する保育士の関わり方を理解します。						
15	諸外国の社会福祉の動向：福祉国家としての先進諸国がどのような現状にあるのかを学びます。そのために、福祉国家とは何かについても理解します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	社会福祉の基礎的な用語や定義などが理解できているかを評価します。			授業参加態度	20	講義及びグループ討議での受講態度を評価します。
レポート	30	レポートの内容が、テキストの内容を理解した上で作成されているかどうかで評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>1回の授業で1つの講を終了する予定です。授業の前にテキストを読んでおきましょう。（10分） 授業の後、その日に理解できなかった用語は、社会福祉用語辞典等で理解しておきましょう。（10分）</p>				<p>レポートは15回の授業の中で5回提出です。1講～3講、4講～6講、7講～9講、10講～12講、13講～15講ごとにレポート提出です。テーマは授業の中で提示します。 期末試験は、毎回の授業で行うワークシートを中心に問題を作成します。</p>			
受講生に望むこと	講義中は聴くことに集中し、グループ討議では積極的に発言してください。			教科書・テキスト	『新基本保育シリーズ 社会福祉』松原康雄 坪 洋一 金子 充 編集 中央法規 2019年 ISBN：978-4-8058-5784-7		
指定図書/参考書等	授業の中で提示します。			その他・特記事項	毎回の授業で、各章のまとめとしてワークシートを作成し取り組みます。		

授業科目名	EN160U 音楽表現		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもたちが発達段階に応じて音や音楽に親しみ関心を持つ環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。特に、子どもの生活や遊びと密接に関わる歌やリズム遊びを取り入れ、保育者自身が音や表現活動を楽しみ、保育現場で実践できるようにする。様々な楽器に触れて演奏する他に鑑賞を通して豊かな感性を養う。			楽譜を見て歌うことができる。 範唱を聴いて歌うことができる。 「表現する」とは何か、具体的に考えることができる。 乳幼児期の発達と音楽表現について理解する。 音楽と身体表現について実践を通して理解する。 課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。			
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループワークを行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田
2	「表現」って何だろう？：表現するとは何か理解を深める。音楽コミュニケーション：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田
3	「表現」って何だろう？：総合的な視点で表現活動を捉える意義について理解を深める。音楽コミュニケーション：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田
4	「表現」って何だろう？：保育における領域「表現」について理解を深める。音楽コミュニケーション：「一緒に動くこと・歌うこと」について実践を通して考える。読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田
5	歌うことを中心とした表現活動：生活・遊びの子どものうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
6	歌うことを中心とした表現活動：季節・行事・自然の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
7	歌うことを中心とした表現活動：動物・植物等の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。課題発表					福田
8	歌うことを中心とした表現活動：遊びうたを通して、歌唱表現について考える。					多保田
9	楽器を用いた表現活動：パンブードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、打楽器の特徴と奏法について考える。					多保田
10	楽器を用いた表現活動：パンブードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、子どもと楽器について考える。					多保田
11	子どもの発達と音楽表現：乳幼児期の発達の特性(0歳児・1歳児・2歳児)について理解を深める。 さあ はじめよう！：音を聴くことについて考える。					多保田
12	子どもの発達と音楽表現：乳幼児期の表現の特性(3歳児・4歳児・5歳児)について理解を深める。 移動する動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。					多保田
13	子どもの発達と音楽表現：聴く力の発達について理解を深める。 移動しない動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。					多保田
14	子どもの発達と音楽表現：歌唱表現の始まりについて理解を深める。 音楽と身体表現：音楽から生まれる身体の動きについてグループで話し合い、身体表現を考える。					多保田
15	音楽と身体表現：課題の発表(課題の発表を通して、様々な身体表現方法について考える。)					多保田
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容(「受講生に望むこと」欄を参照)		試験	40	各回の講義内容について理解しているか。試験形式等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容(毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] 次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 試験については、次学期初めに採点し、返却します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著 教育芸術社 2019年 ISBN978-4-87788-823-7 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北学院大学編集 2015年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』石井玲子編著 保育出版社 2018年 ISBN978-4-938795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EN165U 音楽表現		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「音楽表現」で学んだ内容を踏まえ、打楽器や旋律楽器などの演奏も取り入れた様々な表現技能を身に付ける。特に、体験したことを表現したいという子どもたちの思いを取り上げ、音楽表現を通して発表したり遊びに生かしたりできるように、音を通した様々な表現方法を学ぶ。</p>			<p>楽譜を見て歌うことができる。 範唱を聴いて歌うことができる。 歌うことや演奏のための様々な表現技術を身に付ける。 音楽からイメージしたことを身体表現することができる。 課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。</p>			
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループワークを行う。					
履修条件	「音楽表現」の単位を修得済の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション : 授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 子どものうたの変遷 : 明治期に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田
2	子どものうたの変遷 : 大正期から現代に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田
3	生活や遊びの中での歌唱表現について考える。					多保田
4	子どものうたの分類方法について考える。					多保田
5	保育者としての表現力 : 歌声で表現することについて実践を通して考える。					多保田
6	歌うことを中心とした表現活動 : 様々な生活・遊びの子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
7	歌うことを中心とした表現活動 : 季節・行事・自然の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
8	歌うことを中心とした表現活動 : 動物・植物等の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。 課題発表					福田
9	保育者としての表現力 : 歌声で表現することについて実践を通して考える。 様々な楽器と奏法について : 保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。「音のアンサンブル」 : 打楽器を用いてアンサンブルをつくる。					多保田
10	保育者としての表現力 : 保育の場におけるピアノの役割について実践を通して考える。 様々な楽器と奏法について : 保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。					多保田
11	保育者としての表現力 : 保育の場におけるピアノの役割について実践を通して考える。子どものうたの選曲ポイントについて考える。					多保田
12	保育者としての表現力 : 歌唱表現の進め方について考える。 音楽と身体表現 : リズミカルに反応する基礎的な身体・技能の育て方について考える。					多保田
13	保育者としての表現力 : 歌唱表現の導入について考える。 音楽と身体表現 : 作品づくりのグループワークを通して身体表現について考える。					多保田
14	保育者としての表現力 : 教材選択における留意点について考える 音楽と身体表現 : グループの作品発表と鑑賞を通して、様々な身体表現方法について考える。					多保田
15	保育者としての表現力 : 子どもの動きに合わせた即興演奏の方法について考える。					多保田
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容(「受講生に望むこと」欄を参照)		試験	40	各回の講義内容について理解しているか。試験形式等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容(毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] 次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 試験については、次学期初めに採点し返却します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著 教育芸術社 2019年 ISBN978-4-87788-823-7 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』石井玲子編著 保育出版社 2018年 ISBN978-4-938795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED100U 心理学概論A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。</p>			<p>1. 心理学の成り立ちについて学び、歴史の中で心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び、自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。</p>				
教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション / 心理学と諸科学：心理学の定義と範囲、諸科学との関連について理解する。						
2	心理学の歴史（1）ヴント以前～科学的心理学の成立：ヴント以前から現代までの心の捉え方について学び、科学としての心理学が歴史の中でどのように成立したのかを理解する。						
3	心理学の歴史（2）計算機科学と神経科学の影響：認知革命以降の心理学の発展と現代の学際的な心理学の形態について理解する。						
4	比較・生理・神経の心理学：比較（動物）心理学・生理心理学・神経心理学の概要を理解する。						
5	発達・感情・学習の心理学：発達心理学・感情心理学・学習心理学の概要を理解する。						
6	感覚・知覚・認知の心理学：感覚 / 知覚心理学・認知心理学の概要を理解する。						
7	言語・思考の心理学：言語心理学・思考に関する認知心理学の概要を理解する。						
8	社会・集団・家族の心理学：個人・集団・社会・家族を含む社会心理学の概要を理解する。						
9	教育・学校の心理学：教育心理学・学校心理学の概要を理解する。						
10	犯罪・司法の心理学：犯罪心理学・司法と心理学の関係についての概要を理解する。						
11	産業・組織の心理学：産業 / 組織心理学の概要を理解する。						
12	健康・医療・福祉の心理学：健康心理学・医療や福祉に関する心理学の概要を理解する。						
13	臨床・パーソナリティの心理学：臨床心理学・パーソナリティ心理学の概要を理解する。						
14	文化・進化の心理学：文化心理学・進化心理学の概要を理解する。						
15	まとめ / 心理学とその応用：授業全体を振り返り、心理学の応用可能性について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。		振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]</p>			<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>				
受講生に望むこと	初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるため、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。		教科書・テキスト	『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣、2015年、ISBN-13：978-4641150225 / 同時に、教員が作成した資料も配布する。			
指定図書 / 参考書等	なし / 『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣、2018年、ISBN-13：978-4641053861		その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。			

授業科目名	ED105U 心理学概論B			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。「心理学」というと、カウンセリングや心理療法を思い浮かべる学生が多いと思われる。しかし、実際にはその他にもさまざまな分野がある。本講義では、学習、感覚、認知といった分野を中心にとりあげる予定である。本講義を通じて人の心の仕組みや働きについて興味を持ち、理解を深めてほしい。</p>				<p>心理学という学問のなりたちや性質を理解している。感覚・知覚、学習、認知といった基本的な心の仕組みやはたらきを理解している。講義で学んだことを自分自身の経験や日常生活の問題に当てはめて考えることができる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	心理学概論Aを履修済が望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：心理学とはどのような学問かを知る						
2	学習心理学1：条件付けの基礎と応用について学ぶ						
3	学習心理学2：観察学習、社会的学習について学ぶ						
4	学習心理学3：学習理論の現場での応用を学ぶ						
5	動機づけ：動機付け理論の基礎を学ぶ						
6	感情：感情の種類、感情の理論の基礎を学ぶ						
7	知覚心理学1：知覚・感覚の特徴と働きを学ぶ						
8	知覚心理学2：視覚の特徴と働きを学ぶ						
9	知覚心理学3：聴覚の特徴と働きを学ぶ						
10	認知心理学1：記憶の理論の基礎を学ぶ						
11	認知心理学2：問題解決と意思決定の基礎を学ぶ						
12	認知心理学3：言語の仕組みと働きを学ぶ						
13	生理心理学1：記憶と脳の関わりについて学ぶ						
14	生理心理学2：言語と脳の関わりについて学ぶ						
15	総括：これまでのまとめとふりかえり						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	講義内容の理解度により評価を行う。			講義への参加度	30	講義中の態度および振り返りの内容により評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				提出された課題に対しては、代表的な意見を取り上げて講評する。			
受講生に望むこと	みなさんの抱く「心理学」のイメージとは異なるトピックも多く出てくるかもしれませんが、この講義をきっかけに、心理学の各領域をさらに深く学んだり、みなさんの身の回りの出来事、普段の対人関係、そして自分自身のこころについてより深く考えたりできるようになればと思います。			教科書・テキスト	金城辰夫（監修）藤岡新治・山上精次（共編）2016 図説 現代心理学入門[四訂版] 培風館 ISBN:978-4563052447		
指定図書/参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED110U 臨床心理学概論			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。				(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 心理師（心理士）が活躍する現場を説明できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN: 9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

子ども教育学科
(2年次)

授業科目名	EK200U プロゼミA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	中島 賢介・虹釜 和昭・多保田 治江・齊藤 英俊・福江 厚啓 (代表教員 中島 賢介)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
プロゼミは、3年次から始まる専門ゼミの前段階として位置づけられている。基礎ゼミで培ったレポート作成やディスカッション能力等の技能を高め、より専門性を志向した展開を行っていく。			ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。			
教授方法	各ゼミによる演習					
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済の者または「基礎ゼミ」履修中の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	合同で授業概要、授業計画、成績評価方法、事前事後学習などの説明を行い、その後ゼミごとで自己紹介を行い、各ゼミの運営に関する説明と成績指導を行う。					全員
2	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
3	合同で論文作成のポイントを解説する					全員
4	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
5	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
6	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
7	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
8	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
9	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
10	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
11	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
12	ゼミ内における発表：グループ前半の学生が発表を行う。					各担当教員
13	ゼミ内における発表：グループ後半の学生が発表を行う。					各担当教員
14	プロゼミA発表会：合同でグループの代表者が発表を行う。					全員
15	合同で2年次後期の履修登録を行い、その後各ゼミでまとめを行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない15点を基準とする。		レジュメの作成と発表	30	分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。聞き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	要点をおさえて、概要と意見を分けた文になっているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。[90分] 各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。[60分]				テーマ設定やレポート作成についての質問には適宜対応する。		
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢をもって参加すること。			教科書・テキスト	ゼミ担当教員の指示に従う。	
指定図書/参考書等	ゼミ担当教員の指示に従う。/ゼミ担当教員の指示に従う。			その他・特記事項	不明な点はゼミ担当教員に問い合わせること。	

授業科目名	EK210U プロゼミB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	姫野 俊幸・伊藤 雄二・田邊 圭子・多保田 治江・中島 賢介 (代表教員 姫野 俊幸)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持って自分の興味関心のある分野を深めていくなかで、専門ゼミでのテーマを絞りこめるよう専門性を追求していく。			ゼミ運営に協力的にかかわることができる。 専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。				
教授方法	各ゼミごとによる演習						
履修条件	「プロゼミ A」を履修した者。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：実習にかかわる成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介 各ゼミ運営についての説明 成績指導					全員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	ゼミ内における発表					各担当教員	
12	ゼミ内における発表					各担当教員	
13	ゼミ内における発表					各担当教員	
14	プロゼミB発表会（合同）					全員	
15	前半：3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究についての説明（合同） 後半：各ゼミのまとめ					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べるができる。		レポート	40	文章構成が適切か。 事実と自分の考えをと区別して書いているか。 意見の根拠が明示されているか。 分かりやすい文章であるか。	
レジュメの作成と発表	30	分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 時間内で聞き手に分かりやすく発表している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。（90分） 各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。（60分）				テーマ設定やレポート作成等についての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。			教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。		
指定図書/参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。/各ゼミごとに教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。		

授業科目名	EK140U 教職論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	大井 佳子・幸 聖二郎 (代表教員 大井 佳子)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教諭、小学校教諭及び中学校教諭免許取得に関わる教職に関する科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意識と自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本授業では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。幼・小・中の各学校現場における保育者・教師の仕事の実際を教員(教職体験者を含む)との協議を含めて知り、大学における授業・保育参観(他科目でのものや実習につながる現場体験)と重ね合わせ、教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携の在り方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐこと等について学ぶ。			幼・小・中の校種を超えて教職の意義と専門性について理解する。教員の職務と服務について理解する。教師をめぐる現状と課題について知る。教師に求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。			
教授方法	講義 ワーク					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教職とは何か：学生自らの幼・小・中の各学校体験からの考察・講義「教職と保育職の歴史の変遷」から教職・保育職が専門職である意味を理解する。					大井
2	幼児期の学びの特性と保育者の役割：園児と関わる基本姿勢と照らし合わせて保育における保育者の姿を見なおしてみよう。「見守る」「応答する」「共に考える」保育者の姿が「対話的な学び」の土台となる。					大井
3	計画的であることの意味：保育には幼児理解をふまえた保育者の意図・ねらいがある「保育者の役割」。「遊びが生まれる環境をつくる」「遊んであげる」「モデル」見本・手本 今日的課題として求められている「学びに向かう」姿のモデル					大井
4	保護者との連携：子育てを支援するという保育者・教師の役割。子育てを支援することがなぜ保育者の役割なのか？保育者は、なぜ子育てを支援できると考えられるのか？					大井
5	学びと育ちの接続を支える：幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の前文の比較から見えること 教科内容で考える遊びと学び 授業内ミニ試験					大井
6	校務の実際：校務分掌から知る幼稚園・小学校・中学校の先生の見えにくい仕事					幸
7	教員の職務・任用と服務・身分保障					幸
8	倫理綱領と使命感					幸
9	教育実践を通して自らの資質を向上させる：自己評価・研修と研究・協働					幸
10	学校教育現場の今日的課題と教師の役割 授業内ミニ試験					幸
11	事例から考える：教員に求められる資質能力					幸
12	事例から考える：教職に対する情熱					幸
13	事例から考える：子ども(園児・児童・生徒)に対する責任感					幸
14	専門職としての教師について：幼・小・中各校種間の共通性と独自性					幸
15	目指す教師像 授業内ミニ試験					幸
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	40	法令等教職にかかわる事項についての事前調べ・授業における討議のまとめと考察(授業内ワークを含む。自分に対する省察を含む)		授業内試験	60	教職について理解するための基本的概念の理解・今日的テーマについての概要理解と考察
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。[30分～1時間程度] 園行事や学校公開週間など、保育者・教師の姿を見ることが出来る機会を逃さない。 [適宜]			当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。			
受講生に望むこと	* 自身が取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境について興味をもつこと。 * 夏休みの現場体験(幼稚園・放課後等児童クラブ 他)を経験していることが望ましい。			教科書・テキスト	適宜 資料配布	
指定図書/参考書等	なし/『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『小学校学習指導要領解説』総則編。文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN: 978-4-491-03189-7 『中学校学習指導要領解説』総則編。文部科学省 きょうせい 2008年 ISBN: 978-4-324-90002-4 『教職の意義と職務』森 秀夫著 学芸図書株式会社 2012年 ISBN: 978-4-761-60339-7 『教師になるということ』池田 修著 学陽書房 2013年 ISBN: 978-4-313-65236-1			その他・特記事項	各回の授業回を幼児期(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)を中心に大井、義務教育期を中心に幸が担当して講義し、適宜グループ討議する。授業外課題として現場訪問や子どもとの関わりが課せられることがある。	

授業科目名	EK220U 発達心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)・准学校心理士・認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学研究の具体的な成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。			発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。						
2	「発達」を考える：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。						
3	「発達」を考える：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。						
4	胎児期～乳児期：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。						
5	胎児期～乳児期：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。						
6	胎児期～乳児期：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着(アタッチメント)」について考える。						
7	幼児期：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。						
8	幼児期：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。						
9	幼児期：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。						
10	児童期：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。						
11	児童期：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。						
12	青年期：「人は二度生まれる」の二度目の誕生とは。青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。						
13	青年期：「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性(アイデンティティ)」について考える。						
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。						
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害を正しく理解し、適切な関わりを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニレポート	30	講義内容に対する意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		定期試験	70	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当箇所を読んでおく。 [30分] 授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] 発達心理学の低位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。			毎回のミニレポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントするなど対応します。				
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133		
指定図書/参考書等	なし/『保育の心理学』第2版 本郷一夫編 建帛社 2015年 ISBN:978-4767950358、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK230U 教育心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・准学校心理士・認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
教育心理学における主要な領域(発達、学習、評価、集団・適応)について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			子どもの心身の発達過程を答えられる。心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。教育活動の評価の意義および役割を答えられる。			
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション:教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。					
2	発達と教育 「発達課題と教育」:人間の発達と教育の関連について、人の「発達段階」や「発達課題」を通して考える。					
3	発達と教育 「発達における教育の役割」:ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。					
4	学習 「学習理論」:学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。					
5	学習 「学習理論」:学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。					
6	学習 「学習と教授理論」:どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。					
7	学習 「動機づけ」:やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。					
8	学習 「記憶」:学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。					
9	学習 「学習指導と個人差」:すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。					
10	評価 「知能」:知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い(低い)」とはどのようなことが考えられる。					
11	評価 「教育評価」:教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。					
12	集団・適応 「学級集団」:学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。					
13	集団・適応 「不登校・いじめ」:不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。					
14	集団・適応 「発達障害・精神障害」:発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。					
15	集団・適応 「学校カウンセリング」:学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
各回のミニレポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		定期試験	70	教育心理学の主要な内容(発達、学習、評価、集団・適応)に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当箇所を読んでおく。 [30分] 授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] 教育心理学と関連の深い「発達心理学」「学習心理学」「認知心理学」「学校心理学」などの関連書籍にあたり、知識を深める。			毎回のレポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行います。 試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントするなど対応します。			
受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。		教科書・テキスト	『スタンダード 教育心理学』 服部環・外山美樹編 サイエンス社 2013年 ISBN: 978-4781913254		
指定図書/参考書等	なし/『教育心理学』 大村彰道編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学』 下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK240U 初歩文献講読			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は子どもを中心に置く、子どもの行動を観察することは易しい。行動として見て取ることができるからである。しかし、頭の中で何を考えているか、つまり、思考を把握することは難しい。さらに、思考を伸ばすことはもっと難しい。そこで、『子どものものの考え方』の文献を購読し、子どものものの考え方を発達に従って理解するとともに、子どもへのかかわり方についてレポート内容をもとに学生自身が考えることを中心に授業を展開する。</p>				<p>子どもの考え方に興味・関心を持っている。文献を購読して「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」の観点から三色ボールペンで書き込むことができる。自己の割当ての箇所(節)についてレポートを作成し、全体の場でレポートすることができる。子どもの考え方について「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」の観点から全体での議論に参加することができる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	はじめに 子どもの思考を知ることとはなぜ大切か(子どもの考え方に興味・関心をもつ。)						
2	思考とはどういうことか 思考の意味(思考の意味について知る/担当によるレポート/議論する。)						
3	思考とはどういうことか 思考の種類(思考の種類について知る/担当によるレポート/議論する。)						
4	思考とはどういうことか 思考のはかり方(思考のはかり方について知る/担当によるレポート/議論する。)						
5	子どもの思考はどのように発達するか 発達するとはどういうことか(発達するとはどういうことかについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
6	子どもの思考はどのように発達するか 思考の発達のすじみち(思考の発達のすじみちについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
7	子どもの思考はどのように発達するか 論理的思考の生まれるまで(論理的思考の生まれるまでについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
8	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「いくつ」「何番目」という思考(「いくつ」「何番目」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
9	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「どれほど」「どれだけ」という思考(「どれほど」「どれだけ」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
10	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「どんな大きさ」「どんな形」という思考(「どんな大きさ」「どんな形」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
11	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「いつ」「何歳」という思考(「いつ」「何歳」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
12	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「たまたま」「おそらく」という思考(「たまたま」「おそらく」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
13	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「なぜ」「どうして」という思考(「なぜ」「どうして」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
14	子どもの科学的思考をどう育てるか 科学的思考の指導(科学的思考の指導について知る/担当によるレポート/議論する。)						
15	子どもの科学的思考をどう育てるか 社会的思考の指導(社会的思考の指導について知る/担当によるレポート/議論する。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	30	自己に割当てられた箇所(節)のレポートを指定の項目に従って作成し、提出している。			文献への書き込み	20	事前学習において文献に3色ボールペンを使い分けて書き込みしている。
議論への参加	30	レポーターのレポートをもとにグループ討議に進んで参加(発言)している。			期末レポート	20	学習のまとめとして、自己の考えをいくつかの観点からレポートにまとめている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>各回の授業の範囲(節)を事前に読み、該当ページ(行)にメモをする。メモの際、3色ボールペンを用いて、感想を3つ(「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」に分けて書く。[60分]) 振り返りシートに各授業後の感想を観点(「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」「その他」に分けて書く。[15分]) 分けて書いたことをもとに各回の感想を文章にまとめる。[15分]</p>				<p>自己に割り当てられた箇所(節)のレポートに対する評価コメントを返す。各回の授業での議論への参加は「教師評価」(先生による評価)によって行い、各回の授業の終盤で評価結果を返す。</p>			
受講生に望むこと	子どもの考え方が少しずつ分かってくると、子どもとかわることがもっと楽しくなります。子どものことをもっと知りたいと思う気持ちを大事にして受講してください。			教科書・テキスト	『子どものものの考え方』、波多野完治・滝沢武久著、岩波新書490、1963年出版、ISBN4-00-412121-3 絶版になっているが2018年度授業において好評を博したので、授業担当者が受講生分をネット購入して頒布する。		
指定図書/参考書等	なし/『子どもの認識と感情』、波多野完治著、岩波新書939、1975年出版、ISBN:4004121221			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES250U コミュニケーション・イングリッシュA			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
世界の若者のインタビューを基にした教材を用いて、毎回1つのテーマを取り上げ、リスニング・リーディングで内容を理解し、インタラクティブ・アクティビティを通じて自分の考えをスピーキング、ライティングで表現する。また、絵やプレゼン・ソフトを活用し物語や説明文をわかりやすく導入・展開する技能を身につける。				様々なトピックについてリスニング、スピーキングを中心とした活動を通じて内容理解・得た情報・表現を用いて、簡潔に自分の考えを英語で話したり書いたりできるようになる。また、聞き手を意識した話し方を身につける。			
教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレゼンテーション・スピーチ						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション・自己紹介・授業の進め方						
2	休暇について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
3	エンターテインメントについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
4	食べ物と飲み物について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
5	旅行について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
6	教育について、4技能の統合的活動を通じて理解し、ディスカッション後に発信してみる						
7	ファッションについて、4技能の統合的活動を通じて理解し、ディスカッション後に発信してみる						
8	日本の昔話をもとに、絵を用いて聞き手を意識したスピーチの発表						
9	海外に住むことについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
10	仕事・就職について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
11	健康について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
12	学生生活について、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる						
13	芸術について、4技能の統合的活動を通じて理解し、ディスカッション後に発信してみる						
14	ショッピングについて、4技能の統合的活動を通じて理解し、ディスカッション後に発信してみる						
15	日本の文化や歴史をもとに、聞き手を意識したスピーチの発表またはプレゼンテーション						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ショートスピーチ	30	学習したトピックについて4技能を統合的に身につけているか。			小テスト	40	各回のトピックスについて4技能を統合的に身につけているか。
プレゼンテーション	30	4技能を統合的に活用してプレゼンテーションができるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業の復習 [30分] 次時の小テストの準備 [20分]				随時行う			
受講生に望むこと	積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。また、そのための練習方法を身につけること。			教科書・テキスト	『World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills』 Miles Craven著 成美堂 2006 ISBN 978-4-7919-4587-0		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES340U コミュニカティブ・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「コミュニケーション・イングリッシュA」に続いて、中学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者が英語教員として必要な高度な英語運用力を習得するための必修科目である。Bでは、毎回、身近で興味深いテーマについてリスニング・リーディングを通じて賛否両論を知り、様々な練習問題を通じて理解を深めた後、自分の考えをスピーキング・ライティングで表現する。基本、授業はすべて英語で行う。</p>			<p>様々なテーマについての賛否をリスニング・リーディングを通じて内容理解し、得た情報・表現を用いて簡潔に自分の考えをスピーキング・ライティングにより発信できるようにする。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	基本的には中学英語教員、小学校教員取得を目指す者、すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者「コミュニケーション・イングリッシュA」を履修した者(単位未修得可)が望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション・アイスブレイキング					
2	大学秋入学のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
3	高校部活のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
4	プロスポーツのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
5	買い物行動のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
6	デート費用のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
7	SNSのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
8	これまでのテーマから1つを選びショートスピーチ					
9	歩きスマホのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
10	ビデオゲームのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
11	お祭りのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
12	食事のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
13	血液型のテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
14	ファッションのテーマについて、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
15	これまでのテーマから1つを選びプレゼンテーション					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加度	20	授業の中でテーマについての発言など貢献ができているか		英文エッセイ	20	学んだテーマについて正しい英語で論理的に組み立てたエッセイが書けているか
ショートスピーチ・プレゼンテーション	20	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語スピーチやプレゼンテーションができてきているか		テスト	40	授業で学んだ様々なテーマについて内容ゆ表現を理解し、自分のことばとして使えるか
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>毎回授業で扱う課の英文を読み、すべてに解答を記入した上で授業に臨む。[45分] 毎回宿題の英文エッセイを仕上げ、次回授業開始時に提出する。[45分] スピーチやプレゼンテーションの回は、各自原稿、スライド、発音など準備をする。[60分]</p>				<p>毎回課題の英文エッセイについては、次回までに添削して返却。スピーチ、プレゼンについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。</p>		
受講生に望むこと	毎回、異なるテーマについて英文を読み、聞き、それを土台にしてスピーキング、ライティングで表現することを着実に積み重ねていこう。授業中は、細かい文法にこだわるより、自身の意見を英語で声に出すことが大事なので、そのためにも予習は十分して話す内容を用意してくること。			教科書・テキスト	Johnathan Lynch・倭文光太郎著 『Two Sides of Every Discussion』2016年 成美堂 ISBN: 9784791947843	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES260U 英語科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、中学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとっての必修科目であり、中学校英語教育の目的と目標を明確にし、英語教員として必要な英語教育についての基礎知識を学ぶ科目である。</p>				<p>英語教育の目的を理解し、学習指導要領のめざす英語力育成のための指導法について基礎知識を身につける。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、発表						
履修条件	中学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 教育実習で必要とされる知識・技能・態度について知る						
2	自分の受けてきた英語教育をふりかえる(英語教育目的論と教師論の導入)						
3	国際化時代の英語の役割(目的について考える)						
4	国際化時代の英語の役割と世界の英語教育、DVD等メディア教材、電子黒板、インターネットを活用した指導						
5	コミュニケーション能力の育成について						
6	日本の英語教育をふりかえる(1) 外国語との接触から1980年代まで						
7	日本の英語教育をふりかえる(2) グローバル化とコミュニケーションの時代の英語教育						
8	学習指導要領(1):これまでの学習指導要領をたどる						
9	学習指導要領(2):現在の学習指導要領がめざすもの						
10	学習指導要領(3):英語教員に求められていることを考える						
11	主な英語教授法(1):文法訳読法等						
12	主な英語教授法(2):直接的口頭重視指導法						
13	主な英語教授法(3):コミュニカティブ教授法						
14	教授法・ICTを含む指導技術の変遷(LLからCALL、NBLTまで)と今後の展望をもとに今日求められている英語教師論について考える						
15	まとめ 今日求められている英語教育について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況・ディスカッション	20	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組んでいるか			課題	30	講義内容に関連した課題を指示に従って仕上げているか
期末テスト	50	「英語教育法I」で学んだことが正しく理解し、自分のことばで表現できているか					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる[50分] 課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。[40分] 中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。[30分]</p>				<p>課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。</p>			
受講生に望むこと	<p>中学英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。 英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。</p>			教科書・テキスト	<p>・高梨庸雄・高橋正夫著. 2012. 『新・英語教育学概論[改訂版]』. 東京: 金星堂. ISBN: 978-4764739475 ・『中学校学習指導要領解説 外国語編』. 2018. 文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051692</p>		
指定図書/参考書等	なし/中学校英語教科書(図書館所蔵)。学習指導要領、その他については開講時に指示する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES265U 英語科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
英語科教育法Iに引き続き、英語コミュニケーション能力の育成に必要な知識と技能を学ぶ。小テーマにより、10～15分程度の模擬授業を実践する。				英語科教育法 で学んだ知識をもとに、学習指導要領の目標とする英語指導に必要な知識と技能を身につける。			
教授方法	講義・演習・模擬授業・ディスカッション						
履修条件	中学校の英語教員免許取得希望者で英語科教育法 を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 英語科教育法Iを踏まえ、教育実習のための具体的準備を知る						
2	英語教育を成功させる要因を、教師と学習者の立場から考える						
3	今日の学校教育現場における諸問題を考え、学習者の側面から英語教育を考える						
4	最近の英語教育改革に伴う早期英語教育の現状と小・中・高連携について知る						
5	英語の4技能について、その指導法や問題点の概要を知る						
6	リスニングとその指導法や問題点について具体例を学ぶ						
7	リーディングとその指導法や問題点について具体例を学ぶ						
8	スピーキングとその指導法や問題点について具体例を学ぶ						
9	ライティングとその指導法や問題点について具体例を学ぶ						
10	4技能を統合した指導法について、模擬授業を通して具体的に学ぶ						
11	教材研究と教材作成について、模擬授業を通して具体例を学ぶ						
12	授業の組み立てについて理解し、指導案を作成してみる						
13	授業運営について(コミュニケーション活動に焦点をあてて)学ぶ						
14	授業計画から評価までの手順を学ぶ						
15	まとめ ミニ模擬授業とその振り返りを行い、自己課題を把握する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	各単元の予習を前提に小テストを行うので、基本的な内容を理解しているか。			試験	50	各単元の基礎及び4技能の活動例を理解しているか。
授業参加状況	20	グループワークやディスカッションに積極的に参加しているか。模擬授業の際に学んだ知識を活用しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
中学校・高校の授業を積極的に参観すること。 （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定）				返却時に行う			
受講生に望むこと	実際に授業を参観して、「授業を観る目を養う」こと。講習会や研究に参加して、積極的に意見を発すること。			教科書・テキスト	『新・英語教育学概論[改訂版]』高梨庸雄他著 金星堂 2011 ISBN 978-4-7647-3947-5 『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 978-4-304-05169-2		
指定図書/参考書等	参考図書：中学校英語教科書、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 ISBN:未定、『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 開隆堂 2018 ISBN-13: 978-4-304-05168-5			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EL210U トパル・イグリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>近年ますます身近になってきた海外旅行、さらに日本を訪れる訪日外国人の数も過去最高の数に達している今日、あらゆる場面で想定される旅行英語や日本を紹介する英語に触れる機会も多くなってきている。この授業の目的は、実際の場面を想定して行われる観光分野における英語の基本的知識を学習することにより旅の過程で遭遇する英語表現を身につけていく学習をすることにある。具体的には、(1)旅行基礎英語、(2)英語圏はじめ世界の国々の文化事情、(3)ケーススタディ(旅行業務の実際)について学習する。</p>			<p>観光分野で主に使用される英語の語彙を習得する。聞き取りや理解力を強化し、英語での応答力を習得する。観光地の英文記事の内容を理解できる力を習得する。日本語と英語二か国語がより迅速にinputとoutputなるよう体感していく。</p>				
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーション(一人・グループ)を取り入れる。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、日常生活の中で身近に感じる海外の国々、興味がある国々について話し合いながら、旅と英語の関わりについて考える。(異文化と英語の必要性を理解する。)						
2	Unit 1: At the airport 空港内で必要な語彙を学ぶ。航空機搭乗案内を聞き取る。E-ticket内容の英語表現を読む。(航空便搭乗手続きに必要な語彙を覚える。)						
3	Unit 2: On the plane 機内で使用する語彙や表現を学ぶ。機長のアナウンスを聞き取る。機内で上映される映画のプログラムを読む。(座席番号他機内で想定される英語表現を学ぶ。)						
4	Unit 3: Arrival 到着後入国審査に進み、預けた荷物を受け取り、到着ロビーへ進む一連の流れを英語で学ぶ。(入国審査手続きでの英語のやりとり、荷物の紛失、税関申告、到着ロビーに向かう流れを学ぶ。)						
5	Unit 4: Checking in at the hotel 宿泊ホテルチェックインでのフロントでのやりとり、宿泊設備の確認、朝食のスタイル・内容を理解する。(予約確認、宿泊条件など確認すべき事柄とそれらの英語表現を言えるようにする。)						
6	Unit 5: Getting information and sightseeing 観光地見学先の情報を得る。(観光情報を得るために自ら英語で聞きたいことを質問する練習を行う。気温で摂氏と華氏の換算方法を学ぶ。)						
7	Unit 6: Ordering fast food ファストフード店での注文方法や飲食物の語彙を学ぶ。(カタカナ英語を英語の音で発音する、メニュー内容と値段を聞き取る練習を行う。)						
8	Unit 7: Going to the theater 映画、コンサート、ミュージカル、オペラ、バレエなどエンタテインメントの表現を学ぶ。(国名、都市名を英語で書き、発音を練習する。)						
9	Unit 8: At the restaurant レストランの予約を入れる、注文をする表現を学ぶ。(レストランでのやりとりをロールプレイ形式で行い、食事を注文する練習を行う。)						
10	Unit 9: Shopping ショッピングとセールの案内を理解する。(いろいろな状況が想定されるなか、特に清算時に起こりうるおつりのまちがえにクレームする表現を学ぶ。)						
11	Unit 10: Lost and found 忘れ物と紛失物がでた場合、報告書と報告内容を記入することを学ぶ。(万一ハプニングに遭遇しても、どのような対応をすべきかシュミレーションを行う。)						
12	Unit 11: Using public transportation 旅先で公共交通機関を使用する際に必要な語彙を学ぶ。(駅、フェリー乗り場、路面電車、路線バスなどを利用して自分の足で歩く基本表現を学ぶ。)						
13	Unit 12: Renting a bike 自転車を借りる。契約内容の読み取りや申込み書記入方法を学ぶ。(交通ルール、マナー、日本と違う点を調べる。)						
14	Unit 13: Finding your way around 道を尋ねる、道に迷った場合の英語表現を学ぶ。(聞きたいことを的確に伝えられるか明確に英語で表現することを学ぶ。)						
15	Unit 14 Medical care & 15 Leaving for home 海外で病気になった時の英語表現、帰国の途につく。まとめ(簡単な医療英語や病状の言い方を学ぶ。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	各履修単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。		定期試験	40	試験範囲、形式は、授業内で指示する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。		発表	20	英語の運用力がついているか評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>テキストの次週授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目の単語を事前に調べておく。(30分) 英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、観光情報など知識を得ておく。(30分) 付属CDを聞いて履修項目の復習をする。(10分)</p>			<p>小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。 課題は、提出後に授業内でフィードバックする。 発表は、実施後内容に関するフィードバックする。</p>				
受講生に望むこと	身の回りに旅に関する知識や情報を得られる機会は多くある。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。授業中のスマートフォンの辞書機能・授業内容に関する検索以外は使用禁止とする。授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。		教科書・テキスト	『Enjoy Your Trip! English you need abroad 旅英語の心得』竹内 一範・中井 延美・菅原 千津著 南雲堂 2015年 ISBN:978-4-523-17783-8 C 0082			
指定図書/参考書等	なし/『異文化理解とコミュニケーション<1>ことばと文化』本名信行・秋山高二・竹下裕子・ベイツ ホッフナー著 三修社 2005年 ISBN-10:4384040717、『異文化理解』青木保著 岩波新書 2001年 ISBN-10 4004307406、『旅行業プロの英語教本』岩瀬恒子・喜田慶文著 柴田書店 1989年 ISBN-10:4388152005		その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級~2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題(英語)への手がかりとする。			

授業科目名	EL220U トバル・イグリッパB			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、国内外の観光地について地理・交通・名物料理・旅行全般に関する観光英語の基礎を習得する。毎回1つの目的地を扱い、英語での聞き取り、書き取り、読み取りを行う。旅行の過程で遭遇する事柄や英語表現を学ぶとともに、日本の観光地はじめ世界の国々の文化事情、旅行業務の実践について考察する。</p>				<p>観光分野で主に使用される英語の語彙を習得する。聞き取りや英文の理解力を強化し、英語での応答力を習得する。観光英語の基礎知識を学ぶ。日本語と英語二か国語がより迅速にinputとoutputなるよう体感していく。</p>			
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーション（一人・グループ）を取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、海外の国々、日本についても話し合いながら、旅と英語の関わりについて考える。（英語を通して日本文化への興味をもつ。）						
2	Unit 1 Japan Hokkaido 英日、日英、語彙のチェック、パンフレット内容を確認する。（key wordを聞き取るディクテーションを行う。）						
3	Unit 2 Japan Kyoto e-mail 英文を敏速に読み内容を把握する。（寺・神社など日本文化事象に関する英語表現を学ぶ。）						
4	Unit 3 Japan Yufuin e-mailで返事を出す英文表現を学ぶ。（実際に返事メールを英語で書く練習をする。）						
5	Unit 4 Japan Okinawa レストランガイドを読み内容を把握する。（郷土料理を英語で紹介する。）						
6	Unit 5 Singapore ホームページの空港ガイド、チャンギ国際空港の英語案内を読む。（出入国カードを英語で記入する。）						
7	Unit 6 Bali, Indonesia ツアーパンフレットを読み、エコツーリズムについて学ぶ。（旅行会社の英語パンフレットの内容を理解できるようにする。）						
8	Unit 7 Sydney, Australia シドニー湾クルーズの広告内容の読み取りを行う。（南半球の地ならではの表現を知ると共にウォータースポーツの英語語彙を学ぶ。）						
9	Unit 8 Hawaii, the USA "Aloha State" ハワイの紹介文を聞き取る。（火山など自然に関する英単語を学ぶ。）						
10	Unit 9 London, the UK ロンドンの公共交通機関、簡単な紹介をディクテーション形式で聞き取る。（ロンドンならではの乗り物など、関連する英単語を学ぶ。簡単なレジユメの書き方を学ぶ。）						
11	Unit 10 France e-mail文（クレーム文）の内容を読み取る練習をする。（ツアー参加者からのクレームの具体的内容は何か、英文を明確に把握する。（英文内容を、詳細に読み取ることを学ぶ。）						
12	Unit 11 Museums in Europe 7か所の博物館・美術館を英文でたどってみる。（中でも有名な展示物を挙げ作品・作者を英語で紹介できるようにする。）						
13	Unit 12 New York, the USA Broadwayのミュージカルレビューを読む。（大きな数の数字を言える書ける練習を行う。）						
14	Unit 13 Boston the USA スポーツに関する問い合わせのメールの表現を学ぶ。（丁寧なお問い合わせの表現をできるように、英文の中からそれらの表現を探し出し、実際に例文を作成してみる。）						
15	Unit 14 Canada & Rio de Janeiro, Brazil ハンドブックとガイドブックを読み取る練習をする。まとめ。（受動態表現を用いた婉曲的な表現を学ぶ。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	20	各履修単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。			定期試験	40	試験範囲、形式は、授業内で指示する。
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。			発表	20	英語の運用力がついているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>テキストの次週授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目の単語を事前に調べておく。（30分） 英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、観光情報など知識を得ておく。（30分） 履修項目の英単語。英語表現の見直しをする。（10分）</p>				<p>小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。課題は、提出後に授業内でフィードバックする。発表は、実施した後内容に関するフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	身の回りのあらゆるところに旅に関する知識や情報を得られる機会にあふれている。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。授業中のスマートフォンの使用は指示以外は使用禁止とする。授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。			教科書・テキスト	『English for Tourism 101 ーから学ぶ観光英語の基礎ー日本から世界へ』津田晶子・クリストファー・ヴァルヴォア・岩本弓子著 南雲堂 2014年 ISBN 978-523-17760 C0082		
指定図書/参考書等	なし/『異文化理解とコミュニケーション<1>ことばと文化』本名信行・秋山高二・竹下裕子・ベイツ ホッファー著 三修社 2005年 ISBN-10:4384040717. 『異文化理解』青木保著 岩波新書 2001年 ISBN-10 4004307406. 『旅行業プロの英語教本』岩瀬恒子・喜田慶文著 柴田書店 1989年 ISBN-10:4388152005			その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級～2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題（英語）への手がかりとする。ポランディア通訳の入門編とする。		

授業科目名	EL230U ビジネス・イングリッシュA			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目では主にビジネスに関わる英語を中心に学習する。将来社会にでると遭遇するであろう場面の中で「聞き取る」「話す」、文書形式「書く」を中心に、ビジネス英語の基本を学ぶ。また、ビジネスの場面で日本語での言い回しを英語でどのように表現するのかを学ぶ機会とする。プレゼンテーション（発話力を高める）を実施し、例えばビジネス場面を設定し、英語を使い人前で話すことに慣れていく練習をする。</p>				<p>ビジネス場面を想定した英語表現を学ぶ。 「聞く」「話す」機会を多く取り入れ、英語を使うことに慣れる。 英語を話すだけでなく、話す内容を充実させていくために時の話題に関心をもつ。 ビジネス文書他「書く」ための文例を学ぶ。 ニュース英語他時の話題などを知る。</p>			
教授方法	テキスト学習の上、ペアワーク・ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、特にビジネスに関する英語には多岐にわたる分野があることを知る。（電話・面接・約束をとりつける・ビジネス文書・手紙・e-mail他具体的な用例を学ぶ。）						
2	Unit 1 Job Hunting(1)-Writing a Resume 電話のやりとりにおける聞き取り・書き取りを行う。（電話のやりとり英文例を言えるようになる。英語レジュメの形式を学ぶ。）						
3	Unit 2 Job Hunting(2)-Writing an Application Letter 就職申し込みの聞き取り・書き取りを行う。（書類送付の際のカバーレターの英語表現を学ぶ。）						
4	Unit 3 Job Hunting (3)-Arranging an Interview 面接の日時や場所をおさえる練習を行う。（志望動機を聞かれた際の返事の仕方、I appreciate your kindness.丁寧なお礼の言い方を使える。）						
5	プロジェクト Unit 1~Unit 3の内容をアレンジして、グループごとにオリジナルのスキットを作成し、発表する。（文字からの理解とは異なり、既習表現を駆使して場面設定に即した英語に慣れていく。）						
6	Unit 4 Job Hunting(4)-A Job Interview 面接における質問に答える場面の聞き取り・書き取りを行う。（be impressed with~.受動態表現を使えるようになる。声に出して口で覚える。）						
7	Unit 5 Job Offer 雇用条件の確認をとる用語を学ぶ。（形容詞annual, social、第5文型の文を表現できる。）						
8	Unit 6 The First Day at Work 入社初日の挨拶やりとり、ビジネスメモの取り方を学ぶ。（Wh-疑問文を使い、場所、時間など質問する練習をする。）						
9	プロジェクト Unit 4~Unit 6の内容をアレンジして、ペアワークで場面会話を作成し、発表する。（既習の英単語を口で覚えて使えるようになる。）						
10	Unit 7 Preparing to Work オフィス事務用品の用語を学ぶ。（日本語のホッチキス、英語ではなんとこのかなど言えそうで言えない事務用品を調べる。）						
11	Unit 8 Telephoning (1) 留守中の同僚に代わり伝言を受ける表現を学ぶ。（固有名詞をひろえるようにする。）						
12	Unit 9 Telephoning (2) Taking a Message オフィスにかかってくる電話への対応を聞き取る。（相手の言うことが聞き取れなかった場合の言い直しをお願いをする。）						
13	プロジェクト Unit 7~Unit 9。ロールプレイ：かかってきた電話を受けた上で伝言をメモし、内容を伝える練習をする。（既習表現を駆使して場面設定に即した英語に慣れていく。）						
14	Unit 10 Telephoning (3) Making an Appointment 新商品の紹介のため面会の予約をとる。（S+V+Cの文例を使う。スケジュール表を日本語を英語に翻訳してみる練習をする。）						
15	Unit 11 Visiting a Client 新製品の売り込みに行く。（助動詞+have+過去分詞の表現を使える。）まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	20	各履修内容の単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。		定期試験	40	試験範囲、形式は、授業内で指示する。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。		発表	20	英語の運用力がついているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>テキストの指定された項目を事前に調べておく。（30分） 英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、時事、日本のことなど知識を得ておく。（30分） 提出する課題を準備する。（30分）</p>				<p>小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。 課題は、提出後に授業内でフィードバックする。 発表は、実施後に授業内でフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	<p>ビジネスに関する知識や情報を得られる機会にあふれている。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。 授業中のスマートフォンの使用は指示以外使用禁止とする。 授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。</p>			教科書・テキスト	『BUSINESS TALK やさしいオフィス英語』城 由紀子・島田拓司・Edward J. Schaefer著 成美堂 2015年第19刷 ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082		
指定図書/参考書等	なし/『ビジネスで使える英語の1分間スピーチ』小坂貴志・ジョンワングラー著 研究社 2006年 ISBN 4-327-43058-7、『英語で伝える日本の文化と社会 英和対訳 必須トピック30』五十嵐昭人著 2010年 南雲堂フェニックス ISBN 978-4-88896-428-9 C0082			その他・特記事項	TOEIC、英語検定試験、国連英語検定、ビジネス英語検定などへの手がかりとする。		

授業科目名	EL240U ビジネス・イングリッシュB			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は「ビジネス・イングリッシュA」に続き、一連のビジネスシーンを取り上げた場面設定に応じた英語表現を学ぶことにある。Bでは、出迎え、手配、日程調整、工場訪問、案内、見本市担当、海外出張に至る英語表現の聞き取りに慣れる、ビジネスのやりとりで使用する基本表現を会話形式で習得することを目指す。耳で入る英語を瞬時に理解し、自分の意見を英語で瞬時に発信できるように通訳メソッド（サイト・トランスレーション、シャドーイング）を取り入れた英語学習を行う。</p>				<p>ビジネス場面を想定した英語表現を学ぶ。 「聞く」「話す」機会を多く取り入れ、英語を使うことに慣れる。 英語を話すだけでなく、話す内容を充実させていくために時の話題に関心をもつ。 ビジネス文書他「書く」ための文例を学ぶ。 ニュース英語他時の話題を知る。</p>			
教授方法	テキスト学習の上、ペアワーク・ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、特にビジネスに関する英語には多岐にわたる分野があることを知る。（前期の続編。ビジネス英語力をつけることにより簡単な英文で内容あることを表現できるようにする。）						
2	Unit 12 Receiving a Visitor (1) - Preparation アメリカからの客を日本に迎える。旅程表を作成する。（be supposed to doの表現を使う。）						
3	Unit 13 Receiving a Visitor (2) - Meeting at Narita Airport FAX送付状の例を学ぶ。（You mean～.を使えるようになる。）						
4	Unit 14 Receiving a Visitor (3) - A Business Lunch 日本食のメニューを紹介する。（和食メニューを英語で説明する。）						
5	プロジェクト Unit 12～Unit 14の内容をアレンジして、グループごとにオリジナルのスキットを作成し、発表する。（日本の紹介、日本食の紹介、日本の事象、金沢案内などテーマを選び調べてみる。）						
6	Unit 15 Receiving a Visitor (4) - Visiting a Factory 日本の工場を訪問する。（be able to doを使う文例を学ぶ。）						
7	Unit 16 Receiving a Visitor (5) - Sightseeing in Kyoto 京都案内をする。（主な観光場所を英語で言えるようにする。）						
8	Unit 17 Working for an International Exhibition 国際見本市自社ブース担当。（「アンケート」を英語で、「冊子」を英語で、英語の語彙を覚える。）						
9	プロジェクト Unit 15～Unit 17の内容をアレンジして、ペアワークで場面会話を作成し、発表する。（例えば京都もしくは金沢を案内するという設定で見学先を選びガイドする。）						
10	Unit 18 Preparing for the First Overseas Business Trip 海外出張にでかける。（in charge of～の使い方を学ぶ。）						
11	Unit 19 The First Overseas Business Trip (1) - At Los Angeles Airport LAX空港到着（出張に関する英語表現をまとめる。）						
12	Unit 20 The First Overseas Business Trip (2)- Welcome Party 歓迎会の招待状文面を学ぶ。（R..S..V..Pなど省略表現の使い方を練習する。）						
13	Unit 21 The First Overseas Business Trip (3) - Presentation アメリカ本部の会社でプレゼンテーションを行う。（スピーチの挨拶の表現を学ぶ。）						
14	Unit 22 Writing a Thank-you Letter お礼状を書く。手紙の文面を学ぶ。（It was really a great honor・・・形式の英文表現を覚える。）						
15	プロジェクト Unit 18～Unit 22。ビジネス場面を設定し、プレゼンテーションを実施する。（新商品の紹介など適宜場面を想定した上でPower Pointなどメディアを使用するなど創意工夫してまとめた発表を試みる。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	20	各履修内容の単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。			定期試験	40	試験範囲、形式は、授業内で指示する。
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。			発表	20	英語の運用力がついているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>テキストの指定された項目を事前に調べておく。（30分） 英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、時事、日本のことなど知識を得ておく。（30分） 提出する課題を準備する。（30分）</p>				<p>小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。 課題は、提出後に授業内でフィードバックする。 発表は、実施後授業内でフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	<p>ビジネスに関する知識や情報を得られる機会にあふれている。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。 授業中のスマートフォンの使用は指示以外使用禁止とする。 授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。</p>			教科書・テキスト	『BUSINESS TALK やさしいオフィス英語』城 由紀子・島田拓司・Edward J. Schaefer著 成美堂 2015年第19刷 ISBN 978-4-7919-4711-9 C2082		
指定図書/参考書等	なし/『ビジネスで使える英語の1分間スピーチ』小坂貴志・ジョンワングラー著 研究社 2006年 ISBN 4-327-43058-7、『英語で伝える日本の文化と社会 英和対訳 必須トピック30』五十嵐昭人著 2010年 南雲堂フェニックス ISBN 978-4-88896-428-9 C0082			その他・特記事項	TOEIC、英語検定試験、国連英語検定、ビジネス英語検定などへの手がかりとする。		

授業科目名	EE210U 理科			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	姫野 俊幸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領における理科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのような観察・実験を行うのか、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。</p>				<p>1) 小学校学習指導要領における理科の目標及び主な内容を理解する。 2) 理科の各領域、各学年の学習内容・観察・実験等についての指導上の留意点について理解する。 3) 理科の学習評価の考え方を理解する。 4) 理科の背景となる物理・科学・生物・地学等とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。</p>			
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科を学ぶ意味について理解する。						
2	物質とエネルギー（１）「重さと質量」について理解する。						
3	物質とエネルギー（２）「てこと力、ふりこと運動」について理解する。						
4	物質とエネルギー（３）「電気回路」について理解する。						
5	物質とエネルギー（４）「熱の移動と熱膨張」について理解する。						
6	物質とエネルギー（５）「物質の構成と原子・分子」について理解する。						
7	物質とエネルギー（６）「物質の状態変化」について理解する。						
8	物質とエネルギー（７）「溶解・水溶液」について理解する。						
9	物質とエネルギー（８）「燃焼・酸化・還元・化学反応」について理解する。						
10	生命と地球（１）「生物の分類」について理解する。						
11	生命と地球（２）「植物のつくりとはたらき」について理解する。						
12	生命と地球（３）「動物の体のつくりとはたらき」について理解する。						
13	生命と地球（４）「地球と宇宙」について理解する。						
14	生命と地球（５）「地球とその変動」について理解する。						
15	生命と地球（６）「天気と気象」について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	40	各領域の内容について小テストを行い、その理解度を評価する。			レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
小テストに向けて、授業内容を復習する。（60分）				小テストやレポートの採点及び解説を行う。			
受講生に望むこと	小学校の理科学習を想起しながら、実際に観察をしたり、実験をしたりして、理科を好きになってもらいたい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638		
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	EE200U 社会			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成するとは、具体的にどのようなことかについて、知識と理解を深める。</p>				<p>小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通し、理解している。社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。</p>			
教授方法	講義・演習、グループ協議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。						
3	社会系教科の成立と歴史の変遷について理解する。						
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。						
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。						
6	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年 「地域の生産や販売に携わっている人々」から						
7	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年 「古くから続く暮らし（道具・年中行事・先人）」から						
8	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年 「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から						
9	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年 「地域の人々の安全を守るための諸活動」から						
10	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年 「我が国の国土の様子と国民生活」から						
11	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年 「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から						
12	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年 「我が国の歴史上の主な事象」から						
13	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年 「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から						
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。						
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学習の創造」について話し合う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート1(中間)	30	講義1～5までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。			レポート2(最終)	30	講義全体を通し、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。			講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。【60分】				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文芸出版、2018年、978-4536590099		
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE215U 家庭			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	金丸 洋子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
『小学校学習指導要領解説家庭編』をもとに、小学校家庭科の果たすべき役割や指導内容について学習します。指導内容に関する基礎的・基本的な知識の理解や技能を習得することを目的とします。家庭科は実践的態度を育てることも教科のねらいであり特徴です。本授業を通して、日常生活における自立や家庭・社会の一員としての自分自身の生活を振り返り、現状や課題について考えます。				教科の目標や各領域の基礎的・基本的知識を理解する。 調理や布を使った製作の基礎的・基本的技能を習得する。 子どもの家庭生活についての現状と課題について理解する。 自分自身の日常生活を振り返り、よりよい生活への実践的な態度を養う。			
教授方法	講義 演習 実習 ビデオ視聴						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業概要説明：授業内容の概略・進め方・成績評価方法等の説明をします。「家庭科」「生きる」のマップ作りを通して関係について考えます。（授業への見通しをもつ。密接な関係について理解を深める。）グループ活動						
2	子どもの家庭生活の実態：アンケート結果から実態を読み取り、その背景を考えグループでプレゼンします。（子どもの家庭生活における現状と課題を理解する。）グループ活動						
3	家庭科の目標：現行及び新学習指導要領の比較を通して、家庭科の目標及び内容構成について説明します。（目標の改善点と内容の改善点について理解する。）						
4	A領域「家庭生活と家族」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について説明します。						
5	手作りおやつと団らん：実習を通して基礎的・基本的技能を習得すると共に、団らんの大切さや工夫する楽しさを体験的に理解します。自分と家庭・家族とのかかわりについて考えます。グループ活動						
6	B領域「日常の食事と調理の基礎」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について説明します。						
7	栄養を考えた食事：調和のとれた食事について理解し1食分の献立をたてることができる。自分自身の食生活を振り返ることができる。グループ活動						
8	調理実習：調理の基礎的知識や技能を習得する。調理実習指導の配慮事項について体験的に理解します。グループ活動						
9	C領域「快適な衣服と住まい」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について説明します。						
10	快適な衣服：衣服の着用と手入れについて実験や実習を通して基礎的知識・技能を習得する。日々の実践に活かす。						
11	快適な住まい方：快適な住まい方の基礎的知識・方法を考え、自分の生活を工夫します。（エネルギー問題や生活環境の見直しに関心をもつ。）						
12	生活に役立つ物の製作：各自、布を用いる製作物を考え製作計画立案し、製作の仕方の見通しをもつます。						
13	生活に役立つ物の製作：各自、製作物に応じた縫い方を考えて製作し、基礎的・基本的な知識や技能を習得します。						
14	D領域「身近な消費生活と環境」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について説明します。環境について考えます。						
15	家庭生活や地域での課題：これからの家庭や社会生活の課題を考え、プレゼンします。自分自身の家庭生活を振り返り実践への心構えをもちます。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習や製作物	30	・積極的、主体的に実習に参加しているか。 ・製作計画や提出期限を遵守しているか。 ・製作方法や仕上がりが良いか、工夫があるか。			定期試験 (筆記試験)	50	基礎的・基本的知識を理解しているか。自分の家庭生活を振り返っているか。
事後レポート	20	理解したことや課題についてまとめているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習 次時の課題についてテキストを読んだり調べたりする。製作や実習の準備をする。[30分] 事後学習 授業で学んだ事柄や考えをまとめレポートを提出する。製作計画に基づき課外で仕上げる。[30分]				事後レポートにはコメントをつけて返却する。 製作物を評価し返却する。手直し再提出を求める場合がある。			
受講生に望むこと	家庭科は日々の生活の科目であり、「家庭科の基礎・基本」は「生活の基本」と言える。しかし、現代の消費生活主流の中で「衣・食・住」のほとんどが、他に依存するようになり、生活の基本がゆらいできている。家庭科の基礎基本を学び、できる・教える力をつけてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省 東洋館 2018年 ISBN 978-4-491-03466-9 『家庭科の基本』流田直監修 Gakken 2012年 ISBN978-4-05-405222-2C2037		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	実習費徴収 製作物材料費は個人負担		

授業科目名	EE310U 算数科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	姫野 俊幸					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。			1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	「算数」を履修した者または「算数」を履修中の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。算数教育の意義、目標、内容について理解する。					
2	算数科の史的変遷について理解する。					
3	数と計算領域の目標、内容、課題について理解する。					
4	図形領域の目標、内容、課題について理解する。					
5	測定領域の目標、内容、課題について理解する。					
6	変化と関係領域の目標、内容、課題について理解する。					
7	データの活用領域の目標、内容、課題について理解する。					
8	問題解決の算数授業（7つの提案）について理解する。					
9	数学的な活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。					
10	算数科における基礎的指導法、教材研究、教材教具、ICT機器の活用について理解する。					
11	授業の構成、指導案立案、評価の仕方について理解する。					
12	グループによる模擬授業の実施と協議（自己の変容・態度の変容）					
13	グループによる模擬授業の実施と協議（試行力・個を生かす）					
14	グループによる模擬授業の実施と協議（深い理解・主体性）					
15	グループによる模擬授業の実施と協議（算数のよさや美しさ）算数教育における今日的課題について理解する。					
成 績 評 価 方 法 と 基 準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		模擬授業	40	丁寧に教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。（60分） 授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。（20分）				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。		
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに算数科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105	
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	EE315U 理科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	姫野 俊幸					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
理科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校理科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。			1)理科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2)理科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3)理科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	「理科」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科教育の意義について理解する。					
2	理科の目標、指導内容とその概観、授業改善の視点について理解する。					
3	理科で何を学ばせるのかについて、4つの分野の内容から考える。					
4	授業の方法、授業の進め方、問題解決の授業、ICT機器の活用、学習評価・評定について理解する。					
5	授業づくりと学習指導案、授業の構成について理解する。					
6	実験と観察、基本的な実験器具の使い方、試薬の扱い方、理科室の整備と管理について理解する。					
7	理科指導法の研究（アクティブ・ラーニングの視点）					
8	理科指導法の研究（資質・能力の育成の視点）					
9	模擬授業の実施と協議（中学年の授業論）					
10	模擬授業の実施と協議（高学年の授業論）					
11	模擬授業の実施と協議（中学年の教材論）					
12	模擬授業の実施と協議（高学年の教材論）					
13	模擬授業の実施と協議（中学年の方法論）					
14	模擬授業の実施と協議（高学年の方法論）					
15	模擬授業の実施と協議（評価論） 理科教育における今日的課題について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		模擬授業	40	丁寧に教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。（60分） 授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。（20分）				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。		
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに理科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638	
指定図書/参考書等	授業中に適宜資料を配布する			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE300U 社会科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、とある。小学校3年生から6年生まで、それぞれの発達段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>				<p>小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「社会」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	小学校社会科における教科の本質について理解する。						
3	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案）を理解する。						
4	社会科指導のあり方（授業展開、評価）を理解する。						
5	3, 4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
6	5, 6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
7	3, 4 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。						
8	5, 6 学年における社会科教育の指導計画の作成を理解する。（社会科学習指導案 の提出）						
9	学生による模擬授業の実施と反省、評価（3学年）						
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価（3,4学年）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価（4学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価（5学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価（5,6学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価（6学年）						
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。			模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。			講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。〔60分〕 金沢市近郊の小学校あるいは母校等において、学習支援に積極的に参加する。〔60分以上〕</p>				<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>			
受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文芸出版、2018年、978-4536590099		
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE320U 生活科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。</p> <p>1、2年生の発達段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。</p>				<p>生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。</p> <p>生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「生活」1年次後期2単位の修得者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。						
3	教材研究、指導計画立案について理解する。						
4	授業展開、評価について理解する。						
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。						
6	生活科の目標と内容を理解する。						
7	生活科学習指導計画の作成について理解する。						
8	指導計画の作成、質問教室（生活科学習指導案 の提出）						
9	学生による模擬授業の実施と反省、評価（1学年）						
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価（1学年）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価（1学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価（2学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価（2学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価（2学年）						
15	模擬授業全体を通じての全体ふりかえり、まとめ。生活科学習指導案（修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫を行っている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>三小・山周周辺の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。【20分】</p> <p>単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。【60分】</p> <p>金沢市近郊の小学校、あるいは母校等の学習支援に積極的に参加する。【60分以上】</p>				<p>学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。</p> <p>対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。</p>			
受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、978-4491034645		
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE325U 図画工作教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	鷲山 靖						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>1. カリキュラムにおける位置付け この科目は資格取得に必要な科目である。 この科目は「図画工作」に接続する科目である。 この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。</p> <p>2. 授業のねらい 図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。</p> <p>3. 授業の進め方 テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 期末に基礎知識・技能に関する筆記試験を行う。</p>				<p>図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。</p>			
教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習を行い、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。						
履修条件	「図画工作」を履修した者または「図画工作」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。						
2	基礎知識：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。						
3	基礎知識：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。						
4	基礎知識：図画工作科が主に取り扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討し理解する。						
5	基礎知識：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。						
6	基礎知識：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、図画工作科教科書を検討し理解する。						
7	基礎知識：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。						
8	授業構想・演習：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。						
9	授業構想・演習：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。						
10	授業構想・演習：図画工作科における指導言とその要点を理解する。						
11	授業構想・演習：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。						
12	授業構想・演習：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。						
13	授業構想・演習：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。						
14	授業構想・演習：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。						
15	授業構想・演習：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講姿勢	40	疑問点やよく理解できないことを質問している。 講義内容とともに自分の考えをノートしている。 ミニッツペーパーや小課題に取り組み、提出している。			定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内容に対する自分の考えや意見、気づきをノートに書き留める。〔10分〕 教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。〔30分〕				課題（演習）の成果は、担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）を行う。			
受講生に望むこと	スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 考えたこと、思ったことなど気づきをどんどんノートしておくことを勧めます。			教科書・テキスト	『図画工作 1・2上～5・6下』日本文教出版 1.2上 2015年 ISBN978-4-536-10022-9 1.2下 2015年 ISBN978-4-536-10023-6 3.4上 2015年 ISBN978-4-536-10024-3 3.4下 2015年 ISBN978-4-536-10025-0 5.6上 2015年 ISBN978-4-536-10026-7 5.6下 2015年 ISBN978-4-536-10027-4 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』日本文教出版 2018年 ISBN9784536590112 『評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のため の参考資料 小学校 図画工作』教育出版 2011年 ISBN978-4-316-30037-5		
指定図書/参考書等	なし/授業時に随時紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE330U 音楽科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領「音楽科」の教科目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。第1学年から第6学年まで、それぞれの発達段階に応じた音楽科の学習指導を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。</p>				<p>小学校音楽科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識及び技能を身に付ける。 音楽科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義、演習、模擬授業						
履修条件	「音楽」「器楽」「器楽」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	小学校音楽科における教科の本質について理解する。						
3	教科の目標と各学年の目標と内容を理解する。						
4	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 歌唱：共通教材						
5	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 歌唱：歌唱教材（共通教材以外）						
6	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 器楽						
7	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 音楽づくり B鑑賞						
8	A表現 歌唱における音楽科学習指導計画の作成について理解する。						
9	A表現 器楽における音楽科学習指導計画の作成について理解する。						
10	B鑑賞における音楽科学習指導計画の作成について理解する。音楽科学習指導計画案 の提出						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価（低学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価（中学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価（高学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価（高学年）						
15	全体の振り返り、まとめ、音楽科学習指導計画案の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
コミュニケーションシート	20	提出状況と内容（毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。）			模擬授業	20	模擬授業内容
学習指導計画案、	40	模擬授業実施のための学習指導計画案作成において十分に教材研究をし、創意工夫して作成されているか。模擬授業や担当教員による助言を踏まえて、修正版学習指導計画案が作成されているか。			課題の取り組み	20	課題に対する取り組みと内容
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>音楽の技能を高めるための課題を出すので積極的に取り組んで下さい。[30分] 講義内容に対して講義後に自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。 [30分] 学習指導計画案作成において、基本的な要件を漏れなく記載することができるように多くの学習指導計画に当たって下さい。[30分]</p>				<p>毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。</p>			
受講生に望むこと	歌うことと、ピアノを演奏することを継続的に学習して下さい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社、2017年、ISBN978-4-87788-791-9 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・山下薫子編著 教育芸術社 2017年 ISBN978-4-87788-491-8 / プリント		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE335U 家庭科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	荒井 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。</p>				<p>家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。児童の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。児童の意欲を引き出す学習方法を習得し授業づくりの力をつける。</p>			
教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う						
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）						
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教論、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える）						
3	家庭科の歴史と男女共修（1947年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）						
4	学習指導要領と家庭科の目標・内容（学習指導要領の変遷を理解するとともに、現行の学習指導要領の目標、内容について小・中・高校の段階ごとの特徴と相互の関連をみる）						
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）						
6	家庭科教育の目指すもの（1）（三国清三氏の「ようこそ先輩」のVTRをもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）						
7	家庭科教育の目指すもの（2）（「家族」の授業実践例をもとに、家庭科において、自分や家族をどのような視点から学んだらよいかについて考える）						
8	新しい家庭科カリキュラムの視点と構造（子どもの自発性や生活自立力を育む家庭科カリキュラムの構造について、テキストをもとに理解する）						
9	授業を読む（1）（テキストに掲載された被服や消費生活にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）						
10	授業を読む（2）（テキストに掲載された住居や家族にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）						
11	家庭科模擬授業（1）授業計画を立てる（グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）						
12	家庭科模擬授業（2）細案を考える（取り組みたい授業テーマに沿って、数時間の単元を設定し、特に模擬授業を実施したい授業について細案をたてる）						
13	家庭科模擬授業（3）授業の準備（細案にかかわる資料や教材、教具を作成したり準備する）						
14	模擬授業（4）授業の実施（グループごとに授業を実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）						
15	模擬授業（5）授業の省察（実際に授業をしてみてわかったことを話し合い、さらに良い授業にするにはどうしたらよいかを考える）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
模擬授業の授業案と実践	30	授業構想がしっかりたてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。			課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を適切に行っているか、まとめ方や表現は適切か。
最終テスト	40	本講義で学んだことを理解しているか、それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
8回の授業が終わった時点で、授業計画に必要な教材研究の一環として、食生活と衣生活に関わる実践的な問題解決の課題を出す。【2～3時間】				講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。			
受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」「プロローグ」に目を通しておいて下さい。			教科書・テキスト	『新版 生活主体を育む 探究する力をつける家庭科』 荒井紀子編著、ドメス出版、2013年 ISBN：9784810707878		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE237U 教育課程編成論(小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	姫野 俊幸					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
社会的背景と明確な法的根拠に基づいた「教育課程」について理解を深めるために、学制以降の教育課程の歴史、学習指導要領の誕生から改訂の変遷、カリキュラム・マネジメントを踏まえた新しい学習指導要領の目指すところ、教育課程の編成の方法に関して留意すべき事項等について学んでいく。			1)初等・中等教育における教育課程の意義、学習指導要領の内容、役割、改訂の変遷等について理解する。 2)教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3)カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	小学校教員免許課程および中学校教員免許課程希望者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法、教育課程とは何かについて					
2	学力問題と教育課程について					
3	近代日本の教育課程の歩み(1) 明治時代～大正時代					
4	近代日本の教育課程の歩み(2) 大正時代～戦時下国民学校					
5	現代日本の教育課程の歩み(1) 軍国主義～民主主義					
6	現代日本の教育課程の歩み(2) 系統性重視への転換					
7	現代日本の教育課程の歩み(3) 教育の現代化					
8	現代日本の教育課程の歩み(4) 人間性重視への転換					
9	教育課程再編の新しい動向					
10	教育課程の思想と構造					
11	教育課程の編成					
12	カリキュラム・マネジメント					
13	社会における教育課程					
14	今日的課題への挑戦					
15	諸外国の教育課程改革					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	「教育課程」について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
次の授業で取り上げる内容についてテキストを読んで予習する。(60分)				レポートは、採点及び解説を行い返却する。		
受講生に望むこと	具体的な授業についての指導法ではなく、教育課程という大きな括りで、初等・中等教育について、俯瞰して見つめなおす機会としてほしい。			教科書・テキスト	「新しい時代の教育課程 第4版」田中耕治他 有斐閣 2018年 ISBN 978-4-641-22107-9	
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	EE227U 道徳教育指導論（小・中）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
道徳教育においては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育み、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はそのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められる。そこで、道徳の教育の本質、道徳教育の歴史、学校における道徳教育、道徳の時間の学習指導（道徳科）の順に講義を行い、終盤ではいくつかの道徳授業をもとに自分なりの道徳授業について考える。			道徳教育の本質について、道徳教育の目指すものや道徳性の発達から理解している。 道徳教育の歴史について、西洋と日本の道徳教育の違い、日本の戦前と戦後の道徳教育の違いをもとに理解している。 学校における道徳教育について、指導体制、全体計画、年間指導計画、評価の面から構造的に理解している。 道徳の時間の学習指導（道徳科）について、実際の授業（DVD）を視聴し、自分なりの考えや感想を持つことができる。 道徳科におけるモラルジレンマ授業について、自分なりに考えることができる。			
教授方法	講義					
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要と評価方法について知る。）/道徳教育が目指すもの（道徳教育が目指すものについて考える。）					
2	道徳教育（道徳科）への期待（なぜ道徳教育（特別の教科 道徳）に期待が寄せられるのかについて考える。）					
3	道徳の諸科学（デュルケムとデュルケム教育思想について知る。）					
4	道徳性の発達（道徳性発達理論を知り、その課題と展望について考える。）					
5	市民育成としての道徳教育（理論を手がかりとした話し合いの指導法について知る。）					
6	道徳教育の歴史（西洋における道徳的思想について知る。）					
7	道徳教育の歴史（日本における道徳教育の歴史について知る。）					
8	学校における道徳教育（道徳教育の目標、内容、評価について知る。）					
9	学校における道徳教育（道徳教育の指導体制、全体計画、年間指導計画について知る。）					
10	道徳の内容項目（映像資料をもとに「正直・誠実」の授業について考える。）					
11	道徳の内容項目（映像資料をもとに「生命尊重」の授業について考える。）					
12	道徳授業の方法（3つの類型があることを知り、モラルジレンマ授業について考える。）					
13	道徳授業の方法（教師が教え込む授業から児童生徒が学ぶ授業への転換について考える。）					
14	道徳授業の方法（モラルジレンマ授業について板書構成から考える。）					
15	学習のまとめ（「私がやってみたモラルジレンマ授業」の観点からレポートを作成する。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	・講義内容を正しく理解している。 ・道徳教育について自分の考え方を持っている。		レポート	15	モラルジレンマ授業について、自己の授業アイデアを持っている。
小テスト	10	・新たな基本的知識を記憶している。 ・道徳教育について理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の「ミニッツコメント」にコメントする。[30分] 小学校か中学校の道徳に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]			小テストを採点して返却する。 レポートの評価コメントを返す。 定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。			
受講生に望むこと	・自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してください。		教科書・テキスト	『教師教育講座第7巻 道徳教育指導論』，丸山恭司編著，共同出版，2014年出版，ISBN978-4-319-10676-9		
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』，文部科学省，2017年告示，『中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』，文部科学省，2017年告示 小学校、中学校いずれかで可/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE232U 特別活動指導論(小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>学校生活の中で一番印象に残っている学習・活動として学生が挙げるものは特別活動(合宿、運動会、修学旅行など)がもっとも多い。つまり、教科等の学習よりも児童生徒の思い出として深く残っているのである。このようなことを背景に、本科目においては初めに特別活動の意義や役割について扱ったのち、特別活動の各内容(学級活動、学校行事など)を取り上げ学生の経験をもとにしながら各活動について考える場を持つ。次に特別活動と他の領域との関係について検討したのち、学級活動や児童会・生徒会活動の実践について考える。最後に自己が学級担任だとしたらどのような学級づくりを行うかについて考え、レポートを作成する。</p>			<p>特別活動の学習指導要領上での位置づけや目的について理解している。特別活動の歴史的経緯や今日の意義について理解するとともに、諸活動の内容について理解している。特別活動もたらず教育上の効果や期待できる成果について、自己の経験や具体的な事例をもとに考えることができる。「学級づくりのアイデア」について、自分なりに考えることができる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を目指す者					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業の概要と評価方法について知る。)/ (特別活動の現代的意義について考える。)					
2	特別活動の歴史 (戦前の特別活動について知る。)					
3	特別活動の歴史 (戦後の特別活動について知る。)					
4	学級活動(学級とは何か、学級活動の今日的課題について考える。)					
5	児童会活動・生徒会活動(児童会活動・生徒会活動の意義及び指導について考える。)					
6	学校行事(学校行事の種類及び文化的行事としての学芸会や文化祭について考える。)					
7	学校行事(健康安全・体育的行事としての運動会や体育祭について考える。)					
8	学校行事(勤労生産・奉仕的活動としてのボランティア活動や奉仕体験について考える。)					
9	キャリア教育(キャリア教育の意義を知り実践例から方法論について考える。)					
10	部活動(中学校における部活動の位置づけや教育的意義及び課題について考える。)					
11	特別活動の実践(特別活動と総合的な学習の時間との連携について考える。)					
12	特別活動の実践(特別活動と特別支援教育との関係について考える。)					
13	特別活動との児童生徒の個性(特別活動でいかにして個性が形成されるか考える。)					
14	特別活動と学級経営(学級づくりについて学級日誌や学級通信をもとに考える。)					
15	学習のまとめ(「学級づくりのアイデア」の観点からレポートを作成する。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	・講義内容を正しく理解している。 ・特別活動について自分の考え方を持っている。		レポート	15	「学級づくりのアイデア」の観点から、自己の考えを持っている。
小テスト	10	・新たな基本的知識を記憶している。 ・特別活動について理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の「ミニッツコメント」にコメントする。[30分] 特別活動の各活動に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]</p>			<p>小テストを採点して返却する。 レポートの評価コメントを返す。 定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。</p>			
受講生に望むこと	・自己の小学校時代、中学校時代に「どのような特別活動を体験したか」の意識で受講してください。		教科書・テキスト	『教師教育講座第8巻 特別活動論』, 山田浩之編著, 共同出版, 2014年出版, ISBN978-4-319-10677-6		
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領解説特別活動編』, 文部科学省, 2017年告示, 『中学校学習指導要領解説特別活動編』, 文部科学省, 2017年告示/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC200U 国語		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介・幸 聖二郎・金丸 洋子 (代表教員 中島 賢介)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育の内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭および幼稚園教諭としてふさわしい言語感覚や国語力を高める。</p>			<p>日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになること。 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。</p>			
教授方法	講義、言語活動、グループ活動、フィールドワーク					
履修条件	小学校教諭及び幼稚園教諭の教職課程登録者に限る					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明、進め方、課題等の説明を聞き、授業への見通しを持つ。					全員
2	学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について解説などを参考に理解する。					全員
3	「話すこと・聞くこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
4	「話すこと・聞くこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
5	「話すこと・聞くこと」領域について (3) 言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。					全員
6	「書くこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
7	「書くこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
8	「書くこと」領域について (3) 言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。					全員
9	「読むこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
10	「読むこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
11	「読むこと」領域について (3) 言語活動例について、図書館の持つ機能などを深く理解する。					全員
12	伝統的な言語文化について (1) 映像番組を基にして、伝統的な言語文化について理解を広げる。					全員
13	伝統的な言語文化について (2) 狂言を題材に、体験的な理解を深める。					全員
14	伝統的な言語文化について (3) 俳句や短歌を実際に創作することで理解を深める。					全員
15	伝統的な言語文化について (4) 創作した俳句や短歌を、句会・歌会を実施することで披露し互いに批評する機会を持つ。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。		事前事後レポート	30	事前にこれから学ぶ事項を整理している。事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。
言語運用能力・表現力	20	授業内容をもとに言語を運用し、体験的理解につなげている。言語感覚が鋭く豊かな表現をしている。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>事前学習として、『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポート1枚にまとめる。[30分] 上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動を伴う準備が主となる。[30分] 小学校国語教科書に紹介されている本の中から10冊を選びブックリストを作る。[120分]</p>				<p>事前課題については、提出前に評価のポイントをコメントする。課題に関する質問には随時回答する。</p>		
受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってこそ、それぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。また、学習した内容を小学校や幼稚園でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館出版社 2018 ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018 ISBN978-4577814475	
指定図書/参考書等	なし/『小学校新学習指導要領ポイント総整理 国語』吉田裕久、水戸部修治編 東洋館出版社 2017 ISBN978-4491033976			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC205U 算数		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	姫野 俊幸					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。</p>			<p>1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容を理解する。 2) 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。 4) 算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。算数を学ぶ意味について理解する。					
2	数と計算領域(1)数の概念と表記、自然数などについて理解する。					
3	数と計算領域(2)数の把握、数の表記について理解する。					
4	数と計算領域(3)たし算、ひき算、かけ算、わり算について理解する。					
5	数と計算領域(4)小数、分数について理解する。					
6	数と計算領域(5)各学年における数の学びについて理解する。					
7	図形領域(1)基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係について理解する。					
8	図形領域(2)面積・体積とその公式について理解する。					
9	測定領域(1)量と測定について理解する。					
10	測定領域(2)量と測定の指導について理解する。					
11	変化と関係領域(1)異種の量の割合について理解する。					
12	変化と関係領域(2)関数の考えについて理解する。					
13	データの活用領域(1)統計と確率について理解する。					
14	文章題、問題解決について理解する。					
15	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	40	各領域の内容について小テストを行い、その理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
小テストに向けて、授業内容を復習する。(60分)				小テストやレポートの採点及び終了後に解説を行う。		
受講生に望むこと	小学校の算数科の学習を想起しながら、実際に問題を解いてみたり、考え方を考えたりして、算数を好きになってもらいたい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105	
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	EC220U 音楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教諭や小学校教員として必要な音楽科教育に関する基礎的知識や能力を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュに加え、作曲、編曲の技法についても学ぶ。また、リズム楽器や旋律楽器を使った合奏や独唱・重唱・合唱などの様々な表現形態について理解を深め、豊かな感性を育む。			小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解している。音楽科の指導内容について理解するとともに、その背景にある音楽とのつながりについても理解している。音楽活動を取り入れた指導計画の作成と内容の取扱いについて理解している。			
教授方法	実技指導					
履修条件	「音楽表現」、「音楽表現」、「器楽」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					
2	楽典：譜表と音名・拍子・リズム					
3	楽典：音符と休符・音程					
4	様々な歌唱方法：独唱					
5	様々な歌唱方法：重唱・合唱					
6	様々な歌唱方法：合唱					
7	楽典：音階・和音・楽式					
8	楽典：作曲・編曲					
9	日本の子どものうた					
10	世界の子どものうた					
11	楽器と音楽					
12	合奏					
13	鑑賞の意義と留意点、振り返り、まとめ					
14	和楽器：箏・三味線					特別講師
15	和楽器：和太鼓					特別講師
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組みと内容（「受講生に望むこと」欄を参照）		コミュニケーションシート	40	提出状況と内容（毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。）
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[30分] 次回授業のための課題について準備をして下さい。[60分]			毎回のコミュニケーションシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んでください。		教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林実美編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・山下薫子編著 教育芸術社 2017年 ISBN978-4-87788-491-8 / プリント		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC245U 器楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・加藤 雅子・種池 有美子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>器楽 で身に付けた個々の技能をさらに高める授業である。保育現場や初等教育で用いられている教材等の実践を通して、範唱や範奏ができるような音楽的技能を学ぶ。ピアノやキーボードを用いて、保育現場や小学校の授業で必要とされる弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは豊かな感性と表現力を養うことをねらいとした課題を通して学ぶ。個人レッスンではコース別（児童教育コース・幼児保育コース）に受講内容を分け、より適した楽曲を中心に学ぶ。</p>			<p>ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。様々な音楽に触れることによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。コードネームを見て伴奏づけをすることができる。児童教育コースでは、小学校音楽科の歌唱教材や子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。幼児保育コースでは、子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>			
教授方法	実技指導					
履修条件	「器楽」の単位を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 演奏の基礎知識・・・音符・休符（楽譜の読み方について楽譜を通して理解する。）					多保田
2	曲想・奏法に関する用語・記号（楽曲の性格や表情を表示する用語や記号について楽譜を通して理解する。）					多保田
3	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 八長調入門（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
4	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 八長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
5	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 ト長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
6	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 ヘ長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
7	発表					全員
8	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法 ...4分の4拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
9	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法 ...4分の2拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
10	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法 ...4分の3拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
11	グループレッスン：リズム楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
12	グループレッスン：旋律楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
13	発表					全員
14	グループレッスン：身近な素材を用いた手作り楽器 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
15	グループレッスン：合奏編曲法 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容（「受講生に望むこと」欄を参照）		発表	30	発表内容
発表	30	発表内容				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[30分] 個人レッスンでは、各コースに応じた楽曲を練習して下さい。[60分] 各コースに応じて履修曲数が決まっているので、プランを立てて授業準備をして下さい。</p>				課題は、次回に個人指導します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることや楽語でわからない用語や記号は調べて下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2015年 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・山下薫子編著 教育芸術社 2017年 ISBN978-4-87788-491-8 / ハロックから現代までのピアノ作品 / プリント	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC250U 保育課程論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	大井 佳子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
・保育課程とは何か、子どもを理解し、子どもの生活を重視した具体的な保育方法を考えることについて学ぶ。幼稚園・保育所・認定こども園における生活と学びについて理解する。長期・短期指導計画の意味を理解し、実際に保育計画を立案する。日本の幼児教育の歴史的変遷から今日の保育課程における課題を見出す。			・保育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。			
教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）					
履修条件	教育学概論・保育原理を履修済みで、幼稚園教育実習指導 を履修中であることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	保育課程とは何か：幼稚園教育要領の性格、位置付け及び保育課程編成の目的を理解する。					
2	保育課程の変遷：要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を知る。					
3	保育課程の変遷：戦時下・戦後及び現行の教育要領に通底する教育課程の本質を捉える。					
4	保育課程の機能：子どもの育ちにつながる生活経験を考え、ねらいと内容を理解する。					
5	保育課程編成の基本原則：保育者一人一人の子ども理解が基盤であることを理解する。					
6	保育実践に即した編成：現代の子どもの実態から一日の生活を考える。					
7	保育実践に即した編成：長期的な視野から、幼児の実態を踏まえた指導計画を検討する。					
8	保育実践に即した編成：幼稚園・地域の実態を踏まえた保育課程を検討する。					
9	保育課程編成の方法：気づきから生まれる保育の展開、記録のあり方を学ぶ。					
10	保育課程編成の方法：子ども一人一人のねらいと計画を検討する。					
11	保育課程編成の方法：3年間で育てるという視野と子どもの生活の連続性を理解する。					
12	保育課程の課題：育ちを小学校につなげる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について					
13	保育課程の課題：保育思潮から世界の保育課程について学ぶ。					
14	カリキュラム・マネジメント：今日的課題を反映させた保育課程のマネジメントを考える。					
15	カリキュラム評価：保育者の気づきによる展開、カリキュラムの評価のあり方を理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	30	適切な資料の活用 求められている課題内容を満たしている。		定期試験	70	保育課程について歴史的変遷をふまえて現行の幼稚園教育要領の捉え方を理解している。 保育課程に関わる用語を理解している。 保育場面を指導計画から読み取り、展開を予想する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業内容に関するミニレポートの作成。（60分程度）			授業外課題であるミニレポートと授業内ワークに記された関心・質問に次回以降の授業で対応する。			
受講生に望むこと	保育について様々な制度の改編が進行している。ニュースで取り上げられることに関心をはらうこと。情報の収集がネット情報に偏らないこと			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814462	
指定図書/参考書等	なし/『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』民秋言（編集代表） 萌文書林 2017年 ISBN：978-4-89347-254-0			その他・特記事項	毎回のミニレポートの綴りが定期試験の持ち込み資料となるので、欠席の場合にもミニレポートを提出するようにすること。小学校教員免許取得希望者の履修を歓迎する。	

授業科目名	EC255U 保育内容総論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>少人数の保育者（役）で15分程度の模擬保育を準備、実践することを中心に授業を行う。他の学生は子ども（役）で参加し、子どもの主体的に遊ぶ感覚を模擬体験する。模擬保育を通じて幼児教育における指導方法とその計画の特性をつかみ、振り返りを重ねることによって、ねらいに沿って保育実践と子どもを評価して次の計画につなげることを習慣化させていく。</p> <p>振り返りでは、各自が自分の心の動きに気づき、保育者（役）の行動とその意図について知るよう促される。遊びを保育者の目と幼児の目の両方で見ることができ、その上で保育者として次の展開をプランしなおす方へと高めていく。</p> <p>保育者（役）は原則としてノンバーバルで保育を進め、言葉で伝えるのではなく「総合的に指導する」幼児期の指導の仕方の体得を目指す。保育者の言葉がない状況では子ども（役）に多彩な動きが生まれやすく、保育者として予想する幼児の姿が豊かになることが期待されている。子どもの姿の予想が、遊びにおける学びを5領域で、あるいは資質・能力の3本の柱に読み取ることや、指導計画で遊びのねらいを考えることを支える。</p> <p>また、チームでの模擬保育によって、保育者としての協働性を育むことも本科目のねらいとなっている。</p>			<p>資質・能力の3つの柱、5領域、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を考えて、遊びにおける幼児の学びを予想することができる。</p> <p>幼児の心が動くように、遊びの内容、遊びの始め方と終わり方、用いる素材や教材、遊ぶ場所の選定を含めた環境構成等を工夫することができる。</p> <p>遊びの過程で生まれる幼児の心の動きを予想し、それに対応して展開する指導計画を、環境図と時系列で考えることができる。</p> <p>模擬保育の計画、準備、実践において保育者として求められる協働性を発揮する。</p> <p>模擬保育において幼児としての心の動きを感じながら遊び、振り返りにおいては自分とは異なる遊び方や感じ方から気づきを得、幼児の心情と行動について理解を深めつつ、各領域の保育内容に対する理解を深める。</p> <p>模擬保育後に、保育者（役）学生が事前に作成した指導計画を各自で作り直すことができる。</p> <p>保育の連続性について理解し、長期の指導計画として立案できる。</p>				
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・教材製作・講義						
履修条件	保育内容科目 保育課程論、幼稚園教育実習 を履修している（履修中を含む。単位取得は問わない）ことを原則とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：幼児期の学び。与えられたテーマで模擬保育（チーム保育）し、他の学生は幼児としてロールプレイする本授業の構成と各回のテーマの意味を理解する。写真絵本の制作と教材研究ノートの作成について理解する。						
2	子どもになって遊んでみる。例えば、普段は遊具としては使わない様々な大きな布を用意すると、大人が予想しない新しい遊びや挑戦が子どもたちから生まれる。遊びが生まれる環境について考え、指導計画に書いてみる。						
3	模擬保育 「多様な遊びが生まれる教材」ある教材、素材を用意することで子どもから生まれる遊びを5領域のそれぞれについて予想する。子どもの心と身体が動く素材・形・大きさ、提示の仕方、環境の構成を工夫する。						
4	模擬保育 「苦手な子どもも楽しくなる」例えば、汚れるのがイヤな子どもが汚れるのを気にせず没頭するような遊びの流れを工夫する。						
5	模擬保育 「苦手感を忘れる運動会」運動会を「意外なもの」で構成してみる。運動会という園行事のねらいについて考える。						
6	模擬保育 「通常とは異なる使い方」身近な素材や家具、道具を意外な使い方子どもたちに遊びとして提案。「じゃあ、これは！」と子どもの発想が湧き上がるように遊びを提案する。						
7	模擬保育 「自然物を使ってするなりきり遊び」遊びに用いる自然物を限定せず、環境を見渡してもっと豊かにみつけてみよう。自然物だからこそ生まれる「なりきり遊び」を考える。						
8	模擬保育 「子どもの研究心を引き出す」遊びで子どもは何をどのように試し、何をどのように発見しているのかに着目して遊びを考える。2歳児の研究・3歳児の研究・4歳児の研究・5歳児の研究について知る。						
9	模擬保育 「ごっこ」子どものふり遊び、みたく遊び・ごっこ遊びについて理解し、実際の子どもの生活体験に基づいて展開する「ごっこ遊び」を設定する。						
10	模擬保育 「発表会につながる遊び」言葉遊びから展開する遊戯・合奏。そもそも「発表会」とは何か、その意味を考える。						
11	模擬保育 「発表会につながる遊び」音についての発見から劇づくりをする指導計画のスタートの遊びを考える。						
12	模擬保育 「空間を遊ぶ」人にとって空間のもたらす安心感は大きく、また何に安心を感じるかの個人差も大きい。空間そのものを遊びの対象として考えてみる。						
13	各自の作成した写真絵本を用いて模擬保育し、一つのものを用いた複数の指導計画を立ててみる。他者作成の教材に触れることで得た気づきによって自身の教材を改善する。						
14	授業で実践された複数の遊びでの体験を手がかりにして連続する長期の指導計画に組み立てる。						
15	まとめ：14回までの授業を振り返り、幼児期の学び方と保育者の役割についてまとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	指導計画立案課題で 教材・環境構成・ねらい・連続性についての理解 子どもの姿の予想 幼児期の学びについての理解		模擬保育	20	グループで協働し十分に工夫・準備されていること。言葉で子どもを動かす指導にならないよう環境構成されていること。	
指導計画	10	担当模擬保育の指導計画が求められる項目で立案されていること。		教材研究ノート	30	各授業回に示される課題が記載され、ノートとして活用しやすく工夫作成されていること。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 指導計画用紙に訂正、補完、実践後の記録等を書き加えることを中心に、模擬保育の振り返りをふまえて各授業回に提示される課題[1時間程度]。 模擬保育のための準備の活動[長時間を要す。早期からの計画的な取り組みが必要]。 写真絵本・教材研究ノートの製作[長時間を要す。早期からの計画的な取り組みが必要]。 				提出されたレポートの内容を次回授業での講義に反映させる。			
受講生に望むこと	子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。保育で身近において用いられることの多い道具は常備していること。教材の材料になるものを身近にみつけ収集しておくこと。「子どもの目」に関心をもち、生活で会う子どもたちが何をどのように見ているかをよく観察すること。			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482 		
指定図書/参考書等	なし/適宜紹介する。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> やむなく欠席した場合は、欠席した授業の内容に応じた課題でレポートにまとめ、当日の配布指導計画とともに教材研究ノートに入れられるようにすること。 履修者の人数によって模擬保育の回数と内容が変更されることがある。 		

授業科目名	EC265U 保育内容・健康			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>明るく、元気に、のびのびと遊ぶ子供たちの姿から、誰もが「子どもらしさ」を感じるであろう。このように、子どもが子どもらしく心身共に健康な生活を送るために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、幼児の心身の発達や安全について理解するとともに、現代の子どもの実態と照らし合わせながら、健康な子どもに育てる保育の内容と方法について学ぶ。</p>				<p>子どもに向き合う大人の一人として、自らの健康や健康な生活について理解し実践する。 授業を通して、子どもの健康について理解している。 これまで経験してきた実習場面と授業で学ぶ内容を照らし合わせることで、理論と実践を関連付けて理解している。</p>			
教授方法	講義、グループディスカッション、個人によるワーク、外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明し、「健康」とは何か、またそれはなぜ必要なのか、そもそも子ども達にこれから向き合おうとしている自分自身は健康であるか等、子ども達の健康を考える前に自分たちの身近にある「健康」について様々な角度から考える。						
2	幼稚園教育要領「健康」のねらい及び内容：領域「健康」は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」ではどのようにとらえられているのか。そして、何を目標しているのか。他の領域との関係はどのようにとらえればいいのかについて考える。						
3	「健康な子ども、元気な子供の姿」：「子ども」について多角的にイメージを膨らませる						
4	保育現場・教育現場で気になる子どものからだ：現場の教職員が感じている子どものからだのおかしさを取り上げ、現代の子どもの健康課題について考える。						
5	子どもの健康を取り巻く現状：乳幼児の健康課題と対応策について考える。						
6	生活リズムの獲得（睡眠）：生活リズムの獲得について、子どもの睡眠から理解する。						
7	石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義						
8	「恒温の獲得」：暑さや寒さに対する人間の体の恒温獲得について理解する。						
9	「五感の獲得」：五感の働きと発達のプロセスについて理解する。						
10	子どもの体の発達：子どもの体の発達について理解する。						
11	子どもの心の発達：子どもの心の発達について、特にパーソナリティーの形成を中心に理解する。						
12	子どもの運動の発達：子どもの運動発達と分化と統合のプロセスについて理解する。						
13	子どもの体力：子どもの体力向上について、大人との違いから理解する。						
14	目標：子どもの概念形成：子どもの概念形成について、大人との違いから理解する。						
15	子どもとディスプレイ機器：子どもとディスプレイ機器について、長所、短所両面から考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	授業内容を理解しているか。			レポート	40	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>教科書を読み、授業に備える[20分] 授業で配布した資料を読む[20分] 子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、理解を深める[60分]</p>				<p>小テストは採点及びコメントを付記して返却。 レポートは評価とコメントを付記して返却。</p>			
受講生に望むこと	子ども達にとって健康は、様々な活動に積極的に取り組み、楽しむために必要です。子どもの健康のために何が必要か、自分が子ども達と向き合った時に何をすべきか考えながら受講してください。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『演習保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子 著、萌文書林、2014年、ISBN978-4-89347-209-0C3037		
指定図書/参考書等	関連図書や関連記事は授業の中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員）の実施回を変更する場合があります。実施日は事前に連絡する。		

授業科目名	EC270U 保育内容・言葉		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	高村 真希・中島 賢介 (代表教員 高村 真希)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。保育内容「言葉」の意義について発達や各領域とのつながりを考慮しながら学ぶ。さらに、保育者が子どもの言葉の育ちにどのように関わり、豊かな言葉を育てていくのかを実践を踏まえ、役割と援助について学ぶ。また、指導案を作成し、実践することを通して指導法を体得する。			1. 子どもの言葉の育ちに関心を持つ。 2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容について理解している。 3. 発達段階を踏まえ、領域「言葉」に関する指導案を作成し、実践できる。 4. 領域「言葉」における保育の動向を知り、保育者の役割を理解している。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明 言語機能と「言葉」のねらいについて理解する。					中島
2	幼児期（乳児期を含む）における言語獲得のメカニズムについて学ぶ。					中島
3	「言葉」の内容と指導上の留意点及び評価について学ぶ。					中島
4	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉以前の言葉 0歳児の事例から考える。					高村
5	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉が出始めたら 1歳児の事例から考える。					高村
6	言葉の獲得と保育者の関わり：3歳児の事例から考える。					高村
7	言葉の獲得と保育者の関わり：4歳児の事例から考える。					高村
8	言葉の獲得と保育者の関わり：5歳児・小学校の事例から考える。					高村
9	領域「言葉」をめぐる現代的課題と言葉を育てる環境について考える。					高村
10	子どもの言葉から考える：言葉の内にある子どもの思いについて					高村
11	文化財に関する実践的理解					高村
12	文化財に関する実践的理解と指導案の立案					高村
13	視聴覚教材を使用しての模擬保育を行う					高村
14	実演と反省（模擬授業から考える）					中島・高村
15	「言葉」の総合的理解（今までの振り返り）					中島・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業の参加態度	30	授業への取り組み態度		課題の内容と提出・実演	40	課題の実演と内容・提出状況
随時試験	30	授業内容を理解できているか。（2回実施）				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
子どもの発達と言葉について調べ、レポートにまとめる [60分] 言葉の現代的課題と言葉を育てる環境について調べレポートにまとめる [60分] 「絵本の読み聞かせ」の指導案を立案する [60分]				提出されたレポートや応答シートを次回授業で反映する		
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での学生一人一人の言葉を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。			教科書・テキスト	『新訂 事例から学ぶ保育内容 領域 言葉』武藤隆監修 萌文書林 2018年 ISBN978-4-89347-259-5、『幼稚園教育要領解説 文部科学省フレール館 2018年 ISBN：9784577814475、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレール館、2018年 ISBN：9784577814499、『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレール館 2018年 ISBN：9784577814482	
指定図書/参考書等	なし/必要に応じて随時提示する			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC275U 保育内容・人間関係		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「領域 人間関係」は、近年、保育・教育で注目される非認知的能力に関わる内容が多く含まれ、「幼児期に育ってほしい姿」の多くの項目に関わる。本科目では、模擬保育でのロール・プレイを通じて、「領域 人間関係」に関わる子どもの心の動き、保育者の心の動きを疑似体験し、「領域 人間関係」に関連するテーマと概念について理解を深め、チームで実践する模擬保育によって保育者の認識を体験する。振り返りでは、同一場面において異なる多様な感覚や感情、思考が生まれていることに気づき、子どもの遊ぶ姿に学びを読み取る感覚をつかむ。他領域との重なりや小学校以降の学び方との違いについても考える。振り返りで深めた自身の体験を、保育者（役）から提供される指導計画に書き加え、子ども一人一人の姿を予想する力、さらにその予想から指導を構想する力を養う。また、生活を通じて出会う周りの乳幼児の人間関係のエピソードを記録し、子どもの姿の読み取りを深める。</p>			<p>幼児の興味、考え、行動、言葉をていねいに見てその意味を考え、指導計画につなげようとする。模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる幼児の実際の生活体験を想像し、幼児の心の動きに沿った教材の活用法を工夫できる。模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる指導の特性を理解し、具体的な保育場面を想定して指導計画を作成することができる。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点と姿勢を身に付けている。乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達ポイントを理解している。乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達を支える生活体験について考え、乳幼児をめぐる今日の環境が孕む危険性を理解している。</p>				
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義						
履修条件	保育原理・発達支援論を履修済（単位の取得は問わない）であり、保育課程論・発達心理学を履修中（済）であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「領域 人間関係」の概説。教材準備と指導計画作成を含む模擬保育と授業外活動となる乳幼児の人間関係エピソード収集について、方法と目的を理解する。模擬保育担当グループの決定。						
2	子どもになってノンバーバルで遊んでみることを通じて、自身の心の動きをとらえる。振り返りを通じて、同じ場面での遊びにおいて多様な心の動きと行動が発生していることを知る。キーワード：「共に過ごす」						
3	子どもになってノンバーバルで2人で遊ぶ、3人で遊ぶ、多数で遊ぶと状況を変化させ、子どもの遊びにおける他者の存在について考える。キーワード：「友達」「自己発揮」						
4	模擬保育：「自分で」が起こる遊びを準備し実践する。自己主張・自我について考える。						
5	模擬保育：「やり遂げようとする気持ち」が起こる遊び。達成感・自信について考える。						
6	模擬保育：「伝える・気づく」が起こる遊び。自己発揮・自己抑制について考える。						
7	模擬保育：「協力」が起こる遊び。協同・充実感について考える。						
8	模擬保育：「よいことや悪いことがあることに気付く」遊び。異なる視点について考える。						
9	模擬保育：「思いやり」が生まれる遊び。共感・心の理論について考える。						
10	模擬保育：「ルールをつくる」ことが生まれる遊び。道徳性・規範意識について考える。						
11	模擬保育：「共同の」を感じる遊び。公共心について考える。						
12	模擬保育：社会生活における人々との出会いを「親しみ」をもつようになるものとする指導計画。乳幼児と地域のつながりについて考える。						
13	模擬保育：異年齢児とのかかわり。「相手の気持ちを考える」「自分が役に立つ喜び」について考える。						
14	3歳未満児の人間関係のエピソードから、0歳から3歳までの人間関係の発達を知る。						
15	3歳以上児の人間関係のエピソードから、3歳から就学までの人間関係の発達を知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	「領域 人間関係」のキーワードと関連する基礎的な概念の理解・エピソードからの読み取り・遊びのプランの作成		模擬保育	20	遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・遊びの提示と展開	
研究ノート	30	各授業における指導計画からの補完（記録）・テーマに関連する課題の探究・資料として活用しやすい整理の仕方		エピソード収集	10	エピソードの内容・エピソードの記述記載方法・収集した資料の整理の仕方	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>キーワードについて保育関連の事典、心理学の辞書で調べること・模擬保育の指導計画の実践後の記録と計画の補完・振り返りを中心に各授業回に設定される課題について[1時間程度]、エピソードの収集[適宜]。模擬保育のための準備の活動（教材製作を含めて長時間を要す。グループでの取り組みとなるため、必要な時間設定も考えて早期からの取り組みが必要）。研究ノートの製作[2～10時間程度]。</p>				<p>提出されたレポートの内容を次回（以降）の授業での講義に反映させる。</p>			
受講生に望むこと	子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。保育で身近において用いられることの多い道具は常備していること。教材の材料になるものを身近にみつけ収集しておくこと。「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。			教科書・テキスト	<p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814482</p>		
指定図書/参考書等	なし/適宜、紹介する。			その他・特記事項	<p>・幼稚園教育実習 の履修予定者は本科目の履修を前提として幼稚園教育実習指導 の授業が行われることを承知いただきたい。 ・研究ノート（授業レポート綴り）と収集したエピソードは定期試験の持ち込み資料となる。やむなく欠席した場合もレポートをまとめて提出し、研究ノートに備えること。 ・履修者の人数によって模擬保育の回数と内容が変更されることがある。</p>		

授業科目名	EC280U 保育内容・表現		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾 (代表教員 田邊 圭子)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、幼稚園教諭一種免許状取得にかかわる教職に関する科目である。豊かな感性や創造性は、子どもが生活の中で心を動かす出来事に出会い、自分の感情や経験を豊かに表現する機会を持つことにより養われる。さらに、様々な表現方法を子どもなりに獲得し、楽しんでいけるような環境の中で育まれていくものである。そうした子どもの意欲を受け止め、十分に発揮させられるような指導のあり方を学ぶ。			子どもの表現が生活の中でどのように育まれるか理解を深める。 子どもの身体表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの音楽表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの造形表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：表現全体に関する授業オリエンテーション。今後の授業の流れ、受講方法など。 身体表現オリエンテーション：身体表現について、領域「表現」との関連から考え、理解する。					田邊
2	身体表現遊び1：「動きの発見」・・・自分の身体が様々な動きに動くことや、外に向かって様々な情報を身体の動きで発信していることに気づく。					田邊
3	身体表現遊び2：「模倣遊び」・・・人や事物の動きを模倣する。					田邊
4	身体表現遊び3：「物を使って動く」・・・物を使った身体の動きを考える。					田邊
5	「作品発表と鑑賞」・・・グループの作品を発表鑑賞する。					田邊
6	幼稚園教育要領における領域「表現」について理解を深める。 子どもの発達と音楽表現：子どもの声域について文献を通して理解する。拍の流れを感じ取ってうたいながら遊ぶ。					多保田
7	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」について理解を深める。 生活の中にある様々な音(1)：生活の中に様々な音があることに気づく、感じる。					多保田
8	生活の中にある様々な音(2)・・・生活の中にある音素材を用いて「音のアンサンブル」を作る。					多保田
9	作品づくり・・・グループに分かれ課題曲にふさわしい楽器の選択と楽器演奏を考える。					多保田
10	「作品発表と鑑賞」・・・グループの作品を発表鑑賞する。					多保田
11	粘土でつくる：粘土の感触を味わいながら作品をつくる。					向出
12	劇遊びをする：布だけを使い、即興劇を行う。					向出
13	絵本をつくる：画用紙を使い2面しかけ絵本を制作する。					向出
14	切り絵で表現する：細かい手作業をしながら作品をつくる。					向出
15	子どもの表現とは何か：しかけ絵本の作品発表等を通して子どもにとっての表現を考える。					向出
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		課題・発表	50	課題や発表に取り組む姿勢と内容
レポート	20	・授業及び作品制作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) ・毎回授業のミニプロジェクトへの取り組み(多保田) ・課題や作品に対するの自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる[60分] 次回授業のための課題について準備する[60分]				・毎回課す小レポートは次回コメントを付記し返却する(多保田) ・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(田邊、向出)		
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が各5コマ担当するオムニバス科目です。また、演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『子どもの音楽表現』、石井玲子、保育出版、2009年、ISBN978-4-936795-78-8	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EN250U 児童家庭福祉論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
児童福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢を理解する。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども家庭福祉制度、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本機能、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。少子高齢社会における、社会環境・家族構造の大きな変化をふまえ、児童・家庭分野にかかわる社会問題を考察する目標。家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。			1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解している。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。			
教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。					
履修条件	「社会福祉」を履修済であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。					
2	子ども家庭福祉の原理について、子どもの特性と発達ニーズ、理念、権利保障、児童憲章・児童福祉法の理念、子どもの権利条約について学ぶ。子どもの権利の特徴である受動的権利と能動的権利の二面性、その確立の過程を理解する。					
3	児童福祉の発展の理解。日本の児童福祉の歴史、特に明治期の児童福祉の萌芽から「石井十次」、「留岡幸助」をはじめとした足跡、その思想理念を理解する。欧米の歴史については、イギリスの児童保護から始まる歩みから、アメリカの近代的児童福祉思想を理解する。					
4	児童家庭の権利保障および支援の核となる児童福祉六法（児童福祉法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法、母子保健法、母子並びに父子及び寡婦福祉法、児童手当法）の概要を理解する。また関連法である、児童虐待防止法、DV防止法、などもあわせて学ぶ。					
5	子ども家庭福祉の実施体制、行政機関と関連機関の機能を理解する。国及び地方自治体、児童福祉の各審議機関の機能、児童相談所、福祉事務所、保健センターの概要を学ぶ。児童福祉施設の種類とその運営内容など基本的機能を理解する。					
6	子ども家庭福祉の専門職を学ぶ。児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室などの関係機関に配置されている職員の資格と職務を理解する。また、児童福祉施設の専門職員と資格について、その具体的な専門的機能を理解する。					
7	母子保健を中心に学ぶ。母子保健の目的、歩み、乳幼児死亡率の傾向、健康診査・健診内容や保健指導・訪問指導などの具体的な制度を理解する。母子健康手帳、予防接種、自立支援医療、小児慢性特定疾患治療研究事業を理解する。育児支援についても理解する。					
8	障害・難病のある子どもと家族への支援を学ぶ。障害児及び家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、障害児教育、特別児童扶養手当・障害児福祉手当などの経済的支援、難病に子どもの支援に関する制度を学ぶ。					
9	児童健全育成を学ぶ。児童健全育成の目的と内容、健全育成施策の現状としての地域組織活動、児童厚生施設、放課後児童健全育成事業の現状と課題、児童手当制度の制度変更の内容などを中心に理解を深める。					
10	保育制度を学ぶ。保育制度の概要と保育の実施体制、保育制度の変遷、保育所の多機能化などを理解する。保育施策の現状について、認可保育所の運営・入所方法・保育内容を理解する。認可保育所の事業内容である、乳児保育・障害児保育・育児相談などを理解する。					
11	子ども子育て支援制度の内容を理解する。幼保連携型認定こども園を中心とする、認定こども園制度の具体的内容、認可外保育施設の種類と保育サービスを理解する。その他保育サービスとしての、家庭的保育事業（保育ママ）、ファミリーサポートセンター事業、幼稚園の預かり保育の実情を理解する。					
12	ひとり親家庭の福祉を学ぶ。ひとり親家庭の現代的様相、経済的支援策（児童扶養手当法・母子福祉資金など）、就業支援策、雇用対策、施設による支援としての母子生活支援施設の現状と課題、母子支援員や少年支援員の専門性を理解する。					
13	社会的養護を学ぶ。社会的養護を必要とする児童への具体的支援策を理解する。代表的施設サービスである、乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設の基本的機能、専門職の動きを理解する。					
14	非行児童・情緒障害児への支援を学ぶ。非行と情緒障害は不可分の関係があること、家族問題としての非行の動向と非行そのものの理解を深める。児童相談所のみならず、非行少年への対応の第一義機関である家庭裁判所の役割を理解する。					
15	児童虐待対策を学ぶ。児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、子ども虐待の発見と通告、在宅支援と施設における保護などの実態を理解する。児童虐待対策の課題として、関係機関とのネットワーク、発生予防の具体的施策を理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末試験	70	基本的知識を問う問題を中心とする。国の最新の制度政策も内容に含まれるが、その都度資料などを配付し講義されるので、内容などを正確に理解する。		リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
子どもや家庭に関する新聞記事やニュース情報について、日頃から関心・意識を高めていくこと〔40分〕。 特に児童虐待をはじめとする社会問題化している子ども家庭福祉にかかる時事問題を、講義内容から考察する〔50分〕			期末試験を講義最終回直前に実施し、最終回にて試験問題の解説などを行う。			
受講生に望むこと	児童家庭福祉の基本となる内容が教授され、保育のみならず教育においても根幹をなす科目であるから、確実に専門用語などについては内容理解をすること。		教科書・テキスト	最新保育士養成講座 第3巻『子ども家庭福祉』保育士養成講座編集委員会 全国社会福祉協議会 2019年 ISBN：978-4-7935-1306-0		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	子ども教育学科の基本的科目の一つである。この科目履修が学びの最低要件である。		

授業科目名	EN255U 社会的養護			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	側垣 二也						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の家庭基盤の脆弱化によって、児童虐待の増加が象徴する多様で複雑な児童とその家族の問題を生み、社会の養育支援体制の構築、児童養護施設、乳児院、里親といった代替的養育支援などの社会的養護実践がますます重要となってきている。そこで本講義では、保育所や生活型児童施設で働く保育者に求められる知識として、今日の児童と家庭あるいは親子関係の問題などの様々な養育ニーズを理解し、その総合的支援概念である社会的養護の理念、体系、現状、方向性を学ぶ。				<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解している。 2 社会的養護と児童家庭福祉について理解している。 3 社会的養護の制度と実施体系について理解している。 4 施設養護の実際を理解している。 5 社会的養護の課題と展望を理解している。 			
教授方法	講義では、内容をより分かりやすく理解するため、P.P.など視聴覚教材を用い進める。課題を示しレポート作成提出を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	保育における社会的養護						
2	現代社会における社会的養護の意義 - 社会的養護の理念と概念						
3	現代社会における社会的養護の意義 - 社会的養護の歴史の変遷 欧米						
4	現代社会における社会的養護の意義 - 社会的養護の歴史の変遷 日本						
5	社会的養護と児童家庭福祉 - 児童家庭福祉と社会的養護の関係性						
6	社会的養護と児童家庭福祉 - 児童の権利と社会的養護						
7	社会的養護と児童家庭福祉 - 児童の権利と社会的養護						
8	社会的養護の制度と実施体系 - 社会的養護の制度と法体系						
9	社会的養護の制度と実施体系 - 社会的養護の制度と実施体系						
10	社会的養護の制度と実施体系 - 社会的養護の制度と実施体系						
11	社会的養護の実施体系 - 家庭養護と施設養護と施設で働く専門職						
12	施設養護の実際 ビデオ視聴とレポート						
13	施設養護の実際 養護系、非行系他						
14	小規模ケアと個別化・施設運営						
15	社会的養護の課題と展望						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	遅刻回数はどうか。熱心に授業に臨み、講義中での発言、回答が的確か。			課題についてのレポート提出	40	レポートを以下の要領で提出する。 ・指定の書式にしたがって作成する。 ・自分の考察を加えて記入している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持ち、情報収集を行う。[60分]				ビデオ視聴についてのレポート提出後、次の授業で疑問、質問に対する解説を行う。			
受講生に望むこと	社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持つことを望みます。そのことにより、授業の理解度が進んできます。また、施設実習に必要な知識と実践方法の学習ですから真剣に授業に臨んでください。			教科書・テキスト	最新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児保育 『最新 保育士養成講座』総括編集委員会 社会福祉法人全国社会福祉協議会 2019年 I S B N : 978-4-7935-1308-4		
指定図書/参考書等	なし / 『社会的養護シリーズ2 施設養護実践とその内容』 庄司順一・鈴木力・宮島清編 福村出版 2011 ISBN978-4-571-42511-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN260U 社会的養護内容			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての「児童養護施設」、「乳児院」、「児童自立支援施設」、「児童心理治療施設」、「母子生活支援施設」における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての児童虐待や家族問題の背景に焦点をあて、家族病理や社会病理の視点から、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点からその家族再統合（家庭復帰や家族関係の再構築）の方途などについて考察する。</p>				<p>社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、治療的支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論と及び技術について理解している。 社会的養護を通して家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。</p>			
教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。						
履修条件	「児童家庭福祉論」及び「社会的養護」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会的養護の大枠を理解し、社会的養護関係施設にて暮らす子どもの心理的特徴を理解する。						
2	施設養護の特性及びその実際を学び、ホスピタリズム理論と現代の児童養護の課題を検証する。						
3	社会的養護のあゆみ、特に石井十次、留岡幸助の実践からその理念や具体的展開などを学ぶ。						
4	乳児院の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
5	児童養護施設の養護実践から、その課題について、事例を通して学ぶ。						
6	児童養護施設の養護実践から、その対応について、事例を通して学ぶ。						
7	児童自立支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
8	児童心理治療施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
9	母子生活支援施設の養護実践から、その課題とあり方について、事例を通して学ぶ。						
10	社会的養護と心理治療の関係、その具体的実施などについて学ぶ。						
11	施設保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用を学ぶ。						
12	リーピングケア、アフターケアなど、児童の自立へのプロセスを学ぶ。						
13	里親の今日的課題を学び、施設養護との対比からその特徴、問題点を理解する。						
14	被措置児童等虐待（施設内虐待）の現状と発生要因を学び、その対応、予防を学ぶ。						
15	自立支援計画とアセスメントについて、その策定と運用の実際について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述、理解している。			リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>社会的養護にかかる児童福祉施設の種別・機能・養育内容について「児童家庭福祉論」「社会的養護」で学んだ内容を整理しておくこと。[30分] 授業における演習内容からの学びについて、具体的な展開を考察する[40分]</p>				<p>期末レポートの講評、評価視点などについて、施設実習指導などを通じて総括を行う。</p>			
受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。			教科書・テキスト	『児童養護施設と被虐待児』 森田喜治著 創元社 2009年 ISBN 4-422-11380-1		
指定図書/参考書等	なし / 『児童養護施設児の日常とこころ』 森田喜治著 創元社 2013年 ISBN 978-4-422-11571-9			その他・特記事項	積極的な発言など演習への前向きな姿勢が望まれる。		

授業科目名	EN265U 子どもの保健 A			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	津田 朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>全ての子どもが健やかに育つことが社会の目指すところであり、そのためには子どもの生命が安全に保たれる必要がある。したがって、保育士は子どもの命を守り、子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することが重要な役割である。そこで、子どもの保健 Aでは、子どもの心身の発達や生理的特徴を理解し、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義やその具体的な健康管理と生活援助について学習する。</p>				<p>子どもを取り巻く環境について理解している。 子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達とその特徴について理解している。 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス、子どもをとりまく環境の変化と子どもの育ち						
2	児童観の変遷と子どもの権利						
3	子どもの発達の原則						
4	親子関係と子どもの発達						
5	身体発育とその評価						
6	生理機能の発達とその特徴(1)						
7	生理機能の発達とその特徴(2)						
8	子どもの栄養と食育						
9	運動機能の発達と環境						
10	社会性の発達と子どもの生活						
11	子どもの生活習慣と心身の健康						
12	子どもの発達と事故予防						
13	母子保健と子育て支援(1)						
14	母子保健と子育て支援(2)						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	30	基本的な知識を理解している。自分の考えを述べられる。			期末試験	70	講義の重要点を概ね理解している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。 講義終了後に講義内容の理解度を確認する小テストを実施する。回答できなかった項目はよく復習しておくこと。</p>				<p>小テストの結果は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと			教科書・テキスト	刊行時期が未定のため、決まり次第ご連絡いたします。		
指定図書/参考書等	『子どもって・・・ね』木村留美子著 エイデル研究所 ISBN4-87168-393-1			その他・特記事項	テキストのうち、『子どもの食と栄養』は、3年次の「子どもの食と栄養」の授業でも継続して用いる。		

授業科目名	EN270U 子どもの保健 B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	津田 朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>全ての子どもが健やかに育つことが社会の目指すところであり、そのためには子どもの生命が安全に保たれる必要がある。子どもの保健 Bでは疾病や障害を持った子どもも含めたすべての子どもの健全な発達を保障する為に保育士に必要な知識を学習する。具体的には、発達各期に特徴的な病気や怪我とその予防法、発達障害や慢性疾患を持つ子ども、児童虐待などについての基本的な知識及びその支援としての保育のあり方を学習する。</p>			<p>子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義についてを理解している。子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。子どもの精神保健とその課題等について理解している。保育における環境、および衛生管理、並びに安全管理について理解している。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	前期科目「子どもの保健 A」履修済みが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス、医療の進歩と子どもの健康問題の変化						
2	保育保健について：保育環境と保健						
3	感染症とその予防						
4	感染症とその予防						
5	アレルギー児とその対応						
6	アレルギー児とその対応						
7	子どもの病気と健康状態のアセスメント						
8	児童虐待と子育て支援						
9	児童虐待と子育て支援						
10	発達障害とその支援						
11	発達障害とその支援						
12	体調不良時の保育						
13	保育園における健康管理と健康教育						
14	保育園における健康管理と健康教育						
15	まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
グループ発表と授業参加度	40	<ul style="list-style-type: none"> 提示された課題について調べたことを分かりやすく伝えられる。 積極的にディスカッションに参加できる。 		課題レポート	60	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識を理解している。 自分の考えが述べられている。 	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。 講義終了後に講義内容の理解度を確認する小テストを実施する。回答できなかった項目はよく復習しておくこと。</p>			<p>小テストの結果は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。</p>				
受講生に望むこと	積極的に授業に参加する。子どもの健康と発達とその支援に関して自分の考えを持てるようになること。		教科書・テキスト	子どもの保健 Aと同じ			
指定図書/参考書等	『子どもって・・・ね』木村留美子著 エイデル研究所 ISBN:4-87168-393-1		その他・特記事項	テキストのうち、『子どもの食と栄養』は、3年次の「子どもの食と栄養」の授業でも継続して用いる。			

授業科目名	EN280U 障がい児保育			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	徳田 茂						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>障害の有無に関わりなくすべての人が共生するインクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育がとても重要である。この授業では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深められるようにしたい。さらに、障害児の家族への援助、インクルーシブ保育の実践についても理解を深められるようにしたい。</p>				<p>障害者権利条約や障害者基本法等をベースとして、新しい障害概念を理解する。 障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのよりよい関わり方について理解する。 障害のある子の育ちの援助の実践について理解する。 障害のある子の家族の心理と援助について理解する。 障害のある子とない子が共に育ち合うインクルーシブ保育の重要性とその実践について理解する。</p>			
教授方法	講義とテーマごとの学生の発表、グループ討論と発表						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：調べて発表するテーマの分担をする。障害とは何か（1）自分と障害児の関わりについて振り返る。						
2	障害とは何か（2）：障害者権利条約や障害者基本法等をもとに、新しい障害概念を理解する。						
3	障害とは何か（3）：さまざまな障害について学ぶ。						
4	その子自身を理解することの大切さ：障害児をひとくりにせず、一人ひとりの子どもについて理解することの大切さを学び、一人の子をよく理解するための方法を学ぶ。						
5	障害児保育とコミュニケーション（1）：子どもの育ちの援助には、よりよいコミュニケーションが不可欠である。障害児との関わりにおいては、非言語的コミュニケーションがとりわけ重要である。そのことを念頭に、コミュニケーションについて学ぶ。						
6	障害児保育とコミュニケーション（2）：さまざまな障害のある子のコミュニケーションの特徴を理解する。						
7	見通しをもって実践する：子どもの育ちの援助における見通し・仮説－実践－検証の重要性と、その実際について学ぶ。						
8	障害児保育と遊び（1）：どの子にとっても遊びは育ちの源である。障害児の遊びと育ちについて、理論面とともに、遊びの中での援助の実践についても学ぶ。						
9	障害児保育と遊び（2）：障害児の遊びと育ちについて、運動・認知・社会性などの面に焦点をあてて学ぶ。保育者としての援助のあり方等についても学ぶ。						
10	生活習慣獲得の援助：障害児が生活習慣を獲得していくために必要な援助の実際について学ぶ。						
11	親の思いを聴き、共に生きる（1）：実際の例にふれながら障害児の親の心理について理解を深める。						
12	親の思いを聴き、共に生きる（2）：障害児の親への援助の実際と親の心理の変容について学ぶ。						
13	インクルーシブ保育を目指して（1）：インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について学ぶ。						
14	インクルーシブ保育を目指して（2）：インクルーシブ保育の実際と、その課題について学ぶ。						
15	よりよい保育者となるために：障害のある子を含め、さまざまな子どもの育ちを援助する保育者として、ぜひ身につけていきたい資質等について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
調べたテーマについての発表	20	テーマについて、的確な調べとわかりやすい発表ができたかどうかをみる。			テスト	80	各設問について正しく理解し、わかりやすくまとめられているかどうかをみる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> それぞれ与えられたテーマについて調べる。（調べた内容を授業で発表する。）[2時間] 事後学習としてその日のテーマについて振り返りを行う。[1時間] 				<ul style="list-style-type: none"> 各時間ごとに疑問・質問を提出してもらい、次の時間の冒頭にそれぞれの質問に答える。 テーマについての発表後、発表内容について口頭で評価する。 グループディスカッションで出された疑問・質問に答える。 			
受講生に望むこと	近年、障害概念が大きく変わっています。新しい障害概念をよく理解して下さい。そのうえで、障害児を一人の大切な子どもとして受け止めるための基本的な人間観や保育観を身につけ、さらにその育ちの援助の実践について、できる限り深く学んで下さい。障害のある子とない子が共に育ち合うことを目指すインクルーシブ保育について、理解を深めて下さい。障害のある子の家族への援助も、保育者の重要な仕事です。障害のある子の家族の心理や援助のあり方についての学びを深めて下さい。さらに、自分を見つめる姿勢を養って下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし / 『知行とともに』徳田茂（川島書店）1994年 『障害と子どもたちの生きかたち』浜田寿美男（岩波書店）2009年 『障害のある子の保育・教育』堀智晴（明石書店）2004年 『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴他（ミネルヴァ書房）2014年 『障がい児共生保育論』曾和信一他（明石書店）2015年			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN285U 児童文化			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしを覚えて語ることを経験する。</p>				<p>わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄を覚えている。子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。わらべ唄の音楽的特徴を理解している。昔話の特徴を理解している。子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。ストーリーテリングを実際に経験している。(他の学生のおはなしを聞き、おはなしを覚える練習をする。)</p>			
教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。						
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。						
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたってやることが子どもの言語発達にとって重要であると知る。						
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。						
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。						
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力(リズム感・聴感)を意識した課業を考える。						
7	わらべ唄を課業に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえ、一人一人の子どもをよく観て子どもたちに沿った課業案を立てることが大切だと認識する。						
8	昔話とは何か(昔話の分類)：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。						
9	昔話とは何か(昔話の語り口 1)：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴(一次元性、孤立性、平面性)について例をあげて解説する。						
10	昔話とは何か(昔話の語り口 2)：引き続き、昔話の語りの特徴(固定性、極端性、抽象的様式)について例をあげて解説する。						
11	昔話とは何か(昔話の残酷性)：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。						
12	昔話とは何か(昔話に込められたメッセージ)：昔話には民衆の間人観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話にみられる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。						
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。						
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。						
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を体験したり消化したりできることを知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんと覚えて、語れているか。			授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的に覚えようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内の質問に対しての発言も考慮する。
定期試験	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担や練習などを各グループで行ってまいります。[1ヶ月以上、各自覚えらるるまで]各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してまいります。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業にのぞんで下さい。[90分以上]</p>				<p>発表の際にコメントします。評価やコメント等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応します。</p>			
受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれます。動きやすい服装で参加してください。			教科書・テキスト	『CD付き すぐ覚えらるる わらべ唄のあそび』木村はるみ著 成美堂出版 2012年 ISBN: 978-4-415-30564-6		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED200U 異文化間コミュニケーション論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	高島 彬						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
異文化コミュニケーションには、他者理解が必要である。ことばのさまざまな側面を理解し、ものの見方と捉え方の多様性を知る。それにより、他者の考え方を理解するための基礎を作る。これまで「あたりまえ」だと思っていたことについて、異文化を持つ他者の視点により再考する。			異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解する。ことばさまざまな側面を深く理解することにより、異文化と自文化の共通性と差異を再考する。文化背景の異なる人々との共生を身近なものとして考えることができる。				
教授方法	講義、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（異文化コミュニケーションをいかに学ぶか）						
2	ことばによるコミュニケーション 言語と文化						
3	ことばによるコミュニケーション ポライトネス						
4	ことばによるコミュニケーション ケーススタディ・グループディスカッション						
5	ことばのないメッセージ パラ言語：音声と間						
6	ことばのないメッセージ 身体動作：ジェスチャーとアイコンタクト						
7	ことばのないメッセージ ケーススタディ・グループディスカッション						
8	映画から異文化を学ぶ 映画視聴						
9	見えない文化 自己とアイデンティティー						
10	見えない文化 異文化コミュニケーションの障壁						
11	異文化コミュニケーションエクササイズ 背中合わせのコミュニケーション						
12	異文化コミュニケーションエクササイズ D.I.E.メソッドを用いたケーススタディ						
13	映画から異文化を学ぶ 映画視聴						
14	発表（プレゼンテーション）と総評						
15	発表（プレゼンテーション）と総評						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、ノ切等は授業で指示する。		参加態度	10	ディスカッションへ積極的に参加し、テーマについて理解を深めようとしているかどうかを評価する。	
発表（プレゼン）	30	異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて、発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。		コメントシート	10	事前事後の学習および授業のコメントを提出してもらう。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前に英文テキスト等、事後に体験レポートなどを課す。【30～60分】				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	さまざまなアクティビティやグループディスカッションの機会を設けるため、受講者には意見交換への積極的な参加を期待する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	参考書『異文化コミュニケーションワークブック』八代京子・荒木晶子・樋口容視子・山本志都・コミサロフ喜美著 三修社 2001年 ISBN:978-4-384-01851-6 『異文化トレーニング』八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子著 三修社 2009年 ISBN:978-4-384-01243-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED205U 児童文学			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。				明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。児童文学作品に対する読解力が向上している。児童文学作品の持つ特性や威力について、分かりやすく説明ができる。			
教授方法	講義およびブックトーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、児童文学の定義について理解する。						
2	「子ども観」をキーワードに、ヨーロッパにおける児童文学と日本の児童文学の歴史を概観する。						
3	「神話・伝説・民話」をキーワードに、伝承文芸の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
4	「偉人だけが偉いのか」を主題として、歴史物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
5	「行って帰る」構図を中心に、冒険物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
6	「小さい子を対象にした作品は短いほうがよいのか」という主張を中心に、幼年童話の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
7	「少年少女にとっての家族・学校」をキーワードに、少年少女小説の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
8	「動物は観るものなのか、飼うものなのか、食べるものなのか」を主題として、動物物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
9	「戦争児童文学はなぜ反戦児童文学ではないのか」を主題として、戦争児童文学の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
10	「絵本の発祥は西洋か、日本か」を主題として、絵本の歴史を理解し、代表的な作品を読み解く。						
11	「このファンタジーと向こうのファンタジー」を主題として、ファンタジーの特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
12	「わらべうた、唱歌、童謡はどう違うのか」を主題として、童謡の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
13	『君たちはどう生きるか』が漫画化された、アニメ化された』を主題として、漫画及びアニメーションの特徴を理解し、原作、漫画、アニメ作品を比較検討する。						
14	「大人に利用される児童文学」を主題として、児童文学や教科書が社会的問題に利用された事例や危険性について理解する。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	授業内容理解に努め、毎回指定された箇所及び作品を 読んでいる。			ブック トーク	30	各自で設定したテーマに従って児童文学作品を複数冊 紹介する。
レポート	50	ブックトークで紹介した作品について、それぞれが持 つ特徴や魅力についてレポートにまとめる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
指定された箇所及び作品を読む。[30分] 担当回までにブックトークの準備を行う。[60分]				ブックトークについて、事後にコメントし、レポート作成へのアド バイスを行う。			
受講生に 望むこと	子どものために書かれた作品は幅広く奥深い。作品は通読するだけでなく、自分なりに課題意識をもって読むこと。			教科書・ テキスト	『アプローチ児童文学』関口安義編 翰林書房 2019年 ISBN : 978-4877372576		
指定図書/ 参考書等	なし / 『児童文学の教科書』川端有子 玉川大学出版部 2013年 ISBN : 978-4472404634 『児童文学論』リリアン・H・スミス 岩波現代文庫 2016年 ISBN : 978-4006022822			その他・ 特記事項	なし		

授業科目名	ED215U 郷土の文学を楽しむ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、朗読会への参加、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。			石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。			
教授方法	テキストとプリントを併用した講義、フィールドワーク、朗読会、研究発表会					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。					
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。					
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勸進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。					
4	金沢の三文豪：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
5	金沢の三文豪：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
6	金沢の三文豪：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
7	加賀の作家と作品：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
8	加賀の作家と作品：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
9	能登の作家と作品：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
10	能登の作家と作品：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
11	金沢の作家と作品：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
12	金沢の作家と作品：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
14	詩の朗読会：自作の詩を持ち寄り、朗読会を開く。					
15	研究発表会：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	30	講義内容、感想や考察などをコメントペーパーにまとめる。		朗読会	30	自作の短編・詩の創作と朗読を行う。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回、指定された箇所を読み、内容を把握する。〔30分〕 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。〔180分～240分〕				毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。		
受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。他学科生の履修も歓迎する。			教科書・テキスト	『金沢を描いた作家たち』北國新聞社 2011年 ISBN：978-4833018272	
指定図書/参考書等	なし/『ミリアニア 石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編 能登印刷出版 2001年 ISBN：978-4890103898			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED221U 心理学統計法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義は心理統計を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学は人の行動、心のはたらきだけではなく、社会のさまざまな事象を理解するための有益なツールである。近年は学問領域だけでなくビジネスなどの現場においても統計学の知識、分析手法の技術の修得の必要性は高まっている。本講義では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。				統計学の基本的な用語を理解して適切に使用できる。 統計学の基本的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーションとデータの集計：度数分布表の作成、図による表現について解説する						
2	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する						
3	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する						
4	相関：2つの変数が関連している度合いを表現する						
5	回帰分析：ある変数から別の変数を説明・予測する方法について学ぶ						
6	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ						
7	さまざまな分布1：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ						
8	さまざまな分布2：標本分布について学ぶ						
9	中間テスト						
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ						
11	統計的検定1：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ						
12	統計的検定2：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ						
13	統計的検定3：統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ						
14	カイ二乗検定1：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける						
15	まとめと振り返り：これまでの復習とまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	講義の内容の理解度により評価を行う。			中間テスト	30	講義の内容の理解度により評価を行う。
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]				中間テストは終了後に解説を行う。 演習課題は終了後に答え合わせとコメントをおこなう。			
受講生に望むこと	統計学には難しく感じる内容もあるかもしれないが、こつこつと積み上げるように学んでいくことで少しずつ理解ができるようになる。そのために授業だけではなく、予習と復習が欠かせないので実践してほしい。			教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9		
指定図書/参考書等	なし/関連する参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED231U 心理学実験		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・加藤 仁 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			実験計画の方法に習熟している。 実験器具の取り扱いを習得している。 実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					全教員
2	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					松下
3	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
4	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					加藤
5	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
6	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下
7	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
8	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。					加藤
9	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
10	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法を学ぶ。					松下
11	「面接場面における面談者と来談者の言語行動」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
12	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。					加藤
13	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
14	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
15	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。[90分] 各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。[90分] 添削されたレポートによって復習する。[30分]			提出された実験レポートを添削した上で返却する。			
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-77-950237-8	
指定図書/参考書等	なし/『実践心理データ解析 問題の発想・データ処理・論文の作成 改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-78-851012-8 その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	ED251U 心理学実験		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊・勝谷 紀子・加藤 仁 (代表教員 齊藤 英俊)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>実験計画の方法を理解する。 実験器具の取り扱いを習得する。 実験で得られたデータの分析方法を習得する。 実験レポートの書き方に習熟する。</p>			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	心理学実験実習 の履修済みが望ましい(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	眼球運動の測定：アイマーク・レコーダ を用いて眼球運動を測定する実験の実習を行う。					勝谷
2	「眼球運動の測定」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
3	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					加藤
4	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
5	社会的推論：人の持つ社会的認知のありようについて検討する実験の実習を行う。					齊藤
6	「社会的推論」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
7	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					加藤
8	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
9	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					齊藤
10	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
11	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。					加藤
12	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
13	感情理解：表情からの感情理解のありように関する実験の実習を行う。					勝谷
14	「感情理解」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
15	「感情理解」レポート作成指導：分析結果のまとめ方、レポートの書き方について指導を行う。					勝谷
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。[45分] 各実験種目のレポートを作成する。[120分] 各種目で適用された分析方法を復習する。[30分] 返却されたレポートを見直し、修正する[30分]</p>				<p>各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。</p>		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8	
指定図書/参考書等	なし/種目ごとに適宜授業内に提示する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED226U 心理学研究法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
心理学は「心」という目で見たり手にとったりすることができないものが研究の対象である。心に対して研究という視点からアプローチをするためには、科学的な方法をいかに適切に行うかという点が重要である。心理学の研究を行うためには、科学的な方法を行うためのさまざまな知識を身につけることが欠かせない。本講義では、心理学の代表的な研究方法を習得することを目指す。				心理学における実証的研究法、具体的には量的研究や質的研究の基本的な知識を身につけることができる。 データを用いた実証的な思考方法を身につけ、実際に適切に考えることができる。 研究における倫理についての知識を身につけることができる。			
教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える						
2	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ						
3	実験法（２）：実験を行う際の留意点について学ぶ						
4	質問紙法（１）：質問紙法の基本的な考えについて学ぶ						
5	質問紙法（２）：質問紙調査を実施する際の留意点について学ぶ						
6	観察法（１）：観察による心理学的研究を行う際の基本的な考えについて学ぶ						
7	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ						
8	中間テスト						
9	面接法（１）：面接による心理学的研究を行う際の基本的な考えについて学ぶ						
10	面接法（２）：面接による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ						
11	検査法：心理検査を用いた研究での基本的考えと留意点について学ぶ						
12	研究倫理：研究を実施するにあたり配慮すべき問題（観察反応、倫理的問題）について学ぶ						
13	研究計画の立て方 研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ						
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る						
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでにまなんだ内容を振り返る						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末レポート	40	レポートの内容は自分で立てた研究計画である。その内容が講義で学んだ内容をどれだけ活かしているかを評価基準とする			中間テスト	30	講義前半で学んだ内容の理解度
講義への参加度	30	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義で学んだ内容をテキスト、資料、ノート等を使用して復習する。【45分】 次回に万部内容をテキストなどを使用して予習を行う。【30分】 心理学研究法についての参考文献や論文を読みながら、実際にはどのように研究が行われているかを学ぶ。【30分】				講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	自分が興味のある事柄について研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要があります。研究のためには何を必要とするか、何をしてはいけないのかを考えながら講義に臨むこと。			教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』 高野陽太郎他 有斐閣 2017年 ISBN 978-4-641-22086-7		
指定図書/参考書等	なし/参考書は授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	心理統計学 および心理学実験実習 を履修することで、本講義の内容がより深く理解できるようになる。		

授業科目名	ED246U 心理的アセスメント			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
心理アセスメントの理論と方法について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。				(1) 心理アセスメントとは何かを説明できるようになること (2) 心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること (3) 心理アセスメントに用いられる統計解析を説明できるようになること (4) 心理検査を実施、採点、解釈できるようになること (5) 心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること			
教授方法	講義、演習						
履修条件	心理学統計法もしくは心理統計学 および心理学研究法に関する講義の成績が「S」または「A」であることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理						
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	心理測定の信頼性と妥当性						
4	心理アセスメントと統計解析						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
6	性格検査、TEGの理論と実施						
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施						
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
10	知能検査、WAIS- （言語性検査1回目）						
11	知能検査、WAIS- （言語性検査2回目）						
12	知能検査、WAIS- （動作性検査1回目）						
13	知能検査、WAIS- （動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAIS- （結果の解釈と所見作成）						
15	総括、心理アセスメントの観点および展開						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと			課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	心理統計学および心理学研究法の知識と技術を十分修得した上で受講すること。修得していない場合は講義の理解が困難なため、自習により統計や研究法の知識を予め必ず獲得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺 礼子・吉住隆弘（編）ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-13:9784779503870		
指定図書/参考書等	なし/『心理テスト 理論と実践の架け橋』 ホーガン, T. P. (著) 繁樹算男・椎名久美子・石垣琢磨（共訳） 培風館 2010年 ISBN-13:978-4563052041			その他・特記事項	心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。		

授業科目名	ED256U 人格心理学(感情・人格心理学A)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの一つとして人格(=性格、パーソナリティ)があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			人格を理解するための諸理論を説明できる。 人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格(性格、パーソナリティ)とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
3	精神分析的人格論：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
4	精神分析的人格論：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	特性論 その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
6	特性論 Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
8	相互作用論：人 状況論を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
9	物語論：物語論(ナラティブ)の視点から人格について考える。						
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論(質問紙法、投影法、観察法、面接法)を理解し、研究方法について学ぶ。						
11	人格の発達：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。						
12	人格の発達：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしうのかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
リアクション・ペーパー	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		課題レポート	40	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうか。	
定期試験	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] 授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [40分] 普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみること。 授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみる。			リアクション・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間をもちます。 課題レポートや試験については、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントするなど対応します。				
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『改訂版』性格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために。詫摩武俊・瀬本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 2009年 ISBN:978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ET200U 幼稚園教育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	大井 佳子・向出 圭吾・谷 昌代 (代表教員 大井 佳子)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育実習 にかかわる事前・事後の実習指導である。1年次に同一幼稚園で夏期預かり保育体験(8月)と通常保育体験(2・3月)を行い、実践的に学んできた子どもと保育者のかかわりをもとに、大学イベント等で子どもの遊びを準備、実践し、記録の書き方に習熟しながら、実習におけるスキマ遊びにつながる短時間の指導計画について理解する。1年次体験において知った半年間で見る子どもの成長の姿から、また事前学習によって知った実習園の保育の特徴をふまえ、実習として臨む9月の幼児の園生活を想像し、実習生自身の個性を生かしたスキマ遊びを考え、環境図と時系列表記で立案して実習園との協議に臨む。1年次の体験園とは異なる園で幼稚園教育実習を行い、原則同じ園で次年度の6月に幼稚園教育実習を行う実習の流れの意味を理解し、幼稚園教育実習と並行して体験する保育実習・小学校実習とその実習指導と重ね合わせ、現場で学ぶ力を養う。			幼稚園教育実習 の概要とその意義を実習 との連続性において理解している。実習園の教育理念・方針を知り、その幼児教育としての特徴を把握できている。環境図を生かして記録することができる。子どもが自らしたくなるスキマ遊びを考え、実習園に合わせて準備することができる。スキマ遊びの指導計画を環境図と時系列表記で表すことができる。実習園と必要な連絡協議をすることができる。実習報告会の準備を通して実習における自身の体験を振り返り、次年度実習希望学生に伝えることができる。実習を通して、実習 に繋ぐべき自身の課題を明らかにする。			
教授方法	グループワーク・グループ協議・発表・実演					
履修条件	幼稚園夏期預かり保育体験と2(3)月の幼稚園体験に参加していること。保育原理・保育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることを原則とする。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼稚園教育実習 の概要について知る。幼稚園体験での記録をもとに気づきと疑問を出し合う中で、園による保育・園文化の多様性とその背景を理解する。					全員
2	子どもとの関わりについての体験的理解 : Enjoy! ミッション「遊びの広場」の実践に向け、4年生の援助を得ながら子どもがしてみたい遊びを探る。					全員
3	子どもとの関わりについての体験的理解 : 「遊びの広場」の指導計画(環境図・予想される子どもの姿・時系列・配慮事項)を作成する。					全員
4	Enjoy! ミッションでの実践の記録の見直しを通じて、子どもの姿を記録する際のポイントを理解する。					全員
5	幼稚園体験の記録を見直し補完すること等を通じて記録の書き方についての理解を深める。					全員
6	記録されたエピソードから学びの姿を読み取り、指導計画立案につなげることについて理解する。					全員
7	各園の教育理念・方針等の諸資料から自身の実習園の特徴を捉え、実習園の保育と子どもの姿を予想する。					全員
8	大学の様々な授業で体験してきた遊び、教材を活用してそれぞれでマッピングし、実習園での5日間で実践するいくつかのスキマ遊びのイメージをもつ。					全員
9	マッピングした遊びから、自分らしいスキマ遊びプランと、設定保育で実践できそうな短時間のプランを考える(お集まり・お話し・ゲーム他)。					全員
10	自然物や不用品などの身近なものをを用いた遊びをプランする。遊びの展開の過程を子どもの姿を中心に予想し、時系列と環境図で書いてみる。					全員
11	自分らしく工夫して作成する教材を考え、その教材を用いる遊びの展開の過程を子どもの姿を中心に予想し、時系列と環境図で書いてみる。					全員
12	実習園と大学への提出物の内容と期限等を確認し、自身の実習の具体的な流れと今後の実習指導について理解する。					全員
13	オリジナル教材の提示と模擬実践。直前指導: 幼稚園教育実習 で学ぶことと準備についての最終確認。					全員
14	幼稚園教育実習 の振り返り: 実習ファイルの提出、自己評価。					全員
15	実習報告会(教材展示・実習ファイルの閲覧を含む)・幼稚園教育実習 に繋ぐべき自己課題の整理。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	グループ活動への積極的な参加 適切な連絡・報告		事前課題	50	記録・指導計画等の内容 その補完 教材制作・教材準備 その改善
事後課題	20	事後レポートの内容(自己課題を含む) 実習報告会の準備				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
遊び(活動)のプランの作成・Enjoy! ミッションでの遊びのための準備・体験の記録の補完・スキマ遊びの指導計画の立案・実習園訪問と実習協議・子どもの遊びの場での体験(例 あそび場JOJO)・報告会準備(長時間を要するものが多い。グループでの取り組みや実習園の都合に合わせるものもあるので、各自の時間マネジメントが求められる。)				適宜授業内でコメントする。必要に応じて個別に面談の時間を設ける。		
受講生に望むこと	保育にふさわしいスタイル(服装・靴・アクセサリ・髪型等)で、保育者が身近に常備しているべきものを持って参加する。保育における「つくりなおし」の意味を理解し、厭わない。保育と実習園に対して興味をもち、情報を収集する。園には可能な限りボランティアとして出向き、実習協議につなげる。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499	
指定図書/参考書等	なし/適宜、紹介する。			その他・特記事項	無断欠席や提出物の期限が守られないことなど参加姿勢に社会人としての問題を認められた場合には、幼稚園教育実習 を取り下げることがある。実習の取り下げ・中断の場合には、本科目の単位は出ないので注意すること。幼稚園教育実習 の単位を取得しなければ幼稚園教育実習 を履修できない。保育原理・保育課程論及び保育内容科目を履修済あるいは履修中であることを前提として授業が進められることを了解いただきたい。事情で履修できない場合には各自で補修が必要となる。	

授業科目名	ET210U 小学校教育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎・姫野 俊幸・村井 万寿夫・福江 厚啓 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、北陸学院小学校での5日間、又は、公立小学校での週1回2時間(10月～1月)の教育実習を実施するに当たり、教育実習をすることの意義を理解し、私立学校と公立学校の違いやキリスト教学校の特色について考え、キリスト教学校や公立学校における教師としての在り方や態度について学ぶものである。</p>			<p>北陸学院小学校又は、公立小学校で教育実習をすることの意義を理解し、準備や見直しをもつ。 宗教を教育活動の根幹に据える私立小学校の特色についての理解を深める。 北陸学院小学校や公立小学校の教育活動についての理解を深める。 実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 実習計画や実習日誌の書き方を修得する。 実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。</p>			
教授方法	講義 グループ討議					
履修条件	ガイダンス・プレ実習に参加していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育実習指導 オリエンテーション 教育実習の意義について					全員
2	教員に求められる資質・能力					福江・全員
3	学校の教育理念・教育目標について					村井・全員
4	学校の教育課程について					姫野・全員
5	私立学校と公立学校のちがいについて・キリスト教学校の特色について					幸・全員
6	キリスト教学校の目指す子ども像	公立学校の子どもの目指す子ども像			幸・姫野・全員	
7	キリスト教学校の目指す教師像	公立学校の目指す教師像			幸・村井・全員	
8	キリスト教学校における宗教教育	公立学校における道徳教育			幸・村井・全員	
9	キリスト教学校の特色ある教育活動	公立学校の特色ある教育活動			幸・福江・全員	
10	キリスト教学校の特色ある教育活動	公立学校の特色ある教育活動			幸・福江・全員	
11	キリスト教学校の特色ある教育活動	公立学校の特色ある教育活動			幸・福江・全員	
12	実習日誌の書き方・実習に向けての心構え					幸・福江・全員
13	実習での学びの整理と反省・実習報告会に向けての準備					幸・福江・全員
14	教育実習報告会 (北陸学院小学校)					幸・全員
15	教育実習報告会 (公立小学校)					福江・全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業態度	50	真剣に授業に取り組んでいたか。		レポート	50	毎回、学習内容を正確に把握し理解していたか。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間ごとの気付きや発見、学びをレポートにまとめる。[40分] ・学習支援ボランティアに継続的に参加する。[週1回] 			<p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校での躓きをなくすため積極的にプレ実習に参加すること。 			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『キリスト教学校の教職員をこそざす人たちへー志望者のためのガイドブックー』(一般社団法人キリスト教学校教育同盟) 『北陸学院歴史ものがたり』(学校法人北陸学院) 授業内で販売 	
指定図書/参考書等	その都度指示あり。			その他・特記事項	その都度指示あり。	

授業科目名	ET220U 保育実習指導 (施設)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な「保育実習 (施設) 実習」を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、施設現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、利用者及び入所児童の自立度、家庭問題などに対応する障がい者や子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育・養育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの支援のあり方などの省察を行う。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習 (選択) に臨む。</p>			<p>保育実習 (施設) の意義と目的を理解している。実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。実習施設 (施設) における利用者及び子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>			
教授方法	講義・演習、ディスカッション、プレゼンテーション					
履修条件	「社会福祉」・「保育原理」を修得済であること。幼児教育・保育コース以外の学生は履修できない。「児童家庭福祉論」・「社会的養護」「保育実習 (施設)」を履修中であること。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	保育実習の意義 授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。個人票を作成する。					虹釜・齊藤
2	施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。					虹釜・齊藤
3	実習施設 (社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設) の種別と概要について理解する。					虹釜・齊藤
4	実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。					虹釜・齊藤
5	入所・利用している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係 (対家族、対職員、対利用者) について理解する。					虹釜・齊藤
6	実習に向けての心構えと基礎理解について、資料等からの学びの後グループ内でディスカッションを行う。					虹釜・齊藤
7	配属予定の施設 (種別) について調べた資料に基づいてグループディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。					虹釜・齊藤
8	これまで受講してきた授業 (児童家庭福祉論、社会福祉、社会的養護など) の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。					虹釜・齊藤
9	実習ファイルおよび作成書類 (事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など) を配付し、記入上の説明を行う。					虹釜・齊藤
10	事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の注意を行う。					虹釜・齊藤
11	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特に時系列記述とエピソード記述における留意点について理解する。					虹釜・齊藤
12	実習先施設の養育支援方針、概要を理解する。実習日程・内容など日程を把握する。実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・ブレ実習の日程を把握する。					虹釜・齊藤
13	直前指導：施設実習を行う際の留意事項について、グループごとで行う資料等の学びの後、要点などを確認する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例をあげながら実習上の注意を促す。					虹釜・齊藤
14	実習報告会準備：施設実習の振り返り・施設種別毎のグループでの話し合い、報告会の内容を作成する。					虹釜・齊藤
15	実習報告会：施設実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。					虹釜・齊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加姿勢	50	実習の目的を明確に理解している。主体的に討議に参加している。保育士の職務や保育を理解しようとしている。実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	課題を期日までに提出する。課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。実習日誌の書き方を理解している。実習計画を作成することができる。
授業外における学習 (事前・事後学習等)						
事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポート作成する。 [50分] 実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。 [50分] 実習で求められる日常業務などを遂行できるように、日常の家事作業などを十分に体験しておく。 [50分] 実習園に限定せず、社会的養護関係施設における学習支援、障害者支援施設・就労支援施設などのボランティアに参加する。 [50分] 実習報告会に向け、実習体験からの省察を行う [240分]			事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	施設保育士は社会的養護関係施設や障害者支援施設・就労支援施設の入所者・利用者の人権に直接かかわる業務であることを十分に認識して授業に臨む。事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。「児童家庭福祉論」「社会的養護内容」の授業と関連付けて理解するための復習を行う。			教科書・テキスト	『保育実習指導のミニマムスタンダードVer 2』 - 協働する保育士養成 -、全国保育士養成協議会編、中央法規、ISBN978-4-8058-5686-4	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	委託費など実習費用約50,000円 (保育実習) が必要となる。詳細は、1回目の授業で説明する。無断欠席・遅刻・早退が多い・課題未提出等がある場合、実習を認めない。	

授業科目名	ET225U 保育実習（施設）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>居住型および通所型の児童福祉施設（保育所を除く）もしくは障害者支援施設において、90時間（約11日間）の実習を行う。利用者と生活をともにすることで、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で組み立てられている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。</p>			<p>実習施設について理解している。 養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。 子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。 支援計画を理解している。 生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。 職員間の役割分担やチームワークについて理解している。 施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。 「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。 保育士としての職業倫理を理解している。 安全および疾病予防への配慮について理解している。</p>			
教授方法	配属施設において、宿泊もしくは通勤による「10日間以上」及び「90時間以上」の実習を行う。					
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。「保育実習指導（施設）」を履修中であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、次の1～14の内容を行う。					
	1.施設での一日の流れを理解する。					
	2.施設の役割と機能について理解する。					
	3.子ども・利用者を観察し、記録する。					
	4.子ども・利用者の個々の状態に応じた援助やかかわりについて考え実践する。					
	5.実習計画に基づき活動し、支援を行う。					
	6.子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。					
	7.子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。					
	8.子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。					
	9.支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。					
	10.実習計画に基づき省察し、自己評価を実施する。					
	11.施設保育士の業務内容を体験的に理解する。					
	12.職間の役割分担や他職種職員との連携について体験的に理解する。					
	13.施設保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。					
	14.施設の年間計画や行事について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先の評価	50	施設からの、実習評価表における項目ごとに評価する。		巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	20	「オリエンテーション記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前に施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。				施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。		
受講生に望むこと	実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。〔30分〕 実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。〔50分〕			教科書・テキスト	『保育実習指導のミニマムスタンダードVer2』-協働する保育士養成-、全国保育士養成協議会編、中央法規、ISBN978-4-8058-5686-4	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。 交通費については原則自己負担とする。	

子ども教育学科
(3年次)

授業科目名	EK300U 専門ゼミ			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・虹釜 和昭・田邊 圭子・中島 賢介・姫野 俊幸・宮浦 国江・村井 万寿夫・永山 亮一・幸 聖二郎・齊藤 英俊・福江 厚啓・高村 真希・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
基礎ゼミ・プロゼミで身につけた学習及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習及び研究を進める。具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献購読、ディスカッションを中心に理解に努める。その後、ゼミ担当教員のもとに、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査、データの収集等を行い、ゼミレポート（8000字程度：該年度の1月下旬締切）の完成を目指す。				ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。各自が設定した研究テーマに沿って文献・資料検索、データ収集等を行うことができる。ゼミレポートの作成を通して、研究テーマをより深く理解し、文章化することができる。グループディスカッションを通して、教員や他のゼミ学生の考えも理解しながら自分の知見を広げる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	基礎ゼミ・、プロゼミA・Bを履修し、単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	(前半)ゼミ運営についての合同オリエンテーションを行う。 (後半)各ゼミ内での自己紹介、ゼミの進め方等ゼミプランの説明を行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う。	各担当教員
29	各ゼミ内でレポートの発表を行う。	各担当教員
30	専門ゼミ（テーマ設定、研究内容等）での学びの総括を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 文献等の調査を積極的に行っているか。 意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしているか。	レポート	50	指定された文字数、書式等が守られているか。 内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切か。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。			ゼミごとに随時行う。		
受講生に望むこと	2年次後期に配布する「専門ゼミの登録と卒業研究について」の資料を熟読すること。 研究テーマに主体的に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。	
指定図書/参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。		その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。	

授業科目名	EK250U 教育史		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教育の歴史を通して過去の様々な思想や出来事について知るとともに、現代の教育にどのように反映されているか考える。このことは未来の教育について考えることにもつながる。本科目はこのような視点で、先に西洋における教育史について学ぶ。次に日本における教育史について学ぶ。これによって、日本の教育はヨーロッパやアメリカの影響を受けながら現代に至っていることが分かる。</p>			<p>古代ギリシャから現代までの西洋の教育史について理解している。 江戸期から大正期までの日本の教育史について理解している。 現代の日本の教育について考え、未来の教育について自分なりに予想することができる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）/平成の次の時代（日本の教育はどこに向かっているかについて考える。）					
2	古代から近世の思想家（古代から近世にかけてのヨーロッパの教育思想家について知る。）					
3	近代国家の形成と教育学（ヨーロッパやアメリカにおける近代国家の形成と教育学における思想家について知る。）					
4	社会と教育（教育社会学の祖としてのデュルケムを中心に「社会と教育」について考える。）					
5	労働と教育（産業革命以降のヨーロッパや旧ソ連における「労働と教育」について知る。）					
6	精神科学的教育学の潮流（精神科学的教育学の潮流について知る。）					
7	現代における教育の思想（アメリカのブルーナーを中心に現代における教育の思想について知る。）					
8	日本の社会の成り立ちと人間形成（日本における近世社会の成り立ちと人間形成の思想について知る。）					
9	日本の近世の教育思想と教育家（日本における近世の教育思想と教育家たちについて知る。）					
10	明治期の教育思想（明治期の福沢諭吉の教育思想について知るとともに「学問のすゝめ」の意義について考える。）					
11	国民教育制度と国家主義（明治期の国民教育制度や教育における国家主義について考える。）					
12	大正新教育運動（大正期における「大正新教育」の思想や運動について知る。）					
13	新教育の実践家による実践（「大正新教育」における実践及びそれが現代への教育につながっていることを知る。）					
14	現代の教育（昭和から平成にかけての教育の思想（方針）について知る。）					
15	未来の教育（再び現在の教育について考え、未来（平成の次の時代）の教育について予想してレポートにまとめる。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業態度	15	・積極的に授業に臨んでいる。 ・講義を集中して聞きワークシートに記入している。		小レポート	15	講義内容についての課題に対し、自分の考えを書いている。
期末レポート	20	日本の未来の教育について自分なりに予想して考えを書いている。		定期試験	50	・講義内容を正しく理解している。 ・教育の歴史について自分の考え方を持っている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の「ミニッツコメント」にコメントする。[30分] 西洋や日本の教育の歴史に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]</p>				<p>小レポートや期末レポートを採点して返却する。 定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。</p>		
受講生に望むこと	過去の教育史が現在の教育につながっていることを意識して受講してください。			教科書・テキスト	『教育の歴史と思想』石村華代・軽部勝一郎編著、2013年、ミネルヴァ書房、2,500円＋税、ISBN978-4-623-06584-4	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EK310U 教育学文献講読A1			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>今年度は、心理学者のカール・ロジャーズの文献を読む。ロジャーズは、心理療法におけるクライアント中心療法の創始者として有名であるが、教育現場におけるカウンセリングマインドにも大きな影響を与えている。ロジャーズの理論は心理学だけでなく、対人援助のあり方を考える上で重要な視点を提供してくれると考えられる。ロジャーズの理論に触れることを通じて、対人援助における支援者の姿勢、態度について考えてみたい。</p>				<p>レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。ロジャーズの理論について理解している。対人援助における支援者のあり方について、自分なりの意見を持てるようになる。</p>			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、評価方法について。発表者決め。						
2	第5章：より新しいサイコセラピーの前半の検討						
3	第5章：より新しいサイコセラピーの後半の検討						
4	第6章：指示的アプローチ対非指示的アプローチの前半の検討						
5	第6章：指示的アプローチ対非指示的アプローチの後半の検討						
6	第7章：ハーバート・ブライアンのケースの前半の検討						
7	第7章：ハーバート・ブライアンのケースの後半の検討						
8	第9章：気持ちのリフレクション（反映）と転移の前半の検討						
9	第9章：気持ちのリフレクション（反映）と転移の後半の検討						
10	第10章：クライアント・センタード/パーソンセンタード・アプローチの前半の検討						
11	第10章：クライアント・センタード/パーソンセンタード・アプローチの後半の検討						
12	第15章：セラピーによるパーソナリティ変化の必要にして十分な条件の前半の検討						
13	第15章：セラピーによるパーソナリティ変化の必要にして十分な条件の後半の検討						
14	第16章：クライアント・センタードの枠組みから発展したセラピー、パーソナリティ、人間関係の理論の前半の検討						
15	第16章：クライアント・センタードの枠組みから発展したセラピー、パーソナリティ、人間関係の理論の後半の検討						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30	出席状況やディスカッションでの発言等を評価する。			担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、対人援助における支援のあり方について自らの意見や考察をまとめられているかどうかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>事前に各回でとりあげる当該箇所を読んでおく。[30分] 発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]</p>				<p>最終レポートについては、希望者には次学期に内容に関するコメント等を含めて返却を行います。</p>			
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。			教科書・テキスト	『ロジャーズ選集（上）』H.カーシェンバウム/V.L.ヘンダーソン編 2001年 誠信書房 ISBN: 978-4414302912		
指定図書/参考書等	なし/適宜参考書を紹介する。			その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。		

授業科目名	EK315U 教育学文献講読A2			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本授業では、80年前に書かれ、漫画化された作品が現在100万部を超える吉野源三郎『君たちはどう生きるか』を取り上げる。文献から自分で学ぼうとすること、子どもに寄り添い教えることの意味を検討する。また、文献に関連する教養教育論、社会認識形成論、作品・作家論、漫画化における功罪などを取り上げ、作品理解を深めることで文献の現代的意義について検討する。</p>				<p>文献の内容を的確に理解し、要約することができる。 文献の内容を踏まえた上で自己の主張・教育観を展開することができる。 文献の現代的意義について論じることができる。 文献研究の観点や手法について理解している。</p>			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション 授業の概要・到達目標、流れ、評価方法について解説する。発表者と担当箇所を決定する。作者、作品紹介執筆当時の時代背景など解説する。						
2	「まえがき」の箇所を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで作品の概要を理解する。						
3	第一章「へんな体験」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「ものの見方」について理解する。						
4	第二章「勇ましき友」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「真実の経験」について理解する。						
5	第三章「ニュートンの林檎と粉ミルク」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「人間の結びつき」について理解する。						
6	第四章「貧しき友」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「人間であるからには」について理解する。						
7	第五章「ナポレオンと四人の少年」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「偉大な人間とはどんな人か」について理解する。						
8	第六章「雪の日の出来事」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことでコベル君の行動とその背景について理解する。						
9	第七章「石段の思い出」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「人間の悩みと、過ちと、偉大さについて」を理解する。						
10	第八章「凱旋」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「凱旋してゆくような気持ち」について理解する。						
11	第九章「水仙の芽とガンダーラの仏像」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで文化についての理解を深める。						
12	第十章「春の朝」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで自分の思いや考えを記述することの意義について理解する。						
13	教養教育論、社会認識形成論について担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで作品の根底にある思想について理解する。						
14	作品の関連本出版や漫画化における功罪について担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで作品が読者に与える影響について理解する。						
15	総括的検討を行い、文献講読の意義について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	30	事前に文献を読み、ディスカッションに参加し、積極的に発言しているかを評価する。			発表内容、態度	30	担当箇所についてのレジュメ作成と発表がディスカッションにつながる内容であったか、発表者としてふさわしい態度であったかを評価する。
レポート	40	文献を全体的に理解し、ディスカッションの内容を含めて主張しているかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>全員が担当箇所を読み込む。特に「おじさんのNOTE」については背景となる時代や思想などを調べ、ディスカッションに参加できるようにしておくこと。[60分] 発表者はディスカッションができるようなレジュメを作成する。必要に応じて、参考書などにより補足説明を用意しておく。[90分]</p>				発表や内容に関する質問に対しては適宜対応する。最終レポートについては次学期初めにコメントを配付する。			
受講生に望むこと	単なる一読者としてではなく、自分自身と向き合う学生として講読することを望む。また、これまで自分の得てきた知識ややり残してきた課題等を整理しながら読み解くことを勧める。			教科書・テキスト	『君たちはどう生きるか』吉野源三郎 岩波文庫 2012年 ISBN: 4 00 331581 2		
指定図書/参考書等	なし / 『君たちはどう生きるか』吉野源三郎 マガジンハウス 2017年 ISBN: 978-4-8387-2946-3 『漫画君たちはどう生きるか』吉野源三郎作 芳賀翔一絵 2017年 ISBN: 978-4838729470 『人間を信じる』吉野源三郎 岩波現代文庫 2011年 ISBN: 9784000632234			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EK325U 教育学文献講読B1		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>今年度はエリック・エリクソンの発達理論について文献を通して学ぶ。エリクソンの発達理論は、「心理社会的発達理論」として知られており、人の発達を考える上で重要な理論である。本授業では、前半に青年期の発達課題でもある「アイデンティティ」を中心とした文献を読むことを通じて、エリクソンの生涯や発達理論について学ぶ。後半は、エリクソンの著作を読むことを通じて、エリクソンの心理社会的発達理論についてより深く学んでいく。エリクソンの発達理論を通して、人の発達の過程や発達における課題にはどのようなものがあるかについて考えてみたい。</p>			<p>レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。エリクソンの発達理論について理解している。人の生涯発達の過程や発達課題について、自分なりの意見を持てるようになる。</p>			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、評価方法について。発表者決め。					
2	第1章 「自分」とは何か					
3	第2章 エリクソンの自己形成史					
4	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ：生涯にわたる人間発達の理論					
5	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ：アイデンティティの諸領域・諸次元					
6	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ：アイデンティティ研究の発展					
7	第3章 ライフサイクルとアイデンティティ：アイデンティティ概念のひろがり					
8	第4章 臨床問題としてのアイデンティティ					
9	第4章 臨床問題としてのアイデンティティ					
10	第5章 日本人のアイデンティティ					
11	『ライフサイクル、その完結』 第2章 心理・性的なるもの世代のサイクルの前半の検討					
12	『ライフサイクル、その完結』 第2章 心理・性的なるものと世代のサイクルの後半の検討					
13	『ライフサイクル、その完結』 第3章 心理・社会的発達の主要な段階の前半の検討					
14	『ライフサイクル、その完結』 第3章 心理・社会的発達の主要な段階の後半の検討					
15	『ライフサイクル、その完結』 第4章 自我とエトスの検討					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30	出席状況やディスカッションでの発言等を評価する。		担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、人の生涯発達の過程について自らの意見や考察をまとめられているかどうかを評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>事前に各回でとりあげる当該箇所を読んでおく。[30分] 発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]</p>				<p>最終レポートについては、希望者には次学期に内容に関するコメント等を含めて返却を行います。</p>		
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。			教科書・テキスト	『アイデンティティの心理学』 鎌 幹八郎 講談社 1990年 ISBN:978-4061490208	
指定図書/参考書等	『ライフサイクル、その完結』 E.H. エリクソン・J.M. エリクソン（村瀬孝雄・近藤邦夫訳）みすず書房 2001年 ISBN: 978-4622039679/ 『生涯発達とライフサイクル』 鈴木 忠・西平 直 東京大学出版会 2014年 ISBN:978-4130133081			その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。	

授業科目名	EK330U 教育学文献講読B2		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
世の中に作品を紹介するだけの本は多く出版されているが、子どもの本を文学として考え文学として評価する基準について書かれた本は多くない。そこで、本講義では、子どもの本を研究する上で基本的かつ重要な視点をもって編まれたリリアン・H・スミスの『児童文学論』を講読する。一つの課題もしくはジャンルに向き合うことで、子どもの本の価値と意義について再認識することがねらいである。			文献の内容についての確に理解し、要約することができる。文献の内容を踏まえた上で自己の主張、作品についての評価ができる。文献の現代的意義について論じることができる。			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成及び発表）、ディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：授業の概要・到達目標、授業の流れ、評価方法について解説する。発表者を決め、「まえがき」を講読する。					
2	第1章 児童文学の問題：「児童文学作品に対する誤解」を中心に検討する。					
3	第2章 児童文学の系譜：「最もいちじるしく発展した局面」を中心に検討する。					
4	第3章 批評の態度：題材、テーマ、ストーリー、プロットを中心に検討する。					
5	第4章 昔話：昔話が持つ簡潔さ、単純さ、力強さ、独特な共通性、繰り返しをキーワードにして検討する。					
6	第5章 神々と人間：ギリシャ・ローマの神話と北欧神話を中心に検討する。					
7	第6章 叙事詩とサガの英雄たち：叙事詩や英雄物語を中心に検討する。					
8	第7章 詩：詩のリズムや言葉を中心に検討する。					
9	第8章 絵本：5つの作品から絵本の持つ特徴を検討する。					
10	第9章 ストーリー：「子ども時代というもの、驚きと疑問と推測の時代である」という言葉を中心に検討する。					
11	第10章 ファンタジー：「子どもはみな、第六感を持っている」という言葉を中心に検討する。					
12	第11章 歴史小説：「物語として語るに足る過去の世界があった」という言葉を中心に検討する。					
13	第12章 知識の本：「学ぼうとする子どもの衝動は、驚異の念、好奇心からくるのである」という言葉を中心に検討する。					
14	あとがき、解説を中心に、作者の生い立ちや働きについて検討する。					
15	総括的検討、文献の現代的意義についてディスカッションする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	30	事前に文献を読み、紹介されている作品を読んできているか。		担当回の発表	40	担当箇所についてのレジュメの作成と発表がその後のディスカッションにつながる内容であったかを評価する。
レポート	30	文献を全体的に理解し、協議内容を含めて自己主張されているかを評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
全員が毎回指定されている講読箇所を読み、ディスカッションに参加できるよう、内容に関連する事項や人物などを予め調べてくる。〔60分〕 発表者はディスカッションができるようなレジュメを作成する。必要に応じて、参考書などにより補足説明を用意しておく。〔90分〕				発表内容については、発表終了後にコメントする。最終レポートにはコメントを配布する。		
受講生に望むこと	子どものための作品をたくさん読んで理解を深めてもらいたい。			教科書・テキスト	リリアン・H・スミス『児童文学論』岩波現代文庫 2016年 ISBN：978-4006022822	
指定図書/参考書等	なし / 『児童文学事典』日本児童文学学会編 東京書籍 1988年 ISBN：978-4487731916 『オックスフォード世界児童文学百科』原書房 1999年 ISBN：978-4562031047			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ES230U 英米文学			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	木梨 由利						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
英語を学び、英米人を真に理解することは、それぞれの国の歴史や書かれた文学作品について知ることで可能になる。従って、このクラスでは、英米の文学の流れを、作品が書かれた背景と共に時系列に見ていく。講義を聴くだけでなく、時として、学習者自身が作品そのものを読んだり、調べたりする課題が出される。また、理解度を確認するための小テストも毎回実施される。				中学校英語教員として知っておきたい文学全般について、イギリス、アメリカ、それぞれの国の文学の流れを概観し、主要な文学作品やその特徴の一端を、歴史的・社会的・文化的背景の中で理解する。原文の抜粋やその翻訳を読み、文学特有の表現を身につけることも目標である。			
教授方法	概ね講義によって進められるが、英文朗読や翻訳などの形で授業に参加することが求められることがあります。						
履修条件	英語教育に携わることを目指し、英語の学習に意欲的に取り組める学生であることを条件とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業に関するガイダンス 黎明期のイギリスについて イギリスという国のなりたち、「文学」と呼ばれるものが現れる以前のイギリスについて学ぶ。						
2	古英語・中英語の文学（6世紀頃～14世紀末） 『ベオウルフ』や『カンタベリー物語』を中心にしながら、古英語が近代英語に変化していく過程をも理解する。						
3	シェイクスピアの時代の文学（16世紀～17世紀初期） ルネッサンス期の詩、シェイクスピアやその同時代人による戯曲について理解する。						
4	ミルトンの時代からドライデンの時代へ（17世紀中期～後期） 清教徒革命や王政復古の時代に生きた作家たちの人生にも着目したい。						
5	ポープの時代からジョンソンの時代へ（18世紀） 理性や秩序が重んじられた時代であるが、一方でロマン主義の萌芽も見いだされるようになることに注目する。						
6	小説の始まりと発展（18世紀中期～末期） 小説というジャンルの創始者であるリチャードソンたち4人の作家と女性作家の登場						
7	ロマン派の詩（18世紀末～19世紀中期） ワーズワースの詩などを実際に読む。						
8	19世紀の小説と戯曲 「小説の世紀」とも呼ばれる19世紀に活躍した、オースティン、プロンテ、ディケンズなどとその作品について学ぶ。						
9	20世紀初頭の文学 コンラッド、ジョイス、ウルフなどに焦点を当てる。その後の作家については、流れとして若干触れる。						
10	アメリカ植民地時代の文学（17～18世紀） フランクリンなどを中心に、ビルグリム・ファーザーズのアメリカ上陸や彼らが信奉した清教主義などについて理解する。						
11	アメリカ文学の独立期（19世紀初期） アーヴィングやクーバーなどの作品などを、その背景との関係において理解する。						
12	アメリカ文学の開花（19世紀中期） ポー、ホーソンなどについて、代表的な作品の内容と共に学習する。						
13	リアリズムと自然主義の文学（19世紀～20世紀初頭） トウエインやドライサーなどの文学について理解する。						
14	アメリカ文学の成熟（1920年～40年代） ヘミングウェイ、フィッツジェラルド、フォークナーなどについて学ぶ。						
15	第二次世界大戦後の文学 サリンジャーの小説やウィリアムズの戯曲など、日本でもよく知られている数人の作家について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験の結果	50	授業の内容を正確に理解しているか、また、理解したことを自分の言葉で表現できているか。			小テスト（毎回）	30	前回の授業で出てきた人名や作品名、文学用語などを、指示された言語で、正確にかけるか。
授業中での貢献度	20	授業中に和訳などを求められた時、それに応えられるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業では、テキストにある情報を取捨選択し、時には情報の追加もするので、事前にテキストや事前に配布する資料に目を通すことが必須である。〔2時間以上〕 また、毎週の小テストでは、前回の授業で話したことから出題するので、テストの準備も含め、学習したことを整理しておく必要がある。〔1時間以上〕				小テストは採点して、次回の授業で返却します。 定期試験の結果についても、次学期の初めにコメントができる機会を探します。			
受講生に望むこと	限られた時間の中で、それぞれの作品について深く語ることは不可能であるので、自分で作品を実際に読んでみるなど、主体的、積極的に勉強に取り組んでいただきたい。そうすれば、理解度も楽しみも増すはずだ。			教科書・テキスト	『はじめて学ぶイギリス文学史』 神山妙子編著 ミネルヴァ書房 1989年 ISBN-13: 978-4623018734 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋好枝・高田賢一編著 ミネルヴァ書房 1991年 ISBN-13: 978-4623021055		
指定図書/参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』 上田和夫・渡辺利雄編著 研究社 2005年 ISBN-13: 978-47674900663 『英語文学事典』 木下卓・高田賢一 他 編著 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN-13: 978-4623041299 『イギリス文学史』 川崎寿彦 成美堂 1988年 ISBN-13: 978-4791934034 『アメリカ文学史』 西田実 成美堂 1991年 ISBN-13: 978-4791934003 他			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES330U 英米文学			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	木梨 由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>英米の文学作品の原文を読む。第一の目的は、語彙力や文法の力を向上させること、第二は作品そのものを楽しむこと、第三は、作品の背景となっている英米の社会や文化、歴史などについての認識を深めることである。このようなプロセスを通じて、中学校英語教員として必要な英語の総合的な力を養うとともに、人間や人間の心理に対する理解力を深める。</p>				<p>英米文学 で学んだ知識・理解を土台として、本講義では英語で書かれた文学作品の講読とディスカッションを通じて、英語力の向上と、文学の鑑賞眼を養うことを目指す。英検でいえば、2級から準1級程度の難度の英語が苦勞せずに読め、また、自分の「読み方」を、英語で紹介できるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	教員やクラスメートとのやりとりを中心とする演習形式です。						
履修条件	英米文学 を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス 「文学の英語」について ジャーナリズムなどの英語と比較して						
2	イギリスの文学作品の講読 とりあえず、英文としての理解ができるように						
3	英語、または日本語の質疑応答によるプロットの確認						
4	著者とその時代についての考察						
5	作品読解 初読の時よりも行間を読めるように						
6	作品の構成や人物描写、その他の特徴についての考察とディスカッション						
7	作品の鑑賞 テーマについての考察						
8	個々人による「読み方」の発表						
9	アメリカの文学作品の講読 とりあえず、英文としての理解ができるように						
10	英語、または日本語の質疑応答によるプロットの確認						
11	著者とその時代についての考察						
12	作品読解 初読の時よりも行間を読めるように						
13	作品の構成や人物描写、その他の特徴についての考察とディスカッション						
14	作品の鑑賞 テーマについての考察						
15	個々人による「読み方」の発表						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験の結果	50	語彙習得や文法の理解ができているか。また、作品の理解の仕方に説得力があるか。			小テストの結果	20	英語の表現についての理解がなされているか。
提出物や発言の内容	30	例えば作家について調べるなどの課題に真剣に向き合っているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業は訳読中心ではないので、作品は事前に読んで、内容や問題点を整理しておくことが必要で、そのためには辞書を丹念に引くことが必須です。批評書などを講読する場合は予習を行う。[最低2時間] 作品中の表現を自分で使えるものにしたし、ディスカッションの後に問題点を整理するために、毎回復習が必要。[1時間]</p>				<p>なるべくコメントを付して返却しますが、場合によっては、「模範答案」をご紹介するなどの形に代えることもあり得ます。どのような形にせよ、疑問や議論に対してはしっかりコメントをするようにします。</p>			
受講生に望むこと	必ずしも日常的でない英語表現に出会っても、辞書を引くことを厭わないこと。インターネットの記事などに安易に頼らず、然るべき文学事典や批評書を使用すること。理詰めで考えるだけでなく、フィクションを楽しめる柔軟な考え方を持てることが望ましい。			教科書・テキスト	プリント配布（優れた英文学の作品としての定評があり、かつ、子どもや青少年の心理などを扱っている短編を選択。一作目はK. Mansfieldの作品。その他詳細はクラスで発表する。）		
指定図書/参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』（研究社、2005）上田和夫・渡辺利雄編著 ISBN-13: :978-476790663 他はクラスで指示する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES240U 欧米の児童文学			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	木梨 由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>小学校での外国語活動や英語教育を経て、中学校での本格的な英語を学び始める際にスムーズな導入になるように、中学校英語教員として知るべきこととして、児童文学における発生と発展の歴史をマナブ。また、代表的な作品を、実際に英語または日本語で講読し、個々の作品について、歴史的・文化的背景を知り、また、作者の美人生とのかかわりの中で理解を深める。</p>				<p>児童文学の歴史や個々の作品について、単に知識として吸収するのみならず、実際に作品を読み、それに関する意見を発表できるようになる。文学を理解し、発表するという能動的な学びを通して、「子どもを読者対象とした狭義の児童文学」という概念を超えて、最終的には、児童文学とは何か、その特質は何なのかについて理解し、考えたことを表現できることが目標である。</p>			
教授方法	概ね講義の形をとるが、受講者同士での意見交換の場を設ける。知識の定着のため、小テストもほぼ毎回実施する。						
履修条件	教諭の資格取得を目指す学生であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業に関するガイダンス 児童文学に関する導入						
2	児童観の変遷及び児童文学の歴史の概観						
3	イギリスの児童文学（1）『不思議の国のアリス』、『宝島』など						
4	イギリスの児童文学（2）『秘密の花園』、『メアリー・ポピンズ』など						
5	イギリスの児童文学（3）『ホビットの冒険』、『ナルニア国物語』など						
6	イギリスの児童文学（4）『指輪物語』、『ハリーポッターと賢者の石』など						
7	アメリカの児童文学（1）『若草物語』、『トム・ソーヤの冒険』など						
8	アメリカの児童文学（2）『オズの魔法使い』、『あしながおじさん』など						
9	アメリカの児童文学（3）『大草原の小さな家』、『仔鹿物語』など						
10	アメリカの児童文学（4）『テラビシアにける橋』、『のっぽのサラ』など						
11	アメリカ以外の英米圏の児童文学（1）『赤毛のアン』、『めざめれば魔女』など						
12	英語圏以外のヨーロッパの文学（1）『ハイジ』、『二人のロッセなど』など						
13	英語圏以外のヨーロッパの文学（2）『あそこはフリードリヒがいた』、『モモ』など						
14	受講者によるプレゼンテーション						
15	講義とプレゼンテーションのまとめ 「児童文学とは何か」						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	30	発表とそのために作成したハンドアウトにいか説得力があるか			小テスト	20	知識が正確に定着しているか
レポート	30	作品をいかによく理解し、かつ、そのことを表現できているか			授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>テキストの内容を網羅的に話せるわけではないので、テキストの特に関係する箇所を事前に読んでおくことが必要です。〔2時間以上〕 講義で触れられたことを整理し、次回に行われる小テストの準備のため復習も必須〔1時間〕 作品そのものを読もうとすれば、さらに多くの時間を費やさねばならないことは覚悟しておいてください。</p>				<p>小テストは次回に返却します。また、プレゼンテーションについてのコメントは当日、または最終回にします。レポートについても、個々にコメントできるような機会を探します。</p>			
受講生に望むこと	子どもや子どもの本が好きであること。できるだけ多くの作品を読み、楽しみ、そのメッセージについても考えるように努めてほしい。なるべく英語で読めば、英語での表現力も身につきます。			教科書・テキスト	『はじめて学ぶ英米児童文学史』 桂宥子・牟田おりえ 編著 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN-13: 978-4623038503 必要に応じてプリント配布。		
指定図書/参考書等	なし/『たのしく読める英米児童文学』 本多英明・桂宥子・小峰和子編著 ミネルヴァ書房、2000年 ISBN-13: 978-4623031566 「作品を読んで考える児童文学講座」シリーズ（全4巻）中野節子・水井雅子・吉井紀子著 JULA出版局、2009-12年 第1巻のISBN-13: 978-4882842231 その他はクラスで指示。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES350U 英語科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、中学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとっての必修科目である。「英語科教育法I」「英語科教育法II」で学んだ理論や知識を踏まえ、教育実習に必要な教材研究および実践力を身につけるべく、教材研究と模擬授業、相互評価や省察を行う。</p>				<p>英語科教育法I・IIで学んだ理論や知識を踏まえ、教育実習に必要な指導力を身につける。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、発表						
履修条件	中学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 英語科教育法I・IIで学んだことを振り返り、教育実習に向けて本授業で学ぶことを概観する						
2	学習指導要領の目標と小中連携						
3	教材論(1) 言語材料(文法・語彙)						
4	教材論(2) 言語材料(音声)						
5	教材論(3) 言語材料(異文化理解とコミュニケーション)						
6	評価と測定						
7	授業運営(1) 指導案の作成						
8	授業運営(2) 活動の作り方						
9	授業運営(3) 教材の作成と準備						
10	模擬授業 1年生の教材を用いて						
11	模擬授業 2年生の教材を用いて						
12	模擬授業 3年生の教材を用いて						
13	自己省察と相互評価およびディスカッション						
14	ミニ模擬授業 (活動に焦点を当てて)						
15	まとめ これまで学んだ理論と実践を活かしているか省察し、今後取り組むべき課題について確認する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
模擬授業と指導案	60	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組み、指導案作成や模擬授業に生かしているか			課題	20	講義内容に関連した課題を指示に従って仕上げているか
自己省察・ディスカッション	20	本授業で学んだ理論と実践を活かしているか省察し、今後取り組むべき課題について確認できているか					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる[50分] 課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。[40分] 指導案作成および模擬授業の準備[90分] 中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。[30分]</p>				<p>課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。</p>			
受講生に望むこと	中学英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。			教科書・テキスト	<p>・高梨庸雄・高橋正夫著. 2012. 『新・英語教育学概論[改訂版]』. 東京: 金星堂. ISBN: 978-4764739475 ・『中学校学習指導要領解説 外国語編』. 2018. 文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051692</p>		
指定図書/参考書等	なし/中学校英語教科書(図書館所蔵)。学習指導要領、その他については開講時に指示する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ES355U 英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は中学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目であり、英語科教育法～で学んだ知識を基に、またプレ実習や教育実習の経験に基づき、さらなる指導技術の向上を目指す。また英語で書かれた英語教育関係の文献も扱う。</p>			<p>英語科教育法～で学んだ理論や知識、及び、中学校で教育実習またはプレ実習を経験した者は、その際に課題に感じたことを振り返り、英語の指導力を習得する。 他者の授業を参観・視聴することにより授業を観る目を養い、ディスカッションを通して指導技術を習得する。</p>			
教授方法	講義、演習、模擬授業、ディスカッション					
履修条件	中学校教員免許（英語）を取得希望の者。英検2級を取得していて、英検準1級以上を取得しようとする者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業のねらいとクラスルールを知る					
2	プレ実習や教育実習で自分の課題と感じたことを発表し合い、どのような解決策があるかをディスカッションし、結果を共有し合う					
3	英語教育者論 英語教師養成の現状を知り、国の政策としての英語教育を展望する					
4	文法・語彙・音声の指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える					
5	異文化理解とコミュニケーションの指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える					
6	4技能を伸ばす活動について学び、自分ならばどのように用いるかを考える					
7	評価と測定の実践 実際に評価をすることで測定することの意義と課題を学ぶ					
8	授業運営 さまざまな学習形態を学び、自分ならばどのように用いるかを考える					
9	授業運営 ALTとのチームティーチングのあり方を学ぶ					
10	模擬授業 中学1年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する					
11	模擬授業 中学2年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する					
12	模擬授業 中学3年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する					
13	過去3回の模擬授業を基に相互評価し、特に苦手な活動等を明確にし、次時のミニ模擬授業につなげる					
14	ミニ模擬授業 特に苦手に感じた活動を取り上げ、その活動を実践する					
15	まとめ プレ実習や教育実習後の授業を通して、自分の教師としての資質や課題を客観的にとらえ、今後どのような努力をしていくべきかを考える					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
学習指導案	30	実践的な指導案であるか、板書計画はあるか		模擬授業	30	授業の準備・練習を十分にしているか
ディスカッション	20	自分の指導技術ばかりでなく、授業全体を観る視点を養えているか		小テスト	20	英語の文献等を読む力がついてきているか
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>中学校・高等学校の授業を積極的に参観すること （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定）</p>				返却時に行う		
受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること			教科書・テキスト	中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省 2018 ISBN:9784304051692	
指定図書/参考書等	<p>中学校用英語検定教科書 （例）NEW HORIZON English Course 1~3 東京書籍 2016 ISBN 9784487122912</p>			その他・特記事項	特になし	

授業科目名	EL310U 4レベル・イングリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this class we will watch movies in English and learn strategies for learning English with movies. We will put learning strategies into practice by studying movie scenes.			1. I will acquire strategies for learning English through movies. 2. I will improve my English ability through classroom activities. 3. I will use English as much as possible in the classroom.			
教授方法	Films, pair work, group work, individual projects					
履修条件	A desire to learn and practice English					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction					
2	Learning English through movies step by step					
3	Understanding the whole story					
4	How subtitles can be used in the learning process					
5	Focusing on individual scenes					
6	Making use of the movie script					
7	Repetition of scenes for language learning					
8	Not understanding everything					
9	Imitation and memorizing					
10	Reading expressions and listening to how things are said					
11	Telling the story scene by scene					
12	Imagination and language learning					
13	Selecting movies to learn from for personal study					
14	Strategies for learning through movies					
15	Remembering what we learned					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Assignments	25	Writing assignments based on the movies we watch		Projects/presentations	25	In class presentations about movies or assigned individual projects based on movies
Attendance and effort	25	Attendance and effort to use English in classroom activities		Quizzes	25	Quizzes based on English from movies
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1. Review sentences each week from select movies (50 minutes) 2. Review scripts (30 minutes)				Comments on projects and assignments		
受講生に望むこと	Effort to use English and enjoyment of communicating in English			教科書・テキスト	None required	
指定図書/参考書等	This will be made known in class			その他・特記事項	None	

授業科目名	EL320U 4-レベル・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this class we will watch movies in English and build on what we learned in Movie English A. We will learn strategies for learning English with movies. We will put learning strategies into practice by studying movie scenes.			1. I will acquire strategies for learning English through movies. 2. I will improve my English ability through classroom activities. 3. I will use English as much as possible in the classroom.			
教授方法	Films, pair work, group work, individual projects					
履修条件	A desire to learn and practice English					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction					
2	Getting the big picture					
3	Selecting a scene to focus on					
4	Moving on to the next scene					
5	Learning vocabulary in context					
6	More practice with scripts					
7	Filling in the blanks in dialogue					
8	Listening to everyday English					
9	More practice with repetition					
10	Advanced learning strategies					
11	Putting learning strategies to use					
12	Reading reviews					
13	Reviewing a movie					
14	Recommending a movie					
15	Choosing a movie to learn English with					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
Assignments	25	Writing assignments based on the movies we watch		Projects/presentations	25	Presentations about movies or assigned individual projects based on movies
Attendance and Effort	25	Attendance and effort to use English in classroom activities		Quizzes	25	Quizzes based on English from movies
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1. Review sentences each week from select movies (50 minutes) 2. Review scripts (30 minutes)				Comments on projects and assignments		
受講生に望むこと	Effort to use English and enjoyment of communicating in English			教科書・テキスト	None	
指定図書/参考書等	This will be made known in class			その他・特記事項	This class builds on EL310U Movie English A	

授業科目名	EE305U 国語科教育法（書写を含む）			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「国語」で学んだことを基礎にして、国語科教育の特質や現状、指導のための基礎的知識や技術を学ぶ。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域及び書写の指導事項や発達段階に応じた指導を行うための実践力を、講義やグループ討議、模擬授業などを通して学ぶ。</p>				<p>国語科教育の実践的指導にあたっての基礎的知識を理解している。発達段階や系統性を踏まえて国語科学習指導計画を立案できる。模擬授業を通して国語科の実践的な指導技術を習得している。子ども・指導者両者の立場から授業を評価できる。</p>			
教授方法	講義 演習 授業参観 グループ討論						
履修条件	「国語」を履修した者または「国語」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業概要、進め方、成績評価の方法						
2	学習指導要領における国語科の目標と内容						
3	「話すこと・聞くこと」に関する教材研究						
4	「話すこと・聞くこと」に関する指導法研究						
5	「読むこと」に関する教材研究						
6	「読むこと」に関する指導法研究						
7	「書くこと」に関する教材研究						
8	「書くこと」に関する指導法研究						
9	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての教材研究						
10	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての指導法研究						
11	「書写に関する事項」についての教材研究と指導法研究						
12	低学年言語指導単元模擬授業						
13	中学年言語指導単元模擬授業						
14	高学年言語指導単元模擬授業						
15	まとめ：国語科教育の現状と課題						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
学習指導案	40	十分な教材研究がなされている。単元の目標達成や本時の目標達成を明確にした学習指導案がつけられている。			模擬授業の実施	40	十分な事前準備がなされている。ねらい達成のための授業展開ができている。授業者・児童双方の立場を理解した行動や関わりがなされている。客観的な高め合う相互評価をしている。
課題	20	授業力における自分の課題を理解している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習 教材研究や模擬授業の指導案を作成する。事後学習・授業で学んだことや各自の課題についてレポートを作成する。[30分]				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 			
受講生に望むこと	「国語」で学んだ国語科の目標と内容を想起してほしい。模擬授業で授業力をつけるためにも、事前事後学習や教材研究にしっかり取り組んでもらいたい。子どもの立場に立って授業案を考え、指導を試みることも大切である。自分の課題や目標をみつめて授業力向上に励んでほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館 2018年 INBN978-4-491-02371-7-C3037		
指定図書/参考書等	なし/『言語活動の充実に関する指導事例集』～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【小学校版】文部科学省 教育出版 2011年 ISBN978-4-316-300290-0 小学校国語学習指導書1年～6年 光村図書出版株式会社 ISBN978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EE340U 体育科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
学習指導要領に示された体育科教育の目標や内容を理解する。実践の指導のための基礎的知識と技能を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。				小学校体育科における各運動領域の特性を理解し、体育授業に必要な技能と発達段階や系統性を踏まえた具体的な指導法や授業設計を身につける。			
教授方法	講義および教材研究、模擬授業など						
履修条件	「児童体育」を履修した者または「児童体育」を履修中の者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	学校教育における体育の意義を理解する						
2	「体づくり運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
3	「体づくり運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
4	「器械運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
5	「器械運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
6	「陸上運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
7	「陸上運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
8	「水泳」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
9	「ボール運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
10	「ボール運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
11	「表現運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
12	「表現運動」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
13	「保健」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案作成について理解する。						
14	「保健」の模擬授業および授業づくりと指導法について理解する。						
15	「運動の楽しさや喜びを味わえる体育授業と指導」について話し合い、まとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。			模擬授業	25	十分な準備をして授業に臨み、実践できたか。
指導案の内容	25	様々な子どもの姿を予想して授業計画を立てているか。			レポート	20	「体育」について、自分の考えを論理的に述べる事ができているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報に接し、様々な角度から考えてみる[60分] 授業中に配布した資料を読む[30分] 模擬授業指導案及びコメントペーパーの作成[60分]				レポートは採点及びコメントを付記して2週間以内に返却する。			
受講生に望むこと	自分は「運動が得意だから体育が教えられる」、「運動が苦手だから体育が教えられない」と考えないでください。体育は、単に運動技術を高めるためだけでなく、能力差のある子供達が一緒に運動することを通して学びあふ科目です。体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要です。自分自身のこれまでの経験は大切ですが、それが全てとは考えないでください。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 体育編』、文部科学省、2017年、ISBN：9784491034676 『すべての子どもが必ずできる 体育の基本』（高橋健夫他、学研教育みらい）、2011年、ISBN978-4-05-404531-6C2075		
指定図書/参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	模擬授業の時間は運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。		

授業科目名	EE242U 生徒・進路指導論(小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎・伊藤 雄二 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>テキスト・配布プリントをもとに講義を進め、生徒指導・進路指導の基本的な考え方について学ぶ。小・中接続連携を意識して、教師と児童・生徒という二つの視点から理解するために、自己の成長過程を振り返って課題レポートをまとめ、問題点を把握する。毎回の授業では、テーマに即した具体的な問題を取り上げて講義を行い、「事前の私の主張」をもとに、全体あるいはグループによるディスカッションを行う。多様な視点・価値観に気づくことで生徒理解を深め、講義内容と合わせて、毎回事前・事後の「私の主張」ミニレポートを書くことで、理解の定着を図る。</p>			<p>「生きる力」に代表される生徒指導や進路指導の意義や目的を理解する。生徒指導や進路指導における生徒理解の方法や、関わる際の留意点について理解する。 生徒指導は、すべての児童生徒が対象であることを理解する。教師としての視点、児童生徒の立場の二つに立って、自己の問題として考えることができる。 生徒指導・進路指導いずれにおいても、地域や保護者、他機関との連携が不可欠であることを理解する。</p>			
教授方法	講義とグループディスカッション					
履修条件	児童教育コースに所属していること。受講までに、プレ実習(学習支援員)などで学校現場を体験していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：「生きる力」に求められるもの・学習指導要領における生徒指導・進路指導について、概要を把握する。					幸
2	生徒指導とは 学校教育における生徒指導の意義と機能について理解する。					幸
3	生徒指導とは 発達の視点から捉える					幸
4	生徒指導とは 基本的生活習慣の形成・マナーときまりについて理解する。					幸
5	生徒指導とは 子どもの変化、個別的理解と集団理解 好ましい人間関係の構築について理解する。					幸
6	学校における生徒指導上の諸問題 いじめの特質と変化、携帯電話・インターネットの問題について理解する。					幸
7	学校における生徒指導上の諸問題 学級崩壊・校内暴力・非行について理解する。					幸
8	学校における生徒指導上の諸問題 学校不適応・不登校・他機関との連携について理解する。					幸
9	学校における生徒指導上の諸問題 校則と懲戒、保護者対応・組織的対応について、理解する。					幸
10	進路指導とは：「生き方を問いつける学び」の助成 学校教育における進路指導の意義と課題を把握する。					伊藤
11	進路指導の現状と課題 学校教育におけるキャリア教育とは何かを理解する。(小学校段階・中学校段階におけるキャリア教育を知る)					伊藤
12	進路指導の現状と課題 進路選択、職業的発達理論、児童期・青年前期における性格検査・進路適性検査使用に関する諸注意について理解する。					伊藤
13	進路指導の現状と課題 職業観の形成、中途退学・ニート問題、多様な雇用形態の概要について理解する。					伊藤
14	進路指導の現状と課題 価値観形成・生き甲斐形成、キャリア教育の計画と実践(職場体験活動が目指すもの)について、具体的に理解する。					伊藤
15	進路指導の充実：開発的生徒指導の一環としての進路指導 「総合的な学習の時間」の活用と進路指導、組織的な指導と個別的な指導について、教師の指導性の観点から理解する。					伊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度・授業参加状況	10	グループディスカッション参加		ミニレポート	30	毎回の「私の主張」
課題小論文	30	指示された書式・字数に従ってまとめている。自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。(詳細は授業内で説明)		課題小論文	30	指示された書式・字数に従ってまとめている。自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。(詳細は授業内で説明)
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>教育問題に関する新聞報道などを注意して読んでおく。[20分] 授業で紹介した本をできるだけ読んでみる。[20分] 生徒指導から連想する事柄、自分が受けてきた生徒指導に関する小論文を作成する。(詳細は授業で説明する。)[30分] 進路指導から連想する事柄、自分が受けてきた進路指導について小論文を作成する。(詳細は授業で説明する。)[30分]</p>			<p>・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。</p>			
受講生に望むこと	<p>学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小学生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童とかわっているかを観察するなど、学校現場を体験していること。 授業で学ぶ内容を意識しながら、学習支援員として参加することが望ましい。</p>			教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と実際』 河村茂雄編著 図書文化 改訂版3刷 2015年 ISBN 978-4-8100-1578-2	
指定図書/参考書等	なし / 『生徒指導提要』文部科学省 教育図書 2011年 ISBN 978-4877302740 / 『生徒指導資料第3集 規範意識をはぐくむ生徒指導体制』東洋館出版社 2012年 / 『教師を目指す君たちへ』町田健一 キリスト教学校教育同盟 2004年 / その他、授業内で提示する。			その他・特記事項	授業では関連資料を配布するので、各自ファイルに保管しておく。	

授業科目名	EE220U 小学校英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は「小学校教諭一種免許状」の「または科目」にあたる科目である。新学習指導要領のもと、小学校では3,4年生は外国語活動、5,6年生は教科としての英語が行われる。このことは、小学校教諭は英語指導者の資質が求められるようになったことを意味する。この授業では、小学校での外国語活動及び教科としての英語に必要な基礎知識を学び、今日学校英語科教育法、の基盤を作る。実践的英語力育成のためにクラスルームイングリッシュを学ぶ。			新学習指導要領(2017年3月公示)の小学校外国語活動、教科としての英語についての正しい理解を持つ。 これからの小学校教諭に求められる英語指導力、外国語活動指導力はどのようなものか正しく理解し、理想形に近づくにはどのような知識・スキル必要かを認識し、獲得に努めることができる。子ども英語に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導することができる。 あらゆる場面で見られることものの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 英語力が現在よりもひとつ上のレベルに到達することができる。最終的には小学校英語教師に必要とされるCEFR B1 (STEP英検2級～準1級、TOEIC 550-600)程度を目指す。			
教授方法	講義・演習・およびディスカッション					
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者あること。英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、「小学校英語科教育法I」のねらい					
2	外国語教育の教科化の経緯と目的、理念 クラスルームイングリッシュ(1)					
3	学習指導要領における外国語活動、教科としての英語について クラスルームイングリッシュ(2)					
4	小・中・高の外国語教育における小学校の役割 クラスルームイングリッシュ(3)					
5	諸外国の小学校外国語教育事情 クラスルームイングリッシュ(4)					
6	学習指導要領改訂の基本的な考え方 クラスルームイングリッシュ(5)					
7	国際理解教育の目標、外国語活動の目標、外国語科の目標と領域別目標 クラスルームイングリッシュ(6)					
8	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性(1)第一言語習得と第二言語習得 クラスルームイングリッシュ(7)					
9	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性(2)神経言語学、発達心理学の知見から小学校英語を考える クラスルームイングリッシュ(8)					
10	コミュニケーション能力、国際理解教育、異文化間コミュニケーションを考える クラスルームイングリッシュ(9)					
11	指導者の役割、資質と研修 クラスルームイングリッシュ(10)					
12	小学校英語の教材の構成と内容について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(1)					
13	指導目標、年間指導計画について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(2)					
14	言語材料と4技能の指導について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(3)					
15	授業の総まとめ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	小学校外国語活動、教科としての英語について関連資料にあたるなど積極的に理解に努めているか。		小テスト	20	語彙や文型が定着しているか。 使用する場面や機能を理解できているか。 4技能で使用できるか。
英語実演等	20	英語絵本読み聞かせ、チャンツなどの実演で内容を理解した上で正しい英語で実演できているか		期末テスト	40	小学校外国語活動、教科としての英語についての基本を修得しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
学生は必ず予習をして授業に臨むこと。特に発音については辞書・CD等で確認して定着させること。(30分) 小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。(45分) メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。(30分) 英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。(20分) 小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。学習支援は継続的に行うこと。(45分)				返却時に行う		
受講生に望むこと	教師の責任の重さは「外国語活動」も他教科と同じである。他教科同様積極的に学習すること。 「小学校英語は楽しければ良い」「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 英語を取り巻く環境は急激に変化しているので新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 英語科目(アクティブイングリッシュを含む)を履修し、英語を通じた異文化交流の実験を持つこと。			教科書・テキスト	*新編小学校英語教育入門。樋口忠彦(代表)編著 研究社 2017年 ISBN 978-4-327-41098-8 *Let's Try! 1 文部科学省 2016年 ISBN: 978-4487258703 *Let's Try! 2 文部科学省 2016年 (ISBN: 978-4487258710) *Let's Try! 1 指導編 文部科学省 2016年 (ISBN: 978-4-487-258700) *Let's Try! 2 指導編 文部科学省 2016年 (ISBN: 978-4-487-258717) *We Can! 1 文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4487258734) *We Can! 2 文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4487258741) *We Can! 1 指導編 文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4-487-258731) *We Can! 2 指導編 文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4-487-258748) 適宜配布されるプリント。	
指定図書/参考書等	なし/小学校英語に関する書籍一般			その他・特記事項	詳細なクラスルールは1時間目にハンドアウトを用いて説明をする。	

授業科目名	EE345U 小学校英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
2013年文部科学省は小学校での英語を3,4年生は外国語活動、5,6年生は教科とすることを発表した。このことは、小学校教諭は英語指導者の資質が求められるようになったことを意味する。この授業では、子ども英語(本講義では、「子ども」とは主に小学生を指す)指導に必要な英語力と具体的な指導法を実践的に学ぶ。また学外の実践場面に多く触れることで理解を深める。			<p>クラスルームイングリッシュを使うことができる。 子ども英語に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導することができる。 子ども英語は体験的に「学ぶ」ことが重要であることを踏まえた授業実践(指導案作成を含む)ができる。 あらゆる場面で見られるこどもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。</p> <p>英語力が現在よりもひとつ上のレベルに到達することができる。最終的には小学校英語教師に必要なとされるCEFR B1(STEP英検2級~準1級、TOEIC 550-600)程度を目指す。</p>			
教授方法	講義・演習・実技(模擬授業・授業外活動)およびディスカッション					
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者で、小学校教育実習済みであることが望ましい。英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、「小学校英語科教育法」で学んだことを概観し、外国語活動の目的と目標を再確認する。					
2	第7章 教材研究 児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動(1)(2)を再確認する クラスルームイングリッシュ等小テスト(1)					
3	第8章 教材研究 児童の興味・関心を惹きつける活動の工夫について再確認する クラスルームイングリッシュ等小テスト(2)					
4	第9章 指導法と指導技術(1)主な指導法(2)指導技術について再確認する クラスルームイングリッシュ等小テスト(3)					
5	第10章 教材・教具の活用法を再確認し、実際に使用してみる クラスルームイングリッシュ等小テスト(4)					
6	第12章 授業過程と学習指導案の作り方(1)各グループで作成した指導案についてディスカッションする クラスルームイングリッシュ等小テスト(5)					
7	第12章 授業過程と学習指導案の作り方(2)ディスカッションの意見を取り入れて再構成する クラスルームイングリッシュ等小テスト(6)					
8	昨年度の教育実習の様子をビデオで視聴し、指導手順等を確認する クラスルームイングリッシュ等小テスト(7)					
9	Let's Try!(1)用いて、小学校3年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける					
10	Let's Try!(2)用いて、小学校4年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける					
11	We Can!(1)用いて、小学校5年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける					
12	We Can!(1)用いて、小学校5年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける					
13	We Can!(2)用いて、小学校6年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける					
14	We Can!(2)用いて、小学校6年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける					
15	授業の総まとめと4年生での「小学校英語科教育法」への心構えを共有する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
模擬授業・指導案	40	指導案がねらいに沿った流れで作成されているか 授業運営が児童やねらいに適した活動をしているか。 クラスルームイングリッシュを用いているか。 教材・教具を適切に使用しているか。		英語小テスト	40	語彙や文型が定着しているか。 使用する場面や機能を理解できているか。 4技能で使用できるか。
ディスカッション	20	話し合いを通して、授業を観る目を養っているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>学生は必ず予習をして授業に臨むこと。特に発音については辞書・CD等で確認して定着させること。(30分)</p> <p>小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。(60分)</p> <p>学習支援の際に、小学校英語で培った視点を持って児童・教師を観察しポートフォリオに気付いたことを書きとめること。(20分)</p> <p>メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。(毎週2時間)</p> <p>英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。(30分)</p> <p>小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。学習支援は継続的に行うこと。(60分)</p>				返却時に行う。また、模擬授業のフィードバックは学生の評価シートを基にして次時に行う		
受講生に望むこと	教師の責任の重さは「外国語活動」も他教科と同じである。他教科同様積極的に学習すること。 「小学校英語は楽しければ良い」「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 英語を取り巻く環境は急激に変化しているので新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 英語科目(アクティブイングリッシュを含む)を履修し、英語を通じた異文化交流の実験を持つこと。			教科書・テキスト	<p>『新編 小学校英語教育入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2013年 ISBN: 978-4-327-41098-8</p> <p>『Let's Try! 1』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258703、『Let's Try! 2』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258710、『We Can! 1』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258734、『We Can! 2』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258741</p>	
指定図書/参考書等	『Hi, friends! 1』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258833 『Hi, friends! 2』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258840 『Hi, friends! 1』指導編 文部科学省 2012年 ISBN: 978-4-487-25989-2 『Hi, friends! 2』指導編 文部科学省 2012年 ISBN: 978-4-487-25990-8			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EE362U 教育相談（小・中）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童・生徒への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童・生徒の理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。			教育現場に出る際にどのような教育相談活動を展開すべきかについて十分に考察を深め、自分なりの考えを持てること。教育相談の具体的方法を知り、幼児・児童・生徒の支援における留意点についても理解することができること。			
教授方法	演習、講義、ディスカッション。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える					
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める					
3	自閉症スペクトラム障害：自閉症スペクトラム障害（自閉症）の特徴について理解を深める					
4	限局性学習障害：限局性学習障害（学習障害）の特徴について理解を深める					
5	注意欠如多動性障害：注意欠如多動性障害（注意欠陥多動性障害）の特徴について理解を深める					
6	不登校：不登校について理解を深める					
7	いじめ：いじめについて理解を深める					
8	非行：非行について理解を深める					
9	虐待：虐待について理解を深める					
10	自殺：自殺について理解を深める					
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める					
12	抑うつ障害：うつ病の特徴について理解を深める					
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する					
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める					
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。		
受講生に望むこと	学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。 毎回、相当量の予習と他者と協力して取り組む演習が不可欠であることを承知の上で受講すること。			教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。	

授業科目名	EC225U 体育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
学習指導要領の目標には「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」とある。この授業では、将来保育者及び教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。幼稚園あるいは小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。			学習指導要領(体育編)の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。			
教授方法	実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス					永山
2	体づくり運動 「走・跳の運動遊び」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山
3	体づくり運動 「走・跳の運動遊び」を実践し、指導法などを学習する。					永山
4	体づくり運動 「器械・器具を使つての運動遊び」を実践し、指導法などを学習する。					永山
5	体づくり運動 「器械・器具を使つての運動遊び ～器械運動」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山
6	体づくり運動 「器械・器具を使つての運動遊び ～器械運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
7	体づくり運動 「ゲーム ボールをあつかう」を実践し、指導法などを学習する。					永山
8	体づくり運動 「ゲーム ボールをあつかう」を実践し、指導法などを学習する。					永山
9	体づくり運動 「ゲーム ボールをあつかう」を実践し、指導法などを学習する。					永山
10	体づくり運動 「ボール運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
11	体づくり運動 「ボール運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
12	体づくり運動 「ボール運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
13	水泳 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。(水泳実習における留意事項など理論を中心に。)					田辺・永山
14	水泳 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。(各種泳法など実技を中心に。)					田辺・永山
15	まとめ これまで学習してきた内容を整理する。					田辺・永山
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業 参加 態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取るうとする姿勢があるか		ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されているか ・指定した課題に対して的確に調べられているか
授業外における学習(事前・事後学習等)						
各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。〔30分〕 各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。〔30分〕 各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。〔30分〕				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目です。 学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加して下さい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02375-5 『学習指導要領の解説と展開 体育編』安彦忠彦監修 教育出版 2008年 ISBN 978-4-316-80217-6			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 (事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	EC230U 教育社会学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生物としてのヒトが社会の一員として人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的・社会的・系統的な作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。また、教育専門職・教育制度を取り巻く現代的背景として、主として日本の、必要に応じて諸外国との比較の中から、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。</p>			<p>「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。戦後日本の「教育」とはどのようなものかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。現代日本の「教育」とはどのようなものかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。現代社会学との関わりから、今日の児童・子どもに関わる重要な問題に対して、学校・教育が果たし得る役割について、具体例を交えながら、文章によって説明することができる。</p>			
教授方法	講義（適宜アクティブラーニングを導入する場合がある。）					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。					
2	近代教育制度の成立：近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、制度としての教育が成立する過程について確認する。					
3	近代教育制度の成立：西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。					
4	近代教育制度の成立：戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。					
5	社会における教育の意義：社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会学的に理解を深め、重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。					
6	社会における教育の意義：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。					
7	社会における教育の意義：グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。					
8	日本における教育環境の変遷：戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。					
9	日本における教育環境の変遷：教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。					
10	日本における教育環境の変遷：少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。					
11	日本における教育環境の変遷：ジェンダー教育やマイノリティ教育といった、今日的な課題に対する教育の意義や実践例について考察する。					
12	学級経営における多機関連携：「チーム学校」論の概要と登場背景について学び、中でもスクールソーシャルワークに着目し、その理念・対象・方法論・実践例について学ぶ。					
13	学級経営における多機関連携：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「子どもの貧困」との関わりから方法論・実践例について学ぶ。					
14	学級経営における多機関連携：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「不登校」や「いじめ」といった「学校」制度に特有な現象から方法論・実践例について学ぶ。					
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	30	日常的な授業態度を評価しつつ、とりわけワークシートの活用に対する状況から評価する。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>各回の授業で学習した教育社会学の理論・概念・知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分]</p> <p>各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>			<p>各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体で共有する。</p> <p>アクティブラーニングを実施した際に、自己評価シートの提出を求められることがある。また、必要に応じて個別にコメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にすることを身に付けていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）	
指定図書/参考書等	<p><参考書> 『よくわかる教育社会学』 酒井朗・中村高康・多賀太（編著） ミネルヴァ書房 2012年 ISBN：978-4623062935</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>	

授業科目名	EC237U 教育方法論（幼・小・中）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
我が国において、知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきている。この授業観を具体化するためには、教育の方法と技術について検討しなければならない。これが本科目で学ぶ意義となる。子どもが自ら考え判断し、表現する授業とはどういったものなのか、理論や実践例をもとに学んでいく。また、「楽しい授業」「わかる授業」のための方法論として情報機器（電子黒板やタブレット端末）の活用が注目されている。情報機器活用による学習例やその効果について検討するとともに、情報機器を活用する授業を自らで構想し、そのための教材を自作することを旨とする。			教育方法の歴史的概観を通して近年の授業観を理解している。授業と学力について考察することができる。視聴覚教育や放送教育について理解している。授業における情報機器活用の方法や現状について理解している。アプリケーションソフトを用いて教材を作成することができる。教材紹介のためのワークショップ型の交流と相互評価を行うことができる。			
教授方法	講義					
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育方法の歴史的概観（近世と現代における教育方法について概観し、現代の教育方法について教授・学習の面から考察する。）					
2	現代における教育方法（デュイ、ブルーナーなどの教育方法論について概観する。）					
3	教育方法の基本原則（系統学習と問題解決学習を比較し、基本原則について考察する。）					
4	授業と学力（授業とは何か、学力とは何かについて捉え、情報機器利用の視点から考える。）					
5	授業と評価（教育課程や学習指導要領（教育要領）をもとに授業と評価について理解する。）					
6	授業理論と授業設計（授業理論の諸理論と授業設計（情報機器活用を含む）の手順を知る。）					
7	授業と視聴覚機器（視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。）					
8	情報機器の教育活用の方法（学校や幼稚園でのコンピュータを活用した教育の方法を調べる。）					
9	放送教育の授業への適用（放送教育の役割を捉え、NHKのWebサイトで教材を閲覧する。）					
10	教材・教具・教科書・教材研究（教材・教具とは何か、また、教科書（絵本を含む）とは何かについて考え、教材研究について理解する。）					
11	情報機器を活用した授業（デジタルコンテンツと授業の活用例について知る。）					
12	教材の構想と作成（授業で情報機器を活用する教材の構想を行い、学習指導案を作成する。）					
13	教材の作成（学習指導案に基づいて情報機器（コンピュータ：PowerPoint）を用いてフラッシュ型教材を作成する。）					
14	教材の完成とワークショップ交流（教材を完成させ、本時における活用の意図を伝えた上でコンピュータを活用して教材を紹介し合い、相互評価する。）					
15	学習のまとめ（これまで学んだことをもとに、教育方法について施設・設備、教育・情報機器、環境などの観点からまとめる。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	50	・各授業内容を理解するとともに、教育方法について自分なりの考え方を持っている。		教材作成	20	作成した学習指導案とフラッシュ型教材について、内容や出来具合について評価する。
小テスト	15	・新たな基本的知識を記憶している。 ・教育方法について理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各回の授業は基本的に教科書の章によって進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。〔30分〕 各回の授業では学内ネットワークを介してワークシート（Word）を配付するので、授業後「ミニツクコメント」にコメントする。〔30分〕 幼稚園や小学校の教育方法に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。〔30分以上〕				各回のレポートの視点についてフィードバックする。 小テストを採点して返却する。 フラッシュ型教材についての相互評価の結果をフィードバックする。		
受講生に望むこと	・幼稚園や小学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してください。			教科書・テキスト	『教育方法論 改訂版』、谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編著、一藝社、2015年出版、ISBN9784863590984	
指定図書/参考書等	幼稚園教育要領、文部科学省、2008年告示、『小学校学習指導要領』、文部科学省、2015年告示/『教育の情報化ビジョン』、文部科学省、2011年公表			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EC305U 教育実践研究A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	村井 万寿夫・姫野 俊幸・福江 厚啓・戸田 教一・金丸 洋子 (代表教員 村井 万寿夫)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校の学級担任教師には学級の子どもたちをまとめ、学級成員が一丸となって目標に向けて取り組んでいくように導いていく力量。すなわち学級経営力を必要とする。学級が一つにまとまることにより学級生活が豊かになるとともに教科等の学習指導に好影響を及ぼす。そこで、どのように学級経営を行ったらよいか、小学校の教師経験をもつ教員がそれぞれの視点から授業を展開する。担任が変われば学級経営が変わると言われるように、担任によって学級経営は異なると言える。そのため、各回の授業は各教員と学級経営について考えることができる貴重な場となる。</p>			<p>学級経営とはなにかについて知る。 学級担任はどのようなことを願っているか、自己の小学校時代の経験をもとにしながら考えることができる。 学級経営の担任によって異なることを各教員の学級経営方針から理解している。 学級経営上の危機管理について事例をもとに考えることができる。 各回の授業内容をもとに、自分なりの『学級づくり』の案を作成することができる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	小学校一種免許状を取得予定で小学校教員を志望する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業内容を概観し評価方法について理解する。)/学級経営とは(学級経営の大切さを知る。)					村井
2	学級の組織づくり(児童一人一人が生かされる組織について考える。)					戸田
3	学級経営の基礎(「学び合う授業」と「学級づくり」は表裏一体であり、信頼関係や温かい人間関係を築くことが大切であることを理解する。)					金丸
4	思いを出せる学級(子どもが安心して思いを出せる学級づくりについて考える。)					福江
5	話を聞ける学級(子どもが互いに聞き合いのできる学級づくりについて考える。)					福江
6	深く考える学級(子どもが物事を深く考える学級づくりについて考える。)					福江
7	認め合う学級(認め合い励まし合う学級づくりについて考える。)					幸
8	高め合う学級(磨き合い高め合う学級づくりについて考える。)					幸
9	笑顔あふれる学級(笑顔あふれる学級づくりについて考える。)					幸
10	学級経営の危機管理1(子どもたちが言うことをきかないとき:通常のクラスでの子どもの課題について考える。)					姫野
11	学級経営の危機管理2(クラスでイジメが発生したとき:特別な場合の子どもの課題について考える。)					姫野
12	学級経営の危機管理3(モンスターペアレントに出会ったとき:保護者対応での課題について考える。)					姫野
13	私の学級経営(「学級通信」の具体例をもとにその役割と効用について考える。)					村井
14	教室の環境づくり(環境づくりの具体例をもとに学習や生活の効用について考える。)					村井
15	学習のまとめ(学習の振り返りと「私の『学級づくり』アイデア」についてレポートを作成する。)					村井
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	100	講義内容を理解し自分なりの考えを持っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)						
学校ボランティア等で小学校に行った際、配属学級の学級経営について観察、記録するようにする。				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各回の授業を受けながら「自分だったら」と考えることができるようにしてください。				各教員から適宜レポートを課す。		
受講生に望むこと			教科書・テキスト	なし(各回適宜資料を配付する。)		
指定図書/参考書等	なし/『子どもの力を引き出す学級担任 クラスをきちんとまとめるコツ!』寶迫芳人著、2012年出版、ナツメ社、ISBN978-4-8163-5184-6		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC320U 保育内容・環境			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「保育内容・環境」での学びと実習での体験を踏まえて、「領域・環境」の内容を深く考察する演習科目である。北陸学院第一幼稚園の保育現場を活用しながら、幼児が身近な環境にかかわることで何を見つけ、考え、それを取り入れようとしているのかを観察エピソード記録やつぶやきをもとにディスカッションを通して考える。そして自分なりの遊びの指導計画を立案し実践することを通して、幼児期の学び方と学ぶ内容について体験的に捉える。また、地域や文化の視点を取り入れた園外活動にも目を向けて保育の構想を考える。</p>				<p>実習でのエピソードを出し合い、「領域・環境」の視点からエピソードの内容を分析することができる。 北陸学院第一幼稚園での幼児の遊びから「領域・環境」の意味する内容を読み取る力を身につける。 「領域・環境」にかかわるねらいをもった指導計画を考え、模擬保育を通して見直し改善を行う力を身につける。 園外活動の意味を考え、保育計画を立案することができる。</p>			
教授方法	演習・グループディスカッション						
履修条件	「保育内容・環境」の単位を修得済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：本科目の目的と授業内容の解説。実習の体験からエピソードを持ち寄りディスカッションを通して内容を共有する。						
2	それぞれのエピソードを「領域・環境」の視点から考え、その内容を分析する。						
3	目標:第一幼稚園での遊びの観察(1)：保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを拾い出し、「領域・環境」の視点でディスカッションを行う。						
4	第一幼稚園での遊びの観察(2)：ディスカッションを踏まえてさらに保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを拾い出しディスカッションを行い、読みとる力を身につける。						
5	第一幼稚園での遊びの観察(3)：園庭の遊びに焦点をあてて「領域・環境」の内容にかかわる遊びのエピソードやつぶやきを拾い出して、ディスカッションを行う。						
6	第一幼稚園での遊びの観察(4)：「領域・環境」の内容にかかわる保育の場面を想定し、自分なりの遊びのプランをいくつか考えてみる。						
7	園外保育活動において、幼児が自分で考え、行動するような環境とは、どのようなものが考えられるか、ディスカッションを通して考える。						
8	園外活動の保育計画(1)：学外体験活動としての園外保育を行った場合の保育プランを考える。						
9	園外活動の保育計画(2)：各自が立案したプランをもとに地域の特性や文化を活かした内容を盛り込みディスカッションし検討する。						
10	園外活動の保育計画(3)：見直したプランをもとに各自が環境マップを作成する。						
11	幼児が興味や関心をもって遊びに夢中になることができる指導計画を考える。						
12	考えた指導計画をもとに模擬保育を行い、ディスカッションを通して見直し改善を行う。						
13	改善した指導計画をもとに模擬保育を行い、指導計画をより具体化していく。						
14	第一幼稚園で実践を行い、改めて「領域・環境」について理解を深める。						
15	目標:幼児にとっての「領域・環境」について、これまでの学びを振り返り「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(幼小接続)と絡めながら考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	ディスカッションで積極的に発言すること。遊びのエピソードやつぶやきを記録することができる。想像力を膨らませて指導計画を立案できる。			課題	40	与えられた各テーマに沿って自分なりに調べたり考えたりしたことが記述されているかを評価する。
最終レポート	20	この授業を通して内容を理解し、遊びを読みとる力や作り出す力について、自分の学びをまとめることができるかを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>実習を含む身近な資料からのエピソードの収集[30分] エピソードの読み取りの見直し[30分] 園外保育を行う上で、その地域や文化を調査する。[30分] 遊びの準備[長時間] 学びの振り返り[90分]</p>				<p>毎回のディスカッション内及び授業の開始時に前時の振り返りを必ず行う。</p>			
受講生に望むこと	授業ごとに完結ではなく、前時の授業との繋がりをもって授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『事例で学ぶ保育内容・環境』無藤隆監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2007年 ISBN978-4-89347-098-0(保育内容・環境 で使用したもの)		
指定図書/参考書等	なし / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475			その他・特記事項	活動内容によって、土曜日に行われることもあるので注意すること。		

授業科目名	EC325U 保育内容・健康			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要				授業の到達目標			
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を築くために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。				乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。安全管理、安全教育について理解する。保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。			
教授方法	講義、模擬授業、グループディスカッション						
履修条件	「保育内容・健康」の単位を修得済みであることが望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	基本的な生活習慣の意味を考える						
2	基本的な生活習慣に関する指導1: 食事に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
3	基本的な生活習慣に関する指導2: 睡眠に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
4	基本的な生活習慣に関する指導3: 排せつに関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
5	基本的な生活習慣に関する指導4: 清潔に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。						
6	基本的な生活習慣に関する指導5: 衣服の着脱に関する基本的な生活習慣とその指導法について理解する。						
7	基本的な生活習慣に関する模擬授業1: 基本的な生活習慣に関する模擬授業を行う。						
8	基本的な生活習慣に関する模擬授業2: 模擬授業に関する気づきとディスカッションを通して指導法について考える。						
9	子どもの安全な生活1: 安全管理と安全教育の基本的な考え方について理解する。						
10	子どもの安全な生活2: 乳幼児の事故と原因について理解する。						
11	子どもの安全な生活3: 幼児の特性と事故対策について理解する。						
12	子どもの安全な生活4: 幼稚園、保育園の事故について理解する。						
13	子どもの安全な生活5: 保育環境の安全管理について理解する。						
14	子どもの安全な生活6: 安全教育と安全管理の進め方について理解する。						
15	振り返りとまとめ: 子どもの健康について、これまでの学びを振り返るとともに保育者として何が必要か考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
模擬保育	30	評価: 内容を理解しているか 子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか 子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか			レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
小テスト	20	授業内容の理解度			授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
教科書を読み、授業に備える[20分] 授業で配布した資料を読む[20分] 子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]				小テストは次の回に採点及びコメントを付記して返却。 レポートは2週間以内に評価とコメントを付記して返却。			
受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことです。受講生の皆さんには、子ども達が健康な日々を送るために何が必要か考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点に目を向ける姿勢を持っていただきたいと思います。実習で接した子どもたちの姿や場面を思い出しながら受講していただければ、授業内容の理解が深まると思います。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814482 『演習保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子 著、萌文書林、2014年、ISBN978-4-89347-209-0C3037		
指定図書/参考書等	関連資料及び関連図書は随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC330U 保育内容・言葉		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	高村 真希・中島 賢介 (代表教員 高村 真希)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
言葉の現代的な課題や具体的な実践内容を考慮しながら、総合的に子どもの言葉をとらえる力を培っていく。生活場面や遊びの実際を通して言葉の面白さや表現の多様性について学びを深める。また、子どもの言葉の発達について保育者の援助・保育教材の実演や環境構成等の視点から学んでいく。			1.言葉の現代的課題を理解し、今日必要とされる保育者の役割と援助を知る。 2.子どもの言葉を育む保育教材について理解し、保育への活用方法を考えることができる。 3.教材実演を通して子どもの言葉を引き出す表現・技術を身につける。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	「保育内容・言葉」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明 言語指導における現代的課題について理解する。					中島
2	発達段階に応じた教材選びについて考える (0歳児～5歳児までの年齢ごとの教材選択)					高村
3	紙芝居・シアターの実演の実演方法について					高村
4	視聴覚教材が子どもに与える効果を探る					高村
5	発達段階に応じた教材選びについて (選択した教材と選択理由)					高村
6	幼児の思考能力の拡大と物語の成立過程について					中島
7	発達に応じた教材選びについて (指導案の立案)					高村
8	実体験から言葉に関するエピソードを挙げ、自身の経験を語る(語ることからの学び)					高村
9	保育教材の実演					高村
10	保育教材の実演を終えて(反省・評価について)					高村
11	感情や気持ちを表現することと保育者の関わりについて(実習を終え、考えること)					高村
12	一人一人のイメージや感覚を共有し、言葉で伝え合うこと					高村
13	ごっこ遊びや行事などから得られる役割認識と保育者の関わりについて考える。					高村
14	文字との出会い、文字を使うことの喜びと保育者の関わりについて考える。					高村
15	振り返りとまとめ:「子どもの言葉」について、これまでの学びを振り返るとともに保育者の役割を考える。					中島・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業に積極的に参加しているか。	指導案立案や実演	30	立案した指導案を基に模擬保育を行う。子どもの姿に理解しようとし、子どもの目線に合わせた保育活動の工夫が見られるか。	
レポート課題と試験	40	課題の内容・試験				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
実体験から言葉に関するエピソードを挙げ、レポートとしてまとめる「60分」「言葉」が育つことに関する遊びの場面の指導案を立案する「60分」			提出されたレポートや応答シートを次回授業で反映する			
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での一人一人の言葉という表現を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。		教科書・テキスト	<small> *幼稚園教育要領解説。文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 *幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説。内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 *保育所保育指針解説。厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482 *保育者のための言語表現の技術 子どもとくらしの児童文化財をもちいた保育実践。古橋和夫編著 萌文書林 2016年 ISBN078-4-89347-194-9 *新訂 事明から学ぶ保育内容 領域 言葉。武藤隆監修 萌文書林 2018年 ISBN978-4-89347-259-5 </small>		
指定図書/参考書等	なし/必要に応じて随時提示する		その他・特記事項	なし		

授業科目名	EC335U 保育内容・人間関係		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域 人間関係」の内容の理解を深める演習科目である。</p> <p>保育実践例（エピソード・クラス便り・連絡帳等より）を取り上げ、その中で子どもの心や他者との関係性の読み取りを中心に考察し、安心、安定した人間関係について考える。遊びやゲームを体験し、自己の心の動きや他者との感じ方の違いに気づき、幼児の仲間集団における人間関係の捉え方を学ぶ。遊びやゲームによる人間関係の発達支援や保育における個別支援の在り方を学び、実際に遊びを計画、実践することで幼児の学びの在り方を考える。「森の幼稚園・こども園」や地域の子育て支援の場に参加し子どもの活動姿から思いを捉える、保護者の思いに触れ、支援の在り方を考える。</p>			<p>保育実践資料を通して、子ども達が「人間関係」を育んでいく過程で表す様々な姿を読み取り、どのように受け止めるか、行動の背景や意味を考えることができる。</p> <p>遊びやゲームを通して、自己や他者の行動・心を捉えることができる。</p> <p>「領域 人間関係」にかかわるねらいを持った指導計画を考え、そのための環境構成を考えることができる。</p> <p>子ども同士・保育者と子ども・保護者と子ども・地域と子ども等、保育実践における関係性のアセスメント及びプランニング、他機関との連携の持ち方を知る。</p>				
教授方法	保育資料を用いた事例検討・自然保育、子育て支援等フィールドにて参加観察、事例検討・遊び、ゲームの立案、作成、体験・講義						
履修条件	「保育内容・人間関係」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代の人間関係に関する諸問題：履修者による実習を含む、実体験から人間関係にかかわるエピソードを紹介し、今後深めていきたい課題について考えていく。						
2	乳児期の人との関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「愛着形成」を中心に考える。						
3	乳児期の人との関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「共同注意」の獲得により乳児の生活がどのように変わるのか学ぶ。						
4	乳幼児のモノ・ヒト・環境との出会い、関わり方を捉える。[子育て支援参加体験]						
5	幼児期前期の人との関わりの発達について：3歳未満児のエピソードから「言葉で伝わること」と「言葉以外の方法で伝わること」について考え、相手を「理解する」ことについて深める。						
6	コミュニケーションについて：ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いを捉えることの難しさを知る。[体験]						
7	ノンバーバルでオモチャを使って遊んでみる。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。[体験]						
8	ノンバーバルでの遊びを通じて「一緒に遊ぶ」ことの意味を考える。[授業後半：小テスト]						
9	幼児期後期の人との関わりの発達について：エピソードにより「集団参加」の観点から考える。						
10	幼児期の仲間関係の捉え方について：エピソードにより子どもの「関係性」を読み取る。						
11	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える。[森の自然体験活動等、参加体験]						
12	発達障害児の理解：彼らの物の見え方、感じ方、他者との関わり方について理解し、「安心して過ごす」ことについて考える。また、保護者・兄弟支援について園として、保育者としてできることを考える。 [14回授業時に模擬保育実践・課題指導案]						
13	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」について考える。 (生活・自由遊び・設定による活動)						
14	「安心」して遊び、それぞれが自己発揮できる指導計画を考え、実践する。[課題・模擬保育実践]						
15	領域「人間関係」：地域社会・小学校とのつながりを考えて、支え合う関係、連携の在り方を探る。 [授業後半：小テスト]						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業内で行われる遊びやゲームに対して真剣に準備し取り組むこと。毎回、討議時間を設けるので、積極的に参加する。		小テスト(2回)	40	様々な人間関係にかかわる出来事の対応を基本事項、発達に基づいて考えることができる。	
提出課題	20	提出状況 与えられたテーマに沿って学習が進められていること。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>実習を含む資料や自身の体験から、人間関係にかかわるエピソードを収集しておくこと。[30分]</p> <p>「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の「人間関係」項目について読み、用語の確認しておくこと。 [30分]</p> <p>遊びの準備[長時間] 指導計画の立案[長時間]</p>				<p>・授業内の討議の中でコメントする。</p>			
受講生に望むこと	<p>・ビデオや連絡帳、お便りなど自身の幼稚園、保育所時代の資料に触れ子どもの時に感じていたことや考えていたことを思い出しておいてほしい。</p> <p>・授業で遊びやゲームをするので動きやすい服装で参加してほしい。</p> <p>・学外へフィールドワークに出る際、学ぶ姿勢を考え行動してほしい。</p>			教科書・テキスト	<p>・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 I S B N 978-4-577-81245-7</p> <p>・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2008年 I S B N 978-4-577-81242-6</p> <p>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 I S B N 978-4-577-81373-7</p>		
指定図書/参考書等	なし/なし(必要資料等、印刷して配布)			その他・特記事項	<p>・個人情報を含む資料を用いるため、充分取扱い、行動に注意すること。(学外での参加体験等含む)</p>		

授業科目名	EC340U 保育内容・表現		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾 (代表教員 田邊 圭子)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>子どもの表現の多様性と、子どもの表現を総合的に捉える視点を学ぶ。講義に加え、具体的な実践事例を通して創造的な子どもの表現活動を体験し、豊かな感性や表現する力を養う。「表現」の学びを踏まえ、子どもの表現を支える保育者としての役割と支援に関する学びを深めていく。</p>			<p>子どもの身体表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの音楽表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの造形表現を総合的な保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの表現を保育活動の中で総合的に捉える方法について実践を通して習得している。 表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	『保育内容・表現』の単位を修得済みであることが望ましい(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：表現 全体に関する授業オリエンテーション。今後の授業の流れ、受講方法など。身体表現とは何か：身体表現とは何かについて、領域「表現」との関連から理解する。					田邊
2	「絵本を用いた動き作り」：絵本のストーリーを動きで表現する。					田邊
3	「動きのための音創り」：動きのための音を動きと共に創る。					田邊
4	「身体表現作品づくり」：身体表現作品を創る。					田邊
5	「身体表現作品発表と鑑賞」：グループの作品を発表し、鑑賞する。					田邊
6	表現とは何か：音楽表現とは何かについて、領域「表現」との関連から理解する。 担当教員：多保田					多保田
7	一緒に動くこと・歌うこと：共有体験を通して得られることは何かを事例を通して考える。					多保田
8	「表現」と保育の環境構成：表現を生む場をどう捉え、つくるかを考える。					多保田
9	表現を支える保育者の役割：「表現を支える」とは具体的にどのようなことなのかを事例を通して考える。					多保田
10	遊びを通しての総合的な指導：様々な表しと受け止めについて考える。					多保田
11	子どもの造形表現の理解(1)：実際に各自が造形活動を行う。					向出
12	子どもの造形表現の理解(2)：子どもの造形作品と比較しながら子どもの造形表現を理解するとともに保育者の役割について考える。					向出
13	子どもの劇遊び(1)：グループに分かれて影絵を使った劇遊びを考える。					向出
14	子どもの劇遊び(2)：グループごとに影絵による創作劇を発表し、お互いを評価しあうことで子どもの表現について考える。					向出
15	子どもの表現とは何か：保育現場での表現活動について理解を深める。					向出
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		授業で出される課題や発表	50	取り組み姿勢と内容
レポート割合	20	・作品制作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) ・毎回授業の感想・質問を書く小レポートへの取り組み姿勢(多保田) ・課題や作品に対するの自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べてくる。[30分] 次回授業のための課題について準備する。[30分]				・毎回課す小レポートは次回コメントを付記し返却する(多保田) ・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(田邊、向出)		
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が5コマずつ担当するオムニバス科目です。演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	EN300U 児童家庭福祉論			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>児童家庭福祉の中における、愛着理論を中心に理解を深める。愛着とは人物が特定の他者との間（主に親子関係）に結ぶ情緒的絆とされており、この概念を提示した人物として、ボウルヴィがあげられる。これは特に発達心理学においては重要な概念であり、児童の健全な発達を果たす上において不可欠な要素である。また「赤ちゃんの発達とアタッチメント」の重要性を鑑み、乳幼児のころにかかる「安全の基盤」と「非認知能力」と言われる「心の力」を育む土台について理解を深める。また、愛着理論をはじめとする、精神分析論（親子関係における）などにもふれ、乳児保育のあり方や社会的養護にかかる児童福祉施設に暮らす子どもの発達問題、特に環境要因にかかる発達障害についても理解を深める。</p>				<p>愛着理論のあゆみを理解している。 ボウルヴィの愛着理論を理解している（「アタッチメント」と「愛着」の違い）。 社会的養護と愛着理論の関係を学ぶ。なぜ、愛着理論を学ぶ必要があるのかを理解している。 精神疾患としての愛着と環境要因の愛着を理解する。 愛着対象を喪失した子どもの心理について理解している。 乳児の感情を調節する力の発達と脳科学の関係を理解している。</p>			
教授方法	テキストを使用するが、あわせて配付資料や映像を用いた講義となる。また、乳幼児の発達や愛着の形成理論などのプレゼンテーションも取り入れる。						
履修条件	「児童家庭福祉論」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	アタッチメント研究のあゆみについて、フランス精神分析論からフロイトへの系譜を理解し、ホスピタリズム論争からボウルヴィの愛着理論の概要について学ぶ。						
2	ボウルヴィのアタッチメント理論から、愛着行動システム、コントロールシステム理論、愛着行動の発達段階、愛着パターンの個人差など愛着形成と発達について理解を深める。						
3	愛着研究の臨床発達の視点から、養育者自身の愛着外傷体験の未解決と混乱した養育行動の関係、愛着行動システムの崩壊のメカニズムなどについて学ぶ。						
4	社会的養護と愛着理論を学ぶ。社会的養護の現状と課題、我が国におけるホスピタリズム研究、論争、乳児院におけるホスピタリズム理論、愛着理論の受入などについて理解を深める。						
5	反応性愛着障害とアタッチメント障害の概念整理、精神疾患としての愛着と環境要因がもたらす愛着障害の比較、愛着研究の課題と臨床などについて学ぶ。						
6	愛着とトラウマについて学ぶ。トラウマ耐性と生育環境、子どものトラウマの特性、子どものトラウマ反応、外傷性ストレス障害などについて理解を深める。						
7	愛着対象を喪失した子どものころについて学ぶ。子どもの喪失体験が及ぼす心理的傷つき。愛着対象を喪失した子どもへの支援、回復過程などについて理解を深める。						
8	発達障害と愛着の関係について学ぶ。発達障害と愛着障害の複雑な関係、児童虐待の高リスク要因としての愛着障害、アスペルガー症候群と反応性愛着障害、虐待による多動性行動障害などについて理解を深める。						
9	発達障害としての児童虐待について学ぶ。被虐待児の臨床像、脳科学の視点からの虐待児童などについて理解を深める。						
10	発達障害としての愛着障害への治療などについて学ぶ。安全の確保と衝動コントロール、愛着障害を修復するための精神療法などについて理解を深める。						
11	乳幼児の「もの」を理解する力や認識などを学ぶ。						
12	乳幼児の「ひと」を理解する力や社会的知覚などを学ぶ。						
13	乳幼児の二項関係から三項関係の出現の過程を学ぶ。						
14	乳幼児の感情の形成過程や運動と心関係を学ぶ。						
15	安全の輪が描く乳幼児の育ちを学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末レポート	70	愛着理論を正確に把握し、児童問題にとって不可欠の理論であることを述べる。愛着理論体系から、その構成要素を明確にしている。			リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
基礎となる学問領域は子ども家庭福祉、社会福祉学であるが、保育実践に不可欠の心理学領域の講義内容も含まれているため、心理学関係科目の学びと関連づけることが求められる。[30分] 保育体験において講義内容からの子どもの心理などについて、子どもの姿から考察する[50分]				最終講義において、提出課題の講評とより実践的な愛着理論の展開にかかるディスカッションから今後の課題を提示する。			
受講生に望むこと	乳幼児の愛着理論について、総合的に学ぶ。保育・児童家庭福祉や教育を志す学生にとっては不可欠の理論、知識である。自らの力で愛着理論を咀嚼すること。			教科書・テキスト	『赤ちゃんの発達とアタッチメント』、遠藤利彦著、ひとなる書房、ISBN 978-4-89464-247-8		
指定図書/参考書等	なし/『アタッチメント』、庄司 順一・久保田まり・奥山真紀子著、明石書店、ISBN 978-4-75032-895-9			その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。		

授業科目名	EN305U 相談援助技術			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	岡田 文貴						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育者の専門領域は年々、拡大しています。何より重要なことは、子どもたちを養育することですが、その子どもたちに変化が起こっています。上手にコミュニケーションできない等の問題を抱える子どもの比率が増えています。また、子育ての悩みに加えて、深刻な事情を抱える保護者も増えてきました。このようなケースに効果的に関わるための手がかりを探ります。</p>				<p>保育者が活用できるソーシャルワークの5つの力である「コミュニケーション力」「アセスメント力」「問題解決力」「アウトリーチ」「自己肯定感」について学び、理解します。</p>			
教授方法	個人ワークとグループワーク。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	序章：保育者とソーシャルワーカーと一緒に考えた。第1章：コミュニケーション力 ありのままを受け入れる。 よく聴き、共感する。 あらゆる人々と信頼関係を築く。						
2	第1章：コミュニケーション力 あらゆる人々と信頼関係を築く。 相手の対応に応じて、対応を変化させる。 I am OK, You are OK						
3	第1章：コミュニケーション力 あらゆる人々と信頼関係を築く。 自分の気持ちや主張を上手に伝える レポートの作成・提出。						
4	第2章：アセスメント力 人と問題の本質を正確に見極める。 人と環境を捉える。 ライフヒストリーから自分と他者を深く理解する。						
5	第2章：アセスメント力 人と問題の本質を正確に見極める。 ストレngthsを見いだし活用する。						
6	第2章：アセスメント力 人と問題の本質を正確に見極める。 家族やチームをシステムとしてみる。 レポートの作成・提出。						
7	第3章：問題解決力 自信をもって人々を助け、人生に寄り添う。 物事を肯定的に捉え直す。 適切な行動・習慣を増やす。						
8	第3章：問題解決力 自信をもって人々を助け、人生に寄り添う。 ワンステップずつ解決する。 物語（ナラティブ）を使った解決。						
9	第3章：問題解決力 自信をもって人々を助け、人生に寄り添う。 危機や喪失を経験している人を支える。 教え、心を動かす原則とスーパービジョン。 レポート作成・提出。						
10	第4章：アウトリーチ 手を差し伸べ、専門職や住民と連携する。 孤立する家族へアウトリーチ。						
11	第4章：アウトリーチ 手を差し伸べ、専門職や住民と連携する。 地域の機関・施設・専門職との連携。						
12	第4章：アウトリーチ 手を差し伸べ、専門職や住民と連携する。 「子どもの声」を地域に取り戻す。 レポート作成・提出。						
13	第5章：自己肯定感 自分と他者の価値を尊ぶ。 愛着の絆を強めるスキンシップ。 自己イメージを高める輝くコトバ。						
14	第5章：自己肯定感 自分と他者の価値を尊ぶ。 仲間と協力する体験・自分だけの役割。						
15	第5章：自己肯定感 自分と他者の価値を尊ぶ。 グループでの目標と努力・達成感。 レポートの作成と提出。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	集中して個人ワークに取り組み、意欲的にグループワークに取り組んでいるかを評価します。			期末レポート	30	レポートの内容が、テーマに対して、丁寧でわかりやすい文章で作成されているかどうかで評価します。
レポート	30	レポートの内容が、テキストの内容を理解した上で作成されているかどうかで評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業の前にテキストを読んでおきましょう。（10分） 授業の後にも、再度もう一度テキストを読みましょう（10分） レポートが課題となった場合は、次の授業時間に提出できるよう取り組んでください。</p>				<p>レポートは、各章が終わった時に授業内で作成するか課題とします。レポートのテーマは、授業内で提示します。 自分の経験等を踏まえてレポートを作成する場合も、テキストの内容・趣旨に沿って作成してください。 期末レポートは、15回目の授業開始時に提出です。テーマとレポート用紙は、授業の中で示します。</p>			
受講生に望むこと	授業でテキストは読みます。ただ、授業の前にテキストを読んでおくこと、よりテキストの内容の理解が深まります。日々の保育現場や地域での幼児に関する出来事を、テキストの内容に重ね合わせてください。			教科書・テキスト	『保育者だからできるソーシャルワーク』 川村隆彦・倉内恵里子 著 中央法規 2017年 ISBN：978 - 4 - 8058 - 5480 - 8		
指定図書/参考書等	授業の中で提示します。			その他・特記事項	必要な場合は、補足の資料を提示します。		

授業科目名	EN310U 子どもの保健			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	北川 節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育所や児童福祉施設など子どもの生活を支援する場では、安全な環境と保健的な活動が養護や教育の基本となります。そのため子どもの身近にいる保育士は、保健・安全について確かな知識と技術をもって保育をする必要があります。ここでは「子どもの保健」の知識を基に、保育所や児童福祉施設における保健・安全の活動に関する具体的な対応の方法や管理について学んでいきます。</p>				<p>保育における保健活動の概要を理解し保健計画立案の基礎的能力を養う。 子どもの健康増進のための養護の技術を習得する。 子どもの疾病の適切な対応方法を習得する。 子どもへの健康・安全教育を考える。 保育における健康管理、安全管理について理解する。 災害予防と危機管理の方法を理解する。</p>			
教授方法	講義・演習						
履修条件	「子どもの保健」を履修済みまたは履修中であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 保健活動の計画と評価 保育保健の個別対応と集団対応の必要性と保健の概要を理解する。						北川
2	子どもの保健と環境 養護と教育の一体性と生活リズムの重要性を理解する						北川
3	子どもの保健と環境 乳幼児期の排泄、清潔、衣服について理解する。						北川
4	子どもの保健と環境 乳児の抱き方、寝かせ方、おんぶの仕方、おむつ交換の方法を習得する。(演習)						北川他
5	子どもの保健と環境 調乳・授乳の方法を習得する。(演習・講義)						北川他
6	子どもの疾病と対応 手洗いとおう吐物処理方法を習得する。(演習)						北川他
7	子どもの疾病と対応 身体の体温、脈拍、呼吸測定、身体各部の計測と包帯法の基礎を習得する。(演習)						北川他
8	子どもの健康・安全教育 子どもへの健康・安全教育の意義を理解し、指導案を考える。						北川
9	事故防止と健康管理・安全管理 保育現場における事故・災害発生時の危機管理の重要性と方法を理解する。						北川
10	事故防止と健康管理・安全管理 保健活動の実施体制と子どもの救急時の対応を理解する。						北川
11	事故防止と健康管理・安全管理 乳幼児の心肺蘇生法と異物除去の方法を習得する。(演習)						日赤
12	事故防止と健康管理・安全管理 子どもへの応急処置の方法を理解する。						北川
13	保健活動の計画と評価 保健・安全計画の重要性と保健計画の関係を理解し、計画を考える。(演習)						北川
14	子どもの健康・安全教育 子どもへの健康・安全教育を共有し、効果的な方法を考える。						北川
15	子どもの保健と環境 乳児の沐浴、衣服の交換の方法を習得する。(演習)						北川他
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	20	「健康・安全教育」について実施。発達段階にあった方法が、既習内容を生かしているか、保育教材は工夫されているか。			定期試験	50	基本的な知識を理解しているか。
演習レポート	30	4,5,6,7,11,15回の演習について記述。方法や注意について理解しているか、実践の気づきが的確に書かれているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前学習: 指定した範囲の教科書を読む。DVDを授業前に視聴する。[30分] 演習レポートは演習後、復習を兼ねて記載し、知識・技術を身に付けるようにする。[60分]				課題レポート、演習レポートはコメントをつけて返却する。優秀な作品は発表の機会を作り、共有する。			
受講生に望むこと	・「子どもの保健」が履修済みであること。 ・演習活動は保育現場を想定して実施するので、服装、容姿を整えて参加すること。			教科書・テキスト	佐藤益子編「子どもの保健」ななみ書房 2017年2月 ISBN: 978-4-903355-63-4		
指定図書/参考書等	参考書等「園児の健康教育」「改訂版 親と子の健康教育」「すぐ使える健康教育」「保育のなかの事故」「新・保育のなかの保健」「保育現場のための乳幼児保健年間計画実例集」「やるべきことがすぐわかる 今日から役立つ保育園の保健のしごと」			その他・特記事項	なし		

授業科目名	EN315U 子どもの食と栄養		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中村 喜代美・宮丸 慶子 (代表教員 中村 喜代美)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
小児期の生涯を通じた健康教育は栄養の基礎知識や生活習慣病予防の観点から食生活の特性・意義を習得する。その上で子どもの心身の健康・発達に関連が深い食生活を各段階に応じて学ぶ。また、児童福祉施設や特別な配慮を必要とする子どもの食や対応について保育所におけるアレルギー・対応ガイドラインや食事提供ガイドラインを踏まえて理解する。食育では食を営む力を育成することを目標に「楽しく食べる」ことを大前提にし、保育との一体性を目指したうえで、栄養的な側面も考える。			1. 健康な生活を基本とした食生活の意義や栄養に関する基本的知識を各段階に応じて理解している。 2. 児童福祉施設や特別な配慮を必要とする子どもの食は保育所における各ガイドラインを踏まえて発育・発達と食生活の関連について理解を深めている。 3. 食育では食を営む力を育成することを目標に食育のための環境を、地域社会や文化とのかかわりの中で理解している。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。			
教授方法	演習(講義、実習、演習を行う)					
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	子どもの健康と食生活の意義(子どもの心身の健康と食生活の意義を理解する。また、子どもの食生活についてさまざまな視点から現状を知り、課題を考える。)					宮丸
2	栄養に関する基本的知識(基本的な栄養の概念と栄養素の種類、その働きを理解する。)					宮丸
3	講義 調理・栄養の基本的知識を理解する。実習1 調乳(無菌操作法)、冷凍母乳の扱い方を理解する。実習2「授乳・離乳の支援ガイド」における生後5.6ヶ月頃の離乳食の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を理解する。					中村
4	栄養に関する基本的知識(食事提供に必要な栄養量や献立、調理の基本を理解する。)					宮丸
5	子どもの発育・発達と食生活(乳児期の授乳・離乳の意義、幼児期、学童期の心身の発達と食生活の関わりを理解する。また、食生活の生涯発達への重要性を理解する。)					宮丸
6	実習3 離乳食7.8ヶ月頃、離乳食9~11ヶ月頃:「授乳・離乳の支援ガイド」における離乳各期の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を学ぶ。					中村
7	食育の基本と内容(食育の意義を理解する。特に養護と教育の一体性を学ぶ。また食育の内容と計画及び評価の仕方、環境、諸機関との連携、職員間との連携を考える。)					宮丸
8	食育の基本と内容(食育と環境の関わり、諸機関との連携、職員間との連携を学び、食生活指導及び食を通じた保護者への支援を考える。)					宮丸
9	実習4 保育所(児童福祉施設)における給与栄養目標量を学び、調理法、切り方、食事量を理解する。また、間食の目的・必要性、適した食物や量、与え方を理解する。また、食育研究発表会に向けてグループ討論を行う。					中村
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養(家庭における食事と栄養、児童福祉施設における食事と栄養を理解し、その関わりを考える。)					宮丸
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(疾病及び体調不良の子どもへの対応、食物アレルギーや障害のある子どもへの対応を理解する。)					宮丸
12	実習5 摂食障害児給食(障害者施設):発達段階を考慮した調理形態を学び、最も適した食物の提供と介助を会得する。また、食育研究発表会に向けてグループ討論を行う。					中村
13	食育計画(1) 前回までのグループ討論での意見や目指す子供の姿を考慮し、食育研究発表会に向けて食育計画をまとめる。					中村
14	食育計画(2) 食育研究発表会に向けて媒体作り、劇の練習、また子供達とのやり取りなどを考える。					中村
15	食育研究発表 A・B、全員で研究発表会を行う。					中村、宮丸
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	宮丸40	宮丸:授業内容をどれだけ理解しているか。		授業参加状況とレポート提出	宮丸10	宮丸:復習・予習の小レポートはポイントが押さえられているか。授業への取り組み姿勢。
授業参加状況とレポート提出	中村35	中村:講義ノート、実習レポート、栽培記録とレポート提出。(予・マに沿ったものであるか。字数不足・書式違反の場合は0点とする。)調理実習の取り組み姿勢(態度・積極性)含む。		食カドと研究発表会の参加レポート提出	中村15	中村:研究発表会に向けて作った媒体・食育計画・レポートを提出。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回の講義前には、2年次で履修した「子どもの保健 B」で学んだ箇所をテキストを読んで必ず復習する。[30分] 初回授業に「子どもの食と栄養授業の予定表」を配布するので、小レポートを利用して教科書の復習・予習をして授業に臨む。[40分] 実習のレポートは、講義のテーマに沿って実習を行う事が出来たかを振り返り、成功や失敗を次に生かす為に、考えをまとめて書く。また盛りつけは写真を撮り貼る。[60分~120分] 家庭では食事の準備(野菜を切る)、食事作り、後片付けを積極的に取り組む。週2回			宮丸(講義):小レポートを利用し授業開始時には前回の復習を行い、次いで予習部分を取り入れながら授業を展開する。次回に返却する。 中村(実習):プリント(ノート)に講義内容、実習時の振り返りを記載し実習後提出。当日4時頃までに教材室へ返却する。 実習のレポートは実習後木曜までに教材室へ提出する。実習時に返却する。提出期限は厳守し、返却されたレポートは保管する。栽培記録・レポートの提出は後日連絡する。			
受講生に望むこと	子どもの食と栄養は将来のある子どもが健やかな成長ができるように学ぶと同時に、保育の仕事に関するとても重要な学びである。まず、自分自身がそれにふさわしい生活管理、食事管理を実践することを希望する。 調理実習では朝食を取って出席し(遅刻厳禁)、グループの仲間と積極的に取り組む。		教科書・テキスト	宮丸:「新保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養 改訂3版」新保育士養成講座編集委員会 全国社会福祉協議会 2018年5月 ISBN:9784793512681 2018年度に「子どもの保健 A・B」で使用した教科書と同じ 中村:プリントによる実習		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	中村:開講前に調理実習費を払う。(調理実習費を払っていない者は実習に参加することは出来ない。)		

授業科目名	EN320U 家庭支援論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感をいかに家庭を支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である「育てにくさや障害のある子ども」、「乳幼児虐待対応」、「ひとり親家庭」、「ステップファミリー」、「異文化家族」などへの具体的支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。</p>			<p>家庭の意義とその機能について理解している。 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 子育て家庭の支援体制について理解している。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。</p>				
教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション						
履修条件	「児童家庭福祉論」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭、その意義などを理解する。						
2	現代家族・家庭と社会、家族・家庭の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化を理解する。						
3	現代の家族・家庭関係（夫婦・親子・兄弟など）構造理解と、地域との関わりを考察する。						
4	地域における子育て支援の意義と活動を理解し、保育所の子育て支援実践例を学ぶ。						
5	子育て支援サービスの現状と課題を保育サービスや要保護児童の観点から学ぶ。						
6	子育てに対する相談支援活動を、ソーシャルワークの視点から考察する。						
7	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について、その具体的な機関、実践内容などを学ぶ。						
8	家族・家庭支援の意義と目的について、現代の子育て環境と子育て支援の必要性を学ぶ。						
9	次世代育成支援対策について、国の取り組みや地方自治体の取り組みを学ぶ。						
10	子育て支援サービスの展開などについて、諸外国の実践事例を学ぶ。						
11	保育・養護現場と関係機関の専門職とそのネットワークを理解する。						
12	子ども虐待の現状と早期発見など予防策を学ぶ。保育所における虐待を受けた子どもと親への支援事例から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。						
13	保育所・認定こども園における「虐待を受けた子ども、親への支援事例」から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。						
14	保育所・認定こども園における虐待対応とその具体的方策、留意すべきことなどについて理解する。						
15	家族・家庭支援事例とその考察を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	50	課題内容を正しく理解し、自らの考え方を理論的に表現できている。家族支援における基本的事項が記載され、今後のあり方などについて言及されている。		リアクションペーパー	50	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>保育所・認定こども園における保護者支援を中心に学ぶ学科目である。実習園及び地域の保育所・認定こども園で行われている、具体的な子育て支援サービスについて事前に調べる。〔50分〕 また、子ども・子育て支援法に規定されている「地域子ども・子育て支援事業」を調べ、その内容を講義内容と照合する。〔30分〕</p>			<p>期末レポートの講評、評価視点などについて、プリント配布による伝達を行う。</p>				
受講生に望むこと	自らが保育や教育現場において、家族支援を行うことを想定し、講義を受けていただきたい。			教科書・テキスト	教科書は使用せず、講義資料等を配付する。		
指定図書/参考書等	なし/家庭支援論【第2版】、新保幸男・小林理編著、中央法規、ISBN 978-4-8058-5605-5			その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。		

授業科目名	EN275U 乳児保育			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて関わり、保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。				乳児保育の意義、基本的視点について理解している。 乳児期の成長・発達の特徴を理解し、生活のあり方を考えることができる。 乳児保育における家庭支援を理解している。 乳児との実際の関わりを通して、乳児保育の実践計画を立てることができる。			
教授方法	講義・グループワーク						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	乳児保育の意義：乳児期の成長・発達において乳児保育・3歳未満児保育が果たす役割について理解する。						
2	ゼロ歳児とは（生後6ヶ月未満児）：身体、運動的発達の特徴・生活リズム（睡眠・食事・排泄）をとらえる。三つの視点から述べられる「ねらい」より、この時期に育てたいことを考える。 ゼロ歳児の遊び・「特定の他者」の重要性を考える。〔乳児人形を用いて関わり方を学ぶ〕						
3	ゼロ歳児（生後6ヶ月以上）から1歳3ヶ月未満児：発達と保育内容を考える。ことばの発達に注目して、やりとりの中で育つことば・この時期のおとなの役割とは。〔乳児人形を用いて関わり方を学ぶ〕						
4	1歳児とは（1歳3ヶ月から2歳未満児）：生活リズム（睡眠・食事・排泄・着脱）をとらえる。 自我の育ち「イヤ」「ジブンデ」表現・他者との関係性・イメージする力の育ちに注目して。						
5	2歳児とは：生活リズム（食事・生活習慣の確立に向けて）をとらえる。 意欲の発達に注目して。 ことばの発達「考えることのはじまり」・遊びの豊かさ・他者関係「まねっこ」「仲良し」について理解する。						
6	乳児の養護にかかわるねらいと内容について学ぶ。「赤ちゃん・サロン」の事例より。						
7	3歳未満児の保育に関わる配慮事項（1）：「健康」面について乳児保育の視点から理解する。 〔乳児人形を用いて関わり方を学ぶ〕						
8	3歳未満児の保育に関わる配慮事項（2）：「安全」面について乳児保育の視点から理解する。 様々な保育事故の事例から危険予想と対応を考える。〔グループワーク〕						
9	乳児保育における保育士等のかかわりについて：子どもの行為の意味を理解する。適切なかかわりを考える。 担当制、職員間の連携について調べ、理解する。〔グループワーク〕						
10	乳児保育の環境について：人格の基礎を育てる乳児期の環境・安全な生活環境について理解する。						
11	遊びを通して発達する力：身体発達に合わせた視点・社会的発達に関する視点・精神的発達に関する視点から、発達と遊びによる学びのつながりについて考える。						
12	保育の記録と自己評価について：個別記録・デイリープログラムについて考える。						
13	子育て家庭への支援について学ぶ。（保育所・幼稚園・地域・大学における実際より）						
14	乳児保育の計画と実践を学ぶ。実践に向けての準備を行う。（環境・玩具・絵本・歌・生活の流れ）						
15	乳児保育の実践計画を立て、シミュレーションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	乳児人形等での実践演習への取り組み態度含む授業態度			課題	30	課題の提出状況と内容
臨時試験	30	乳児保育についての理解（演習・筆記による）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
・乳児保育を計画し、子どもの発達に応じた教材を考え作成する。〔120分〕 ・歌遊び・ふれあい遊び等を考え、実践の場ですぐに行えるようレポーターを増やしておく。〔120分〕				前回授業を振り返り実演及び、保育場面演習の練習成果、発表に対して助言を行う。			
受講生に望むこと	・乳児人形等教材を用いた実践や実際の子育て支援の場での学び等、真剣に取り組んでほしい。 ・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えて学んでほしい。			教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館（2018年）ISBN978 4 577 81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN978-4-577-81449-9		
指定図書/参考書等	なし/なし（必要な資料等は随時印刷して配布、または紹介する）			その他・特記事項	「保育実習指導」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて学びを深める。本授業は理論と実践を相互に学ぶものである。欠席した場合は必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出すること。		

授業科目名	EN325U 乳児保育			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
乳児期は人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。				乳児期の発達理解に基づいた保育の実践計画及び記録を考えることができる。 乳児保育における子どもの生活と遊びを理解している。 乳児期の子育て支援について、今日的課題を考えることができる。 実践を通して、乳児保育の今後の展望を見出すことができる。			
教授方法	講義・グループワーク						
履修条件	乳児保育 を履修（単位修得）済みが望ましい。保育実習 を履修する学生は、履修しておくことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	子ども理解に基づいた保育について、保育実習（保育所）の保育記録から考える。赤ちゃん学について（1）赤ちゃんの共感性とは。						
2	保育所での一日の生活をプランする。「心地よく」を中心に考え、生活場面を実践する。赤ちゃん学について（2）赤ちゃんの能力とは。						
3	乳児保育と保健衛生および安全について理解する。[乳児人形を用いた実践]乳幼児の安全・保健に関する事故、事件の分析から現代の課題について考える。						
4	乳児期の食事について理解する。介助の方法を実践を通して学ぶ。子ども発達を捉え、援助における大切な視点を考える。						
5	乳児保育実践を活かした子育て支援を学ぶ。[大学における実践「赤ちゃん・サロン」より]乳幼児がモノ・ヒト・空間にどのように出会うのか観察し、学びを考える。						
6	乳児と遊び（1）：『手作りおもちゃ課題研究』発表を行う。保育場面を設定し実践的に学び合う。						
7	乳児と遊び（2）：『手作りおもちゃ課題研究』発表を行う。具体的に個々の関わり（ねらい・設定・扱い方・乳幼児の学び）を考えシミュレーションする。						
8	乳児保育の計画を実践する（1）：「歌遊び」「模倣遊び」「やりとり遊び」「ふれあい遊び」の実践から学ぶ。						
9	乳児保育の計画を実践する（2）：具体的に保育形態や保育場面等を提示した上で、シミュレーションする。						
10	乳児保育の計画を実践する（3）：保育者の様々な配慮に着目し、表情や口調および動作や振る舞い方を捉える。なぜそれらの配慮が必要なのかも考える。						
11	乳児保育における保育者の配慮（物的環境・人的環境等）とその必要性を理解する。子ども理解の視点から考える。						
12	乳児保育の計画を改善する。養護と教育の視点を捉える。						
13	実際の保育記録から自己評価を行う。自己の課題を見出す。						
14	乳児保育における現代の課題点を考える。保育所・認定こども園等における保育現場の事例より。						
15	乳児保育の今後の展望を見出す。乳児の最善の利益を考えての関わりについて。子ども・子育て新制度における乳児保育のあり方について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢			課題	30	課題の提出状況と内容
臨時試験	30	乳児保育についての理解（演習・筆記による）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
・本学の育児支援活動「赤ちゃん・サロン」に参加し（10月～2月）、保育計画を実践する。[60分] ・手作りおもちゃ課題研究を行う。乳児保育における遊びを準備する。[早めに製作にとりかかり準備する]				保育場面実演（ふれあい遊び・歌遊び・環境設定など）に対する助言。			
受講生に望むこと	・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉え、学んでください。			教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 ISBN978-4-577-81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN978-4-577-81449-9		
指定図書/参考書等	なし/授業の中で随時紹介する。			その他・特記事項	「保育所実習指導」の授業と関連づけを行う。欠席した場合は、必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出する。		

授業科目名	EN290U 身体表現			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>子どもの発達と運動機能や身体表現に関する基本的な内容を理解したうえで、運動遊びや身体表現活動の実践に必要な基礎的技能を身につける。また、身体を動かす経験を通して健康・安全について理解し、楽しく明るい健康な生活を子ども達と共に営む保育内容と方法について学ぶ。</p>				<p>自ら積極的に身体を動かすことができるようになる。 子どものための身体運動または身体表現を理解する。 独自の動きや身体表現を創り出すことができるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明。 保育士科目「身体表現」について考える。						
2	基本ステップの練習：ウォーキング、ツーステップ、スキップ、ギャロップ等基本的なステップ						
3	子どものための体操：身体の様々な部位を大きく動かせるようにする。						
4	子どものためのフォークダンス：みんなで踊ることの楽しさを体験する。						
5	子どものためのダンス1：子どものために創られたダンスを通して、一緒に踊る楽しさを体験する。						
6	子どものためのダンス2：グループで子どものためのダンスを創る。						
7	子どものためのダンス3：グループで創った作品を発表し、鑑賞する。						
8	子どものための体操、フォークダンス、ダンスの指導法：3～7回の授業で体験した内容を基に、各々の指導法について考える。						
9	ボールを用いた運動遊び：ボールを用いた運動遊びを経験し、ボール遊びの特性を理解する。						
10	マットを用いた運動遊び：マットを用いた運動遊びを経験し、マット遊びの特性を理解する。						
11	跳び箱、平均台を用いた運動遊び：跳び箱と平均台を用いた運動遊びを経験し、跳び箱と平均台遊びの特性を理解する。						
12	縄跳びを用いた運動遊び：縄跳びを用いた運動遊びを経験し、縄跳び遊びの特性を理解する。						
13	身近な材料を用いた運動遊び：新聞紙等身近な材料を用いた遊びを経験し、素材の特性を生かした運動づくりを理解する。						
14	からだを用いた運動遊び：遊具や道具を用いず、自らの身体を用いたり、他者の身体を用いた運動遊びを経験し、からだを用いた運動遊びの特性を理解する。						
15	運動遊びにおける安全管理：様々な運動を、安全に楽しむための留意点と安全管理について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	70	授業への取り組み姿勢			実技試験	30	課題を理解しているか 課題に対して一生懸命取り組んでいるか 課題に対する個人の技能・完成度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>子どもの運動に関する情報に興味を持つ ニュースや新聞で報じられている、子どもの運動に関する情報に接する（60分） 子ども達の明るく元気な姿や活動を導くために何が必要か考えてみる（60分）</p>				レポートはコメントを付記して返却する。			
受講生に望むこと	子ども達が明るく元気に伸び伸びと遊ぶために、自分はいかにあるべきか、何をすべきなのかを考えながら受講していただきたい。			教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する		
指定図書/参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。		

授業科目名	ED210U 絵本論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
様々な絵本を取り上げ、その特徴を探る。また、その絵本を、いつ、どのような子どもたちに手渡せばよいかを考えたい。さらに、絵本論を読み解き、絵本を評価する視点を学ぶ。			絵本を読んでもらう体験を通し、絵本とは読んでもらうものとの認識を得る。 絵本の絵を読むとはどういうことか体験する。 月齢や発達段階に応じてどのような絵本がふさわしいかを知る。 子どもの興味と絵本の関わりを知る。 現在の絵本の多様性を知る。				
教授方法	講義とグループディスカッション、さらにグループによる発表も行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	絵本とは：本としての絵本そのものだけでなく、保育者としての視点で、子どもの絵本体験を深めるための絵本とは？という面から、絵本を選んで解説する。						
2	ファーストブックとしての絵本：子どもとのやりとりの道具の一つとしての絵本のあり方について考える。						
3	翻訳絵本：「岩波の子どもの本」シリーズにみられるような、日本で物語絵本が作成される際に参考にされた、世界の古典的絵本について紹介する。						
4	昔話絵本：エウゲーニー・M・ラチョフ、フェリクス・ホフマン、マーシャ・ブラウンの作品について解説する。						
5	昔話絵本：赤羽末吉、田島征彦、佐藤忠良の作品について解説する。						
6	科学絵本：「かがくのとも」シリーズを検討する。						
7	詩・ことばあそびの絵本：谷川俊太郎、まどみちおの作品について解説する。						
8	イラストレーターによる絵本：レオ・レオニ、エリック・カール、イエラ・マリの作品について解説する。						
9	写真絵本：『ふゆめがっしょうだん』、『はるにれ』、『イエベはぼうしがだいすき』、『こいぬがうまれるよ』、『みず』を解説する。						
10	絵本論から学ぶ モーリス・センダック：『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックによる絵本論を読み解く。						
11	絵本論から学ぶ 松岡享子：『昔話絵本を考える』を参考に、昔話を絵本にすることについてグリム童話「七羽のカラス」を例に考察する。						
12	絵本論から学ぶ 松居直：絵本の編集者による絵本論を読み解く。						
13	絵本の絵を読むとは：林明子の作品をとりあげ、絵本の絵を読むとはどういうことか、子どもの視点で体験してみる。						
14	読み聞かせに向く絵本とは：遠目にも絵が見やすいか否かだけでなく、集団で読むことで楽しみの幅が広がる絵本体験について考察する。						
15	読者の広がり絵本の可能性：今、絵本は作者の表現法の一つとしてみなされ、読者を子どもだけに限定しないものも多数見受けられる。そのような絵本を取り上げ、考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	授業で取り上げた絵本の、適応年齢、どのような子どもたちによんであげたいかなどの視点を入れた絵本リストを作成して提出してもらいます。		グループ発表	40	グループごとに、昔話絵本を4～5冊選び、伝承されてきた昔話との違いや、絵の違いについて検討し発表してもらいます。	
授業参加態度	20	授業の中で読み聞かせをしてもらいます。授業への取り組み、他の学生の読み聞かせを聞く姿勢も評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
グループごとの発表では、図書館で絵本を選び、レポートを作成してもらいます。（発表の準備）[1～2週間かけて取り組む] 授業中に取り上げた絵本のリストを作成してもらいます。[授業終了までに絵本論などを読んで作成する]				発表の際にコメントします。 絵本リストについては、次学期初めまでに、コメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	講義中に紹介した絵本を図書館で借りるなど、手に取ってじっくりと読んでみるようにして下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED240U 心理統計学			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義は社会科学におけるデータ解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心理統計学においては、t検定、分散分析といった検定の考え方の理解および習得を目指す。分散分析の基本概念、分析の進め方を理解し、様々なデータで分析が行えるようにする。さらに効果量や検定力分析についても解説を行う。本講義ではコンピュータ等を用いた具体的なデータ処理方法の理解にも重点を置く。				授業内で紹介する各分析で用いられる用語を覚え、分析の概要を理解している。与えられたデータに対して適切な分析手法を選択、実施する能力を身につけている。コンピュータを用いた分析方法を身につけている。			
教授方法	講義を中心に演習の内容を取り入れながら授業を進める。						
履修条件	心理統計学 の履修済が望ましい(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	心理統計学の基本的概念を振り返る。						
2	t検定についての理解を深める。						
3	相関係数についての理解を深める。						
4	分散分析 分析の枠組みを理解する：分散分析という分析手法がどのような目的に用いられるのか、どのような考え方に基いた分析であるのか解説を行う。						
5	分散分析 1 要因分散分析の計算の実施：1 要因の分散分析について、実際に計算を行いながら分析の概要について理解を深める。						
6	分散分析 1 要因分散分析をコンピュータを用いて分析する：1 要因の分散分析をコンピュータを用いてどのように分析を行い、結果を読み取るのか解説する。						
7	分散分析 2 要因の分散分析の考え方：2 要因の分散分析について交互作用の概念を中心にその考え方の解説を行う。						
8	分散分析 交互作用について事例を挙げながら理解をさらに深める。						
9	分散分析 2要因分散分析の計算：2要因の分散分析がどのように行われるのかについて解説を行う。						
10	分散分析 参加者内要因の分散分析：参加者内要因について理解を深め、計算過程を知る。						
11	分散分析 混合計画における分散分析を理解する。						
12	分散分析 演習課題を用いて、分散分析への理解を深める。						
13	効果量とはどのようなものか、その計算過程を理解する。						
14	推定と検定：信頼区間についての理解を深める。						
15	検定力分析を研究実践に生かす。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	心理統計学について理解し、計算および報告ができるか。			小テスト	15	授業の内容をどれだけ理解できているか。
講義への参加度	15	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
講義前にテキストおよびプリントを読んでくる。[30分] 講義後にテキストおよびプリントを読み、ノートの整理を行う。[45分] 講義でわからない計算法や用語があれば担当教員に質問したり、テキスト・参考書等を用いるなどして理解を深める。[30分] 講義にて提示された演習課題に取り組む。[30分]				小テストは終了後に解説を行う。 演習課題は添削を行い、コメントする。			
受講生に望むこと	統計学は特に予習復習が強く求められる科目である。そして、授業内の学びをより深めるために予習復習の中で出てきた疑問点を持って授業に臨み、それらの疑問をひとつひとつ解消するようにしてほしい。			教科書・テキスト	『入門 統計学 検定から多変量解析・実験計画方まで』 栗原伸一 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書/参考書等	なし/『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9 『心理統計法への招待 統計をやさしく 学び身近にするために』 中村知靖・松井仁・前田忠彦 サイエンス社 2006年 ISBN 978-4-781-91151-9 『わかる・使える多変量解析』 神宮英夫・土田昌司 ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-779-50246-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED300U 心理学研究法B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・加藤 仁・齊藤 英俊 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、「心理学研究法A」で学んだ心理学における様々な研究法に関する知識を更に拡充していく。具体的には、心理学的な研究を行う一連の流れの各ポイントでどのような点を考慮し、進めていくことが求められるのかについて講義および実践を通して学ぶ。また、応用的な手法を用いた研究も取り上げ、解説を行う。			現在心理学において用いられている研究手法をより具体的に理解している。研究を実施する際に考慮すべきポイントを理解している。研究に用いられる統計解析を理解している。授業で身につけた知識、経験を自らの研究実践において生かせるようになる。			
教授方法	講義を中心に、発表、グループワーク、演習なども取り入れて進める。					
履修条件	心理学研究法Aの内容を十分に理解していること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	心理学研究法Aの振り返り					松下
2	心理学における測定（様々な妥当性）					松下
3	実験法の基礎的知識					松下
4	調査法の基礎的知識					松下
5	観察法の基礎的知識					松下
6	質的研究法の基礎知識について学ぶ					齊藤
7	質的研究法での調査法（面接調査や質問紙調査など）の概要について学ぶ					齊藤
8	質的研究法での調査の実施方法について学ぶ					齊藤
9	質的研究法での調査で得られたデータの分析について学ぶ					齊藤
10	質的研究法で得られたデータの分析結果をどのようにまとめ、考察を進めるかを学ぶ					齊藤
11	量的研究法における仮説構築（先行研究を参照し、具体的な仮説を構築する）					加藤
12	量的研究法における尺度（仮説の検証に適した測定項目を検討する）					加藤
13	量的研究法における実験計画（仮説を検証する実験計画を立案する）					加藤
14	量的研究法における測定（実験計画に基づき測定を行う）					加藤
15	量的研究法における分析と結果報告（分析し、結果をまとめ、考察する）					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
学期末レポート	40	授業内容の理解の度合い		講義への参加度	30	授業への取り組み姿勢
小課題	30	小課題の完成度				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
研究法、統計法について予習すること。[90分] 課された宿題を行うこと。[90分]				授業内の小課題は、次回冒頭にてフィードバックを行う。		
受講生に望むこと	心理学特有の難解な統計法、抽象的な概念を扱う。相当量の授業外学習が求められるため、自発的に学習すること。講義中の発表、課題、演習などに真摯に取り組むこと。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/高野陽太郎・岡隆（編）(2004)『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし』有斐閣 ISBN 978-4-6411-2214-7 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）(2001)『心理学研究法入門 調査・実験から実践まで』東京大学出版会 ISBN 978-4-1301-2035-7			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED235U 人間関係論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。人間は社会的な存在であるが、なぜ社会的な存在であると言われるのだろうか。そのことを一つの大きなテーマとしながら、人間関係や集団における心理について理解することを目的とする。また、人間関係において生じる現代的な問題についても考えを進めていく。授業内容としては、進化の観点、親子、友人、恋愛といった親密な関係、集団と個人の心理等を取り上げる。</p>			<p>「人間関係」を心理学の観点から捉えなおすことができる。人間関係で起こる様々な事象を客観的な視点から捉えることができる。進化や社会的交換の観点から人間関係を捉えることができる。自分の身の回りの人間関係を授業で学んだことを踏まえて見直すことができる。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題なども取り入れて進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	人間関係とは何か？：自分自身の人間関係のありようを振り返りつつ「人間関係」というものについて考えてみる。					
2	なぜ人間関係を形成するのか？：進化の観点を踏まえて、人間が他者と関係を形成することの意義を考える。					
3	進化の観点から人間関係をとらえることの利点は何か？					
4	人間関係における「適応」を考える：他者との関係における「適応」とはいったい何を指しているのか、その意味について改めて考える。					
5	個々の人間関係を理解する 1 親子関係 アタッチメント：親子関係の中で重要な概念であるアタッチメントを取り上げつつ、親子関係 がどのようなものか考える。					
6	個々の人間関係を理解する 2 親子関係 青年期の親子関係：親子関係のあり方の変容を発達という観点を踏まえて考察する。					
7	個々の人間関係を理解する 3 親子関係 虐待：親子関係における「虐待」について語られることが多いが、その内容の理解とともに社 会に与える影響を考える。					
8	個々の人間関係を理解する 4 友人関係の形成：友人関係の形成過程とその影響について考える。					
9	個々の人間関係を理解する 5 孤独感について考える：孤独感という概念がどのようなものであり、人においてどのような意味があるのかを見つめ直す。					
10	個々の人間関係を理解する 6 恋愛関係の形成と発展：恋愛関係の形成過程と関連する要因についての解説を行う。					
11	個々の人間関係を理解する 7 親密な人間関係の理論的理解：親密な他者との関係形成について社会的交換の観点から考察を行う。					
12	個々の人間関係を理解する 8 職場の人間関係：特に集団で働くという場合にどのような影響がありうるのか考える。					
13	社会的スキルとは何か？：社会的スキルという概念の解説を行い、人間関係形成における位置づけを考える。					
14	人間関係における受容と拒絶：他者からの受容や拒絶というものが人間に与える影響について考える。					
15	ソーシャルサポートの影響：ソーシャルサポートという概念の解説を行い、人間関係に与える影響について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	試験形式等の詳細は授業内に提示する。		授業内レポート課題	20	課題内容は授業内に提示する。
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢から評価を行う。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>各回の内容についてプリントや参考書を読んでくる。授業後には授業の内容を振り返りを行う。〔30分〕 講義内で様々な人間関係にまつわる概念を取り上げるが、それらを自分自身や身の回りの人間関係に適用し、具体的に考えてみる。〔30分〕 講義内容を踏まえつつ、人間関係をテーマとした論文あるいは文学作品など広く参照し、友人や家族などと議論を行うこと。〔30分〕</p>				<p>授業内の小レポートは次回コメントを付けて返却する。 授業内レポートは採点終了後返却し、コメントを行う。</p>		
受講生に望むこと	誰もが程度こそ違えど人間関係を形成しています。しかし、その全体像を捉えることはなかなか難しいものです。それは多様な視点から捉えるべきものであり、本講義ではそのうちのある一つの視点を提供するのみです。単に「人間関係がうまくいく方法」を身につけることにとらわれるのではなく、そのような複雑なものを見る「目」を養うことを目指してください。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし / 『対人関係の心理学』和田実・増田匡裕・柏尾眞津子 北大路書房 2016年 ISBN 978-4-7628-2945-1			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED305U 社会心理学A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学は、人間の社会的行動を状況との関わりの中で理解しようとする学問である。社会心理学Aでは、対人関係、家族を含めた集団、文化などのトピックを中心に取り上げる。それぞれのトピックの学習を通じて、人間がいかに社会的な存在であるのかを理解することをめざしていく。</p>			<p>対人関係、集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解できる。 人の態度及び行動との関わりを理解できる。 家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。 日常生活での社会問題に対して、社会心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	社会心理学とは何か：社会心理学の考え方、研究アプローチとは何かを学ぶ					
2	感情：感情がどのように生まれて、行動や判断に影響をするのかを学ぶ					
3	援助行動・ソーシャルサポート：なぜ人を助けるのか、人を支えることのはたらきとは何かを学ぶ					
4	集団：身内びいきや差別をする心についてを学ぶ					
5	対人関係：親密な関係はどのようにつくられるのかを学ぶ					
6	自己：自分についてどのように評価するか、自分の気持ち・欲求をどうコントロールするかを学ぶ					
7	社会的影響：他人の意見や考えからどのようにして影響を受けるのかを学ぶ					
8	態度・説得：人はどのように説得をされて態度を変えるのだろうか					
9	中間テスト					
10	原因帰属・社会的推論：物事の原因についてどのように考えるか、人の思考にはどのような特徴があるのかを学ぶ					
11	ステレオタイプ：集団に対してどうとらえるのか、偏見や差別をもつ心を学ぶ					
12	集団における心理：集団への同調がどのように生じるのかについて解説を行うを学ぶ					
13	公平・公正：人は公正・不公正をどう判断し、どのように反応するのかを学ぶ					
14	文化と心：文化と心はどのように関係しあっているのかを学ぶ					
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	講義内容の理解度		講義への参加度	10	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度
発表	20	発表内容の完成度		中間テスト	20	講義内容の理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>			<p>講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学Aの対象となるのは比較的なじみやすいトピックである。講義内容を深く理解するには、自分自身の経験や日常生活での様々な問題に主体的に適用していく姿勢が求められる。			教科書・テキスト	『社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る（いちばんはじめに読む心理学の本）』遠藤由美（編者）ミネルヴァ書房 2009年 ISBN:978-4623053391	
指定図書/参考書等	なし / 『よくわかる社会心理学』山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED310U 社会心理学B			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学Bにおいては、社会心理学の中の応用的な領域である産業心理学、組織心理学に関するトピックをとりあげる。インターンシップ、就職活動、キャリア形成、職場の対人関係、転職、定年退職など産業心理学や組織心理学に関連するさまざまな問題に対して自分なりに考えることができるようになってほしい。</p>				<p>職場における問題、キャリア形成に関する問題を心理学の立場から理解できる。職場における問題やキャリア形成に対して必要な心理的支援について理解できる。組織における人の行動を心理学的に理解できる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	社会心理学Aの履修済が望ましい(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション・組織、集団とは：組織、集団、集合など基本的な概念について学ぶ						
2	リーダーシップ：良いリーダーとはどんなリーダーだろうか？リーダーシップ理論、リーダーとフォロワーの関係について学ぶ						
3	集団心理：集団になると一人の時とはどのように行動が異なるのだろうか？						
4	モチベーションとリーダーシップ：組織の中ではどのようにやる気が作られるだろうか？						
5	モチベーションの形成：職場におけるモチベーションをいかにつくるかを学ぶ						
6	説得の心理：説得をうまくおこなうにはどうすればよいだろうか？						
7	消費者の心理：消費者はどのようにして行動を決めたり、変えたりするのだろうか？						
8	小テスト1と前半の内容の振り返り						
9	印象形成：人の印象はどのようにつくられるか						
10	援助行動と攻撃行動：人をたすける心、傷つける心について考える						
11	キャリア形成：自分の適性を考える、キャリア形成、キャリア教育などを学ぶ						
12	ストレスと心の不調：ストレスが発生するまでのしくみとさまざまな心の疾患について知る						
13	ストレスとストレスマネジメント：職場、職業に関するストレスとストレス対処の仕方を学ぶ						
14	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表を行い、相互評価する。						
15	小テスト2と後半の内容の振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
中間試験	40	講義内容の理解度			発表	40	発表内容の完成度
講義へ参加度	20	講義内での取り組みや課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				<p>授業内の課題については、次回の冒頭にフィードバックと解説を行う。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学Bの内容は職場での心理、組織における人間の行動、キャリア形成など実際の内容となっている。職場で起こる問題だけではなく、学生自身のキャリアについても考える機会としてほしい。			教科書・テキスト	『入門！産業社会心理学』 杉山 崇（編著）北樹出版 2015年 ISBN: 978-4779304552		
指定図書/参考書等	なし / 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 『よくわかる産業・組織心理学』 山口裕幸他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4871-7			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ED315U 認知心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義は、心理学の中でも認知心理学という分野に焦点を当てて、基本的な内容について学ぶことをねらいとしている。認知心理学は、わたしたちが自分や環境に関する情報をどのように処理しているのかを探る心理学の一分野である。心理学概論Aや心理学概論Bにくらべると発展的な内容も含めて授業を進める予定である。認知心理学が日常生活でのさまざまな問題と関わりを持っていることを学んでほしい。</p>			<p>認知心理学がどのような学問領域であるのかを理解している。感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解している。記憶、思考、問題解決、意思決定といった認知心理学における重要な概念やその障害について理解している。日常生活で直面する問題に対して、認知心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	認知心理学とは：認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指した学問分野であるかを学ぶ					
2	知覚のはたらき：感覚と知覚の特徴とはたらきについて基本的な事項を学ぶ					
3	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ					
4	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完、周波数分析などについて学ぶ					
5	知覚における障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ					
6	顔の知覚：私たちがどのように人の顔を知覚し、識別し、記憶しているのかを学ぶ					
7	記憶：人の記憶の特徴と種類について、短期記憶と長期記憶の働きなどを学ぶ					
8	小テスト1					
9	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ					
10	概念：概念とは何か、概念が形成されるまでのプロセスを学ぶ					
11	言語：会話のなりたちや、会話の理解、文章の読み書きに関わるプロセスなどを学ぶ					
12	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ					
13	日常認知：目撃証言や偽りの記憶など日常生活における認知の問題を学ぶ					
14	小テスト2					
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	50	講義内容の理解度		講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度
発表	30	発表内容の完成度				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				<p>講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>		
受講生に望むこと	認知心理学は私たちの心の仕組みのコアな部分を対象とする研究領域である。普段の生活ではあまり意識しない部分のトピックが多いといえる。認知心理学で扱っているトピックが普段の生活での体験とどのように繋がりを持っているのかを考えながら授業に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	『認知心理学 心のメカニズムを解き明かす (いちばんはじめに読む心理学の本)』仲真紀子(編著) ミネルヴァ書房 2010年 ISBN:978-4623056835	
指定図書/参考書等	なし / 『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED320U 感情心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊・勝谷 紀子 (代表教員 齊藤 英俊)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰もが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかにとらえられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。			感情を心理学的にとらえるための理論を理解できる。 幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 感情がどのように発達するのかを理解できる。 感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。			
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	感情とはどのように捉えられるか 必要・不必要の関連を含め感情についての考えを紹介する。					勝谷
2	感情と進化 進化という観点から感情がどのように理解されるかを解説する。					勝谷
3	感情の理論 心理学において提案された感情についての理論を概観する。					勝谷
4	感情の理論 心理学において提案された感情についての理論を概観する(続き)。					勝谷
5	情動知能の視点 情動知能という概念及び研究の紹介を行う。					勝谷
6	認知と感情の関わり 心の仕組みとして認知と感情は別個のものではないということを解説する。					勝谷
7	幸福感とその関連要因について 幸福感という観点から様々な研究が行われており、それらを紹介する。					勝谷
8	他者との関わりにおける感情の理解: 対人不安・孤独感がどのように理解されているか解説する。					勝谷
9	感情の生物学的基盤 感情が生じる神経生理学的な機序について紹介する。					齊藤
10	感情の発達 感情について発達の観点から考える。					齊藤
11	精神疾患に関連する感情 不安: 不安障害といった不安感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
12	精神疾患に関連する感情 抑うつ: 気分障害といった抑うつ感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
13	精神疾患に関連する感情 恐怖: PTSDなどでみられる恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
14	感情の病理への心理的アプローチ 精神分析的な心理療法: 精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。					齊藤
15	感情の病理への心理的アプローチ 認知行動療法, エモーション・フォーカスト・セラピーの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。		講義への参加度	30	講義中への参加度と振り返りの内容から評価を行う。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。[45分] 講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品(小説, 映画, 漫画など)にあてはめて具体的に理解する。[30分]				各回での振り返り・リアクションシートの内容について、次回の冒頭にフィードバックを行う。		
受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするところには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみ視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ED325U 心理療法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず、「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。</p>				<p>様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライアントやクライアントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション/心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。						
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。						
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。						
4	精神分析的な心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移/逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。						
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。						
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。						
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。						
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。						
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。						
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。						
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。						
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。						
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。						
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。						
15	まとめ/心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対して包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。			振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]</p>				<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『心理療法ハンドブック』 乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社、2005年、ISBN-13：978-4422113265			その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。		

授業科目名	ED330U 心理面接技法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメントについて学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。			心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメントを説明できること。心理面接に必要な技術を修得すること。				
教授方法	演習、講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割					松下・齊藤	
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）					松下・齊藤	
3	心理面接の開始（初回面接、受面接）と終了（終結、中断など）					松下・齊藤	
4	多職種連携および地域連携					松下・齊藤	
5	基本的な傾聴スキル					松下・齊藤	
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）					松下・齊藤	
7	精神分析的な心理療法における心理面接					松下・齊藤	
8	精神分析的な心理療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
9	クライアント中心療法の心理面接					松下・齊藤	
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接					松下・齊藤	
11	行動療法の心理面接					松下・齊藤	
12	認知行動療法における心理面接					松下・齊藤	
13	認知行動療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
14	その他の心理療法（家族療法、ブリーフセラピーなど）の心理面接					松下・齊藤	
15	まとめ：心理面接の効果と課題					松下・齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。		講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]				小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。			
受講生に望むこと	公認心理師資格に関連する他の講義を履修していること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。			教科書・テキスト	講義開始時に公認心理師資格に対応したテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	ED335U 発達臨床心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児/者に対する理解を深める。また、障害児/者が社会の中でよりよく生きることが支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。			1. 身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児/者への理解を深める。 2. 障害児/者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。				
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション/障害とは?:国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。						
2	障害と心理学:障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。						
3	身体障害:視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。						
4	知的障害:知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。						
5	精神障害:不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病的障害など主要な精神障害について理解する。						
6	行動・情緒障害:発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。						
7	発達障害(1):自閉症スペクトラム障害:発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。						
8	発達障害(2)注意欠如・多動性障害、局限性学習障害:注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。						
9	障害児の支援(1):応用行動分析:応用行動分析の概念および基本的な考え方と障害児への支援について理解する。						
10	障害児の支援(2):ペアレントトレーニング:応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。						
11	障害受容のプロセス/障害の理解:障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。						
12	保健・医療における課題と支援:認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。						
13	福祉・教育における課題と支援:障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。						
14	保護者や家族の理解と支援:障害児/者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。						
15	コミュニティ支援/障害児・者支援のこれから:障害児/者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。		振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]			振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『障害者心理学』太田信夫(監修)北大路書房,2017年,ISBN-13:978-4762829840			その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。		

授業科目名	ET300U 幼稚園教育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	大井 佳子・向出 圭吾・谷 昌代 (代表教員 大井 佳子)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育実習 にかかわる事前・事後の実習指導で、幼稚園教育実習 を履修後、ガイダンスとプレ実習に参加して本科目を履修する。プレ実習では実習園の保育の流れを確認するとともに、自らが用意した遊びのプランと自ら製作した教材で園児と関わることを通じて実習園の環境と遊びの特徴、さらに園児の状況を理解する。その理解を前提に、本科目では、保育内容の各科目等での学びを総合的に活用して15日間の指導計画を作成する。実習園との協議を含めて指導計画を練り、教材をつくりなおす準備の取り組みを通して、園における自身の動きを具体的にイメージする。実習開始前、実習園より提示された課題を含め、予定される全ての活動について、環境図・時系列表記・教材研究(写真を含む)からなる指導計画に書くことによって実践内容を視覚化し、立案した全指導計画を俯瞰し、それぞれの活動についてねらい(予想される幼児の学びの内容)を明確にして実習に臨む。実習後は自己評価と実習報告会を通じて自らの現場での姿を振り返り、保育者としての自己課題を明らかにする。			事前指導 実習園の保育の流れと園児の状況をふまえて対象年齢児の発達にふさわしい遊び(活動)を考えることができる。 実習開始以前の実習園との事前協議のために、自らのプランについてわかりやすく説明できるよう資料を工夫することができる。 遊びのプランを練り直し充実させることができる。 連続した指導計画の意味を理解し15日間の指導計画に展開することができる。 幼稚園教育要領の示す保育内容を理解し、指導計画にねらいを設定することができる。 教材研究によって、幼児の心が動く教材を工夫、製作することができる。試行と協議によって改善することができる。 事後指導 自らの実践を自己評価し、保育者としての自己課題を明確にすることができる。 自らのプランや計画、実践を他者にわかりやすく伝えるために工夫することができる。			
教授方法	グループワーク・グループ協議・発表・実演(展示を含む)					
履修条件	幼稚園教育実習 を単位修得済みで、ガイダンス・プレ実習に参加していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	プレ実習及びこども図書館での実践を振り返る。					全員
2	グループワーク:「教材研究した」と言える自分らしい教材(素材を含む)を選定し、複数の遊びで活用する指導計画立案に向けて、教材研究と必要量確保の見通しを立てる。					全員
3	グループワーク:実習園の園環境と子ども集団をイメージして、自身のオリジナル教材からさらに工夫した視聴覚教材を整える。その教材を用いた遊びのプランを5領域で考える。					全員
4	各自が核と考える遊びから展開する活動、遊びを中心に15日間の指導計画のマップを作成する。視聴覚教材の使い方、こだわり素材の活用、実習園から指定された活動を組み込む。					全員
5	個々の指導計画の活動のねらいを明確にし、そのねらいは園のクラスの目標と個人の目標と齟齬をきたさないかを検討する。					全員
6	実習園との協議を経て、実践できる遊びを確定し、15日間の連続した指導計画の充実を図る。					全員
7	それぞれの指導計画について、ねらいと照らし合わせて指導計画の内容、展開を見直し、充実を図る。					全員
8	用意した指導計画全体を俯瞰し、内容の偏りがあれば、補完する計画を立案する。15日間の実践時期の予定表を作成し、実習に必要なことがらをチェックし、足りないことを補う計画を立てる。					全員
9	直前指導で、事後レポート課題と実習評価について理解し、本実習の自己目標と自己課題を再構成する。					全員
10	実習期間の土曜日:自らの実習記録からの読み取りを通じて、次週の実習計画を見直し、必要な準備を確認する。					全員
11	実習期間の土曜日:指導計画を実践しての報告をグループでし、巡回教員からの報告を受けて自らの指導計画の精緻化を図る。必要な次週の準備を確認する。					全員
12	グループで行う実習報告会に向けて、実習記録と事後レポートに基づく実習の振り返りを行う。					全員
13	実習報告会準備を通じて、実践を通じての気づきをグループメンバーで共有し、自らの振り返りを深める。					全員
14	実習報告会(教材展示・実習ファイルの間覧を含む):次年度の実習履修者に伝えることの討議を通して、本実習のみならず、これまでの保育者に向かう自らの学びを振り返る。					全員
15	履修カルテを用いて、保育実習や小学校実習など、今後それぞれが向かうものに対する自己課題を明確にし、さらに、卒業までの自らの学びを計画する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
指導計画	30	15日間の実習にふさわしい量と内容の計画か。ねらいをもって、連続した展開で立案されているか。実習園の幼児の生活に合った指導計画か。		教材準備	30	遊びの展開と応答性をイメージした教材か。工夫してないに作られているか。材料や道具を考え用意しているか。実習園の幼児の生活に合った教材か。
授業参加態度	30	グループワークに積極的に参加し集団的に学んだか。		事後課題	10	報告会準備と事後提出物に、実習後の振り返りで得た自己課題が反映されているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
遊び(活動)のプランの作成:指導計画の立案とつくりなおし・教材研究をふまえた教材製作とそのつくりなおし・実習園訪問と実習協議・報告会準備 [すべて長時間を要する。グループでの取り組みも多く、実習園の都合に合わせて必要もあるため、高度な時間管理と段取りが求められる。]			適宜授業内でコメントする。必要に応じて個別に面談の時間を設ける。			
受講生に望むこと	保育できるスタイルで、保育者が身近に常備すべきものを持って参加する。 保育における「つくりなおし」の意味を理解し、厭わない。 保育と実習園に対して常に興味をもち、園には可能な限りボランティアとして出向き実習協議につなげる。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499		
指定図書/参考書等	なし/適宜紹介する。		その他・特記事項	無断欠席や提出物の期限が守られないことなど参加姿勢に社会人としての問題を認めた場合には、幼稚園教育実習 を取り下げることがある。指導計画や教材準備など、実習準備の不足によって、実習を取り下げることがある。実習 の取り下げ・中断の場合には、本科目の単位は出ないので注意すること。		

授業科目名	ET310U 小学校教育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓・姫野 俊幸・村井 万寿夫・幸 聖二郎 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目である。教育実習を履修するにあたり、必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。</p>			<p>実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 小学校について理解を深める。 実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 観察実習・参加実習・授業実習について理解し、学習指導案を立案できる。 実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 実習報告会を計画・運営・実施できる。</p>				
教授方法	講義、グループ討議、フィールドワーク						
履修条件	各教科の教育法の履修が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について理解する。					福江・幸、全員	
2	実習までの流れをもとに文部科学省と教育委員会と学校の役割とその関係について理解する。					村井、全員	
3	小学校における外国語活動と英語教育のあり方について理解を深める。					幸、全員	
4	低、中、高学年 それぞれの発達段階の違いについて理解する。					姫野、全員	
5	幼・保・小の連携の必要性について理解する。					福江、全員	
6	小学校における特別支援教育について理解する。					福江、全員	
7	小学校現場の一日の流れを理解する。					村井、全員	
8	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。					姫野、全員	
9	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。					村井、全員	
10	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を実例を通して理解する。					福江、全員	
11	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)					幸、全員	
12	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)					幸、全員	
13	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。					姫野、全員	
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。(グループ討議)手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。					全員	
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業態度	50	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいたか。		レポート/リフレクションカード等	50	毎授業ごとの内容を正確に把握し理解していたか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 各学校での公開授業に参加する。 実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。 				各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。			
受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的にプレ実習に参加すること。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 小学校教育実習 と兼ねる		
指定図書/参考書等	講義内で適宜紹介する。			その他・特記事項	実施回については、調整の上変更することがある。 第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。		

授業科目名	ET315U 小学校教育実習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓・姫野 俊幸・村井 万寿夫・幸 聖二郎 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校、または実習生の母校において実施するものとする。 学校現場におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深めることとする。</p>			<p>子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 日々の記録を適切に記録することができる。 教師としての仕事の魅力や職責に気付く。</p>			
教授方法	実習 参観 研究授業 教材研究 個別指導					
履修条件	小学校教育実習指導 を履修していること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。					
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。					
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。					
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。					
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。					
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。(本時における目標を明確に、板書計画も準備する)					
	研究授業を実施する。					
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。					
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。					
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。					
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。					
	他学年(特別支援学級等)の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。					
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。					
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。					
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
コミュニケーション能力	30	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか。		研究授業	40	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。				実習での反省や改善のための指導は、実習指導 における事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。		
受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。小学校教師を目指す熱意を十分に高め、例えば実習生であっても、子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 小学校教育実習指導 ・教科書と兼			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ET360U 中学校教育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業は、中学校教育実習のための事前及び事後指導である。1年次における中学校の英語授業参観や2年次におけるプレ実習（中学校免許取得を第1志望としている者のみ）の経験、及び英語科教育法～で学んだ理論や指導技術を統合し、現場で生かす実践力を身につける。また、現場での経験を省察しさらなる教師としての資質を向上させる。</p>			<p>教育実習の第1日目から最終日までをシミュレーションしながらイメージ化することができるようになる。 一時間の英語の授業を運営するための準備と工夫が手際よくできるようになる。 4技能別の指導技術を駆使しながら、英語を用いて英語を教えることができるようになる。 自分の授業のみならず、他者のものを観て、客観的に評価しながら授業を向上させることができるようになる。 教師としての、自分の資質を客観的に考察し、さらに一段上の資質を造り出す努力ができるようになる。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、模擬授業、					
履修条件	中学校（英語）の教育実習 を履修する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・心構え 本授業の到達目標を理解し、教育実習への心構えを新たにし、その責任と現在の自分がなすべき準備を知る					
2	教育実習の意義と目的 4週間の教育実習期間をシミュレーションしながら、英語科教科教育法～で学んだことを統合し、教育実習の目的と意義をディスカッションを通して共有する					
3	教育実習における「観察1」 生徒の登校から下校までの行動を観察することにより、学校全体の生徒指導や学級経営の一端を知ることができることを学ぶ					
4	教育実習における「観察2」 学校全体の行事や活動に目を向けることにより、学校が生徒に何を求めているかを知ることができる、ということことを学ぶ					
5	教育実習における「観察3」 学級担任の学級経営や生徒指導が教科指導等に与える影響を知る					
6	教育実習における参加と実践 学校全体の教育活動で教育実習生が参加・実践できる活動を知る					
7	授業実践 授業の準備、授業実践、評価と反省の具体的方法を再確認し、それぞれを確実にを行うためのチェックリストを作成する					
8	研究授業 研究授業の意義と目的を考えると同時に、授業研究や授業分析の方法を知る					
9	教育現場が教育実習生に求める資質を考え、ディスカッションを通して、教師としての自らの課題を知る					
10	英語科の教育実習生に求められる英語力を考え、ディスカッションを通して、英語教師としての自らの課題を知る					
11	模擬授業1 学級活動や学年集会を意識しながら、いじめに対する指導の実際を模擬体験する					
12	模擬授業2 学級活動や学年集会を意識しながら、不登校や保健室登校の指導の実際を模擬体験する					
13	模擬授業3 生徒指導上の問題（服装・盗難等）解決を意識しながら、生徒への具体的指導を模擬体験する					
14	中学校教育実習の報告会 中学校における教育実習の振り返り、及び来年度、教育実習予定者へのアドバイスと諸注意					
15	まとめ 本授業を通して学んだことを基に、中学校教師に求められる資質とは何かを各自が発表する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
ディスカッション	40	ディスカッションに積極的に参加したか		模擬授業	40	模擬授業の準備と与えられた課題への考え方
毎回の振り返りシート	20	授業内のポイントを把握しているか				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
市内の中学校のホームページを見て現場の様子をシミュレーションしてみる				返却時に行う		
受講生に望むこと	教育実習では、生徒の前でどういう話し、どういう反応を求めるのか真摯に考えてほしい。			教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業で資料を配布する。	
指定図書/参考書等	文部科学省のホームページでもよいので「中学校の学指導要領」を一読してほしい。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ET365U 中学校教育実習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・宮浦 国江 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>中学校教育実習指導で受けた事前指導に従って、北陵学院中学・高等学校または各自の出身中学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、指導技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。</p>			<p>コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つ。英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極める。</p>			
教授方法	9月に2週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。					
履修条件	中学校教育実習指導を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。					
	各実習校の指導計画を理解する。					
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。					
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。					
	生徒を指導するに必要な専門的技術や能力を身につける。					
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。					
	中学校において指導する教科(英語)の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。					
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。					
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみること。					
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目		教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。				教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。		
受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。			教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ET370U 中学校教育実習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・宮浦 国江 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>中学校教育実習指導で受けた事前指導に従って、北陵学院中学・高等学校または各自の出身中学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、指導技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。</p>			<p>コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つ。英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極める。</p>			
教授方法	9月に2週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。					
履修条件	中学校教育実習指導を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。					
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。					
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。					
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。					
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身につけたかを記録する。					
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにもどのような機会があるかを考える。					
	中学校において指導する教科(英語)の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。					
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。					
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみる。十分に運営できないことを再度、試みる。					
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できないことを再度、試みる。					
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できないことを再度、試みる。					
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できないことを再度、試みる。					
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できないことを再度、試みる。					
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できないことを再度、試みる。					
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できないことを再度、試みる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目		教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。				教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。		
受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。			教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 外国語編」 文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ET230U 保育実習指導 (保育所)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代・高村 真希 (代表教員 谷 昌代)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習 (保育所実習2単位)を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場に対する理解を深める。具体的には保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本姿勢、年齢・発達段階に応じた子ども理解・実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後実習では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習 または保育実習 に臨む。</p>			<p>保育実習の意義と目的を理解している。実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>			
教授方法	講義・演習・ディスカッション・発表					
履修条件	幼児教育・保育コース所属の学生以外は履修できない。「保育実習 (保育所)」を履修中、「保育実習 (施設)」を履修済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：受講マナー・保育実習の意義 (1) 保育所実習の意義と目的・保育実習の概要・保育士の責務について理解する。プレ実習 (富樫子ども広場・実習先保育所)とプレ実習記録作成について理解する。					谷・高村
2	保育実習の意義 (2)：授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。個人票を作成する。					谷・高村
3	実習の内容 (1)：年齢別の発達・保育所の一日の流れを理解する。幼稚園と保育所の違いを理解する。					谷・高村
4	実習の内容 (2)：年齢別保育と異年齢保育・統合保育、インクルーシブ保育を理解する。実習先保育所のレポートを作成する。					谷・高村
5	保育実習生として (1)：保育園園長の講話「保育所の機能・保育士に必要な資質・実習性に望むこと」を聴き、準備に活用する。(日程・テーマは変更する可能性がある)					谷・高村
6	保育実習生として (2)：保育所保育指針について、保育所における子どもの人権と最善の利益について考える。また、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構えを学ぶ。[グループワーク]					谷・高村
7	実習における記録 (1)：実習日誌の使い分け・記入上の注意・観察・記録・評価についての確認。実際に記録を作成し、「個と集団」の観点から幼稚園実習との違い・共通点を考える。					谷・高村
8	実習における記録 (2)：エピソード記録・記述の特徴と違いについて。実際に2種類の記録を作成する。					谷・高村
9	事前訪問 (1)：実習先保育所の保育方針・概要を理解する。(子どもの姿を観察してくる) 実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。					谷・高村
10	事前訪問 (2)：実習先保育所での実習内容を確認し、オリエンテーション記録を書いて提出する。					谷・高村
11	プレ実習 (1)：実習先保育所の環境・保育の流れを把握する。担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材・手作り教材を準備し、実践する。					谷・高村
12	プレ実習 (2)：実習先保育所の担当クラスと子どもたちの様子を把握する。発達・年齢に対応した関わりを考える。保育士の関わりから学ぶ。					谷・高村
13	指導計画の立案と記録：実習先の保育形態・年齢に合わせた指導計画を作成する。また、個別な関わりを中心とした部分実習の指導計画を作成し、実演・実践してみる。[グループワーク]					谷・高村
14	保育所実習直前指導：実習中の諸注意確認。指導計画の修正・実演。[グループワーク]					谷・高村
15	保育所実習事後学習：アンケート記入・実習を通しての自己の学びを振り返る。(自己評価・履修カルテ記入) 各園による多様な保育の形態や多様な子どもの姿を理解する。[グループワーク]					谷・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	実習の目的を明確に理解している。主体的に討議に参加している。保育士の職務や保育を理解しようとしている。実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	課題を期日までに提出している。課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。実習日誌の書き方を理解している。指導計画を作成することができる。
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>プレ実習に積極的に参加し、様々な子どもの姿を事前に見て理解する。具体的な参加方法は授業で説明する。(実習先保育所・子ども広場) [240分×8] 事前訪問やホームページを活用して、実習先について概要をまとめ、レポートを提出する。 [120分] 実習日誌のモデル案従って日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。 [60分] 実習で求められる教材を実演できるように、作成・練習しておく。(手遊び・絵本・視聴覚教材 (手作り教材)・季節に合った歌やゲーム・活動・製作など) [90分] 実習園に限定せず、子育て支援・障がい者支援などのボランティアに参加する。 [240分]</p>			個別指導及び授業内での振り返りを行う。			
受講生に望むこと	「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習指導」も同時に履修することが望ましい。保育士が子どもの成長・安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて理解するように努めること。		教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『保育所保育指針』厚生労働省 I S B N 978 4 577 81448 2 必要に応じてプリントを配布する。 		
指定図書/参考書等	なし / 保育士のための福祉施設実習ハンドブック 小野・澤昇・田中利則編著 ミネルヴァ書房 2011 I S B N 978 4 623 06003 0		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 委託費など実習にかかる費用についての詳細は1回目の授業で説明する。 無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。 		

授業科目名	ET320U 保育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代・高村 真希 (代表教員 谷 昌代)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育実習指導 で学んだ知識及び保育実習 で体得した学びを土台として保育実習 を行うための、事前指導・事後指導の授業である。事前指導では、保育実習 を通じて得た学びと自己課題を明確にし、保育実習 では保育士の専門性についても理解を深める。保育実習 と同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。</p>			<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。保育の観察・記録・自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。保育士の専門性と職業倫理について理解している。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。</p>			
教授方法	講義・演習・ディスカッション・発表					
履修条件	「保育実習 (保育所)」「保育実習指導」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	保育実習 (保育所)における自己課題を整理し、実習 に向けて準備を行う。					谷・高村
2	子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。					谷・高村
3	子どもの保育と保護者支援について : 多様な保護者支援のあり方を知る。保護者支援についてレポートを作成する。					谷・高村
4	子どもの保育と保護者支援について : 実習園での状況とレポート作成の視点を話し合う。保護者の求める支援と現実に行っている支援について考え、今後の保護者支援における課題を考える。[グループワーク]					谷・高村
5	保育実習日誌について : 時系列・エピソード記録・エピソード記述の視点、書き方を理解して作成し、提出する。子どもに寄り添い感じ取る、子どもの姿から背景・文脈などを読み取ることについて考える。					谷・高村
6	保育実習日誌について : 保育所保育指針を参考にし、発達の観点をとらえ、ねらいを明らかにして指導計画を作成する。添削後の日誌を修正する。					谷・高村
7	実習先保育所の事前訪問: プレ実習の日程を確認する。子どもの姿を観察し、教材や各計画の準備に入る。					谷・高村
8	保育所事前訪問記録作成・実習課題の準備を行う。子どもに寄り添い深く読み取ることについて考える。					谷・高村
9	保育士の専門性と職業倫理について考える。現職保育士の講話を聴き、学びのレポートを作成する。					谷・高村
10	保育実習 の指導計画を振り返り、保育実習 の部分実習や一日実習に向け指導計画についての理解を深める。指導計画案を作成し、提出する。今までの実習を振り返り、自己課題(苦手だった活動・保育技術等)を見直し、実践してくるよう計画に入れる。					谷・高村
11	作成した指導計画を基にグループディスカッションを行い、必要に応じて修正する。また、個々の子どもに応じた関わりあい・関わりについて考える。[グループワーク]					谷・高村
12	実習事後学習: 実習終了アンケートの作成・実習記録・レポートを基に自己の実習を振り返る。[グループワーク]					谷・高村
13	実習事後学習: 保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善について考える。報告会の準備をする。[グループワーク]					谷・高村
14	実習報告会に参加し、他の学生と学びを共有する。レポートを作成する。					谷・高村
15	保育士としての自己課題を明確にする。(実習評価の伝達と履修カルテの記入)					谷・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	実習の目的を理解している。主体的に討議に参加している。表現技術を身につけ実践しようとしている。保育士の職務や専門性について理解している。実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	課題を期日までに提出する。課題内容を理解し教材や指導計画を工夫して作成している。実習日誌の書き方を理解し、目的に応じて書き分けることができる。保育の現場に適した指導計画を作成することができる。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>保育実習 で課題となった保育技術を磨く。家庭でも練習や復習を行う。[240分] 実習先でのプレ実習に参加し、記録を書く。回数や期間は授業内で指示する。[240分] 子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作、手作り教材による活動など、事前に準備しておくこと。[早めにとりかかり準備する] 指導計画案を作成する。[240分] 授業内で出された実習日誌の作成課題をする。[240分]</p>			指導計画の実演紹介等、に対する助言指導。			
受講生に望むこと	<p>「保育所実習」で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 保育士に求められる技能や知識、資源を自ら高める努力をすること。 「保育内容・健康」「保育内容・人間関係」「保育内容・環境」「保育内容・言葉」「保育内容・表現」「児童家庭福祉論」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的職能内容」の授業に関連づけて、理解するよう努めること。 子どもの育ち、遊びによる学びが乳児から幼児期、学童期と繋がりをしていることを意識して子どもの姿をとらえてほしい。</p>			教科書・テキスト	<p>・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 I S B N 978 4 577 81448-2 ・授業でプリントを配布するので、各自A4件のファイルに保管すること。</p>	
指定図書/参考書等	なし/なし(授業内で紹介することもある)			その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。	

授業科目名	ET330U 保育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「保育実習（施設）」を基礎におき、施設理解を深めるために、自らの課題を考察する。作成した実習テーマ、実習計画、ねらい、課題について指導を受け、また実習に入ってから指導者より受けるスーパービジョンの性格、内容などを理解する。実習終了後の事後学習により、評価できる点、反省点などを整理することにより、専門職としてのあり方を考察する。</p>			<p>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培っている。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解している。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化できる。</p>			
教授方法	児童福祉施設の実際について、教員よりの講義、ワークシート作成、各機関におけるフィールドワーク、グループディスカッションなどにより課題を明らかにする。					
履修条件	「保育実習（施設）」を履修済であること。原則、児童福祉施設・障害者支援施設への就職を指向する学生であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	本学で学ぶ児童福祉関連の各科目と実習の関係を理解する。ボランティアと実習の違い、体験学習と実習の違い、配属実習を行う意味を理解する。					虹釜・齊藤
2	施設や利用者（家族を含む）の、地域や社会との関係理解を深め、施設の機能としての地域社会への働きかけ、地域貢献のあり方を理解する。					虹釜・齊藤
3	子ども・利用者の入所経路（特に、児童相談所・福祉事務所の果たしている役割など）や入所理由など社会的背景を学び、その中で施設の果たしている役割、機能を理解する。					虹釜・齊藤
4	関係機関の役割、施設との関係について深く考察し、関係機関資料の収集方法や課題などを理解する。					虹釜・齊藤
5	子ども・利用者のケーススタディ（ケースの背景を理解し、子ども・利用者の課題に対する支援法及び援助技術の検討）を行う。これをもとにして、子ども・利用者の支援のあり方を学ぶ。					虹釜・齊藤
6	保育士とソーシャルワークについて学ぶ。施設を利用している子ども・利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を知り、ソーシャルワーク援助技術についての理解やソーシャルワーカーとの連携を理解する。					虹釜・齊藤
7	児童福祉の専門職資格を学び、保育士資格の意義目的などを理解する。実習前に修得すべき内容を整理し、他の児童福祉分野、他職種との連携を理解する。					虹釜・齊藤
8	実習に臨むに際しての学習計画、実習計画を策定し、それに伴う必要事項を理解する。実習前の事前学習として利用者に関する二一、機能を明確にする。					虹釜・齊藤
9	公文書としての実習記録の意味、まとめ方を考察する。逐次記録の作成方法、事実記録（要約）文と感想文及び考察文の書き分け。					虹釜・齊藤
10	事前訪問を行い、施設構造、機能、サービス内容、利用者の特徴、活動状況などを正確に理解し、事前訪問記録を作成する。					虹釜・齊藤
11	事前訪問で学んだことの報告を行なう。他の学生が訪問した施設の現状を学び、再度疑問点、課題などを整理する。					虹釜・齊藤
12	保育士・支援員の支援について、その必要性と支援内容を対比して実習で何をどのように学ぼうとしているのかなどの課題確認を行う。					虹釜・齊藤
13	ディスカッションを行う。実習内容の疑問、ジレンマ、評価できた点などを相互に、自由に語り、聴いて内容を共有する。そこから学ぶべき点、自らの実習と対比させて実習について自己評価を行う。					虹釜・齊藤
14	多様な実習体験内容を事後学習により、経験知として積み上げる意義や方法を理解する。実習において未解決であった課題を共有し、事後学習の取り組みの中で解決方法を探究する。					虹釜・齊藤
15	事後報告会に参加し、自らの実習と対比させて考察する。					虹釜・齊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
講義参加姿勢	50	実習の目的を明確に理解している。主体的に討議に参加している。保育士の職務や保育を理解しようとしている。実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	課題を期日までに提出する。課題内容を理解して、工夫して取り組んでいる。実習日誌の書き方を理解している。指導計画を作成することができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
原則、「保育実習（施設）」での実習施設とは異なった種別の施設で実習する。そのため、実習施設などにて体験学習としてのボランティア等の活動などから、実習テーマを明確にすること。施設実習先は社会的養護関係施設、障害者支援施設・就労支援施設など多岐にわたるため、各自の実習施設の目的・機能についてまとめる。〔240分〕施設実習は「生活を通しての治療」という性格が強く、実習生の日常生活や姿勢・態度など、自らの姿が実習そのものに大きく影響することを考察する。〔60分〕実習報告会に向けて、各施設が有する課題及び問題解決の方法を考察する。〔120分〕			事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	実習施設は多岐にわたっているため、保育実習（施設）での内容が経験知として積み上がらない場合がある。保育実習（施設）はより専門性が求められるハードな実習であり、自分の実習配属先施設の情報、テーマに関する先行研究、文献、他のメディアなどを通して収集する努力が求められる。		教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に「実習ハンドブック」などの資料配付を行う。		
指定図書/参考書等	なし/『保育実習指導のミニマムスタンダードVer2』-協働する保育士養成-、全国保育士養成協議会編、中央法規、ISBN978-4-8058-5686-4		その他・特記事項	委託費など実習費用約15,000円が必要となる。詳細は初回講義時に説明する。無断欠席・遅刻や課題未提出がある場合、実習を認めない。		

授業科目名	ET335U 保育実習（施設）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊（代表教員 虹釜 和昭）					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>実習期間として設定した12月上旬から中旬に、10日間（90時間）の施設実習を行う。実習施設は、大学より実習を依頼した北陸三県における児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習する。</p>			<p>児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p> <p>1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化できる。</p>			
教授方法	児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習を行なうとともに実習指導担当職員、および担当教員による巡回指導を受ける。					
履修条件	「保育実習（施設）」を修得済であること、及び「保育実習指導」を履修中であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	施設種別の理解、提供されているサービス内容を把握する。					虹釜・齊藤
2	職員の役割、業務内容と専門性を理解する。					虹釜・齊藤
3	実習施設にて実践されている保育・養護などの支援体制、技術を理解する。					虹釜・齊藤
4	実習施設の地域における位置づけや地域との関係を理解する。					虹釜・齊藤
5	生活場面における指導のあり方、子どもとの関係性を理解する。					虹釜・齊藤
6	入所児童及び利用者の家族と職員のコミュニケーションについて理解する。					虹釜・齊藤
7	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。					虹釜・齊藤
8	自立支援計画の概要、記入などについて職員の方より指導を受ける。					虹釜・齊藤
9	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。					虹釜・齊藤
10	行事及び活動などの計画を考察し、自らプランを立ててみる。					虹釜・齊藤
11	実習記録の記載について、事実経過の描写・解釈の書き分け及び解釈理由を考察する。					虹釜・齊藤
12	実習前の自らの施設観と実習後半の違いを考察する。					虹釜・齊藤
13	実習のふり返りを行い、基幹的職員、実習指導担当者による反省会から自らの問題点などを考察する。					虹釜・齊藤
14	実習担当者のスーパービジョンの内容を考察し、自己評価を行う。					虹釜・齊藤
15	実習を通じて学んだことより、児童福祉施設等のありかた、将来像を考察する。実習報告会に参加・発表する。					虹釜・齊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先の評価	50	実習指導時に配付する評価表における項目ごとに評価する。		巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回時における面談内容、施設担当者よりのヒアリングについて評価する。
実習記録・レポートなどの提出物	20	<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習に「実習課題」をもって臨んでいる。 実習内容について自己評価ができている。 実習することによって、これからの課題が明確になっている。 				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。〔30分〕 実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。〔50分〕 「経験」としての実習であり、個人と環境を取り巻く相互作用であることを意識する。</p>				事後指導において、実習内容などの講評を行う。		
受講生に望むこと	<p>「保育実習」では、施設の持つ「専門機能」を理解し、社会的役割・使命という視点から考察することが求められる。また、職員の「専門性」である、個々の職員が有する資質・能力、職種として求められる最低限の知識とは何か、について咀嚼されたい。施設機能は未分化の部分（日常性が表出していて、その背景にある専門性が見えにくい）が多くあるが、体系的に施設理解が出来るような努力が求められる。</p>			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に「実習ハンドブック」などの資料配付を行う。	
指定図書/参考書等	なし/保育実習指導のミニマムスタンダード。全国保育士養成協議会、北大路書房、ISBN978-4-7628-2583-5			その他・特記事項	事前学習、実習中の学習、事後学習の連続性を理解すること。	

幼児児童教育学科
(4年次)

授業科目名	EK305U 専門ゼミ			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・伊藤 雄二・大井 佳子・虹釜 和昭・田邊 圭子・多保田 治江・中島 賢介・姫野 俊幸・宮浦 国江・村井 万寿夫・永山 亮一・齊藤 英俊・福江 厚啓・向出 圭吾 高村 真希・谷 昌代 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
専門ゼミの最終段階として専門ゼミIに引き続き、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究を深める。具体的には口頭発表の方法(効果的な発表方法、プレゼンテーション技術等)を身につけ、調査研究、文献研究、ゼミ生相互の検討、意見交換などを通して、レポート執筆などを行う。大学での学びを集約し、その成果を専門ゼミ レポート(16000字程度:該当年度1月下旬締切)としてまとめるとともに、卒業後の課題の探求姿勢を身につける。				各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。専門ゼミ レポート(または作品と副レポート)の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。研究内容をまとめ、効果的に発表することができる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う						
履修条件	「専門ゼミI」の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	専門ゼミ の運営についてのオリエンテーションなどを行う						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
22	ゼミ内中間発表を行う						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員

授 業 計 画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う	各担当教員
29	ゼミ内で、専門ゼミ 発表会のリハーサルを行う	各担当教員
30	専門ゼミ レポート発表会を行う	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している	レポート作成	70	計画的にレポートを作成し、作成要領に従って期日内に提出している
レポート発表	20	専門ゼミ レポート発表会において、レポート内容を効果的に発表している			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する。[90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかりと受け止め、納得のいくゼミレポートを作成してください。		教科書・テキスト	ゼミでの指定による	
指定図書/参考書等	なし/ゼミでの指定による		その他・特記事項	専門ゼミ とともに卒業研究を履修した場合には、卒業研究(卒業論文)の作成により専門ゼミ レポートの作成は不要とします。	

授業科目名	EK360U 卒業研究			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎・宮浦 国江・多保田 治江・大井 佳子・虹釜 和昭・中島 賢介・田邊 圭子・永山 亮一・向出 圭吾・齊藤 英俊・伊藤 雄二・高村 真希・福江 厚啓・姫野 俊幸・村井 万寿夫・谷 昌代 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
4年間の学びの集大成として、学習内容を論理的・体系的にまとめ、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。指導方法としては、担当教員の専門分野に分かれ、個別指導のもとに展開し、卒業論文または卒業作品としてまとめる。				各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 卒業論文や卒業作品(作品と副論文)の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 学習内容を論理的・体系的にまとめ、効果的に発表することができる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる						
履修条件	「専門ゼミ」を履修し、単位を修得済みの者。3年次終了時点で累積GPA2.5以上を確保していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	卒業研究の運営についてオリエンテーションを行う						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
22	ゼミ内中間発表を行う。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う						各担当教員

授業科目名	EK350U 初級教と教育			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	必修	選択必修	
担当教員名	楠本 史郎・中島 賢介 (代表教員 楠本 史郎)								
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義		
他学科の履修	不可	関連資格	なし						
授業の概要					授業の到達目標				
<p>キリスト教世界では旧・新約聖書の人間観に基づき、子どもは神に創造され、愛される尊い人格として重んじられる。その人格を養育するために、キリスト教保育・教育は重要な役割を担ってきた。その努力と経験、知見の上に、近代の保育・教育理論は建てられている。本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち戻り、子どもの人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育のあり方、またそれに続くキリスト教小学校教育との連携のあり方、それぞれの基本を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、礼拝および聖話、聖劇ページェント、音楽・賛美歌、自然環境など、各領域で体験・実践する。キリスト教保育の特徴である賛美歌を理解して歌い、祈りを作成し祈る。</p>					<p>・保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の間人観があること、その重要性を理解している。 ・保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解している。 ・キリスト教保育・教育の実際に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、同時に子どもの集団形成の視点を知り、説明できる。 ・礼拝のお話を作り、子どもに語ること、子どもとともに祈ること、幼児賛美歌・こども賛美歌を理解して歌い、伴奏すること、聖劇を作り演じること、自然環境に親しみ、それを保育・教育に活かすことを経験し、その準備、実行、振り返りの流れを理解している。 ・子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育の役割と小学校教育への接続の課題を説明できる。 ・幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、意欲を持つ。</p>				
教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、聖話および聖劇の制作・発表、自然体験などによる								
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目を履修していることが望ましい。								
授業計画									
実施回	授業内容・目標								担当教員
1	ガイダンス 授業予定、祈りと賛美歌伴奏についての説明など。教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と意義を学ぶ。キリスト教保育・教育者としてのオーベルラン、ペスタロッツ、フレーベル、モンテッソーリなど。								楠本・中島
2	キリスト教保育・教育の基盤である聖書の人間観および、それに基づくキリスト教的発達観を学ぶ。創世記第1章・第2章、マルコ10章など。なぜ、この一人が大切なのかを聖書から学び、「自己肯定感」について考える。								楠本・中島
3	キリスト教保育とは、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」自由な保育である。その内容と実際、また課題を、現場の保育実践から学ぶ。保育における「遊び」の意義を知り、理解する。								楠本・中島・幼稚園教諭
4	キリスト教保育の実際について、現場の保育者から学ぶ。「キリスト教保育の喜び」を主題にシンポジウムを行い、学生と交流し、保育の喜びと課題を分かち合う。								楠本・中島・幼稚園教諭
5	「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育について振り返り、重要な点について話し合い、課題を整理する。子ども同士の衝突やトラブル、保護者への対応の基本について、学ぶ。								楠本・中島
6	キリスト教小学校の実際について、北陸学院小学校教諭から、「キリスト教小学校教育の喜び」という主題で話を聞く。学生と交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。保育と小学校教育の相違と継続について考える。								楠本・中島・小学校教諭
7	キリスト教保育と小学校教育の連携について学ぶ。小学校入学までに育っていることが望ましい子どもの姿とは何か。幼児から青年期までの発達段階全体を踏まえて、そのなかでの幼児教育の役割を確認し、小学校との連携の実際を学ぶ								楠本・中島
8	キリスト教保育における礼拝。聖書のお話（聖話）を作る。指定された聖書の物語の読み方、理解の仕方、礼拝におけるお話の作り方、話し方などについて学ぶ。平和、性、安全・健康、国際理解などの主題を意識しながら、各自でお話を作ってみる。								楠本・中島
9	キリスト教保育における礼拝 聖書のお話を実際に話してみる。良かった点と課題を確認し合い、分かち合う。その上で修正を加え、お話し集や絵本を作成する。								楠本・中島
10	幼稚園の降誕劇を視聴し、聖劇作成の要点を確認する。グループに分かれ、指定された聖書の物語を題材に、聖劇台本を作り、提出する。聖書の物語の読み方、理解の仕方、台本の作り方、演じ方などについて学ぶ								楠本・中島
11	賛美歌の歴史、意味、歌い方について学ぶ。幼児さんびか、子どもさんびかを理解し、伴奏し、実際に歌う。子どもが賛美歌を歌う意味を学ぶ。								楠本・中島
12	グループによる聖劇の発表を行う。良かった点と課題を確認し合い、分かち合う。その上で修正を加え、劇台本集を作成する。								楠本・中島
13	キリスト教保育にとって、自然は神が創造し、人間に与えられた重要な環境であり、保育・教育の重要な要素である。その自然に実際に触れる。保育・教育の素材を探し、どんな自然物をどう使うことができるか、考え、体験する。								楠本・中島
14	自然環境から素材を選び、保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。自然体験レポートを作成し、提出する。								楠本・中島
15	キリスト教保育・教育について的小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめ。								楠本・中島
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	20	講義での発言、グループ活動への参加、発表や賛美歌伴奏の積極性			提出物	30	祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄		
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度			小テスト	25	キリスト教保育・教育についての理解度		
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。〔15分〕 提出物（聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど）を作成し、提出する〔60分〕 音楽練習、祈りの作成など、授業に臨む準備をする〔30分〕</p>					<p>毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。</p>				
受講生に望むこと	受け身ではなく、主体的に授業に参加すること 旧・新約聖書、賛美歌集を持参すること 遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること				教科書・テキスト	『新共同訳聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局			
指定図書/参考書等	『キリスト教保育』2007年 聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年、キリスト教保育連盟、「キリスト教保育」誌 キリスト教保育連盟、各種絵本など				その他・特記事項	通常授業時間以外に、野外実践を2コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること			

授業科目名	EE350U 小学校英語科教育法		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二 (代表教員 宮浦 国江)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は小学校教諭一種免許状の「または科目」である。本講義では小学校英語科教育法・IIで学んだことを発展させ、実際の授業場を想定して指導案を作り、教材を使って模擬授業を行いながら実践的指導力をさらに高める。英語母語話者と共にチームティーチングを準備から行い、ALTとの協同作業による授業実習を行う。			子ども英語教育に関する知識を習得する。 学んだ教授法を実践と関連付けて考えることができる。 第一言語習得と第二言語習得の違いが分かる。 子ども英語指導に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導する態度を持つ。 あらゆる場面で見られる子どもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 。クラスルームイングリッシュを適切に用いて英語母語話者とコミュニケーションを図ることができる。				
教授方法	講義・演習・実習・ディスカッション						
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者で「小学校教育実習」と「小学校英語科教育法I・II」の単位を履修済みであることが望ましい。英語力がSTEP英検2級相当以上ある者が望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、小学校英語教育実習(5月中1週間)について説明を受け理解する。小学校英語科教育法I・IIで学んだことを振り返り、重要な点を再確認する。					宮浦・伊藤	
2	授業づくり--事前準備から振り返りまで 小学校英語教育実習について割り当ての発表および指導案作成について学ぶ。					宮浦・伊藤	
3	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチングに向けて模擬授業1回目					宮浦・伊藤	
4	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチングに向けて模擬授業2回目					宮浦・伊藤	
5	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチングに向けて最終確認と授業準備					宮浦・伊藤	
6	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第1日(割り当てられた学年の指導)					宮浦・伊藤	
7	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第1日(割り当てられた学年以外のクラスの授業参観・支援)					宮浦・伊藤	
8	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第2日(割り当てられた学年の指導)					宮浦・伊藤	
9	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第2日(割り当てられた学年以外のクラスの授業参観・支援)					宮浦・伊藤	
10	小学校英語教育実習での学びについての振り返り					宮浦・伊藤	
11	言語材料と4技能の指導					宮浦・伊藤	
12	評価のあり方、進め方					宮浦・伊藤	
13	ALTとのチームティーチングの好ましいあり方を考える					宮浦・伊藤	
14	外国語活動の成果、課題と今後の展望について学ぶ					宮浦・伊藤	
15	まとめ：これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする					宮浦・伊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加貢献状況	25	予習として教科書を読み、ポイントをまとめたか。課題意識を持って意欲的に授業に参加し、質問や発言をしたか。授業実践に向けて自律的に準備を行ったか。		授業実践	50	ねらいに沿った指導案と授業運営をしたか。チームティーチングの準備をきちんと行ったか。児童を観察しながら授業を進めたか。日本人教師としての役割を果たし、母語話者の特性も活かしたか。	
自己省察・ディスカッション	25	小学校英語科教育法I・II・IIIで学んだこと、ALTとのチームティーチング実践を振り返り、これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
予復習をしっかりと行うこと[50分]。 クラスルームイングリッシュ・英会話を頻繁に使用し英語運用力の向上を図ること[40分]。 担当する小学校の授業を参観し児童理解を深め、授業運営を把握しておくこと。 模擬授業の際は十分な時間をかけて準備し、リハーサルをして臨むこと。 ALTとの打ち合わせは効率よく行うこと。				返却時に行う			
受講生に望むこと	意欲的に取り組むこと。 英語にひるまず英語力を高めるチャンスととらえること。 英語力を高めるため、英語力測定を定期的に行うこと。			教科書・テキスト	『新編小学校英語教育法入門』樋口忠彦(代表)編著研究社 2017年 ISBN 978-4-327-41098-8 2018年度小学校英語科教育法 . . . と同じ教科書を使用 小学校英語科教育法 . . . で配布した資料 適宜配布するハンドアウト		
指定図書/参考書等	なし/子ども英語関連書籍			その他・特記事項	5月の小学校模擬授業(日程は講義内で指示する)合計10時間分は自分の担当以外の授業も全て参加する。この間はアルバイト等自己都合の用事を入れず、実習に集中すること。詳細は1時間目にハンドアウトを用いて説明をする。		

授業科目名	EE360U 教育相談			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童・生徒への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童・生徒の理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。				教育現場に出る際にどのような教育相談活動を展開すべきかについて十分に考察を深め、自分なりの考えを持てること。教育相談の具体的方法を知り、幼児・児童・生徒の支援における留意点についても理解することができること。			
教授方法	演習、講義、ディスカッション。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える						
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める						
3	自閉症スペクトラム障害：自閉症スペクトラム障害（自閉症）の特徴について理解を深める						
4	限局性学習障害：限局性学習障害（学習障害）の特徴について理解を深める						
5	注意欠如多動性障害：注意欠如多動性障害（注意欠陥多動性障害）の特徴について理解を深める						
6	不登校：不登校について理解を深める						
7	いじめ：いじめについて理解を深める						
8	非行：非行について理解を深める						
9	虐待：虐待について理解を深める						
10	自殺：自殺について理解を深める						
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める						
12	抑うつ障害：うつ病の特徴について理解を深める						
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する						
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める						
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。 毎回、相当量の予習と他者と協力して取り組む演習が不可欠であることを承知の上で受講すること。			教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	EC300U 選択音楽			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	多保田 治江						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「音楽」で身に付けた知識や技能をさらに高める授業である。歌唱や楽器の土台となる音楽理論やソルフェージュに加え、指揮法についても学ぶ。また、保育現場や小学校の授業で必要とされる歌唱教材の弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。</p>				<p>小学校音楽科の指導内容について理解するとともに、その背景にある音楽とのつながりについても理解している。子どもの音楽表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。歌唱教材の弾き歌いとリズム曲が演奏できるようになる。</p>			
教授方法	実技指導						
履修条件	「音楽表現」、「音楽表現」、「器楽」、「音楽」「音楽科教育法」または「保育内容・表現」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	楽典：譜表と音名・音符と休符 視唱・視奏：八長調						
3	楽典：リズムと拍子・音程 視唱・視奏：八長調						
4	楽典：音階 発表						
5	楽典：和音とコードネーム 視唱・視奏：ト長調						
6	楽典：主要三和音 視唱・視奏：ト長調						
7	楽典：記号・用語 発表						
8	楽典：編曲 視唱・視奏：ヘ長調						
9	楽典：作曲 視唱・視奏：ヘ長調						
10	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法・・・4分の4拍子 発表						
11	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法・・・4分の4拍子						
12	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方・・・4分の2拍子						
13	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方・・・4分の3拍子						
14	指揮法：合唱曲 発表						
15	指揮法：合奏曲						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組みと内容（「受講生に望むこと」欄を参照）			発表	40	発表内容
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[30分] 次回授業のための課題について準備をして下さい。[60分]				課題は、次回に個人指導します。。			
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んでください。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・山下薫子編著 教育芸術社 2015年 ISBN978-4-87788-491-8 / プリント		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ET350U 教職実践演習(幼・小・保)		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大井 佳子・姫野 俊幸・村井 万寿夫・福江 厚啓・向出 圭吾・高村 真希・谷 昌代(代表教員 大井 佳子)						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得のための必修科目で、4年間の学びの集大成として位置付けられる。テーマにより合同授業とコース別授業を行い、いくつかの学外体験を通じて自身をみつめる機会を重ねる。発表やディスカッションなど学生の主体的活動で構成する授業である。</p> <p>保育者・教師として必要な資質・能力について、各自の4年間の履修内容の振り返りと協働の実践によって、自身の到達と課題を明らかにする。</p> <p>金沢市包括連携事業での協働の実践は、幅広い年齢層の子どもを対象に、異なる免許取得予定者と協働で行う学校間連携やチーム学校、そして地域との連携の実践として広い視野で実践をとらえる。市内小中学校の一言学校公開週間や「いしかわ教育ウィーク」の公開授業、研究授業への参加など、自身の取得免許と異なる校種の参観を含め、子どもをめぐる状況を俯瞰的に理解する。1年次での「地域社会と子ども」における参観と照らし合わせ、自身の子どもを見る目、保育・教育を見る目の変化を確認する。</p> <p>現場において理解が求められる今日的課題について集中的に協議し、得意分野をもつ個性豊かな教師として成長していくことを目指す。</p>			<p>小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格の取得に関わる履修と4年間の大学生生活を振り返り、教師・保育者としての成長と自己課題を明確にしている。</p> <p>今までの実習体験や本授業での語ワークを踏まえて教師・保育者の今日的役割とその責任を把握している。</p> <p>教師・保育者としての使命感や責任感、社会性や協働する力、子どもを理解する力や集団を運営する力、教科や保育内容についての指導力について自身の到達を把握し、高めようとしている。</p>				
教授方法	グループディスカッション・子どもを対象とした実践(あるいは模擬保育・授業)・ロールプレイ・講義						
履修条件	資格取得に必要な実習を含む全科目の単位を修得し、資格取得見込みであること。(備考欄参照)						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と授業内容。グループ討議:協働の実践(実践内容については前期にガイダンス)を振り返る。					全員	
2	グループワーク:授業を含む体験をカリキュラムマップに作成・・・レポート 学びの連続性から見る自身の学びの軌跡と自己課題					全員	
3	グループワーク:カリキュラムマップを用いた発表と討議 次の協働の実践に向かう自己課題をマップに補充(補充後提出)					全員	
4	グループワーク:再実践(大学祭あるいは学外でのお話広場を予定)に向けて、協働して指導計画を作成・・・レポート 二つの実践から得る「見直し」の意義(PDCAの実践)					全員	
5	保護者との連携(グループワーク):保護者の思いを想像し、自分なりの対応を考える。					全員	
6	保護者との連携:発達障害をもつ子どもの保護者の語りから親の心情について考える。					全員	
7	保護者との連携(ロールプレイ):保護者の思いに添う相談や苦情への対応・・・レポート 5回・6回・7回の授業から得る「保護者との連携」					全員	
8	グループワーク:学校公開参加からの討議・・・レポート 「園・小学校に求められる今日の課題」					全員	
9	グループワーク:教職の意義・役割・職務内容、子どもへの対応等にかかわる今日の課題について討議。深めたい4つのテーマと各回答者提供者を決定					全員	
10	求められる力(免許種別グループワーク):グループで設定した課題A ミニレポート作成					全員	
11	求められる力(免許種別グループワーク):グループで設定した課題B ミニレポート作成					全員	
12	求められる力(免許種別グループワーク):グループで設定した課題C ミニレポート作成					全員	
13	求められる力(免許種別グループワーク):グループで設定した課題D ミニレポート作成					全員	
14	ラウンドテーブル・グループ討議:キリスト教教育の視点から、本学での教育・保育についての学びを振り返る。					全員	
15	まとめの討議:「私のめざす教師・保育者像」・・・14回・15回討議をレポート にまとめる。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	必要な準備をして、積極的に授業に参加している。希望資格に必要な資質を把握し、演習に取り組んでいる。		レポート	50	各課題レポートの課題意識が明確であり、学んだことが体験やエピソード、あるいは出典を示して丁寧に整理され、自らの考察と考察に至る筋筋が明確である。	
協働の実践	20	グループメンバーとの協働の過程で自身の力を発揮している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
履修カルテの必要事項の記入。これまでに履修した科目のシラバスの見直し実習ファイル・授業レポート等を整理し、必要に応じて参照できるよう準備。事前に示される協働の実践(金沢市との包括連携事業・教育プラザ富樫わいわいバザールでの実践等)の準備と当日の参加(特別な理由がある場合は代替の実践)と「とび出すおはなしBOX」(予定)での協働の実践の準備と当日の参加(特別な理由がある場合は代替の実践)その他、授業で案内される校外活動への参加学校公開・保育参観各レポートでは、具体的な体験エピソードに基づいて自己を問う考察を行うこと[長時間を要する課題が少なくない。見直しをもって計画的に行うこと。]			適宜、授業内でコメントする。				
受講生に望むこと	自身の適性を考え、目指す専門職像を明確にして、それにふさわしい行動を取るよう心がけること 実践や見学の日程が変わる場合もある。常に連絡に注意し、必要な連絡・報告を即座に行うこと グループの協働で取り組む授業外課題が少なくない。日程にゆとりをもって行動すること		教科書・テキスト	使用しない			
指定図書/参考書等	授業内で指示する/ *小学校学級指導要領解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社 2019年 ISBN: 9784491034614 *幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 2019年 ISBN: 9784577814475 *幼児連携型協定子ども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 *保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482		その他・特記事項	実習ファイル・履修カルテ(教職カルテ)・全授業シラバスを用意すること 4年次に保育実習を行う者は本演習履修時に保育実習(保育所)・保育実習(施設)・保育実習指導の単位を修得している者のみ受講可 免許に必要な科目で後期に単位取得の可能性のある科目を殊す者は受講可 免許・資格種別にグループを分けて行う回と合同で行う回がある。志望職種の希望人数に応じて、グループ編成、授業の内容を変更することがある			

授業科目名	EC345U 幼児理解		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・齊藤 英俊・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>幼児一人ひとりとは異なった発達を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。なので保育者は、幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。</p> <p>本授業では、これから教育・保育の場に向かうための、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指す。具体的には、大学行事「Enjoy!ミッション」での共通体験を通して実践的に子どもを理解するとともに、実践事例をもとに理論的学びを深めていく。</p>			<p>幼児理解の視点を理解している。遊びの実践計画を立案し、実際に子どもと関わることで、幼児の動線、内面を捉えることができる。</p> <p>幼児を取り巻く環境から幼児を理解している。幼児を発達の・共感的視点から理解し、実践を理論づけられる。幼児理解の方法(アセスメント)を捉えることができる。</p> <p>発達や学びの連続性を確保する視点を理解し、小学校教育へつなげて考えられる。</p> <p>保育を評価することを理解している。</p>			
教授方法	講義・演習・グループディスカッション					
履修条件	大学行事「Enjoy!ミッション」に参加できること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼児理解の視点について理解する。幼児の生活、発達、問題を捉え、その意義について考える。					全員
2	遊びの実践計画を通しての幼児理解 : 「Enjoy!ミッション」における遊びのプランをグループごとに具体的に立案する。					向出
3	遊びの実践計画を通しての幼児理解 : グループごとに遊びのプランを見直し、準備物を整え環境構成を考える。					向出
4	遊びの実践計画を通しての幼児理解 : 「Enjoy!ミッション」において、遊びに関わる幼児の内面を理解し、適切な対応の仕方を遊びの実践を通して考える。					向出
5	幼児を発達の視点から理解し、実践を理論づける。人格発達として捉える発達観について、実習事例や実際の保育から考える。					向出
6	幼児を共感的視点から理解し、実践を理論づける。受容及び主体性の尊重について、実習事例や実際の保育から考える。					向出
7	幼児を取り巻く状況を理解し、幼児の内面理解を深める。「Enjoy!ミッション」での事例を用いて、多面的に学び合う。					向出
8	子ども理解を通じた安全管理と危機管理の対応について考える。					谷
9	乳児期から考える成育歴からの子どもを理解する。					谷
10	親子支援を通しての子ども理解及び今日の課題について学び合う。					谷
11	保育・教育相談の視点から幼児期の心理的特徴や課題、支援のあり方について学ぶ。					齊藤・谷
12	子ども理解における保育・教育相談の意義や方法について学ぶ。					齊藤
13	幼児期の発達支援におけるカウンセリングの理論や方法の活用について学ぶ。					齊藤
14	心理学における研究方法の活用を学ぶ。観察法・評定法・面接法・事例研究法など、実践事例を通して実際の学び合う。					齊藤
15	指導要録の書き方及び保幼小の連携とその意味について理解する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	授業への積極的な参加・ディスカッションや保育実践への意欲的な取り組みができていく。		課題レポート	50	授業内に提示される課題レポートの内容が適切か。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
現場体験、インターンシップ、ボランティア活動等に積極的に関わり実践を積み重ねる。グループごとに2年生と共に計画した遊びのプランを実践するにあたり事前準備をする。[90分] 遊びのプランの実践を振り返り、改善した遊びのプランを作成する。[60分]				各回においてディスカッションを重ね、その都度課題の見直し改善を行い、自分の学びとしていく。		
受講生に望むこと	現場で働くという自覚と意欲をもって授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『幼児理解と評価』文部科学省 ぎょうせい 2010年 ISBN:978-4-324-09184-5 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814439	
指定図書/参考書等	なし/ 『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:9784623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編 みらい 2008年 ISBN:978-4860151430			その他・特記事項	本授業の前半では、「幼稚園教育実習指導」を履修している2年生に対して本学行事「Enjoy!ミッション」の指導的役割を担う。	

授業科目名	EN330U 保育カウンセリング			開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	白田 柚子						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
近年社会情勢の変化と共に、人の生き方が大きく変化し、保育家庭のあり方や抱える問題も多様になってきている。保育者には、そうした保育相談の多様性に対応できる支援技術が求められている。そこで当授業では、「社会福祉」「相談援助技術」での学びを踏まえ、子どもの健やかな育ちを目指した保育相談支援の理論と技術を学ぶ。				保育相談支援の意義と原則について理解している。 保護者支援の基本を理解している。 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解している。 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解している。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義						
履修条件	「相談援助技術」を履修済みであること。「保育実習」、「幼稚園教育実習」を履修中または履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「社会福祉」「相談援助技術」との関係や、保育相談支援の意義を確認する。 (演習)「話を聴く姿勢」(保育相談とカウンセリングとの関係を理解する。)						
2	(事例検討 演習)：「大切にしたい子どもの思い」「保育所で育てる-子どもの生活を支える」(子どもの最善の利益への取り組み方や、特定の家庭に特別な配慮をする場合の注意点を理解する。)						
3	講義：守秘義務について具体的事例より考える。連絡帳の書き方事例を用いて、信頼される保育者のコミュニケーション方法や「信頼を失わせる事故」について解説する。(全国保育士会倫理綱領を再確認する。)						
4	講義：苦情申し立て制度について説明する。事例検討「親の人生シナリオ」「支えられて親も育つ」より、保護者も子育てを通して成長していくことを理解する。(保護者支援の際の保育者のあり方を理解する。)						
5	講義：事例検討「乳児の夜泣き」より、親の性格と育児行動の関わりを理解する。その上で「虐待の世代間伝達」という考え方について全体で考える。(保育者が親を受け入れるということについて理解する。)						
6	講義：(医学モデル ストレングスマodel)について学ぶ。保育者が保護者に共揺れを起こす時の対処法について理解する。 (演習)「保育者自身を活かす」(保育者自身が親の問題解決の道具であることを理解する。)						
7	講義：保育相談を効果的に行える場所の設定方法(場所、日時、相談にかかる時間等)について学ぶ。 (演習)「親とゆっくり話せない時」(忙しい中で保護者の信頼を得る方法について理解する。)						
8	(演習)「先生、うちの子寝ないんです」全体ロールプレイを基に、相談援助の課程(プロセス)を解説する。(保育相談支援のプロセスの中で、保育者が保護者に対して行う具体的な声掛け方法について理解する。)						
9	(講義 演習)：「他機関との連携」連携機関の機能についてグループで再確認し、連携時の注意点を学ぶ。 事例検討「保護者に無視される」(他機関連携を理解する。相談を求めない人への関わり方を理解する。)						
10	(演習)「ノンバーバルコミュニケーション」グループで、お互いの聴く姿勢について観察・評価しあう。(話を聴くときの自分の態度を他者からの意見、他者との比較の中で理解する。)						
11	面接の技術 (演習 講義)：話しやすい雰囲気作り方を考える。ノンバーバルコミュニケーションの磨くポイントについて解説を聞いた上で、実際にやってみる(ノンバーバルコミュニケーション力を高める。)						
12	面接の技術 (演習 講義)：傾聴の言葉かけの解説を聞く。ノンバーバルコミュニケーションも意識しながら、傾聴の言葉かけをやってみて、グループで観察・評価しあう。(傾聴技法とは何かを理解できる。)						
13	面接の技術 (演習 講義)：保育相談の数事例の中から、自分が選んだ事例について個人で場面設定を行う。その事例を使って傾聴を行う。(傾聴技法を基にした保育カウンセリングを理解する。)						
14	面接の技術 講義：親の要望をどう受け止めるか、苦情解決に向けた取り組み方法を学ぶ。 (演習)「保育者になりきる」自分が実習等で体験した事例を使って、保育カウンセリングを行う。						
15	(演習)「保育相談を受けてみよう」講師が保護者役となり、保育カウンセリングの全体セッションを行う。(授業全体の総括。及び、保育者は「親の人生の同伴者である」ということを理解する)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	演習形式のため、遅刻及び授業参加意欲に欠けるとみられる場合は厳しく減点する。			大レポート	30	事例をよく読み、授業のポイントを踏まえてまとめるレポートを評価する。授業に触れず持論を展開するレポートは評価が低くなる。
小レポート	20	毎回の授業内容が理解できているか。又、演習から自己洞察を述べてあるかを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業に関連する部分のテキストを、授業後読んで理解する。[30分] 授業で学んだ傾聴の技法は実際に使ってみること(授業後、日常生活の中で実践する。)				大レポートの課題は、後半の授業中に発表する。授業の内容を理解した上で、事例検討を行う内容となる。 小レポート全員に対し、毎回返却はしないが、内容について個別にコメントをしたり、授業内容に反映させる等を行う。			
受講生に望むこと	「相談援助技術」に引き続き、演習形式の講義です。「相談援助技術」学んだコミュニケーション技術を、この授業では保育場面に特化して、さらに深化させていきましょう。			教科書・テキスト	『演習保育相談支援(第3版)』 小林育子著 萌文書林 2018年 ISBN: 9784893473035		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	適宜プリント配布。プリントは大レポート作成に必要なので、各自で整理しておくこと。		

授業科目名	ET340U 介護等体験		開講学科	幼児児童教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	石原 俊彦・田中 早苗 (代表教員 石原 俊彦)					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>デイサービスなどの社会福祉施設において5日間、特別支援学校において2日間の介助・介護・交流・行事補助などの体験活動を行う。そのために必要な各障がい児(者)、高齢者への理解を深め実習施設(学校)について事前事後指導を実施するほか、適宜、開催するガイダンスにおいて、体験施設への書類提出等を含めた事前準備を行う。</p>			<p>この科目は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、「教育職員免許法の特例等に関する法律(平成9年法律第90号)」に基づき行われる。学生は介護等体験の意義及び概要を理解したうえで体験に臨み、体験活動から得られた考察からノーマライゼーション、インクルーシブ教育、障がい児(者)への理解を深め、教員としての資質向上を図る。</p>			
教授方法	講義・演習・ビデオ視聴 後期に実習を実施					
履修条件	教員免許状取得に必要な科目の履修					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：介護体験を行うにあたって介護職の役割について理解する					石原
2	介護等体験の実際：介護保険制度及び介護保険施設について理解する					石原
3	体験者に臨む基本的姿勢・マナー：服装・挨拶・記録・報告					石原
4	高齢者の理解：高齢者とは身体的、精神的にどのような状態になっているのか理解する					石原
5	高齢者認知症に対する基礎知識：実体・身体的・精神的特性と対応・介護					石原
6	デイサービスなど的高齢者施設での体験：利用者とのコミュニケーションを図る。					石原
7	デイサービスなど的高齢者施設での体験：利用者に必要な介護について理解し実践する。					石原
8	デイサービスなど的高齢者施設での体験：感染の対応					石原
9	障害児(者)に対する基礎知識：知的・身体障害児(者)の特徴理解と個別的対応・介助					田中
10	障害児(者)に対する基礎知識：視覚・聴覚・発達障害児(者)の特徴理解と個別的対応・介助					田中
11	特別支援学校の基礎知識：特別支援教育の制度と実際					田中
12	障害児童生徒の小集団活動での体験：自ら進んで交流を図りながら障害のある人と共に過ごすとはどういうことか考える					田中
13	児童生徒の学習環境や学習方法、学習内容について学ぶ					田中
14	児童生徒とのかかわりの視点や、児童生徒の自立を支援するために必要なことについて考える					田中
15	小集団活動への参加や障害疑似体験の振り返り：作成したレポートをもとに、体験を共有する					田中
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業・演習に臨む姿勢	15	講義、演習等の積極的な取り組み姿勢について		課題レポート	30	石原：認知症の利用者さんに対応する時、どの様な点に注意すべきかまとめる。 田中：課題を十分に理解し自分なりの意見、考察をする。
実習レポート・実習記録	55	教職をめざす者として高齢者・障がい児(者)に対する受け止めが、実習後にどのように変化したかを中心にまとめること。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>高齢者、障がい者と交流する機会が多い地域の行事及びボランティアにできるだけ参加し、高齢者及び障がい児(者)との交流をし理解を深め、ノーマライゼーションの理念を培う。 特別支援教育の制度と実際を理解し、障害児への合理的な配慮と適切な支援について実体験する。 。教員や介護職者は対人援助者と言える。対人援助を行う人は自分とはどのような価値観を持っているのか。人と接するときの様な見方をするのか。書き出してみる。[30分] 自分の住んでいる地域にはどのような介護施設があるか調べる[60分] 特別支援教育の制度と実際を理解し、インクルーシブ教育について自分なりの考えを持ちながら、障害児への合理的な配慮と適切な支援について実体験する。</p>			<p>提出物に記された関心・疑問を次回以降の授業内容に反映させる。 。講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容等を復習して講義を進める。 実習に行っても困らないように最低限度の介護技術を取得する。</p>			
受講生に望むこと	<p>地域に居住している高齢者や障害者が増加しているため、行事・ボランティア等を通して積極的に交流するようにする。 障害に関する正しい知識を身につけた上で、自分はどう関わりたいのかを考える。授業の中で、障害のある子どもやその家族の個人情報扱うため、授業で得た情報の取り扱いに注意する。 障害に関する正しい知識を身につけた上で、自分はどう関わりたいのかを考える。授業の中で、障害のある子どもやその家族の個人情報扱うため、授業で得た情報の取り扱いに注意する。</p>		教科書・テキスト	その都度資料を配布する。		
指定図書/参考書等	随時授業内で提示する。		その他・特記事項	なし		

社会学科
(1 ~ 2 年次)

授業科目名	SK100U 基礎ゼミ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・矢澤 励太・竹中 祐二・松下 健・加藤 仁 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、ノートテイキングの基本的技術、文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、レポート作成の基本的事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。</p>			<p>大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。ポイントを正確に読み取ることができる。書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。</p>			
教授方法	演習：毎回レジュメを作り、発表・ディスカッションをする形式で進める。					
履修条件	社会学科1年生または社会学科の学生で再履修となった者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション（履修登録の確認等）/ゼミ内自己紹介					全員
2	図書館オリエンテーション：図書館の利用の仕方やルール、図書資料の利用の仕方等について学ぶ。					全員
3	テキスト第1章 スタディスキルとは：大学での学びに必要な事項を学び、長期目標を立てた上で、ソレを実現するための今学期の目標を立てる。					各担当教員
4	テキスト第2章 ノート・テイキング：ノートをとる意義とコツを学ぶ。総合教養 のノートを持参し、し、実践できているか確認する。					各担当教員
5	グループ・ディスカッション：北陸学院セミナー のグループ討論の準備を行う。					全員
6	テキスト第3章 リーディングの基本スキル(1)：テキストを読むとはどういうことを学ぶ。					各担当教員
7	テキスト第3章 リーディングの基本スキル(2)：二度読み方式について学ぶ。					各担当教員
8	テキスト第4章 より深いリーディングのために：要約の仕方・意義・実践について、また感想・意見を持つことの意義とまとめ方について学ぶ。					各担当教員
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。					各担当教員
10	テキスト第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル：レポート作成の手順や論文作法について学ぶ。					各担当教員
11	テキスト第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために：分かり易い文や表現方法とはどのようなものかを学ぶ。					各担当教員
12	テキスト第11章 プレゼンテーションの基本スキル：プレゼンテーションの基本を理解する。					各担当教員
13	テキスト第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために：第2回発表に向けた準備に必要な確認事項を学ぶ。					各担当教員
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。					各担当教員
15	まとめ：前期の学びを総括すると共に、期末課題や後期に向けた履修指導等を行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	60	指定した書式・時数・枚数になっているか。ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。		レジュメ作成および発表	20	分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。聞き手が理解しやすい発表となっているか。
授業参加態度	20	ディスカッションへの積極的な参加をしているか。人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。課題にまじめに取り組んでいるか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>基礎ゼミ で学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め、知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 学内外での学びは「社会学」の対象の1つと捉え、分析的に観察し、気づいたことはノートにメモしておくこと。</p> <p>…上記 ～ を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配付するので必ず目を通しておくこと。[30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること。[30分]</p>				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	基礎ゼミ は大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっていると一言でも過言ではない。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN：978-4-87424-789-1	
指定図書/参考書等	なし/『大学生のためのリサーチリテラシー入門 - 研究のための8つの力 -』山田剛史・林創著 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN：978-4-623-06045-0			その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席することは評価に大きくかわるので注意すること（なお、配慮される欠席理由については学生要覧を参照すること）。	

授業科目名	SK105U 基礎ゼミ		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	小林 正史・田引 俊和・俵 希實・矢澤 励太・松下 健・加藤 仁 (代表教員 小林 正史)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢および知的探求の方法を習得することを目的とする。具体的には、文献・データの検索と整理、レポートの文章作成(前期からの継続と発展)、プレゼンテーションのしかた、ディスカッションのしかた(11月の「北陸学院セミナー」でのグループ討論を念頭に)に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。</p>			<p>大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。レポートの書き方を身につける。プレゼンテーションのスキルを身につける。新しいアイデアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要を理解する。成績指導を受け、履修登録確認を行う。					全教員
2	テキスト第6章 インターネットによる情報収集					全教員
3	レポート課題の選定					各担当教員
4	テキスト第7章 情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。					各担当教員
5	レポートの構想発表					各担当教員
6	テキスト第8章 アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミ」での学びをさらに深める。					各担当教員
7	テキスト第9章 効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミ」での学びをさらに深める。					各担当教員
8	グループ・ディスカッション：北陸学院セミナーのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。					全教員
9	北陸学院セミナー グループ討論のふりかえり					各担当教員
10	テキスト第11章 プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミ」での学びをさらに深める。					各担当教員
11	レポート中間発表					各担当教員
12	テキスト第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミ」での学びをさらに深める。					各担当教員
13	レポート内容の発表準備					各担当教員
14	レポート最終発表					各担当教員
15	履修指導 アンケート調査 プロゼミ説明会					全教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	60	指定された書式・字数・枚数になっているか。ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。		授業参加態度	20	ディスカッションに積極的に参加したか。人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。課題にまじめに取り組んでいるか。
レジュメ作成と発表	20	わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。聞き手が理解しやすい発表となっているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>各回の授業で指定された課題(テキスト、サブテキスト、参考図書の指定部分をまとめ、レジュメを作成するなど)を事前に行う。[30分以上] レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 学内外の学びは社会学の対象の一つととらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。</p>				<p>ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応します。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じます。</p>		
受講生に望むこと	基礎ゼミは、基礎ゼミとともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会に必要なスキルを中心に学ぶので、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN: 978-4-87424-789-1	
指定図書/参考書等	指定図書 なし/参考図書 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』山田剛史・林創 ミネルヴァ書店 2011年 ISBN: 978-4-623-06045-0			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SK200U プロゼミA		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	松下 健・小林 正史・真砂 良則・依 希實・矢澤 励太・若山 将実 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下にやや専門性の高い内容について学ぶ。			指定テキストの内容を理解する。 指定テキストの担当部分のレジュメを作成できる。 自分が担当する部分について、レジュメにもとづき発表できる。 他者の発表を聞いて、自分の考えをもちディスカッションに参加できる。 プロゼミにおいて学んだ内容についてレポートにまとめることができる。				
教授方法	ゼミごとによる演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ゼミ内での自己紹介、各ゼミのゼミ運営についての説明など。					各担当教員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
14	プロゼミ A の活動のまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）					各担当教員	
15	後期科目の履修指導、プロゼミB選択についての説明、その他諸連絡（合同）					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。		レジュメ作成と発表	30	分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
ゼミへの参加態度と意欲	30	ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
ゼミごとに求められる内容が異なるので、自分の所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。 ゼミで指定されたテキスト、参考図書、資料等をよく読み考えをまとめる。[週平均90分以上] 日頃から新聞を読み、社会の事象を意識するように努める。			各担当教員から説明する。				
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加態度を望みます。		教科書・テキスト	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。			
指定図書/参考書等	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。		その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。			

授業科目名	SK205U プロゼミB			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	若杉 亮平・勝谷 紀子・田中 純一・田引 俊和・竹中 祐二・加藤 仁 (代表教員 若杉 亮平)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法(これをアカデミック・スキルという)を基礎ゼミにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味・関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下に、やや専門性の高い内容について学んでいく。				指定テキストの内容を理解する。 指定テキストの担当部分のレジュメを作成する。 自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表する。 他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加する。 プロゼミにおいて学んだ内容について、レポートにまとめることができる。			
教授方法	各ゼミごとの演習						
履修条件	「プロゼミA」を履修した者(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	前半：成績についての指導(合同) 後半：ゼミ内での自己紹介・各ゼミ運営についての説明、履修・成績指導						全員
2	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
3	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
4	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
5	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
6	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
7	北陸学院セミナー についての説明・テーマに沿ったディスカッションと発表						全員
8	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
9	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
10	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
11	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
12	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
13	各ゼミ担当教員の指導に従う。						各担当教員
14	4年生卒業研究・専門ゼミ レポート報告会に参加し、簡単なレポートにまとめる。 (特記事項参照)						全員
15	3年前期履修説明・指導、専門ゼミ についての説明、その他諸連絡(合同)						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ゼミへの参加姿勢	30	議論への積極的な参加をしているか。 人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			レジュメの作成と発表	30	わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 聞き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	ゼミ内で指定した書式・字数・枚数になっているか。 ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。 各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートの準備をすること。 ...上記...を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配付するので必ず目を通しておくこと。[30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること。[30分]				各担当教員の指導に従う。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示・指導に従って学びを深めるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加が望まれる。			教科書・テキスト	各担当教員に指導に従う。		
指定図書/参考書等	各担当教員の指導に従う。			その他・特記事項	卒業研究・専門ゼミ レポート報告会については、2月の試験期間後に行われる。具体的な日程については別途知らせるので、必ず参加すること。		

授業科目名	SK110U 社会学Ⅱ-講義		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	田引 俊和・勝谷 紀子・楠本 史郎・小林 正史・田中 純一・俵 希實・真砂 良則・矢澤 勳太・竹中 祐二・松下 健・若杉 亮平・若山 将実・加藤 仁 (代表教員 田引 俊)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
社会学科で学んでいくにあたり、この学科で学ぶことができる研究領域や分野について理解することを目的に、社会学科の専任教員が順番に、毎回自分の専門分野の内容についてわかりやすく講義する。これによって学生は、社会学、および関連領域の中から興味ある分野や自分が研究したいテーマを見つけ、2年次のプロゼミ選択の際の判断材料とする。			社会学科で学ぶにあたり、強い好奇心をもって各分野の初歩を学び、向上心を高める。講義で扱う各分野の内容を理解する。各回の講義で学んだことを整理し、レポートにまとめることができる。			
教授方法	社会学科専任教員によるオムニバス講義。					
履修条件	特になし。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：社会学科での学びの目的、および本授業の目的と進め方を理解する。課題レポート評価基準「ループリック」の説明。					田引
2	自然災害からの復旧・復興過程における社会的課題について「人間の復興」の視点から考える。					田中
3	カウンセリングや心理検査など、心理学の研究知見を対人援助に応用する臨床心理学について学ぶ。					松下
4	「メディアと社会」から考える社会心理学：インターネットの利用が私たちにもたらすものについて検討を行い、その中から社会心理学の特徴をとらえる。					勝谷
5	不適応のリスクが高い思春期・青年期において発達障害児が抱えやすい問題や適切な支援方法について、最新の研究知見を交えながら理解する。					加藤
6	「社会病理学」の成り立ちを振り返り、「社会病理」とは何かという問いに向き合うことを通じ、「社会学」の世界への理解を深め、また、私達が生きる「社会」それ自体の在り方への理解を深める。					竹中
7	「多文化共生」をテーマとし、社会学的思考、社会調査結果を用いて、社会のあり方について考える。					俵
8	文化間比較という人類学の方法に基づいて、日本の伝統的食文化の諸特徴を意味を検討する。					小林
9	情報学とは何かを考えるため「情報とは何か」という根本的な問いを取り上げる。情報に関わる歴史的な議論を踏まえ、情報メディア論への基本的な理解を目的とする。					若杉
10	国政や地元石川県の政治の時事問題を1つ取り上げ、その政治の時事問題がなぜ生じたのかを、政治学的なアプローチによって検討していく。					若山
11	「宗教と社会」の関係を見る方法論の概略を、K.MarxとM.Weberの方法論を比較しつつ、とらえる。一例を通して、宗教的確信と情熱、また使命感が、実際にどのように展開され、行政を動かす結果となったのかを見る。宗教と社会の連関を知る。					楠本
12	キリスト教神学と社会との関係を探求する。たとえば神理解は死生観にどのように影響するのか、人格や人権といった概念はキリスト教神学とどのような関連で生まれて来たのか。神学が抽象的思弁にとどまらず、日々の生活や社会のあり方と結びついていることを発見する。					矢澤
13	障害概念の基礎的理解、心の不調や発達障害などがある人たちについて正しく理解するとともに、互いを認め合える共生社会・ノーマライゼーション理念について学ぶ。					田引
14	超高齢社会を迎え、介護問題をはじめ高齢者をめぐる福祉ニーズは拡大化、多様化してきている。このような動向を踏まえ、高齢者福祉の意義やあり方について考える。					真砂
15	石川県の現状を踏まえながら、男女共同参画社会について考える。					俵
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	90	各回の授業担当者ごとに出される課題レポートの提出(全14回分のレポート提出) レポート内容(評価基準は、第1回講義のレポート課題評価基準「ループリック」、および下記「授業外における学習」欄を参照)		受講態度	10	授業への積極的な取り組み姿勢
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
講義で学んだことを整理・復習する(30分以上)。 講義中に紹介された図書や資料については講義後各自で読む、調べる(30分以上)。 講義によっては事前に関連する資料を配布するので熟読すること。 こころと体の健康、高齢社会などについて、社会のニュースを意識し、考えをまとめる(福祉分野)。 以下の評価基準に留意しレポートを作成すること。 分量、文体の統一、漢字とかなの使い分け方針の一貫性、誤字・脱字、文頭と文末の対応、一文の長さ、段落の一字下げの有無等。				提出されたレポートについては、次回以降の講義内に総評としてコメントする。		
受講生に望むこと	授業は、教員と学生双方の意欲と態度によって成り立つので、学生の皆さんには積極的な授業への参加態度(教員の問いかけに答えるなど)を望みます。			教科書・テキスト	各回の担当者がレジュメ・資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/各回の担当者の指示に従うこと。			その他・特記事項	各回の担当者による課題レポートの提出期日は厳守すること。期限後の提出は、いかなる理由があっても受理しない。レポート提出期限は、課題が出された翌週の月曜日の13:00。提出場所は、原則、社会学研究支援センターのボックスとする。なお、個別に指示があった場合は、それに従う。	

授業科目名	SK115U 社会学概論A			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	依 希 貴						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問であるのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。				社会学の基本的な理論と概念について理解する。 社会学の基本的な考え方ができるようになる。 現代社会が直面する問題を社会学の理論や概念を用いて説明することができるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	社会学とはどのような学問なのか：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。						
3	社会学とはどのような学問なのか：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」について理解する。						
4	【人と社会の関係を捉える】 行為論：行為と行動の違い、行為の種類、行為の4類型について理解する。						
5	行為論：準拠集団、社会規範について理解する。						
6	行為論：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。						
7	相互作用論：地位と役割、役割の分類、役割葛藤、役割演技、ダブルコンティンジェンシーについて理解する。						
8	相互作用論：予言の自己成就について理解する。						
9	【現代社会への理解を深める】 集団論：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。						
10	集団論：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。						
11	集団論：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。						
12	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。						
13	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。						
14	【社会問題を理解する】 現代社会における諸問題の提示：差別、社会的排除などを取り上げ、それについて説明する。						
15	発表：現代社会の諸問題を取り上げ、それについて社会学の観点から分析し、発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	65	授業内容について理解しているか。			提出物	10	課題に対して適切な内容になっているか。 定められた期間内に提出しているか。
発表	10	講義内容との関連で、的確な発表ができていますか。			受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
発表の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]				各グループの発表に対してコメントする。			
受講生に望むこと	意欲的態度を持って授業に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SK120U 社会学概論B			開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は社会学科の基幹科目である。社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立した人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。</p>				<p>社会学の基本的な理論・概念を、具体的な事例に当てはめて、文章化して説明することができる。 現代社会を様々な切り口から理解し、特に自ら問題関心を持つ領域や現象について、これまで何が議論の対象になってきたか、そして今日の社会でなにかのように問題になっているのか、文章化して説明することができる。 自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。</p>			
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：社会学とはどういった学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。						
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。						
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。						
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。						
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。						
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。						
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについて理解する。						
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。						
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。						
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。						
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。						
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。						
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会的観点から理解する。						
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。						
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。			グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>各回の授業で学習した社会学理論や社会的視点、社会学用語について、様々な具体的な事例に応用して説明できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習し、文章化する練習をする。[45分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。</p>			
受講生に望むこと	<p>・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。 ・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書/参考書等	<p><参考書> 『社会学がわかる事典 読みこなし使いこなし活用自在』 森下伸也 日本実業出版社 2000年 ISBN:978-4534031730</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・コミュニティ文化学科科目「現代社会の基礎知識」と合同開講である。</p>		

授業科目名	SK125U 社会調査論		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	依 希 貴						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士・社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを実際例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。			社会学の基礎的な知識、特に経験的社会学の成果について説明できるようになる。社会調査の意義、目的、種類、歴史について説明できるようになる。現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の、気をつけるべきポイントを理解する。社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。						
3	社会調査の定義と目的、歴史について知り、意義を構築する。						
4	調査倫理、統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得する。						
5	社会調査（質的調査）の種類と実際例を学ぶ。						
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。						
7	社会学の理論と、リサーチエスション、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。						
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。						
9	調査課題の設定について実践的に検討する。これまでの内容について 10 分程度の確認テストを行う。						
10	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。						
11	調査票の構成について理解する。						
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について、具体例に基づいて理解する。						
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるといふことの意味を理解する。						
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。						
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度	30	積極的に授業に参加しているか（提出物を含む）。		確認テスト	10	そこまでの授業内容についての正確な知識を獲得しているか。	
期末試験	60	各回の講義内容について理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。配布資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]				確認テストについての解説を授業中に行う。			
受講生に望むこと	講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問してください。社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにしてください。			教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第3版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN：978-4-589-03817-3		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠しています。		

授業科目名	SK130U 社会調査法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	依 希 貴						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。 構想・計画 準備 実査 データの入力と点検 分析 報告という社会調査(量的調査)の全過程について順を追って解説する。 実際に、リサーチ・クエスチョンを立てたり、質問文を作成したりすることで理解を深める。</p>				<p>社会調査(量的調査)の全過程についての基礎知識を習得する。 量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。 他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	社会調査のデザイン(1)：問いを立てる。仮説を構成する。						
3	社会調査のデザイン(2)：誰を対象にするのかを考える。						
4	実査の方法：量的調査における方法の選択について学ぶ。						
5	調査票の作成(1)：調査票の構成と質問の作成手順について学ぶ。						
6	調査票の作成(2)：質問文の形式、質問の作成および配置に関する留意点について学ぶ。						
7	サンプリング：ランダムサンプリングがなぜ必要なのか、標本抽出枠とカバレッジ誤差、実行可能性や利便性への配慮、層化抽出、非標本誤差について理解する。						
8	調査の実施：郵送法実査と個別面接法実査の具体的な手順と注意点について理解する。						
9	データの電子ファイル化(1)：データ構造化の流れについて理解する。						
10	データの電子ファイル化(2)：エディティングとコーディングについて学ぶ。						
11	データの電子ファイル化(3)：データ入力とデータクリーニングについて学ぶ。						
12	データの基礎的集計(1)：変数の種類、質的変数の要約、量的変数の要約(代表値)について学ぶ。						
13	データの基礎的集計(2)：量的変数の要約(散布度)について学ぶ。						
14	変数間の関連：相関係数とクロス表の作成について学ぶ。						
15	調査報告とデータの適正管理について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。			期末試験	70	授業内容を理解しているか。
提出物	15	適切な回答を記述しているか。 指定された期日に提出しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として授業中に配布したレジュメを確認すること。ワークシートを指示されたところまで仕上げること。[60分]				提出されたワークシート(テーマ・仮説・質問文)について、よく考えられた回答を授業中に紹介する。			
受講生に望むこと	粘り強く学習してください。授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにつけてください。			教科書・テキスト	『入門・社会調査法』(第3版)轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN: 978-4-589-03817-3		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのB科目に準拠しています。		

授業科目名	SK135U 統計データの読み方			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会の様々な現象を理解する上で、官庁統計・資料に代表される統計データや調査資料を利用する機会は近年ますます多くなってきています。この授業の目的は、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになるための基本的知識を学習することにあります。具体的には、(1)単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、(2)様々なグラフの読み方やその作成方法、(3)相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、(4)質的データの読み方と分析のための利用法について学習します。</p>				<p>単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。</p>			
教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、可能な限りExcelやSPSSなどの統計ソフトを利用した実習を行います。また、授業の折々でWeb上のクリックカーアプリを使用してアンケートや学生からのコメント聴取を随時実施します。						
履修条件	学部生のみ履修可。社会調査論と社会調査法を履修済(中)であることが望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考えます。(統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。)						
2	分析とは何か：統計データを「分析する」意味について考えます。(理論・仮説に基づく分析の意味を理解する。)						
3	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明します。(統計データの特徴について理解する。)						
4	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、その作成法の実習を行います。(度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようになる。)						
5	記述統計：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようになる。)						
6	記述統計：データのばらつきの大きさを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータのばらつきの大きさを把握できるようになる。)						
7	クロス集計：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明します。(クロス集計表から2つのデータの関係を捉えることができるようになる。)						
8	クロス集計：世論調査データを使用したクロス集計表を作成する実習を行います。(クロス集計表を作成することで、世論調査における2つの回答の関係を推測できるようになる。)						
9	相関：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明します。(相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。)						
10	相関：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明します。(二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。)						
11	相関：実際の統計データを利用して、統計ソフトを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行います。(散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようになる。)						
12	質的データの読み方：質的調査と呼ばれる研究方法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介します。(質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。)						
13	質的データの読み方：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有用性について考えます。(インタビュー調査の意義を理解する。)						
14	質的データの読み方：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考えます。(ドキュメントを分析することの意義を理解する。)						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト(毎回)	40	毎回の授業内容を理解できているか。			到達度テスト	30	授業内容を十分に理解できているか確認するために、授業の後半回で実施する。
期末レポート	30	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業で使用するレジュメ(資料)は、メソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通してください。[30分] 毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小テストとして出しますので、次回授業前までに提出してください。[50分]</p>				<p>毎回の小テストおよびそれに付属するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。 レポートは、可能であれば次学期冒頭にコメントを付して返却することを検討します。</p>			
受講生に望むこと	<p>統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。</p>			教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ(自作テキスト)を通じて配布します。		
指定図書/参考書等	<p>なし。/『社会調査の基礎-社会調査士A・B・C・D科目対応』篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳著 弘文堂 2010年 ISBN-13: 978-433551338。『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』谷岡一郎 ちくまプリマ 新書 2007年 ISBN-13: 978-4480687593。『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』第3版 轟亮・杉野勇(編) 法律文化社 2017年 ISBN-13: 978-4589034892。</p>			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠しています。		

授業科目名	SK210U 質的研究法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	依 希 貴						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会調査法における質的なアプローチを学ぶ。質的調査の歴史、考え方、特徴、仮説と理論についての説明、さらに事例を示しつつ、さまざまな質的データの収集方法や分析方法についての解説を行う。研究目的に適合した調査手法の選び方、調査設計の仕方、実査の進め方、調査結果の解釈の仕方を学ぶ。そして、学んだことをもとにグループで調査を行い、実践的な知識とノウハウを習得する。</p>				<p>質的研究法の基本的な考え方を理解する。 質的研究法を用いた研究事例について、分析手法の選択および研究手続きの妥当性が判断できるようになる。 質的調査を行うための実践的な知識および技術を習得する。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	イントロダクション：自分の日常生活を再発見することから質的調査のイメージをつかむ。						
3	質的調査の歴史と考え方：これまでの質的調査の歴史はどのように展開されてきたのか。調査を実際に進める中でうみだされてきた考え方について学習する。						
4	質的調査の特徴・魅力・難しさ：質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の難しさ的魅力を理解する。						
5	仮説と理論：仮説とは何か、理論とは何か、基本的なことを理解する。						
6	リサーチ・クエスチョンを考える：リサーチ・クエスチョンの導き方を学ぶとともに、実際に考えてみることで理解を深める。						
7	観察法：事例をもとに観察法の進め方を理解する。						
8	参与観察法：事例をもとに参与観察法の進め方を理解する。						
9	観察法：グループワーク。実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
10	インタビュー法：事例1をもとにインタビュー法の進め方を理解する。						
11	インタビュー法：事例2をもとにインタビュー法の進め方を理解する。						
12	インタビュー法：グループワーク。実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
13	文化資料分析法：事例をもとに文化資料分析法の進め方を理解する。						
14	調査倫理：社会的行為としての社会調査であることを理解する。						
15	文化資料分析法：グループワーク。実際に文化資料分析法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	15	積極的に授業に参加しているか。			発表	25	課題に対して適切な内容となっているか。 論理的な構成となっているか。 聴衆にとってわかりやすい発表となっているか。
定期試験	50	授業内容について理解しているか。			提出物	10	課題に対して適切な内容になっているか。 定められた期間内に提出しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>調査課題を出すので、グループで計画し、それに従って調査を実施。その結果をまとめ、パワーポイントでの発表の準備を行うこと。事前学習として、テキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として、授業中に配布したレジュメの内容を確認し、復習すること。〔60分〕</p>				<p>各グループの発表に対してコメントする。また、総評を述べる。</p>			
受講生に望むこと	授業で得た知識やスキルを他の授業や授業以外でも活用するようにしてください。			教科書・テキスト	工藤保典・宮垣 元・寺岡伸悟編『質的調査の方法 都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社、2016年 ISBN 978 4 589 03805 0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのF科目に準拠しています。		

授業科目名	S0100U データ処理基礎			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっていきます。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行う際に求められるデータの基本的な見かた等をグループで学んでいきます。				データを実証的に分析する方法論を習得する。グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。			
教授方法	講義と演習によって進められます。授業の大部分は課題に主体的に取り組むことが求められるグループ学習を行う予定です。また、授業の折々でWeb上のクリッカアプリを使用してアンケートや学生からのコメント聴取を随時実施します。						
履修条件	社会学科の学生（基本的に1、2年生）のみ履修可						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）						
2	データとは何か：データの定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）						
3	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）						
4	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差について学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）						
5	実証分析の基礎：社会現象をデータによって明らかにするとどういふことか。実証分析の枠組みについて説明します。						
6	課題：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者はグループを結成し、実証的な方法論に基づいてこの課題に取り組んでいきます。						
7	グループ学習：グループで提示された課題に取り組みます。						
8	グループ発表：提示された課題に対してグループで取り組んだ成果を発表します。						
9	実証分析の基礎：因果関係の解明にあたって理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）						
10	相関分析の基礎：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）						
11	回帰分析の基礎：二つの変数の因果関係を分析する単回帰分析について学びます。（回帰分析の基礎を理解・習得する）						
12	課題の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者はグループを結成し、実証的な方法論に基づいてこの課題に取り組んでいきます。						
13	グループ学習：グループで提示された課題に取り組みます。						
14	グループ発表：提示された課題に対してグループで取り組んだ成果を発表します。						
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	40	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができるか。			発表	40	課題に対してグループで取り組み、わかりやすい発表ができているかを見る。
小テスト	20	毎回の授業内容を理解できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業で使用するレジュメ（資料）は、メソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] 毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小テストとして出すので、次回授業前までに提出してください。[50分] グループ学習を進めます。グループ発表の準備はほぼ授業時間外で進めることになります。[90分]				毎回の小テストおよびそれに付随するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。 期末レポートについては、可能な限り次学期初めに内容に関するコメントを配布することを検討します。			
受講生に望むこと	統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。教室内での私語や携帯電話の使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。			教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（自作テキスト）を配布します。		
指定図書/参考書等	なし / 『社会調査のウソ：リサーチリテラシーのすすめ』 谷岡一郎著 2000年 文春新書 ISBN: 4-16-660110-5。『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』 谷岡一郎著 2007年 ちくまプリマ 新書 ISBN: 978-4-480-68759-3。『原因を推論する：政治分析方法論のすすめ』 久米郁男著 2013年 有斐閣 ISBN: 978-4-641-14907-6。			その他・特記事項	なし。		

授業科目名	S0201U 心理学統計法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・社会調査士・公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義は心理統計を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学は人の行動、心のはたらきだけではなく、社会のさまざまな事象を理解するための有益なツールである。近年は学問領域だけでなくビジネスなどの現場においても統計学の知識、分析手法の技術の修得の必要性は高まっている。本講義では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。				統計学の基本的な用語を理解して適切に使用できる。 統計学の基本的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーションとデータの集計：度数分布表の作成、図による表現について解説する						
2	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する						
3	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する						
4	相関：2つの変数が関連している度合いを表現する						
5	回帰分析：ある変数から別の変数を説明・予測する方法について学ぶ						
6	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ						
7	さまざまな分布1：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ						
8	さまざまな分布2：標本分布について学ぶ						
9	中間テスト						
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ						
11	統計的検定1：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ						
12	統計的検定2：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ						
13	統計的検定3：統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ						
14	カイ二乗検定1：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける						
15	まとめと振り返り：これまでの復習とまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	講義の内容の理解度により評価を行う。			中間テスト	30	講義の内容の理解度により評価を行う。
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]				中間テストは終了後に解説を行う。 演習課題は終了後に答え合わせとコメントをおこなう。			
受講生に望むこと	統計学には難しく感じる内容もあるかもしれないが、こつこつと積み上げるように学んでいくことで少しずつ理解ができるようになる。そのために授業だけではなく、予習と復習が欠かせないので実践してほしい。			教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9		
指定図書/参考書等	なし/関連する参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SO205U 社会学理論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 浩						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>多くの人は社会のことを「当たり前」と思っており、その中で生きています。けれども、よく考えてみると、「当たり前」と思っていることの中にも、不思議なことはいろいろあります。実はわたしたちが生きている社会はたまたまそのような社会としてあるだけで、決して「当たり前」のものではないし、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見ると、有効な道具が社会学の理論です。理論を使えば、さまざまな社会現象がパズルと切れて、社会の出来事がスッキリみえてきます。社会学理論はやや抽象的で、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味確かめてほしいと思います。</p>				<p>社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学理論の基礎的な概念を理解する。 デュルケム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典的理論を理解する。 ハーバースマスやルーマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。 これらをつづいて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使うようになる。 社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。 社会学理論を通じて、私たちがいま生きている社会（モダンティ）を理解する。</p>			
教授方法	講義形式で行いますが、講義中に意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。						
履修条件	社会学概論Aないし社会学概論Bを履修済みであることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会とは何か：社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか。社会という言葉を知らない人はいないでしょうが、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。						
2	近代社会と社会学：社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか、社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。						
3	社会学の古典（1）：E.デュルケムの社会学：社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが、そのうちの一人デュルケムは、社会は個人の外の存在し、個人を拘束するものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。						
4	社会学の古典（2）M.ヴェーバーの社会学：ヴェーバーはデュルケムと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケムと対比しながら、ヴェーバーの理論について紹介します。						
5	社会学の古典（3）G.ジンメルの社会学：G.ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します。						
6	社会的行為とはなにか：社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。						
7	地位と役割：私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにふさわしい行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。						
8	社会システムと社会構造：社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。						
9	機能主義の社会学：機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT.パーソンズですが、機能主義はその名の通り、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。						
10	意味学派的理論：機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする。そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロジーといった理論について紹介します。						
11	J.ハーバースマスのコミュニケーションの行為理論：ハーバースマスは相互行為の中でもとくにコミュニケーションの行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。						
12	N.ルーマンの社会システム理論：パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。						
13	P.ブルデューの実践の理論：ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の性向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。						
14	A.ギデンズの構造化理論：ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことに意味について考えます。						
15	再び、社会学の理論とは：14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが重要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
学期末レポート	60	論述式のレポートです。基礎的な知識を習得していることが明確であること。矛盾がなく、論理的であること。自分なりの視点で構成されていること。			小レポート	30	毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。
授業参加状況	10	授業への取り組み姿勢を評価します。特に、講義中の質問に対する回答状況が重要です。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>自分で考えてみるのが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。（20分） 毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。（60分） テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。（100分）</p>				リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントする。			
受講生に望むこと	講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを聴くことなく回答してください。パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要はありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらうなどの処置をすることがあります。			教科書・テキスト	『テキスト社会学』星野潔・杉浦郁子著 2007年 ISBN-13:978-4762016721		
指定図書/参考書等	なし/『社会学ベーシックス 2 社会の構造と変動』井上俊・伊藤公雄編 2008年 ISBN-13: 978-4-7907-1349-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SO210U 家族社会学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	依 希 貴						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族にかんする様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半はグループ発表とそれについての討議、後半は講義を行う。				家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 現代日本における家族の動向を知る。 家族について、常識にとらわれない見方・考え方ができるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	学部生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型について学ぶ。						
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能について学ぶ。						
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化について理解する。						
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える。						
6	結婚の動向(1)：恋愛結婚、婚姻率、離婚率、初婚年齢、結婚への志向についてのデータを読む。						
7	結婚の動向(2)：収入と結婚、できちゃった婚、事実婚、国際結婚についてのデータを読む。						
8	近代化と子どもの数の減少：経済的要因と社会的要因を理解する。						
9	子どもの誕生：「子ども」の概念とその価値について学ぶ。						
10	母の誕生：「母親」という役割について考える。						
11	核家族化：人口学的特殊性から考える。						
12	子育て：親はだめになったのかどうかについて考える。						
13	高齢化社会と家族(1)：実態と見通しについて理解する。						
14	高齢化社会と家族(2)：家制度の崩壊による家族の変容について考える。						
15	多様化する家族：個人単位の社会への変容について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表	20	テーマ選択は適切か。 論理的な構成となっているか。 質疑への応答ができているか。			提出物	20	指定された期日に提出しているか。 指定された書式にしたがっているか。 自分の意見を書くことができているか。
期末試験	60	授業内容について理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
グループ発表を課すので、グループでテーマを決め、それについて調べ、ディスカッションを重ねながら発表準備を行うこと。配布資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]				各グループの発表に対してコメントする。			
受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。 授業中の討議では、積極的に発言するように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0215U 都市社会学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	依 希 貴						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
現代社会は、一般に総都市化社会と言われる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化、都市化を説明する。この講義では、都市化がコミュニティに及ぼす影響に関する研究を中心に取りあげ、背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説的に理解するとともに、近年のグローバル化にともなう都市の変容について考える。				都市社会学の基本的な概念を説明することができる。「都市化と人間関係」について説明することができる。自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができる。より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。						
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。						
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。						
5	都市の空間構造：E.W.バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR.E.パークの人間生態学について理解する。						
6	同心円地帯論への批判：E.W.バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす「要因」についての考察を深める。						
7	生活様式としてのアーバニズム：L.ワースのアーバニズム論について理解する。						
8	アーバニズム論への批判：L.ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。						
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。						
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB.ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。						
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC・S・フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。						
12	日本における下位文化理論の検証：C・S・フィッシャーの都市下位文化理論を用いた複数の社会調査の結果を比較する。						
13	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。						
14	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国人居住者研究について理解する。						
15	コミュニティ論再考：現代社会に対応した新しいコミュニティとはどのようなコミュニティかを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	積極的に授業に参加しているか。			期末試験	70	授業内容を理解しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べるができるよう、日ごろから都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、当日の講義内容について、ポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]				提出物の記述について授業中にコメントする。			
受講生に望むこと	集団や行為など、「社会学概論A」での基礎的知識を理解し、社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0220U 環境社会学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義では、私たちの生活の身近なところで発生している環境問題について、問題発生時の社会的要因に着目し、問題の特徴及び解決に向けた方法論について学ぶ。				環境問題がなぜ「問題」なのかについて説明できる 問題がもたらす派生的被害について説明できる 環境社会学の基本的理論、概念、用語について説明できる			
教授方法	講義、グループワーク、テーマ別発表（個人）						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス 環境社会学とはどのような学問なのか						
2	環境社会学の分析アプローチ 被害論、加害・原因論、解決論について学ぶ						
3	環境保護思想の歴史的展開 自然の道具的価値・内在的価値など欧米の環境思想の歴史的展開について学ぶ						
4	世代間倫理 持続可能性、予防原則などの概念を通して、世代間倫理について学ぶ						
5	日本における自然と人間の関係性 わが国の環境思想の歴史的展開について学ぶ						
6	豊かさとは何か アメニティ概念を通して豊かさについて考える						
7	社会的ジレンマ ごみ・リサイクルの問題を事例に社会的ジレンマのメカニズムと解決策について学ぶ						
8	歴史的環境とは何か 自然環境と環境文化の関係性について学ぶ						
9	身近な環境と私たちの関わり（1） 身近な暮らしの中にある環境について評価・検討する						
10	身近な環境と私たちの関わり（2） 身近な暮らしの中にある環境について評価・検討する						
11	交通問題と持続可能な都市 欧米の交通政策を検討し、わが国の交通政策上の課題について考える						
12	海は誰のものか（1） 伝統的入浜慣行、近代的入浜慣行について考える						
13	海は誰のものか（2） 公共信託理論について考える						
14	野生動物との共存は可能か 獣害問題を事例に、里山保全と野生動物との共存について考える						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	10	講義、グループワークへの積極的参加			レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている
講義内プレゼン	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルのプレゼンテーションができています			期末試験	50	講義内容についての理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
レジュメ、資料等を適宜配布するので、事前に目を落とすし理解する（30分以上） 発表に向けての資料作りでは、講義だけでなく関連する資料を収集、読み込み、オリジナリティの高い発表に仕上げる（30分以上）				講義内プレゼンについては、教員による評価に加え、受講者による相互評価を行う。			
受講生に望むこと	新聞、ニュースを毎日チェックする			教科書・テキスト	適宜レジュメ、資料を配布する 参考図書・論文については適宜紹介する		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	S0105U 文化人類学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	小林 正史						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
米を核とした日本の伝統的食文化（和食）の形成過程を食の文化間比較と考古学の方法を用いて検討する。				単系的進化論（複雑な技術ほど優れており、シンプルな技術ほどクオリティが低い）の問題点を克服し、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解する。日本の伝統的食文化（和食）が成立した背景を理解する。			
教授方法	講義、屋外での調理実験						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業概要の説明、和食の成立の概要						
2	中国と日本の食文化の比較： 中国と比べた際の日本の食文化の特徴を理解する。						
3	韓国と日本の食文化の比較： 韓国と比べた際の日本の食文化の特徴を理解する。						
4	東南アジアと日本の食文化の比較： 東南アジアと比べた際の日本の食文化の特徴を理解する。						
5	南アジアと日本の食文化の比較： 炊飯方法とカレー調理に焦点を当てて、南アジアと比べた際の日本の食文化の特徴を理解する。						
6	炊飯民族誌の比較分析： 炊飯方法、オカズ調理方法、食べ方にみられる文化間の違いが、米品種の粘り気度と強くかかわっていることを理解する。						
7	炊飯実験その1： 米品種の粘り気度により炊き方が異なることを理解する。						
8	炊飯実験その2： 同上						
9	実験のまとめと小テスト： 前半の内容を確認するための小テストを行う。						
10	日本の初期稲作民（弥生人）の米調理方法： 民族誌の比較分析と発掘された鍋釜と台所から調理方法を復元する方法を理解する。						
11	弥生時代から古墳前期への炊飯方法の変化： 炊飯方法の変化が米品種の変化に起因していることを理解する。						
12	炊飯から米蒸し調理への転換： 古代では「蒸し米」が主食だった理由を理解する						
13	古代の調理方法と食べ方： 炊飯から米蒸しへの転換に伴うオカズ調理と食べ方の変化						
14	中世における和食の成立： 平安時代後半において和食が成立するまでの過程を理解する						
15	和食の成立過程を明らかにする意義： 和食成立における米飯の重要性を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	10	積極的に授業およびグループワークに参加している。			小テスト	30	小テストに前半の内容の理解度
期末テスト	30	期末テストにおける後半の内容の理解度			提出課題	30	課題リーディングの要約や授業内ワークにおいて、内容を理解している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
課題リーディングなどを授業外で行うこと [平均45分]				小テスト後、振り返りを行う。			
受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	授業中に指示する。			その他・特記事項	屋外での炊飯実験は通常の授業外の時間に行う（振り替え）		

授業科目名	SO110U 現代社会と福祉			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、現代社会における生活問題と福祉制度の意義や理念、福祉の原理をめぐり理論と哲学等について学ぶ。さらに、福祉制度の発展過程や福祉政策の課題等について学ぶ。				現代社会に求められるソーシャルワーカーについて理解できる。 生活問題と社会福祉について理解できる。 現代社会における福祉制度と福祉政策について理解できる。 福祉の原理をめぐり理論と哲学について理解できる。 福祉制度の発展過程について理解できる。 福祉政策の課題について理解できる。 福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。			
教授方法	テキストによる講義を中心に、必要に応じグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	現代社会に求められるソーシャルワーカーについて学ぶ。						
2	生活問題と社会福祉について学ぶ。						
3	現代社会における福祉制度と福祉政策について学ぶ。						
4	福祉の原理をめぐり理論と哲学：社会福祉の目的と自立生活のとらえ方について学ぶ。						
5	福祉の原理をめぐり理論と哲学：「社会の制度」としての救済制度と社会福祉思想について学ぶ。						
6	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（前近代社会と福祉）について学ぶ。						
7	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（近代社会と福祉）について学ぶ。						
8	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（現代社会と福祉）について学ぶ。						
9	福祉制度の発展過程：欧米における福祉制度の発展について学ぶ。						
10	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（「福祉の生産」モデルと社会福祉政策等）について学ぶ。						
11	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（日本モデルの特徴等）について学ぶ。						
12	福祉政策の課題：社会福祉政策の新しい動向（ワークフェア、ディーセントワーク等）について学ぶ。						
13	福祉政策におけるニーズと資源：社会生活ニーズについて学ぶ。						
14	福祉政策におけるニーズと資源：サービス・ニーズについて学ぶ。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加状況	20	・授業への積極的な取り組み ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] 授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] 日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。				毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説を行う。			
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『現代社会と福祉 第2版』 大橋謙策・白澤政和 編 ミネルヴァ書房 2014年 ISBN:978-4-623-06964-4		
指定図書/参考書等	なし/授業において紹介			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0115U 現代社会と福祉			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、社会福祉政策の策定過程、社会福祉制度、福祉サービスの供給やサービス利用について学ぶ。また、福祉政策と関連政策(医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係や海外の社会福祉等について学ぶ。				社会福祉政策の策定過程について理解できる。 社会福祉制度について理解できる。 福祉サービスの供給について理解できる。 サービス利用について理解できる。 福祉政策と関連政策について理解できる。 海外の社会福祉について理解できる。 これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて理解できる。			
教授方法	テキストによる講義を中心に、必要に応じグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件	現代社会と福祉 の単位の修得済が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会福祉政策の策定過程：政策決定過程について学ぶ。						
2	社会福祉政策の策定過程：政策評価について学ぶ。						
3	社会福祉制度：社会福祉の法律と社会福祉基礎構造について学ぶ。						
4	社会福祉制度：社会福祉関係法制の展開について学ぶ。						
5	社会福祉制度：地域での総合的支援、福祉サービスの供給とソーシャルワーカー等について学ぶ。						
6	社会福祉制度：ソーシャルワークと社会福祉制度の活用について学ぶ。						
7	福祉サービスの供給：社会福祉組織における運営と経営の理念、行政組織における社会福祉の運営と経営について学ぶ。						
8	福祉サービスの供給：民間組織における社会福祉の運営と経営、福祉供給システムの多元化と財政について学ぶ。						
9	サービス利用：福祉サービスの利用主体について学ぶ。						
10	サービス利用：福祉サービスの利用過程について学ぶ。						
11	福祉政策と関連政策：医療政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
12	福祉政策と関連政策：教育政策・住宅政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
13	福祉政策と関連政策：労働政策・権利擁護政策とソーシャルワークについて学ぶ。						
14	海外の社会福祉について学ぶ。						
15	これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて学ぶ。まとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加状況	20	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物(講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等)。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] 授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] 日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。				毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説を行う。			
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢(疑問をもつ、考える、発言する等)で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『現代社会と福祉 第2版』大橋謙策・白澤政和 編 ミネルヴァ書房 2014年 ISBN:978-4-623-06964-4		
指定図書/参考書等	なし/授業において紹介			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0120U 心理学概論A			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。</p>				<p>1. 心理学の成り立ちについて学び、歴史の中での心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び、自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。</p>			
教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション / 心理学と諸科学：心理学の定義と範囲、諸科学との関連について理解する。						
2	心理学の歴史（1）ヴント以前～科学的心理学の成立：ヴント以前から現代までの心の捉え方について学び、科学としての心理学が歴史の中でどのように成立したのかを理解する。						
3	心理学の歴史（2）計算機科学と神経科学の影響：認知革命以降の心理学の発展と現代の学際的な心理学の形態について理解する。						
4	比較・生理・神経の心理学：比較（動物）心理学・生理心理学・神経心理学の概要を理解する。						
5	発達・感情・学習の心理学：発達心理学・感情心理学・学習心理学の概要を理解する。						
6	感覚・知覚・認知の心理学：感覚 / 知覚心理学・認知心理学の概要を理解する。						
7	言語・思考の心理学：言語心理学・思考に関する認知心理学の概要を理解する。						
8	社会・集団・家族の心理学：個人・集団・社会・家族を含む社会心理学の概要を理解する。						
9	教育・学校の心理学：教育心理学・学校心理学の概要を理解する。						
10	犯罪・司法の心理学：犯罪心理学・司法と心理学の関係についての概要を理解する。						
11	産業・組織の心理学：産業 / 組織心理学の概要を理解する。						
12	健康・医療・福祉の心理学：健康心理学・医療や福祉に関する心理学の概要を理解する。						
13	臨床・パーソナリティの心理学：臨床心理学・パーソナリティ心理学の概要を理解する。						
14	文化・進化の心理学：文化心理学・進化心理学の概要を理解する。						
15	まとめ / 心理学とその応用：授業全体を振り返り、心理学の応用可能性について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。			振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]</p>				<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるため、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。			教科書・テキスト	『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣、2015年、ISBN-13：978-4641150225 / 同時に、教員が作成した資料も配布する。		
指定図書 / 参考書等	なし / 『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣、2018年、ISBN-13：978-4641053861			その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。		

授業科目名	S0125U 心理学概論B			開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。「心理学」というと、カウンセリングや心理療法を思い浮かべる学生が多いと思われる。しかし、実際にはその他にもさまざまな分野がある。本講義では、学習、感覚、認知といった分野を中心にとりあげる予定である。本講義を通じて人の心の仕組みや働きについて興味を持ち、理解を深めてほしい。</p>				<p>心理学という学問のなりたちや性質を理解している。感覚・知覚、学習、認知といった基本的な心の仕組みやはたらきを理解している。講義で学んだことを自分自身の経験や日常生活の問題に当てはめて考えることができる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	心理学概論Aを履修済が望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：心理学とはどのような学問かを知る						
2	学習心理学1：条件付けの基礎と応用について学ぶ						
3	学習心理学2：観察学習、社会的学習について学ぶ						
4	学習心理学3：学習理論の現場での応用を学ぶ						
5	動機づけ：動機付け理論の基礎を学ぶ						
6	感情：感情の種類、感情の理論の基礎を学ぶ						
7	知覚心理学1：知覚・感覚の特徴と働きを学ぶ						
8	知覚心理学2：視覚の特徴と働きを学ぶ						
9	知覚心理学3：聴覚の特徴と働きを学ぶ						
10	認知心理学1：記憶の理論の基礎を学ぶ						
11	認知心理学2：問題解決と意思決定の基礎を学ぶ						
12	認知心理学3：言語の仕組みと働きを学ぶ						
13	生理心理学1：記憶と脳の関わりについて学ぶ						
14	生理心理学2：言語と脳の関わりについて学ぶ						
15	総括：これまでのまとめとふりかえり						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	講義内容の理解度により評価を行う。			講義への参加度	30	講義中の態度および振り返りの内容により評価を行う。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				提出された課題に対しては、代表的な意見を取り上げて講評する。			
受講生に望むこと	みなさんの抱く「心理学」のイメージとは異なるトピックも多く出てくるかもしれませんが、この講義をきっかけに、心理学の各領域をさらに深く学んだり、みなさんの身の回りの出来事、普段の対人関係、そして自分自身のこころについてより深く考えたりできるようになればと思います。			教科書・テキスト	金城辰夫(監修)藤岡新治・山上精次(共編)2016 図説 現代心理学入門[四訂版] 培風館 ISBN:978-4563052447		
指定図書/参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SC200U 宗教と社会			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	橋本 史郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、聖書が科学技術や法制度の発展に与えた影響を歴史的に追う。その上で、聖書翻訳の歴史が職業観に及ぼした積極的影響と、「らい」観に与えた否定的影響を考察する。さらに宗教的理念が社会を変えたケースとして、米国におけるM.L.Kingによる人種差別撤廃の戦いを取り上げ、検討する。</p>				<p>・宗教がたんに、個人に安心立命を与えるだけではなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解することができる。 ・そのなかでもとくにキリスト教社会においては、聖書解釈と言う形で宗教が社会に影響を及ぼすことを理解し、説明することができる。 ・その場合、宗教が社会に対して、積極的もしくは否定的な効果をもたらすことを、歴史的・客観的に理解することができる。</p>			
教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、および講義内容から示された主題について考え、振り返り、その内容をミニレポートにまとめ、毎回提出する形で進める。						
履修条件	「キリスト教概論」および「キリスト教概論」を履修していることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	序論 大塚久雄『社会科学の方法』から、K.MarxとM.Weberそれぞれの方法論を学び、本講義の方法論を確定する。社会科学が社会現象をどのような方法で取り扱うのか、上部構造と下部構造とに着目して理解する。						
2	宗教と科学技術 宗教は非科学的か。聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学的に概観し、科学技術成立に対する宗教の影響と役割を確認する。一神論が自然科学的思考を生んだ歴史的経緯を理解し、宗教と科学技術との基本的な関係を理解する。						
3	宗教と法 1)旧約律法の意味、2)新約における律法と福音との関係を知り、3)福音から律法へと展開する過程を追う。社会制度・法への宗教の影響の基本的枠組みを確認する。旧約律法がイスラエル共同体の形成原理となったことを理解し、宗教が社会形成を担うことを理解する。						
4	聖書翻訳と職業観 古代から中世の聖書解釈と職業観の変遷を辿る。中世までの職業観の歴史的変遷、およびそのなかで聖書の職業観に対する理解がどう変化してきたかを理解する。						
5	聖書翻訳と職業観 宗教改革による職業観の転換(1)としてM.Lutherの改革の画期性と限界を知る。ルターの聖書翻訳が当時の社会、とくに職業観に与えた影響を確認し、自らの職業観を問う。						
6	聖書翻訳と職業観 宗教改革による職業観の転換(2)としてJ.Calvinによる改革の社会的影響を学ぶ。ピューリタニズムの職業観を理解し、現代の職業観と比較する。						
7	聖書翻訳と職業観 18世紀以後のピューリタン職業思想の世俗化の経緯を追う。宗教改革期と近代産業革命期以後の職業観の相違と継続性を理解し、労働の意味を問う。						
8	聖書翻訳と職業観 明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命Missionについて考える。近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える。						
9	聖書翻訳と「らい」 「らい」史の概要を理解し、その差別の問題性を知る。ハンセン病について、また「らい」史の概略およびその差別的問題性を理解する。						
10	聖書翻訳と「らい」 旧約におけるツアラアトがハンセン病を意味したのか。これを「らい病」と翻訳したことが妥当であったのかを検討する。旧約のツアラアトがハンセン病を意味しないことを理解し、かつての聖書翻訳の問題性を確認する。						
11	聖書翻訳と「らい」 新約におけるレブラがハンセン病であったのかを検討し、その翻訳の妥当性を検討する。新約におけるレブラがハンセン病ではないことを確認し、なぜ「らい」と訳されるに至ったかを理解する。						
12	聖書翻訳と「らい」 聖書翻訳におけるツアラアトとレブラの翻訳史を追い、それらが「らい病」と訳された経緯を確認する。聖書翻訳の重大性を「らい」の例により理解する。						
13	人種差別と宗教 聖書解釈による人種差別合理化の歴史を確認し、M.L.Kingが登場した歴史的意味を学ぶ。現代米国社会における人種差別問題が聖書解釈によって根拠づけられた経緯を理解する。						
14	人種差別と宗教 マタイによる福音書5章のイエスの「愛敵の教え」をM.L.Kingがどう解釈し、それに基づき、どう戦ったかを追う。M.L.Kingの差別撤廃運動が聖書解釈のどらえ直しから始まり、さらに公民権運動へと発展し、米国社会に大きな影響を与えたことを理解する。						
15	総論とまとめ M.L.Kingの戦いについてまとめ、本講義の総括をする。さらに日本社会の課題について考える。聖書の翻訳や解釈が社会を変える可能性を持つことを理解し、現代日本における職業観のあり方、および偏見や差別との戦いについて、聖書の中心的使信は何を語っているか、聴き取る。						
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	50	毎回の講義およびまとめの内容をミニレポートにまとめ、提出。授業内容を理解している。それを自分の言葉で掴み、表現している。疑問や質問など、問題意識を持っている。			リーディングレポート	50	M.L.King『自由への大いなる歩み』を9回にわたり各章ごとに要約し、レポートする。各章の概要が要約されている。それに対する自分の考えを整理して述べている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
講義のなかで紹介した参考図書を手にとって内容を見る。【15分】 前回授業のレジュメを確認し、振り返りを行った上で、次の授業に臨む。【15分】 M.L.King『自由への大いなる歩み』を読み、各章ごとに概要をまとめる。【90分】				毎回の授業で、前回のミニレポートについて、またリーディングレポートについて、必要なコメントをする。			
受講生に望むこと	受け身ではなく、主体的に授業に参加すること。 旧・新約聖書を持参すること。 遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。			教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会		
指定図書/参考書等	参考図書 『自由への大いなる歩み』M.L.King 岩波新書 1959年 ISBN4-00-415003-5。『科学者とキリスト教』渡辺正雄 講談社ブルーバックス 1967年 ISBN978-4-06-132686-6。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M.Weber 岩波文庫 1955年 ISBN-00-007091-6-C0336。『社会科学の方法』大塚久雄 岩波新書 1966年 ISBN4-00-411062-9。			その他・特記事項	毎回の授業ミニレポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとなる。リーディングレポートは必ず指定された期限内に提出すること。		

授業科目名	SC205U 若者文化論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>時代を映す鏡として、若者のライフスタイルや考え方が引き合いに出されることがある。社会の活性化を促すとして肯定的に捉えられる場合もあれば、「最近の若者は…」と否定的に捉えられることもある。この授業では、戦後日本社会の若者を取り巻く社会状況や文化的背景も踏まえて、当時から現代の若者たちがどういった文化に親和性を感じ、行動していた／いるのかを考えていく。</p>				<p>戦後日本の若者文化の変遷について、各時代の特徴を説明することができるようになる。 戦後日本の若者文化の変遷をもたらした、各時代の社会背景を説明することができるようになる。 時代・年代・世代を超えて変わらない若者文化の特徴を、具体的な事例に基づいて説明することができるようになる。 時代・年代・世代の影響を色濃く受けた若者文化の特徴を、具体的な事例に基づいて説明することができるようになる。 若者文化を素材として、社会学における基本的概念を正しく理解することができる。</p>			
教授方法	講義・グループ報告・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：対象としての「若者」や「若者文化」について簡単に触れ、本科目で学ぶ内容について整理する。						
2	問題対象の設定：世代論と比較しつつ、若者文化について学ぶ意義を考える。						
3	問題対象の設定：「若者」と「青年」という語を対比し、その異同について考えると共に、若者／青年に対する社会の「まなざし」について考える。						
4	問題対象の設定：単なる「若者論」と違いを考えることを糸口として、本科目で学ぶべき内容について再考する。						
5	小括：この授業が目指す社会学的な若者文化論と何か、ここまでの学習内容を振り返る。／次週以降のグループ報告における分担を話し合う。						
6	グループワーク：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
7	グループ報告：概ね戦前から戦後混乱期における若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
8	グループ報告：概ね1970年代までの若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
9	グループ報告：概ね1980年代から現代までの若者文化についてのグループ報告を行い、その後各グループごとにディスカッションを行う。						
10	現代社会における若者文化：高度情報社会における若者のコミュニケーションや友人関係について理解する。						
11	現代社会における若者文化：歴史的な変化や、現代の生育環境・教育環境を踏まえつつ、現代の若者の逸脱行動について理解する。						
12	現代社会における若者文化：サブカルチャーや「オタク」文化を素材として、若者像、若者同士の社会関係、若者文化の変遷について考える。						
13	若者文化の今後：グローバル化に特徴付けられる現代社会において、若者文化が果たすであろう積極的役割について中心に考える。						
14	若者文化の今後：日本の伝統文化との比較の中から、若者文化が果たすであろう積極的役割について中心に考える。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「若者文化」について学ぶ意義を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。			担当回の発表	15	受講生同士の投票によって、担当回における発表とレジュメ等の正確さや分かり易さ等を評価する。
グループ作業	15	担当回における発表を教員が見ることによって、そこに至るまでのグループ作業の成果を総合的に評価する。			レポート	55	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について説明することができるように、また様々な事例に当てはめて説明できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習する。[45分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]				各回の授業でコミュニケーションの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。 グループ作業時には自己評価シート等の提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う			
受講生に望むこと	・「社会学的思考様式」をベースにした若者文化の理解を目指すため、社会学一般の教養を十分に修めることが望ましい。 ・一方で、本科目の射程を超える心理学をはじめとするその他の学問的視点についても、それぞれの興味に応じて繋がっていくことを期待したい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SC215U 多文化共生論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	依 希 貴						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>外国籍居住者の増加とともに、「多文化共生」概念が注目されるようになってきた。家族関係、教育など、外国籍居住者の現状と課題を把握し、「多文化共生」と呼ばれる経験、努力が今の日本でもどこまでできているかを総括する。また、オーストラリアやアメリカなど多文化主義の考え方を導入している国の歴史や社会的背景を学ぶことから、日本社会における多文化共生の未来に向けての条件と課題を考察する。</p>				<p>多文化共生の基礎知識を身につけ、意味を理解する。日本における外国籍居住者の現状と課題についてまとめ、考察することができるようになる。 多文化共生のパースペクティブを身につけ、異文化に理解を示すことができるようになる。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	グローバル化と多文化共生：「グローバル化」という社会変動と「多文化共生社会」の意味を理解する。						
3	多文化共生のパースペクティブ：多文化共生社会に向けて求められる視点について考える。						
4	アメリカにおける多文化主義：移民社会アメリカの成り立ちについて理解する。						
5	ヨーロッパ諸国における多文化主義：社会的背景とその潮流について理解する。						
6	オーストラリアにおける多文化主義：白豪主義からの転換について理解する。						
7	外国人労働者から住民、市民へ：日本における定住外国人に対する受け入れ施策を検討する。						
8	外国籍居住者たちの文化の権利：母国語が英語圏の居住者とそれ以外の居住者、それぞれについて考える。						
9	多文化共生とアイデンティティ：外国籍居住者の家族成員の文化変容のズレおよびアイデンティティの変容による家族内葛藤を考える。						
10	多文化共生と子どもの権利：外国籍居住者の家族関係と家族問題を子どもの権利の観点から考える。						
11	多文化共生と学校教育：文化伝達の観点からマイノリティ児童生徒への学校教育を、母国語が英語圏の児童生徒とそれ以外の児童生徒、それぞれの場合について考える。						
12	多文化共生と第二言語教育：第二言語として日本人児童生徒が英語を学ぶ環境と、外国人児童生徒が日本語で学ぶ環境と意義について考える。						
13	多文化共生と壁：「制度の壁・心の壁・言葉の壁」から生じる外国籍児童生徒の「不就学」の構造について考える。						
14	文化の多様性および異文化交流の意義：文化的背景の異なる人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。						
15	まとめ：改めて多文化共生社会の未来と課題について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	参加態度・意欲			期末レポート	70	課題に対して適切な内容となっているか。 定められた期限内に提出しているか。 指定された書式、字数にしたがっているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業中に関連テーマでグループディスカッションをおこなうことを指示するが、その際、意見を述べるができるよう、普段から日本における外国籍居住者についてのニュースや国際的なニュースに関心を持つこと。事後学習として、授業中に配布したレジュメを確認すること。専門用語は授業中に説明するが、復習を兼ねて事典等で調べること。[45分]</p>				<p>グループディスカッションで述べられた意見についてコメントする。</p>			
受講生に望むこと	授業で学んだことと社会情勢を常にリンクさせて自分なりの意見を持つように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	子ども教育学科 中学校教諭一種免許状（英語） 関連科目		

授業科目名	SC310U 犯罪社会学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>辞書的な観点から理解すると、社会的に有害、あるいは危険である行為・現象を犯罪・非行として定義することができる。しかし、一面的な視点からだけでは、犯罪・非行の本質を理解することはできない。この授業では、社会との関わりを重んじて犯罪・非行現象にアプローチし、犯罪・非行を多面的に理解すると共に、犯罪・非行の取り扱い方/取り扱われ方を通して、私達の社会のあり様それ自体を考えていく。</p>				<p>犯罪・非行の量的・質的変遷がどのようになっているか、またどういった社会背景によってもたらされたのかを、文章で説明することができる。 犯罪・非行の処遇について、制度の目的や量的・質的な現状を、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。 逸脱行動論の観点から、社会学的に犯罪・非行の発生ならびに予防のメカニズムを理解し、具体例に適用して文章で説明することができる。 定義を含む、犯罪・非行に対する社会的反応について、どういった意義や問題があるのか、また時代に沿ってどのように変化したのかを、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。</p>			
教授方法	講義・グループ報告・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：犯罪学・社会学というそれぞれの大領域の中での位置付けを考える作業を通して、犯罪社会学の意義・目的について理解する。						
2	犯罪・非行に関する基礎知識：犯罪・非行に関わる法・政策・制度・機関等についての基礎知識を学習する。						
3	犯罪・非行に関する基礎知識：犯罪・非行にまつわる統計を通して、当該現象に接近・観察することの難しさについて学習する。						
4	犯罪者処遇：成人を対象とし、犯罪者処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
5	犯罪者処遇：少年を対象とし、成人との比較を通して、非行少年処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
6	逸脱行動論：初期の犯罪学理論と合わせて、アノミー論や社会解体論等の、主としてマクロ領域における逸脱行動論について学習する。						
7	逸脱行動論：分化的接触理論や非行サブカルチャー論等の、主としてメゾ領域における逸脱行動論について学習する。						
8	逸脱行動論：コントロール理論等の、主としてミクロ領域における逸脱行動論について、またそれとの関連から環境犯罪学について学習する。						
9	犯罪・非行への社会的反応：各種逸脱行動論への理解を踏まえて、また犯罪・非行に接近・観察することの難しさとも合わせて、ラベリング論や逸脱の相互作用性について学習する。						
10	犯罪・非行への社会的反応：犯罪報道と世論の関係について、また被害者の視点から社会における犯罪・非行を再理解することについて学習する。						
11	小括：この授業が目指す社会学的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。/次週以降のグループ報告における分担を話し合う。						
12	グループワーク：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
13	グループワーク：各グループに分かれたディスカッションによって課題に沿った問題設定を行い、必要な資料を収集し、レジュメとスライドを作成する。						
14	グループ報告：グループ報告を行い、その後報告内容に沿って各グループごとにディスカッションを行う。						
15	グループ報告：グループ報告を行い、その後報告内容に沿って各グループごとにディスカッションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。			担当回の発表	20	受講生同士の投票によって、担当回における発表とレジュメ等の正確さや分かり易さ等を評価する。
グループ作業	15	担当回における発表を教員が見ることによって、そこに至るまでのグループ作業の成果を総合的に評価する。			試験	50	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>各回の授業で学習した犯罪社会学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。 グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>・社会現象への関わり方や理解の仕方は多様であるが、犯罪・非行へのそれらとはとりわけセンシティブでデリケートなものとなる。そのことを踏まえてなお、積極的に社会における包摂のあり方について、日頃から関心を持って、考えていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書/参考書等	<p><参考書> 『よくわかる犯罪社会学入門（改訂版）』 矢島正邦・山本功・丸秀康著 学陽書房 2009年 <ISBN: 978-4313340183> 『犯罪・非行の社会学・常識をどう考えようか』 岡邊健章 有斐閣 2014年 <ISBN: 978-4641184183> 『ピチナース犯罪学』 守山正・小林寿一著 成文堂 2016年 <ISBN: 978-4792351830></p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>		

授業科目名	SC315U 社会病理学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業では、病理や問題とされる諸現象の発生要因や対応等について、社会との関わりから考えていく。また、逆に、病理現象が発生する社会のあり様それ自体を、私達の生活する現代社会とは一体どのようなものかについて、考えていく。				正常／異常、一般／特殊といった比較対象の設定という、社会病理学的社会観について、自分の言葉で文章化して説明することができる。 社会病理現象の相対性について、具体例を交えて、文章化して説明することができる。 現代の社会病理現象における具体的な動向について理解し、経時的な変化や今日的な特徴を押さえて、分かり易く文章化して説明することができる。 社会病理学に固有の概念や理論について、分かり易く文章化して説明することができる。 社会病理現象を理解するのに有用な社会学の基本的概念や理論について、具体例を交えて、文章化して説明することができる。 社会病理現象への介入・実践のあり方について、自分なりの考えや態度を明確にし、分かり易く文章化して説明することができる。			
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：社会学の成り立ちへの理解や、関連領域との比較を通して、社会病理学という研究領域、およびこの授業の意義・目的について理解する。						
2	社会病理学の歴史：社会有機体説やマルクス主義をはじめとする、初期の社会病理学的視点について学習する。						
3	社会病理学の歴史：デュルケムの業績を中心に、社会病理学的視点について学習する。						
4	社会病理学の歴史：シカゴ学派の業績やミルズによる社会病理学批判について学習する。						
5	社会病理学の基本的視座：社会病理学的視点の相対性について学習する。						
6	社会病理学の基本的視座：主に機能主義について学習する。						
7	社会病理学の基本的視座：社会病理現象への対応について、逸脱統制の観点から学習する。						
8	社会病理学の基本的視座：社会病理現象への対応について、実践・介入・臨床の観点から学習する。						
9	社会病理学の基本的視座：社会構築主義について学習する。						
10	小括：この授業が目指す社会的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。ノ映像資料の視聴と共にグループディスカッションを行い、社会病理学的視点を共有する。						
11	社会病理学各論：貧困をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
12	社会病理学各論：親密圏で発生する暴力（虐待・DV等）をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
13	社会病理学各論：いじめ問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
14	社会病理学各論：不登校およびひきこもり問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「社会病理学」について学ぶ意義を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		グループディスカッション	20	グループディスカッション時の、運営上の貢献およびテーマに沿った発言などの積極的な参加態度を評価する。	
試験	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業で学習した社会病理学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]				各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。 グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方的な学習となる。そのため、この授業で獲得した内容を活用して、日常的な学習の中で、あるいはその他の科目の中で、自らの意見や態度をアウトプットする習慣を身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	<参考書> 『新版 非行と社会病理学理論』 高原正興 三学出版 2011年 < ISBN: 978-4921134518 > 『社会病理学的想像力 「社会問題の社会学」論考』 矢島正見 学文社 2011年 < ISBN: 978-4762021374 >			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SL315U 政治学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若山 将実					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。			個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。			
教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心にしますが、学生が主体的に学ぶことのできるアクティブラーニングの機会を設ける予定です。また、授業の折々でWeb上のクリッカーアプリを使用してアンケートや学生からのコメント採取を随時実施します。					
履修条件	社会学科の学生のみ履修可。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）					
2	国家とは何か：現在では当たり前のように存在している国家について、国家の定義から近代国家が成立した理由、国家の役割、国民の定義、そして国家破綻がもたらす影響について考察します。（国家が存在する意義を理解する。）					
3	政治体制：世界各国の多くが現在では民主主義の政治体制となっていますが、他方で非民主的な体制下にある国も厳然と存在しています。この回は、民主主義体制と非民主主義体制の特徴について検討します。（比較を通じて民主主義の特質を理解する。）					
4	民主化：非民主主義体制から民主主義体制への移行はどのような要因によって生じるのでしょうか。民主化についてその歴史を振り返りながら比較政治学の理論的な検討を行います。（政治体制の変動を促す要因についての理論と仮説を理解する。）					
5	アクティブラーニング1：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。					
6	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか。この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）					
7	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）					
8	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）					
9	アクティブラーニング2：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。					
10	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）					
11	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、安倍首相の政権運営が前任時とどのように違うのかについてなど。）					
12	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）					
13	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）					
14	アクティブラーニング3：現代政治に関する課題を提示します。受講者はグループでその課題に取り組み、発表を行います。					
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	試験形式は論述形式を予定している。政治行動の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。		アクティブ・ラーニング	30	課題に対してグループで取組み、わかりやすい発表ができているかを見る。
ワークシート・リアクションシート	20	毎回の授業の理解度を確認するワークシートやそれに付随する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義で使用するレジュメ（資料）は、メソフィアを通じて授業前日までに配布するので必ず目を通してください。[30分] 毎日、新聞・ニュース等を目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらいます。[60分]			毎回のワークシートおよびそれに付随するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。		教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回メソフィア等を通じて配布します。		
指定図書/参考書等	なし。/ 『政治行動論：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著 有斐閣 2015年 ISBN-13: 978-464115-294-4 『政治学 (New Liberal Arts Selection)』久米 郁男・川出 良枝・古城 佳子・田中 藝治・真淵 勝共著 補訂版 有斐閣 2011年 ISBN-13: 978-4641053779 『比較政治学』スティーブン・P・リットナー ミネルヴァ書房 2006年 ISBN-13: 978-4623044986 『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』北山俊哉・真淵勝 久米郁男共著 有斐閣 第3版 2009年 ISBN-13: 978-4641123687		その他・特記事項	なし。		

授業科目名	SL320U 地域社会政策論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この講義では自然災害によって被災した地域住民生活の復旧・復興過程で生じる法制上、政策上の課題に焦点を当て、人間の復興に必要な諸策について検討・考察する。				被害の不等性について理解する。 被災者支援に係る法律や条例等について、その内容を理解する。 人間の復興について、自分のことばで説明できる。			
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス						
2	わが国の社会変動の特徴と課題 超少子高齢社会の特徴について学ぶ						
3	超少子高齢社会の社会政策（1） 人口政策、財政政策について学ぶ						
4	超少子高齢社会の社会政策（2） 社会保障政策、セーフティネットについて学ぶ						
5	過疎高齢地域と災害 能登半島地震を事例に、災害復旧・復興過程の課題について学ぶ						
6	東日本大震災と生活復興（1） 災害の特徴と生活復興上の課題について学ぶ						
7	東日本大震災と生活復興（2） 災害時要配慮者を巡る課題について学ぶ						
8	自主防災組織とは 自主防災組織の役割、機能、課題について学ぶ						
9	災害と避難行動（1） 災害発生時の行動特性を理解し、取るべき対策について学ぶ						
10	災害と避難行動（2） 映像資料を観ながら、これからの自助・共助について考える						
11	地区防災計画 地区防災計画の概要、タイムラインの考え方について学ぶ						
12	避難計画の検討 具体的事例から個別避難計画の要点について学ぶ						
13	避難計画の立案（1） 個別避難計画をプランニングする。						
14	避難計画の立案（2） 個別避難計画の評価を行う。						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	講義、グループワークへの積極的参加			レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用い課題を考察し、要求されたレベルでの論考ができている
小テスト	20	講義で学んだことの理解度			期末試験	50	講義内容の理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
レジュメ、資料等を配布するので、受講前に目を通し内容を理解する（30分以上） 小テストを適宜実施するので、前の講義で学んだことを整理し理解する（30分以上） 講義中に紹介した書籍等について目を通し理解を深める（30分以上）				小テストについては講義時間内に実施し、終了後答え合わせ及び解説をする。			
受講生に望むこと	新聞、ニュースなどを毎日チェックする 災害に関連した書籍を5冊以上読む			教科書・テキスト	適宜レジュメ、資料を配布する		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	講義内容の性質上、週末に2コマ連続で実施する場合があります（日程については受講者と相談し決定する）		

授業科目名	SL105U 経営学入門			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。</p>				<p>授業で設定されたテーマを理解する。授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>			
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	学部生のみ履修可。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション - 生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみよう -						
2	会社の一生：会社の誕生から成長、衰退、倒産までを考える						
3	会社はだれのものか：「株式会社」の仕組みについて学ぶ						
4	会社の仕組み：会社はどのような組織があるのか、その構造がどうなっているかを学ぶ						
5	会社で働くこと：労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する						
6	会社を動かす（経営戦略1）：会社のミッション（経営理念）や経営戦略の3つのレベルについて学ぶ						
7	会社を動かす（経営戦略2）：経営戦略のうち「競争戦略」について理解する						
8	【事例】（DVD）コンビニを作った素人たち						
9	【事例】（DVD）ヤマト宅急便の歴史						
10	ものが売れる仕組み：身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ						
11	経済社会の動きと企業経営：日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ						
12	企業の社会的責任（CSR）と企業倫理：企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える						
13	新しい企業と経営のあり方：NPOや近年注目されている社会的企業について学ぶ						
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方：企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ						
15	まとめ - 全体を振り返り、今後の学びや進路選択に向けて考えてみよう -						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと。[30分] 毎回授業後は、配布資料の内容をもう一度復習しておくこと。[60分]</p>				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)		
指定図書/参考書等	なし/『はじめの一歩 経営学(第2版)』守屋貴司・近藤宏一編著 ミネルヴァ書房 2012年 ISBN978-4-623-06331-4			その他・特記事項	・コミュニティ文化学科科目「企業と社会」と合同開講である。		

授業科目名	SL200U 社会貢献論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義では災害ボランティアを中心にボランティア活動の行為の主体の特質、ボランティアの社会的役割等について学ぶ。			災害ボランティア活動の歴史を通して、ボランティアという行為の意味を理解するとともに、ボランティア活動が提起する社会の課題について理解する。受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、その改善や解決に主体的に関わるための知識を習得する。社会に貢献するとはどういうことかについて、自分のことばで説明できる。			
教授方法	講義、グループワーク					
履修条件	これまでボランティア活動や市民活動に参加したことのある学生、また在学中に参加したいと考えている学生が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス					
2	自然災害と社会変動 わが国で発生する自然災害の特徴について学ぶ					
3	自助・共助・公助とは 災害における自助、共助、公助の役割と課題について学ぶ					
4	善きサマリア人法とは 「善きサマリア人法」の考え方について学ぶ					
5	共同性と公共性 共同性概念、公共性概念について学ぶ					
6	ボランティアと公共性 新しい公共の担い手としてのボランティアの可能性について学ぶ					
7	ボランティアとは誰か ボランティア活動をする主体の特徴や参加動機について学ぶ					
8	自然災害とボランティア(1) 災害発生段階におけるボランティアの役割について学ぶ					
9	自然災害とボランティア(2) 復旧・復興期のボランティアの役割について学ぶ					
10	被災者支援 被災者に寄り添うことの意味について学ぶ					
11	グループディスカッション(1) 避難所運営を疑似体験する					
12	グループディスカッション(2) 避難所運営を疑似体験する					
13	災害時要配慮者を巡る諸課題(1) 避難所で生じるさまざまな課題の解決法を学ぶ					
14	災害時要配慮者を巡る諸課題(2) 仮設住宅で生じるさまざまな課題の解決法を学ぶ					
15	まとめ・総括					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
講義参加態度	10	講義及びグループワークへの積極的参加		レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができています
講義内プレゼン	20	講義で学んだことの理解度		期末試験	50	講義内容の理解度
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
講義中に配布した資料は次回の講義までに目を通し内容を理解する(30分以上) 講義中に紹介した書籍等について目を通す(30分以上)				講義内プレゼンについては、教員の評価に加え、受講者による相互評価を行う。		
受講生に望むこと	自分が関心のある領域の社会貢献活動について調べる 関心のある社会貢献活動に参加する。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	講義内容の性質上、第11回・12回は週末を利用し連続開講する予定(具体的日程については受講者と相談し決定する)。	

授業科目名	SL235U 環境と開発			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義では、国内外で発生する環境問題、開発問題について、問題を深刻化させる社会経済的要因について考えるとともに、解決に向けた具体的アプローチについて受講者と共に考える。				人間開発概念、エンパワメント概念、内発的発展論など講義で紹介する重要概念や理論について説明できる 豊かさとは何かについて、自分の考えを自らのことばで説明することができる			
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス、環境と開発に関する考え方についての概説						
2	開発理論 従属論、世界システム理論など開発理論の基本的考え方について学ぶ						
3	人間開発とは何か 国際開発協力を考える上で重要な人間開発概念、エンパワメント概念について学ぶ						
4	公正な社会とは 社会的公正、公正としての正義概念について学ぶ						
5	内発的発展とは(1) 内発的発展論の基本的考え方について学ぶ						
6	内発的発展とは(2) 内発的発展論の今日的意義について学ぶ						
7	世界の食糧問題 食料を巡る国際情勢について、エコロジカル・フットプリント概念から学ぶ						
8	グループワーク(1) 具体的な開発問題についてグループワークを通して話し合い、解決策を考える						
9	エネルギーと気候変動 気候変動リスクの現状とグローバルガバナンスの動向について学ぶ						
10	貧困と格差 貧困の定義、貧困と格差の現状について学ぶ						
11	MDGsとSDGs ミレニアム開発目標、国連持続可能な開発目標について学ぶ						
12	世界の水問題 水を巡る国際情勢と日本の現状について学ぶ						
13	グループワーク(2) 具体的な環境問題についてグループワークを通して考え、解決策を考える						
14	豊かさとは何か 豊かさの概念について学び、現代の私たちの暮らしを問い直してみる						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加、グループワークへの積極的参加			レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている
小テスト	20	講義で学んだことが理解できている			期末試験	50	講義内容の理解度
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
レジュメ、資料を適宜配布するので、講義の前に目を通し内容を理解すること(30分以上) 前回講義の復習を兼ねた小テストを実施する(不定期)ので、前に学んだことを復習し理解する(30分以上) 講義で紹介した書籍等について目を通し理解を深めること(30分以上)				小テストについては講義時間内に実施し、終了後答え合わせ及び解説をする。			
受講生に望むこと	環境問題、開発問題に関する書籍を5冊以上読むこと 新聞、ニュースを毎日目を通すこと			教科書・テキスト	指定図書なし(講義中に適宜紹介する) レジュメ、資料を配布し講義を進める		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	SL205U 高齢者福祉論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>老いや高齢者の問題は、とくく否定的なイメージでとらえられがちである。確かに、介護問題等は深刻な社会問題ともなっている。しかし一方では、さまざまな形で社会参加し意欲的に暮らしている高齢者や、介護が必要になってもその人らしく生き生きと暮らしている高齢者も見受けられる。授業では、超高齢社会を乗り切っていくために、高齢者や老いの問題について理解を深めていく。さらに、支え合っていく仕組みの問題や豊かな老後等、高齢者福祉のあり方について考えていく。</p>				<p>高齢者の特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できる。 高齢者保健福祉制度の発展過程について理解できる。 介護保険制度について、目的と理念、制度の概要等を理解できる。 高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。 介護の概念や対象及びその理念、介護過程、介護の技法、介護予防、終末期ケアのあり方について理解できる。</p>			
教授方法	テキストや資料等をもとに講義形式で行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業概要の説明。高齢化の進展とその特徴について学ぶ。						
2	高齢者を取り巻く社会情勢・福祉・介護需要について学ぶ。						
3	高齢者の特性や生活実態について学ぶ。						
4	高齢者保健福祉制度の発展過程について学ぶ。						
5	介護保険制度：介護保険制度創設の背景、介護保険制度の目的と理念について学ぶ。						
6	介護保険制度：介護保険制度の仕組みの概要について学ぶ。						
7	介護保険制度：介護保険制度の動向について学ぶ。						
8	介護保険制度：介護保険制度等サービス（居宅・介護予防・地域支援サービス）の体系について学ぶ						
9	介護保険制度：介護保険制度等サービス（施設サービス）の体系について学ぶ。						
10	高齢者を支援する組織と役割、専門職の役割と実際について学ぶ。						
11	高齢者支援の関係法規（老人福祉法、高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律等）について学ぶ。						
12	介護実践に関連する諸制度（個人の権利を守る制度、保健医療福祉に関する施策の概要）について学ぶ。						
13	介護の概念と対象、介護予防、介護過程について学ぶ。						
14	認知症ケア、終末期ケアについて学ぶ。						
15	介護と住環境について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加状況	20	・ワークシートや振り返りシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）により評価する。 ・授業への積極的な取り組み。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] 授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] 日頃から高齢者福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	講義中心の授業となるが、受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『新・エッセンシャル老人福祉論 第3版』石田一紀編 みらい 2015年 ISBN978-4-86015-339-7		
指定図書/参考書等	なし / 『平成29年版厚生労働白書』厚生労働省編 2017年 ISBN978-4-86579-104-4 『平成30年版 高齢社会白書』内閣府編 2018年 ISBN978-4-86579-128-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL210U 障害者福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1. こころの不調や発達障害などを含め、現代社会における障害者福祉の諸問題、支援制度等を正しく理解する。</p> <p>2. 社会福祉士実習で必要となる基礎知識の獲得、および社会福祉士国家試験の関連科目に関する知識を身につける。</p> <p>3. 障害がある人たちの諸問題は社会全体の問題としてとらえ、専門職を目指すもの以外にも理解できる講義を展開する。</p>			<p>1. 障害の概念、および障害者福祉の社会的背景について理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. 障害者福祉の理念としてのリハビリテーションやノーマライゼーション等の考え方や意義について理解し、説明できるようにする。</p> <p>3. 障害者の生活実態やこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解し、説明できるようにする。</p> <p>4. 障害者福祉制度の発展過程、および障害者総合支援法や障害者福祉に係る法制度について理解し、概要を説明できるようにする。</p> <p>5. 障害者福祉の現状と課題、および障害者の生活とそれらに対する支援サービスについて学ぶ。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	障害概念、および障害の基礎的理解					
2	障害者の生活実態、データからみる障害者の現状、介護需要(ニーズ)の実態					
3	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢(1) 国際障害者年の理念、障害者の権利に関する条約					
4	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢(2) 「障害」の多様な見方と障害者福祉、「障害」に関する考え方の変化、「国際生活機能分類(ICF)」					
5	障害者福祉関連施策(1) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律					
6	障害者福祉関連施策(2) 障害者の雇用の促進等に関する法律					
7	障害者福祉関連施策(3) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律					
8	障害者福祉関連施策(4) 障害者基本法、身体障害者福祉法					
9	障害者福祉関連施策(5) 発達障害者支援法、知的障害者福祉法					
10	障害者福祉関連施策(6) 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行なった者の医療及び観察等に関する法律					
11	障害者自立支援制度(1) 障害者総合支援法の概要、目的と基本理念、法の対象者					
12	障害者自立支援制度(2) 自立支援給付、障害支援区分、自立支援医療、障害福祉計画					
13	障害者自立支援制度(3) 障害児に対する支援、障害児福祉施策の現状					
14	障害者自立支援制度(4) 専門職の役割と実際、多職種連携、ネットワークと相談支援事業所の役割と実際					
15	障害者福祉制度の発展過程					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト・レポート等	50	授業内容の理解(確認テスト含む)		授業参加状況	50	受講態度、提出物等
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>1. 障害がある人たちの社会生活を意識する。</p> <p>2. 社会における障害者福祉サービスの意味を理解する。</p> <p>3. 国民福祉の動向、および障害者白書等で最新の情報を確認する。</p> <p>4. 社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料等を繰り返し学習する。</p> <p>5. 社会における障害者福祉に関する事象について考え、まとめる。</p> <p>[1~5の全体で30分以上]</p>				小テスト等は内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。		
受講生に望むこと	こころの不調や発達障害などを含め、障害について正しく理解するとともに、社会全体の問題としても関心を持ってください。			教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編、新・社会福祉士養成講座14『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版』中央法規出版・2019年 ISBN:978-4-8058-5808-0	
指定図書/参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SL215U 障害者スポーツ		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. 障害がある人たちのスポーツ活動について、活動状況の実態と特徴を理解し、障害がある人たちの生涯スポーツに貢献できる基礎知識を身につける。</p> <p>2. 具体的には、それぞれの障害の概念や生活の状況を学ぶとともに、社会的背景や関連諸制度を理解し、本人のみならず家族や支援スタッフなど周囲までを含めてスポーツ活動に対する目的や意義について考える。</p> <p>3. 加えて、人的、経済的、あるいは設備・環境といった障害がある人たちのスポーツ活動に必要なマネジメントの視点を学習する。</p>			<p>1. 初級障がい者スポーツ指導員に求められる基本的な知識を学ぶ。</p> <p>2. 障害の基本内容を理解し、スポーツの導入・支援に必要な基本的知識、技術を身につける。</p> <p>3. スポーツ活動の実施、支援における健康や安全管理に関する基礎知識を理解し、説明できるようにする。</p> <p>4. 広くスポーツ活動の喜びや楽しさを学ぶとともに、健康を維持、増進する手段としてのスポーツ活動を理解する。</p> <p>5. 障がい者にとってのスポーツの意義や社会的な位置づけを考え、説明できるようにする。</p>				
教授方法	講義（一部演習）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ（施策の体系）						
2	障害者福祉施策と障害者スポーツ（今後の動向）、ボランティア精神と活動の基本姿勢						
3	ボランティア精神と活動の基本姿勢						
4	障害者スポーツの意義と理念、効果						
5	障害者スポーツの意義と理念、効果、障害の理解とスポーツ（身体障害）						
6	障害の理解とスポーツ（身体障害）						
7	障害の理解とスポーツ（知的障害）						
8	障害の理解とスポーツ（知的障害）、障害の理解とスポーツ（精神障害）						
9	スポーツを実施する際の安全管理						
10	障がい者スポーツ指導員の役割、組織						
11	全国障害者スポーツ大会の概要、目的						
12	障害に応じたスポーツの工夫・実施						
13	障害に応じたスポーツの工夫・実施						
14	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加						
15	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義中のレポート・小テスト等	50	授業内容の理解		授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>1. 障害者スポーツやスポーツボランティアの社会的意義を考える。</p> <p>2. 実際の障害者スポーツ体験、または関係者の体験談等をまとめる。</p> <p>3. 2020年東京パラリンピックに向けた社会の動向に関心を持ちまとめる。</p> <p>[1～3の全体で30分以上]</p>			小テスト・小レポート等は内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。				
受講生に望むこと	<p>1. 障害がある人たちのスポーツ活動だけでなく、社会生活にも関心を持ってください。</p> <p>2. 自分自身の健康、生涯スポーツなどにも関心を持ってください。</p>		教科書・テキスト	適宜、授業中に資料を配付する。			
指定図書/参考書等	適宜、授業中に資料を配付する。		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SL100U 図書館概論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。				図書館の意義・役割について理解する これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する 公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する 図書館類縁機関、図書館関係団体について理解する 今日の図書館の課題と今後の展望について主体的に考えることができる			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	現代社会と図書館(1) 図書館とは何か						
2	現代社会と図書館(2) 図書館の種類と図書館の役割						
3	現代社会と図書館(3) 司書の役割とは何か						
4	図書館の理念(1) 図書館の自由						
5	図書館の理念(2) 図書館員の倫理綱領						
6	図書館関係法規について						
7	公共図書館の制度と機能(1) 図書館法						
8	公共図書館の制度と機能(2) 公共図書館の機能						
9	公共図書館の制度と機能(3) 管理運営						
10	学校図書館の制度と機能						
11	大学図書館の制度と機能						
12	専門図書館の制度と機能						
13	国立国会図書館の制度と機能						
14	外国の図書館について						
15	図書館関係団体について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。なお小テストで扱った範囲は試験対象外とする。			小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目です。ただし、図書館に興味がある学生の履修も歓迎します。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館概論5訂版』塩見昇編著・日本図書館協会、2019。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3; 1) ISBN: 9784820418139		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL220U 情報技術論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。			図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識の習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報と情報技術 授業の進め方、情報とは何かを考える						
2	情報の表現方法と蓄積媒体						
3	情報技術と情報メディア その種類と歴史						
4	図書館と記録技術 視聴覚メディアと電子メディア						
5	情報処理技術とコンピュータ						
6	コンピュータの歴史						
7	現代のコンピュータ						
8	コンピュータとソフトウェア						
9	携帯情報端末						
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍						
11	データベースとは						
12	コンピュータネットワークとは						
13	インターネットの仕組み						
14	インターネットと検索エンジン						
15	図書館と情報技術 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。		小テスト・授業内課題	20	授業内で筆記の小テスト、小レポートを出題する。	
授業参加度	20	授業への参加度、発言などの積極性を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目ですが、情報技術一般について興味がある学生の履修を歓迎します。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をしてください。			教科書・テキスト	なし（授業内で資料配布）		
指定図書/参考書等	なし / 『図書館情報技術論』 杉本重雄 [ほか] 編 樹村房 2014 ISBN : 978-4883672035			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP100U 臨床心理学概論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。				(1) 臨床心理学とは何かを説明できるようになる。 (2) 臨床心理学の対象は何かを説明できるようになる。 (3) 臨床心理学的査定とは何か、具体的にどのような方法があるかを説明できるようになる。 (4) 臨床心理学の理論を説明できるようになる。 (5) 臨床心理学の技法を説明できるようになる。 (6) 心理師（心理士）が活躍する現場を説明できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
5	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
15	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。			講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 グループディスカッションの時には他者と協調すること。 プレゼンテーションのために仲間と協力して学習に取り組むこと。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN:9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	SP201U 心理学実験		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・加藤 仁 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			実験計画の方法に習熟している。 実験器具の取り扱いを習得している。 実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					全教員
2	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					松下
3	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
4	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					加藤
5	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
6	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下
7	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
8	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。					加藤
9	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
10	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法を学ぶ。					松下
11	「面接場面における面談者と来談者の言語行動」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
12	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。					加藤
13	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
14	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
15	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。[90分] 各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。[90分] 添削されたレポートによって復習する。[30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-77-950237-8	
指定図書/参考書等	なし/『実践心理データ解析 問題の発想・データ処理・論文の作成 改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-78-851012-8 その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。			その他・特記事項	なし。	

授業科目名	SP206U 心理学実験		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊・勝谷 紀子・加藤 仁 (代表教員 齊藤 英俊)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。			実験計画の方法を理解する。 実験器具の取り扱いを習得する。 実験で得られたデータの分析方法を習得する。 実験レポートの書き方に習熟する。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	心理学実験実習 の履修済みが望ましい(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	眼球運動の測定：アイマーク・レコーダ を用いて眼球運動を測定する実験の実習を行う。					勝谷
2	「眼球運動の測定」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
3	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					加藤
4	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
5	社会的推論：人の持つ社会的認知のありようについて検討する実験の実習を行う。					齊藤
6	「社会的推論」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
7	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					加藤
8	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
9	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					齊藤
10	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
11	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。					加藤
12	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
13	感情理解：表情からの感情理解のありように関する実験の実習を行う。					勝谷
14	「感情理解」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
15	「感情理解」レポート作成指導：分析結果のまとめ方、レポートの書き方について指導を行う。					勝谷
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。 [45分] 各実験種目のレポートを作成する。[120分] 各種目で適用された分析方法を復習する。[30分] 返却されたレポートを見直し、修正する[30分]			各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。			
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』西口利文・松浦均(編)ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8	
指定図書/参考書等	なし/種目ごとに適宜授業内に提示する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SP211U 心理学研究法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
心理学は「心」という目で見たり手にとったりすることができないものが研究の対象である。心に対して研究という視点からアプローチをするためには、科学的な方法をいかに適切に行うかという点が重要である。心理学の研究を行うためには、科学的な方法を行うためのさまざまな知識を身につけることが欠かせない。本講義では、心理学の代表的な研究方法を習得することを目指す。				心理学における実証的研究法、具体的には量的研究や質的研究の基本的な知識を身につけることができる。 データを用いた実証的な思考方法を身につけ、実際に適切に考えることができる。 研究における倫理についての知識を身につけることができる。			
教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える						
2	実験法（1）：実験法の基本的な考え方について学ぶ						
3	実験法（2）：実験を行う際の留意点について学ぶ						
4	質問紙法（1）：質問紙法の基本的な考えについて学ぶ						
5	質問紙法（2）：質問紙調査を実施する際の留意点について学ぶ						
6	観察法（1）：観察による心理学的研究を行う際の基本的な考えについて学ぶ						
7	観察法（2）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ						
8	中間テスト						
9	面接法（1）：面接による心理学的研究を行う際の基本的な考えについて学ぶ						
10	面接法（2）：面接による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ						
11	検査法：心理検査を用いた研究での基本的考えと留意点について学ぶ						
12	研究倫理：研究を実施するにあたり配慮すべき問題（観察反応、倫理的問題）について学ぶ						
13	研究計画の立て方 研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ						
14	研究計画の実際（1）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る						
15	研究計画の実際（2）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでにまなんだ内容を振り返る						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末レポート	40	レポートの内容は自分で立てた研究計画である。その内容が講義で学んだ内容をどれだけ活かしているかを評価基準とする			中間テスト	30	講義前半で学んだ内容の理解度
講義への参加度	30	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義で学んだ内容をテキスト、資料、ノート等を使用して復習する。【45分】 次回に万部内容をテキストなどを使用して予習を行う。【30分】 心理学研究法についての参考文献や論文を読みながら、実際にはどのように研究が行われているかを学ぶ。【30分】				講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	自分が興味のある事柄について研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要があります。研究のためには何を必要とするか、何をしてはいけないのかを考えながら講義に臨むこと。			教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』 高野陽太郎他 有斐閣 2017年 ISBN 978-4-641-22086-7		
指定図書/参考書等	なし/参考書は授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	心理統計学 および心理学実験実習 を履修することで、本講義の内容がより深く理解できるようになる。		

授業科目名	SP216U 心理的アセスメント			開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
心理アセスメントの理論と方法について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。				(1) 心理アセスメントとは何かを説明できるようになること (2) 心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること (3) 心理アセスメントに用いられる統計解析を説明できるようになること (4) 心理検査を実施、採点、解釈できるようになること (5) 心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること			
教授方法	講義、演習						
履修条件	心理学統計法もしくは心理統計学 および心理学研究法に関する講義の成績が「S」または「A」であることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理						
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	心理測定の信頼性と妥当性						
4	心理アセスメントと統計解析						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
6	性格検査、TEGの理論と実施						
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施						
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
10	知能検査、WAIS- （言語性検査1回目）						
11	知能検査、WAIS- （言語性検査2回目）						
12	知能検査、WAIS- （動作性検査1回目）						
13	知能検査、WAIS- （動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAIS- （結果の解釈と所見作成）						
15	総括、心理アセスメントの観点および展開						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと			課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	心理統計学および心理学研究法の知識と技術を十分修得した上で受講すること。修得していない場合は講義の理解が困難なため、自習により統計や研究法の知識を予め必ず獲得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺 礼子・吉住隆弘（編）ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-13:9784779503870		
指定図書/参考書等	なし/『心理テスト 理論と実践の架け橋』 ホーガン, T. P. (著) 繁樹算男・椎名久美子・石垣琢磨（共訳） 培風館 2010年 ISBN-13:978-4563052041			その他・特記事項	心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。		

授業科目名	SP225U 発達心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・スクール(学校)ソーシャルワーカー・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学研究の具体的な成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。			発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。						
2	「発達」を考える：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。						
3	「発達」を考える：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。						
4	胎児期～乳児期：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。						
5	胎児期～乳児期：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。						
6	胎児期～乳児期：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着(アタッチメント)」について考える。						
7	幼児期：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。						
8	幼児期：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。						
9	幼児期：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。						
10	児童期：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。						
11	児童期：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。						
12	青年期：「人は二度生まれる」の二度目の誕生とは。青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。						
13	青年期：「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性(アイデンティティ)」について考える。						
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。						
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害を正しく理解し、適切な関わりを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回のミニレポート	30	講義内容に対する意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		定期試験	70	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当箇所を読んでおく。 [30分] 授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] 発達心理学の低位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。			毎回のミニレポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントするなど対応します。				
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133		
指定図書/参考書等	なし/『保育の心理学』第2版 本郷一夫編 建帛社 2015年 ISBN:978-4767950358、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP230U 教育心理学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。				子どもの心身の発達過程を答えられる。心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。教育活動の評価の意義および役割を答えられる。			
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。						
2	発達と教育 「発達課題と教育」：人間の発達と教育の関連について、人の「発達段階」や「発達課題」を通して考える。						
3	発達と教育 「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。						
4	学習 「学習理論」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
5	学習 「学習理論」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
6	学習 「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。						
7	学習 「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。						
8	学習 「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。						
9	学習 「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。						
10	評価 「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことが考えられる。						
11	評価 「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。						
12	集団・適応 「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。						
13	集団・適応 「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。						
14	集団・適応 「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。						
15	集団・適応 「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。			定期試験	70	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当箇所を読んでおく。 [30分] 授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] 教育心理学と関連の深い「発達心理学」「学習心理学」「認知心理学」「学校心理学」などの関連書籍にあたり、知識を深める。				毎回のミニ・レポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。			教科書・テキスト	『スタンダード 教育心理学』 服部環・外山美樹編 サイエンス社 2013年 ISBN:978-4781913254		
指定図書/参考書等	なし/『教育心理学』 大村彰道編 東京大学出版会 1996年 ISBN:978-4130520720、『教育心理学』 下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN:978-4130520744			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP236U 人格心理学(感情・人格心理学A)		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格(=性格、パーソナリティ)があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			人格を理解するための諸理論を説明できる。 人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格(性格、パーソナリティ)とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
3	精神分析的な人格論：フロイトの精神分析的な人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
4	精神分析的な人格論：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	特性論 その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
6	特性論 Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
8	相互作用論：人 状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
9	物語論：物語論(ナラティブ)の視点から人格について考える。						
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論(質問紙法、投影法、観察法、面接法)を理解し、研究方法について学ぶ。						
11	人格の発達：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。						
12	人格の発達：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているのかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
リアクション・ペーパー	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		課題レポート	40	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうか。	
定期試験	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] 授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [40分] 普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみること。 授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみる。				リアクション・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間をもちます。 課題レポートや試験については、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントするなど対応します。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『改訂版』性格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために。詫摩武俊・瀬本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 2009年 ISBN:978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW200U 相談援助の基盤と専門職			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
講義をとおして、相談援助の概念、範囲、形成過程、理念について学び、相談援助にかかる専門職としての役割、意義を理解する。また、相談援助専門職としての専門性と倫理を学ぶとともに、総合的かつ包括的な相談援助の全体像と理論を理解する。 社会福祉士実習、および国家試験受験を意識した内容を展開する。				1. 社会福祉士の役割と意義について理解し、説明できるようにする。 2. 相談援助の概念、形成過程、理念について理解し、説明できるようにする。 3. 相談援助にかかる専門職の専門性と専門職倫理について理解し、説明できるようにする。 4. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論について理解する。 5. 社会福祉士国家資格に必要な基礎的内容の理解、習得を目指す。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会福祉士の役割と意義、現代の社会福祉士に求められる専門性、精神保健福祉士の役割と意義						
2	相談援助の定義と構成要素、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの構成要素						
3	相談援助の形成過程(1)ソーシャルワークの源流、ソーシャルワークの基礎確立期						
4	相談援助の形成過程(2)ソーシャルワークの発展期、ソーシャルワークの展開期						
5	ソーシャルワークの統合とジェネラリスト・ソーシャルワーク、統合化とジェネラリストアプローチの成立						
6	相談援助の理念(1)ソーシャルワーカーと価値、ソーシャルワーク実践と価値						
7	相談援助の理念(2)ソーシャルワーク実践と権利擁護、権利擁護が必要とされる背景、概念、態様						
8	相談援助の理念(3)クライアントの尊厳と自己決定、エンパワメントとストレングス視点						
9	ノーマライゼーションと社会的包摂、地域生活支援という視座、ノーマライゼーション、ソーシャル・インクルージョン						
10	専門職倫理と倫理的ジレンマ、専門職倫理の概念、倫理綱領の意義と内容、ソーシャルワーク実践におけるジレンマ						
11	総合的かつ包括的な相談援助の全体像、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座						
12	地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能、個と地域の一体的支援						
13	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1)ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点						
14	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2)ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質						
15	相談援助にかかる専門職の概念と範囲、総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、小テスト・提出物等			確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解(確認テスト含む)
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
1. 社会のなかで起きている福祉に関する問題について関心をもつ。 2. 相談援助の基盤となる人間関係についてさまざまな機会をとおして学ぶ。 3. 社会問題に関する新聞記事を読み、自分なりに考察を行ないまとめる。 [1~3の全体で30分以上]				確認テスト等は、毎回、結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	社会のなかで発生しているさまざま問題に関心をもち、なぜそのような問題が起こるのか、その問題の解決にはどのような方法があるのか、自分なりに問題意識をもちながら授業に臨んでください。 授業は、社会福祉士実習、および国家試験を意識した内容です。			教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編、新・社会福祉士養成講座6『相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規、2015. ISBN:978-4-8058-5102-9		
指定図書/参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明する。		

授業科目名	SW205U 相談援助の理論と方法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
相談援助専門職にとって必要な知識・技術のシステム理論における全体像を理解する。相談援助の構造、機能、展開過程を理解し、相談援助専門職に求められる基本的な理論と方法の修得を目指して授業を進める。関連科目の学びを意識しつつ、社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。				1. 相談援助に係る基本的な知識と技術を理解し、説明できるようにする。 2. 相談援助専門職の役割と意義、機能を理解し、説明できるようにする。 3. 相談援助における援助関係、交互作用を理解し、説明できるようにする。 4. 相談援助の展開過程を理解し、説明できるようにする。			
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」の単位修得済の者、または同時履修の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	相談援助の基本的理解、ソーシャルワークの定義と枠組み、ソーシャルワークの構成要素						
2	ソーシャルワークの職場、ソーシャルワーカーが所属する組織						
3	相談援助の構造、ソーシャルワークにおけるニーズ、ソーシャルワークの機能						
4	人と環境の交互作用、実践における人と環境、システム理論からの視点						
5	相談援助における援助関係(1) 援助関係の意義、援助関係の形成プロセスに影響する要因						
6	相談援助における援助関係(2) 援助構造と援助関係、援助関係の質と自己覚知						
7	相談援助における援助関係(3) 援助関係とマイクロからマクロの実践領域						
8	相談援助の展開過程(1) 相談援助の展開過程の流れ、ケース発見						
9	相談援助の展開過程(2) 受理面接(インテーク)、問題把握からニーズ確定まで						
10	相談援助の展開過程(3) ニーズ確定から事前評価(アセスメント)まで						
11	相談援助の展開過程(4) 事前評価(アセスメント)から支援標的・目標設定まで						
12	相談援助の展開過程(5) 支援標的・目標設定から支援の計画(プランニング)、支援の実施まで						
13	相談援助の展開過程(6) 経過観察(モニタリング)、再アセスメントと支援の強化						
14	相談援助の展開過程(7) 支援の終結と効果測定、評価、アフターケア、予防的対応とサービス開発						
15	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能としての総合支援						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、小テスト・提出物等			確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解(確認テスト含む)
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
1. 毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べる。 2. 社会の事象に関心を持ち、とくに福祉領域の特徴、問題等をまとめる。 3. 社会福祉士の国家試験と関連したポイントを整理する。[1~3で30分以上]				確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。			教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編、新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法 第3版』中央法規、2015. ISBN:978-4-8058-5103-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW210U 相談援助の理論と方法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>相談援助の展開過程において必要な知識、技術について、その意義、目的、留意点、および効果測定、評価方法を理解する。また、相談援助専門職に必要な面接技術、記録の技術を学ぶ。加えて、相談援助のあり方として個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとして捉え、いかに対応していくかを学ぶ。</p> <p>関連科目の学びを意識しつつ、社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助における具体的な援助技術に関して理解するとともに、説明できるようにする。 2. 相談援助における展開過程を理解し、個々のプロセスについて説明できるようにする。 3. 相談援助にかかる基本的な面接技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 4. 相談援助にかかる基本的な記録の技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 			
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」の単位修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	相談援助のためのアウトリーチの技術、アウトリーチの意義と目的、アウトリーチの方法と留意点						
2	相談援助のための契約の技術、契約の意義と目的、契約の方法と留意点						
3	相談援助のためのアセスメントの技術、特性、援助的關係、面接						
4	統合的アセスメント、エコマップ、ジェノグラム、アセスメントの際の留意点						
5	アセスメントで得た情報の使い方、情報統合化に必要な知識、想像力、統合力、分析力						
6	相談援助のための介入の技術、介入の意義と目的、介入の方法と留意点						
7	相談援助のための経過観察(モニタリング)、再アセスメント						
8	相談援助のための効果測定、評価、サービス開発						
9	相談援助のための面接の技術(1) 相談援助における面接の目的、面接の展開						
10	相談援助のための面接の技術(2) 面接において用いる技術とコミュニケーション、相談援助における面接の形態						
11	相談援助のための記録の技術(1) 記録の意義と活用目的、記録の種類と活用						
12	相談援助のための記録の技術(2) 記録の方法とソーシャルワーク記録のIT化						
13	相談援助のための記録の技術(3) 記録の技術の実際例と今後の課題						
14	相談援助のための交渉の技術、交渉の目的と意義、交渉の方法と留意点						
15	相談援助専門職としての役割、意義、援助過程、技術に関する総合的理解						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、小テスト・提出物等			確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解(確認テスト含む)
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2. 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3. 福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。 				<p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。</p>			
受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 3. 現代社会において社会福祉のニーズは多様化し、範囲も広がっています。テレビや新聞などで日頃から関連するニュースには関心を持つようになして下さい。 			教科書・テキスト	<p>社会福祉士養成講座編集委員会編、新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法 第3版』中央法規出版、2015。 ISBN:978-4-8058-5103-6</p> <p>前期と同じもの</p>		
指定図書/参考書等	なし/『対人援助のための相談面接技術-逐語で学ぶ21の技法-』岩間伸之、中央法規、2008。 ISBN:978-4-8058-3073-4			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW100U 地域福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では、地域福祉の基本的考え方についての理解を深めるとともに、地域福祉を推進する組織、機関、専門職の役割さらには地域住民、NPO組織、ボランティアなどの活動ならびに具体的連携のあり方について学ぶ。			地域福祉の発展過程、現状、課題等について理解する 地域の現状と課題、解決のための具体的アプローチを学び、地域福祉の重要性について理解する				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	学部生のみ						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	地域福祉の基本的な考え方 地位福祉理論の発展、地域福祉の理念について学ぶ						
3	地域のとらえ方 地域の捉え方と福祉圏域について学ぶ						
4	社会福祉における地方分権化と地域福祉計画 地域福祉計画の定義・内容と課題について学ぶ						
5	社会福祉協議会とは 社会福祉協議会の歴史、役割、課題について学ぶ						
6	民間組織の役割と実際 社会福祉法人、特定非営利活動法人、ボランティアの役割と課題について学ぶ						
7	住民の参加と方法 地域福祉推進における住民参加の意義、参加方法について学ぶ						
8	コミュニティソーシャルワーク コミュニティソーシャルワークの考え方、展開プロセスについて学ぶ						
9	コミュニティソーシャルワークの展開 チームアプローチ・協働体制について学ぶ						
10	ソーシャルサポートネットワーク フォーマルサポートとインフォーマルサポートについて学ぶ						
11	エコロジカルアプローチ エコロジカルアプローチについて学ぶ						
12	災害支援と地域福祉 災害発生後の生活課題について学ぶ						
13	災害時要支援者とは 避難所・仮設住宅における対人支援について学ぶ						
14	福祉避難所とは 福祉避難所の現状と課題について学ぶ						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	10	講義及びグループワークへの積極的参加		レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	
小テスト	20	講義で学んだことの理解度		期末試験	50	講義で学んだことの理解度	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
適宜小テストを実施するので、前回学習した内容について復習し理解を深める(30分以上) レジュメ、資料を配布するので、講義前に目を通し理解を深める(30分以上)				小テストについては講義時間内に実施し、終了後答え合わせ及び解説をする。			
受講生に望むこと	新聞、ニュースなどを毎日チェックする			教科書・テキスト	適宜レジュメ、参考資料を配布する		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	SW215U 社会保障論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	河野 すみ子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
私たちの生活と社会保障の関係を説明し、社会保障の理念、歴史、体系、財源などについて解説する。ついで、わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について説明する。			1. 社会保障の理念、歴史、体系、財源、諸外国の動向などについて学び、社会保障の基本的な内容について理解する。 2. わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について理解する。 3. 社会保険と民間保険とのちがいについて理解する。			
教授方法	講義形式。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	現代社会と社会保障を学ぶ					
2	社会保障の歴史を知る					
3	社会保障制度の体系について理解する					
4	社会保障の財源と費用について学ぶ					
5	医療保険制度の沿革と体系について理解する					
6	医療保険制度の概要を学ぶ					
7	医療保険制度の現状と課題					
8	年金保険制度の沿革と体系について理解する					
9	年金保険制度の概要を学ぶ					
10	年金保険制度の現状と課題					
11	介護保険制度創設の経緯と概要について理解する					
12	介護保険制度の現状と課題					
13	労働者災害補償保険制度の概要を学ぶ					
14	雇用保険制度の概要を学ぶ					
15	民間保険の概要について学び、社会保険との違いを理解する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	60	ポイントを押さえたレポートを書くことができていますか。		毎回のミニツッパ	30	授業を聞いて、質問、疑問、感想などを記載する。
授業の参加状況	10	授業への取り組み姿勢。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
新聞・ニュースなどに目を配り、社会保障に関するニュースに触れること。[30分] テキストを読んで予習して授業に臨むこと。[30分] 授業中に紹介する参考書なども読むことにより、理解を深めること。[30分]				授業で出された質問・疑問について次回の授業で答えます。		
受講生に望むこと	現在の社会保障をめぐる動向について関心をもち、考えてほしい。			教科書・テキスト	『社会保障』第5版(新・社会福祉士養成講座12)、社会福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版 ISBN: 978-4805853009	
指定図書/参考書等	医療・福祉問題研究会 編 『医療・福祉と人権 - 地域からの発信』 編者: 前昭三・井上英夫・河野すみ子・伍賀一道・信耕久美子・横山壽一、旬報社、2018年、ISBN: 978-4-8451-1563-1			その他・特記事項	テキストは必ず準備すること。	

授業科目名	SW105U 児童福祉論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、歴史の変遷を踏まえた本質的な理解を大切にしながら、児童福祉の制度や実践に関する幅広い知識を学習する。また、児童福祉から子ども家庭福祉への展開、子どもの権利擁護、少子高齢社会における社会環境・家族構造の大きな変化といった現代的課題についても掘り下げて考えていく。			児童福祉という領域が設定されることの意義や目的について適切に理解し、文章で説明することができる。 児童福祉の歴史についてポイントを正しく理解し、文章で説明することができる。 児童福祉に関する諸制度の目的と現状について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。 児童福祉に関わる様々な組織・機関・主体について理解し、名称を正しく説明することができる。 児童福祉に関わる現代的な諸問題について、統計等の根拠や現状の政策を基に、現状を文章で説明することができる。 児童福祉に関する知識を土台として、社会福祉における各領域に応用可能な知識・理念を、文章で説明することができる。 児童福祉に関する知識を土台として、社会のあり方・社会における連帯のあり方について、自らの考えを文章で説明することができる。			
教授方法	講義(一部、映像教材の視聴や個人ワークを採り入れることもある。)					
履修条件	学部生のみ					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション:「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への展開を意識しながら、児童福祉の意義について考え、本科目の意義や目標を整理する。					
2	児童福祉の歴史 : 総論的な社会福祉史を踏まえつつ、児童福祉の理念を捉え、その歴史を概観する。					
3	児童福祉の歴史 : 児童福祉の主体/客体に注目しながら、我が国における児童福祉の歴史を理解する。					
4	児童福祉の制度 : 基本法である児童福祉法を中心に、児童福祉に関わる法制度、ならびに児童福祉に関わる機関・専門職について学ぶ。					
5	児童福祉の制度 : 権利擁護をキーワードとしながら、子どもの権利条約について学ぶ。					
6	小括:ここまでの学習内容を範囲とする小テストを実施する。					
7	生育段階に応じた児童福祉 : 家庭への支援の意義を意識しながら、母子保健を中心に学ぶ。					
8	生育段階に応じた児童福祉 : 子ども・子育て支援新制度や幼保一体化といった新しい問題を押さえつつ、保育制度について学ぶ。					
9	生育段階に応じた児童福祉 : 少子化や子育て環境の変化を踏まえつつ、児童の健全育成について学ぶ。					
10	困難を抱えた児童・家庭への支援 : 今日の社会情勢を踏まえつつ、ひとり親家庭への支援について学ぶ。					
11	困難を抱えた児童・家庭への支援 : 理念や社会的反応の変化を押さえながら、障害・難病のある子どもと家庭への支援について学ぶ。					
12	困難を抱えた児童・家庭への支援 : 社会/心理の両側面を意識しながら、非行や情緒障害、発達障害について連続的に学ぶ。					
13	児童福祉と養護 : 児童虐待の定義、実際、対策について学ぶ。					
14	児童福祉と養護 : 社会的養護サービスについて、社会的意義と制度・実践について学ぶ。					
15	総括:本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれの立場からの「児童福祉」への関わりについて考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。	試験	20	第1回~第5回の学習内容について、用語や概念、歴史等についての基本的な理解度を確認する筆記試験を行う。	
試験	60	主に第7回~第15回の学習内容について、学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[45分] 各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[45分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。			
受講生に望むこと	・福祉の支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。		教科書・テキスト	なし(レジュメを配付する)		
指定図書/参考書等	<参考書> 『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(第6版)』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2016年 ISBN:978-4805853023 同種のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である。 資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書を合わせて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。		その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で(なるべくアポイントをとった上で)担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SW220U 相談援助演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態により、実践的に習得する。				ケースワーク及びグループワークについて、理論や技術を演習し、基礎能力を習得する。 演習を通じて、利用者・家族とのコミュニケーションの実際が理解できる。 記録による情報の共有化、報告・連絡・相談、会議の実際が理解できる。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、受講の注意点、演習形態の重要性を理解する。利用者との関係形成の重要性について理解する。						
2	関係形成のための自己理解、自己覚知について学ぶ。						
3	価値観と他者理解について学ぶ。						
4	関係形成のための原則について学ぶ：パイスティックの7原則の理解						
5	基本的なコミュニケーション技術の習得：言語的、非言語的コミュニケーションの理解						
6	基本的なコミュニケーション技術の習得：観察、傾聴、伝達等の技術の習得						
7	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の体験的な理解						
8	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の活用						
9	ケースワーク：ソーシャルワークの過程、インテークについて理解する。						
10	ケースワーク：アセスメントの概要を理解する。ジェノグラム、エコマップの活用法を理解する。						
11	ケースワーク：アセスメントからプランニングまでの流れについて理解する。						
12	ケースワーク：モニタリング、事後評価、終結とアフターケアについて理解する。						
13	グループワーク：グループ全体と個について理解する。						
14	グループワーク：メンバー間の相互作用の促進について理解する。						
15	記録の意義、方法について理解する。講義の振り返りとまとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	各回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			講義参加態度	40	・演習の目的を理解し、積極的に自ら学びとろうとする姿勢。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味の持ったことに関して、自分で調べて理解を深める。 				<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。 			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は社会福祉士を目指す専門的な内容となっているので、この点を理解した上で受講して欲しい。 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目（相談援助の理論と方法等）と関連づけて学ぶ。 			教科書・テキスト	なし。レジュメを毎回配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW225U 相談援助演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
社会福祉の専門援助技術のひとつであるケアマネジメントについて、事例や援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により、相談援助に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。				ケアマネジメントについて、その誕生の背景、基本理念、目的、援助の視点を理解することができる。 介護保険制度と障害者総合支援法による制度としてのケアマネジメントの位置づけや児童福祉領域などの領域におけるケアマネジメントを理解することができる。 ケアマネジメントの展開過程であるアセスメント、プランニング、モニタリング等について、基本的な技法を習得することができる。			
教授方法	ワークシート等を用いて演習形式で行う。						
履修条件	相談援助演習 の単位を修得済の者。高齢者福祉論の単位の修得済が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ケアマネジメントの基本的理念、意義について学ぶ。						
2	ケアマネジメントの目的、機能等について学ぶ。						
3	ケアマネジメントのプロセス、社会資源等について学ぶ。						
4	ケアマネジメントの制度と施策について学ぶ。						
5	ケアマネジメントにおけるアセスメントの意義と方法について学ぶ。						
6	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画の目的・意義について学ぶ。						
7	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のアセスメントについて学ぶ。						
8	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のプランニングについて学ぶ。						
9	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のモニタリングと評価について学ぶ。						
10	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のアセスメントについて学ぶ。						
11	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のプランニングについて学ぶ。						
12	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のモニタリングと評価について学ぶ。						
13	介護保険制度におけるケアマネジメント：介護予防サービス計画の概要について学ぶ。						
14	障害者領域におけるケアマネジメントについて学ぶ。						
15	児童福祉領域におけるケアマネジメントについて学ぶ。まとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	毎回の授業内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加状況	40	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業の前にあらかじめ指示されたテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] 授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。 。[30分以上] テキストの事例を読み込み、ケアマネジメントへの理解を深める。				・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	演習形式の授業であるため、毎回、遅刻せずに出席し、積極的に取り組むこと。			教科書・テキスト	『対人援助職をめざす人のケアマネジメント』 太田貞司 他編（株）みらい 2007年 ISBN:978-4-86015-109-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB100U 生涯学習概論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	高橋 律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「生涯学習」とは「生涯にわたって学ぶこと」である。今日では当たり前のように受け止められている「生涯学習」であるが、自主的な「学び」は、「学ぶことのできる社会」の支援により豊かさを増す。「学ぶ」ことは、「よりよく生きる」ことでもある。それぞれが、これまでの人生を振り返り、将来の生き方も見据えながら、「生涯学習」の意義とあり方について考えることを授業の目的とする。講義中心だが、施設見学等も含め具体的な学習支援の方法と内容の理解を深め、実質のある「生涯学習論」の習得を期待する。</p>				<p>それぞれの人生を振り返りながら、生涯学習のあり方を考えることができる。生涯学習に関わる政策の知識を持つ。レポート作成を通して、自分の考えをまとめることができる。</p>			
教授方法	講義と見学						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価についての説明 生涯学習とは何か：自分や家族の「学び」について振り返り、生涯にわたる学習の多様性について理解します。						
2	生涯学習の役割：生涯学習が個々の人生においてどのような役割を果たしているか、また社会における役割についても考えます。						
3	生涯学習に関わる政策の展開：生涯学習が政策においてどのように進められてきたか学びます。						
4	芸術文化活動と生涯学習：美術館での生涯学習を例に、芸術文化と生涯学習がどのように関わりをもっているか考えます。						
5	生涯学習施設について：生涯学習施設とはどのような施設をさすか、またどのような活動がされているかについて学習します。						
6	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
7	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
8	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
9	学習支援の方法：生涯学習を支援する方法としてどのような方法があるのか具体的に説明します。						
10	学習者のニーズ：学習支援をしていく上で、学習者のニーズをつかむ必要があります。年齢層等に配慮しながら、求められる学習内容について考えていきます。						
11	学習プログラムの作成について：生涯学習の学習プログラムがどのように作られているか、具体的に説明します。						
12	学習プログラムの作成演習：実際に学習プログラム案を作成し、必要な知識、態度などを理解します。						
13	現代社会における学習課題：生涯学習の場において、現代社会ではどのような課題に取り組んでいくべきか考えます。						
14	これからの生涯学習のあり方：新しいメディアを活用し、どのように生涯学習は進められていくか理解し、考えます。						
15	全体のまとめ、レポート作成。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	<p>積極的な授業参加態度を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に対する理解を深めようとする意識。 ・他の意見に耳を傾け、積極的に発言する。 			課題レポート	50	<p>各レポートの詳細は授業で説明を行うが、下記評価基準による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に沿っている。 ・授業での学びをもとに作成している。 ・自分の考察を加えて記入している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」（学校内、学校外とも）してきたか、振り返っておいてください。[30分] 家族のなかから一人選び、その人の「学習」経験についてインタビューしておくこと。[60分]</p>				<p>・授業内で提出するレポートはコメントを付けて返却します。</p>			
受講生に望むこと	意見発表の場を多くもうけます。積極的な態度で授業に臨みましょう。提出物の期限は必ず守ること。			教科書・テキスト	なし（レジュメ等を配付する）		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB200U 図書館サービス概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを旨とする。			図書館サービスの意義・構造について理解する 資料提供サービスの基本について理解する 様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する 図書館ネットワークについて理解する 障害者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する 図書館と著作権について問題意識を持って理解する				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館サービスの意義(1) 図書館の構成要素とサービスの役割						
2	図書館サービスの意義(2) 図書館サービスの類型化						
3	図書館サービスとマネージメント(1) 計画の立案と評価						
4	図書館サービスとマネージメント(2) 図書館の「新・望ましい基準」						
5	来館者へのサービス						
6	利用空間の整備						
7	貸出サービスの構造						
8	資料提供の展開(1) リクエストサービス						
9	資料提供の展開(2) 資料収集の方針						
10	情報提供サービス						
11	利用対象に応じたサービス(1) 障害者サービス、高齢者サービス						
12	利用対象に応じたサービス(2) 児童サービス						
13	利用対象に応じたサービス(3) 多文化サービス						
14	情報提供と著作権						
15	これからの図書館サービスのあり方について(まとめ)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。受験に当たり、指定するレポートが受理されていることが必要である。		授業内課題	20	授業内での作業・ディスカッションなどの成果を評価する。	
レポート	20	授業で指定した内容をまとめ、同一内容を扱う別の文献を採り、内容をまとめる。双方の見解に基づいて意見をまとめ、期限までに指定書式にて提出する。		授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのかが注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館サービス論』小田光宏編著。日本図書館協会、2010。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2 ;3) ISBN:978-4-8204-0917-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。		

授業科目名	SB205U 情報サービス論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。				図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する 資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する 図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する 各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける			
教授方法	講義，スライドを使用した形式で実施						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する						
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか						
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか						
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方						
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは						
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価						
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動						
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解						
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには						
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能						
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力						
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容						
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方						
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方						
15	情報サービスを行う意義：まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。		授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著・日本図書館協会、2012。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB210U 情報資源組織論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用などについて理解することを目的とする。				資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する 記述目録法について学び、書誌記述法を理解する 主題分析・分類法・索引法について理解する 日本目録規則にもとづく目録法を理解する。			
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	資料組織化の意義について						
2	書誌コントロール(1) 書誌とは何か						
3	書誌コントロール(2) 全国書誌・OPACとは						
4	書誌情報の作成・流通・管理						
5	記述目録法の基礎 概要と記述の範囲						
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号						
7	記述目録法作成の実際(1) タイトルと責任表示、版表示に関する事項						
8	記述目録法作成の実際(2) 出版頒布・形態に関する事項						
9	記述目録法作成の実際(3) シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項						
10	記述目録法作成の実際(4) 標目と排列						
11	主題分析と分類法・索引法						
12	分類法の実際(1) 分類総論						
13	分類法の実際(2) 日本十進分類法						
14	分類法の実際(3) その他の分類法						
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。			小テスト	20	目録の知識を確認するため筆記の小テストを授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『情報資源組織論新訂版』柴田正美著、日本図書館協会、2012。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 9) ISBN: 9784820415121		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	ST100U 公認心理師の職責			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
公認心理師の役割、責任、業務内容を学ぶ。心理学だけでなく倫理、医療、教育、福祉、司法、資格に関連する法律など、公認心理師に関わる広範な内容を学習する。				公認心理師の役割を説明できること。 公認心理師の責任を説明できること。 公認心理師の業務内容を説明できること。			
教授方法	講義、演習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	公認心理師の職責：導入						松下
2	公認心理師の役割						齊藤
3	公認心理師の法的義務・倫理						松下
4	クライアント / 患者らの安全の確保のために						齊藤
5	情報の適切な取り扱いについて						松下
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務						齊藤
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務						松下
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務						齊藤
9	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務						松下
10	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務						齊藤
11	支援者としての自己課題発見・解決能力						松下
12	生涯学習への準備						齊藤
13	多職種連携・地域連携						松下
14	公認心理師の今後の展開						齊藤
15	公認心理師の職責のまとめ						松下
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小レポート	30	講義中に提示する小レポートの完成度をみる			講義参加態度	30	課題、発表、質問などの参加態度をみる
期末試験	40	講義内容の理解度をみる					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]				小レポートは返却時にフィードバックする。期末試験については、次学期始めに適宜フィードバックする。			
受講生に望むこと	公認心理師の資格関連科目である。そのため、資格取得を目指す学生の真摯で積極的な学習が望まれる。			教科書・テキスト	『公認心理師の職責』 野島一彦・繁樹算男（編）遠見書房 2018年（ISBN:978-4-86616-051-1）		
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	ST200U 学習・言語心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・加藤 仁 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
人間が経験に基づきどのように変化するかを、主に行動の変化と言語の習得に焦点を当てて学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてディスカッションやプレゼンテーションの機会を設ける。			(1) 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2) 言語の習得における機序について概説できる。			
教授方法	講義形式					
履修条件	認定心理士あるいは公認心理師を目指す者が望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価基準などを説明する。					松下
2	学習・行動領域の心理学（パヴロフの条件反射，ソーンダイクの試行錯誤学習・効果の法則，ワトソンの恐怖条件づけ，トールマンの認知地図）					松下
3	行動の測定と実験デザイン（行動の定義，反応型と行動の機能，様々な観察法）					松下
4	生得性行動（生得性と学習性，刺激と反応の随伴性，刻印づけ，馴化の法則）					松下
5	レスポデント条件づけ（無条件・条件刺激，無条件・条件反応，中性刺激）					松下
6	オペラント条件づけ（強化・弱体化，強化子・弱体化子，正の強化子・負の強化子，条件強化子）					松下
7	強化随伴性（確立操作，遮断化，飽和化，強化スケジュール）					松下
8	刺激性制御（弁別刺激，同時弁別，継時弁別，条件性弁別刺激）					松下
9	言語に関する理論と研究（言語の4領域（音韻・語彙・文法・語用論），スキナーの言語学習理論・模倣言語行動，生成文法理論，普遍文法）					加藤
10	言語に関する理論と研究（認知言語学，社会語用論的アプローチ，非言語的・前言語的コミュニケーション，ナラティブ，ディスコース，言語と推論，言語と文化）					加藤
11	語彙の獲得過程（クレーピング，喃語，初語，一語発話，二語発話，概念カテゴリー，理解語，産出語（表出語彙））					加藤
12	語彙の獲得過程（語彙カテゴリー，指示対象と語のマッピング，相互排他性，社会的手がかり，語彙の爆発的増加，認知的制約）					加藤
13	文法能力の発達（構文の発達，埋め込み文，語順，文法形態素の獲得（助詞，助動詞））					加藤
14	言語の生物学的基礎と障害（言語における脳機能，失語症（ブローカ失語，ウェルニック失語，超皮質性運動失語，超皮質性感覚失語，伝導失語），読字障害（ディスレクシア））					加藤
15	全体のまとめ					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末レポート	50	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し，提出すること。		受講態度	30	発表，質問，グループディスカッションなどの参加態度をみる
小レポート	20	小レポートの出来栄を評価する				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
シラバスを確認し，毎回扱う内容を予習すること【60分】。 学習した内容が定着するよう復習すること【90分】。				小レポート等の提出物については，次回講義時にフィードバックを行う。		
受講生に望むこと	心理学特有の抽象的概念を扱うことが多い科目である。 シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的，積極的に取り組むこと。			教科書・テキスト	新任教員が教科書を定める場合は講義時に指定する	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	ST205U 神経・生理心理学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	西山 志満子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>神経・生理心理学の知識をもつことは、脳に障害がある方の状態理解につながる。脳機能障害の患者さんに対する治療・ケアは、医師、看護師、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、精神保健福祉士など多職種でのチーム医療が基本となり、心理士はチームの一員として、神経心理学のアセスメントを行い、ご本人も含め有益なフィードバックを行うことなどが求められる。本講義では、臨床の場で必要とされる脳神経系の構造と機能、神経心理学のアセスメントを中心に解説する。</p>				<p>1. 脳神経系の構造及び機能について概説できる 2. 記憶、感情などの生理学的反応の機序について概説できる 3. 高次脳機能障害および必要な支援について概説できる</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	神経心理学の歴史的流れ、神経心理学における考え方の特徴、関連する医療者と心理士の役割を理解する。						
2	脳の解剖学的基礎知識、脳の構造と機能、神経機能の階層構造および局在、大脳連合野、脳画像所見を理解する。						
3	脳血管障害（虚血性疾患、出血性疾患）、病気による症状（疾患独自の症状、頭蓋内圧亢進症状、局所神経症状）について理解する。						
4	神経心理学のアセスメントの特徴、神経心理学的検査、心理状態と二次症状に対するアセスメント、フィードバックの方法について理解する。						
5	高次脳機能障害者への支援、就労支援・復学支援、神経心理学的リハビリテーション、高次脳機能障害をもつ患者の家族支援について理解する。						
6	臨床神経心理学における福祉、産業、教育、司法領域を含むチーム医療の重要性、連携のとり方と留意点、チーム医療における心理士の役割を理解する。						
7	脳機能の基盤に関する科学的知識の増進を目的とした神経心理学的研究、研究実施にあたっての倫理的配慮、研究手法、神経心理学的研究による貢献について理解する。						
8	注意機能の特性、注意・ワーキングメモリ・実行機能・展望記憶の重複性および連結性、注意検査、注意障害のリハビリテーションについて理解する。						
9	記憶障害（健忘症）の時間的区分、原因、関連する脳部位、併存症状、記憶障害の評価に用いる検査やリハビリテーションに有効な方法を理解する。						
10	遂行機能障害の4要素、関連する脳部位、評価に用いられる検査、介入法や支援方法を理解する。						
11	失語症の症状、原因、関連する脳部位、併存症状、評価に用いられる検査、リハビリテーションに有効な方法、介入・支援方法を理解する。						
12	失行・失認・脳梁離断症状の概要、メカニズム、評価のポイント、介入・支援方法を理解する。						
13	社会的行動障害の種類と基盤にある機能障害、対応方法、前頭葉機能障害による行動障害、認知障害、情動障害、外傷性脳損傷による精神症状について理解する。						
14	高齢期における心理・社会的問題、認知症の原因となる疾患と症状、特徴的な認知機能障害と検査法、認知症に伴う行動・心理症状、神経心理学的理解に基づく介入方法を理解する。						
15	発達障害者支援法に示された代表的な障害と改正の意図を理解する。当事者の困惑と家族の思いを知り、環境調整の仕方を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	70	講義内容から試験問題を作成し、理解度を評価する。			講義の受講態度	30	私語などを慎み、熱心に聴講しているかを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）							
事前にテキストに目を通し、予習しておくこと。[30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				期末試験の解答用紙は、採点后に返却します。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認したうえで受講すること。公認心理師を取得し、医療や保健分野で働くことをイメージしながら学習すること。			教科書・テキスト	公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学 緑川晶（他）編 医歯薬出版 2018年 ISBN：978-4263265611		
指定図書/参考書等	高次脳機能障害 石合純夫 新興医学出版社 2001年 ISBN：978-4880022550			その他・特記事項	受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	ST210U 人体の構造と機能及び疾病		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	大和 太郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
すべての人は医療と関わります。医療に携わる職をめざす方に限らず、医学や医療に関する知識を身につけておくことは大切なことです。できるだけ平易に解説し、今後の医療や介護の問題点についても考えていきたいと思います。			1) 体の構造や機能について理解する 2) 人の成長・発達や老いていくことについても理解を深める 3) 病に苦しむ患者さんやご家族の気持ちを理解する				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション						
2	第1章 解剖（皮膚 からだの構造 骨格系 筋系）						
3	第1章 解剖（循環器系）						
4	第1章 解剖（呼吸器系）						
5	第1章 解剖（消化器系1）						
6	第1章 解剖（消化器系2）						
7	第1章 解剖（泌尿器系 生殖器系）						
8	第1章 解剖（内分泌系 神経系 感覚器系）						
9	緩和ケアと終末期医療について						
10	第2章 薬の基礎知識						
11	第3章 検査概論、第4章 医療用語						
12	リハビリテーションについて						
13	第5章 感染症						
14	第6章 栄養						
15	試験対策						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	答案の成績を客観的に評価する。原則として6割以上で単位を与える。		授業の参加態度	30	授業参加態度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
指定教科書を中心とした授業を行います。事前に読み進めておいてください。[30分] 指定教科書に記載のない講義も行いますので、事後の復習も必要です。[30分]			途中実施する小テストやレポートなどについては、後日評価しフィードバックします。				
受講生に望むこと	ほとんどすべての人は、人生のいずれかの段階で医療と関わります。また、すべての人に訪れる死についても考える機会をもち、病や老いに苦しむ患者さんやご家族の気持ちを理解し、慈しむ気持ちも育んでいただきたいと思っています。		教科書・テキスト	『医学一般』 一般社団法人 医療教育協会			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	コミュニティ文化学科科目「医学一般」と合同開講である。			

**社会学科
(3年次)**

授業科目名	SK300U 専門ゼミ			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	松下 健・勝谷 紀子・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・儀 希實・真砂 良則・竹中 祐二・若杉 亮平・若山 将実・加藤 仁 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>担当する教員の専門分野のなかから自分の興味関心のあるテーマについての知見を深める。ゼミごとに文献を設定し、演習形式で文献の輪読と担当者によるレジュメの作成と発表、内容についてのディスカッションをとおして、専門的な文献の読解力と内容の把握の方法を身につける。自分のテーマを追究するのに適した理論や方法論を見出し、ゼミレポートの作成を目指す。</p>				<p>専門分野に関する文献を読んで理解する。 専門分野に関するディスカッションを通して自分のテーマを見出す。 ゼミレポートを作成する。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	50	課題にまじめに取り組んでいるか。 積極的にディスカッションに参加しているか。	レポート	50	指定された書式にしたがっているか。 適切な内容となっているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
ゼミレポートの作成やゼミ発表の準備を進める [週平均90分以上]。 詳細は各ゼミの担当教員の指導にしたがう。			各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		
受講生に望むこと	研究課題に主体的に取り組んでください。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書/参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	なし	

授業科目名	S0225U 心理統計学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義は社会科学におけるデータ解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。心理統計学においては、t検定、分散分析といった検定の考え方の理解および習得を目指す。分散分析の基本概念、分析の進め方を理解し、様々なデータで分析が行えるようにする。さらに効果量や検定力分析についても解説を行う。本講義ではコンピュータ等を用いた具体的なデータ処理方法の理解にも重点を置く。				授業内で紹介する各分析で用いられる用語を覚え、分析の概要を理解している。与えられたデータに対して適切な分析手法を選択、実施する能力を身につけている。コンピュータを用いた分析方法を身につけている。			
教授方法	講義を中心に演習の内容を取り入れながら授業を進める。						
履修条件	心理統計学 の履修済が望ましい(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	心理統計学の基本的概念を振り返る。						
2	t検定についての理解を深める。						
3	相関係数についての理解を深める。						
4	分散分析 分析の枠組みを理解する：分散分析という分析手法がどのような目的に用いられるのか、どのような考え方に基いた分析であるのか解説を行う。						
5	分散分析 1 要因分散分析の計算の実施：1 要因の分散分析について、実際に計算を行いながら分析の概要について理解を深める。						
6	分散分析 1 要因分散分析をコンピュータを用いて分析する：1 要因の分散分析をコンピュータを用いてどのように分析を行い、結果を読み取るのか解説する。						
7	分散分析 2 要因の分散分析の考え方：2 要因の分散分析について交互作用の概念を中心にその考え方の解説を行う。						
8	分散分析 交互作用について事例を挙げながら理解をさらに深める。						
9	分散分析 2要因分散分析の計算：2要因の分散分析がどのように行われるのかについて解説を行う。						
10	分散分析 参加者内要因の分散分析：参加者内要因について理解を深め、計算過程を知る。						
11	分散分析 混合計画における分散分析を理解する。						
12	分散分析 演習課題を用いて、分散分析への理解を深める。						
13	効果量とはどのようなものか、その計算過程を理解する。						
14	推定と検定：信頼区間についての理解を深める。						
15	検定力分析を研究実践に生かす。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	心理統計学について理解し、計算および報告ができるか。			小テスト	15	授業の内容をどれだけ理解できているか。
講義への参加度	15	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
講義前にテキストおよびプリントを読んでくる。[30分] 講義後にテキストおよびプリントを読み、ノートの整理を行う。[45分] 講義でわからない計算法や用語があれば担当教員に質問したり、テキスト・参考書等を用いるなどして理解を深める。[30分] 講義にて提示された演習課題に取り組む。[30分]				小テストは終了後に解説を行う。 演習課題は添削を行い、コメントする。			
受講生に望むこと	統計学は特に予習復習が強く求められる科目である。そして、授業内の学びをより深めるために予習復習の中で出てきた疑問点を持って授業に臨み、それらの疑問をひとつひとつ解消するようにしてほしい。			教科書・テキスト	『入門 統計学 検定から多変量解析・実験計画方まで』 栗原伸一 オーム社 2011年 ISBN 978-4-274-06855-3		
指定図書/参考書等	なし/『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9 『心理統計法への招待 統計をやさしく 学び身近にするために』 中村知靖・松井仁・前田忠彦 サイエンス社 2006年 ISBN 978-4-781-91151-9 『わかる・使える多変量解析』 神宮英夫・土田昌司 ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-779-50246-0			その他・特記事項	なし		

授業科目名	S0300U 応用心理社会統計法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会調査士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は統計解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学の知識や技術を身につけることは、心理学、社会学、医学などの学問領域だけでなく、ビジネスの現場においても必要となってきた。統計解析を用いて大量のデータをどのように処理していくのかを知ることでデータを適切に読み解くことができる。本講義では、多変量解析の基本的な考え方を学び、特に回帰分析と因子分析を中心にその知識と技法を習得することを旨とする。</p>				<p>多変量解析の概要を理解し、データの特徴に応じて適切な分析方法を選ぶことができる。 回帰分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。 因子分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。						
履修条件	心理統計学、心理統計学IIの履修済が望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	多変量解析とは：多変量データとは何か、データの種類による分類を学ぶ						
2	代表値：代表値の計算を通じて記号に慣れ、共変動、相関係数についても学ぶ						
3	多変量解析を俯瞰する：多変量解析の概要を知り、それぞれの解析の位置づけについて学ぶ						
4	回帰分析を理解する1：回帰分析の基本モデルと推定法を学ぶ						
5	回帰分析を理解する2：回帰分析の実際と重回帰分析の拡張について学ぶ						
6	因子分析を理解する1：因子分析の基本モデルと推定法を学ぶ						
7	因子分析を理解する2：因子分析の詳細な設定と実際の流れを学ぶ						
8	中間テスト						
9	回帰係数の算出：回帰係数の算出方法の実際を学ぶ						
10	回帰分析の特徴を数理で学ぶ：平均値や共分散の特徴、一般線形モデルを数理的な面から学ぶ						
11	多変量解析の数理1：行列の基礎を学ぶ						
12	多変量解析の数理2：多変量解析のコアな部分である固有値分解などを学ぶ						
13	構造方程式モデリング：構造方程式モデリングの概念について学ぶ						
14	質的なデータに対する多変量解析：多次元尺度構成法、クラスター分析などを学ぶ						
15	これまでのまとめとおさらい						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	講義の内容の理解度により評価を行う。			小テスト	30	講義の内容の理解度により評価を行う。
講義への参加度	10	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業で取り組んだ問題を復習し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]</p>				<p>中間テストは終了後に解説を行う。 授業内に行う課題は答え合わせを行って解説する。</p>			
受講生に望むこと	統計学には難しく感じる内容もあるかもしれないが、こつこつと積み上げるように学んでいくことで少しずつ理解ができるようになる。そのために授業だけではなく、予習と復習が欠かせないので実践してほしい。			教科書・テキスト	『言葉と数式で理解する多変量解析入門』小杉考司 北大路書房 2018年 ISBN 9784762830471		
指定図書/参考書等	なし/参考書は授業中に適宜紹介する			その他・特記事項	本講義は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのE科目に準拠しています。		

授業科目名	S0305U 社会調査実習		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	依 希實・若山 将実 (代表教員 依 希實)					
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計」などで学んできたことを基礎とし、調査の構想・計画・準備・実査・データの入力と点検・分析・報告という社会調査の全過程を体験的に学び、社会調査士資格に相応の、社会調査に関する実践能力を習得することを目的とする。同時に、調査組織のつくり方、運営していくためのコミュニケーション能力、マネジメント能力、作業のダブル・チェックの徹底、資料の保管方法、作業記録の作り方など、社会で働くために必要な基本的スキルを獲得することを旨とする。</p>			<p>社会調査の全過程を知る。 社会で働くために必要な基本的スキルを獲得する。</p>			
教授方法	実習					
履修条件	「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理統計学」を履修済、もしくは現在履修していることが望ましい。履修していない場合は要相談。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明					依・若山
2	共通テーマ、年間スケジュールに関する説明					依・若山
3	テーマ別調査研究班の編成と役割分担の決定					依・若山
4	調査枠組（対象者、調査方法など）の決定					依・若山
5	調査テーマに関する先行研究論文の発表					依・若山
6	調査テーマに関する先行研究論文の発表					依・若山
7	調査テーマに関する先行研究論文の発表					依・若山
8	調査テーマに関する先行研究論文の発表					依・若山
9	調査テーマに関する仮説の構成					依・若山
10	調査テーマに関する仮説の構成					依・若山
11	調査テーマに関する仮説の構成					依・若山
12	調査テーマに関する仮説の構成					依・若山
13	質問文の作成					依・若山
14	質問文の作成					依・若山
15	質問文の作成					依・若山
16	調査票の作成					依・若山
17	調査票の作成					依・若山
18	調査票の作成とプリテスト					依・若山
19	サンプリング					依・若山
20	対象者リストの作成					依・若山
21	調査票の配布準備					依・若山
22	エディティング・コーディング					依・若山
23	エディティング・コーディング					依・若山
24	データクリーニング					依・若山
25	分析についての説明：相関分析 クロス表 カイ二乗検定など					依・若山
26	単純集計表作成					依・若山
27	調査データの分析：各自の分析					依・若山

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	調査データの分析:各自の分析				依・若山
29	調査データの分析:各自の分析				依・若山
30	報告書の作成				依・若山
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業態度	50	授業にまじめに取り組んでいるか。 自分の役割を遂行しているか。	レポート	50	期限内に提出しているか。 指定された書式・分量にしたがっているか。 適切な内容となっているか。 図表が適切に作成されているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
仮説の構成、質問文の作成、分析などは主に授業外で進めること。調査票配布および回収、エディティングやコーディング作業など、受講生で協力して授業外で進めること。[120分]			各自の仮説の構成や質問文の作成にあたり、完成するまで継続的にコメントする。		
受講生に望むこと	着手から最終報告まで受講生が主体となるため、主体的に考え、他のメンバーに迷惑をかけないよう責任を持って行動してください。		教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第3版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN：978-4-589-03817-3	
指定図書/参考書等	授業中に紹介する。		その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのG科目に準拠しています。	

授業科目名	SC300U 石川の伝統文化と産業		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	小林 正史					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
近郊の農村での聞き取り調査に基づいて、日本の伝統的食文化の特徴を明らかにする。それに基づいて、現代における和食の変容過程を検討し、現代における和食の意味を考える。			日本の伝統的食文化（和食）の特徴を理解する。 薪による調理といった伝統文化（手作り技術）の優れた面を理解する。 人類学における聞き取り調査とそのデータ解析の方法を実践的に習得する。			
教授方法	キャンパス近郊での伝統的食文化聞き取りの先行研究を学ぶ。 それをもとにして、金沢近郊の農村での聞き取り調査とその分析・報告を行う。					
履修条件	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要： 地元の伝統的食文化を題材として、手作り技術の優れた面を理解する。					
2	日本の伝統的食文化（和食）の特徴： 稲作文化圏の他文化と比べた際の和食の独自性を理解する。					
3	旧内川村の伝統的食文化についての先行研究：主食の調理方法					
4	旧内川村の伝統的食文化についての先行研究：オカズの調理方法					
5	旧内川村の伝統的食文化についての先行研究：薪の入手方法と使い方					
6	旧白峰村の伝統的食文化についての先行研究：雑穀を主食とする伝統的食文化の特徴を理解する。					
7	聞き取り調査の準備： 聞き取り項目を選択する					
8	聞き取り調査： 近隣の農村を訪問し、聞き取り調査を行う					
9	聞き取り調査： 近隣の農村を訪問し、聞き取り調査を行う					
10	聞き取り調査： 近隣の農村を訪問し、聞き取り調査を行う					
11	聞き取りデータの整理： グループ単位で聞き取りデータのまとめ方を実践的に習得する。					
12	聞き取りデータの分析と比較： 聞き取りデータの分析方法を実践的に習得する。					
13	レポート発表の準備： パワーポイントを用いた発表の仕方を実践的に習得する。					
14	レポート発表					
15	発表の振り返り					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
参加態度	10	積極的に授業、調査、グループワークに参加している		課題提出、小テスト	30	授業中のワークや小テストにおける理解度
レポート発表	30	発表の仕方と提出されたレポートにみられる理解度、論理的説明、および独自性		提出レポート	30	調査内容について各学生が内容を的確に理解し、レポートにまとめることができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
調査のまとめと発表準備は授業外で行うこと〔平均45分〕。課題リーディングなどを授業外で行うこと〔平均45分〕				レポート発表の後、振り返りを行う。		
受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	授業中に指示する。			その他・特記事項	聞き取り調査は授業外の時間に行う（振替あり）	

授業科目名	SC305U 教育社会学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	スクール(学校)ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的な社会化・系統的な社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。また、教育専門職・教育制度を取り巻く現代的背景として、主として日本の、必要に応じて諸外国との比較の中から、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。</p>			<p>「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。戦後日本の「教育」とはどういったものかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。現代日本の「教育」とはどういったものかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。現代社会学との関わりから、今日の児童・子どもに関わる重要な問題に対して、学校・教育が果たし得る役割について、具体例を交えながら、文章によって説明することができる。</p>			
教授方法	講義(適宜アクティブラーニングを導入する場合がある。)					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション:社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。					
2	近代教育制度の成立:近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、制度としての教育が成立する過程について確認する。					
3	近代教育制度の成立:西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。					
4	近代教育制度の成立:戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。					
5	社会における教育の意義:社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会学的に理解を深め、重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。					
6	社会における教育の意義:今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。					
7	社会における教育の意義:グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。					
8	日本における教育環境の変遷:戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。					
9	日本における教育環境の変遷:教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。					
10	日本における教育環境の変遷:少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。					
11	日本における教育環境の変遷:ジェンダー教育やマイノリティ教育といった、今日的な課題に対する教育の意義や実践例について考察する。					
12	学級経営における多機関連携:「チーム学校」論の概要と登場背景について学び、中でもスクールソーシャルワークに着目し、その理念・対象・方法論・実践例について学ぶ。					
13	学級経営における多機関連携:スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「子どもの貧困」との関わりから方法論・実践例について学ぶ。					
14	学級経営における多機関連携:スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「不登校」や「いじめ」といった「学校」制度に特有な現象から方法論・実践例について学ぶ。					
15	総括:本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	30	日常的な授業態度を評価しつつ、とりわけワークシートの活用に対する状況から評価する。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
各回の授業で学習した教育社会学の理論・概念・知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体で共有する。 アクティブラーニングを実施した際に、自己評価シートの提出を求めることがある。また、必要に応じて個別にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にすることを身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし(レジュメを配付する)	
指定図書/参考書等	<参考書> 『よくわかる教育社会学』 酒井朗・中村高康・多賀太(編著) ミネルヴァ書房 2012年 ISBN: 978-4623062935			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で(なるべくアポイントをとった上で)担当教員へ質問することは歓迎する。	

授業科目名	SC320U メディア文化論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	辰巳 平一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
我々は行動や判断の基礎となる情報をメディアから取得している。しかし一般にはメディアの実態は知られていない。授業では、放送メディアを中心に、メディアの実態や課題を具体的な事例を紹介しながら説明していく。ネットメディアについても言及する。				個々のメディアの特性を理解する。報道番組やニュース番組に対し、批判的に捉える力すなわちリテラシー力をつける。幅広い分野のニュースに興味を持ち、多角的視点からニュースを観られるようになる。			
教授方法	基本的には講義。加えてディスカッション、フィールドワークも実施する						
履修条件	学部生のみ履修可。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業内容ならびに評価基準を説明						
2	情報伝達ルート：マスメディア（放送新聞など）とネットの情報伝達ルートを解明						
3	テレビニュースワイド研修：テレビ局で夕方ニュースワイドを研修						
4	テレビニュースワイド比較：夕方以降のニュースワイドを取り上げ、伝え方など比較検討						
5	ニュースキャスター：ニュースキャスターのキャリア、タイプを紹介。番組での役割、存在意義を考察						
6	ニュースの現場（ ）：記者クラブなど取材最前線からオンエアまでを追跡						
7	ニュースの現場（ ）：スクープや誤飲の実例を紹介し、調査報道、取材の現実を披瀝						
8	災害報道（ ）：講師が取材体験した能登半島地震について、災害現場と報道陣の奮闘を語る						
9	災害報道（ ）：多発する自然災害、メディアはこの自然の猛威をいかに伝えたかを紹介する						
10	過熱報道（ ）：報道被害の典型である松本サリン事件をとり上げ、被害者、メディア、当局の関係を詳説						
11	過熱報道（ ）：多様な加熱報道を紹介し、被害者意識の高まり、メディアの対応を考える						
12	ネットとフェイク：若者が利用するネットニュースを解明。フェイク（偽）ニュースの実態を紹介						
13	メディアと政治：メディアと政治は緊張関係の歴史だが、そのうち代表例を紹介、解剖する						
14	選挙報道：選挙報道の実態を紹介し、政治のメディア対策にも切り込む						
15	メディア文化論のまとめ：授業の総括と就職対策など質問に答える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	授業への取組み姿勢、授業に集中しているか、講師との応答が適切であるか、ディスカッションにも積極的に参加しているか			レポート	20	期限内での提出 課題に沿った内容であること
学期末試験	50	授業内容を理解し、自らもメディアに触れ、独自のメディア観を形成したかどうか、筆記試験を実施する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内容について考えたこと、講師が述べたことについて、受講生なりの意見を求めることがあり、それに応じてレポートを提出する。〔50分〕 次回の授業のテーマに沿って、番組の視聴を求めるときはそれに対応し、自己の考えをまとめて授業に臨む〔50分〕				授業内容についてのレポートは、次々回の授業で採点をつけて返却する 次回授業テーマについて受講生の視聴後の考察は、次回授業内の応答で判断、見極めする 期末テストは、後期開始時にフィードバックする			
受講生に望むこと	情報の取材源、編集作業に対する理解を深める意味からもマスメディアに触れて欲しい。放送メディアに対して、批判的視聴が行える力を養って欲しい。時事的な出来事に、幅広く深い関心を持って欲しい			教科書・テキスト	適宜、レジュメを作成し配布する		
指定図書/参考書等	なし/参考書：『ジャーナリズムの思想』原寿雄 岩波新書 1997年 ISBN：978-4004304944、『図説日本のメディア』藤竹暁 N H K 出版 2012年 ISBN：978-4140911969、『テレビの未来を拓く君たちへ』伊藤守 N H K エンタープライズ 2011年 ISBN：978-4140814697			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL300U 地域行政入門		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	若山 将実					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>。この授業の目的は、日本の地方政治・行政について理論と実際の見地から考察することにあります。この授業の前半では、地方自治を担う首長、議会、そして地方公務員が果たす役割、地方自治体の組織編成、そして地方行政における政策過程について学んでいきます。また、この授業の後半では学生が主体的にグループで地方自治体が実際に直面している政策課題に取り組む機会を設ける予定です。そして、グループ学習の発表において高い評価を得たグループのなかから、全国規模で開催されている政策コンテストに応募してもらうことを予定しています。</p>			<p>民主主義国家における行政部門が果たす役割を理解する。日本の中央・地方などのマルチレベルの行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようになる。日本の地方政治・行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようになる。日本の地方自治体組織の実態を理解し、それがどのような要因によって規定されているのかを理解できるようになる。地方自治体における政策過程の理論と実際を理解し、それに依拠した形で日本の政策過程の実際を理解できるようになる。</p>			
教授方法	この授業の前半は講義形式が中心となりますが、後半はフィールドワークを含む学生による能動的な学習が中心となります。					
履修条件	社会学科の学生のみ可。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、地域の行政を担う地方自治体について、基礎的な行政主体である市町村と広域的な行政主体である都道府県が日本の国の中に存在する意味を考えます。（地域行政を学ぶ意味を理解する。）					
2	中央地方関係：戦後日本の中央・地方関係において、地方自治体へ権限が委譲されてきた過程を振り返るとともに、地方分権が進められてきた要因について考察します。（戦後日本の地方分権の流れを理解する。）					
3	地方自治体における首長：地域の行政を担う主役である地方自治体の首長に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政における首長の影響力を理解する。）					
4	地方議会：主に地域の行政をチェックする役割を持つ地方議会や地方議員に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政において地方議会が果たす役割を理解する。）					
5	地方公務員：地域の行政の実務を担う地方公務員について、その多様性、採用や昇進のシステム、そして実際の仕事内容について実例を交えながら説明します。（地方行政における地方公務員が果たす役割を理解する。）					
6	地方自治体の組織編成：日本の地方自治体組織の実態について、それがどのような要因によって規定されているのかを説明します。（地域の実情に応じて地方自治体の組織が編成されていることを理解する。）					
7	地方選挙、直接請求、そして住民投票：地域の行政に対しては住民が積極的に参加・関与することが求められています。この回では地方選挙、直接請求、そして住民投票を通じて住民の意思が地域の行政にどのように反映されているのかを考えます。（地域行政に住民が積極的に参加・関与する意義を理解する。）					
8	政策過程の理論と実際：地域行政において政策が発案され、実施に至る過程について実例を交えながら説明します。（地域行政における政策過程を理解する。）					
9	政策リサーチの方法：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ・クエスチョンのたてかたについて学びます。（因果関係を説明することの意味を理解する。）					
10	政策リサーチの方法：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説について説明し、そして仮説のたてかたについて学びます。（仮説をたてる意味を理解する。）					
11	政策リサーチの方法：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では政策課題に関する資料・データを収集する方法を学びます。（資料・データの収集方法を理解する。）					
12	政策リサーチの方法：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説を検証する方法を学びます。（因果関係特定のために、条件をコントロールする方法を理解する。）					
13	政策リサーチの方法：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果をまとめ、伝える方法を学びます。（リサーチ結果をわかりやすく伝える方法を理解する。）					
14	政策リサーチの方法：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果を政策化する方法を学びます。（特定した因果関係に基づく政策提言・評価の方法を理解する。）					
15	発表：授業後半のグループ学習をふまえ、地方自治体が実際に直面している課題に対する発表をグループごとに行います。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末レポート	50	地方行政の理論をふまえたうえで、地方自治体が実際に直面している課題にどのように取り組んだのかを論理的に書くことができているレポートを評価する。		発表	35	課題に対してグループ（または個人）で取り組み、わかりやすい発表ができていているかを見る。
ワークシート・リアクションシート	15	毎回の授業の理解度を確認するワークシートやそれに付属する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この授業の後半はグループ活動が中心となるので、授業外で継続して課題に取り組むことが求められる。[90分以上] 毎日、新聞・ニュース等に目を配り、地方政治・行政に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような地方政治・行政の記事やニュースに注目したかを記入してもらいます。[30分]			毎回のワークシートおよびそれに付属するリアクションシートは、次回冒頭に採点およびコメントを付けて返却します。期末レポートは、採点およびコメントを付けて次学期冒頭に返却することを検討します。			
受講生に望むこと	将来、地方公務員への道を考えている学生の受講を望みます。授業外でフィールドワークに出る可能性があるため、そうした負担を負う覚悟のある学生のみ受講することを望みます。また、単なる大学の授業の一環としてではなく、地域で暮らす社会人の一人として自覚のある態度で授業に取り組んでほしい。教室内での私語やスマートフォン使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。		教科書・テキスト	自作のレジュメやスライドを毎回配布します。		
指定図書/参考書等	なし / 『地方自治論：2つの自律性のはざま』北村 亘・青木 栄一・平野 淳一著 有斐閣 2017年 ISBN-13:978-4-641-15048-5。『テキストブック 地方自治 第2版』村松 岐夫編著 東洋経済新報社 2010年 ISBN-13:978-4492211830。『新版 現代地方自治論』橋本 行史編著 ミネルヴァ書房 2017年 ISBN-13:978-4623079902。『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』伊藤 修一郎著 東京大学出版会 2011年 ISBN-13:978-4-13-032215-7。		その他・特記事項	授業の折々でWeb上のクリッカーアプリを使用してアンケートや学生からのコメント聴取を随時実施します。		

授業科目名	SL340U 経済学			開講学科	社会科学	必修・選択	選択
担当教員名	瀬尾 崇						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
マクロ経済学の基礎を講義する。経済学は大きくミクロ経済学とマクロ経済学に大別されるが、大学卒業後、社会に出てからも日常生活や職業生活でより身近に関係してくるのはマクロ経済学である。講義では、マクロ経済学の基本的な考え方（ケインズ経済学）を、できるけ数式によらず、図表を多用しながら直感的に理解できるように進めていく。				第一に、マクロ経済学の基本的な理論的な考え方を理解する。第二に、マクロ経済理論を、ここ数年間の具体的な経済問題に適用しながら、どのように分析できるのかを考える。第三に、実際の経済政策が妥当かどうかを自分なりに判定できるようになる。			
教授方法	講義形式						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：なぜマクロ経済学が必要か						
2	国民所得の測定：マクロ統計（国民経済計算，GDP統計）の仕組みを理解する。						
3	国民所得の決定（1）：ケインズ型消費関数と最もシンプルな45度線分析を理解する。						
4	国民所得の決定（2）：45度線分析を用いて、マクロ経済政策の効果を理解する。						
5	国民所得の決定（3）：企業投資や公的支出がGDPに及ぼす影響を、乗数理論を用いて理解する。						
6	国民所得の決定（4）：投資と利子の関係から、投資理論を理解する。						
7	国民所得の決定（5）：経済における貨幣の役割と貨幣需要・貨幣供給の理論を理解する。						
8	国民所得の決定（6）：IS-LM分析の基本的枠組みを理解する。						
9	国民所得の決定（7）：IS-LMモデルを用いた実際のマクロ経済政策の仕組みを理解する。						
10	オープンマクロ経済学の基礎：国民経済のマクロ経済理論の分析枠組みに海外部門を追加する方法を学ぶ。						
11	経済成長論（1）：ハロッド＝ドーマー・モデルから経済変動の不安定性を理解する。						
12	経済成長論（2）：新古典派成長モデルから安定的な経済成長の理想的なモデルを理解する。						
13	インフレーションとデフレーション：物価変動の基礎理論を理解し、最近のデフレ経済についての理解を深める。						
14	フィリップス曲線とAD-AS分析：物価変動と失業との関係について理解する。						
15	マクロ経済学と所得分配：最近の格差社会の背後にある所得分配について、マクロ経済学的に理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
学期末テスト	60	講義内容に関する学期末テストの素点			小レポート	40	テキストの練習問題から指定した問題についてレポートを作成する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義では、ニュースや新聞等で日常的に目にする経済問題を、可能なかぎり取り上げながら説明する。したがって、授業で言及した具体的問題については、紙媒体でもWebでも構わないので、必ず概要を確認して、できれば講義で説明したマクロ経済理論を適用して考えるようにしてほしい。指定テキストはタイトル通り、読んで理解できるように構成になっているため、予習もそれほど負担ではないはずである。1時間程度で読めるため、講義前に該当箇所を読んできてほしい。				講義では、テキストに掲載されている「練習問題」をできるだけ講義内で解くことによって、講義内容との関連性および理論的理解の効果を示す。特に重要なものに関しては、レポート課題として出題し、レポート回収後の講義で解説する。			
受講生に望むこと	経済学は「積み上げ型」の理論体系であるため、講義は特段の事情がないかぎり出席してほしい。やむなく休んだ場合は、メール等で質問を受け付ける。			教科書・テキスト	『読むマクロ経済学』 井上義朗 著 2016年 新世社 ISBN:978-4883842483		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL345U 経済学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	川島 哲						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は、経済学を初めて学ぶ学生が経済学の基本的な考え方を理解し、さらに経済学の魅力を知る手助けとなることを目的としています。経済学とは私たちの生活に非常に密接な学問です。社会学科のみならずにも「やさしく、わかりやすく」をモットーに実例を出しながらわかりやすく、予習復習をもちこみながら全員が理解できるように授業を行います。</p>				<p>経済学とはどういう学問なのかを理解する。 経済学の基礎的な知識を身に付ける。 経済ニュースに興味を持ち、授業で学んだことと結び付けて理解しようとする習慣を身に付ける。</p>			
教授方法	基本的に講義形式の授業ですが、やさしくわかりやすくを心掛けて授業します。						
履修条件	経済学 の履修済が望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方を理解する。 教科書序章(3~11)						
2	経済学的な考え方 経済循環フロー図と絶対優位・比較優位を理解する。 教科書第1章(12~19)						
3	需要曲線と供給曲線 需要曲線と供給曲線、曲線上の移動と曲線のシフトの違いを理解する。 教科書第2章(20~27)						
4	市場の価格調整メカニズム 市場の分類と市場均衡を理解する。 教科書第3章(28~33, 145)						
5	消費者余剰と生産者余剰 財やサービスの市場取引による利益を理解する。 教科書第4章(34~41)						
6	需要・供給分析と価格弾力性 需要・供給曲線のシフトと市場均衡を理解する。 教科書第5章(42~48)						
7	労働市場の均衡 労働市場の均衡を理解する。 教科書第6章(49~56)						
8	小テスト(中間テスト) 教科書序章から第6章までの内容を小テスト						
9	独占と寡占 独占市場と寡占市場を理解する。 教科書第9章(75~83, 151)						
10	公共財と外部性 公共財と外部性を理解する。 教科書第10章(84~89, 153)						
11	情報の役割 逆選択とモラルハザードを理解する。 教科書第11章(90~98)						
12	マクロ経済指標 GDPと物価指数、名目と実質の違いを理解する。 教科書第12章(99~107)						
13	マクロ経済政策 ケインジアンの交差図に基づいて経済政策を理解する。 教科書第13章(108~117)						
14	貿易の利益 貿易の利益と保護貿易論を理解する。 教科書第14章(118~127)						
15	総まとめ 序章から第14章までの内容を総復習						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	50	前半(第1回から第7回まで)の授業内容が理解できているか			期末テスト	50	15回の授業内容が理解できているか
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
予習は事前に次回の内容を行っておく(約60分) 復習はその日に学んだ内容を復習しておく(約60分)				ほぼ毎回の授業でリアクションシートを行い、受講生が理解できているかを把握する。そして次の回にそれについてコメントをして返却する。			
受講生に望むこと	どんなささいな質問でもしてほしいと思っています。			教科書・テキスト	『プレステップ経済学 経済実験で学ぶ』二本杉剛・中野浩司・大谷咲太、弘文堂、2013年、1944円 ISBN978-4-335-00088-1		
指定図書/参考書等	『マンキュー入門経済学[第2版]』N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社、2014年、3456円 ISBN978-4-492-31443-2			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL310U 法律学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	稲角 光恵						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
法学と政治学の基礎を概括した上で、国内社会と国際社会の構造とともに、それぞれの法体系を学ぶ。法学共通の基本理念・原則、裁判制度をはじめとする法制度全体を習得する。また、現代社会においては国内社会と国際社会は密接に関連しており、現代社会の国内問題を考える上でも、国際法の知識は欠かせない。そこで、本講義では、現代社会構造と法体系に関する包括的な理解を進めるため、日本の法に加えて国際法を学ぶ。これらの知識を深めて、社会と法の役割について考えてみよう。				法学および政治学全般にかかわる基礎知識の修得 国際法を理解する 国内法と国際法の基礎知識を踏まえて、国内社会と国際社会がかかえる現代的問題を理解する 上記の知識を基に法的問題について説明し議論することができる			
教授方法	講義を主体とする。						
履修条件	学部生のみ履修可。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	法と政治の基礎 : 社会と法の役割 - 自分と社会と法との関係を考えよう						
2	法と政治の基礎 : 国家と法の歴史 - 人は平等でしょうか?						
3	法と政治の基礎 : 法と正義 - 何が正しい? 現代問題を考えよう						
4	日本の社会と法 : 憲法 - 国家権力から守ってくれるもの						
5	日本の社会と法 : 民法 - 契約、財産、家族の法						
6	日本の社会と法 : 刑法 - これも犯罪だ。犯罪と刑罰						
7	日本の社会と法 : 裁判制度 - 裁判はどのように進む?						
8	国際社会と法 : 国際社会の構造 - 国家とは何?						
9	国際社会と法 : 国家の権利義務 - 国は国をさばけない?						
10	国際社会と法 : 国際連合 - 国連の目的は?						
11	国際社会と法 : 戦争の禁止 - 戦争はどうすればなくなる?						
12	国際社会と法 : 国際的な人権の保護 - 女性差別禁止や難民保護						
13	国際政治と法 (時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる)						
14	国際政治と法 (時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる)						
15	法律学まとめの論議						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。			授業での参加態度	30	授業内で行うディベートへの参加態度。
授業外における学習(事前・事後学習等)							
毎回の授業で次回の予習として求められることを発表することで準備すること。(例: 皆とのディスカッションに向けて自分の意見をまとめること。「死刑制度について賛成か反対か?」「核の使用についてどう思うか」など。)[20分] 授業では時事問題の中でも法律や政治に関わる社会問題を取り上げることがあるので日頃から新聞・ニュース等をチェックし社会的問題に関心を持ち、自らの意見を形成することを心がけること。[20分] 授業内で配布されたレジュメや資料を読み返し、授業の復習を行うこと。その際、解らない所や疑問点などがあった場合には、すぐ教員にメール又は次回授業の時に知らせること。[30分]				毎回授業終了後、授業内容が理解できたかアンケートで確認し、毎回の授業の冒頭で前回授業についてのアンケートをもとにして理解の確認や学生からの疑問・質問に答える。また、授業内容やディベートや試験問題の解答等に対してメールでも学生からの質問に対応する。			
受講生に望むこと	新聞等で日頃から現代の社会問題に興味を持って学ぶ姿勢を持つこと。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)		
指定図書/参考書等	授業内で指定する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL325U 社会貢献実習		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>この実習は、漁村集落に滞在し地域課題を分析しつつ、地域の魅力を提案することを目的とする。 実習日：4月20日（土）、5月25日（土）～26日（日）（1泊2日）（予定） 実習先、日程等詳細については事前説明会時にアナウンスする 事前説明会+面談 日時：3月27日（水）13：00 場所：田中研究室 受講希望者は必ず事前説明会に出席すること 定員：10名程度（受講者5名未満の場合、開講しない） 費用：10,000円程度（内訳：交通費、宿泊費） 飲食費は別途負担</p>			<p>地域の課題を整理し、解決策を提案できる フィールドでの聞き取り、情報収集の基礎力を身につける 問いを探し、仲間と協議して答えを編み出す</p>			
教授方法	フィールドワーク、グループワーク					
履修条件	「社会貢献論」を履修した者又はボランティア活動経験者（定員超過の場合、優先事項にすることがある） 事前説明会への出席（事前説明会不参加の者の受講は認めない）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス 実習概要の説明					
2	フィールド調査（1）現地で情報収集し、地域の全体像を把握する					
3	フィールド調査（2）現地で情報収集し、地域の全体像を把握する					
4	フィールド調査（3）現地で情報収集し、地域の全体像を把握する					
5	住民聞き取り調査（1）日常的な暮らしの中にある地域の資源を見つけ出す（自然環境）					
6	住民聞き取り調査（2）日常的な暮らしの中にある地域の資源を見つけ出す（社会環境）					
7	住民聞き取り調査（3）日常的な暮らしの中にある地域の資源を見つけ出す（歴史的・文化的環境）					
8	グループワーク 第5回～7回で実施したことの振り返りと論点の整理					
9	地域内活動（1） 集落伝統行事への参加及び聞き取り調査					
10	地域内活動（2） 集落伝統行事への参加及び聞き取り調査					
11	地域内活動（3） 集落伝統行事への参加及び聞き取り調査					
12	地域内活動（4） 集落伝統行事への参加及び聞き取り調査					
13	地域内活動（5） 集落伝統行事への参加及び聞き取り調査					
14	グループワーク 第9回～13回の実施内容を振り返り、地域の魅力を整理する					
15	プレゼンテーション グループごとの成果発表と評価、レポート作成					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
出席・参加態度	40	グループ作業への積極的参加、地域住民への積極的に質問し情報を収集する		プレゼンテーション	30	グループ作業への積極的関与 ポイントを抑えたわかりやすい説明がなされている
レポート	30	聞き取り等で集めた情報を適切に用い、要求されたレベルの考察ができています				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>当該地域に関する情報を事前に集めておく（2時間以上） フィールドワークでは住民への質問を考え積極的に情報を収集する（30分以上） グループワークでは各自が得た情報を共有し、仲間と協議して課題に取り組み、期限内に纏め上げる（60分以上） 「ボランティア」「地域コミュニティ」について関心を持って調べ、自らのことばで語る事ができる（60分以上）</p>				<p>プレゼンテーションでは各グループの発表に対して教員による総評に加え、受講者による相互評価を行う。</p>		
受講生に望むこと	フィールドワークでは、各自が地域住民や地域住民組織関係者等に質問し情報を集めること			教科書・テキスト	特になし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊を伴うフィールドワークのため、体力がある人、集団生活に抵抗がない人がよい。 ・ 特別な配慮が必要な場合は事前に相談して欲しい。 	

授業科目名	SL330U 地域環境マネジメント論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択必修	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、sustainable development概念に関する既往議論を整理しつつ、持続可能な社会に向けた教育アプローチとしてのESD(Education for Sustainable Development)について考える。合わせて持続可能な社会に向けた能動的主体による学びの意義について考える。			持続可能性概念について、自分のことばで説明できる。ESDについて理解する。				
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	第12回～14回は学外で実施予定（金沢市内を予定。現地集合・現地解散。現地までの交通費は各自負担とする）						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	リスクとしての環境問題 リベック「リスク社会論」、リスク社会と個人の関係性について学ぶ						
3	持続可能性とは sustainability概念、sustainable development概念について学ぶ						
4	グローバリゼーションとは アクティビティを通して概念を理解する						
5	持続可能性を巡る教育的アプローチ 国際的な環境教育の動向について学ぶ						
6	持続可能な開発のための教育とは ESD概念、ESDの今日的意義と課題について学ぶ						
7	グループワーク 持続可能な社会をテーマにグループ内で討議する						
8	環境に責任ある主体の形成 significant life experience論について学ぶ						
9	エコロジカルシチズンシップ エコロジカルシチズンシップ概念について学ぶ						
10	内発性とは 地域社会変動過程と新しい共同性・地域性について学ぶ						
11	内発的発展とは 運動論、政策論それぞれの立場の内発論と課題について学ぶ						
12	事例研究 地域での具体的な問題について検討する						
13	事例研究 地域での具体的な問題について検討する						
14	事例研究 地域での具体的な問題について検討する						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
講義参加態度	10	講義、グループワークへの積極的参加		小テスト	10	講義で学んだことの理解度	
期末試験	50	講義内容についての理解度		レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて問題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
適宜小テストを実施するので、学んだことを復習し理解を深める（30分以上） レジュメ、資料を配布するので、講義前に目を通し理解を深める（30分以上） レポート作成に向け問いを立て、関連する書籍・論文等に目を通し纏める（30分以上）				小テストについては講義時間内に実施し、終了後答え合わせ及び解説をする。			
受講生に望むこと	新聞、ニュースを毎日チェックする			教科書・テキスト	レジュメ、資料を適宜配布する 適宜参考図書を紹介する		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	第12回～14回については学外で連続実施の予定。日程、費用等詳細についてはガイダンス時（第1回）にアナウンスする。		

授業科目名	SL335U マーケティング論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
マーケティングとは簡単に言えば、「売れる仕組みづくり」である。そして、そのマーケティングの基本理念が「CS (Customer Satisfaction) = 顧客満足」である。現代の企業経営においては、CSの創造を通して新規顧客の獲得とその維持が図られる必要がある。本授業では、わかりやすい事例をもとに、マーケティングの概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。				授業で設定されたテーマを理解する。 授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。			
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	学部生のみ履修可。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション - CS（顧客満足とは何か） -						
2	マーケティングの基本概念（1）：マーケティング志向（マーケティングの考え方）について理解する						
3	マーケティングの基本概念（2）：マーケティングと戦略との関係を知る						
4	製品のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、製品（Product）に関するマネジメントについて学ぶ						
5	価格のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、価格（Price）に関するマネジメントを学ぶ						
6	広告のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、広告（Promotion）に関するマネジメントを学ぶ						
7	流通のマネジメント：マーケティングの4Pのうち、流通（Place）に関するマネジメントを学ぶ						
8	サプライチェーンマネジメント：サプライチェーンとは何か、そのマネジメントについて理解する						
9	営業のマネジメント：マーケティングにおける営業部門の活動について知る						
10	顧客関係のマネジメント：顧客との「関係性マーケティング」の基礎について理解する						
11	顧客理解のマネジメント：顧客を理解するためのマーケティング・リサーチについて知る						
12	ブランド構築のマネジメント：ブランドをどのように創り上げるか、ブランド構築のマネジメントを学ぶ						
13	ブランド組織のマネジメント：ブランド・マネジャーとブランド組織のマネジメント（役割や責任）について学ぶ						
14	企業の社会的責任：マーケティングにおける企業の社会的責任について理解する						
15	まとめ - あらためてCS（顧客満足）について考える -						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出题し、理解度を評価する。			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと。[30分] 授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること。[60分]				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、製品やサービスのマーケティングについて興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)		
指定図書/参考書等	なし/『1からのマーケティング(第3版)』石井淳蔵・廣田章光編著 碩学舎 中央経済社 2009年 ISBN: 978-4-502-66550-9			その他・特記事項	・コミュニティ文化学科科目「CSとマーケティング」と合同開講である。		

授業科目名	SP300U 心理学研究法B		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・加藤 仁・齊藤 英俊 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、「心理学研究法A」で学んだ心理学における様々な研究法に関する知識を更に拡充していく。具体的には、心理学的な研究を行う一連の流れの各ポイントでどのような点を考慮し、進めていくことが求められるのかについて講義および実践を通して学ぶ。また、応用的な手法を用いた研究も取り上げ、解説を行う。			現在心理学において用いられている研究手法をより具体的に理解している。研究を実施する際に考慮すべきポイントを理解している。研究に用いられる統計解析を理解している。授業で身につけた知識、経験を自らの研究実践において生かせるようになる。				
教授方法	講義を中心に、発表、グループワーク、演習なども取り入れて進める。						
履修条件	心理学研究法Aの内容を十分に理解していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学研究法Aの振り返り					松下	
2	心理学における測定（様々な妥当性）					松下	
3	実験法の基礎的知識					松下	
4	調査法の基礎的知識					松下	
5	観察法の基礎的知識					松下	
6	質的研究法の基礎知識について学ぶ					齊藤	
7	質的研究法での調査法（面接調査や質問紙調査など）の概要について学ぶ					齊藤	
8	質的研究法での調査の実施方法について学ぶ					齊藤	
9	質的研究法での調査で得られたデータの分析について学ぶ					齊藤	
10	質的研究法で得られたデータの分析結果をどのようにまとめ、考察を進めるかを学ぶ					齊藤	
11	量的研究法における仮説構築（先行研究を参照し、具体的な仮説を構築する）					加藤	
12	量的研究法における尺度（仮説の検証に適した測定項目を検討する）					加藤	
13	量的研究法における実験計画（仮説を検証する実験計画を立案する）					加藤	
14	量的研究法における測定（実験計画に基づき測定を行う）					加藤	
15	量的研究法における分析と結果報告（分析し、結果をまとめ、考察する）					加藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
学期末レポート	40	授業内容の理解の度合い		講義への参加度	30	授業への取り組み姿勢	
小課題	30	小課題の完成度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
研究法、統計法について予習すること。[90分] 課された宿題を行うこと。[90分]				授業内の小課題は、次回冒頭にてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	心理学特有の難解な統計法、抽象的な概念を扱う。相当量の授業外学習が求められるため、自発的に学習すること。講義中の発表、課題、演習などに真摯に取り組むこと。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/高野陽太郎・岡隆（編）（2004）『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし』有斐閣 ISBN 978-4-6411-2214-7 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）『心理学研究法入門 調査・実験から実践まで』東京大学出版会 ISBN 978-4-1301-2035-7			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP220U 人間関係論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。人間は社会的な存在であるが、なぜ社会的な存在であると言われるのだろうか。そのことを一つの大きなテーマとしながら、人間関係や集団における心理について理解することを目的とする。また、人間関係において生じる現代的な問題についても考えを進めていく。授業内容としては、進化の観点、親子、友人、恋愛といった親密な関係、集団と個人の心理等を取り上げる。</p>			<p>「人間関係」を心理学の観点から捉えなおすことができる。人間関係で起こる様々な事象を客観的な視点から捉えることができる。進化や社会的交換の観点から人間関係を捉えることができる。自分の身の回りの人間関係を授業で学んだことを踏まえて見直すことができる。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題なども取り入れて進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	人間関係とは何か？：自分自身の人間関係のありようを振り返りつつ「人間関係」というものについて考えてみる。					
2	なぜ人間関係を形成するのか？：進化の観点を踏まえて、人間が他者と関係を形成することの意義を考える。					
3	進化の観点から人間関係をとらえることの利点は何か？					
4	人間関係における「適応」を考える：他者との関係における「適応」とはいったい何を指しているのか、その意味について改めて考える。					
5	個々の人間関係を理解する 1 親子関係 アタッチメント：親子関係の中で重要な概念であるアタッチメントを取り上げつつ、親子関係 がどのようなものか考える。					
6	個々の人間関係を理解する 2 親子関係 青年期の親子関係：親子関係のあり方の変容を発達という観点を踏まえて考察する。					
7	個々の人間関係を理解する 3 親子関係 虐待：親子関係における「虐待」について語られることが多いが、その内容の理解とともに社 会に与える影響を考える。					
8	個々の人間関係を理解する 4 友人関係の形成：友人関係の形成過程とその影響について考える。					
9	個々の人間関係を理解する 5 孤独感について考える：孤独感という概念がどのようなものであり、人においてどのような意味があるのかを見つめ直す。					
10	個々の人間関係を理解する 6 恋愛関係の形成と発展：恋愛関係の形成過程と関連する要因についての解説を行う。					
11	個々の人間関係を理解する 7 親密な人間関係の理論的理解：親密な他者との関係形成について社会的交換の観点から考察を行う。					
12	個々の人間関係を理解する 8 職場の人間関係：特に集団で働くという場合にどのような影響がありうるのか考える。					
13	社会的スキルとは何か？：社会的スキルという概念の解説を行い、人間関係形成における位置づけを考える。					
14	人間関係における受容と拒絶：他者からの受容や拒絶というものが人間に与える影響について考える。					
15	ソーシャルサポートの影響：ソーシャルサポートという概念の解説を行い、人間関係に与える影響について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	試験形式等の詳細は授業内に提示する。		授業内レポート課題	20	課題内容は授業内に提示する。
講義への参加度	20	授業への取り組み姿勢から評価を行う。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>各回の内容についてプリントや参考書を読んでくる。授業後は授業の内容を振り返りを行う。〔30分〕 講義内で様々な人間関係にまつわる概念を取り上げるが、それらを自分自身や身の回りの人間関係に適用し、具体的に考えてみる。〔30分〕 講義内容を踏まえつつ、人間関係をテーマとした論文あるいは文学作品など広く参照し、友人や家族などと議論を行うこと。〔30分〕</p>				<p>授業内の小レポートは次回コメントを付けて返却する。 授業内レポートは採点終了後返却し、コメントを行う。</p>		
受講生に望むこと	誰もが程度こそ違えど人間関係を形成しています。しかし、その全体像を捉えることはなかなか難しいものです。それは多様な視点から捉えるべきものであり、本講義ではそのうちのある一つの視点を提供するのみです。単に「人間関係がうまくいく方法」を身につけることにとらわれるのではなく、そのような複雑なものを見る「目」を養うことを目指してください。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし / 『対人関係の心理学』和田実・増田匡裕・柏尾眞津子 北大路書房 2016年 ISBN 978-4-7628-2945-1			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SP305U 社会心理学A			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学は、人間の社会的行動を状況との関わりの中で理解しようとする学問である。社会心理学Aでは、対人関係、家族を含めた集団、文化などのトピックを中心に取り上げる。それぞれのトピックの学習を通じて、人間がいかに社会的な存在であるのかを理解することをめざしていく。</p>				<p>対人関係、集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解できる。 人の態度及び行動との関わりを理解できる。 家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。 日常生活での社会問題に対して、社会心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会心理学とは何か：社会心理学の考え方、研究アプローチとは何かを学ぶ						
2	感情：感情がどのように生まれて、行動や判断に影響をするのかを学ぶ						
3	援助行動・ソーシャルサポート：なぜ人を助けるのか、人を支えることのはたらきとは何かを学ぶ						
4	集団：身内びいきや差別をする心についてを学ぶ						
5	対人関係：親密な関係はどのようにつくられるのかを学ぶ						
6	自己：自分についてどのように評価するか、自分の気持ち・欲求をどうコントロールするかを学ぶ						
7	社会的影響：他人の意見や考えからどのようにして影響を受けるのかを学ぶ						
8	態度・説得：人はどのように説得をされて態度を変えるのだろうか						
9	中間テスト						
10	原因帰属・社会的推論：物事の原因についてどのように考えるか、人の思考にはどのような特徴があるのかを学ぶ						
11	ステレオタイプ：集団に対してどうとらえるのか、偏見や差別をもつ心を学ぶ						
12	集団における心理：集団への同調がどのように生じるのかについて解説を行うを学ぶ						
13	公平・公正：人は公正・不公正をどう判断し、どのように反応するのかを学ぶ						
14	文化と心：文化と心はどのように関係しあっているのかを学ぶ						
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	講義内容の理解度			講義への参加度	10	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度
発表	20	発表内容の完成度			中間テスト	20	講義内容の理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				<p>講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	社会心理学Aの対象となるのは比較的なじみやすいトピックである。講義内容を深く理解するには、自分自身の経験や日常生活での様々な問題に主体的に適用していく姿勢が求められる。			教科書・テキスト	『社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る（いちばんはじめに読む心理学の本）』遠藤由美（編者）ミネルヴァ書房 2009年 ISBN:978-4623053391		
指定図書/参考書等	なし / 『よくわかる社会心理学』山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP310U 社会心理学B			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学Bにおいては、社会心理学の中の応用的な領域である産業心理学、組織心理学に関するトピックをとりあげる。インターンシップ、就職活動、キャリア形成、職場の対人関係、転職、定年退職など産業心理学や組織心理学に関連するさまざまな問題に対して自分なりに考えることができるようになってほしい。				職場における問題、キャリア形成に関する問題を心理学の立場から理解できる。職場における問題やキャリア形成に対して必要な心理的支援について理解できる。組織における人の行動を心理学的に理解できる。			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	社会心理学Aの履修済が望ましい(単位未修得可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション・組織、集団とは：組織、集団、集合など基本的な概念について学ぶ						
2	リーダーシップ：良いリーダーとはどんなリーダーだろうか？リーダーシップ理論、リーダーとフォロワーの関係について学ぶ						
3	集団心理：集団になると一人の時とはどのように行動が異なるのだろうか？						
4	モチベーションとリーダーシップ：組織の中ではどのようにやる気が作られるだろうか？						
5	モチベーションの形成：職場におけるモチベーションをいかにつくるかを学ぶ						
6	説得の心理：説得をうまくおこなうにはどうすればよいだろうか？						
7	消費者の心理：消費者はどのようにして行動を決めたり、変えたりするのだろうか？						
8	小テスト1と前半の内容の振り返り						
9	印象形成：人の印象はどのようにつくられるか						
10	援助行動と攻撃行動：人をたすける心、傷つける心について考える						
11	キャリア形成：自分の適性を考える、キャリア形成、キャリア教育などを学ぶ						
12	ストレスと心の不調：ストレスが発生するまでのしくみとさまざまな心の疾患について知る						
13	ストレスとストレスマネジメント：職場、職業に関するストレスとストレス対処の仕方を学ぶ						
14	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表を行い、相互評価する。						
15	小テスト2と後半の内容の振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
中間試験	40	講義内容の理解度			発表	40	発表内容の完成度
講義へ参加度	20	講義内での取り組みや課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]				授業内の課題については、次回の冒頭にフィードバックと解説を行う。			
受講生に望むこと	社会心理学Bの内容は職場での心理、組織における人間の行動、キャリア形成など実際の内容となっている。職場で起こる問題だけではなく、学生自身のキャリアについても考える機会としてほしい。			教科書・テキスト	『入門！産業社会心理学』 杉山 崇(編著)北樹出版 2015年 ISBN: 978-4779304552		
指定図書/参考書等	なし / 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 『よくわかる産業・組織心理学』 山口裕幸他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4871-7			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP315U 認知心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・司書			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義は、心理学の中でも認知心理学という分野に焦点を当てて、基本的な内容について学ぶことをねらいとしている。認知心理学は、わたしたちが自分や環境に関する情報をどのように処理しているのかを探る心理学の一分野である。心理学概論Aや心理学概論Bにくらべると発展的な内容も含めて授業を進める予定である。認知心理学が日常生活でのさまざまな問題と関わりを持っていることを学んでほしい。</p>			<p>認知心理学がどのような学問領域であるのかを理解している。感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解している。記憶、思考、問題解決、意思決定といった認知心理学における重要な概念やその障害について理解している。日常生活で直面する問題に対して、認知心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	認知心理学とは：認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指した学問分野であるかを学ぶ					
2	知覚のはたらき：感覚と知覚の特徴とはたらきについて基本的な事項を学ぶ					
3	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ					
4	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完、周波数分析などについて学ぶ					
5	知覚における障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ					
6	顔の知覚：私たちがどのように人の顔を知覚し、識別し、記憶しているのかを学ぶ					
7	記憶：人の記憶の特徴と種類について、短期記憶と長期記憶の働きなどを学ぶ					
8	小テスト1					
9	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ					
10	概念：概念とは何か、概念が形成されるまでのプロセスを学ぶ					
11	言語：会話のなりたちや、会話の理解、文章の読み書きに関わるプロセスなどを学ぶ					
12	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ					
13	日常認知：目撃証言や偽りの記憶など日常生活における認知の問題を学ぶ					
14	小テスト2					
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	50	講義内容の理解度		講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度
発表	30	発表内容の完成度				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>			<p>講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	認知心理学は私たちの心の仕組みのコアな部分を対象とする研究領域である。普段の生活ではあまり意識しない部分のトピックが多いといえる。認知心理学で扱っているトピックが普段の生活での体験とどのように繋がりを持っているのかを考えながら授業に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	『認知心理学 心のメカニズムを解き明かす (いちばんはじめに読む心理学の本)』仲真紀子(編著) ミネルヴァ書房 2010年 ISBN:978-4623056835		
指定図書/参考書等	なし / 『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP320U 感情心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊・勝谷 紀子 (代表教員 齊藤 英俊)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰もが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかにとらえられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。</p>			<p>感情を心理学的にとらえるための理論を理解できる。 幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 感情がどのように発達するのかを理解できる。 感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。</p>			
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	感情とはどのように捉えられるか 必要・不必要の関連を含め感情についての考えを紹介する。					勝谷
2	感情と進化 進化という観点から感情がどのように理解されるかを解説する。					勝谷
3	感情の理論 心理学において提案された感情についての理論を概観する。					勝谷
4	感情の理論 心理学において提案された感情についての理論を概観する(続き)。					勝谷
5	情動知能の視点 情動知能という概念及び研究の紹介を行う。					勝谷
6	認知と感情の関わり 心の仕組みとして認知と感情は別個のものではないということを解説する。					勝谷
7	幸福感とその関連要因について 幸福感という観点から様々な研究が行われており、それらを紹介する。					勝谷
8	他者との関わりにおける感情の理解: 対人不安・孤独感がどのように理解されているか解説する。					勝谷
9	感情の生物学的基盤 感情が生じる神経生理学的な機序について紹介する。					齊藤
10	感情の発達 感情について発達の観点から考える。					齊藤
11	精神疾患に関連する感情 不安: 不安障害といった不安感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
12	精神疾患に関連する感情 抑うつ: 気分障害といった抑うつ感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
13	精神疾患に関連する感情 恐怖: PTSDなどでみられる恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
14	感情の病理への心理的アプローチ 精神分析的な心理療法: 精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。					齊藤
15	感情の病理への心理的アプローチ 認知行動療法, エモーション・フォーカスト・セラピーの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。		講義への参加度	30	講義中への参加度と振り返りの内容から評価を行う。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。[45分] 講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品(小説, 映画, 漫画など)にあてはめて具体的に理解する。[30分]				各回での振り返り・リアクションシートの内容について、次回の冒頭にフィードバックを行う。		
受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするところには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみ視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SP325U 心理療法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず、「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。</p>				<p>様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライアントやクライアントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション/心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。						
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。						
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。						
4	精神分析的な心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移/逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。						
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。						
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。						
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。						
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。						
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。						
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。						
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。						
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。						
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。						
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。						
15	まとめ/心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対して包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。			振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]</p>				<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社、2005年、ISBN-13：978-4422113265			その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。		

授業科目名	SP330U 心理面接技法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメントについて学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。			心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメントを説明できること。心理面接に必要な技術を修得すること。				
教授方法	演習、講義。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割					松下・齊藤	
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）					松下・齊藤	
3	心理面接の開始（初回面接、受面接）と終了（終結、中断など）					松下・齊藤	
4	多職種連携および地域連携					松下・齊藤	
5	基本的な傾聴スキル					松下・齊藤	
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）					松下・齊藤	
7	精神分析的な心理療法における心理面接					松下・齊藤	
8	精神分析的な心理療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
9	クライエント中心療法の心理面接					松下・齊藤	
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接					松下・齊藤	
11	行動療法の心理面接					松下・齊藤	
12	認知行動療法における心理面接					松下・齊藤	
13	認知行動療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
14	その他の心理療法（家族療法、ブリーフセラピーなど）の心理面接					松下・齊藤	
15	まとめ：心理面接の効果と課題					松下・齊藤	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。		講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]				小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。			
受講生に望むこと	公認心理師資格に関連する他の講義を履修していること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。 他の受講者と協調すること。			教科書・テキスト	講義開始時に公認心理師資格に対応したテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		

授業科目名	SP335U 発達臨床心理学			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児/者に対する理解を深める。また、障害児/者が社会の中でよりよく生きることが支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。				1. 身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児/者への理解を深める。 2. 障害児/者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。			
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション/障害とは?:国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。						
2	障害と心理学:障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。						
3	身体障害:視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。						
4	知的障害:知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。						
5	精神障害:不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病的障害など主要な精神障害について理解する。						
6	行動・情緒障害:発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。						
7	発達障害(1):自閉症スペクトラム障害:発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。						
8	発達障害(2)注意欠如・多動性障害、局限性学習障害:注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。						
9	障害児の支援(1):応用行動分析:応用行動分析の概念および基本的な考え方と障害児への支援について理解する。						
10	障害児の支援(2):ペアレントトレーニング:応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。						
11	障害受容のプロセス/障害の理解:障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。						
12	保健・医療における課題と支援:認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。						
13	福祉・教育における課題と支援:障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。						
14	保護者や家族の理解と支援:障害児/者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。						
15	コミュニティ支援/障害児・者支援のこれから:障害児/者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。			振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]				振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『障害者心理学』太田信夫(監修)北大路書房,2017年,ISBN-13:978-4762829840			その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。		

授業科目名	SW300U 相談援助の理論と方法			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会福祉士がソーシャルワーカーとして、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアントシステムとして捉え、どのような対象者であろうと一つのソーシャルワーク過程で対応できるように、理論と方法を学ぶ。また、ケースマネジメントやネットワーク等についても、社会福祉士が実施する業務の必要性に対応して、理論と方法を学ぶ。相談援助実習および国家試験を意識した専門的内容を展開する。</p>				<p>「社会福祉における相談援助とは何か」、その本質と相談援助の意義を理解する。ケースマネジメント及びソーシャルワークの関係について理解する。グループワークの意義、グループを活用した相談援助の展開について理解する。連携や協働の考え方をケースマネジメントの中核的技術であるコーディネーションとして学ぶ。社会資源の種類とその活用について学び、クライアントのニーズ充足との関係を理解する。ソーシャルワーカーがクライアント個人に働きかける、環境に働きかける、個人と環境の調整を図ることを通じてクライアントを支援する方法について学ぶ。ソーシャルワーカーの支援環境を整えるためのスーパービジョンやコンサルテーションについて学ぶ。ケースカンファレンスや相談援助における個人情報保護について理解する。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	相談援助の理論と方法、の単位を修得済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	相談援助活動の概念と定義および対象をどうとらえるかについて理解する。						
2	システム理論による全体的、包括的な対象理解について学ぶ。システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、個人、家族をどうとらえるかについて理解する。						
3	システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、集団、地域をどうとらえるかについて理解する。新たなソーシャルワークの展開と社会福祉士認定制度について理解する。						
4	ケースマネジメントの目的、構成要素、過程について理解する。						
5	アセスメントについて理解する。また、パートナーシップやストレングスの視点の必要性を理解する。						
6	ケアプランの作成および実施について理解する。またケースマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。						
7	グループを活用した相談援助について理解する。						
8	自助グループを活用した相談援助について理解する。						
9	コーディネーションの目的と意義、コーディネーションの方法・技術・留意点等について理解する。						
10	ネットワークの意義と目的、方法について学習する。ネットワークの形成とシステム化について理解する。						
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発について理解する。						
12	スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法等について理解する。						
13	ケースカンファレンスの意義・目的・運営と展開過程等について理解する。						
14	相談援助における個人情報の保護について理解する。						
15	相談援助における情報通信技術(ICT)の活用について理解する。まとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加状況	20	・ワークシート等の提出物(講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等)。 ・授業への積極的な取り組み。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。</p>				<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢(疑問をもつ、考える、発言する等)で臨んで欲しい。			教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法 第3版』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN:978-4-8058-5104-3		
指定図書/参考書等	なし/『相談援助の基盤と専門職 第3版』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN:978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法 第3版』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN:978-4-8058-5103-6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW305U 相談援助の理論と方法		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>ソーシャルワークは、クライアントが抱える生活課題を解決し、社会的機能の改善・維持・向上を具体的目標に、利用者の「最善の利益」を確保する展開過程である。そのため、クライアントが抱えている生活課題を正確に把握・理解していくためにさまざまな実践モデル・アプローチについて学習し、現場実践の中で活用できるようにする。実践モデル・アプローチについては、その基盤となる理論、適用対象・課題、支援展開などを学習し、ソーシャルワーカーとしてより高いレベルの知識・技術・価値、そして実践力を身につける。また、相談援助に係る事例分析の方法や相談援助の実際等について理解する。</p> <p>相談援助実習および国家試験を意識した専門の内容を展開する。</p>			<p>医療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて理解する。ジェネラリスト・ソーシャルワークについて理解する。「実践モデル」と「アプローチ」をそれぞれ「課題認識への範型」と「課題解決への方法」として峻別する。「心理社会的」、「機能的」、「問題解決」、「課題中心」、「危機介入」、「行動変容」の6つのアプローチについて、起源と基盤理論、支援焦点、支援展開などを理解する。「エンパワメント」、「ナラティブ」、「フェミニスト」、「解決志向」の「新興アプローチ」について理解する。アプローチをめぐる課題について理解する。事例分析の方法等について理解する。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	相談援助の理論と方法、の単位を修得済みの者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	さまざま実践モデルとアプローチ：実践モデルとその意味を理解する。					
2	さまざま実践モデルとアプローチ：治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて学習する。					
3	さまざま実践モデルとアプローチ：ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデルについて理解する。					
4	さまざま実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチについて理解する。					
5	さまざま実践モデルとアプローチ：機能的アプローチについて理解する。					
6	さまざま実践モデルとアプローチ：問題解決アプローチについて理解する。					
7	さまざま実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチについて理解する。					
8	さまざま実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチについて理解する。					
9	さまざま実践モデルとアプローチ：行動変容アプローチについて理解する。					
10	さまざま実践モデルとアプローチ：事例考察によるアプローチ理解。					
11	さまざま実践モデルとアプローチ：エンパワメントアプローチについて理解する。					
12	さまざま実践モデルとアプローチ：ナラティブアプローチについて学習する。					
13	さまざま実践モデルとアプローチ：実存主義アプローチとフェミニストアプローチについて理解する。					
14	さまざま実践モデルとアプローチ：解決志向アプローチについて理解する。アプローチをめぐる課題について理解する。					
15	事例研究・事例分析の意義・目的・方法等について理解する。相談援助の実際（権利擁護活動を含む）を理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	・毎回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加状況	20	・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。 ・授業への積極的な取り組み。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。</p>			<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の冒頭に解説等を行う。</p>			
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。		教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5104-3		
指定図書/参考書等	なし/『相談援助の基盤と専門職』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版（株）2015年 ISBN978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN978-4-8058-5104-3		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW325U 保健医療サービス		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	石原 俊彦					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
保健医療サービスを構成する要素を理解し、医療法改正における保健医療サービスの今日的課題、保健医療チームを支える社会福祉士、精神保健福祉士その他の職種等の機能と役割を理解する。併せて保健医療サービスを提供する保健医療政策による医療施設、診療報酬による医療施設の機能・類型・システムを学ぶ。また、保健医療サービスを提供する医療保険制度と診療報酬制度の概要を学び、高齢者が増加する現在における介護保険と介護保険制度の概要についても理解する。			保健医療のサービスの变化と提供する施設とそのシステム及び社会福祉専門職(社会福祉士、精神保健福祉士)の役割について理解する。医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度の概要について理解する。保健医療サービスにおける専門職の連携と実践地域の社会資源との連携及び実践について理解する。			
教授方法	講義とグループによるディスカッション。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	保健医療のサービスの变化：保健医療サービスの構成要素、保健医療サービスの整備・拡充、住民及び患者視点の尊重					
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題、医療連携チームと社会福祉士と精神保健福祉士の役割					
3	医療法による医療施設の機能・類型、保健医療政策による医療施設の機能・類型					
4	診療報酬における医療施設の機能、介護保険における施設の機能・類型					
5	在宅支援のシステム：医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必要性					
6	医療ソーシャルワーカーの業務内容、経済的問題への支援、退院援助・社会復帰援助					
7	通院援助、組織における地域の窓口、保健医療サービスの専門職の概観、基本的姿勢					
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割：チームアプローチの実際					
9	医療保険制度と診療報酬制度の概要：保険料の負担と給付、診療報酬における在宅医療・終末期医療					
10	介護保険制度と介護報酬及び公的扶助の概要					
11	保健医療の専門職との連携方法：保健医療チームとの連携、多職種チームとの連携					
12	チームケア実現のための制度や連携機関：チームケアの基本となる制度、行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター等との連携					
13	社会福祉協議会、職能団体、ボランティア、地域産業、学校と教職員					
14	保健医療の専門職との連携の実際：チームケアの類型、疾病・障害別のチームケア、クリティカルパスの実践と活用					
15	地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法：地域連携とネットワークとその原則					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	福祉の専門職を目指す者として、保健医療サービスについてどの程度、理解し自分なりの関心、知識を深めているかを把握する。		課題レポート	20	自分が住んでいる地域の中でどのような介護サービスがあるか。どのような介護施設があるかまとめる。
授業の取り組み態度、出席状況	30	授業の態度及びグループディスカッションへの取り組み姿勢				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前学習では、誰にも自分及び家族が医療機関(病院・診療所)を受診した経験があると思うが、その時抱いた疑問や問題点、不快に思った事等をまとめておくこと。[30分]、各自が体験した内容をもとにグループディスカッションを行い、問題箇所を探し出し、その関連する要因及び対策について検討する。できたら患者の権利についても考える。[30分] 終了後は、保健医療サービスに対する住民の意識、医療体制のサービス提供上の課題について各自まとめる。(マスコミ等の意見を参考にしても良い) 更にグループで について質疑応答し深める。例えば社会環境要因からの生活習慣病の予防を促すために住民の意識を高め、保健医療サービスの提供、健康診断・教育はどうあるべきかを考察する。			講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容を復習して講義を始める。社会福祉士の国家試験に対応できるよう過去の問題等を講義の中で説明する。			
受講生に望むこと	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験の共通受験科目であるので、しっかり取り組んで欲しい。医療保険制度、診療報酬については日ごろから受診や健康診断で医療機関を利用しているにも関わらず関心が薄いので関心を持つようにすること。苦手意識が強い学生が多いので、家族の受診時や祖父母の介護保険利用時等に支援を通してこの科目の学習を深めて欲しい。			教科書・テキスト	『保健医療サービス』第5版、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規、2017年、ISBN：978-4-8058-5432-7	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SW335U 相談援助演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会福祉の援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した中で考察を深め、ソーシャルワークの専門技術、および視点について学ぶ。個別性・共通性の理解とともに、具体的な社会福祉援助技術の精度を高め、正しい利用者理解と援助に資するための感性を磨き、相談援助専門職として必要かつ適切な能力を習得する。社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>				<p>1. 毎回の演習を通して、相談援助の基礎的視点、技術を習得する。 2. 各事例における個別性と価値倫理について理解する。 3. ソーシャルワークの展開過程を事例を通して理解する。 4. 総合的かつ包括的な相談援助体制と機能を理解する。 5. 支援ネットワークについて理解する。</p>			
教授方法	講義・演習						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」の単位修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れを把握し、相談援助の展開過程について理解する。						
2	専門職としての価値・倫理：援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。						
3	相談援助実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について学ぶ。						
4	ソーシャルワーク実践における援助者の基本姿勢、専門的援助関係、受容的態度について理解する。						
5	基礎的技能：受容、個別化、利用者主体、かかわり技法、観察技法など対人コミュニケーションについて理解する。						
6	基礎的技能：面接ロールプレイを通じて、面接の環境づくり、話しを促すスキル、要約・繰り返しのスキルを学ぶ。						
7	基礎的技能：記録技法と情報整理法について学ぶ。エコマップ、ジェノグラム、ケース記録について実践的に学ぶ。						
8	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（児童に関する事例）。						
9	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（高齢者に関する事例）。						
10	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（障害児者に関する事例）。						
11	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（家庭内に関する事例）。						
12	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会生活に関する事例）。						
13	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会的・ソーシャルインクルージョンに関する事例）。						
14	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（その他援助事例）。						
15	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（まとめと報告）。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	授業・演習への参加状況、受講態度、小テスト、提出物等			確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（確認テスト含む）
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>1. 毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上] 2. 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3. 福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</p>				<p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。</p>			
受講生に望むこと	<p>1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。</p>			教科書・テキスト	必要な資料を講義毎に配布する。		
指定図書/参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明する。		

授業科目名	SW340U 相談援助演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会福祉の相談援助に関して、関連科目、および相談援助実習との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる知識、技術について実践的に習得することを旨とする。具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を養う。社会福祉士実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーカーとして必要な連携の基本的な知識、視点、態度を習得する。 2. 多職種連携の前提として、ソーシャルワーカーの視点、立場、役割の特徴を理解し、相談援助演習に用いることができるようにする。 3. 連携体制の構築、協働における対立や葛藤、それらへの対処法を学ぶとともに、相談援助演習に用いることができるようにする。 4. 社会資源の活用、地域生活支援の重要性と課題を理解し、活用できるようにする。 			
教授方法	講義・演習						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」の単位修得済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ソーシャルワーク実践の展開：援助展開過程とソーシャルワークの対象、焦点について理解する。						
2	地域福祉推進のための援助技術：個別支援から地域支援へと支援範囲拡張、様々なニーズと社会資源について理解する。						
3	地域福祉推進のための援助技術：地域ニーズ把握のためのアセスメント、エンパワメントを志向したプランニングについて理解する。						
4	地域福祉推進のための援助技術：活動・プログラムの実施、多職種連携等を体験的に学ぶ。						
5	地域福祉推進のための援助技術：地域福祉の評価・計画・進捗管理、地域住民や社会福祉専門職の役割を理解する。						
6	地域福祉推進のための援助技術：ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解する。						
7	地域福祉推進のための援助技術：地域での生活支援と地域の福祉力の醸成のための支援について理解する。						
8	地域福祉推進のためにソーシャルワーカー、機関等が果たすべき機能と役割について整理する。						
9	スーパービジョン：スーパービジョンの基本的な意義、機能について理解する。						
10	スーパービジョン：スーパービジョンと専門職としての継続的な成長の必要性について理解する。						
11	利用者を理解するためのニーズ把握、アセスメントについて理解を深める。						
12	人と環境の接点・相互作用、マイクロ、メゾ、マクロ、個人、家族、組織、地域、社会について理解を深める。						
13	社会福祉士の専門性と社会福祉援助、および他の専門職について理解を深める。						
14	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤：自己決定、エンパワメント、人間の尊厳、倫理について理解を深める。						
15	相談援助演習まとめ：相談援助にかかる専門職の意義と役割を考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	授業、演習への参加状況、小テスト、提出物等			確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（確認テスト含む）
授業外における学習（事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上] 2. 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3. 福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。 				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。			
受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 			教科書・テキスト	必要な資料を講義毎に配布する。		
指定図書/参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明する。		

授業科目名	SW350U 相談援助実習指導		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
相談援助実習と相談援助実習指導の意義について学ぶ。実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に学び実践的な技術等を体得する。			相談援助実習と相談援助実習指導の意義について理解できる。実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。			
教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブック、ワークシート等を用いた演習、DVDの視聴を行う。					
履修条件	相談援助演習の単位を修得済の者。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導並びに集団指導の意義					
2	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：分野）					
3	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：施設）					
4	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）					
5	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解					
6	現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）					
7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解					
8	実習目的と実習課題について（個人票）					
9	実習目的と実習課題について（実習計画）					
10	実習先における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）					
11	実習生に求められる姿勢					
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）					
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）					
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成					
15	巡回指導					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況		提出物	50	・ワークシート等の提出物の内容等
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] 授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上] 福祉現場におけるボランティアや自主的な見学等を経験しておくことが望ましい。			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SS300U 精神保健学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。</p> <p>2. 現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割について理解する。</p> <p>3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。</p> <p>4. 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p> <p>5. 社会福祉士国家試験受験、およびスクールソーシャルワーカー資格を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<p>1. 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. 現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割について理解し、説明できるようにする。</p> <p>3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解し、説明できるようにする。</p> <p>4. 精神保健の視点からみた学校教育の課題を理解し、説明できるようにする。</p> <p>5. スクールソーシャルワーカー資格に必要な基礎知識を修得する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」の単位修得済の者で、「スクールソーシャルワーク論」を並行履修の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要(1) オリエンテーション、精神保健の概要						
2	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要(2) 精神保健の歴史、精神保健の課題						
3	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要(3) 社会構造の変化と新しい健康観、ライフサイクルと精神の健康						
4	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要(4) ストレスと精神の健康、生活習慣と精神の健康、身体疾患に由来する障害						
5	精神の健康への関与と支援(1) 精神の健康に関する心的態度、精神保健に関する予防の概念と対象						
6	精神の健康への関与と支援(2) 精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割、および連携、専門職種						
7	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ(1) 現代日本の家族の特徴、結婚生活と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健						
8	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ(2) 病気療養と介護をめぐる精神保健、高齢者の精神保健、家庭内の問題を相談する機関						
9	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ(1) 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴、教職員の精神保健						
10	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ(2) 関与する専門職と関係法規、学校における専門職の役割						
11	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ(1) 現代日本の労働環境、うつ病と過労自殺、飲酒やギャンブルなど依存に関する問題						
12	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ(2) 心身症と生活習慣病、職場内の問題を解決するための機関および関係法規						
13	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ(1) 災害被災者、犯罪被害者、ニート・若年無業者、ホームレスおよび貧困問題と精神保健						
14	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ(2) 性別違和、多文化、緩和ケアと精神保健						
15	精神保健に関する諸活動、資源開発、ネットワークづくり、人材育成、諸外国の精神保健活動の現状および対策、WHOなどの国際機関の活動						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、小テスト・提出物等		確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解(確認テスト含む)	
授業外における学習(事前・事後学習等)							
<p>1. 毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上]</p> <p>2. 社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。</p> <p>3. 社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</p>				<p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説します。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応します。</p>			
受講生に望むこと	<p>1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。</p> <p>2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。</p> <p>3. 現代社会では精神保健のニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようして下さい。</p>			教科書・テキスト	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援 第3版』中央法規、2012。 ISBN:978-4-8058-5595-9</p>		
指定図書/参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	とくになし。		

授業科目名	SS305U スクールソーシャルワーク論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹澤 賢樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要				授業の到達目標			
講義を中心に、教育現場での子どもの現状について理解し、子どもを取り巻く環境との関係性の捉え方について学ぶ。またスクールソーシャルワークの発展過程を学ぶとともに現代におけるスクールソーシャルワーカーの役割について理解する。さまざまな子どもが抱える問題について、グループディスカッションを通して理解を深める。				スクールソーシャルワーク導入の背景とスクールソーシャルワーカーの役割について理解できる。 日本および海外のスクールソーシャルワークの発展過程について理解できる。 教育現場でのスクールソーシャルワーカーの実践について理解できる。			
教授方法	テキストを中心に講義形式で行う。必要に応じてグループディスカッションを行い、他学生と学びあう。						
履修条件							
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：さまざまな子どもが直面する問題を紹介しながらスクールソーシャルワーカーが必要になった背景について説明をする。過去一年に起こった子どもが関係する事件の新聞記事を見つけて読んでくること。						
2	海外のスクールソーシャルワークの変遷：アメリカで始まったとされるスクールソーシャルワークがどのように発展してきたのかについて解説を行う。						
3	日本のスクールソーシャルワークの変遷：日本の教育制度のなかで、子どもの福祉的課題に対応してきた訪問教師や福祉教諭からスクールソーシャルワーク導入までの展開を解説。						
4	スクールソーシャルワークの目的と子どもの権利：子ども権利条約や児童福祉法に規定されている子どもの権利を理解したうえで、その権利保障を重視したSSWの目的について説明する。子どもの権利条約を読んでおくこと。						
5	学校教育の特徴と学校文化：校務分掌による学校組織と教員意識の特徴等について学ぶ。						
6	教育関係の法律とスクールソーシャルワーク：教育基本法、学校教育法、いじめ防止対策推進法など教育関係の法律について概説を行う。またそれらの法律とSSWとの関係について理解する。						
7	教育行政の仕組みと学校：教育委員会の組織及び教育委員会と学校との関係について学ぶ。						
8	福祉関係の法律とスクールソーシャルワーク：児童福祉法、生活保護法、母子及び父子並びに寡婦福祉法など、子どもの支援に大きくかわかる法律について理解する。						
9	スクールソーシャルワーカーが関わる機関：児童相談所や福祉事務所などの関係機関を理解し、それらの機関および専門職との連携について理解する。テキスト指定箇所を熟読し、授業に臨むこと。						
10	スクールソーシャルワークの展開過程：ケース会議、情報収集、支援計画作成といった、スクールソーシャルワークの展開過程について学ぶ。						
11	貧困とスクールソーシャルワーク：「子どもの貧困」の現状や背景、貧困が子どもにおよぼす影響を理解し、家庭を含めた支援方法について学ぶ。						
12	不登校とスクールソーシャルワーク：不登校児童生徒の現状と不登校児童生徒に対する支援について学ぶ。また不登校の要因についてディスカッションを行い、理解を深める。						
13	いじめ問題とスクールソーシャルワーク：いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義を理解し、いじめが発生している状況に対応する方法について学ぶ。						
14	児童虐待とスクールソーシャルワーク：児童虐待防止法における児童虐待の定義および学校や教職員の立場を正確に理解し、被虐待児童やその家族との関わり方、また関係機関との連携のあり方について学ぶ。						
15	スクールソーシャルワークの課題と展望：実践現場における課題やSSWの養成における課題、そして今後の展開について概説する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	15コマの授業の内容についての理解度を問う。			授業参加状況	40	レスポンスシートの記述を含め、授業への取り組み姿勢を評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
テキストの該当箇所を熟読し、授業に臨むこと。[60分] 授業後に内容を復習し、関連項目を自分で調べまとめる。[60分] 子どもに関係する事件等の新聞記事やニュースについてまとめる。[30分]				提出されたレスポンスシートについては、コメントを記述し返却する。			
受講生に望むこと	この科目においては、常に“人権”を意識してほしい。支援対象となる子どもの権利だけでなく、授業中も自分の権利や他者の権利を考えながら授業に臨んでほしいと思います。			教科書・テキスト	『よくわかるスクールソーシャルワーク第2版』山野則子他編著、ミネルヴァ書房、2016年、ISBN:978-4-623-07834-9		
指定図書/参考書等	なし/授業で紹介			その他・特記事項	スクールソーシャルワーカーを目指す学生のみならず、小学校・中学校の教員を目指す学生に、スクールソーシャルワーカーとの連携について学ぶために受講してほしい。		

授業科目名	SB300U 児童サービス論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
乳幼児期から読書に親しむことの大切さが広く知られるようになったが、公立図書館でどのような児童サービスが行われているかを通して、子どもを知り、本を知り、子どもと本を結びつける技術を知るという児童図書館員の仕事の魅力を伝える。また児童サービスの必要性和重要性について考える。				児童サービスの意義と目的をよく理解し、そのために必要な知識と技術を習得する。 児童サービスの目的達成のために土台となる本についての知識を習得する 児童サービスについて関係機関との協力・連携について理解する。			
教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成、実践など						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス論」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	児童図書館の目的を理解する。						
2	児童図書館の歴史について知る。						
3	児童室をつくる : 資料の収集と蔵書構成						
4	児童室をつくる : 資料の組織化(分類と目録)						
5	児童室をつくる : 施設と設備・備品						
6	児童室をつくる : 配架と展示(YAサービスを含む)						
7	児童室をつくる : 児童図書館の運営、学校等との連携、乳幼児サービス						
8	本を選ぶ : 絵本について学ぶ						
9	本を選ぶ : 物語、選ぶ目を養う						
10	子どもを知る						
11	子どもと本を結ぶ : 子どもへのレファレンス・サービス						
12	子どもと本を結ぶ : 読み聞かせ						
13	子どもと本を結ぶ : ストーリーテリング						
14	子どもと本を結ぶ : ブック・トーク						
15	まとめ・児童図書館員の役割						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢等			実践・レポート作成ほか提出物	40	課題内容についてポイントを押さえるの確に考えがまとめられているか。
単位認定試験	40	筆記試験					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 身近な図書館を見学、児童室を見る。月1回くらいは利用する機会をつくる。[30分] 指定図書、参考書、また講義中に紹介する本は、できるだけ読む。[40分] まえてテキストに目をおしておく。[30分] 				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	子どものころに読んだ本、読んでもらった本等、子どものころの記憶をできるだけ思い出してみる。身近な子どもを観察する。			教科書・テキスト	『子どもと本の世界に生きてー児童図書館員のあゆんだ道』E.コルウェル著 石井桃子訳 こくま社 2018年 ISBN: 4-7721-9017-6		
指定図書/参考書等	『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年(岩波新書) ISBN: 978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中央公論新社 1980年(中公新書) ISBN: 978-4121005632、『児童文学論』リアン・H・スミス著 岩波書店 2016年(岩波現代文庫) ISBN: 978-4-00-602282-2, 『児童図書館サービス1・2』日本図書館協会 2011年 ISBN: 978-4-8204-1106-2, JLA図書館実践シリーズ18・19 『新編子どもの図書館』石井桃子著 岩波現代文庫 ISBN: 978-4006022549			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて学修し、理解を深める。今後の図書館運営に携わるときに必要な専門知識を学び、図書館の意義や社会的役割の重要性について理解する。				図書館経営の使命と目的を理解し、図書館運営に必要な知識を習得する。図書館の制度や経営に不可欠な基本的な要件について理解する。急速な社会変化の中で、新しい図書館経営の在り方を考えることができる。			
教授方法	講義、DVD視聴、レポートなど						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス概論」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館をめぐる法体系について						
2	図書館法について考える(1): 図書館法の目的、定義等						
3	図書館法について考える(2): 公立図書館の規定、および私立図書館の規定について						
4	地方自治体の図書館関連条例について						
5	各種図書館と公共図書館の連携、各種図書館の法律について						
6	図書館サービスに関わる法律について						
7	国や地方自治体の図書館政策について						
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営						
9	図書館の組織・職員(1): 図書館内の組織						
10	図書館の組織・職員(2): 図書館外の組織						
11	図書館の施設・設備: 建築の在り方等						
12	図書館のサービス計画と予算の確保						
13	図書館業務/サービスの調査と評価						
14	図書館の管理形態の多様化						
15	公立図書館の課題と展望						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢、発言等			レポートほか提出物	30	課題内容についてポイントを押さえる確に考えがまとめられているか。
単位認定試験	50	筆記試験					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 国内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等についての利用・見学を2~3回(後期授業期間中)は行う。[90分] 前もってテキストの章に目を通しておく。[40分] 				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く図書館関係の雑誌や新聞等の記事に関心を持つ。また図書館情報学関係のウェブサイトアクセスして、情報の閲覧、理解に努める。 			教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第2版』手島孝典/編著 学文社 2017年(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5) ISBN978-4-7620-2701-7		
指定図書/参考書等	なし/『未来をつくる図書館: ニューヨークからの報告』菅谷明子著 岩波新書 2003年 ISBN: 978-4004308379 『図書館制度・経営論』糸賀雅児・葉袋秀樹編 樹村房 2015年 ISBN: 978-4863672028, 『図書館情報学基礎資料』今まど子・小山蓮司/編著 樹村房 2016年 ISBN: 978-4863672660 『新図書館法と現代の図書館』塩見昇・山口源治郎/編著 日本図書館協会 2009年 ISBN: 978-4820409151			その他・特記事項			

授業科目名	SB310U 情報サービス演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。情報サービス演習Iでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。				情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得 一般的な情報リテラシー能力の習得と向上 情報の評価能力（情報内容の判断）の習得と向上 情報発信能力（回答の作成・提供）の習得と向上			
教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容						
2	ネットワーク、デジタル情報源の特性、情報検索技術の基礎知識						
3	情報検索システムの基礎知識（データベース構成/論理演算等）						
4	ウェブ情報源の検索（1）サーチエンジンの使い方とブル演算						
5	ウェブ情報源の検索（2）サーチエンジンによるウェブ情報の検索						
6	ウェブ情報源の検索（3）検索結果と情報源の評価						
7	図書情報の検索（1）目録と書誌						
8	図書情報の検索（2）主題とアクセスポイント						
9	図書情報の検索（3）各図書館OPAC、総合目録等						
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、ニュースサイト等						
11	雑誌記事の検索（1）雑誌記事データベース、索引類						
12	雑誌記事の検索（2）引用の活用						
13	雑誌記事の検索（3）主題検索						
14	総合演習（1）レファレンス質問を想定した実践演習 質問の分析と戦略立案						
15	総合演習（2）レファレンス質問を想定した実践演習 検索と回答作成						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。			小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみる。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみる。また、情報検索には幅広い知識がもたれるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜クリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB315U 情報サービス演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。				レファレンスサービスのプロセスを理解する レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める 基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する			
教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	レファレンスサービスの基礎・復習						
2	レファレンスブック評価の仕方						
3	情報源の評価(1) 目録・書誌・索引						
4	情報源の評価(2) 辞書・事典						
5	情報源の評価(3) 便覧・年鑑類						
6	情報源の評価(4) 地名・人名						
7	情報源の評価(5) 各種の専門領域						
8	情報の探索(1) ことばの情報						
9	情報の探索(2) 事柄・事物・現象の情報						
10	情報の探索(3) 人物・団体の情報						
11	情報の探索(4) 地名・地理の情報						
12	情報の探索(5) 歴史・時事の情報						
13	情報の探索(6) 統計の情報						
14	情報の探索(7) 書誌情報						
15	情報の探索 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていないこと。			演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に答えられることができること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際、ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。			
受講生に望むこと	課題が多く与えられますので、図書館情報資源を用いて課題作成に取り組んでください。場合によっては大学図書館だけではなく、公共図書館の蔵書や各種データベースを用いてください。授業では作成した課題を発表する機会がありますので、他の学習者や教員に分かりやすく説明する練習をすることが望ましいです。			教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。				多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。			
教授方法	演習、主にコンピュータを使用する						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。						
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。						
3	コンピュータによる目録記述方法を学ぶ。						
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(基礎的な資料)						
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)						
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)						
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。						
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。						
12	メタデータ記述方法を解説する						
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(Webサイトなど)						
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(データベースなど)						
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業課題に対し真摯に取り組んでいる。 教員の発問に対し意欲的に回答をしている。			授業前準備・復習	10	授業実践のための事前学習を行っている。 授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時添削したものを返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。		

授業科目名	SB325U 情報資源組織演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。				主題分析について、演習を通じて理解する 分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する 分類の規則に於いて、演習を通じて理解を深める			
教授方法	演習						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。						
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。						
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）						
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）						
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
8	演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
9	演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業課題に対し真摯に取り組んでいる。 教員の発問に対し意欲的に回答をしている。			授業前準備・復習	10	授業実践のための事前学習を行っている。 授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『日本十進分類法新訂10版 簡易版』もりきよし原編、日本図書館協会分類委員会改訂 日本図書館協会 2018年 ISBN:9784820418078		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質（生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。				印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 人文科学、社会科学、科学技術、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。			
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館情報資源とは						
2	印刷資料について（1）印刷術の誕生と印刷の歴史						
3	印刷資料について（2）様々な印刷資料						
4	非印刷資料について						
5	灰色文献について						
6	政府刊行物・地域資料について						
7	映像資料・音声資料について						
8	電子資料・ネットワーク情報源について						
9	電子コンテンツと電子出版について						
10	出版と流通について（1）出版とはなにか・出版の意義						
11	出版と流通について（2）出版流通の経路・出版制度						
12	資料の収集と選択について						
13	人文科学分野の情報資源とその特性						
14	社会科学分野の情報資源とその特性						
15	自然科学分野の情報資源とその特性						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）において60%以上の得点を獲得する必要がある。			小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館情報資源概論新訂版』馬場俊明著・日本図書館協会、2012。（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；8）ISBN:9784820418085		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB335U 図書・図書館史			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。				各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。			
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	メディアと図書館の歴史とは						
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア						
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史，印刷の発明						
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類，大量印刷の時代						
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史，近代のマスメディア						
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化，新しいメディアの出現						
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命						
8	図書館史（世界）2：中世の図書館，近世の図書館の歩み						
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立						
10	図書館史（世界）4：近代の図書館						
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館，近代図書館の誕生						
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館，戦争と図書館						
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義						
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策，住民と図書館の関係						
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解ができている必要がある。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチです。歴史的な事柄にも注意を払うようにしてください。			教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著。日本図書館協会，2013。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

社会学科
(4年次)

授業科目名	SK305U 専門ゼミ			開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	依 希實・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・真砂 良則・竹中 祐二・松下 健・若杉 亮平・若山 将実						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「専門ゼミ」で学んだ研究方法を土台に、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究レポートを作成する。具体的には、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導く。この過程をゼミ担当教員の指導の下で行う。レポートを作成するとともに、その成果を成果報告会で報告する。</p>				<p>各自の問題関心を深めてテーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 設定したテーマについて、研究レポートを作成する。 レポート内容について、成果報告会で効果的な報告を行う。 専門分野について自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できるようにする。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	「専門ゼミ」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の目的、流れ、方針と評価方法等について説明する。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	後期オリエンテーション：ゼミごとに今後の方針を確認する。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	専門ゼミ 成果報告会での報告準備。				各担当教員
29	専門ゼミ 成果報告会での報告。				全教員
30	全体のふりかえり。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	30	授業にまじめに取り組んでいるか。 積極的にディスカッションに参加しているか。 成果報告会での態度も含む。	レポート	50	期限内に提出しているか。 指定された字数、書式にしたがっているか。 適切な内容となっているか。
成果報告	20	卒業レポートの内容を効果的に伝えることができているか。 報告態度は適切か。 質疑への応答ができているか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
レポートの作成および成果報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。[120分以上]			成果報告会において行う。		
受講生に望むこと	レポートの作成は、早目に着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書/参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。	

授業科目名	SK310U 卒業研究		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	儀 希貴・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・真砂 良則・竹中 祐二・松下 健・若杉 亮平・若山 将実 (代表教員 儀 希貴)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>大学での学びの集大成として、これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、研究成果報告会で研究成果を報告する。</p>			<p>現代社会が抱える様々な問題に対する関心を高め、テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。					全教員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
16	後期オリエンテーション：ゼミごとに今後の方針を確認する。					各担当教員	
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	卒業研究成果報告会での報告準備				各担当教員
29	卒業研究成果報告会での報告				全教員
30	卒業研究の総括				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	10	研究にまじめに取り組んでいるか。 ディスカッションに積極的に参加しているか。	卒業論文	80	期限内に提出しているか。 指定された字数、書式にしたがっているか。 適切な内容となっているか。
成果報告	10	卒業研究の内容を効果的に伝えることができているか。 報告態度は適切か。 質疑への応答ができているか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
卒業論文の作成および成果報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。[120分以上]			卒業研究成果報告会において行う。		
受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。	
指定図書/参考書等	担当教員の指示にしたがう。		その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。 履修条件についての詳細は、『学生要覧』の「卒業研究履修条件」を参照のこと。	

授業科目名	SW310U 福祉行政と福祉計画			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義では、福祉行政の実施体制及び福祉財政の動向、福祉計画の意義や目的、方法などに関する基礎的事項を分野横断的に理解することを目指す。				福祉行政のしくみについて具体的に説明することができる 福祉行政の内容について具体的に説明することができる 福祉行政の現状や動向について具体的に説明することができる 福祉行政の問題点や課題について具体的に説明することができる 社会福祉計画と福祉行政の関係について説明することができる			
教授方法	講義、グループワーク						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス						
2	福祉の法制度と福祉計画 福祉の法制度の展開と福祉計画の概要について学ぶ						
3	福祉行政 福祉行政の実施体制、組織について学ぶ						
4	国の福祉財政 国の一般会計予算と社会保障関係費の動向について学ぶ						
5	地方の福祉財政 地方自治体の福祉財政と民生費の動向について学ぶ						
6	福祉行政の組織（1） 福祉行政における専門機関と専門職について学ぶ						
7	福祉行政の組織（2） 福祉行政における相談支援体制について学ぶ						
8	福祉計画の意義と目的 福祉計画の意義と目的、住民参加の意義について学ぶ						
9	福祉計画の基本的視点 福祉計画の概念、福祉行政との関係について学ぶ						
10	福祉計画の技法（1） 福祉計画におけるニーズ把握、評価について学ぶ						
11	福祉計画の技法（2） 福祉計画における住民参加について学ぶ						
12	福祉計画の策定過程 問題分析と合意形成の方法について学ぶ						
13	福祉計画の実際（1） 老人福祉計画、介護保険事業計画について学ぶ						
14	福祉計画の実際（2） 障害者計画、障害福祉計画、地域福祉計画について学ぶ						
15	まとめ・総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
講義参加態度	10	講義、グループワークへの積極的参加			小テスト	20	講義の理解度
レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている			期末試験	50	講義内容についての理解度
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
レジュメ、資料等を適宜配布するので、事前に目を通し理解する（30分以上） 適宜小テストを実施するので、前に学んだことを復習し理解する（30分以上） 講義で紹介した書籍・論文等については各自で目を通す（30分以上）				小テストについては講義時間内に実施し、終了後答え合わせ及び解説をする。			
受講生に望むこと	新聞、ニュースに毎日目を通す 講義に関連した書籍・論文を5本以上読む			教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会/新・社会福祉士養成講座第10巻『福祉行政と福祉計画』第5版/中央法規出版,2017. ISBN-13: 978-4805854303		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW315U 福祉サービスの組織と経営			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
福祉サービスを担う組織・団体の多様性を認識しつつ、福祉とは馴染まないと思われがちな経営的な側面について学ぶ。組織論、経営・マネジメント論の一般的な理解に努めつつ、福祉サービス提供者としての特殊性を踏まえた知識と理解の獲得に努める。				福祉サービスに関わる主体を類型化し、そのポイントを的確に文章で説明することができる。福祉サービスに多様な主体が関わることの意義について、ポイントを的確に文章で説明することができる。福祉サービスが制度として提供されるべき社会的な背景について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。福祉サービスが制度として提供されるべき根拠となる諸概念について、短い文章で説明することができる。福祉サービスに限らない、およそ組織・集団を運営・経営する上でのポイントについて、用語や概念を短い文章で説明することができる。福祉サービスを提供する組織・集団が固有に抱える理念・概念上のポイントについて、具体例を交えながら文章で説明することができる。福祉サービスを提供する組織・集団を支える今日の諸制度について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。			
教授方法	講義（一部、映像教材の視聴や個人ワークを採り入れることもある。）						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：「措置から契約へ」という流れを踏まえながら、福祉サービスの組織と経営について学ぶ意義を考える。						
2	福祉サービスの基礎知識：総論的な社会福祉史を踏まえつつ、サービスとしての福祉実践のあり方について理解する。						
3	福祉サービスの基礎知識：福祉レジームや社会市場等の考え方を基に、現代社会における福祉サービスのあり方について学ぶ。						
4	福祉サービスの提供主体：主たる提供主体である社会福祉法人について学ぶ。						
5	福祉サービスの提供主体：社会福祉法人、一般企業、ボランティア団体等との比較を行いつつ、NPO法人について学ぶ。						
6	福祉サービス経営の基礎理論：経営学の理論や技法を基に、福祉サービス経営の概要について学ぶ。						
7	福祉サービス経営の基礎理論：経営戦略の立て方等について学ぶ。						
8	福祉サービスの内部運営：組織論の基礎知識を基に、福祉サービスにおける内部経営の概要について学ぶ。						
9	福祉サービスの内部運営：組織内部のグループダイナミクスについて学ぶ。						
10	福祉サービスの内部運営：組織運営におけるリーダーシップについて学ぶ。						
11	福祉サービスの内部運営：スーパービジョンのあり方等について考えながら、人材育成のあり方について学ぶ。						
12	福祉サービスの品質管理：PDCAサイクルやISO認証制度等の、質保証における基本的な知識について学ぶ。						
13	福祉サービスの品質管理：第三者評価や施設設置基準等の、社会福祉領域において安定した良質のサービス提供を果すための仕組みについて学ぶ。						
14	福祉サービスの品質管理：当事者主体の流れを踏まえながら、苦情解決制度や権利擁護について学ぶ。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、獲得した詳細な知識や理解を基に、初回の講義で提示した枠組みを再考する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。			筆記試験	80	学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業で学習した福祉サービスに関する用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] 各回の授業で学習した福祉サービスに関する用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] 各回の授業で学習した組織経営に関する用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] 各回の授業で学習した組織経営に関する用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、定期的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[30分]				・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこでの質問は次回に全体共有する。			
受講生に望むこと	・福祉の支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書/参考書等	<参考書> ※児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（第5版） 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2017年 ISBN: 978-4803854310 同種のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である。 資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書を合わせて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。		

授業科目名	SW320U 公的扶助論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	堂田 俊樹						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
我が国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容をソーシャルワーク実践を踏まえて理解する。また、近年行われている生活保護制度の改正と制度の目指す方向性を考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考える。				<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。 ・公的扶助制度の歴史を理解する。 ・貧困・低所得者の動向と課題について理解する。 ・生活保護制度とその関連制度の仕組みについて理解する。 ・生活保護の実施と関係専門職の役割について理解する。 ・低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する。 ・コミュニティソーシャルワークと生活保護ケースワークとの関連を理解する。 			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション。本講義の概要と国家試験の内容について説明する。						
2	公的扶助の意義と役割。公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論の渦中にある制度について理解する。						
3	公的扶助の歴史（主にイギリス）。公的扶助制度はどのように萌芽したのか、世界に影響を与えた流れ、貧困観を理解する。						
4	公的扶助の歴史。我が国の歴史を中心に理解する。現在のコミュニティソーシャルワークの観点から実践的な社会資源として捉えることを理解する。						
5	公的扶助のしくみ（社会保険との違い）。社会保障制度の基本である制度設計について、民間保険との関係性も含め理解する。						
6	生活保護制度（原理原則）。生活保護法を中心に、国家試験対策と絡めて理解する。						
7	生活保護制度（保護の種類、範囲、方法）。生活保護法及び運用規定等を含め、国家試験対策と絡めて理解する。						
8	生活保護ケースワークの概要。実践のソーシャルワークでの事例を通して、理解する。						
9	生活保護基準（扶助費等）。生活保護受給額や具体的内容について理解する。						
10	低所得者対策（ホームレス自立支援の施策等）。低所得者対策は、生活保護制度だけでなく、ホームレス対策も含まれる。ソーシャルワーカーの実践活動も紹介する。						
11	生活保護の実施体制（福祉事務所の業務と組織）。生活保護ケースワーカーは地方自治体職員であり、組織体制も含めて理解する。						
12	低所得者に対するソーシャルワーク。更に進めて、ソーシャルワーク実践に踏み込む。						
13	生活保護における自立支援。生活保護と自立支援の関係を理解する。						
14	生活保護における自立支援。具体的な自立支援制度、職業的自立、社会的自立等を理解する。						
15	生活保護制度（不服申立と制度の運用）。講義のまとめとして、公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論の渦中にある制度について講論する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	70	レポートを事後に提出。評価基準は、レポートの体裁を取っていること、自分の考察があること、字数を満たしていること、授業と関連ある内容であること。			講義中に出された課題に答えること。	30	講義では、各々に課題を与え、ディスカッションを行いながらすすめる。したがって、問題意識を持っているか、積極的に講義に参加しているかを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストを一読すること。 授業に関連した箇所をテキストにより予習し授業に臨むこと(30分)。				授業開始時に前回の授業についてのフィードバックを確実にを行います。			
受講生に望むこと	人と環境について、理性的に見る力を養って欲しい。生活保護制度を取り巻く世論の実態とナショナルミニマムについて深く考える機会と捉えてください。ソーシャルワーカーとして、クライアントに関わる場合、公的扶助を理解していないとどの分野においても丁寧なソーシャルワークはできません。社会の貧困についての報道をアンテナを張って捉えてください。			教科書・テキスト	新・社会福祉士養成講座（第5版）16巻『低所得者に対する支援と生活保護制度』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 ISBN：978-4805858103		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	番号順に座席を指定する。		

授業科目名	SW345U 相談援助演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会福祉の相談援助に関して、関連科目、および相談援助実習との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる知識、技術について実践的に習得することを旨とする。相談援助に係る知識と技術について、相談援助実習における個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。社会福祉士実習を意識した専門的な内容を展開する。</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識、技術として習得する。 2. 他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得する。 3. 社会福祉士に求められる総合的、かつ、包括的な援助、および地域福祉の基盤整備と開発に係る知識と技術を習得する。 			
教授方法	講義・演習						
履修条件	「相談援助の理論と方法」・「相談援助演習」・「相談援助実習指導・実習」の単位修得済の者で、「相談援助実習指導・実習」を並行履修の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：相談援助実習から学ぶ相談援助演習						
2	実習での学びの振り返り、相談援助実習での学び、気づき、課題の整理、プレゼンテーション						
3	利用者とのかかわりからの学びの振り返り（１） 実習中のかかわりの再構成、かかわり方・支援の考察						
4	利用者とのかかわりからの学びの振り返り（２） 利用者・職員とのかかわりに関するプレゼンテーション						
5	スーパービジョン（１） スーパービジョンの意義・機能、相談援助実習中のスーパービジョンの振り返り						
6	スーパービジョン（２） 実習中のスーパービジョンに関するプレゼンテーション						
7	利用者理解・ニーズ把握・支援（１） 相談援助実習中の個別的な体験の振り返り、共有、相互理解						
8	利用者理解・ニーズ把握・支援（２） 個別的体験と関連科目の学びから習得する相談援助の価値、理論、知識、技術						
9	利用者理解・ニーズ把握・支援（３） 個別的体験と関連科目の学びをつないだ発展						
10	人と環境の接点・相互作用（１） ミクロ・メゾ・マクロの視点、個人・家族・組織・地域・社会の相互関係						
11	人と環境の接点・相互作用（２） 人と環境の相互作用、ソーシャルワーカーの役割と専門性						
12	社会福祉士の専門性と社会福祉援助に関わる他の専門職（１） 相談援助実習での学びと経験、現実と課題						
13	社会福祉士の専門性と社会福祉援助に関わる他の専門職（２） 他職種との協働の意義						
14	ソーシャルワーカーの価値・倫理・葛藤、他者の価値観の尊重、自己の価値観の精査、自己覚知、現実社会と専門職の価値・倫理との間の葛藤						
15	社会福祉専門職にもとめられるもの、社会福祉専門職を目指す自己の学びと成長、課題、目標						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	授業、演習への参加状況、小テスト、提出物等			確認テスト・ミニレポート	50	授業内容の理解（確認テスト含む）
授業外における学習（事前・事後学習等）							
1. 毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。 2. 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 [1と2で30分以上]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	相談援助実習での学び、気づき、課題を整理するとともに、関連科目の内容もあらためて見直し、専門職としての知識、技術を修得してください。			教科書・テキスト	必要な資料を講義毎に配布する。		
指定図書/参考書等	必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	とくになし。		

授業科目名	SW355U 相談援助実習指導		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
相談援助実習 で学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に学び実践的な技術等を体得する。			相談援助実習 を振り返り、実習 に向けた課題について改めて把握することができる。 実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得することができる。			
教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブック、ワークシート等を用いた演習、DVDの視聴を行う。					
履修条件	相談援助実習指導、相談援助実習 を履修済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助実習 における実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理					
2	相談援助実習 における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（テーマ設定・アウトライン）					
3	相談援助実習 における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（資料・データ整理）					
4	相談援助実習 における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第1グループ）					
5	相談援助実習 における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第2グループ）					
6	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ分野）					
7	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ施設）					
8	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）					
9	実習目的と実習課題について（個人票）					
10	実習目的と実習課題について（実習計画）					
11	実習生に求められる姿勢					
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）					
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）					
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成					
15	巡回指導					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況		提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
相談援助実習 について、学びと課題を再確認しておく。 授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] 授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ってたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということに常に意識すること。 ・相談援助実習 では、 に比べ実習期間が長くなる。実習の良い準備が出来るよう、意欲的な姿勢で授業に臨むこと。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	SW360U 相談援助実習指導		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要			授業の到達目標				
相談援助実習 で学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。			相談援助実習 を振り返り、実習課題の達成状況の評価が適切にできる。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的な能力を習得することができる。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立ててレポートにまとめることができる。				
教授方法	テキストをもとにした講義の他、ワークシート等を用いた演習、レポート作成を行う。						
履修条件	相談援助実習指導、相談援助実習 を履修済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	実習の価値と事後学習の意義						
2	相談援助実習 における実習課題の達成状況の評価						
3	相談援助実習 における課題や疑問点の言語化と整理						
4	実習評価と自己評価（相談援助実習と評価）						
5	実習評価と自己評価（スーパービジョン）						
6	相談援助実習 における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（テーマ設定）						
7	実習 における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（アウトライン）						
8	実習 における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（資料・データ収集・整理）						
9	実習 における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（レポート作成）						
10	実習 における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（見直し、プレゼン準備）						
11	実習総括レポートの発表とディスカッション（第1グループ）						
12	実習総括レポートの発表とディスカッション（第2グループ）						
13	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第1グループ）						
14	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第2グループ）						
15	実習指導のまとめ、総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況		提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
相談援助実習 について、学びと課題を再確認しておく。授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] 授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ってたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。				
受講生に望むこと	・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・実習全体のまとめ・整理を行って、今後の学びにつなげていく。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	SW370U 相談援助実習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士				
授業の概要				授業の到達目標			
1.6日間(128時間)にわたる相談援助実習を通して、相談援助に係る専門的な知識と技術について具体的かつ実際に学び、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に学ぶ。				実習施設・機関の機能・役割や利用者のニーズ等について理解できる。社会福祉士の業務内容について実際に理解できる。ソーシャルワークの知識や技術について、総合的に対応できる能力が習得できる。			
教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。						
履修条件	相談援助実習の単位を修得済の者。相談援助実習指導を履修した者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成						実習指導者、担当教員
2	利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成						実習指導者、担当教員
3	利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成						実習指導者、担当教員
4	利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価						実習指導者、担当教員
5	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践						実習指導者、担当教員
6	社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解						実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践						実習指導者、担当教員
8	当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解						実習指導者、担当教員
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況			担当教員による評価	40	・実習記録の内容等
授業外における学習(事前・事後学習等)							
実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] 実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック ・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導に繋げていく。			
受講生に望むこと	・相談援助実習の学びを踏まえ、より良い実習となるよう意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。			教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB340U 図書館実習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の選択科目である。図書館に関する科目で得た知識・技術を基にして、事前・事後の指導を受けつつ図書館業務を経験し、図書館業務全般に対する理解を深めることを目的とする。				図書館実習事前準備を通じて、実習先の図書館業務について理解を深める。図書館実習を通じて図書館業務全般を経験することでその理解を深める。図書館実習事後レポートをまとめることにより、その成果を確認する。			
教授方法	実習、学内での事前指導及び事後指導と図書館においての1週間の実習を行う						
履修条件	「北陸学院大学 図書館実習実施規程」における実習参加資格を有するものに限る。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館実習の概要						
2	図書館実習事前準備レポートの作成指導						
3	図書館実習事前準備レポートの提出・評価						
4	図書館実習直前指導						
5	公共図書館実習（原則として7日間、ただし実習受入館で特に指定がある場合はその日程で実施する）						
6	公共図書館実習						
7	公共図書館実習						
8	公共図書館実習						
9	公共図書館実習						
10	公共図書館実習						
11	公共図書館実習						
12	公共図書館実習						
13	公共図書館実習						
14	公共図書館実習						
15	図書館実習事後レポートの提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
図書館実習	70	図書館実習に参加し、受入館側の評価を考慮しつつ総合的に判断する。			図書館実習事前課題レポート	15	図書館実習受入館について、事前に調査を行いレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は図書館実習参加を認めない。
図書館実習事後レポート	15	図書館実習後に、実習内容及び実習で学んだことについてレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は単位取得できない。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
司書課程における科目を必ず復習すること。あらかじめ利用者として実習先の公共図書館を訪れて利用すること。学外での実習であり、十分な準備を行った上で参加すること。				事前レポートは添削の上で評価を直接授業内で伝達する。事後レポート及び図書館側の評価は希望に応じて個別に伝達する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を希望する学生を対象とします。図書館実習は公共図書館という学外において、公共図書館職員に準じる立場でさまざまな規程に基づいて実習にあたることとなります。法令・規程の遵守するとともに、実習受入館に迷惑がかかることが無いように注意してください。また原則として実習中の遅刻・早退・欠席は認めません（体調不良時を除く）。			教科書・テキスト	なし、授業時に随時配布します。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	復習のためには、これまでの司書科目の教科書を参照すること。実習中図書館への自家用車利用は認められない。実習内容は実習先図書館によって異なる。		

教職員録

職名	氏名
学長	楠本 史郎
学長補佐	中島 賢介
宗教主事	矢澤 励太
図書館長	富岡 和久
地域教育開発センター長	田中 純一
教務部長	村井万寿夫
学生部長	幸 聖二郎

人間総合学部

学部長	真砂 良則
子ども教育学科長(兼)	中島 賢介
社会学科長	俵 希實

子ども教育学科

教授	伊藤 雄二
〃	大井 佳子
〃	虹釜 和昭
〃	田邊 圭子
〃	多保田治江
〃	中島 賢介
〃	姫野 俊幸
〃	宮浦 国江
〃	村井万寿夫
准教授	永山 亮一
〃	幸 聖二郎
講師	齊藤 英俊
〃	福江 厚啓
〃	向出 圭吾
助教	高村 真希
〃	谷 昌代

社会学科

教授	勝谷 紀子
〃	楠本 史郎
〃	小林 正史
〃	田中 純一

職名	氏名
教授	田引 俊和
〃	俵 希實
〃	真砂 良則
〃	矢澤 励太
准教授	竹中 祐二
〃	松下 健
〃	若杉 亮平
〃	若山 将実
講師	加藤 仁

兼任教員(短期大学部専任教員)

兼任教員	葦名 理恵
〃	木村ゆかり
〃	坂井 良輔
〃	高島 彬
〃	田中 弘美
〃	俵 万里子
〃	富岡 和久
〃	新澤 祥恵
〃	西 正人
〃	野林 晴彦
〃	三田 陽子
〃	南 雅則

非常勤講師

非常勤講師	朝倉 秀之
〃	荒井 紀子
〃	アンソニー タガン
〃	石原 俊彦
〃	稲角 光恵
〃	今井 竜也
〃	エリック モーニン
〃	岡田 文貴
〃	カーラカリー
〃	加藤 雅子
〃	門岡 晋

職名	氏名
非常勤講師	亀田孝太郎
〃	川島 哲
〃	北川 節子
〃	木藤 由麻
〃	木梨 由利
〃	河野すみ子
〃	清水 實
〃	白井 雅代
〃	白田 柚子
〃	瀬尾 崇
〃	側垣 二也
〃	高橋 律子
〃	竹澤 賢樹
〃	竹下 正弘
〃	辰巳 平一
〃	田中 早苗
〃	田邊 浩
〃	種池有美子
〃	張 榮眉
〃	津田 朗子
〃	堂田 俊樹
〃	坪内 啓子
〃	徳田 茂
〃	中村喜代美
〃	南部 順子
〃	西山志満子
〃	濱西 和子
〃	福田 真紀
〃	本間千重子
〃	宮丸 慶子
〃	山下のぞみ
〃	鷺山 靖

職名 氏名
助手(実験実習補助)
教材室 瀬戸 美江(子ども
教育学科)
助 手 加藤 真衣(食物栄養
学)
〃 久保 夕貴(〃)
〃 澤田 里香(〃)

教職相談支援室
金丸 洋子
戸田 教一

英語教育研究支援センター
センター長 宮浦 国江
教 員 キャサリン
シユリーヴズ
〃 マシュー
ボッシュ

【大学キリスト教センター】
センター長(兼) 矢澤 励太

【教学・学生支援センター】
センター長 池村 努

【学術情報研究・社会連携センター】
センター長(兼) 真砂 良則

【アドミッションセンター】
センター長(兼) 岩田 喜弘

事務局

事務局長 岩田 喜弘
(法人・大学事務局事務局長兼任)

社会連携推進コーディネーター
課 長 瀧 浩輔

【教学・学生支援センター】
課 長 宮本真紀子

副 参 事 北川 裕樹

〈教務係〉

主 任 山口絵美子
係 員 酒井 大輔
〃 瀬戸 康代
〃 平岡 明
〃 小島 妙子

職名 氏名
〈教務助手係〉

係 員 多田 昌生
〃 近岡 尚美

〈学生支援係〉

係 長 源野 雄介
〃 西野 拓哉

係 員 森田 康子
係員(兼) 小島 妙子

【学術情報研究・社会連携センター】

係 長 本丹 直哉

〈学術情報・研究支援係〉

係 員 飯野 昌子
〃 大乗 陸美
〃 大音師華子
〃 黒杉 茂子
〃 山口 聡美

〈社会連携係〉

係員(兼) 大乗 陸美

【アドミッションセンター】

主 任 中島 貴史
係 員 瀬戸 佳子
〃 三木 香奈

【総合政策課】

課長(兼) 岩田 喜弘

〈広報企画係〉

主任(兼) 中島 貴史
係員(兼) 瀬戸 佳子
〃 三木 香奈

〈経営企画係〉

係 長 トビアス史
主 任 安部 玲子

〈補助金係〉

係 員 藤原 学

〈IR推進係〉

係 員 小島 美紀

職名 氏名
【総務財政課】

課長代理 今井 誠一

〈総務係〉

係 員 川村 快
〃 宮崎 朝子
〃 石井 純子

〈財政係〉

主 任 宮下 光謹

係 員 東田 彩見
〃 大桑 千佳

〈営繕係〉

係 員 荒木 高志
〃 山田 元気

保 健 室

看 護 師 桑田 千代

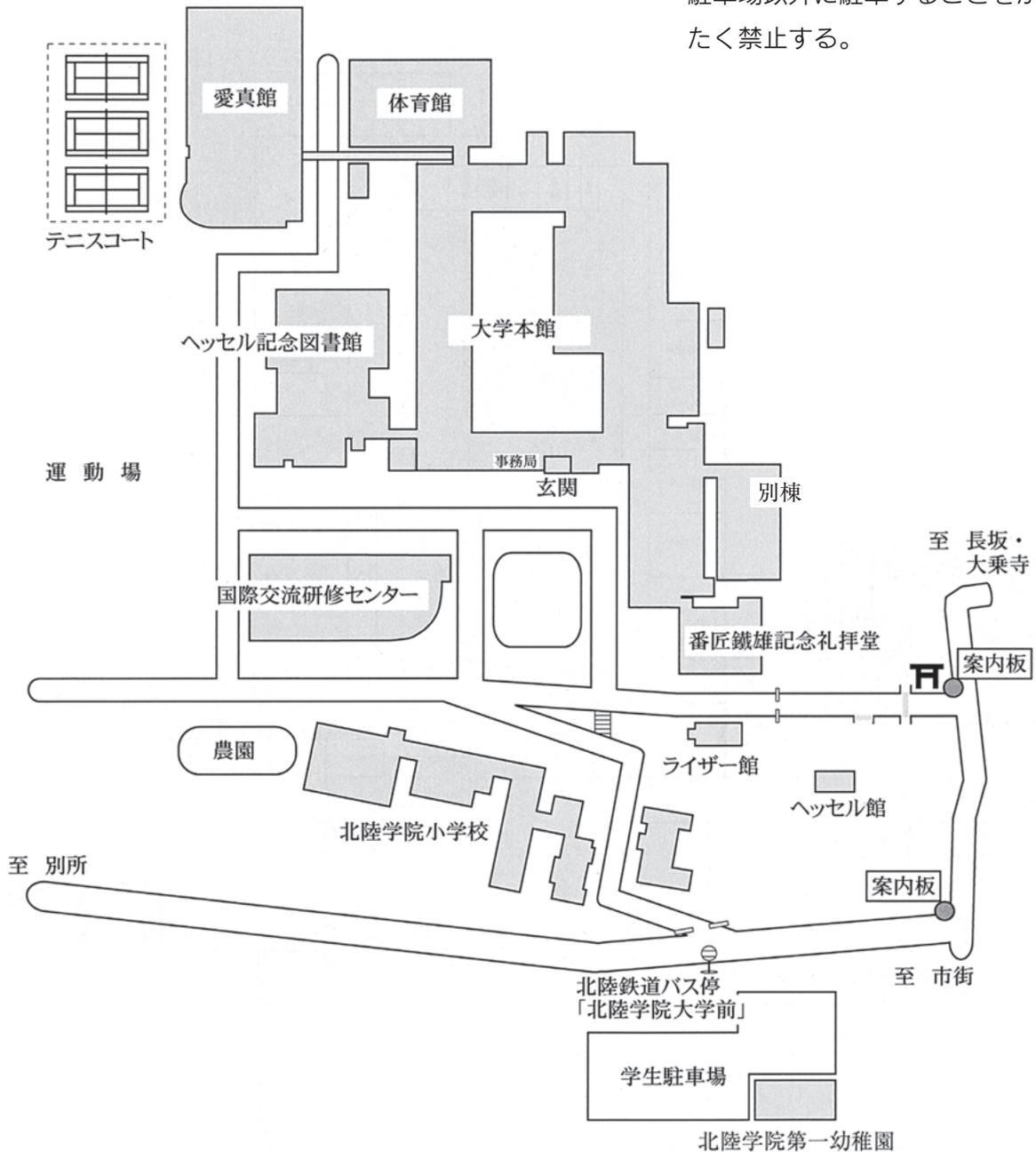
校 医 野口 隆俊

カウンセリング 森 彩香

キャンパス案内図

北陸学院三小牛キャンパス案内図

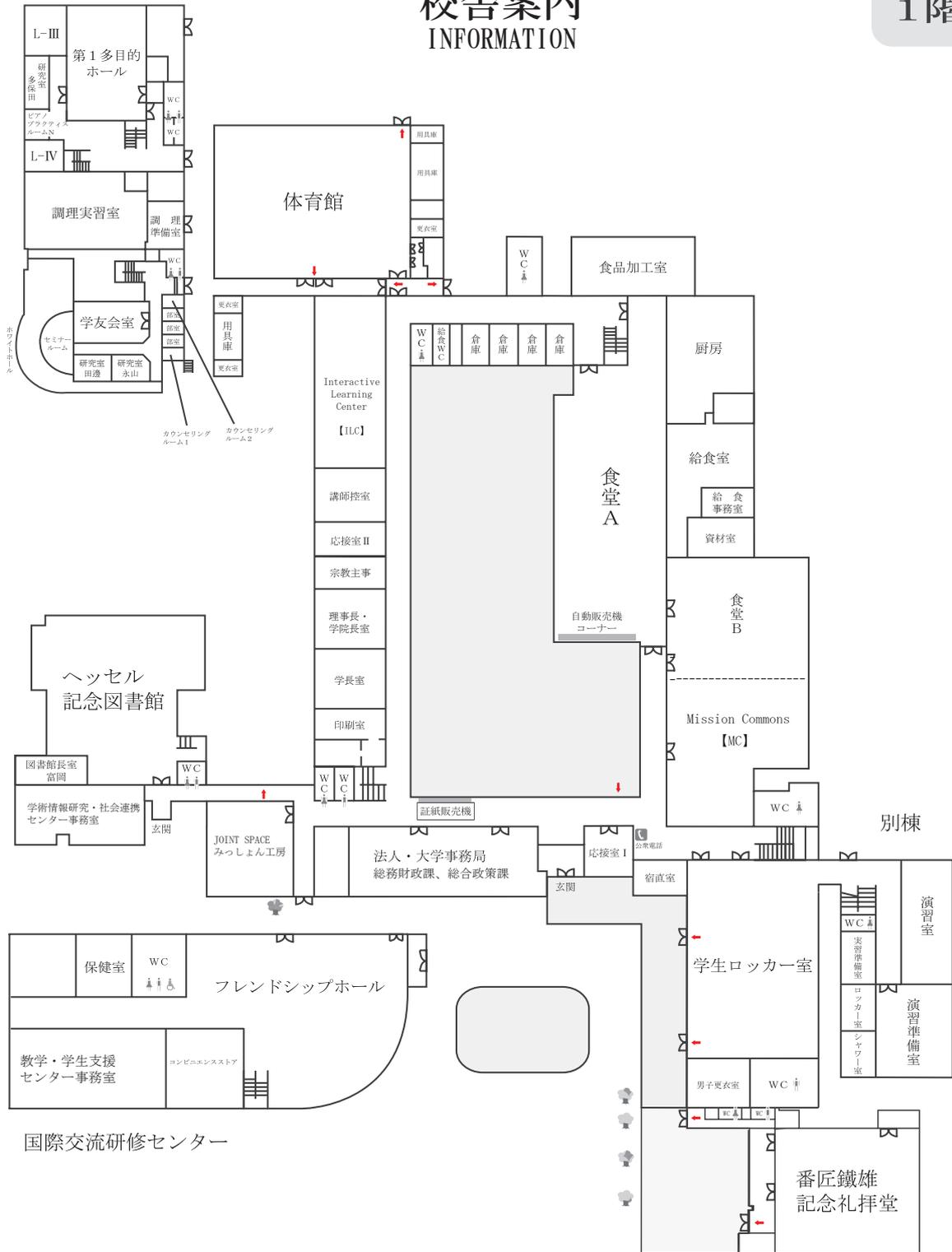
学生に関しては決められた学生
駐車場以外に駐車することをか
たく禁止する。



愛真館

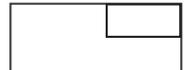
校舎案内 INFORMATION

1階



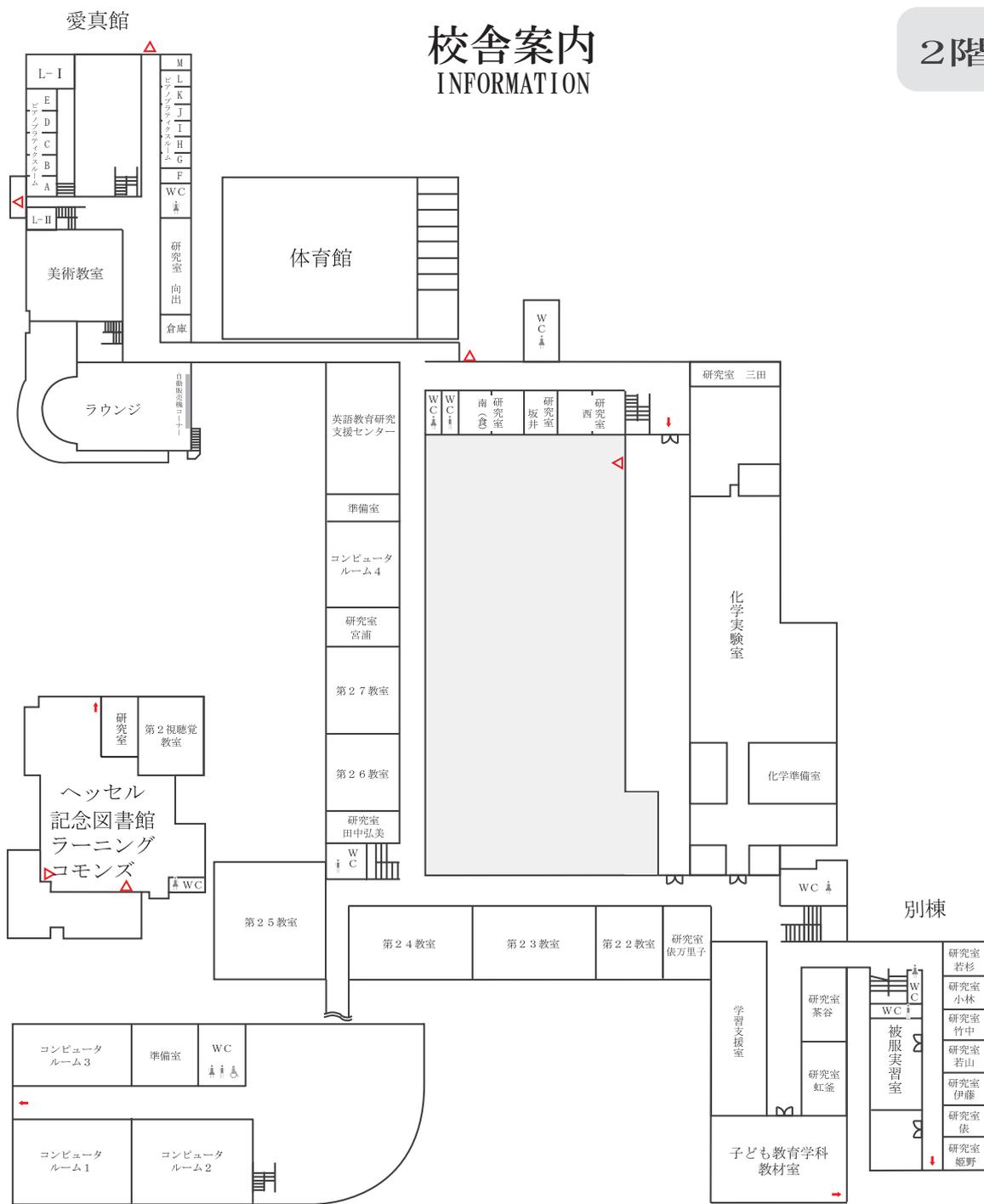
凡例	
→	避難口
△	避難はしご

ライザー記念館



校舎案内 INFORMATION

2階



国際交流研修センター

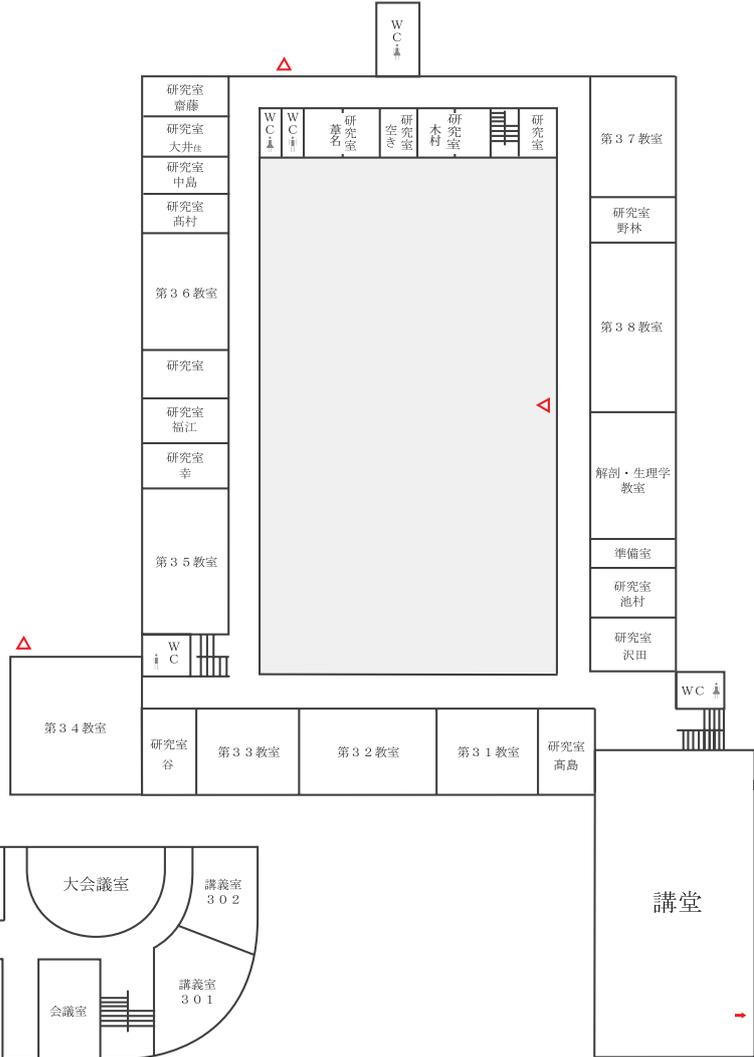
凡例	
→	避難口
△	避難はしご

愛真館

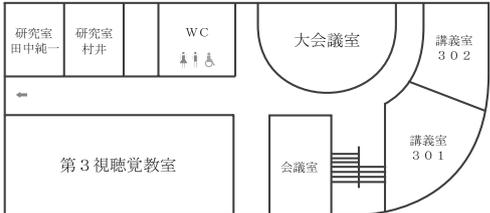


校舎案内
INFORMATION

3階



別棟



国際交流研修センター



